

UNIVERSITY OF ILLINOIS-URBANA

HC426.A3T6

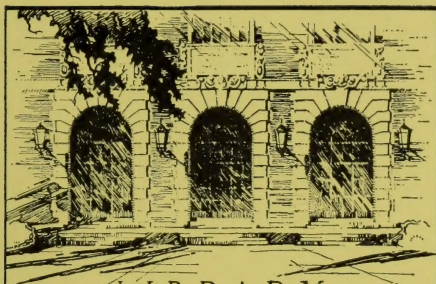
C001

TOA KEIZAI KENKYU.

5 1921



3 0112 030054016



LIBRARY
OF THE
UNIVERSITY
OF ILLINOIS

HC


426

A3

T6

v.5

FAR EASTERN



Digitized by the Internet Archive
in 2015

HC
426.
.A3
T6
v.5

大正十年度分

東亞經濟研究

第五卷

東亞經濟研究會

Review

東亞雜誌會

東亞雜誌會

第一卷

大正十年

東亞經濟研究 第五卷總目錄

研究

支那學問研究法上ノ一特色	田中萃一郎	(一)	號	通頁
明代ノ流民	清水泰次	(一)		八二
清代ノ廣東貿易	稻葉岩吉	(一)		一〇三
支那ノ銀ニ就イテ	水田淳亮	(一)		一二四
北宋貨幣史論	田中忠夫	(一)		三〇
葡萄牙人支那渡來顛末	矢野仁一	(二、三、四)		三三九
支那茶戰ト英國	柏田忠一	(二)		二七四
駟會牙僧及ビ牙行ニ就テ	稻葉岩吉	(二、三)		二九五
塞外茶貿易論	田中忠夫	(二)		一七九
中華民國標準語問題	石山福治	(三)		三九七
支那茶業史論	田中忠夫	(三)		四六
漢代貨幣史論	田中忠夫	(四)		五七
支那ノ銀幣ニ就テ	谷喬木	(四)		五九三

論說

支那ノ過激化問題	松井等	(一)		一
----------	-----	-----	--	---

杜威氏ノ支那論……………	稻葉岩吉……………(一)……………一三
我邦ノ南洋貿易ニ就テ……………	木村増太郎……………(二)……………一五
支那將來ノ企業ト労働問題……………	前田幸太郎……………(二)……………二〇五
樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ……………	稻葉岩吉……………(三)……………四〇
我邦外國貿易ノ將來ト支那……………	木村増太郎……………(四)……………六四三
支那治外法權撤廢反駁論……………	西川喜一……………(四)……………六六九
資本主義ト支那問題……………	作田莊一……………(四)……………六七八

調 査

支那ノ蠶業及機織業……………	中田豐衛……………(三)……………四七〇
江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ……………	瀬川政雄……………(三)……………五二五
露國ト其正金ノ運命……………	柏田忠一……………(四)……………六九四

雜 錄

支那外債ノ失敗原因……………	井上翠……………(一)……………二九
謬レル滿蒙除外論……………	松田琢海……………(一)……………一三六
倭寇時代ニ於ケル日、韓、漢ノ貿易品……………	後藤秀穂……………(一)……………二九
支那人まほめつと傳……………	菱川精一……………(三、四)……………五元 〔七〇三〕
最近支那財政ノ收入支出實況……………	井上翠……………(三)……………五五一
湖南省ノ硝子工業……………	田中忠夫……………(三)……………五六一

校學業商等高中

東亞經濟研究

號 一 第 卷 五 第

行發月一年十正大

論 說

(禁轉載)

支那ノ過激化問題

文學士 松

井

等

杜威氏ノ支那論

講師 稻

葉

岩

吉

北宋貨幣史論(二完)

講師 田

中

忠

夫

研究及調査

支那學問研究法上ノ一特色

法學博士

田 中 萃 一

郎

明代ノ流民

文學士

清 水

泰

次

清代ノ廣東貿易(四)

講師

稻 葉

岩

吉

支那ノ銀ニ就イテ(二)

教授

水 田

淳

亮

雜 錄

支那外債ノ失敗原因

教授

井 上

翠

謬レル滿蒙除外論

教授

松 田

琢

海

倭寇時代ニ於ケル日・韓・漢ノ貿易品

教授

後 藤

秀

穂

東亞經濟研究

第五卷 第一號

大正十年一月發行

論說

支那ノ過激化問題

松井 等

昨年五月上海ニ滞在シテ居タ時ニ支那ノ過激派ガ檄文ヲ撒イタトカ露西亞カラ過激派ノ宣傳者ガ來タトカイフ風評ヲ耳ニシタコトガ兩三度アル。支那ノ新聞雜誌ヲ拾ヒ讀ミシテ行ク中ニソレラシイ風説ノ載ツテ居ルノヲ見タ。佛租界ニ過激派ノ根據ガ有ルトイフヤウナ記事モ見タ。ソレカラ長江ヲ溯リ漢口ヲ經テ北京天津ノ方ヘ廻ツテ來タ時ニハ餘リ其ノ風説ヲ聞カナカツタガ歸國シテ見ルト内地ノ新聞雜誌ニハ支那ノ過激化問題ガ相應ニ賑ハシク論ゼラレテ居ル。或者ハ支那ハ遠カラズ全土赤化サレテ了ウニ相違ナイト云フコトヲ力ヲ込メテ論ジテ居ル傍ニ或者ハ彼レハ一時ノ氣紛レデアアルカラ今ニ其ノ噂モ聞エナクナツテ了ウモノダト説イテ居ル。自分モ旅行ノ感

論說

支那ノ過激化問題

(11)

一

想トシテ是ノ問題ニ付イテ意見ヲ問ハレタ事ガアル。中ニハ支那ノ歴史カラ見タ過激化問題ヲ話シテクレト頼マレタ事モアル。今日支那ノ過激思想傳播ノ實況如何ト云フ説明ニ關シテハ専門ノ研究家ガ有ルデアラウカラ小生ノ如キ乳臭ノ輩ハ嘴ヲ容レルコトヲ差控エ只旅行ノ感想ト云フ意味デ多少ノ評論ヲ試ムル事トスル。

今マデ露國勞農政府ガ支那ニ向ツテ宣傳ヲ試ミタ事ハ暫ク措キ西伯利亞ウゑるふねうぢんすく政府代表者ガ去ル九月北京ニ於テ支那外交部ト非公式ニ會見シ露支通商ノ協議ヲ交ヘル事トナツタノハ特ニ世人ノ注意ヲ惹ク可キ事柄デアラウ。表面ハ通商デアツテモ内實ハ過激思想宣傳ノ道ヲ開カウト云フノデアラウ少ナクトモ通商ノ傍是ノ宣傳ヲ行ハウトスルノデアラウ。現ニ其ノ代衣者ガ宣傳ニ着手シタトモ言ヒ傳ヘラレテ居ル。果シテ露支通商ガ開カレル事トナツタナラバ必ズヤ宣傳ノ方法ガ活潑トナルニ相違ナカラウ。從ツテ支那ノ過激化問題ハ益々世人ノ注目ヲ惹クニ至ル筈デアル。

果シテ露西亞ニ興ツタト同ジ意味ニ於テノ過激思想ガ支那ニ受ケ容レラレ露西亞ニ於ケルト同一ノ狀態ニ於テ支那ガ露西亞式ニ赤化サレルデアラウカ。若シ然リトスレバ支那ニ於テモ露西亞ニ於ケルト同様ノ政治的社會的缺陷ガ破裂スル迄ニ迫ツテ居ナクテハナラナイ。甲ノ國ニ起ツタ思想ヤ主義ハ單ニ其レ自身ニ於テ乙ノ國ニ自カラヲ實現スル力ヲ有ツテ居ルモノデハ無イ。乙ノ

國ガ政治上社會上或ル痛切ナル缺陷ヲ有ツテ居ル場合ニ其ノ缺陷ヲ充タシ或ハ救フガ爲メニ甲ノ國ノ思想ヤ主義ガ乙ノ國ニ於テ實現サルルヤウニナルノデアル。露西亞式ノ過激思想ガ其ノママノ姿デ支那ニ實現サレヤウト云フニハ支那ニ於テ之レヲ受ケ容ルルニ十分ナ缺陷ヲ有タナケレバナラナイ。ソナナ理論ハ何如デモヨイ支那ノ政治的社會的秩序ガ滅裂シテ了ウ事ガ即チ支那ノ過激化デハ無イカト云フ論ヲ耳ニシタ事ガアリ又話シカケラレタ事モアル。

支那ノ政治的秩序ハ現ニ殆ド滅裂シテ居ルト謂フテモヨイ。目下ノ支那ハ政治的混亂國家の崩壊ノ渦中ニ浮沈シツツアル。政治的野心家ハ到ル所ニ出沒シテ騷擾ヲ曠カシツツアル。統一の平和ノ成立スル事ハ彼等ニ取ツテ不利益デアル。果テシナキ動搖コン却テ彼等ノ好餌トナルニ都合ヨキモノデアツテ彼等ハ其ノ動搖ノ間ニ自家ノ利益ヲ攫ム機會ヲ覘ヒツツアル。排日行動ヲ利用シ文化運動ヲ假面トシテ頻ニ陰謀ノ手ヲ擴メツツアル。心ナキ男女青年學生ノ多數ノ者ハ彼等ニ曠カサレ自覺ヲ看板トシタ似而非愛國主義ヲ空叫ビシツツアル。所謂學匪ハ政治的野心家ノ傀儡トナリ捏造サレタ民衆ノ叫ビナルモノヲ喚キツツアル。督軍連モコノ捏造民聲ニハ手ヲ着ケ兼スル有様デアル。サリトテ乃公出デズンバ蒼生ヲ奈何セント直言ヒ得ル程ノ人物モ居ナイ。前日ノ南北對立ハ今ヤ一變シテ亂麻ノ如キ紛糾ヲ來タシテ居ル。政治的秩序ノ滅裂ガ過激化ノ一表現デアルナラバ今日ノ支那ハ其ノ意味ニ於テ既ニ過激化サレテ居ルト謂フ可キデアラウ。コレガ露西

亞式ノ過激思想ヲ實現サセタモノト謂フノデアラウカ。

露西亞式ノ過激思想ヲ政治的ニ觀察スレバ極端ニシテ苛酷ナル專制政治ノ下ニ堪ヘ難キ苦痛ヲ感ジタ國民ノ大部分ノ反抗心カラ起ツタモノデアル。ソノ專制政治ハ極端ニ且徹底シテ實行サルヤタト思ハレル。有識者が先ヅ其ノ不條理ナル事ヲ氣付キ始メテ次第ニ無智ノ農民ニ感得サルルヤウニナツタ。彼等ノ痛切ナル反抗ヲ促シタ政治的原因ハ徹底シタル專制政治デアッタ。支那ニハ古來此ノヤウナ專制政治ガ有ツタデアラウカ又今日行ハレテ居ルダラウカ。從ツテ支那國民ノ大多數ノ痛切ナル反抗ノ叫ビト云フモノガ湧キ立ツテ居ルデアラウカ。政治的野心家及ビ陋劣ナル學匪ノ誇張的宣傳ニ誑カサレザル限り何人ガ然リト答ヘルデアテウカ。

上海ニハ進取的奮闘のナ國際的色彩ガ濃厚デアル。然カシ大馬路四馬路ノ繁華ヲ支ユル支那住民ハ滿洲ノ山奥ニ住ム彼等ノ同胞ト一樣ニ營々トシテ自家ノ利益ノ打算ニ餘念ナキ良民デアル。

北京ニハ北京大學ノ構内カラ內省的努力創作的氣分ノ瑞雲ガ立チ昇ツテ居ルカト思ハレル。然カシ前門大街ノ熱鬧ヲ文ナシテ居ル人々ハ西湖々畔ノ轎夫ト一樣ニ政治トハ沒交渉ナ營利ノ民デア。如何ニ政治ガ混亂シテ居ヤウトモ支那國民ノ大多數ヲ占ムル農工商者ハ其ノ人生觀ニ於テハ依然トシテ堯舜ノ民デアル。營々タル彼等ハ流言蜚語ニ動カサルコトハアルデアラウ。支那ニ於テ案外ニ勢力アル流言蜚語ニ耳ヲ傾ケルコトハアラウ。ソレヨリモ尙ホ支那式ノ迷信ハ深く彼

等ノ心境ヲ搔キ亂スコトハアルデアラウ。然カシ彼等ガ政治ニ對シテ自覺的興奮ヲ感ズルヤウニナルノハ何時ノ事デアルダラウカ。

近頃支那民衆ト云フ語ガ頻ニ用ヒラレテ居ル。單ニ支那民族トイハズ支那國民トイハズ又支那人トモイハズ特ニ支那民衆トイフニ付テハ格別ノ意義ヲ含マセタモノト考ヘラレル。恐ラクハ民衆トイフ語ハ西洋ノ少數有産階級ニ對スル大多數ノ無産階級ヲ指スト同様ノ意味ニ於テ用ヒラルノデアラウ。若シ然ウナラバ其レハ資本主義カラ起ツタ社會上ノ二大階級ノ一デアリ複雑ナル社會問題ヲ惹起スカラ有ツテ居ルモノデアル。其ノ意味ニ於ケル民衆ト云フモノガ目下ノ支那ニ存在スルト思フ人ガアルデアラウカ。サモナクテ民衆トハ別ニ面倒ナ意味ヲ含ムモノデハナク政治的經濟的勢力ヲ握ツテ社會ノ中ニヨリ高キ地位ヲ占ムル少數ノ人々ヲ取り除イタ他ノ國民ノ大多數ヲ廣ク指シタモノニ過ギナイト謂フナラバ其レハ大體ニ於テ支那ノ所謂庶民ニ同ジキモノデアル。支那民衆トイフハ庶民トイフノト同様ノ意味デアルナラバ吾等モ支那民衆ト云フ語ヲ使用シテモヨイガ西洋風ノ特種ノ意義ヲ含マセタ語トシテ之ヲ今日ノ支那ニ適用スル事ニハ同意出來ナイ。其ノ庶民ナルモノハ主トシテ農商工者カラ成リ立ツテ居ル。其ノ庶民ハ人生觀ニ於テハ依然トシテ堯舜ノ民デアルト自分ハ考ヘル。

今日ノヤウナ政治的混亂ハ支那史上ニ於テ屢々繰返ヘサレタ所デアリ周末ヤ後漢末又ハ唐末ニ

於テ今日ノモノヨリモ尙甚ダシク紛糾シタ狀態ガ現ハレタ。支那民衆（コノ語ヲ庶民トイフノト同様ノ意ニ用ヒル以下同ジ）ハ古來政治的混亂ニ惱マサレタト同時ニ其レニ慣ラサレテ之レニ對スル手段トシテ平素カラ自衛的獨善的處世方針ヲ考ヘツツアツタ。其レガ習ヒ性トナツテ彼等ハ政治ニ對スル感興ヲ失ヒ政治的混亂ニ處シテ今更狼狽シ憤慨スルヤウナ事ハ無クナツテ了ツタ。支那古來ノ政治ハ官吏ト其ノ同心異體タル讀書人トノ玩弄物デアリ又道樂デアツタト謂ヒ得ル。民衆ハ政治トハ沒交渉ニ只管自己保全ヲ信條トシテ生業ニ營々タルヲ樂ンデ居タ。今日ト雖其ノ狀態ニ變化ハ無イ。

專制政治ト云フ事モ主義トシテハ古來採用サレタ事モアルガ其レハ徹底的ニ行ハレタノデハ無ク從ツテ成功シタコトモ無イ。支那政治ノ要領ハ古來寧ロ地方分權若シクハ地方自治ト云フ事ニ存シ決シテ中央集權ヲ極端ニ厲行シ其ノ効果ヲ收メタ事ハ無イ。隋ノ文帝ヤ宋ノ太祖ハ君主專制ノ主義ヲ立テタトハ言ヘ少シモ實効ヲ舉グル事ハ出來ナカツタ。秦ノ始皇帝ノ如キハ專制ノ主義ヲ立テタトハ言ヘ地方ノ政治ニ付テハ寬ヤカナ點ガアリ強盛ナル武力ヲ後援トシテ自己ノ統治權ヲ擁護スルトイフ用意ニ於テハ唐ノ太宗ニスラ及バナカツタ。明末清初ニ於テ黃宗羲ヤ王船山ガ支那古代ノ專制政治ヲ罵ツテ居ルガ其レハ實績ニ付テ論議スルノデハ無クテ君主專制ガ古來ノ支那民族性ニ適應シナイト云フコトヲ叫ンデ居ルノデアル。實際君主專制ハ實績ニ於テ支那ニ行ハ

レナカツタノミナラズ主義トシテモ支那ニハ不相應ナモノデアツタ。殊ニ古來民主主義ニ似タヤ
ウナ(勿論今日ノ民主ト云フ觀念トハ本質ヲ異ニスル)思想ガ行ハレ又民間ノ意向ト云フモノガ政
治ノ參考ニ供セラレタ場合ガ多イ。周禮小司寇ニ見ユル三詢ノ事ガ屢々此ノ場合ヲ説明スルガ爲
メニ引用サレル。周禮ノ記事ダカラ恠シイト言ヘバ其レ丈ケデアルガ科擧ノ制度ハ公平ニ民間カ
ラ人ヲ採ルトイフ主旨ヲ寓シテ居ルモノデアリ又古來民間カラノ上書ト云フモノガ割合ニ寛大ニ
受ケ付ケラレテ居ル。上書ノ提出者モ受理者モ形式ノママニ誠意ナク取扱ツテ居ル場合モ多カラ
ウガ兎モ角モ上書ヲ許ス事ハ主義トシテハ民意ヲ參考トスル事デアル。魏晉ノ頃ニ中正トイフ役
人ガ民間ノ評判ニ由ツテ人物ヲ採用シタトイフノモ其ノ實績ハ別トシテ主義トシテハ是レモ民意
斟酌ニ外ナラヌモノデアル。人民ガ闕下ニ伏シテ請願スル事モ史上ニ顯著ナ事デアルガ其レガ假
令形式ナリトモ承認サレテ強チ其ノ請願運動ヲ峻拒シヤウトシナカツタ事モ徹底的君主專制ノ實
効無キ所以デアラウ。今日ト雖專制政治、徹底シテ苛酷ナリトイヒ得ベキ程ノ專制政治ガ現存ス
ルト思フ者ハアルマイ。ソレニ對スル痛切ナル民衆ノ苦惱ナルモノヲモ認メル事ハ出來ナイ。帝
ノ德吾レニ於テ何カアランヤトイフ心持チデ今尙ホ支那民衆ノ胸裏ヲ充タシテ居ルノデアル。ソ
コカラ露西亞式ノ過激思想ガ露西亞ニ於ケルト同ジ形デ現ハレ來ル筈ガナイ。彼等ノ胸ニ其ノ思
想ガ活キ活キシテ受ケ容レラレヤウ筈ガ無イト考ヘラレル。

露西亞式ノ過激思想ヲ社會的ニ考ヘテ見ルト其レハ資本主義カラ生レタ階級的壓迫ニ對スル無産者ノヤルセナキ反抗デアル。ソレガ今日ノ支那ニ存在スルデアラウカ。昨今佛國カラ歸來シタ苦力連ガ過激思想ニ感染シタトカデ之レヲ重要ナ問題トシヤウトスル者ガアル。又彼等カラ他ノ苦力ヘ傳播シテ行ク有様ヲ注目セヨト言ツテ、無理ニ勞働問題ヲ擔キ出シタガツテ居ルモノガアル。昨今次第二活氣ヲ呈シツツアル支那ノ工業ヲ問題トシ工場職工ニ付テ西洋流ノ勞働問題ヲ當テハメヤウトシテ居ルモノモアル。問題ヲ作爲シテ仰山ニ之レヲ評論シテ見ヤウトイフナラバ幾ラデモ問題ヲ作ルコトガ出來ヤウ。然カシサウイフ問題ハ今日ノ處デハ殆ド遊離シタ問題デアツテ其ノ對象トナル痛切ナ事實ガ認メラレナイ有様デアル。第一ニ有産階級ト無産階級ノ切迫シタ反目ガ今日ノ支那ニ現ハレテ居ルト斷言シ得ル者ガ何人アルデアラウカ。

古來支那ノ社會ニハ官吏トイヒ讀書人トイヒ農工商トイヒ勞働者ト云フヤウナ團體ガ相分レテ居ル。是レハ何處マデモ團體デアツテ社會的階級デハ無イ。古代ニ於テハ官吏ヤ身分アル者ガ士人トシテ社會ノ上流ニ位シ農商工ガ庶民トシテ社會ノ下流ニ立ツテ居タ。然カシ士人ト庶民ノ間ニハ超ユ可カラザル區別ト障壁トガ設ケラレテ居タノデハ無イ。社會ノ上ニ於テハ四民平等ノ思想ガ行キ亘ツテ居リ階級的差別觀念ハ殆ド絶無デアル。所謂四民カラ構成サレタ社會組織ハ古ヨリ今ニ至ルマデ根本ノ動搖ヲ來タシタ事ハ無イ。平民カラ天子ニ躍リ上ルコトハ有ツテモ其ノ爲

メニ平民團體が從來ノ士人團體ニ代ツテ政治上ノ主權ヲ握ツテ了ウノデハ無イ。社會ノ秩序ヲ保ツ爲メニ禮ガ重ンゼラレテ居ルガ禮ノ觀念ハ四民ニ有シタモノデ苦力ハ苦力ノ禮ヲ備ヘテ居ル禮ハ決シテ社會的階級ヲ差別スル爲メノ表章デハ無イ。又或ル時代ニハ貧富ノ差ガ甚ダシクナツタ事ハアルガ是レモ今日ノ有産階級ト無産階級トヲ發生シタヤウナ經濟の原因カラ起ツタモノデハ無イ。身ヲ賣ツテ人ノ奴トナリ牛馬ノ如ク欄ニ繋ガレルヤウナ貧者ノ苦境ガ（前漢ノ末ニ於ケルガ如ク）現出サレタ事ハアツテモ其レハ資本主義ノ跋扈カラ來タ結果デハナク從ツテ其レガ爲メニ社會ガ全ク貧富ノ二大階級ニ分レ貧者ノ自覺的必死的反抗ガ起ツタトイフ事ハナイ。却テ貧者ハ案外其ノ運命ニ安ンジテ居リ政府モ貧者ノ救濟ニ付テハ割合ニ注意ガ行キ届キ社會的救濟策ハ屢々考案サレ且實施サレタノデアル。今日ト雖貧者ト富者トノ二大階級ガ相反目シテ激烈ナ決闘ヲ開始シサウナ事情ハ毛頭見エテ居ナイト思ハレル。今日忽チ露西亞式ノ過激思想ガ支那ノ無産者ニ歡迎サレル程ノ社會的缺陷ガ迫ツテ居ルトハ思ヘナイ。資本主義ノ跋扈ヤ其レニ伴ナウ勞働問題又ハ無産勞働者ノ自覺的奮起トイフヤウナ事ハ今日ノ支那ニ於テ見ザル聞カザル所デアル。從ツテ社會的缺陷ニ由ツテ露西亞式ノ過激思想ガ今日ノ支那ニ實現サレヤウトハ考ヘラレナイ。

然ラバ過激派ノ宣傳ガ次第二巧妙トナリ深刻トナツテ來テモ支那ハ何等ノ影響ヲ被ラズニ居ルデアラウカ。ソレハ大ニ影響ヲ被ルニ相違ナイ。但露西亞式ノ過激思想ガ其ノ本來ノ意義ノママ

ニ實現サルルノデハ無クテ支那式ノ過激行動ガ益々盛ニ狂ヒ出スヤウニナルト考ヘラレル。換言スレバ今日ノ政治的混亂ガ愈々收拾スベカラザルモノトナルデアラウ。只混亂ヲ増大スルトイフ結果ダケカラ觀レバ露西亞式ニシテモ支那式ニシテモ同様デアルト云フ論者モアラウガ歴史ノ問題トシテ取扱ウ時ニハ其ノ意義ニ於テ差別ヲ立テナケレバナラナイ。

支那古來ノ政治ハ實ニ官吏ヤ讀書人ノ手ニ弄バレタモノデアリ理論トシテハ天下ヲ一家ノ如ク看做ストカ民生ヲ重ンジナケレバナラナイトカ謂ハレテ居ルガ實際ニ於テハ政治ハ官吏ト讀書人トガ私利ヲ營ム道具トナツタ場合ガ多イ。支那ノ識者ハ古來政治ノ理想ニ付テ多々辯ヲ費ヤシテ居ル。然ルニ實際ニ於テハ其ノ理想ガ實現サルル事ナシニ理想ハ畢竟空想トナツテ了ツタ。想像スル事ニ於テ逞シキ能力ヲ有スル支那人ハ其ノ政治ニ於テモ想像ヲ恣ニシテ居ル。理想ハ想像トシテ描キ出サルルノミデ實地ニ當ツテノ政治ハ全ク臨機ノ處置タルニ過ギナイ。ソレ故ニ政治ノ缺陷ガ頻發シテ政治的混亂トナリ結局治メザルヲ以テ之レヲ治ムト云フヤウナ主義ガ立テラレ是レガ却テ効果ヲ收メル事ニナルノデアアル。今ノ徐大總統ガ優柔不斷デアツテ何等ノ確乎タル政治方針ヲ立テナイノハ不都合ダト云フ議論ヲ聞クガ彼レハ支那流ノ治メザルヲ以テ之レヲ治ムト云フ主義ヲ遵奉シテ居ルノデハナイカト思ハレル。今日ノ場合支那流ニ考ヘレバ彼レノ態度ハ賢明ニシテ且正當ナルモノデハアルマイカ。

政治的混亂ト之レヲ利用スル野心家ノ活躍トハ支那史上ノ名物デアリ殊ニ支那共和國建設以來ノ一大喜悲劇デアル。就中袁世凱死後ノ狀況ハ宛然唐末五代ノ世ヲ再現セシメタ傾向ガ見エル。コノ際過激思想ノ如キモノガ外カラ流レ込メバ忽チ政治的野心家ノ道具ニ使ハレルノハ當然デアツテ何物カラ利用シヤウト探シ廻ツテ居ル彼等野心家ニ取ツテハ恰好ノ道具否玩具トナルデアラウ。其ノ玩具ヲ振り廻ハス惡戯カラ目下ノ政治的混亂ガ益々收拾ス可カラザルモノトナルノハ已ムヲ得ザル所デアル。然カシ是ノ混亂ハ何處迄モ支那式デアリ支那名物デアル政治上ノ現代的自覺的意義ヲ含ンダモノデハ無イ。支那一般民衆ノ覺醒ヲ呼び起ス動機トナルト考ヘル人モ有ルヤウデアルガ自分ハ到底コレニ同意出來ナイ。要スルニ過激思想ガ支那ニ宣傳サレタトシテモ其レハ何時ノ間ニカ支那化サレテ支那流ノ政治的騷動ノ一局ニ織リ込マレテ了ウベキモノデアル。是ノ宣傳ニ由ツテ支那ノ政治的理想ニ新ラシキ意義ガ與ヘラレルトカ又ハ支那ノ社會組織ニ根本ノ變動ヲ來タスデアラウトカ云フ觀察ニハ全然反對デアル。

目下ノ支那ニハ過激思想ヲ織リ込ンダ文化運動ガ行ハレテ居ル。例ノ政治的野心家ハ文化運動ノ美名ヲ假リテ自己ノ陰謀ヲ逞シウセントシツツアル。心ナキ多數ノ男女青年學生ハ是等ノ野心家ニ煽動サレテ自覺ノ空叫ビヲ揚ゲテ居ル。實ハ文化運動ニ付テモ其ノ實質ガ支那式ノ雷同的盲動デアツテ議論ノ聲徒ラニ喧シク中心ノ信念殆ド空虛ナル有様ハ古ノ南宋時代ノ攘夷論自強論ヲ

想ヒ出サセル計リデアル。然カシ多數ノ盲動者流ノ間ニ立ツテ冷靜ニ文化運動ノ意義ト必要トヲ考察シツツアル支那識者ノ存在スル事ヲ疑ハナイ。只其レガ一般民衆ノ痛切ナル叫ビデアルトカ男女青年一般ノ自覺的行動デアルトカイフ觀察ニハ何如シテモ賛成スル事ハ出來ナイ。其ノ文化運動ナルモノガ過激思想ト混同サレ易イ傾キガアルノデ文化運動ソノモノマデガ危險視サレテ居ルノハ惜ム可キ事デアル。然カシ從來ノ支那流ノ考ヘ方カラ云ヘバ文化運動デモ過激思想デモ玉石混淆何ガ危險デ何ガ精粹デアルカノ差別ハ無クナルノデアラウ。ソレガ支那思想ノ弱點デモアルガ又強味デアルトモ謂ヒ得ルノデアル。支那ノ男女青年ガ眞ニ自覺シヤウトスルナラバ先ヅ文化運動ナルモノノ意義ヲ確カメ同時ニ過激思想ナルモノガ支那ニ於テ何ノ意義モ價值モナイト云フ事ヲ明ラカニ意識スル事ヲ努ムベキデアラウ。

自分ハ以上下手ノ長談義ヲ試ミタガ其レハ支那旅行ノ感想トイフ意味デアツテ論理ノ纏マラナイノハ恐縮ノ至リデアル。只自分ガ說ノ當否ハ全ク識者ノ評ニ任カス事トシテ如上長談義ヲ敢テシタノハ別ニ少シク仔細アツテノ事デアル。今日吾國ノ識者ガ支那事情ノ研究ト云フ事ニ付テ劈頭カラ對手ニシナイ人々ガ多イ有様デアリ何事ニツケテモ支那ノ事トイヘバ一切吞ミ込ンデ然カモ輕蔑スルヤウナ態度ヲ執ツテ居ル。旅行中ニ出會ツタ支那居留邦人ノ中ニモ少數ノ篤志研究家ヲ除ク外ハ支那ヲ支那トシテ平靜ニ觀察スルトイフ心懸ケ無ク吾ガ國ノ事情吾ガ國ノ民族性ヲ基

礎トシテ支那ヲ評シ吾ガ國ノ事情ヤ民族性ニ適シナイヤウナ支那ノ事情又ハ民族性ヲ輕侮スル様子ノアルハ如何ニモ遺憾デアル。支那ノ過激化トイフ件ニ付テモ頭カラ吞ミ込ンデ馬鹿ニシテカカリ其レガ支那ニ取ツテ如何ナル意義ヲ有スルカヲ一考シヤウトモシナイ。サウイフ傾向ヲ遺憾ニ思ツタ事ガ直接ノ動機トナツテ是ノ一篇ヲ草シタ譯デアル。(完)

杜威氏ノ支那論

——John Dewy ノ近業ヲ讀ム——

稻 葉 岩 吉

一

一昨年以來、吾人ノ接手シタ歐米人ノ支那ニ關スル諸論文ヲ檢スルニ、二個ノ卓越シタ勞作ノ公表セラレテアルコトヲ注意スルノデアル。其一ハ本年六月中、倫敦たいむズ紙上ニ掲ゲラレタぜー・あー・ビー・ぶらんど氏ノ「極東ノ諸問題」デアリ、他ハ、一九一九年十一月及ビ二〇年五月ノ前後兩回ニ亘テ紐育刊行雜誌あしあニ公表セラレタじよん・でゆうえー(杜威)氏ノ論文デアラネバナラヌ。ぶらんど氏ノソレガ、主ニ政治的外交的デアッタコトハ言フマデモナイ。でゆ

うえー(杜威)氏に至リテハ、自ラ立場ガ既ニ學者デアリ教育者デアルダケニ、ソノ見地ハ、社會的、内面的ニ据置カレ、極メテ透明ノ解釋ヲ試ミタ。ぶらんど氏ニハ、從來幾多支那ニ關シテノ著書ガアリ、今一々紹介スルニ當ラヌケレドモ、杜威氏ノソレヲ讀ムニ及ビテ、吾人ハ今更ラ推賞ヲ禁ジ得ザルモノアルトモニ、ソノ受クルトコロノ利益ノ多大ナルモノアルコトヲ告白スルノデアアル。

幸ニ杜威氏ノ論文中、ソノ十一月中ノモノハ、同僚安倉教授ニヨリテ、前號本誌ニ全部譯載サレアルカラ、幾分世人ノ注意ヲ惹イタコト、思フ。吾人ハ再ヒコ、ニ該二論文ノ極メテ重視スヘキモノテアルコトヲ力說シ、卑見一二ヲ述ヘテ置キタイト思フ。

二

杜威氏ハ、ソノ論文ノイヅレモノ劈頭ニ、支那民族ハ保守的ナルガ爲メニ不振デアルトイフ世人ノ見解ニ就テハ訂正ヲ試ミテ居ルノデアアル。「西洋ノ芝居ハ萬事ガキビ、キビト凡帳面ニ進行スル、コノ流儀ニ慣レタ西洋人ハ、支那ノ活劇ニ對シテモ活動寫眞ヲ見ル心持デ居ル、西洋人ハ、支那ノ歴史ノ様ナ大規模ノ活劇ヲ批評スルコトハ困難デアアル」トイヒ

屢々論ゼラレタ如ク、支那人ガ組織的ニ且ツ迅速ニ進歩シナイノハ、彼等ガ保守的ノ國民ナル

ガ爲メデアルトノ説ハ、説明デハナクシテ疑問ノ反覆デアルコトハ、明瞭デアル。疑ヒモナク支那人ハ保守的デアル。然レドモ支那ノ歴史ハ、吾人ガ誤ツテ教ヘラレテ居ル様ナ固定沈滞ノ歴史デハナクテ、社會的ニモ變化著シク、王朝ノ變化モ屢々デアツタ。彼等ハ古來種々ノ事業ヲ企テタ。數世紀前支那ノ一政治家ハ、皇帝ニ勸誘シテ、同國ヲ蒸汽ト電車トノ無カツタ時代ニ於テハ、殆ンド完全ト言ツテモヨイ位、近世社會主義ノ主張ニ近イ國家タラシメントシタ。支那ハ、歐羅巴ノ何レノ國ヨリモ、多ク野蠻國ノ侵略ヲ受ケタ。ソレニモ拘ハラズ、支那ガ滅亡セズシテ、征服者ノ文化ヲ吸收シタトイフコトハ、支那人ガ無氣力ナル保守主義者デアルト云フ論據ニハナラヌ。(支那不振ノ原因)

ト解釋シ、「若シモ保守主義ノ程度ライフナラバ、支那民族ヨリモ、日本人コン保守主義ニ對シテ強キ執着ヲ有スル、而カモ日本ノ國力ハ、驕々トシテ進歩シテ居ルデハナイカ、支那ハ保守主義ニ誤タルトイフ議論ハ、原因デハナク、寧ロ結果デアラネバナラストイフ、」コレガ、彼レノ見解デアル。

コノ見解ヲ進ムル爲メニ、彼レハ、支那ノ或ル學者(愚ラクハ辜鴻銘氏ナラン)ガ、「舊支那ノ純ナル遺風ヲ見ントセバ日本ニ行ケ」トイツタ言ヲ引用シ、尙ホ「私ノ友人ノ支那人ハ、一人ナラズ、私ニ對シテ、眞ニ保守的ノ國民ハ日本人デアルト斷言シタ。而シテ彼等ハ彼等ノ主張ヲ裏附

ケルタメニ、日本人ハ、原始的ノ神權政治ノ昔カラ、歴史ノ變遷ヲ通ジテ、今尙ホ舊習慣ヲ墨守シテ居ルトイフ證據ヲ示シタ。其一例ヲ舉グレバ、日本ハ、數千年以前ニ支那カラ現在ノ服裝ヤ、家具ヤ、疊ノ上ニ坐臥スル風習ヲ學ンタノデアルガ、支那ハ實際ノ必要ニ應ジ、巧ミニ必要手段ヲ講ジ、絶エズ進歩シテ數回ノ變遷ヲ遂ゲタ。」「支那人ノ保守主義ハ、或物ノ説明デハナクシテ、ソレ自身が説明セラルベキモノデアル」トイツテ居ル。

三

然ラバ、支那人ハ、何故ニ保守的デアルカ、保守主義ノ權化トハ如何ニシテモ解スベカラザル支那人ガ、何故ニ保守的ニ墮在スルノデアロウカ、杜威氏ハ、コノ原因ニツキテ、下ノ如キ説明ヲ試ミタノデアル。

コレガ秘密ヲ啓ク唯一ノ鍵カドウカハ勿論疑ハシイ。シカシ茲ニ一ノ事實ガアル。ソレハ慥カニ勘定ニ入レネバナラヌ重大事實デアルト、私ハ信ジテ居ルノデアル。支那人ノ有スル多クノ心理的特性ハ、長キ間ノ、シカモ非常ナル人口稠密ノ產物デアルコトハ疑問ノ餘地ガナイ。人間ガ蜂ノ巢ヲ亂シタヤウニ集團トナツテ行動スル時ノ有様ヲ説明スルタメニ、群衆心理ナルモノガ、心理學者ニヨリテ發見トイフヨリハ、寧ロ發明サレタ。ケレドモ、彼等ハ、多數ノ人間

ガ、常ニ密接シテ居ル生活、即チ不斷ノ群集生活ガ、人間ノ精神ニ、如何ナル影響ヲ及ボスカ
ヲ研究シタコトガナイ。數年前ほのるるニ於ケル篤學ナル米國ノ一支那語教師ガ、私ニ向テ、
若シ支那人ガ、あんどろ。さくそん人ノ如キ立法權ヲ獲得シタナラバ、彼等ハ、全世界ニ於テ最
モ偉大ナル國民トナルデアロウト語ツタコトガアツタ。私ハあんどろ。さくそん人モ、數世紀間
身動キノ餘地ナキ狀態ノ下ニ生活シ、同胞ノ不斷ノ監視カラ開放サル、コトナキ狀態ノ下ニ生
活シテ居タナラバ、立法權ヲ發達サセルコトモ、之ヲ維持スルコトサヘモ、出來ナカツタノデ
アルマイカト思フ。恐ラク彼等ハ實行力ヲ養フニ至ラズシテ、唯タ表面ノ面目ノミヲ顧慮スル
慣習ヲ獲テ居タデアラウ。多分彼等ハ、或ル新事物ヲ考案スルトキ、思慮ト躊躇トヲ以テ、發
明ノ第一義ト決メテ居タデアロウ、若シ支那ニ於テ孤獨ナルモノガ存ストセバ、ソレハ山間ノ
城砦ニ隱遁シテ居ル僧侶ノ間ニノミ存スルニ過ギス、而モ、私ハ反對ノ證據ヲ目撃スルマデハ、
支那ニ於テハ僧侶サヘモ、社交的、交友的デアルト信ズルモノデアアル。最近交通機關ノ發達ス
ルマデニハ、知ラナイ人々ノ間ニ居ルコトカラ生ズル孤獨ガアルトイフコトサヘモ、極ク少數
ノ他ハ知ラナカツタノデアアル。活動ノ餘地ハ、殆ンド塞カレ、數億ノ人々ガ、毎日毎年同ジ人
バカリト顔ヲアハセテ居ルヤウナ生活ヲ想像シテ見レバ、支那國民ノ保守主義ガ、那邊ニ胚胎
セルカニツイテ、一道ノ光明ヲ認メ得ルノデアアル。(支那不振ノ原因)

果然、彼レハ、支那人口過剩論者デアル。吾人モカツテ支那人ノ密集生活ハ、封建時代ヨリノ城郭發達ニヨリテ促成セラレタコトヲ述べ、コノ生活ハ、支那人ヲシテ複雑ナル儀禮ノ池ニ喰啜セシムルモノデアルコトヲイッタ。あんぐろ・さくそんデスラ、カ、ル密集生活ニ據クサレタナラバ、支那人ト一樣、型式ニ捉ハレ、虚禮ニナラナクテハナラヌコトニナル、トイッタ彼レノ見解ハ、頗ル適切デアロウト思フ。

四

カウシタ見解ハ、歩々深刻ニ、ソノ論調ヲ進メテ居ル。「長ク支那ニ住ンデ居タ英國ノ某著述家（ぶらんど氏）が、カツテ一書ヲ著ハシタ。コノ書物ハ、多クノ面白イ出來事ヤ、無駄話ヤ、風聞ヲ除テシマヘバ、何ノコトハナイ、若キ支那ニ對スル長イ罵倒文デアツタ。即チ西洋ノ制度、發明、方法ノ移入ヲ謳歌シテ居ル支那ニ對スル罵倒文デアツタ。トコロガ同氏ノ論據ハマコトニ單純ナモノデ、要スルニ支那ハ、人口過剩ニ苦ンデ居ルトイフノデアル、即チ氏ニヨレバ、支那ニハ夥多シイ人ガ、マルデ生計ノ刃尖ニ住ンデ居ル、洪水ヤ疫病ヤ、惡イ氣候ガ、多數ノ住民ヲコノ刃尖カラ振り落シテ、平衡ガトレテ居タノデアルガ、太平ノ年ガ長ク續クト又モヤ人口過剩ヲ來シ、一揆ヤ内亂ニヨツテ、多クノ人ヲ殺シ、朝廷ヲ覆シテ、人口ノハケ口ヲコシラヘルトイフ

風デアツタ、支那ノ歴史ハ、コノヤウナ挿話ノ連續巡環デアリ、且ツソレハ已ムヲ得ナイノデアル。此間孔子ノ教ナル祖先崇拜、家族制度、氏族制度ハ、支那文明ヲモトノマ、デ次代ニ傳ヘル。若キ支那ハ、之ヲ破壊シテ、其ノ道德的基礎ヲ棄テヤウトシテ居ルノデアル。生存競争トイフ根本的事實ヲ變ヘルコトガ出來ナイ以上、若キ支那ハ何等國家ニ貢獻スルコトガ出來ナイノデアル。ト、杜威氏ノコノ見解ニ對スル批評ハ、頗ル興味アルモノデアル。

コノ論法ハ、絶對ニ正シイトハ言ヘナイ。不當ノ結論モ少クナイ。コノ考ヘハ、支那ノ將來ハ過去ト殆ンド變リガナク、之ヲ變ヘヤウトスレバ、一層惡イ結果ヲ來タストイフ風ニ考ヘテ居ル外國人ノ考ノ好箇ノ適例デアル。私ノ經驗ニヨレバ、支那ニ長ク住ンデ居タ外國人ノ大多數ハ、程度ノ差コソアレ、殘ラズ斯ノ如ク考ヘテ居ルト思フ。……多クノ外國人ハ、支那ニ數年間在住シテ居ル間ニハ、密集シテ生活シテ居ル國民ノ濃密サニスツカリ、眩惑シテシマヒ、若シドコカ一寸デモ觸レバ文明ノ全體ガバラ／＼ニ壞レテシマウダラウトイフ心配ヲ抱クヤウニナ居リ、ソツト放任シテ置クノガ最モ安全ダト信ズルヤウニナル。最近米國カラ渡シタ教師ト社會事業家トヲ兼ヌル一米國青年ハ、私ニ向ツテ、彼ノ先輩ノ宣教師ハ、支那人ニ對シテ屢彼等ノ熱心ナ改革ノ要求ヲ陳ベテ、モウ少シ年ヲ老テ物事ニ分別ガツイテ來レバ、保守主義ノ有難サガワカツテ來ルト告ゲタトイフコトヲ語ツタ。支那在住ノ多數ノ年長英國人ハ、革命ニハ少

シモ同情ヲモタズ、帝制ノ没落ヲ悲シンデ、現在ノ數々ノ缺點ヲ舉ゲテ、支那ハ昔ノ通りデナケレバナラヌト言ツテ居ルトノコトデアル。(支那不振ノ原因)

支那ニ長ク住メバ支那化シテ仕マウトイフ何人カノ説明ハ、コヽニモ適切ニ證明シ得ベキモノト思フ。杜威氏ニヨレバ、ソノ原因ハ、支那人ノ密集生活ノ濃厚サ加減ニ眩惑サレルカラデアルトイフノデアルガ、コレモ一種ノ見方ニハ違ヒナイ。然レ共、支那文明ソレ自ラガ、ソウシタ消極的ノモノデアリ、支那人ヲ諒解スレバスルホド、歐洲風ノ急進的ナル改革ハ、決シテ効果ヲ奏スベキ所以ノ道デナイトイフ結論ニ到達セナケレバナラヌノデアルマイカ。杜威氏ニハ、更ニ痛切ナ評語ガ下サレテアル。曰ク

若シ支那へあんぐるゝさくそん人ノヤウナマルデ反對ノ傳統ヲモツタ外國人ガ、多數移住シテ來タトシタラ、幼時カラ狭クルシイ、濃密ナ文明ノ中デ育テラレタ此等外人ハ、ドウナルデアロウカ、生活セヨ、自由ニ生活セシメヨ (Live, let Live) トイフ方針ヨリ外ニハ、斯ル人口濃密ノ場所ニハ、取ルベキ方針ハ無イノデアル。若シソレデ無事ニスメバソノ儘ニシテ置クニ越シタコトハナイ。タトヒ惡クナツテモソレニ干涉シテ更ラニ惡クスルヨリハ、ソノマヽニシテ置ク方ガマシデアル。西洋諸國ニ於テ、放任主義ガ盛ニナツタ理由ハ、自由ニ放任シテ置ク政策ハ、各個人ノ精力ト企業心ヲ勵マスモノデアルト考ヘラレタカラデアル。所ガ、支那デハ、ソ

レガ盛ニナツテ來タノハ、無用ノ精力ヤ企業ハ、惡影響ヲ及ボスカラトイフ理由ニヨルノデアル。船ヲ搖リ動カシテハイケナイトイフコトハ、誰デモ知ツテ居ルガ、天然ノ資源ヲ利用スルニ都合ノヨイ様ニ組織サレテ居ナイ人口稠密ノ國ニ於テハ、如何ナル改革モ社會トイフ船ノ均衡ヲ亂スコトニナリ易イノデアル。(支那不振ノ原因)

ト、元ノ耶律楚材ガ提倡シタ「一善ヲ興スヨリハ一害ヲ除クニ如カズ」トイツタ防弊主義ノ政策ヤ、湖リテ老莊學派ニヨリテ倡出サレタ無爲主義ノ政治ハ、凡ベテ杜威氏ノ説明中ニ含有サレテアルコト、思フ。支那ハ古來、放任主義ヲ提倡シタ國柄デアル、而モソノ主義コソハ西洋ノソレニ近似スルモノデアルナド、ノ解説ヲ有スル人々ハ、氏ノ解説ニ得ルトコロ蓋シ少ナクハアルマイ。

五

人口過剰ニヨル密集生活ニツキテハ、支那學者ニヨリテモ、早クカラ倡出サレテアツタ。明末清初ニ於ケル顧炎武ノ如キハ、ソノ一例デアル。顧氏ハ日知錄(卷一二)ニ於テ「人聚」ト題シタ解説ガアル。大意ニ依レバ、「漢ノ時代デモ、唐ノ時代デモ、將タ明代ニテモ、ソノ盛時トイハレタ際ニ於テハ、地方人民ハ、ソレ／＼田間ニ固着シテ、安穩ノ生活ヲ得、敢テ足ヲ市井ニ容レヤウトハセナカツタノデアル。漢ノ文帝代ニハ、百姓ドモガ、六七十ノ老翁ニナリテスラ、未ダ城市ヲ訪

フタモノガナイトイフノガアル。劉寵ガ會稽ノ太守ニナツタ時、狗不夜吠、民不見吏、麗眉皓髮之老、未嘗識郡朝トイツタ工合ニアツタ。唐代ニテモソウデアル。開元全盛ノ日、海内無事デアツタ。元稹ノ詩ニ、戍煙生不見、柯豎老猶純トアル。コレガ唐ノ盛大ヲ致シタ所以デナケレバナラス。大歴以後ニナリテ、四方多事、賦役繁興シ、而シテ、小民ノ官府ニ奔走スルモノ、日、給スルニ暇マアラズ、元結ノ所謂、人民爲征賦所傷、州里化爲禍邸トナルトイフノガ、ソレデアル。(宋ノ熙寧中、王安石ノ新法ガ行ハレタ際、蘇東坡ハ恰モ杭州ニ在ツタガ、詩ヲ作ツテ時政ヲ諷シタ、曰ク、贏得兒童語音好、一年強半在城中ト、衰弊ノ政ハ、古ヨリカクモ一轍デアル)。顧氏ハ、カクテ自ラノ經驗ヲ述ベテ曰ク「予ノ少時ニハ山野ノ人民中、白首ニ至ルマデモ、官吏ヲ見ズ長ジテ畎畝ニ安ジ、城中ニ至ラザル者ガアツタ。末造ニ及ビテ、役繁ク訟多ク、終歲ノ功、半ハ官府ニアリトイツテヨイ位、而シテ細民中ニハ、家有二頃田、頭枕衙門眠ノ諺ガアツタ。既ニシテ、山ニハ負嵎ノ匪類アリ、林ニハ伏莽ノ賊多キガ爲メニ遂ニ其田園ヲ舍テ、城郭ニ徙リ住ムコト、ナツタ。カテ、加ヒテ、求名ノ士、訴枉ノ人ハ、悉ク京師ニ至リ、錐刀ノ末モ、盡ク之ヲ爭ハントシ、五十年ノ風俗ハ、遂ニコ、ニ至ツタノデアル」ト。

顧氏ハ、以上ノ經驗ニ基ヅキテ、下ノ如キ斷案ヲ得タノデアル、曰ク、「人、郷ニ聚ツテ而シテ治マリ、城ニ聚ツテ亂ル、郷ニ聚レバ土地開ケ、田野治マリ、民ノ恒心ナキヲ欲スルモ得ベカラ

ズ。城ニ聚レバ、徭役繁ク、獄訟多ク、民ノ恒心アルヲ欲スルモ得ベカラズ。『輦轂ノ道ヲ清メン
ト欲セバ、民ヲシテ各々其郷ニ聚メシムルヨリ始マル』ト。吾人ガ所謂城郭生活ハ、杜威氏ノ密集
生活デアリ、ソノ弊害ノ、既ニ顧氏ニヨリテ指摘セラレタル、此ノ如キモノガアル。顧氏ハコノ
弊ヲ救ハントシテ、都市生活ヨリ人民ヲ田間生活ニ還元センコトニ力説シテ居ルガ、ソレハ果シ
テ可能デアラウカ。顧氏ハ都市ノ發達ヲ好マナイケレドモ、ソレハ變則的發達即チ地方ノ
不安ニ原因シテ、城市ガ膨脹スルノデアリ、支那政情トシテ、古今同一ノ事情ニ在ルトイツテヨ
イ。顧氏ニハ、防弊の見解ガ先キニ立ツノ傾向アルヲ免レヌ。ソレハ支那政論家ノ通有性トモイ
ツテヨイノデアロウ。杜威氏ニハ、之ニ反シテ積極的ノ見解ガアル。

六

杜威氏ハ、コノ見解ヲ述ベル前ニ、種々ノ巧妙ナル解説ヲ試ミテ居ルノデアル。

支那人ハ個人トシテ交際スルニハ愉快ナ國民デアルガ、團體トシテハ、外部ノ人ヲ怒ラセル國
民デアルトイフ諺ニ含マレテ居ルヤウナ支那人ノ心ノ習慣ハ、人口過剰ニ養ハレタ習慣デア
ル改革ヤ企業ハ、自働的ニ挫折シテシマフ、ソレハ智識ノ缺乏ノ爲メデハナイ、智識ガ餘リニ銳
敏デ、ソノ結果ガ失敗ニ了ハルコト、艱難ガ隨伴スルコトニ氣ガ附イテ居ルカラデアル。予ハ、

前總統孫逸仙氏トアル夜愉快ナ會談ヲナシタコトガアルガ、ソノ時、孫氏ハ、日本ノ進歩ノ迅速ナルニ比シテ何故ニ支那ガ遅々トシテ進マナイカトイフコトニ關シテ、氏ノ意見ヲ吐露シタ。同氏ハ曰ク、「知ルハ易ク行フハ難シ」トイフ諺ガ支那ニハアルガ、支那人ハコノ格言ヲ肝銘シテ居ルノデアル。支那人ハ失敗ヲ恐レルカラ何事モ實行シナイノデアル。彼等ハ實行ニ先ツテ失敗ヤ重大ナル困難ガ起ラナイトイフ保障ヲ得ヤウトスル、之ニ反シテ日本人ハ實行スルコトハ知ルヨリモ容易デアル（案ズルヨリ產ムガ易シ）トイフコトヲ覺テ居ル。彼等ハ失敗ヤ、遣リ損ヒニハ頓着ナク、ドシ／＼實行シテ行ク。ソシテ失敗シテモ結局實行シタ方ガ、實行シナイヨリモ、差引幾ラカ利益ガアルトイフコトヲ信ジテ疑ハナイノデアルト。予ハ、コノ説明ヲ聞イテ、コノ古賢ノ格言ガ、支那國民ニカクノ如キ大ナル影響ヲ及ボシタノハ、日ト共ニ濃密トナリ、窮屈トナツテ行ク周圍ノ事情ニ助長サレタタメダト信ジタイ。（支那不振ノ原因）

孫逸仙氏ノコノ解説ハ、ソノ大著「孫文學說」ノ骨子トシテ、カツテ吾人ニ紹介サレタモノデアル。孫氏ハ、自己ヲ知ルニ明哲ナルモノトイハナケレバナラヌ。我國ニテモ「議論仆レ」トイフ警句モアリ、ソレヲ宋代ヤ明代ノ支那人ニ適用シタコトガアツタ。支那ノ先達ニモ、コノ弊害ヲ覺ツタモノハ、少ナクハナイ。宋金ノ關係ガ破裂シタ際ニ、北宋ノ君臣ハ、先ヅ拒守ノ方法ヲ盛ニ論議シ合ツタ。史家ハソレヲ形容シテ、「築舍ニ同ジ」トイツテ居ル。然ルニ築舍ノ功未ダ成ラザル

ニ、金人ハ早モ既ニ河(黄河)ヲ渡ツタノデアツタ。

杜威氏ハ、最後ニ人口過剰ニヨル支那ヲ救出スニハ、何物ガ最善ノ手段デアルカヲ考ヘタノデアル。以ラク

不幸ナル状態ノ原因ヲ究明スルコトガ、ソレヲ救フ道デアルトノ考ヘハ、皮相ノ見解デアル。如何ナル状態モ、ソレヨリ生ズル結果ニ基イテ判斷セナケレバナラヌ、ソノ状態ガ何故ニ有スルカトイフ原因カラ判斷シテハナラヌ。併シナガラ、原因ガ上記ノ如キモノデアル場合ニハ、諫言ヤ勸告ヤ說法デ、之ヲ救済スルコトハ不可能デアル。事情ノ變化、周圍ノ變化ヲ必要トスル。若キ支那ノ一部ニ於テハ出產制限法ヲ提唱シテ古キ支那ヲ脅カシテ居ルケレドモ、實際上、コノ周圍ノ變化ハ、人口ヲ減少セシムルコトニヨリテ行フワケニハ行カナイ。コノ事情ヲ變化セシムルニハ、近代ノ產業法ヲ移入スルノガ、最モ効力アル唯一ノ方法デアル。現在マダ手ノ着ケテナイ人力ト資源トヲ利用スルコトハ、狹隘ナ周圍ヲ廣クスルト、同様ノ效果ヲ齎ラスデアロウ。未ダ使用セザル支那ノ天然ノ富源ヲモツテ、鑛山鐵道、製造業等ヲ起セバ、現在ニ於テ、危險ヲ冒サズニハ使用スルコトノ出來ナイ國民ノ勢力ノ新シイ流出口ヲ造クルコトガ出來ルデアロウ。近世ノ產業及ビ商業ノ非個人的、間接ノ効果ハ、外觀ヤ面目ヲ過重視シナイ習慣ヲ造クルデアロウ。ソシテ事實ノ客觀的結果ヲ一層重要視セシムルニ至ルデアロウ。富ト建設の手

段トノ増加ニヨリテ、私交上ノ友誼ヤ親切ヲ一般社會ニ貢獻セシムル方向ニ向ケル道ガ發見サ
レルデアロウ。(支那不振ノ原因)

果然、杜威氏ノ人口過剩論ハ、支那ノ産業革命ニ落チ着イテ來タノデアル。産業革命ヲ經由ス
ルデナケレバ、諫言ヤ勸告ヤ說法デハ、何等救済ノ道ガナイト斷言シタ彼レハ、米人ノ見解トシ
テハ、眞個ニ歎賞ニ値スルモノガアル。況ンヤ若キ支那ノ生産制限ノ如キ西洋直輸入說ニ對シテ、
一顧ヲモ與ヘザルニ於テヲヤ。米國人ノ支那智識モ、彼レニヨリテ、幾何ノ覺醒ヲ得ナクテハナラ
ヌ。獨リ米人ノミトイハズ、我ガ思想界ニ於テハ、徒ラニ若キ支那ニ共鳴スルヲ善隣ノ交誼トハ
解スルコトナシニ、更ラニ切實ナル方面アルコトヲ諒解スベキデアロウ。

七

産業革命ニ關シテハ、尙ホ一言ヲ費サナケレバナラス。杜威氏ニハ、日本ト支那トノ間ニハ、
ソノ社會上ニ著大ノ懸隔アルコトノ卓越シタ理解ガアルノデアル。支那文明ノ根本的改造(宍倉
氏譯)ニモコノコトハ繰リ返ヘサレテアル、「支那ノ將來ガ、西洋ノ思想文化ニ對シテハ如何ナル變
化ヲ閱スルカヲトスルニ當リテ、日本ノ歴史ヲ類例トナスハ誤リデアル。一ハ一小島國デアリ、
他ハ一大陸デアル、コノ一事ガ既ニ其比較ヲ不成立ナラシムルモノデアル。支那ガ封建ヲ脱出セ

ルハ、既ニ二千年以前ノコトデアツタ。然ルニ日本ガ封建制度ヲ廢シタノハ、西洋諸國ト接觸スルニ至ツタト同時デアツタ」。「若シソレ兩國民ノ心理ノ差ニ至リテハ、一層根本的ノモノガアル。日本ハ一千年以上ノ昔ニ朝鮮經由ノ支那文明ヲ輸入シタ、而モソノ本質ハ、依然トシテ純日本式デアツタ、過去六十年間、日本ハ西洋文明ヲ採用シタ、而モコレハ日本ノ傳統的政策ノ抵抗力ヲ鞏固ナラシメントスル主旨ヲ以テ借用シタノデアツタ」日支兩國人ガ、「相互ニ下ス批評」ヲ見ルニ日本人ハイフ、「支那人ハ他人ノ思惑ナドニ頓着スルモノデナイ」ト、支那人ハイフ、「日本人ハ體面ヲ重ズル念ガナイ」ト、コノ二ツノ批評ハ、不思議ニ似テ居ルガ、意味ハ大ニ違フ、コレガ説明トシテ次ノ如クニ曰ヘルダロウト思フ。「支那人ノ自尊心ハ、深ク根ザシテ居ルカラ、隨ツテ過敏デハナイ。頗ル徹底的デ少シ位ノコトニ動搖ヲ感ジナイ、又矢鱈ニ之ヲ振り廻ハスコトヲセヌ。然シ一方ニ於テハ、日本人ノ如ク外國文明ヲ借用スルコトハ屈辱デアル。此クノ如キコトハ、自己内面ノ實力ノ缺乏ヲ自白スルモノデアルト思フ。日本人ガ外國専門家ヲ招聘スルトキハ、其結果ニ對シテ興味ヲ有スルガ故ニ、専門家ニ完全ナル自由ヲ與ヘ、彼等ヨリ學ビ得ル限リヲ學バントスルニ努ムル。然ルニ支那モ外國専門家ヲ傭聰スルコトハアル。然シナガラ幾モナクシテ、體ヨク之ヲ解雇スル。コノ兩者ノ態度ノ差ハ西洋文明ニ對スル兩國ノ態度ノ代表デアリ、日本ガ急速ノ進歩ヲナセルニ反シテ、支那ノ停滯セルハ主トシテ、コノ原因ニ由ル」。杜威ノコノ見解ハ、支那文明

ハ根本的デアリ、日本ハ移殖文明デアル。根本文明ノ所持者ニハ、計リ知ラレナイ自負心ガソノ胸底ニ徂徠スルコトノタメニ如何ニシテモ虚心坦懷ニ、外人ニ學ブコトヲ得ナイ、ツマリ熱心ト敬意トヲ以テ、外來智識ヲ受入レルコトガ不可能ニアルトイフ主旨ニ外ナラヌノデアルガ、コノ見解ハ、モトヨリ至當デアルケレドモ、吾人ノ見ルトコロデハ、杜威氏ノ指示スルトコロノ日支社會組織ノ差コソ、却テソノ重大ナルモノデアルマイカト思フ。

八

杜威氏ハ、日本ガ封建ヲ脱シタバカリノ國柄デアルトイフコトハ、折リニフレテ述ベテアル。眞ニ杜威氏ノ言ノ如クニアル。孫逸仙氏ニモ、ソウシタ意見ガアルノデアル

或ハ曰ク、日本ノ維新ハ、全ク王陽明學說ノ功ニ得タリト。東邦人士、咸ナ信ジテ然リトナス。故ニ陽明ヲ推尊シテ隆重ヲナセリ。知ラズ、日本維新ノ前、猶ホコレ封建時代、其俗、古ヲ去ルコト未ダ達カラズシテ、朝氣尙ホ存セルコトヲ。故ニ忽チ外患ノ憑凌ニ遇ヒテ、幕府措ナク、有志ノ士義憤ニ激セリ。コ、ニ於テカ尊王攘夷ノ說ヲ倡ヒテ、以テ國人ヲ鼓動ス。コレ猶ホ義和團ノ扶清滅洋ヲ倡フルト同一歩調ナリ、異ナル所ノモノハ、時勢ニ幸不幸アルノミ。ソノ攘夷就ラザルニ及ビ則チ轉ジテ夷ヲ師トセリ、而シテ維新ノ業ハ、乃チ全ク師夷ノ功ニ得ルノミ、

コレ日本ノ維新ハ、皆ナ之ヲ行フニ成ル、而モ之ヲイフモノ、陽明知行合一ノ説ト實ハ風馬牛相及バザルヲ知ラザナルリ、倘シ知行合一ノ説ニシテ、日本ノ維新ニ功アラバ、則チ必ズ能ク中國ノ積弱ヲ救フベシ。何ヲ以テ中國學者、同ジク陽明ヲ尊重シテ、而モ効果趣ヲ異ニスルヤ。コレ中國習俗、古ヲ去ルコト已ニ遠ク、暮氣太深シ、顧慮ノ念、畏難ノ心、新進文明ノ人ニ視フレバ、尤モ甚シトナス云々。(孫文學說卷一)

二氏ノ所言ハ、吾人ノ尤モ味フベキ見解デアルト思フ。但ダ孫氏モ杜氏モ、日本ノ封建時代ヲ去ルコト尙遠カラザリシコトヲイツテ、日本ノ開國ガ、歐洲ノ中央ニ獨逸ノ新興國ガアリ、ソレガ維新ノ事業ニ好個ノ楷模ヲ成シタコトハ言ヒ及バヌ。ツマリ歐洲文明ハ、日本ガ之ヲ受入ルニ適當ノ國情ヲ有シテ居ツタノデアル。支那ニハ不幸之ニ相當スベキ何モノモナイ。日本デスラ、ソノ經濟產業ヲ支那ニ直輸入スルノ策源地トスルコトハ出來ナクナツタ。況ンヤ歐米諸國ニ於テオヤ、ソレニモ關ハラズ、若キ支那ハ、西ヘ西ヘト進ミユクノデアル。(大正九年十二月二日)

北宋貨幣史論(二)

田 中 忠 夫

目 次

第六章 神宗時代貨幣史論

第一節 緒言——第二節 銅錢——第三節 鐵錢——第四節 紙幣

第七章 哲宗時代貨幣史論

第一節 緒言——第二節 銅錢——第三節 鐵錢——第四節 紙幣

第八章 徽宗時代貨幣史論

第一節 緒言——第二節 銅錢——第三節 鐵錢——第四節 紙幣

第九章 欽宗時代貨幣史論

第六章 神宗時代貨幣史論(英宗時代ヲモ含ム)

第一節 緒 言

當代ニ於テハ、銅鐵錢監ヲ増設シテ、ツノ鑄造額ヲ増加シタルモ、銅錢ノ銷鎔ト流出トヲ制限スルコトナカリシヲ以テ、却テ錢荒即チ恐慌ヲ來シ、マタ私鑄ヲ嚴重ニ取締ルコトナカリシタメ、貨幣界ヲ紊亂シ、物價ヲ上騰セシムルニ至レリ。當代ニ於テモ、鐵錢ノ國外流出ナキニ反シ、銅

錢ハ盛ニ國外ニ流出セシコト、仁宗時代ト異ルコトナシ。

交子モ陝西、河東ニ普及スルニ至リタルガ、陝西ニ於テハ濫發ヨリ延テ支拂不能トナリ、タメニ之ヲ廢止スルニ至レリ。

第二節 銅 錢

第一款 鑄 造

當代ニ於ケル銅錢監ノ主ナルモノハ、熙寧六年(西紀一〇七三)ニ於テハ次ノ如シ。

所在地	監 名	鑄 造 額	備 考
興國軍州	富民監	二〇〇,〇〇〇貫	
睦州	神泉監	一〇〇,〇〇〇貫	
衡州	熙寧監	二〇〇,〇〇〇貫	
舒州	安々監	一〇〇,〇〇〇貫	
鄂州	寶泉監	一〇〇,〇〇〇貫	
惠州	阜民監	八〇〇,〇〇〇貫	
衛州	黎陽監	二〇〇,〇〇〇貫	
江州	廣寧監	三四〇,〇〇〇貫	
建州	豐國監	二〇〇,〇〇〇貫	
韶州	永通監	八〇〇,〇〇〇貫	
池州	永豐監	四四五,〇〇〇貫	

元豐七年ヨリ一、一〇〇,〇〇〇緡ニ増加ス
同七年ヨリ五〇,〇〇〇緡ヲ増加ス

絳州	垣曲監	二六〇、〇〇〇貫
兩京	阜財監	二〇〇、〇〇〇貫
永興軍		二〇〇、〇〇〇貫
華州		二〇〇、〇〇〇貫
川陝府		二〇〇、〇〇〇貫
饒州	永平監	一一五、〇〇〇貫
總計		約五、〇六〇、〇〇〇貫

西京阜財監ハ同七年ヨリ一〇〇、〇〇〇緡ヲ増加ス

今元豐年間(西紀一〇七八——一〇八五)ニ於ケル銅錢監ヲ、景德中ニ比スレバ、九監ヲ加ヘ、鑄造額三百餘萬貫ヲ増セリ。然リ而シテ是等ノ銅錢監ハ、銅鉛錫ノ如キ原料金屬ノ產地ニ置ク外、林木ノ多キ地方ニ置カル、ヲ原則トセルガ、是レ交通機關完備セザル時代ニ於テハ、金屬及ビ燃料ヲ中央政府ノ所在地ニ運搬シテ、之ヲ鑄造スルコト困難ナレバナリ。故ニ臨時ソノ條件ヲ具備セザル地ニ銅錢監ヲ置ケルコトアルモ、間モナク撤廢シ或ハ改鑄ノミヲナサシムルコト、セルモノアリ。是ノ如ク鑄監ノ散在スルトキハ、自ラ錢質ノ統一ヲ期シ難キヲ以テ、之ガ統一ヲ圖ランガタメ、神宗ハ熟銅斤量ノ詔ヲ發布シ、銅錢ノ品位及ビ量目ニ關スル規定ヲ制スルト共ニ、諸方ノ銅錢監ヲ巡視提點スベキ官吏ヲ設ケ、水陸遠隔ソ地ヲモ巡回セシメタリ。是レ五代時代ニ於テ各錢監ニ鑄樣ヲ頒布シテ、錢質ノ統一ヲ圖リシト相俟ツテ、適宜ノ處置ナリト謂フベシ。

當代ニ於テハ是ノ如ク銅錢監ヲ増設シ、銅錢鑄造額ヲ増加シ、英宗治平中（西紀一〇六四—一〇六六）銅錢鑄造額百七十萬緡（註一）ナリシニ比シ、多大ノ増加ヲ示セルガ、是レ銅錢ノ銷鎔並ニ闕出盛ニシテ恐慌（錢荒）ヲ惹起セルヲ以テ、之ヲ補充スルト共ニ、財政ノ窘迫（註二）ヲ救済センガタメナリシナリ。

（註一） 英宗時代ニハ銅錢監ハ饒州、池州、江州、建州、韶州、儀州ノ六州ニモアリキ。

（註二） 元豐以後、西師大ニ舉リ、邊用匱闕セリト云フ。

第二款 流通

第一項 私鑄

當二錢ヲ鑄造流布シテヨリ、銅錢ノ名目價格ト實質價格ト相一致シテ、銅錢私鑄ノ利益減少シ、タメニ銅錢ノ私鑄ハ一時衰息セシガ、熙寧六年再ビ増鑄ヲ獎勵セシ以來、銅錢ノ品位ハ規定以下ニ低下シ、脆惡ニシテ破毀シ易キモノヲモ生ジタルヲ以テ、私鑄ハ復タ盛トナレリ。是ヲ以テ御史周尹ハ、當一錢ヲ鑄造流布セルガ、ソノ名目價格ト實質價格トハ相一致シ、自然私鑄モ止絶スベキ旨ヲ献言セルガ、遂ニ行ハル、コトナカリキ。政府ハ唯、私錢ノ鑄造並ニ流通ヲ禁止シ、且ツ官府ニ收納セル私錢ハ之ヲ銷鎔シテ規定ノ當二錢ヲ鑄造スルト共ニ、私鑄者ハ重辟ニ處シタリ。然レドモ、是ノ如キ政策ハ何等ノ效果ナク、貨幣價格ハ下落シ物價ハ上騰シ、公私共ニ之ヲ患ヒ、

私鑄ハ銅費相當スルニ至リテ、漸ク自然的ニ衰息セルノミ。

第二項 銷 鎔

熙寧七年（西紀一〇七四）錢法即チ貨幣條例ヲ改正スルヤ、錢禁即チ銅錢流出ノ禁ト共ニ、銅禁即チ銅錢銷鎔ノ禁ヲ削除セルヲ以テ、民間ニ於テ銅錢ヲ銷鎔スルモ、辨識スルコト能ハズ、而モ十錢ヲ銷鎔スレバ精銅一兩ヲ得、之ヲ以テ銅器ヲ鑄作スレバ五倍ノ巨利アリシヲ以テ、銅錢ノ銷鎔ハ當代ニ於テモ盛大ナリキ。

第三項 流通調整

前述ノ如ク熙寧七年（西紀一〇七四）錢法改正セラレ、錢禁削除セラル、ヤ、銅錢ノ國外ニ流出スルモノ激増シ、邊關ニ於テハ重車ニ滿載シテ出デ、海關ニ於テハ巨舶ニ飽載シテ出デ、而モ其輸出ニ對シテハ一貫ニ付僅少ナル稅錢即チ輸出稅ヲ賦課セシニ過ギザリシヲ以テ、之ヲ阻止スルニ足ラザリキ。

是ノ如ク、銅禁ヲ廢シテ銅錢ノ銷鎔盛ニ行ハレ、錢禁ヲ削リテ銅錢ノ流出濫ニ行ハレンカ、如何ニ銅錢ノ鑄造ニ努ムルモ、呖澮ノ益ヲ以テ尾關ノ泄ニ供スルガ如シテフ議ヲ免レズト雖、前代ヨリ滯積セル銅錢ノ過剩ヲ調整スルノ效果ナカラズ。

第三節 鐵 錢

第一款 鑄造

當代ニ於ケル主ナル鐵錢監ハ九箇處ニシテ、ソノ名稱並ニ熙寧六年前後ノ鑄造額ヲ觀ルニ次ノ如シ。

所在地	監名	鑄造額
虢州	在成監	一二五、〇〇〇貫
同	朱陽監	一二五、〇〇〇
商州	阜民監	一二五、〇〇〇
洛南		一二五、〇〇〇
通遠軍威遠鎮		二五〇、〇〇〇
岷州滔山鎮		二五〇、〇〇〇
嘉州		二五、〇〇〇
邛州		七三、二三四
興州		一、〇〇〇
總計		八八九、二三四

尙ホ元豐年間ニ於ケル鐵錢監ヲ、景德中ニ比スレバ、監數ニ於テ六監ヲ加ヘ、鑄造額ニ於テ六十餘萬貫ヲ増セリ。

第二款 流通

熙寧元年（西紀一〇六八）河東ニ於テ通貨著シク收縮スルヤ、同州及ビ華州ヨリ、小鐵錢約四十萬緡ヲ河東ニ搬入シテ之ヲ救濟セルガ、ソノ勞費多ク、公私之ヲ不便トセリ。而シテ右二州ニ對シテハ、鐵錢ヲ以テ之ヲ補充セリト云フ。

第四節 紙幣

第一款 印造

從來交子務ハ益州一箇所ノミナリシガ、熙寧二年十一月（西紀一〇六九）ニ至リ、潞州ニ交子務ヲ新設シ、河東ニ於テ交子ヲ印造スルコト、ナレリ。マタ陝西ニ於テモ熙寧四年（西紀一〇七一）交子既ニ二十二界ヲ終ラントスルニ拘ラズ、支拂不可能トナリ、紙幣價格ハ暴落セリ。是ヲ以テ交子濫發ノ弊ヲ高調スルモノ多ク、永興軍鹽鈔場ノ文彥博ハ交子ノ不便ヲ説キ、延州ニ出張シタル張景憲ハ交子ノ蜀ニ行フベクシテ、陝西ニ行フベカラザルヲ主張シ、遂ニ陝西ノ交子ハ幾ナラズシテ廢止サレタリ。

第二款 流通

交子ノ偽造行ハレ、ソノ流通ノ圓滑ヲ妨グルヲ以テ、熙寧元年（西紀一〇六八）交子偽造罪ヲ立ツルト共ニ、奸曲ヲ糾告スルモノハ官印文書法ニ依リテ褒賞スルコト、セルモ、ソノ效果ナカリキ。前述ノ如ク潞州ニ交子務ヲ置キテ、交子ノ印造發行ヲナシタルハ、河東ニ於テ通貨缺乏シ、交

易澁滯セルヲ以テ、之ヲ救濟センガタメニ、同州及ビ華州ノ小鐵錢ヲ河東ニ運搬セシモ、勞費多クシテ公私共ニ不便ナリシカバ、攜帶ニ便ナル交子ヲ以テ右ノ通貨缺乏ヲ救濟セントセシナリ。是ノ如クシテ時代ノ要求ニ從ツテ發生セル交子ハ、漸次ソノ流通範域ヲ擴大セリ。

第三款 價 格

前述ノ如ク陝西ニ於テハ、交子ヲ濫發シ、支拂準備金不足シ、界限到來スルモ之ガ支拂不能トナルヤ、交子ノ價格ハ暴落セリ。「宋史食貨志」ハ之ニ關シテ、

交子給多而錢不足、致價大賤、旣而竟無實錢

ト謂ヘリ。政府ハ之ヲ繡縫センガタメニ、界限ヲ延長シテ二十五界トナシ、以テソノ支拂ヲ他日二期スルコト、セルガ、交子ハ之ヨリ界限ヲ二十二界トスルモノト、二十五界トスルモノト兩種存在スルニ至レリ。

第七章 哲宗時代貨幣史論

第一節 緒 言

當代ニ於テハ、鐵錢濫鑄ノ弊著シク、タメニ鐵錢監ヲ減少シ、鐵錢價格暴落ノ防止ニ努メタルモ、ソノ效果少ク、物價暴騰セリ。鐵錢暴落ノ原因ハ、ソノ流通範域ノ狹小ト濫鑄ニアルコト、

當時衆論ノ一致スルトコロナリ。

第二節 銅 錢

第一款 鑄 造

元豐八年（西紀一〇八五）徐州寶豐監ヲ廢シ、次デ戶部ニ命ジテ鑄錢監ノ廢止スベキモノヲ調査セシメタル結果、十四監ヲ廢罷スルコトトセリ。然レドモ紹聖二年十二月（西紀一〇九五）ニ至リ、施州ニ廣積監ヲ設置セリ。

斯クテ銅錢ノ鑄造ハ減少シタルモ、銅錢ノ陝西ニ流出スルモノ多キヲ以テ、之ヲ防止センガタメニ、元祐八年八月（西紀一〇九三）陝西ニ於テ小銅錢ヲ鑄造セシメタルガ、ソノ鑄錢監ハ川峽府監ナリシナルベシ。

第二款 流 通

當代ニ於テ銅錢ノ陝西ニ流出スルモノ多キヲ以テ、陝西ニ於テハ公私ノ給納貿易ニハ、專ラ鐵錢ヲ用ユルコト、シ、且ツ陝西ニ於ケル官帑ノ銅錢ハ悉ク之ヲ引上ゲ、爾後銅錢ヲ陝西ニ流入セントスル商人ニハ、先ヅ三司ノ投牒ヲ經テ、錢ヲ左藏庫ニ納入セシメ、券ヲ與ヘ、之ヲ以テ諸州ニ於テ錢ヲ受取ラシムルコト、セリ、是レ今日ノ爲替制度ニシテ、ソノ爲替料ハ河東、京西ハ百緡ニ付三千文、其他ハ四千文ナリ。

元祐八年（西紀一〇九三）鄭价ヲ契丹ニ使ハセシニ、其地方ニ於ケル錢ハ、皆支那錢ナリシヨリ、三路ニ於ケル闌出ヲ嚴ニシ、次デ紹聖元年十一月（西紀一〇九四）ニモ、銅錢ノ外界ニ闌出スルヲ嚴禁セリ。

第三節 鐵 錢

第一款 鑄 造

當代ニ於テハ、前代ニ於ケル錢監濫置ノ弊竇ヲ矯正シ、冗員冗費ヲ節減センガタメニ、戶部ニ命ジテ調査セシメ、十九監中十四監ヲ廢罷セリト云ヘバ、此ノ内ニハ勿論鐵錢監ノ整理モ行ハレタルコトヲ推知シ得レドモ、鐵錢監ノ廢罷ニ關スル文獻ヲ得ザルヲ以テ、茲ニ之ヲ明記シ能ハザルモ、鐵錢監ガ當代ニ於テ減少セルコトハ明白ナリ。鐵錢ノ鑄造ハ、當代ニ於テハ一同モ行ハレタルヲ觀ザルモ、是レ唯官鑄ノ行ハレザリシヲ謂ヒ、公鑄及ビ私鑄ハ盛ニ行ハレタルガ如シ。

第二款 流 通

第一項 私 鑄

當代ノ末葉ニ於テハ、鐵錢ノ價格暴落シタルヲ以テ、鐵錢私鑄ノ利益ハ暴落前ニ比シ、減少セルコト明ナリ。從テ私鑄ハ旺盛ナラザリシコトヲ推知シ得ラレザルニアラザルモ、政府ニ於ケル官鑄スラ、暴落時代ニ於テモ、暴落前ノ如ク依然トシテ繼續セシニ徴スレバ、民間ニ於テモ、薄

惡ナル鐵錢ノ私鑄ハ相當盛ナリシナルベク、是レ強チ不當ノ推斷ニアラザルベキヲ信ズ。

鐵錢暴落前ニ於テハ、ソノ暴落後ニ比シ、鐵錢ノ私鑄ハ頗ル盛ニ行ハレタルモノノ如シ、即チ鐵錢ノ私鑄ガ、鐵錢ノ官鑄ト相俟ツテ、當代ニ於ケル鐵錢暴落ノ主要ナル原因ヲナセシコトニ依考スレバ極メテ明白ナリ。永興監ノ師臣陸帥閔ノ言ニ徵スレバ一層了然タルモノアリ、即チ彼曰ク、『既ニ私錢ヲ揀毀スレバ則チ物價當ニ減ズベシ』ト。是レ私鑄鐵錢ノ横溢ガ、鐵錢ノ暴落、物價ノ暴騰ヲ惹起セシコトヲ直接ニ説明スルモノナリト雖、反面ヨリ之ヲ觀レバ、鐵錢ノ暴落ヲ誘起スルニ足ル程度ニ於テ、鐵錢ノ私鑄ガ、旺盛ナリシコトヲ明ニスルモノタラズンバアラズ。

第二項 流通調整

當代ニ於ケル鐵錢ノ流通範域ハ、四川及び陝西ノ一部ニ局限セラレ、未ダ陝府以東ニ普及セザリシガ、陝府以東ニ鐵錢ノ浸漸スルモノナキニアラズ。政府ハ之ニ對シテ如何ナル見解ヲ持シ、如何ナル政策ヲ施シタリヤ。政府ハ鐵錢ガ、銅錢ノ流通範域タル陝府以東ニ流入スルハ、該地方ノ交易ノ圓滑ヲ阻害シ、ソノ澁滯ヲ惹起スルモノナリトノ見解ヲ持シタリキ。蓋シ鐵錢ニハ輕重不等ノ患アリテ、流通ニ不便アレバナリ。是ヲ以テ政府ハ、天祐六年(西紀一〇九一)、鐵錢ノ陝府以東ヘノ流入ニ對シ、一定ノ制限ヲ加ヘ、即チ一人ノ携帶移入額ヲ一時ニ五千文ト限リ、且ツ之ニ對シテハ二〇%ノ移入税ヲ賦課セリ。

第三款 價格

第一項 價格變動狀態

當代ニ於ケル鐵錢ノ價格ヲ觀ルニ、熙寧及ビ元豐年間ニ於テハ、鐵錢ノ銅錢ニ對スル比價ハ一對一・五ニシテ、銅鐵錢ハ並ビ流通シ、未ダ輕重不等ノ患ヲ出現セザリシガ、後款ニ於テ說述スルガ如ク、鐵錢ノ濫發日ニ滋々多クシテ、鐵錢寢ク下落シ、遂ニ紹聖ノ初ニ至リテハ、一對一・五ニ低下シ、約六七％ノ大暴落ヲ現出セリ(宋史食貨志)。

第二項 價格變動影響

陝西ニ於ケル鐵錢ノ暴落ハ、陝西ノ經濟界ニ如何ナル影響ヲ及ボセルヤ、之ニ關シ精細ナル研究ヲナスノ文献ニ乏シキヲ憾トスルモ、唯陸帥閔ガ、『既ニ私錢ヲ揀毀シ、銅ヲ禁ジ冶ヲ罷ムレバ、則チ物價當サニ減ズベシ』(宋史食貨志)ト曰ヘルニ徵スレバ、當時陝西ニ於ケル物價ガ、鐵錢ノ膨脹、暴落ニ依リテ、暴騰シキタルコトヲ推知シ得ルナリ。

第三項 價格變動原因

陝西ニ於ケル鐵錢暴落ノ原因ヲ、舊志ニ依リテ攷究スルニ、凡ソ次ノ二因ニ基スルモノノ如シ。

(一) 鐵錢ノ流通範域ノ狹小

(二) 鐵錢ノ濫鑄

第一、鐵錢ノ流通範域ノ狹小 鳳州ノ通判馬景夷ハ、鐵錢暴落ノ原因ニ關シテ陳明スラク、『銅錢ハ天下ニ流注シ、千百年ト雖、未ダ嘗テ輕重ノ患アラズ、獨リ鐵錢ノミハ一路ニ局ス、交易有無ヲ通ズベキトコロノモノヲ十州ノ地ニ限リ、滯礙ナキヲ欲スト雖、安ンゾ得ベケンヤ』ト。是レ天符年間ニ於ケル陝西鐵錢ノ暴落ハ、當時陝西ニ於ケル鐵錢流通量ガ、ソノ需要量ヲ超過シ、此ハマタ一ハ流通範域ガ陝西ノ一路十州ニ局限セラレタルニ由ルコトヲ説クモノニアラズシテ何ゾヤ。

第二、鐵錢ノ濫鑄 「宋史食貨志」ヲ按ズルニ、永興監ノ師臣タル陸帥閔ハ、陝西ニ於ケル鐵錢ノ濫鑄ニ關シテ曰ク、『諸州ノ錢監ハ鼓鑄已マズ、歲月ニ增多ス』ト、馬景夷マタ曰ク、『私錢ヲ揀毀シ、銅ヲ禁ジ、冶ヲ罷ムレバ、則チ物價當サニ減ズベシ』ト。依此觀之、陸帥閔、馬景夷トモニ、當時陝西ニ於ケル鐵錢ノ暴落ハ、官民ノ鐵錢ヲ濫鑄シ、毫モ節度ナキニ基因スルコトヲ主張セルモノト謂フベシ。

第四項 價格調整政策

當代ニ於ケル鐵錢ノ暴落ハ、叙上ノ如ク著シク、其ノ影響モ亦大ナリシニ拘ラズ、之ガ調整ニ關シテハ、鐵錢監ヲ減少シ、鐵錢ノ鑄造ヲ減少シタル外、何等ノ政策ヲ採リタルヲ聞カザルナリ。

第四節 紙幣

成都路ニ於テハ盛ニ紙幣ヲ印造シタルモ、陝西沿邊ノ糴買及ビ募兵費ニ使用シタルヲ以テ、成都路ニ於テハ商人ハ交子ノ缺乏ニ窮スルニ至レリ。是ヲ以テ、紹聖元年（西紀一〇九四）成都路漕司ハ紙幣ノ増發ヲ請願シ、之ヨリ一界ニ十五萬緡宛増印スルコト、ナリタルガ、其結果一界ニ數十萬緡又ハ數百萬緡ヲ發行スルコト、ナリタリ。是年ニ於ケル紙幣ノ發行額ハ百四十萬六千三百四十緡ナリキ。

第八章 徽宗時代貨幣史論

第一節 緒言

當代ニ於ケル主要ナル通貨ハ、銅錢（小平錢一折二錢、折五錢）當五錢（當十錢）鐵錢（當二錢）及ビ紙幣（交子一陝西錢引一四川）ニシテ、鐵錢及ビ紙幣ハ主トシテ四川及ビ陝西ニ流通シ、河東ニモ及ビ、銅錢ハ其他一般ニ流通セリ。叙上三種通貨ノ價格ヲ觀ルニ、銅錢ハ盛ニ貯藏セラレテ、價格上騰シ、鐵錢ハ濫鑄ノ餘弊ヲ受ケテ暴落シ、マタ紙幣ハ濫發サレテ暴落セリ。斯クテ當代ニ於ケル幣制モ紊亂セルガ、是レ主トシテ財政ノ窮乏ニ基因スルモノナリ。

第二節 銅錢

第一款 鑄造

熙寧以來陝西ニ於テハ、小平錢ノミ鑄造シツ、アリシガ、之ヲ京師ニ運致スルコト能ハズシテ、ソノ過剩ニ苦シムニ至リタルヲ以テ、崇寧二年(西紀一一〇三)、陝西、江州、池州、饒州、建州ニ命ジテ、「聖宋通寶」ナル當五大銅錢ヲ、舒州、睦州、衡州、鄂州ニ命ジテ當十銅錢ヲ、銷鎔セル小平錢ヲ以テ鑄造セシメタリ。翌三年(西紀一一〇四)ニハ、京城ニ錢監ヲ置キ、マタ徐州ノ寶豐監及ビ衛州ノ黎陽監ヲ復舊シ、其他諸路ノ轉運司ニ命ジテ、同ジク小平錢ヲ銷鎔シテ、當十錢ヲ鑄造スルコト、セリ。尙書省ノ言ニ據レバ、崇寧監ニ於テ鑄造シタル御書當十錢十貫ノ錢質ハ次ノ如シ。

銅

九斤七兩二錢

鉛

四斤十二兩六錢

錫

一斤九兩二錢

火耗

一斤五兩

當時一箇年ノ銅錢鑄造量ハ三十萬貫ニ達シ、鑄造利潤ハ三錢ニ付一錢即チ三三%強ナル巨額ニ及ベリト云フ。

當時鑄匠ニハ私鑄者ヲ召募シ、鑄錢院ナルモノヲ造設シテ、之ニ鑄匠並ニ其一家族ヲ居住セシメ、ソノ工賃ハ一日平均十分ト定メタリ。斯ク鑄匠ヲ私鑄者ニ仰グハ、鑄錢行政ニ於ケル巨費ヲ補充スルト共ニ、私鑄ノ犯罪ヲ敢テスル天下ノ亡命者ヲ招致シテ、之ニ授産スルノ利アリ。即チ

社會ノ騷源禍根タル失職者ヲ收容シテ、之ニ授産シ、社會ノ秩序ヲ保持スル社會政策ヲ兼備スルモノナリ。鑄匠ニハ、單ニ私鑄者ヲ利用スルノミナラズ、舊來ノ軍工即チ兵器鑄作工ヲモ充用セリ。

是ニ於テ、吾人ノ注意スベキハ、斯ク隨處ニ鑄錢監ヲ濫設スルト共ニ、濫リニ諸路ノ轉運司ヲシテ、新ナル銅錢ノ鑄造ヲナサシメタルガ、是ノ如クニシテ能ク錢質ノ統一ヲ期シ得タリヤ否ヤノ點ナリトス。之ニ關シテ、唯一ノ鑄錢監ニ鑄造ヲ集中スルカ、然ラズンバ隨處ノ鑄錢監ニ鑄樣ヲ頒布シテ、錢質ノ標準ヲ定メ之ヲ嚴守セシムルカ、其一ヲ撰ンデ錢質ノ統一ヲ圖ラザリシハ、幣制統一上ノ缺陷ナリト謂ハザルベカラズ。

第二款 流通

小平錢ニハ折二錢折五錢ノ二種アリシガ、前述ノ如ク此ガ鑄造廢止並ニ銷鎔ヲ實行スルヤ、ソノ流通ヲ禁止シ、ソノ私鑄ヲ嚴禁セリ。是ノ如キハ、新舊錢ヲ雜然トシテ流通セシムルニ比シ、幣制統一上効果アリト謂フベシ。

當時諸路州縣ニ於テハ、官民共ニ銅錢ヲ貯藏シテ、銅錢ノ匱乏著シキニ拘ラズ、尙官私共ニ銅錢ヲ使用スルコトナク、鐵錢ノミヲ使用セリ。是レ蓋シ良貨タル銅錢ヲ貯藏シテ、惡貨タル鐵錢ヲ使用セントスル意思ニ基クモノニシテ、之ニ關シ馬景夷ハ暗示的ニ説明シテ曰ク、『民間皆願復

用銅錢』ト。即チ當時貨幣界ニ於テ惡貨タル鐵錢ノ橫行自由ナル間ハ、之ヲ以テ交易ヲ行ヒ、良貨タル銅錢ハ之ヲ使用セズシテ貯藏シ、他日鐵錢ノ流通底止シタル時、銅錢ヲ使用セント欲シツ、アルコトヲ説ケルナリ。

銅錢ノ隱遁、鐵錢ノ橫行ニ對シ、時ノ政府ハ如何ナル政策ヲ採リタルカ、是レ興味深キ問題ナリ。之ニ關シ「宋史食貨志」ハ簡單ニ次ノ如ク記述セリ。

『乃詔、銅鐵錢聽民間通行、而銅錢止用糴買』

之ニ依リテ攷察スルニ、當時政府ノ採用セル政策ハ

1、銅鐵錢ノ並行ヲ許可セルコト

2、銅錢ヲ政府ノ糴買ニ用ヒザルコト

ノ二ニシテ、一ハ民間ニ對シ二ハ官府ニ對セルモノナルヲ知ル。今是等二政策ニ就テ簡單ナル批判ヲ加フベシ。

第一、銅鐵錢ノ並行ヲ許可セルコト

元符二年（西紀一〇九九）政府ハ、銅錢ノ流通ヲ禁止スルト共ニ、ソノ送官ヲ命セリ。然シ銅錢ノ送官セラレタルモノハ、流通銅錢ノ一部分ニ過ギズシテ、ソノ大部分ハ民間ノ貯藏ニ係レリ。民間ニ隱遁セル銅錢ハ、通貨缺乏ノ際ニ官民ノ利益ニアラザルヲ以テ、曩ニ發布セル銅錢ノ流通禁

止官府送輸ノ法令ヲ撤廢セリ。若シ民間ニ於ケル銅錢ノ貯藏ガ、銅錢流通禁止令ニ依リテ行ハレタルモノトスレバ、政府ハ何ヲ危ンデカ、銅錢ヲ糴買ニ使用スルコトヲ禁止シテ、銅錢ノ保有ニ努ムルノ必要アラン。政府自ラ銅錢ノ流通ヲ旺ナラシムルタメニ、銅錢流通ノ禁止ヲ撤廢シナガラ、尙且自ラ銅錢ノ保有ニ努メタルハ、右ノ禁令ノ效果ヲ危ミタルモノト謂フベシ。然ラバ民間ニ於ケル銅錢ノ貯藏ハ、曩ニ發布シタル銅錢流通禁止令ニ依ルモノニアラズシテ、惡貨タル鐵錢ノ橫行ニ依ルモノト斷言スルモ過言ニアラザルナリ。是ノ如キ銅錢隱遁ノ強大ナル經濟の原因ヲ看過シナガラ、曩ニ發布シタル無力ナル法令ノ結果ナリト誤信シテ、單ニ銅錢流通ノ解禁ヲナシテ銅錢ノ貯藏ヲ防止シ得ベシトナセルハ、大ナル失敗ナリ。

第二、銅錢ヲ政府ノ糴買ニ用ヒザルコト

第一政策ノ實施ト共ニ、銅錢ヲ政府ノ米穀買上ニ使用スルコトヲ禁止セリ。是レ糴買ニ銅錢ヲ使用スレバ、銅錢ハ政府ノ府庫ヲ去ツテ民間ニ放下サレ、政府ハ良貨ヲ失イテ惡貨ノミヲ擁スルコト、ナリ、惡貨ノ暴落ニ依リテ、政府ハ財政上ノ危險ニ遭遇スベケレバナリ。斯クテ政府ハ良貨ヲ保有シ得ベシト雖、政府ノ政策ハ自ラ銅錢ヲ隱遁セシムルモノニシテ、民間ニ於テモ亦是ノ如キ意思ヲ以ツテ貯藏スベシ。是ノ如キ政策ハ、何レモ民間ニ於ケル銅錢ノ貯藏ヲ防止スルニ足ラズ、政府ニ於テ飽クマデモ、銅錢ノ流通ヲ促サント欲スレバ、寧ロ銅錢ノ貯藏ヲ禁止スルカ、

鐵錢ノ横行ヲ禁止スルカ、何レカ一ヲ撰ブベキナリ。假令幸ニシテ政府ニ於テ、此ノ政策ヲ採用シタリトスルモ、曩ニ銅錢ノ送官ヲ命ジナガラ、ソノ一部分ノミヲ送官セシメタルノミニテ、ソノ大部分ヲ民間ノ貯藏ニ委セシガ如キ、無力ナル政府トシテハ、ソノ完全ナル實施ハ困難ナリシナルベシ。

第三節 鐵 錢

第一款 鑄 造

陝西四川ニ於ケル鐵錢ノ價格ハ暴落シタルモ、是レ鐵錢濫鑄ノ繼續ニ由ルモノニシテ、鐵錢ノ濫鑄ヲ繼續シタルハ、鐵錢ノ濫鑄ニ依リテ多大ノ利益ヲ收得シタルニ職由ス。然リ而シテ鐵錢ノ濫鑄ハ永ク鐵錢鑄造ノ利益ヲ確保スルコト能ハズ、鐵錢ノ暴落ハ遂ニソノ鑄造利益ヲ喪失セシメ、自ラ鐵錢ノ鑄造ヲ中止セシメザルヲ得ザルナリ。是ノ如キ狀態ハ、既ニ建中靖國元年(西紀一一〇一)ニ表ハレ、陝西轉運副使孫傑ハ、

『以鐵錢多而銅錢少、請復鑄銅錢、候銅鐵錢輕重稍均、即聽鑄』

トノ請願ヲナセリ。孫傑ノ此請願ニ察スレバ、鐵錢ハ濫鑄ノ結果暴落セルヲ以テ、最早ヤ之ガ鑄造ヲ繼續スルモ、鑄造利益ヲ收ムルコト能ハザルガ故ニ、一旦鐵錢ノ鑄造ヲ廢罷シ、再ビ鐵錢ノ價格ノ回復ヲ待チテ鑄造ヲ再開セントスルノ意明ナルト共ニ、銅錢ノ價格ハ鐵錢ハ比シテ暴騰セ

ハヲ以テ、新ニ銅錢ヲ開始シテ、收入ヲ増加セントスルノ意モ了然トシテ察知セラル。繼イデ翌崇寧元年（西紀一一〇二）ニハ、前陝西轉運使判官都睨ノ請願ニ依リテ、陝西ニ於ケル鐵錢ノ鑄造ハ、遂ニ廢罷セララル、ニ至レリ。

是ノ如ク陝西ニ於テハ、鐵錢ノ鑄造ヲ廢止シタルモ、廣東、廣西兩路ニ於テハ、鐵ノ產出アルヲ以テ、漳州ニ鐵錢監ヲ置キ、陝西ノ方法ニ倣ヒ、鉛錫ヲ加ヘ、當二錢ヲ鑄造セシメタリ。斯クテ鑄造シタル當二錢ハ、ソノ流通ヲ右兩路ニ許サズ、他地方ニ於テ鑄造セル銅錢ト交換シ、之ヲ元豐庫ニ送輸セシメタリ。

第二款 價格

第一項 價格變動原因

鳳州ノ通判馬景夷ハ、鐵錢價格暴落ノ原因ヲ指摘シテ、

（一）前代ニ於テ鐵錢ノ流通範域ヲ僅ニ一路十州ニ局限シ他ニ此ガ流通ヲ許容セザリシコト、

（二）諸州ノ錢監ニ於テ濫鑄ノ繼續セシコト、

トナセリ。吾人ハ茲ニ馬景夷ガ言ヲ論評スルトコロアラントス。

（一）第一因ノ批判

馬景夷ハ、鐵錢價格暴落ノ原因ハ、ソノ流通範域ノ一路十州ニ局限セラレ、廣汎ニシテ自由ナ

ル流通範域ヲ有セザルノ事實ニ歸セリ。今「宋史食貨志」ヲ檢スルニ次ノ如シ。

『銅錢注ニ注天下、雖千百年、未嘗有輕重之患、獨鐵錢局ニ於一路、所可通交易有無者、限以十州之地、欲無障礙、安可得乎』

凡ソ貨幣ノ流通範域狹小ナルトキハ、ソノ廣汎ナル場合ニ比シ、貨幣ノ流通量ニ依リテモ、ソノ增多ヲ感ズルコト切ナリ。蓋シ他ノ經濟事情ニシテ毫モ差異ナケレバ、同一ノ貨幣流通量ガ、狹小ナル流通範域ヨリ廣大ナル流通範域ニ普及スレハ、貨幣ノ密度ハ前者ニ大ニシテ後者ニ小ナレバナリ。從テ此ノ場合鐵錢ノ流通範域ヲ僅ニ一路十州ニ局限スルハ、鐵錢價格暴落ノ一因ナリト謂フベシ。

(二) 第二因ノ批判

馬景夷ハ蜀ニ於ケル鐵錢價格暴落ノ第二因ハ、諸州ニ於ケル錢監ガ、鐵錢ヲ濫鑄セル事實ニ在リト主張シ、『諸州錢監鼓鑄不已、歲月增多』ト曰ヘリ。前代末ニ於テ陸帥閔ハ、之ニ關シ、ソノ真因ハ、蜀ニ於ケル鐵錢ノ私鑄橫行ニアリト言ヒタルガ、官鑄ト私鑄トノ差異コソアレ、鐵錢ノ濫鑄セラレシコトハ明白ニシテ、且ツ之ガ鐵錢價格暴落ノ原因ヲナシタルヤ昭明ナリ。吾人ハ私鑄ノ盛ニ行ハル、時ニ於テ、規律ナク、不謹慎ナル支那ノ官設錢監ガ、濫鑄ノ利益ニ誘惑サレテ、濫鑄ヲ敢テナシタリト信ズルモ不可ナキヲ思ハズンバアラズ。斯ク官私ノ濫鑄ガ橫行セルハ、蜀

ニ於ケル鐵錢價格暴落ノ重大ナル内的原因ナリト斷言スルニ憚ラザルコト、馬景夷ト說ヲ同ジウスルモノナリ。

第二項 價格調整政策

鐵錢暴落ノ原因ヲ、(一)流通範域ノ狹小(二)濫鑄トニアリト主張セル馬景夷ノ、鐵錢價格調整政策ガ、自ラ(一)流通範域ノ擴張、(二)濫鑄ノ禁止ニアルコトハ、當然ノ歸結ナリ。

(一)第一策ノ批判

馬景夷ハ鐵錢ノ流通範域ノ擴張ニ關シテ、ソノ意見ヲ開陳シテ曰ク、

『宜弛其禁界、許鄰近陝西、河東等路、特不入京城外、凡解鹽地州縣、並許通行折二錢』

ト。馬景夷ガ鐵錢ノ流通範域ノ擴張ニ當リテ、先ヅ鐵錢ノ現流通範域タル蜀ニ接近セル諸路ニ及ボシ、凡テノ解鹽地州縣ヲ含ムベキヲ主張スルハ當然ナリ。蓋シ從來トテモ鐵錢ハ禁制ナケレバ、自然ニ是等ノ近接地方ニ流出セントセシコトアリテ、若シ是等ノ地方ヘノ流出ヲ解放スレバ、鐵錢ハ多大ノ困難ナクシテ、自然ニ流出シ、容易ニ流通範域ヲ擴張シ得ルナリ。而シテ遠隔ノ地方ニモ鐵錢ヲ普及セシムルハ、鐵錢ノ流通範域ヲ擴張シ、鐵錢價格ノ暴落ヲ防止スル上ニ於テ、ヨリ大ナル効果アルベシト雖、馬景夷ノ言ヘルガ如ク、『鐵錢重滯難以齎遠』ニシテ、之ニハ多大ノ勞費ト時日トヲ要スルヲ以テ、馬景夷ハ近接地方ヲ取リテ遠隔地方ヲ捨テタルモノト謂フベキ歟。

吾人ハ進シテ馬景夷ガ、京城ヲ鐵錢ノ流通範域ヨリ除外シタル所以ニ就テ、考察スルトコロナカルベカラズ。舊フニ、鐵錢ハ銅錢ニ比シ、進歩セル經濟區域ノ通貨トシテハ、不便多キガ故ニ、文物ノ闡明セル帝都輦轂ノ下ニ鐵錢ヲ流入スルハ、交易ヲ將又帝都ノ面上忍バザルトコロアリタルガタメナルベシ。然レドモ、既ニ帝都ノ四圍ニ鐵錢ヲ流通セシメテ、獨リ帝都ノミ鐵錢ノ大海中ニ孤島のニ特立セシムルハ、ソノ不便利頗ル大ナルモノアリ。何トナレバ、帝都ノ内外ニ依リテ通貨ニ差異アルトキハ、帝都ト他地方トノ交易上不便ナルト共ニ、四面鐵歌鏗々タルニ於テハ、帝都ハ惡貨タル鐵錢ノ怒濤ヲ阻止スルコト困難ナレバナリ。故ニ馬景夷ノ主張ニ從ヒ、鐵錢ノ流通範域ヲ陝西河東等ノ諸地方並ニ一般ノ解鹽地ニ擴張スル以上、帝都ノミヲ分離セシムル政策ハ、帝都ニ於ケル監督費ヲ増加シ、而モ之ニ對應スル功績ヲ舉グルコト困難ナレバ、帝都ニモ鐵錢ノ流通ヲ許容スルヲ得策ナリト信ズ。マタ地方ニ鐵錢ノ流通ヲ認メ、ソノ使用不便ヲ被ラシムル以上、帝都ノミ差別的待遇ヲナスノ必要大ナラザルナリ。

要スルニ、馬景夷ノ提議ハ、巴蜀ニ於ケル鐵錢ノ橫溢ヲ救済シ得ベシト雖、鐵錢使用ノ不便損失ヲ他地方ニ擴大セシムルモノナリ。換言スレバ、蜀ノ痛感ヲ癒サンガタメニ、他地方ニ痛感ノ一部ヲ分擔セシメントスル政策ナリ。詳言スレバ、蜀ニ於ケル鐵錢橫溢ノ苦痛ヲ輕減スルタメニ、他地方ニ鐵錢使用ノ不利ナル犧牲ヲ要求スルモノナリ。之ニ依リテ救済セラレタル蜀即チ鐵錢ノ

横溢ヲ免レタル蜀ハ、輕キ苦痛即チ鐵錢使用ノ不便ハ依然之ヲ被リ、マタ蜀ヲ救済シタル地方即チ鐵錢横溢ノ餘波ヲ受ケタル地方ハ、輕キ苦痛即チ鐵錢使用ノ不便ヲ新ニ被ルモノナリ。依此觀之、コノ政策ハ鐵錢横溢ノ弊害ヲ地理的若クハ外的ニ救済セントスルモノナリ。コノ政策ヲ實行スルトキハ、四川ニ於ケル鐵錢ノ横溢ハ救済シ得ベク、馬景夷ハ、コノ政策ヲ施行シタル後ノ蜀ニ於ケル効果ニ關シ、數言ヲ費シテ曰ク、『如此則流注無窮之遠、自無輕重之患』ト。

(二) 第二策ノ批判

鐵錢價格暴落ノ原因ヲ鐵錢ノ濫鑄ニアリト主張スル馬景夷ガ、鐵錢價格ノ暴落ヲ防止スル政策トシテ、鐵錢ノ濫鑄ノ禁止ヲ主張スルハ當然ニシテ、吾人モ亦馬氏ノ政策ニ贊同スルニ躊躇セザルナリ。

吾人ハ馬氏ノ二政策ヲ考案スルニ、第一策ハ鐵錢ノ分散ニ依リテ鐵錢ノ過剰ヲ外的ニ減少セシムル政策ニシテ、第二策ハ鐵錢ノ濫鑄禁止ニ依リテ鐵錢ノ過剰ヲ內的ニ増加中止セシムル政策ナルコトヲ知ル。一方ニ鐵錢ノ増加ヲ中止シ、他方ニ減少ヲ促進セシムルハ、内外相俟ツテ鐵錢價格ノ暴落防止策トシテ遺漏ナキガ如クナルモ、吾人ハ之ヲ以テ間然スルトコロナキモノト認ムル能ハズ。何トナレバ、消極的ニ鐵錢ノ増加ヲ禁ジ、ソノ暴落ヲ止メ、積極的ニ鐵錢ノ分散ニ依リ外的ニ減少ヲ圖ルト共ニ、鐵錢ノ回收ニ依リテ內的ニ減少ヲ促スニ於テ、始メテ當時ノ通貨政策

トシテ完璧ナリト信ズレバナリ。

吾人ハ馬氏ノ通貨政策ヲ論評シ終リテ、ソノ完璧ニアラザルコトヲ指摘シタレドモ、當時ノ通貨政策トシテハ、比較的適當ノ政策ナルヲ以テ、政府ハ須ラク之ヲ採用實施スルト共ニ、弊竇ノ矯正ニ對シテ積極的政策ヲ考案實施スベカリシニ、時ノ政府ハ之ニ對シテ何等ノ政策ヲ實行シタルヲ發見スル能ハズ。時ノ政府ガ馬景夷ノ政策ヲ不適當ト認メタルカ、然ラバ無知ノ譏ヲ免レズ。適當ト認メ之ヲ實施セントスルモ、之ヲ實施スルノ能力ナカリシカ。然ラバ無知ニハアラザルモ無能ノ譏ヲ免レズ。適當ト認メ之ヲ實施スル能力ヲ有スルモ之ヲ實施セントスル意思ナカリシカ。然ラバ無知無能ニハアラザルモ、不誠意ノ譏ヲ免レズ。適當ト認メズ、之ヲ實施スルノ能力ナク、之ヲ實施スルノ意思ナカリシカ。然ラバ無知、無能、不誠意ノ譏ヲ免レズ。惟フニ時ノ政府ハ、ソノ何レカ一ニ對スル非難ヲ負ハザルベカラザルナリ。

第四節 紙幣

第一款 印造

當時紙幣ハ交子ト稱セシガ、大觀元年（西紀一一〇七）錢引ト改稱セリ。而シテ當時紙幣ハ四川ニ於テ最モ多ク流通シ、大觀元年四川交子務ヲ四川錢引務ト改稱シ、陝西ニ於テハ崇寧元年（西紀一一〇二）交子ヲ復興シ、同三年（西紀一一〇四）京西北路ニ專切管幹通行交子所ヲ置キタリ。大觀元年兵

ヲ用ヒテ溫廊西寧ヲ取リテヨリ邊費増大シ、財政收入之ニ伴ハザルニ由リ、紙幣ヲ濫發シテ邊費ヲ補充セリ。

第二款 流通

陝西ニ於テハ、川陝路ニ倣ヒテ紙幣偽造法ヲ制定シ、情ヲ通ジテ轉用セルモノ、隣人ノ犯罪ヲ告訴セザルモノ、交子ヲ私造セルモノ等ハ、夫々處罰セリ。

第三款 回收

紙幣ノ發行ハ財政ノ窮乏ニ伴フテ増加スルニ反シ、紙幣ノ回收ハ財政ノ窮乏、紙幣ノ増發ニ伴フテ減少スルニ至リ、

1、界年ヲ延長スルコト

2、舊引ヲ新引ノ如ク襲用スルコト

3、割引スルコト

等ニ依リテ繙縫ニ努メタルガ、紙幣ノ信用ハ漸次ニ失墜シテ價格下落シ、兌換ヲ請求スレモノ増加セリ、陝西及ビ河東ニ於テハ舊錢引モ、ソノ流通圓滑ヲ缺キ、人民ハ多ク舊錢引ヲ携帶シテ成都ニ入リテ兌換ヲ請求シ、四川ニ於テハ今ヤ交子ハ壅遏ノ弊ニ苦シムニ至リタリ。是ヲ以テ、大觀二年（西紀一一〇八）永興軍（湖北省武昌府、興州ノ地）ニ務ヲ置キ、大臣二名ヲ簡派シテ、陝西

河東ノ錢引ヲ兌換回收セシメテ、四川ニ於ケル紙幣壅遏ノ弊ヲ緩和セシメタリ。

第四款 價格

第一項 價格變動狀態

四川ニ於ケル紙幣ノ暴落ハ、陝西河東ヨリモ甚シク、大觀二年八月頃四川威州(成都府雅州ノ地)ニ於テハ、千文ノ交子僅ニ百文ニ流通スルノミニシテ、實ニ九〇%ノ大暴落ヲナセリ。

第二項 價格變動原因

當時是ノ如キ紙幣ノ暴落ノ原因ヲ觀ルニ、

(一) 紙幣ヲ濫發セルコト

(二) 回收不能ナリシコト

(三) 回收ノ際割引セルコト

ノ三アリト信ゼラル。今第三因ニ就テ少シク説述スルトコロアルベシ。

政和二年(西紀一一二二)判官ニ於テ紙幣ヲ回收スル際ニハ、三〇%ノ割引ヲナシ、七〇%ノ金額ヲ支拂フコト、定メタリ。即チ『輸官之引以十分爲率、三分用民間所有而七分赴官場買納』トアリ。是ノ如キ回收方法ハ、紙幣ノ暴落ヲ利用シテ回收ヲ行ハントスルモノナレドモ、是ノ如キ回收ハ毫モ紙幣ノ價格ヲ回復スルノ效果ナク、却テソノ暴落ヲ助成シタリ。即チ『由是人以七分疑』

トイヒ、或ハ『民惑』ト曰ヘルハ、之ヲ指示スルモノナリ。

第三項 價格變動影響

政府ニ於テ兌換準備ノ薄弱ナルニモ拘ラズ、紙幣ヲ濫發シ、而モ誠意ヲ以テ之ガ整理ヲ圖ラズ、或ハ舊引ヲ廢棄シ、ソノ非法ヲ難ズルモノハ遠謫ノ刑ニ處シ、或ハ割引ヲナス等技巧ヲ弄スルヤ、人民ノ紙幣ニ對スル信用ハ益々減退シ、人心不安ヲ生ジ、經濟界ハ攪亂セラル、ニ至レリ。當時官吏ノ俸給モ、皆紙幣ヲ以テ支給セシヲ以テ、官吏ノ收入ハ激減シ、有爲ノ人材ハ官界ヲ去ルニ至リ、張持ヲシテ人材登用ノタメニ、官吏ノ俸給ハ現錢ヲ以テ支給スベキコトヲ請願セシムルニ至リタリ。

第四項 價格調整政策

政府ハ到底姑息不徹底ナル政策ヲ以テシテハ、紙幣ノ暴落ヲ救済スルコト能ハザルヲ悟リ、

(一) 兌換準備金ノ設定

(二) 兌換ノ開始

(三) 割引ノ撤廢

(四) 舊引ノ流通許可

(五) 發行額ノ制限

等ノ政策ヲ採用スルニ至レリ。

第一、兌換準備金ノ設定 政府ハ兌換準備金ナクシテ紙幣ヲ濫發スルトキハ、兌換回收セントシテスル能ハズ、僅ニ割引兌換ニ依リ辛ウジテ少額ノ回收ヲナシ得ルノミ。而モ是ノ如クンバ紙幣ノ暴落ヲ誘起スルヲ悟リ、兌換ノ便宜ナル地點ニ現錢ヲ積貯シ、以テ兌換準備金ヲ設定スルコト、セリ。即チ大觀四年(西紀一一〇)、假四川提舉諸司ハ、封樁錢五十萬緡ヲ以テ、成都務ノ兌換準備金トナシ、此ノ兌換準備金ヲ流用スルモノハ、常平法ニ依リテ處罰スルコト、セリ。マタ、『於ニ給錢之所易錢儲爲本』ト謂ヒ、『移用者如擅支封樁錢法』ト謂ヘルガ、該制度ノ制定ハ紙幣法上ノ一大進歩ナリ。

第二、兌換ノ開始 若シ出入ヲ正シクシ、兌換ヲ開始スレバ、紙幣ノ價格ヲ引上ゲ得ルコトハ、張持モ是認スルトコロニシテ、『若出入無舞、可直八百、流通用之』ト謂ヘリ。政府モ兌換開始ノ必要ヲ認メ、大觀三年(西紀一一〇九)川引ハ四十一界ヨリ四十二界ニ至リテ兌換スルコト、シ、マタ四十三界ハ界滿了シテ四十四界ニ於テ兌換ヲ實行スルコト、セリ。而シテ四十四界ニ於テ兌換ヲ終ラズシテ市場ニ殘存スルモノハ、舊來ノ價格ヲ以テ之ヲ買收セリ(給換之餘如舊幣之)。

第三、割引ノ撤廢 割引兌換(減數收市)ハ兌換回收ノ目的ニ副ハズ、却テ幣價ノ低落ヲ助長スルヲ以テ、之ヲ撤廢スルコト、セリ。即チ

今本錢已足、請勿減數以祛民惑

請自今無計此三七分之數

ト謂ヘリ。

第四、舊引ノ流通許可 大觀二年ノ如キ舊引ノ廢棄ヲ宣言シタルモ、後チ新舊錢引ヲ並行セシムルコト、シ、且ツ兌換未濟ノモノモ舊價ヲ以テ回收スルコト、セリ。

第五、發行額ノ制限 大觀三年（西紀一一〇九）四十二界ニ於テ兌換回收シタル時ハ、爾後天聖年間ノ如ク發行額ヲ制限スル（額書放）コト、セルガ如キ是レナリ。然シ兌換準備金ト發行額トノ割合ヲ規定セザルガ如キハ、未ダ完全ナリト謂フ能ハズ。

第九章 欽宗時代貨幣史論

徽宗ノ末年四川省ニ於テハ、新兌換制度ノ確立シテヨリ、四川省ニ於ケル紙幣ノ流通圓滑トナリ、硬貨ノ不備ヲ補ヒ得タルノミナラズ、幣價ノ暴落ヲ底止シ、之ヲ平準ニ復セシメタリ。然レドモ是レ單ニ成都府ノミノコトニシテ、一タビ成都以外ノ諸州ニ於テハ、依然紙幣ノ流通圓滑ヲ缺キ、額面下ニ暴落シ、一緡ノ紙幣ハ僅ニ數十文ニ値スルノミ。是レ大觀年間ニ於テ兌換準備金ヲ充分ニ蓄積セズシテ、紙幣ヲ濫發シタルガタメナリトス。然リ而シテ、之ヲ矯正スルガタメニ、張商英ハ、宣和年間ニ於テ政和二年（西紀一一二二）ノ紙幣法（錢引法）ヲ實施スルコト、シ、一界ノ交子發行ニ對シ、必ズ準備金即チ本錢三十六萬緡ヲ準備スルコト、セリ。（完）（一九二〇、八、三〇）

研究及調査

支那學問研究法上ノ一特色

〔雪橋詩話〕ヲ讀ミテ

田中 萃 一 郎

一

曾テ羅振玉氏ノ『五十日夢痕錄』ヲ讀ンダコトガアル。浙江上虞ヲ本貫トセル羅氏ガ民國四年ニ江蘇淮安ナル先塋ノ展墓ニ該ネテ曲阜殷滬ニ遊ンダ時ノ紀行デアル。上海滯在中ソノ三月二十二日ノ條ニ

培老○沈曾植氏約午飲。坐客爲楊子勤太守鍾義震在廷主政鈞李君審言詳趙伯藏太守于密。楊君往守

江寧。曾相見於端忠敏公坐上。別且數年矣。品學端粹。爲吏廉靜。國變後居滬上。境至艱苦。

閉門却聘。近著石橋詩話十二卷。載三百年間遺文逸事。至詳博。實外史也云々

ト記シテアツタ。『天咫偶聞』ノ著者震鈞、『國粹學報』誌上ノ健筆家李詳、金石學ニ造詣深キ趙于密三氏ノ一ハ兎ニ角、楊鍾義氏ハ江寧知府在任中ニ、清末ニ於テ學ヲ好ミ士ヲ愛シ、昨年歲壯ニシテ病ニ仆レタ劉師培トモ、幕賓トシタコトノアル端方ノ值遇ヲ受ケタトアルノデ、ソレデ端方ガ兩江

總督タリシ年代ヲ調ベテ見ルト、光緒三十二年七月カラ宣統元年五月マデノコトデアル。更ニ手許ニアル宣統二年ノ『摺紳錄』ヲ開イテ見ルト、江寧ノ條ニ知府、楊鍾義、滿軍正黃旗人、己丑、三十四年十一月調トアツテ羅氏ノ記憶ノ通りデアル。併シ羅氏ガ清朝ノ外史トマデ推稱シタ『石橋詩話』ハ『雪橋詩話』ノ誤記否誤植デアツタ。

楊鍾義ハ辛亥革命ノ當時マデ江寧知府ノ職ニアツタノデ、孫德謙氏ノ『雪橋詩話序』ニハ海内多故。金陵丸解。君嚴駕而行。棄官從好。於是文通之志。唯樂一邱。安世之書。竟亡三篋。而平生撰著。亦復雲委霧散。等諸玄珠之喪。非喫詬所得而求矣。自頃寢跡海濱。寂寞人外。孟堅懷其遺美。靈均鬱其離憂。大春善談。則自標清節。陽秋別錄。則多識前言。成詩話十二卷。題之曰雪橋者。所以抱彼黍之慟。致維桑之恭焉。昔者元裕雜志。築野史之亭。表聖工評。居王官之谷。君其若人儔乎ト記シテアル。即チ上海ニ避難シテカラ門ヲ鎖シ客ヲ謝シテ清朝ノ遺事ヲ錄シ故主ヲ悼ミ郷土ヲ忍ブノ情ヲ遣リ清節ヲ示サンガ爲ソノ書ニ『雪橋詩話』ト題シタノデアル。カクテ著者ハ卷末ニ左ノ數行ヲ記シテ居ル。

拙著詩話。專論本朝一代之詩。本朝之詩多矣。以平昔所見爲斷。平昔所見之詩。亦不止此也。第就敷錫堂。劫餘僅存之殘帙。略加銓次。大抵論詩者。十之二三。因人及詩。因詩及事。居十之七八。其人足紀而無詩。其詩足紀而無事。概未之及焉。爲書十二卷。不足括一代之詩之全。而朝章國故。前言往行。學問之淵博。文章之流別。亦略可考見。有未盡者。當俟續編。若夫網羅舊聞。整齊排類。爲本朝一代詩史。與太鴻秀野蒙叟錫鬯。諸老之書相賡續。則以俟諸博雅君

子。癸丑冬十月。寫竟并記

癸丑トハ卽チ民國二年デ『吳興叢書』『嘉業堂叢書』等ヲ續々出版シテ居ル吳興ノ劉承幹氏ガ親カラ校正ヲ引受ケテ直チニコノ書ノ上本ニ着手シ翌甲寅九月ニソノ工ヲ竣ツタノデアアル。然ルニ楊鍾義氏ハ廳テ續集八卷ヲモ脱稿シテ擱筆ニ際シテ雪橋詩話。刻於癸丑。續有所獲。錄爲此編。偶得一截句。書之卷末。

樓名詩話閣詩微。前輩風流謝未能。破屋一間書萬疊。殘煤秃管短檠短。

丙辰夏五寫記ト云フテル。丙辰トハ卽チ民國五年デアアル。劉氏ハ直チニ復タコノ出版ニ着手シ翌丁巳四月ヲ以テソノ工ヲ竣リ『求恕齋叢書』ノ一トシテ之ヲ公ニシテ居ル。

二

上ニ引イタ『摺紳錄』ニハ楊鍾義、滿軍正黃旗人トアルガ、張文襄ノ『八旗文經序』ニハ漢軍知府楊鍾義トアリ。繆荃孫ノ『續碑傳集』卷首ノ作者紀略ニハ字子姓。漢學□□旗人。光緒己丑進士。翰林院編修。現官江寧府知府トアツテ、楊鍾義氏ハ明カニ漢軍八旗ノ出身デアアル。『八旗文經』第六十叙錄ノ終ニハ、左ノ如ク楊氏ノ來歴ヲ叙シテアル。

懿矣我祖。遼左耕桑。釋褐天聰。雲起龍驤。君子之澤。實維啓之。侍郎五傳。承而履之。滿洲通譜。倬彼我系。入貳秋官。漢軍改隸。來室誓墓。歸自平津。對牀風雨。翰札紛綸。再世外吏。悠悠我里。松菊都荒。遺文盡矣。我來詞館。請益王孫。謂吾可與。釐析羣言。後先祭酒。神杞

其馳。意園緝文。梧門劇詩。略穢集英。義在嚴謹。往復揚摧。有辨無隱。觥觥一序。悲吃涕洟。彙聚流別。命我綴辭。文罄夫人。我之自出。李絳論事。私意甄錄。中州坵見。曷例遺山。君意不然。敬待後賢。後賢可待。文獻不足。京城表裏。兩人躑躅。坵叙錄第六十。正黃旗頭班管領漢軍楊鍾義述。

又劉承幹氏ノ『雪橋詩話序』ニハ、先生舊家遼河以東。自天聰二年隸籍尼堪居京師者九葉トアツテ、楊氏ノ祖先ハ遼陽ニ在ツテ農業ニ從事シテ居ツタトコロ、愛新覺羅氏ノ龍興ニ際シ太宗ノ天聰二年カラ之ニ仕ヘ、聽テ漢軍八旗ニ編入セラレタノデアル。侍郎トハ『雪橋詩話』卷七ニ先高祖侍郎公。有椿蔭堂詩存稿。張南山聽松廬詩話稱。其自題容我山房云。退思自願身無過。守分方知樂有餘。釀酒先栽三徑菊。看山更擁一牀書。謂可想見其爲人。容我山房。在良鄉丙舍。張白菴開東。蘇園公去疾。皆先友相倡和者也。游上方山句云。野竹漸交風葉影。嶺花初破露苞香。義嘗取竹漸花初四字。名其藏書之閣。園中公順天己卯鄉試。與公同榜ト見ユル楊鍾義氏ノ高祖ノコトデ、順天己卯鄉試ニ及第シタト云フノハ、康熙三十七年ノコトナル可ク、當時ハ北京ヲ西南ニ距ル三十一軒ノ良鄉縣ニ別莊ヲ持ツテ居ツタノデアル。ソノ本邸ハ北京内城ノ地安門内ニ在ツテ、子孫ガ之ヲ維持シ得ナカッタコトハ、『雪橋詩話續集』卷五ノ下ノ記事ニ述ベテアル通デアル。

寶應劉鹿沙家珍。地安門觀荷詩。行盡荷池又稻田。碧花紅穗散秋煙。一羣鵝鴨三篙水。酷似江南雨後天。予家自先侍郎公。卜居地安門内油漆作。同治閒羣從不能保先業。售之木廠。適武英殿災求大木。木商徹其梁柱應用。時先君官鄂中。不能沮也。每爲義言。道光中葉。累世同居重

聞。具廢一門兄弟讀書習射之樂。歲時上冢結駟連結。予以光緒乙酉秋賦旋里。過其地。已成墟矣。官翰編十年。賃宅以居。百年第宅門巷都非。地去玉棟橋甚近。荷花最盛。紅雲明鏡。風景不殊。讀鹿沙詩。輒爲神往。伯義少時往來予家。先伯祖常攜以游十刹海。予贈伯義詩云。椿蔭堂開侍帝晨。裕陵雨露四時春。百年門巷留詩卷。中表交親得偉人。伯義和詩。有看荷門巷嬉游地。古柏祠堂下拜時之句。伯義送予乞外詞云。燕子巢痕。世家王謝。模胡門巷非故。喬木陰陰。祇剩我午橋莊住。失喜君來。相將幾載。又悲君去。(記兒時。)念垂髫年紀。嬉戲君家。猶省識。門前樹。亦致慨於舊家之中落也。今則久客無歸。朝市陵谷。又不獨一人一家之事矣。

盛昱ノ倡和ノ詩全篇ハ『鬱華閣遺集』ニ收メラレ、左ノ如ク注サヘ添エテアツテ、以テ楊家ガ三十年間地方ニ居ツタコトガ分明トナル、盛昱ハ道光三十年ノ出生デアルカラ、兒タリシ時楊家ニ遊ンダト云フノハ咸豐年間ノコトデアルノデアル。

他郷表弟杜陵詩。楠後逢人說項斯。桑梓文章誰可託。亂離親故不相知。君隨官楚中卅年不通問看荷門巷嬉游地。君家油漆作舅祖題公常携余游十刹海古柏祠堂下拜時。内外名家吾與爾。衰年倡和尙能奇。

コノ詩ハ次韵楊子勤表弟ト題シテアル。『辭源』ノ解釋ニ從ヘバ父ノ姉妹母之兄弟姉妹之子。稱爲表兄弟トナスアレド、表兄弟ト云ハンヨリハ寧ロ英語ノ cousin 位ノ處デアラウ。楊鍾義氏ノ『意園事略』ニ宗室祭酒盛昱字伯熙。肅武親王裔孫。隸鑲白旗第三族。曾祖肅恭親王永錫。祖敬徵戶部尙書書協辦大學士諡文愷。本生祖敬敦不入八分輔國公。父恒恩字雨亭都察院左副都御史。母博爾濟吉特夫人ト書キ出シテアルガ、上ニ引イタ『八旗文經』ノ叙録ニ文愷夫人、我之自出トアツ

テ、即チ盛昱ノ養祖母ガ楊氏カラ嫁イタノデアル。盛昱ノ詩ノ自注ニハ舅祖燾公。常攜余游十利海トアリ、『辭源』ハ舅祖ヲ説明シテ父之舅也。古稱大舅祖舅。今俗稱爲舅祖。見『冷廬雜識』ト云ヒ、『爾雅』ニ母之舅弟爲舅トアレバ、燾公ハ盛昱ノ養祖母ノ弟ニ當ル。而シテ楊鍾義氏ハ之ヲ先伯祖ト云フテ居ル。扱テ『辭源』ニハ伯祖ト云フ熟字ヲ説明シテ居ラスガ伯翁ヲ解シテ伯祖也。見『宋龔大雅義井題記』。今俗伯公之稱本此ト云ヒ、じやゐるぞノ『漢英字典』ニハ(伯翁)伯翁(Paternal uncle)ト出テ居ル。コノ解釋デハ先伯ハ即チ先伯父デ輩行ノ上カラ云ヘバ楊鍾義氏ノ方ガ盛昱ヨリモ一代前ニ當ルコトニナル。併シばうるどういんノ『福州方言篇』一七三頁ニハ(Paternal grandfather's elder brother 伯祖 Pah Kung)トアツテ伯祖俗ニ伯公ハ父方ノ祖父ノ兄デアル。即チ楊鍾義氏ハ盛昱ノ舅祖燾公ノ弟ノ孫ニナリ、盛昱ハ楊鍾義氏ノ再從兄、氏ハ盛昱ノ再從弟トナルノデアル。扱テ楊鍾義氏ハ父ノ湖北官游中ニ出生シタト見エテ、『雪橋詩話』卷四ニ武昌東郭外ノ洪山寺ヲ詠ゼル韓竹里ト修儼若トノ律詩ヲ掲ゲテ、兩詩皆寫景逼直ト評シテ、見時隨先大夫。步履尋春。屢過山門。茶喜趨庭縱目。追憶暗然ト感慨シテ居ル。上ニ引イタ續集卷五ノ一節ニモ見ユルガ如ク、其後光緒十一乙酉ノ年ヲ以テ京師ニ歸リ、同十五己丑ノ年ニ禮部ノ試験ニ及第シテ進士ト爲リ、翰林院編修ノ任ニアルコト十年ソノ間、光緒甲午分校京兆試。乙未復分校會闈シタコトハ、續集卷六ニ一言シテアル通デアル。又甲午乙未間。寓兵部窪中街ニ寓シタコトハ同卷八ニ見エテ居ル。楊鍾義氏ガ盛昱ノ『八旗文經』編纂ヲ助ケタノハコノ翰林院編修在任中ノコトデ、盛昱ハ光緒十五年八月以來致仕家居之ニ從事シテ居ツタ、即チ叙錄ニ記シテ二十以後。溺於帖括。三十以後。浮沈仕

宦。未四十遂以病廢。此年病或少閒。輒理而董之。……表弟楊子鍾義。好學人也。欣然相助爲理。戊戌之冬。殺青斯竟ト云フテル。而シテ卷末ノ作者考三卷ハ楊鍾義氏ノ筆ニ成ツタノデ、張文襄ノ序文ニ漢軍知府楊鍾義。亦淹雅能文。實贊助之。并爲作者考三卷。叙錄一卷ト記シテアル。コノ戊戌ハ光緒二十四年デ續集卷八ニハ予以光緒戊戌。保送御史。未蒙記名。次年即乞外トアリ、又意園林亭。極勝牡丹。尤各色俱備。己亥春抄。余以換官出都。伯熙治具祖餞。賣詠竟日トアル。コノ日盛昱ノ作ニ成レル夢橫塘ニハ既記ノ外ニ三百年來。吾鄉文獻。玆殘誰與收拾。隱轡千門。氣鬱鬱圖書熏習。不道而今。改柯易葉。都非疇昔。想蟲沙猿鶴。萬劫蒼茫。賸對爾。無聲泣ト云フノガアル。『八旗文經』編纂ノ苦心ヲ共ニシタコトヲ思フテ別ヲ惜ンダノデアアル。

楊鍾義氏ハ續集卷八ニ余乞外之浙トアル如ク、浙江杭州府知府トシテ始メテ地方ニ赴任シタルデアアル、赴任ノ翌光緒二十六年庚子ノ夏ニハ『留坵叢刻』ノ一トシテ蒙古人博明ノ『西齋偶得』ヲ杭州ニ於テ重刻シテ居ル。譚獻ノ『重刻西齋偶得叙』ニ曰ク今昔漢軍楊子姓太守。以翰林後輩。表章先詰。覆刻遺書。更望訪求其他述造。可以傳之其人。尤後之善讀書者。所取資也已ト。『雪橋詩話』卷五ニ從ヘバ雷貫一副憲ノ所著勵志雜錄。余已刊入留坵叢刻トアル。然ルニコノ年ニ楊鍾義氏ハ父ヲ失フタノデ喪ニ服シテ請暇武昌ニ赴イタコトト思フ。即チ續集卷一ニ、先君官翹湖北路。逾四十年。庚子留葬於武昌魯家巷之楓墩背。前臨南湖。藍太淑人。以壬子^{○民國元年}冬棄養。癸丑^{○民國二年}四月合葬焉。久滯春申。未能歲時展拜ト歎ジテ居ル。是ヨリ先盛昱ハ光緒二十五年ニ五十歳ヲ以テ病ニ仆レタノデ、コノ喪中ニ『八旗文經』上本ノコトヲ董督シタルデアラウ、コノ書ハ同

二十八年ニ武昌ノ書局ニ於テ出版セラレテ居ル。盛昱ノ詩集『鬱華閣遺集』モコノ年九月ニ楊鍾義氏ガ武昌ニ於テ之ヲ刻シテ居ル。但シ三年ノ喪アリテ湖北ニ於テ再ビ知府ニ任ゼラレタト見エテ、續集卷三ニ張歷友ノ郢城春望ノ詩ヲ錄シテ、憶光緒癸巳^{九年}先君權知鍾祥。請於院長。出都省觀。作十日留。丙午春。余由襄州。移守安陸。再至焉。讀歷友此詩。振觸昔游。恍如夢寢ト云フテ、翰林院編修在官當時院長ノ許可ヲ得テ父ノ在任地ニ歸省シタコトニ併セテ、光緒三十二年ニ襄陽府カラ安陸府ニ轉補セラレタコトヲ記シテ居ル。ソノ後三十四年ニ江寧府知府トナツタハ上述ノ通りデ、翌宣統元年ニ盛昱ノ雜文奏議ヲ蒐メ自作ノ『意園事略』ヲ添エ、『意園文略』ト題シテ之ヲ出版シテ居ル。

三

『雪橋詩話』正續併セテ二十卷ソノ内容ハ極メテ豐富デアル。羅振玉氏ガ載三百年間遺文逸事。至詳博。實外史也ト評シタノハ敢テ溢美ノ言デハ無イ。楊鍾義氏ガ親ラ大抵論詩者。十之二三。因人及詩。因詩及事。居十之七八ト云ヒ、朝章國故。前言往行。學問之淵博。文章之流別。亦略可考見ト云ヘルハ、普通世間ニ見受クル自序ノ大風呂敷デハ無イ。正集卷十一ニ順治十二年八月廢后ノ際ニ於ケル上諭ヲ載セ、見蔣良騏東華錄。王先謙本末載トアルガ如キ、割注ノウチニサヘ棄テ難イ記事ガアル。學術文藝ニ關スル記事ハ固ヨリ數ニ於テ首位ヲ占メテ居ルガ、正集卷十一ノ左ノ一節ノ如キハ、清朝ノ學術ヲ論ゼント欲スルモノノ見遁ス可カラザル斷案デアル。

宋子廷說尙書。劉申受頗以爲是。與王伯申論之。則不甚相合。于廷虎坊橋雜詩曰。漆經非散佚。北斗宿當中。王肅詞難合。劉歆說已通。古文真朽蠹。大義付冥濛。寥落塵寰裏。何人識宋衷。此本朝學派一大關鍵也。伯申之言曰。吾之學。於百家未暇治。獨治經。吾治經。於大道不敢承。獨好小學。夫三代之語言。與今之語言。如燕越之相語也。吾治小學。吾爲之舌人焉。其大歸曰。用小學說經。用小學校經而已。蓋前此經學。皆主東漢。多從事於聲音文字。訓詁以讀經。自莊方耕宗伯。喜談微言大義。于廷申受。皆莊氏甥。推衍遺緒。學者多言西漢。襲魏律而昌大之。許鄭之風微。而新周改制之說起矣。

王伯申トハ即チ工部尙書王引之デ、祖父吏部尙書安國カラ父永定河道念孫ヲ經テ三代引續イテ家習ヲ繼承シタ清代漢學史上ノ大家デアル。龠樾、孫詒讓ノ如キ清末ノ大家サヘコノ學派ニ屬シテ居ルガ、莊存與ガ乾隆嘉慶ノ交ニ公羊學ヲ唱ヘテカラ、宋翔鳳節王廷劉逢錄即申受以下襲自珍、魏源等ガコノ流ヲ酌ムデ、從來ノ學風ニ反抗シタノデアル。ソレデ宋子廷ハ虎坊橋雜詩デ孔子ノ教ハ西漢ニ正シク傳ハツテ居ル、王肅ノ僞作ハ勿論デアルガ劉韻以來ノ古文ニ對シテ煽瑣ナ學究的研究ヲ加ヘテモ何ニモナラヌ、小學ニ沒頭シテ訓詁デ大義ヲ明ニシヤウトテ無駄ダ、誰カ宋學者ノ苦心ヲ知ルモノゾトノ氣餒ヲ吐イタノデアル。而シテ所謂公羊學者ハ孔子ヲ素王トシ公羊傳ニ由テ大義ヲ窺ハントスルモノデ、漢學ノ論斷^{テーゼ}宋學ノ反斷^{アンチテーゼ}ニ對スル合斷^{ジンテーゼ}デアルトモ云ヒ得ラル、ノデア^ル。康有爲氏ノ『新學僞經考』ヤ『孔子改制考』ハ果シテ廖平ニ負フ所アリヤ否ヤハ之ヲ審ニセヌガ、ソノ論旨ハ即チ新周改制說デア^ル。楊鐘羲氏ハ更ニ續集卷七ニ於テ左ノ如ク記シテ居ル。

于廷嘗謂。困學紀聞引譚苑。雍熙中。校九經。史館有宋臧榮緒。梁岑之敬所校左傳。諸儒引以爲證。孔維謂不可按據。杜鎬引正義。以經籍訛舛。由劉石之亂。學士多南遷。中國經術寢微。今並以六朝舊本爲證。持以難維。維不能對。按藏岑校本。定由僞託。如蕭琛漢書之類。孔維疑之爲是。鎬等橫詰不足憑也。其舟中讀書偶述云。羣書失要義。流俗乃好奇。點畫窮校讐。紛若抱亂絲。曲籍傳中華。三千年可追。何來日本書。唐本售蹶欺。語助意所增。寶之儕鼎彝。反謂師儒傳。中有脫誤疵。何殊舍康莊。委折就路歧。昔有梁蕭琛。班書古本遺。至今考同異。徒足生詭訾。當衆貴所見。單行乃便私。臧岑校左傳。史館留雍熙。斥彼不足據。卓絕思孔維。于廷嘗言。學爲考據如拾瀋。莫益於用。卽此意也。譚復堂謂。阮刻注疏乃古骨家當。亦非漫語。

楊鍾義氏ハ新周改制之說ニハ贊成シテ居ラヌ様デアルガ、阮刻十三經注疏ヲ古骨家當ト評セルノヲ漫語デ無イト云フノヲ見レバ、漢學ヲ憚バヌ者ト思ハル、楊氏ノコノ態度ニモ一理ハアルガ、先年羅振玉氏ガ京都ニ於テペリヨウ氏ガ敦煌ニ得タ『鄭注論語』ヲ石印ニ附シタ際、李葆恂ガ『舊學庵筆記』ヲ僞書ナリト斷ジタコトニ思ヒ合セテ、宋翔鳳ノ何來日本書。唐本售厥欺ノ句ヲ讀ム時ハ、覺エズ微笑ヲ禁ジ得ヌノデアアル。而シテ目下上海ノ商務印書館ガ出版中ノ『四部叢刊』ニ於テ例言中ニ、凡近人注本概不輕用ト斷リ、全然清朝考證學者ノ述作ヲ眼中ニ置カヌモノモ、譚獻ノ說ノ如キ思潮ニ基イタモノデアルトスルナレバ、角ヲ矯メテ牛ヲ殺スガ如キ感ヲ起サシメザルヲ得ヌノデアアル。

四

次ニハ財政經濟ニ關係セル記事ヲ抄出シテ見ヤウ。先ヅ正集卷十一カラ下ノ一項ヲ抄出スル。黃海華與胡東谷書謂。今日事勢。學士大夫。無人不皇皇作衣食計。非天下之細故也。此憂世語。非憂貧語。道光初年。煦齋協揆長農部。已有綜計天儲。十年後或不繼之語。蓋自乾隆四十六年。裁撤武官名糧。添給養廉。建議者。因庫藏充盈。不思久遠之計。自奏準之後。未必能禁止天下武官。不復役使兵丁。而驟添此項。養廉百餘萬。初田耗羨項下給發。繼因耗羨無存。遂致動用地丁正項。國家經費有常。一年百餘萬。三十餘年計之。卽三千餘萬。其時阿文成。卽有數十年後。經費不支之奏。嘉慶三省之役。舉舊帑七千餘萬而空之。餉不足。於是開事例。兵不足。於是廣召募。迨至事已而兵存。兵存而費存。以及河工鑄振。度支外所出。豈可億萬計。嘉慶十九年以後。兩次裁汰兵額。僅萬六千餘名。自乾隆五年耗羨歸公。各省耕羨。掌於戶部。耗羨之入。既列爲歲額。其出也卽定爲歲常。取快一時。罔顧後慮。當國家豐享裕大之時。民間財利充衍。淮南則因事獻納。司權則竭誠奉上。取之惟恐不盡。用之不留有餘。天沴人事。偶有不齊。國與民俱受其困。道光辛卯壬辰之間。江浙等省大水。發帑振卹。備極支絀。至十八年。海疆不靖。庫儲益虛。司農束手。款議決。以割地賠費。傳教通商爲結果。

乾隆五年ニ官吏ノ銀糧徵收ノ際ニ於ケル附加稅ヲモ國庫ノ收入ニ歸シタガ、同四十六年ニ各省武官ノ兵丁ニ對スル手當ヲ養廉銀トシテ給與スルコトニ改メタ時、武官ガ兵丁ヲ減ゼナンダ爲コノ

附加稅カラ養廉銀ノ増加額ヲ給與シ後ニハ地租カラ之レヲ支出スルコトナリ、財政益々窮乏、遂ニ鴉片戰爭ニ至テ國威ノ陵夷ヲ來シタコトヲ論ジタ大文字デアル。而シテ楊鍾義氏ガ今日事勢、學士大夫。無人不皇皇作衣食計。非天下之細故也トノ言ヲ評シテ此憂世語。非憂貧語ト云ヘルニ對シテハ、思フニ共鳴者ハ到ル處ニ多イコトデアラウ。氏ハ更ニ右ノ記事ニ接シテ道光帝時代ノ經濟事情ヲ論ジテ下ノ如ク云フテ居ル。

宣宗恭儉仁厚。略無土木聲色之娛。而事例頻開。弊政亟行。海內富庶。視乾隆時迥不侔矣。

龔

定菴傅訥謠云。父老一青錢。傅訥如月圓。兒童一青錢。傅訥大如錢。物力盈虛。可以想見。伯

蒼比部述聞一首。如白頭宮女坐說元宗。後之制國用者。不可不加意也。詩云。艱難益愁思。肅

殺悲清商。坐有四方客。各各言故鄉。事異而詞壹。人不飽糲糠。有叟起長歎。子也母感傷。老

夫少年日。民富風俗良。忽忽八十年。盛衰遂難計。昔者物力盛。海內歌豐穰。金錢積太府。米

粟盈太倉。力厚勢亦大。功業成非常。武德震千古。雄略開遐荒。西拓三萬里。永作我邊疆。堯

舜所不臣。周漢所不王。莫不重譯來。稽首朝明堂。賞賜累千萬。道路遙相望。雄關啓百粵。南

海波茫茫。至今風濤地。珍異猶梯航。老夫山野性。策利久相忘。爲慕都邑大。北來亦自強。九

門關白日。列肆何洋洋。車馬若飛龍。赫赫大道旁。帝闕鬱佳氣。萬戶達建章。離宮在西北。樓

閣相輝煌。湖山擅幽勝。創造何皇皇。虞書立典訓。巡狩察萬邦。聖代重大道。失師禮秧光。乘

輿謁闕里。林廟登馨香。車駕遂南幸。龍舟隱帆檣。會稽覓禹穴。萬國集冠裳。時平庶政理。財

裕萬象昌。至尊顏色霽。四海蒞祿康。予生亦已晚。時勢不可量。南都久大水。繁盛今蒼涼。北

土苦旱癘。千里無蓋藏。達官貴斗粟。商賈羞空囊。四民日趨末。本業荒農桑。老夫辛白首。餘生須壺漿。願足慮亦短。望子憂其長。寸心久懷舊。感激動中腸。自效會有日。憂思殊無方。秋風從天至。矯首看穹蒼。

長髮賊亂ノ當時ニ於テ釐金稅徵收ノ策ヲ建テタ錢江ノ事跡並ニ釐金稅ノ弊害ヲ說ケル續集卷八ノ下ノ一項モ亦茲ニ抄出スルノ値ガアル。

長興錢江字東平。負才而狂。遨遊公卿間。咸豐末。江北軍興。副都御史雷以誠。防堵河上。出京費。實取足於江會總滑臺。轉餉繼。江以算縉之術進。用其策軍需告充。遂益無忌憚。芥視幕下客。于是齟齬者衆。一日江倚醉語侵以誠。以誠大怒。卽席斬之。而以江妄陳圖讖奏上。聞者冤焉。吳仰騶爲作哀東平云。白鹿表。鸚鵡賦。能令公喜。能令公怒。古來狂士多殺身。全者天幸亦有故。錢生錢生策何疏。軍中但獻平準書。一朝頭顱席上落。才人短氣賈兒樂。噫吁戲猛虎不可狎。毒龍不易馴。藤蘿倚喬木。俯仰難自伸。君不見簾鉤冠劍在手。杜陵幾不免虎口。汝曹使酒亦何有。江知與潘四典魯通甫及臧紆青善。紆青負志節通術數。以弟畜江。時時誠之曰。君疏狂不檢。闇於知人。終當此賈禍。卒如所言。施補華均甫。爲作傳謂。釐捐之設。賴以給軍。而病擾民無終極。江之殺身。天所以戒首禍也。鄭子尹抽釐哀云。東門牛截角。西門來便著。南門生吃人。北門張橐。官格高懸字如掌。物物抽釐助軍餉。不論儂奴十取一。大賈盛商斷來往。一叟榨菜茹。一叟負樵蘇。一嫗提雞子。一兒攜鯉魚。東行西行總抽取。未及賣時已空手。主者烹魚還淪雞。坐看老弱街心號。噫吁戲賈東布者。不能得一匹。贏售糾鹽者。亦不得贏。

一升。釐金大抵恃南販。欲入閉門焉可行。村民租銖利有糞。何況十錢主簿先奉已。縱得上供已微矣。乃忍飼爾餓豺以赤子。害等邱山利如米。嗚呼貫率括率有時可暫爲。盍使桑兒一再心計之。因錢江事。並錄此詩。以見釐捐之害。

五

詩願言則嚏。鄭箋云。齊人每嚏則云。誰道我。姜西溟詩。露臺風起立多時。繞亂花枝與柳枝。噴嚏知因誰道我。故人千里最相思。

是ハ續集卷二ノ一項デ、勿論カカル純然タル談片的詩話モ亦多少ハ是ヲ收メテアルガ、要スルニ「雪橋詩話」ハ羅振玉氏ノ云ヘルガ如ク清代ノ野史デ、學術文藝ニ關スル記事ハ勿論多ク、朝儀制度、有職故實、百般ノコトニモ涉ツテ論述シテアツテ、實ニ一篇是レ清朝ノ文化史デアル。是ハ抑モ詩話ニ對スル楊鍾羲氏ノ持論カラ來テ居ルコトデ、而シテソノ持論ハ「文史通義」ノ著書章學誠ニ負フ所ガ少カラヌコトト思フ。正篇卷十二ハ章學誠ニ就テ左ノ如ク云フテ居ル。

章實齋典籍。賦稟瘠弱。少從童子塾。日誦百餘言。常形亟亟。其尊人顧而憐之。從不責以課程。然性耽墳。塾課稍暇。輒取子史等書。日夕披覽。從山陰劉文蔚豹君童銓二樹游。習聞嚴山南

雷之說。言明季黨禍緣起。及唐魯二王本末。往往出於正史之外。自游朱竹君之門。得編覽羣書。所著文史通義。於古今學術淵源。輒能條別。而得其宗旨。其論詩話謂。考之經傳。如云爲此詩者其知進乎。又云未之思也何遠之有。此論詩而及事也。又如吉甫作誦穆如清風其詩孔碩其風肆

好。此論詩而及辭也。事有是非。辭有工拙。觸類旁通。啓發實多。詩品之於論詩。探源經籍。所推有別。亦有不甚可曉處。蓋古書多亡。難以取證。自孟棻本事詩出。本詩小序。使人知國史叙詩之意。而好事者。踵而廢之。則詩話而通於史部之傳記矣。問或詮釋名物。則詩話而通於經部之小學矣。或泛述聞見。則詩話而通於子部之雜家矣。雖書旨不一其端。而大略不出論辭論事。推作者之志。期於詩教有益而已。前人詩話之弊。不過失是非好惡之公。今人詩話之弊。乃至爲世道人心之害。將醉天下之聰明才智。而網人於禽獸之域。世之男子。有小慧而無學識。女子解文墨而闇文教者。皆以傳奇之才子佳人。爲古之人古之人也。今之爲詩話者。又卽有小慧而無學識者也。有小慧而無學識矣。濟以心術之傾邪。斯爲小人而無忌憚矣。何所不至哉。其言實有所指。所爲婦學一篇。持論尤偉。皆文學士所當膺服。實齋乾隆戊戌進士。卒於嘉慶辛酉。其他述作。有湖北通志檢存稿。並文集劄記等書。

詩話ハ元來詩評ノ一種デアアル。ソレデ『四庫全書總目』集部詩文評類ノ小序ニ文章莫盛於兩漢。渾渾灑灑。文成法立。無格律之可拘。建安黃初。體裁漸備。故論文之說出焉。典論其首也。其勸爲一書。傳於今者。則斷自劉勰鍾嶸。總究文體之源流。而評其工拙。嶸第作者之甲乙。而溯厥師承。爲例各殊。至皎然詩式。備陳法律。孟棻本事詩。旁採故實。劉攽中山詩話。歐陽修六一詩話。又體兼說部。後所論著不出此五例中矣ト云フテアル。梁ノ劉勰ノ文心雕龍。同ジク鍾嶸ノ詩品ハ今玆ニ說クノ要無ク、唐ノ皎然ノ詩式ハ疑似ノ間ニ在リトテ斥ケラレ、孟棻ノ本事詩ニ就テハ更ニ下文ニ一言ス可キガ、要スルニ詩話ハ宋ノ歐陽修ノ『六一詩話』司馬光ノ『續詩話』劉攽ノ『中

山詩話』等ヲ祖トシテソノ體裁說部ヲ兼ネタモノデアル。併シ詩話ノ權輿ハ之ヲ孟子ニ求ム可ク、隨テ詩話ノ作者ハ史學ニ通ゼザル可カラズトテ、曾煥ハ『全明詩話』ニ序シテ靜志居詩話。朱竹垞先生。綴于明詩綜中。所以正錢牧齋之謬也。牧齋列朝詩集。挾門戶之見。而肆其雌黃。南北分歧。是非倒置。燠嘗歎。前代公卿存心若此。宜乎水火交攻。禍至亡國焉。夫詩話何昉乎。孟子之論小弁凱風。與雲漢之詩。蓋詩話之祖也。而孟子又曰。誦其詩。論其世。又曰。詩亡。然後春秋作。則詩之義。通于史學者。必有史才而後可以說詩。若牧齋之毀譽不公。其尙爲信史哉。竹垞先生。以博學鴻詞。應舉入翰林。充明史纂修官。嘗以書上史館總裁。議其體例。惜未竟事。而以他故罷職。于是輯明詩綜。附以詩話。攷事務核。持論悉平。足以備一朝之掌故。而補史乘所不及。庶幾乎詩家南薰矣ト推稱シテ居ル。孟子ガ小弁凱風ヲ論ジタト云フノハ、告子下ニ小雅ノ小弁ハ親ヲ親ムガ故ニ怨ムモ是レ仁ナリ抑風ノ凱風ハ之ニ反シテ怨マザルヲ孝トスト說ケル條ヲ指シ、大雅ノ雲漢ノ詩ヲ論ジタト云フノハ萬章上ニ說詩者。不以文害辭。不以辭害志。以意逆志。是爲得之。如以辭而已矣。雲漢之詩曰。周餘黎民。靡有孑遺。信斯言也。是周無遺民也トアルノデアル。ソノ他頗其詩論其曲云々ハ萬章下ニ詩亡然後春秋作トハ離婁下ニ見エテ居ル。孟子ハ勿論脩辭學上カラ詩ヲ論ジタノデモ無ケレバ詩人ノ月旦ヲ試ミタノデモ無イ。實ニ曾煥ノ云ヘルガ如ク史才アツテ而シテ後ニ說ク可キ詩話デアル。蓋シ楊鍾羲氏ガ私ニ朱彝尊ノ『靜志居詩話』ノ蹤ニ倣ハントシタノハ當然ノコトデ『西齋偶得』ノ附錄ニ舊史官ト自ラ署セルガ如ク翰林院編修トシテ國史館ニモ勿論關係シテ居ツタノデアル。ソレデ章學誠ノ指摘セル近人詩話ノ弊ヲモ避ケントシカク

テ『雪橋詩話』ヲ起稿シタノデ、繆荃孫ハ之ニ序シテ左ノ如ク言フテ居ル。

國朝文人。經學史學。均超出明人之上。獨至一朝掌故之學。不如明人遠甚。鄭端簡。王弇州。固無其人。卽載彙編之書。金聲玉振之集。國朝亦無有也。史館之實錄。逐日排比諡旨。無首尾。無斷制。不附大臣列傳。與宋明實錄不同。起居注亦同。更不完備。大臣列傳。內官至侍郎。外官至巡撫。無之立傳。傳亦錄諡旨。節奏疏一篇。詳履歷耳。其人之學行功業。無所表見也。三品以下則無傳。十四傳不全。十志亦不備。吏館如此。尙何所望私家著述。最爲翔實者。止錢衍石之碑傳集。王文勤之石渠餘記。吳制府之養吉齋叢錄而已。楊芷姓太守。同寓上海。一日以雪橋詩話十二卷見示。自首訖尾。讀十日而畢。曰。此雖名詩話。固國朝之掌故書也。由采詩而及事實。由事實而詳制度。詳典禮。略於名大家。詳於山林隱逸。尤詳於滿州。直與劉京叔之歸潛志。元遺山之中洲集相埒。(以下略)

繆荃孫ハ卽チ『雪橋詩話』ヲ以テ『碑傳集』『石渠餘記』『養吉齋叢錄』ト同一ノ價值アル清朝ノ掌故ノ書ト見做シ居ル。制度典章ノ書ナリト斷ジテ居ル。名ハ詩話デアルガ文人墨客ノ閑文字デハ無イ。

六

詩話ト題シテ制度典章ヲ説クハ不都合デアルト云フ評者モ出テ來ルカモ知ラヌガ、單リ詩話ノミデハ無イ、支那ニ於テハ詩ニ由テ一代ノ故實ヲ傳ヘルコトガ昔カラ行ハレ居ル。ソノ起源ハ卽

チ先ニ詩評ノ一種トシテ舉ゲタ唐ノ孟榮ノ『本事詩』デ唐代詩人ノ軼事ハコノ書ニ依テ傳ヘラレテ居ル。『四庫全書簡目録』ニ大旨以詩存史。故姓名之下。各列小傳。往往傍及其軼事。多足以資考證ト評シテアル。金ノ元好問ノ『中州集』モソノ流ヲ酌ムモノデアル。厲鶚ノ『宋詩紀事』ノ如キモ同種ノモノデアル。但シ是ハ原作ソノモノヲ舉ゲテ注文ニ故實ヲ記シテアルノデ詩話ト相似タモノデアルガ、支那ニ於テハ更ニ一步ヲ進メテ故事故實ニ就テ研覈ヲ加ヘソノ精髓ヲ詩ニ作ツテ居ル。厲鶚等七人ノ合作ニ成レル『南宋雜事詩』ノ如キ、嚴遂成ノ『明史雜詠』ノ如キ、ソノ適例デ、『藏名山房文初集』ニ從ヘバ黃公度ニモ『日本雜事詩』ノ著述ガアル。賴襄ノ『日本樂府』青山延壽ノ『讀史雜詠』モ亦同種ノモノデアル。併シソノ殊ニ行ハル、ノハ文藝骨董等嗜味ニ關スル範圍デ『雪橋詩話續篇』卷七ニ論詩絕句。原於遺山。其後論書論畫論詞。洎論印論茶論瓷。各擅其勝。劉燕庭篤嗜金石。曾積五千通。錄爲金石苑。所著泉譜。爲古泉苑。道光戊戌。檢所藏古泉。按時分詠。得絕句二百首ト記シテアル。是即チ『嘉蔭籍論泉絕句』デアル。論畫絕句ニハ朱彝尊ノ外ニ康熙ノ朝ニ史部尙書タリシ宋瑩ノ作アリ、『昭代名人尺牘小傳』ノ著者吳修ノ撰アリ、論印絕句ニハ沈心厲鶚等十三人ノ作ヲ集メタモノガアツタ。劉喜海ノ『嘉蔭籍論泉絕句』ハ初メ單行本トシテ上木サレ後ニ『觀古閣叢刻』ニ收メラレテアル。海鹽ノ張開福ノ跋ニ後之賢者。涵今以茹古。沿波而討源。謂之泉志也可。即謂詩之史也亦可ト云ヘル通りデ、今ソノ一首ヲ左ニ録シテ見ヤウ。

建國東京總四方。錢分五冶契丹強。誰將寶貨訛天贊。遼史還會誤太康。

而シテ注ニ遼史食貨志。東京置戸部司。始造錢幣。太宗置五冶太師。以總四方。案寶四貨。或以其篆文奇古。訛爲天贊。遼史太康。今存錢文及碑刻。皆作大康。可證史誤トアツテ、單ニ古泉ノ歴史ニ資スルノミデ無ク正史ノ誤ヲモ正シテ居ル。

ソノ他ナホコノ種類ノモノ一二ヲ舉グレバ先ヅ第一ニ『論泉絕句』ト同ジク古泉學書タル葉德輝氏ノ『古泉雜詠』ヲ舉ゲネバナラス。コノ書ハ光緒二十七年ニ『觀古堂所著書』ノ一トシテ上木サレタモノデ同ジク七言絕句二百首之ヲ四卷ニ分チ最後ノ十首ハ古泉書ヲ論ジテ居ル。楊鍾義氏ト同年ノ進士葉昌熾氏ノ『藏書紀事詩』六卷ハ門人江標ノ『靈鶴閣叢書』ノ一トシテ光緒二十三年ニ出版セラレタ。王頌蔚ハコノ書ニ序シテ葉子自恨家貧力薄。不能多得異書。又歎自來藏書家。節食縮衣。勾集善本。曾不再傳。遺書星散。有名姓翳如之感。因罔羅前聞。攜撫逸事。竭八九年之力。由宋元迄今。得詩二百餘首。貴如明代衡徵諸藩。微如安麓村暨錢聽默之屬。無不備載。采集可謂富矣ト云フテ居ル。詩ノ總數實ハ四百ニ上リ藝林絕業ト評シタノモ尤モノコトト思ハル。藏書家、愛書家ノ坐右ニ缺クベカラザル名著デアル。又近ク民國四年ニ五十七歲デ歿シタ李葆恂ニ『無益有益齋讀畫詩』二卷ガアル。葆恂ハ光緒ノ初年ニ閩浙總督ヲ勤メテ居ツタ李鶴年ノ第三子デ端方ニ知ラレテ『壬寅消夏記』ノ撰述ニ與ツタ程ノ鑒識家デ隨テコノ書ハ從來ノ論畫絕句ニ比シテ確カニ一頭地ヲ拔イテ居ル。要スルニ『論泉絕句』『古泉雜詠』ハ共ニ一篇ノ古錢史デ又『藏書紀事詩』ハ愛書史、『讀畫詩』ハ繪畫史デアル。而シテソノ特色ハ研究ノ結果ヲ詩ニ詠ジテアル點ニアルノデアル。

茲ニ於テカ評者ハ更ニ言ヲ挾ンデ云ハルデアラウ、ソレハ成程支那學問研究上ノ一特色デア
 ラウガ、偶々以テ支那ノ學者ノ方法ノ専門家のデ無クテ *dilettantisch* デアル *amateurisch* デアル、
 道樂氣分ガ勝テ居ルト云フコトヲ證スルモノデアツテ、寧ロ一缺點ト云フノガ適切デアルト。學
 問ノ研究ソノ蘊奧ヲ極メントスルニハ専門ハ更ニ専門ニ分レテ偏ニ分析ノ微細ニ亘ル可キコトハ
 當然ノ要求デアツテ、支那學問ノ研究方法ガソノ點ニ於テ泰西ノ學術ニ大ニ遜色アルコトハ勿論
 之ヲ是認セザルヲ得ヌ。サリ乍ラ専門家ニ成ラネバ學問ノ研究ハ出來ヌト云フ筈ハ無イ。社會主
 義ノ思想ノ旺盛ニナツテ來タ今日ハ兎角組織ニ重キヲ置ケルガ爲、學門研究ノ如キモ之ヲ一切專
 問家ニ委ヌ可シト考ヘテ居ル人キアルカ知ラヌ。併シ學問研究ヲ一生ノ天職ト定メタ人ダカラソ
 レデ必ズ研究ノ成果ヲ擧ゲ得可シトハ豫想シ難イ。古來學界ニ身ヲ投ジテ徒ニ古人ノ糟粕ヲ嘗メ
 外人ノ思想ヲ受賣シテ自己ノ專攻セル學問ノ上ニ何等ノ貢獻ヲ爲シ得ヌモノハ決シテ少イコトデ
 ハアルマイ。而シテ之ト反對ニ *dilettantisch* ノ研究デモ立派ナ成績ヲ擧ゲテ居ルノデ、だあうい
 んヤすぺんさあノ進化論ハ勿論ノコト、しよぺんなわあやはるとまんノ哲學モ亦 *amateurisch* ノ
 研究デアル。らぼつりやふれゑざあノ精細ハ比較研究モ亦學問ヲ衣食ノ料トシテ出來タモノデハ
 無イ。支那ノ學問ノ研究方法ニ道樂氣分ガ勝テ居ルカラ迎決シテ之ヲ非難ス可キデハ無イ。

實ニ支那學問研究法上ノコノ特色ハ修史學 *Historiography* ノ上ニ於テ殊ニ人ヲシテ啓發セシ

ムルモノガアル。抑モ史學ハ科學ナリヤ否ヤト云フ問題ハ數バ繰返シテ論ゼラレタガ、論理學トシテハ史學ノ研究方法ハカクアラネバナラヌト斷定シ難ク史學ノ大家ガ如何ナル研究方法ヲ取レルヤヲ論述スルニ過ギヌノデアル。ソレデ史學ガ自然科學ト性質ヲ異ニシツツ而モ科學ナリト稱スルヲ見テみるヤムあうらあ。如キ英國ノ論理學者ハ史學研究ノ際ニ於ケル科學的要素ハ比較研究ニアリトシ、カクテ英國ノ論理學デハ歴史的研究法ト比較的研究法ト同一視スルニ至リ、之ニ反シテ獨逸ノ論理學者ハ史學ヲ以テ自然科學ト異レル一ノ新科學ナリト説明シ、ういんでるばんとハ之ヲ以テ法則的 nomothetisch 科學ニ對シテ事件的 idographisch 科學ト稱シ、りつかあとハ之ヲ人文科學ト呼ブニ至ツタ。併シ翻テ思フニ史學ノ研究ニハ勿論分析モ必要デアルガ之ト同時ニ綜合モ亦之ヲ缺クコトハ出來ヌ。而シテ自然科學ノ研究ハ分析ヲ主トスルガ哲學ハ之ニ反シテ綜合的ニ世界觀人世觀ヲ立ツルコトヲ以テソノ本分トシテ居ル。シテ見レバ史學ノ研究法ハ哲學的デアラネバナラヌ。自然科學デハ無イガ科學中ニ最高ノ位置ヲ占ムル哲學ノ研究方法ヲ採用セネバナラヌ。べねでつとくろつゑノ如キハ現ニ史學ハ哲學デアツテ哲學ハ史學デアルト主張シテ居ルノデアル。コノ點ニ關聯シテ興味アルハ一九〇九年ニ倫敦デ公ニサレタラあばんノ『價值論』デアル。うあばんハ鑑賞的 appreciative 記述ト科學的記述トヲ對比シ、史學就中修史學ハ鑑賞的記述デアツテ科學的記述ハソノ任ニ非ズ。即チ價值ノ超絶的理想的标准ニ照シテ研究ノ結果トシテ得タル史實ニ對シ賢愚善惡美醜ノ批判ヲ下スモノデアルト説イテ居ル。史學ノ客觀性ニ重キヲ置ク人々カラ見レバコノうあばんノ主張ハ或ハ邪說ノ如クニ見ユルカモ知ラヌガ自然

科學ノ缺點ヲ補フ可キ哲學トシテノ史學ニ於テハカクアラネバナラヌノデアル。既ニ鑑賞的記述
デアルノデ修史學ガ一ノ文藝トシテ目サル可キハ當然ノコトデアル。昔劉知幾ハ史有三長。才學
識。世罕兼之ト云フタガ史才トハ文藝ノ天才トシテ史筆ヲ具フルヲ云ヒ史學トハ分析的考證ニ長
ケタルヲ指シ史識トハ綜合的哲理ヲ解セルモノト見ル可キデアル張采田モ文章謂之才。考訂謂之
學。義理謂之識ト云フテ居ル。果シテ然リトセバ敢テ惣テノ學問トハ云ハヌガ少クモ史學ノ上ニ於
ハ科學的研究ノ結果ヲ韻語ニテ表現セントスル支那學問研究法上ノ一特色ニ就テ三度思フ致スノ
必要ガアル。(完)

明代ノ流民

清水泰次

一

祭天ハ天子ノ最モ大切ナ特權デアルガ、ソノ歲毎ニ一度行ハルベキ祭典ニモイツモ戶籍ヲ祭壇
ニ具フルノガ習慣デアル。シカモ天子ガソノ儀式ニ具フル戶籍ヲサヘ拜セネバナラヌノダカラ、戶
籍ヲイカニ大切ニ見做シ居ルカラ解シ得ヤウト思フ。イヤソレバカリデナイ。祭禮ガ果テ、後モ
戶籍ニ特種ノ注意ヲ拂ヒ、明代ノ如キ南京ノ玄武湖内ノ島ニ建テタ庫ニイト鄭重ニ保存シタ程デ

アツタ。然ラバ何ノ謂モナイカ、ル人數ノ帳面ヲ、カクモ敬虔ト嚴肅ニ取り扱フタ理由ハ何處ニアルダラウカ。恐ラク思想的ニ天カラ預ツタ民ノ生ヲ天ニ報ジ、財政的ニソノ民カラ租稅ヲトリタレルタメノ我欲ニ外ナルマイ。

ソノ一ノ思想的ナ解釋ハ支那民族ノ天ヲ敬スル心持カラ來ル。ケダシ彼國ノヤウナ諸色ノ民族ガ寄り集リ、ソノ間カラ天子ガ現レ出タ國柄ト、我國ノヤウナ同一ノ祖先カラ分レソノ祖先ガ最初ノ天皇デアツタト確信スル國柄ト太ニ異ルカラ、コ、ニ天子ガ何故ニ國民ヲ支配スルヤノ問題ガ前者ニ後者ヨリモ早く起ラネバナラス。然ルトコロ支那民族ハ天然ニ全ク依ラザルヲ得ヌ農業ノ人達デアルカラ、早くヨリ天帝ノ支配ヲ是認シ、從ツテ何時ノ世トモナク成リ上ツテ來タ天子ニ對シテモ、天ガ民ヲ統治スルタメニ降シ賜ツタモノ位ニ考ヘテ居ツタ。ソコデ天子モマタコレヲ好イ幸ニ、或ハ本心カラ或ハ僞心カラ、ソレニ違ヒナイヤウナ顔ヲシナガラ民衆ニ君臨シ來ツタモノデアル。故ニ天子ニソノ委托サレタトスルダケノコトニツイテノ報告ヲ、天ニ向ツテ心カラナスカマタハナスマネヲスルカ何レニセヨセネバナラナイ。コレガ天ノ祀ニ於イテモ人民ノ多寡ヲ祭壇ニサヘ具フル所以デアラウ。

ソノ二ノ財政的ナ解釋ハ天子自身ノ物欲カラ來ル。思フニ農業經濟ニナラス以前ノ遊牧狀態——支那民族ガ何時何處デカ、ル遊牧時代ヲ經タルカハ吾等モ明言シ難イケレド、トモカク耕作ヲ知ラナイサキノ遊獵ナリ遊牧ナリノ狀態ニアリテハ、支那民族ノソノ財政ハ君長ノトリタレル各人ノ負擔ニヨラネバナラス。從ツテコノ場合ニ人數ノ調査ガ財産ノ計量ヨリモ早くアツタニ相違

ナイ。恐ラク後ノ書ニ見ユル民數ノ多寡ニヨツテ國用ヲハカル習慣モソノ名殘リデナカラウカ。
サモナケレバ世ガ既ニ農耕ノ頃トナリ田地ノ租ヲ人數ノ庸ヨリ多イトスル時ニ、ナホ斯ク謂ハル
、理由ナカラウト思フ。ツギニ人民ノ多寡ヲ以ツテ國ノ貧富トスル動機ヲ考ヘテモ、コレガタゞ
人數ノ多イ方ガ勝トイフ意ナラバ國ノ強弱ト記スベキデアリ、マタ人類ノ少ナイ方ガ開拓ノ勞力
ニ不足スル心ナラバ國ノ大小ト書クベキトコロデアルヲ、ワザト國ノ貧富ト判ジタノハ正シク人
口ノ多寡ヲ軍事及び經濟ノ立場ヨリモ財政ノ見地ヨリ察シタモノデアラウ。カク祭天ニ於ケル戸
籍ニツキテモ鄙俗ナ國用ヲイヒ貧富ヲイフコトガヤガテ戸籍ヲ內庫ニ收メテ大切トスル所以デア
ラネバナラス。

ダカラ明ノ太祖モ天下ヲトルトスグ戸口ヲ調べネバナラナカツタ。マヅ各家カラ、戸帖トイフ
モノニツレトノ郷貫ヤ名歲ヤ人丁ヲ書キ出サセ、ソレヲ洪武ノ十四年ニ或ハ州縣或ハ府或ハ布
政司デ其地ノ戸籍ヲツクラセ、最後ニ戸部ガ天下ノヲアツメタノデアル。ソレモ州縣府布政司ノ
方ガ青表紙ナノデ青冊トイヒ、戸部ノ方ガ黃表紙ナノデ黃冊トイフ、トコロガソノ黃冊ヒトリ有
名ナタメ太祖ノ戸口調査ハヤウヤク洪武十四年ニ始ツタラシク評セラル、モ決シテサウデナク、
大明會典ノ戸部ニヨレバ洪武ノ二年ニ漏レタ人口ヤ脱レタ戸數ヲ自首セシメ、マタ古今治平略ノ
明代戸役ニヨレバツマク洪武三年ニ天下ノ人達ヲシテ戸帖ヲ提出セシメタ程デアルカラ、早クモ
戸籍ノ實質的ニ成立シタコトヲ認メネバナラス。シカモ戸籍ニ萬一ノ誤謬アランヲ恐レテ字ノ大
小モ行ノ高低モ一定シタリ、御史二人戸料給事中一人戸部主事四人督監生千二百人ノ多數ヲ使フ

テ誤ラ正サセタリ、民家ニモ戸帖ヲ置イテ官廳ノ戸籍ト對校セシメタリ、更ニ火災ナドカラ免レルタメ玄武湖内ノ庫ニ深ク藏シタリシタ。

カク仰々シクスルノハ何ノ爲カ。勿論明史ハこんべんしよなるナ祭天ノ郊祀ニ戸籍ノ壇下ニ陳ベ天ニ薦メ畢ツテコレヲ藏スナド、敬虔ナ文字ヲ弄シテ居ルケレド、詮ジ詰メレバ庸役ヲカリタテルタメノ臺帳ニ過ギナイ、マタ大學衍義補ナドニ民ヲ以ツテ國ノ本トスル考カラソノ人數ヲシルス帳面ヲモ莊嚴ニスルラシク思ハレルガ、黃冊ヲ仔細ニ檢索スレバ必ズシモ私心ノ包藏ヲナシトセス。何故ナラバモシ單ニ戸口ヲ調査スルタメノミナリセバ一箇ノ門戸ヲ張ラヌ筈モナキユヘ鰥寡ニセヨ孤獨ニセヨ等シク甲里ノウチニ編ミ込マルベキデアルニサナク僅ニ別扱ヒノ附屬トシテ存在ヲ許サレタクラキデアルカラ。マシテ歴史ノ經過カラ見レバ黃冊ガ庸役ヲトリタテル唯一ノ原簿デアリ、マタ戸口調査ノ基ナル里長ノ職務ヲ調ブレバ徭役ノ世話ノミニ限ラレタリスルノデモ、是非ソウ觀察セネバナラスト思フ。

コノ意味カラ隅々マデ調べ上ゲラレタ明代ノ人口ハ、洪武十四年ノ一千六十五萬四千三百六十二戸五千九百八十七萬三千三百五口ト、弘治十五年ノ九百六十九萬一千五百四十八戸六千四百四十一萬六千三百七十五口ト、萬曆六年ノ一千六十二萬一千四百三十六戸六千六十九萬二千八百五十六口トノ數字ヲ示シテ居ル。コノ外皇明實錄ヲ年々ニ繰リ行ケバ歲々ノ異ツタ人口ノ數字ヲ見出し得ルケレドソレハ小規模ノ小改訂ヲシタ月並ノ結果ナノデ、洪武十四年ヤ弘治十五年ヤ萬曆六年ノ如キ大規模ナ大調査ノ結果ト同日ニ論シラレマイ。トコロガコ、ニ一ツノ疑問ガアル。當代

ノ國勢調査デサヘアノ騷ギヲヤツチモ正シイ數ヲ贏チ得ヤウカト怪マレル程ダノニ、五百年モ昔
ノアノ頃ニ確實ナ戸口調査ヲ行ヒ得タ譯ガナカラウ。現ニ漢代ノ人口ガ一千二百二十三萬三千戸
五千九百五十九萬四千九百七十八口ナノニ、ソレヨリ十四世紀モ新シイ明代ノ戸口ガヤハリ一
萬戸ヤ六千萬口ヲ往來スルトシタラバ——イヤ口ニ少シク増スモ戸口却ツテ減ズルトセバ寧ロ奇
異ト斷言セザルヲ得ヌ。マタソレヨリ五百年後ノ目下ノ戸口ガ六千八百六十六萬一千九十一戸三
億七千七百六十三萬六千口トシタナラバヨシヤ版圖ノ増加ヤ經濟ノ發展ヲ考ニ入レルトスルモ餘
リニ急激ナ膨脹ナノニ驚カネバナラナイ。恐ラクコレコソ捨テ兼ヌル變化デ確ニ他日一顧スベキ
價值充分ニアラウト思フ。ケレドモ今ハカ、ル戸口ノ正誤ヲヤツテ居ルベキ時デナイカラ、一面
ニ明代ガ自治制度ノ進歩セル定評ナノト他面ニ黃冊ガ十年ニ一度ヅ、改訂シマタ十戸ヲ集メテ甲
トナシ、ソノ甲ノ十ト、長ヲ更代ニナスベキ丁モ糧モ多イ十人トヲ合セテ里トナス組織ナノトニ
信賴シテ、心ナラズモ前述ノ明代戸口ヲ基礎トシテ朱氏一代ノ流民ヲ立論シテ見タイ。

二

徐光啓ハ農政全書ニ戸口ノ原理ヲ述ベテ、人ノ殖エ行ク率ハ三十年デ倍加スルト、或るさすニ合
致スルヤウナ學說ヲ發表シテ居ルガ、史實ハ必ズシモ其通リヲ賛ルセヌ。何故ナラ漢代ノ極盛ナ
戸口ト賞セラレタ元始二年——西紀二年——ノ一千二百二十三萬三千戸五千九百五十九萬四千九
百七十八口ガ長ク宋代マデソノ第一ナ名譽ヲ保チ來ツタカラ。トコロガソノ讓歩モ元代ノ至元二

十七年—西紀一千二百九十年——ニ於ケル戸ガ一千三百十九萬六千二百六十イヒ明代ノ弘治十五
——西紀一千五百二年——ニ於ケル戸ガ六千一百四十一萬六千三百七十五トイヒ何レモ僅カ到
二十四朝ノ始カラ終マデ考フルモ二倍ト鑑定サレル道理ガナイ。マタ丘濬モ戸口ノ理法ヲ説イ
テ大學衍義補ニ國ノ治ルヤ民ヲ増シ國ノ亂ル、ヤ民ヲ減ズト主張シテ居ルガコレモ裏書スル事實
ニ乏シキヲ覺エル。モシソレヲ明史ノ戸口デ察スルナラバ亂ヲウケテ國ヲ開イタ洪武二十六年ニ
戸口ガ一千六十五萬二千七百八十九ト六千五百四十四萬五千八百十三トデアルノニ、泰平ノ引キ續イ
タ弘治十五年ヤ萬曆六年ノ戸口ガ却ツテ九百六十九萬一千五百四十八千一百四十一萬六千三百
七十五ヤ一千六十三萬一千四百三十六千六十九萬二千八百五十六ナノデアル。ヤムナク明史彙
ノ編者モ食貨志ニ太祖ノ兵燹ニ戸口ガ盛トナリ其後ノ休養ニ寧ロ衰エタナドノ矛盾ヲ疾呼セネバ
ナラナクナツタ。

カク理論カラ觀ズレバ人口ガ増シ行クベクアルノニ、史實カラ調ブレバ人口ノ殖エナイバカリ
デナク稍モスレバ減ジ去ルノハ何故ダラウカ。恐ラク理論ノ法則ヨリモ歴史ノ情實ニ支配サル、
力ガ強イカラダト思フ。シカモソノ情實ハ西洋ノ人口論ガ悲觀ノハテニ避妊ヲマデ獎勵スルニ反
シ、支那ノ人口論ハ人口ノ益多ランヲコソ希ヘ決シテ人口ノ減少ヲ欲セザル樂觀ノ思想デアル
カラ、必ズソノ生レナイ前ノ避妊ヨリモ生レタ後ノ隱滅デアラネバナラス。從ツテコレヲ解説ス
ルナラバ戶籍ノ不備ニヨル遺漏ト戶籍ヨリ脫離セントスル回避トノ形式的ナ原因ト、惡政カラマ
タ土地ノ兼併カラ故郷ヲ迷ヒ出ヅベク餘儀ナクサレタ放浪ノ内容の原因トニ歸セラレヤウ。

戸籍ノ遺漏——戸籍モ開國ノ洪武ヤソレニ程遠クナイ頃ニ同ジ粗雜ナガラモ完備ラシキ體裁ヲ見セテ編纂サレテ來タ。トコロガ其後ニナルト甲ノ十戸ヤ里ノ百十戸モ出入ヤ缺損デ帳簿ノ記載ニ困難ヲ感ゼシムルヤウニナツタ上ニ、十年一度ノ戸口調査モ官吏ヤ經費ノ都合デ行ハレナクナツタラシイ。ソコデ吾等ハ明史藁ノ食貨志ト共ニ戸籍ガ虛文ニナツタコトヲ知リマタ皇明實錄ノ萬曆三十七年ノ條ニツキテ皇族ノ誕生ヤ薨逝サヘ事毎ニ記載セヌコトヲ認メ戸籍ノ早クヨリ失ハレタコトヲ考ヘネバナラス。コヽニ戸籍ノ役目デアツタ黃冊ガ徵稅ノ役目トナツタ白冊ニ變ル動機ガ存シテ居ル。カクテ里甲ノ制度ヲ以ツテ單位トシテ來タ黃冊カラ、軍民匠ヲ標準ニシマス、露骨ニ徵稅ノミスル帳簿ノ白冊ヘト移ツタノダアラウ。サラバ戸籍ノ亂雜トナリ遺漏ノアルノモ致シ方ナイト謂ハネバナラナイ。

戸籍ノ回避——戸籍ガ單ニ敬虔ナ心持カラ天帝ヘノ報告ニダケ役立タセルナラバ、マタ素直ニ國民ノ多寡ヲ心覺ニ控ヘ置クノミナラバ、國民モアリノマヽニ申告シ戸籍モ民ノ數ヲサナガラニ傳ヘ得ヤウカナレド、ソレガヤガテ徵稅イヤ誅求ノ目安トセラルヽナラバ、誰モ家族ノ人別ヲ眞面目ニ報ジナイバカリデナク、トモスレバ戸ヲサヘ誤魔化サウトスル、マヅ支那ハ大家族主義デ二男三男ヲ明律ノ如ク久シク抱擁セシムルコトカラ考フルモ、マタ妻妾ヲ幾人デモ持チ得ルタメ夫婦ニ子供ノ上ニ妻ヤソノ子ヲマデ豫測セネバナラスコトカラ察スルモ、支那ノ一家ハモツト多數ノ家族ヲ示スベキニサニアラズ、洪武二十六年ニモ弘治十五年ニモ萬曆六年ニモ、日本ノ大正二年ト同ジク五人半カ六人カノ小數ヲ表ハスノハ、ドウ判ジテモ故意ノ脫漏トヨリ外見エナカラウ

ツギニ平穩ナレド隱滅ノ最モ行ハレタラシイ弘治十五年ノ戸ヲ調ブレバ口ガ八十七萬五百六十二ノ増加ヲトモカクナセル洪武二十六年カラ弘治十五年マデノソノ百九年間ニ、却ツテ九十六萬一千二百四十一ノ減少ヲ來シタノハナホ他ニ理由アルヤモ知レナイガ、何レニセヨ戸籍ノ回避ニ基スル所少ナクナイト斷ゼネバナルマイ。モシコノ説ヲ危マル、ナラバ明代マザ少ナカツタ戸口ガ清代カラ急ニ殖エタ謂レヲ考ヘテ貫ヒタイと思フ。

惡政ニヨル放浪——天子ニナリタテノ天子ハ民間カラ起ツタセイカ、禁中ノ買物ニモ時價ニ十錢ヲ加ヘテ厚ク民ヲ賑ハサシメタモノダガ、後ニナルト建築ニ民ノ木ヲ横領シテモ顧ミナクナルマタ初メ身ヲ持スルコトモ頗ル儉素デ、太祖ハ香米ヤ人參ヤ葡萄酒ノ上貢ヲモ民ノ勞ト却ケタ程ダノニ、ソレモ後ニナルト珍味ヲアツメ年々ノ肉料ダケデモ英宗ハ三萬憲宗ハ十萬トマデノボツタ。從ツテ官吏ヤ村吏ノ橫暴モマス、甚シクナル決シテ偶然トイヘナイ。官吏ハ、家族制度デ凝リ黨派根性デ固ツテル支那デハ致シ方ナイトスルモ、廻避制度——生レタ地方ノ役人ニナレナイ——デアルダケニ、旅ビモノ、心デ儲ケラレル限り儲ケヤウトスル。マシテソノ制度ガ明代ニナツテ最モ發達シタト評セラル、ノダカラ其弊モマタ推シ量ラレヤウ。ツギニ村吏ニナル連中ノ頻リニ懷ヲ肥ヤスコトハ、日本ノヤウナ面目ニカケテ村人ノタメヲ謀ルヨリ面子^{メンツ}ニカケテ私利ヲ計ルコトカラモ思ヒ至ルベキダ、況ンヤ租稅ハ調査ノ行キ届カヌ人ヤ戸ヤ田ニアテ、取り立テラレナイ故モアラウカナレド、村毎ニアテ、請負——天下郡國利病書卷ノ二十一ニ米ノ數ハ升以下八位モ銀ノ數ハ釐以下九位モアルケレド米ハ合デ銀ハ釐デ止ムベキモノダラウトイフテ居ルガ、

吾等ハカ、ル實田デナイ桁數ノ發生ヲカ、ル村毎ノ請負ニ歸セシメタイト思フ——ノヤウニ取り立テルノダカラ村吏ノ加減ガイクラデモ乗除サレル餘地ガアラウ。コウナツテハ町人モ人モ家ヲ棄テ、生ヲ全ウセネバナラス。

兼併ニヨル放浪——治安ノ保證サレナイ時代ニ不動產ハ唯一ノ安定ナ財産デ、動產ハ等シク財産デモ不安定ナモノデアル。何故カナラ盜賊横行ノ衝ニ當ツテノ動產ハ根底カラ持ち去ラレル虞アルケレド、不動產ナラバヨシヤ荒ラサレテモソノ時限リデマタンノ地ヲ耕セバ收入ヲ取り得ルカラ。ソコデ國民ノ殆ド凡テハ欲望ヲコノ不動產ニ集注スルモ決シテ不思議デナイ。コ、ニ餘裕アルモノガ兼併ヲ行ヒマタ餘裕ナクトモ餘力アラバソノ腕力デ兼併ヲ恣ニシヤウトスル。サレバ大明律ノ戸律ニモ、官民ノ田地ヲ侵占スレバ笞ヲ加ヘ、官民ノ山場ヲ強占スレバ杖一白ノ上ニ流三千里ト注サレ居ルガ、コレモ兼併ノ豫防ニ外ナラナカラウ。ケレドモ豫防ガヤ、モスレバ事實ノ肯定ニ終ルノガ古ノ常ダ。即チ洪武二十六年ニ八百五十萬七千六百二十三頃モ數ヘタ田地ガ、百九年後ノ弘治十五年ニ四百二十二萬八千五十八頃トマデ成リ下ツテ居ルノハ、豪族ノカ、ル兼併カラ徵稅ノ基ナル帳簿ヨリ消シ去ラレタモノニ相違ナカラウ。ソレナレバコンソレカラ七十六年後ノ萬曆六年ニ罷居正ガ嚴重ナ調査ヲシタラバ、天下ノ田地モ七百一萬三千九百七十六頃トマデ成リ上ツタノダ。然ラバ他人ニ土地ヲトラレ年貢モトリタテラレル百姓ハ安ンジテ生ヲ故郷ニ送ルカ、ソレトモマタ呪ノコノ地ヲ離レテ、知レザル永遠ノ放浪ニ走ルカ、ソレトモ心ニ聞クヨリ外ナイノデアル。

三

支那民族ガ故郷ヲ重ンズルノハ頗ル厚イモノデ、名札ニモ標札ニモ必ズ故郷ヲ書キ出シテ自他ノ便宜ニ資セネバナラナイ程デアルカラ、彼等ノ他郷ニ死ンデモ能フ限リ遺骸ヲ故郷ニ運ビ葬ラウトスルモ強チ咎メラレナイ。從ツテ彼等ノカク故郷ヲ離レ去ルマデニハ、キツト忍ブベカラザル虞ノ數々ヲ痛ク忍ンダニ相違ナカラウ。マヅ彼等ハ養フテ耕シニ用ヒ來ツタ家畜ヲ二足三文ニ賣リ飛バス。何故カナラ生キ物ハ人間ノ食ラヒ得ベキ食物ヲ食ヒ減ラスカラ。ツギニ彼等ハナホ足ラズ生アラザル前ノ死ナル避妊ヲ行フダラウ。マタ新タニ生アラント生レ出タ幼イ者ヲモ、弱ニ水ノ溺ノ字ガ示スマ、ニ、産湯デ洗フ代リニ沈メテシマツタラウ。更ニマタ長成セルモノナラバ典賣ヲ敢テセネバナラス。ケレドモコレハ歴史ガ吾等ニ傳フル外形ノ一部デ、ナホ歴史ニ漏レタル內的行動——衷情ヲ暴露シタナラバ、賣ラレ行ク妻ヤ買ハレ來ル兒ノ哀レニモ盡キ出サレタ殊砂痣ノヤウナ悲劇ハ澤山ニアルコトダラウト謂ヒタイ。

イヤ我等ノ悶ハ胸三寸ノウチバカリデナカルベキ筈ダ。ソレハ村落自身モ大イナル憂鬱ニ陷ツテル故ニ。恐ラクアソコ、ニ壊レタル土塀ヤ荒レタル家屋ヲ、西ノ原ニ沈ミ行ク夕陽ニ照サレテ望ムトキ心ナキ旅人モ田舎ヲツ、ム云ヒ知レヌコノ憂鬱ヲ認メネバナラス。ダカラ湖南省ノ衡山縣デ弘治ニ刊行シタ地誌ニモ洪武二十四年ノ戸ガ四千六百六十四デアツタノニ永樂十年ノ戸ガ四千二十五トナリ更ニ天順六年ノ戸ガ三千九百八トナツタコトヲ傳ヘ、マタ陝西省ノ朝邑縣デ版

本トシタ正徳ノ地誌ニモ洪武ニ八十二里ノ村數ガ成化ニ七十二里トナリ正徳ニ六十五里ト減ジタ
コトヲ述ベテ居ルナホモ萬曆ノ大明一統志ト其後ノ天下一統志トノ順天府ノ里數ヲ比較シタラ

縣 大宛 良國 永東 香通 三武 寶 滯 昌
書 名 興平 鄉安 清安 河州 河清 抵州 平

大明一統志里數 36 75 25 38 22 44 10 32 35 28 32 15 7

天下一統志里數 38 50 22 37 12 18 10 26 20 20 30 10 27

縣 順懷 涿房 霸文 大保 薊玉 豐 遵平
書 名 義柔 州山 州安 城定 州田 潤化 谷

大明一統志里數 27 14 46 16 31 34 23 6 26 18 22 20 13

天下一統志里數 19 14 46 11 31 33 20 6 15 7 12 12 8

ヨシヤ都ノ近クデ賦役ノ過重トイフコトモアラウカナレド、コレダケノ村里ノ金減ヲ見ルハ餘リ
ニ甚シイ。ソレナラバ家ヲ出デ見ル村ノ廢墟ヤマタ近隣ヲ歩イテ聞ク全村ノ流亡ヲ、誰カ今日ハ
人ノ身明日ハ我身ノ上トイフヤウナ暗イ感ジナシニ見聞シヤウモノゾ。

カクシテ彼等ハカ、ル胸ノ寂シミヲ持チナガラ故郷ヲサスラヘ出タ。アノ土ニク、リツケラレ
田地ノ乳房ニノミ吸ヒツクベク馴ラサレタ彼等ガ、ソノ土カラソノ乳房カラ離レ來タノデアル。

マタアノ因習ニ囚ハレタ固定ノ時代ニ、父祖ヨリ傳來ノ鋤鋤ヲ振リ捨テ、逃レ來タノデアル。從ツテ彼等ニハモウ官憲カラ拘束サレル法律モナイ、隣保ト守ラネバナラヌ道德モナイ。ソレコソ恥モ外聞モアラバコソ、タゞ生キンガタメノ本能的努力アルノミダ。ナゼナラバイカニ老人ヲ勞ハリ幼者ヲ扶ケタイ人間的性情ヲ心ニ動カストモ饑ノ前ノ食ニ遇ヘバ幾分カ鈍ラネバナラヌ上ニ、更ニ強イモノガ力ヲ恃ンデ暴ヲ振フ野獸的行動ヲナシタラバ共ニ饑ニ死ナネバナラヌカラ。故ニ竊盜強盜掠奪草賊ノイマハシイ言葉ノ行爲モ、力ニフサハシク食ヲ求メルタメノ動作クラキニ、何等ノヤマシイ心地ヲ彼等ニ起サセヌバカリデナク、寧ろ強者ノ特權ノ如ク考ヘラレテ居ル。恐ラク彼等ニ惡トイフ觀念ノアリセバ強者ニ對シタトキト迷信ノ神佛ニ對シタトキダケデアラウ。サレバ彼等ハ故郷ニ安定セネバナラヌトキメツケラレル法律ヨリモ五常ノ人倫ヲ守ルベク教フル道德ヨリモオノガジニ力ノ限り生ヲ求メテ蠢動スル野蠻ニ傾カネバナラナイノダ。

然ラバカクモ人間バナレシタ連中ノ故郷ヲ脱レ出タ後ノ行方ハイゾコ。思フニ、ソレヲ何處ト限リ得ズ、彼等ハ何處デモ食ヘソウナマタ噂ニモ食ハレソウナ地方ヘ、續々ト押シカケ行クデアラウ。ケレドモソウ往來サレテハ流民ヲ産ミ出ス地方ノ官憲ニ喜バレルカモ知レナイガ、饑民ヲ受ケ容ルベキ官憲ノ迷惑モ一方ナラムト察セネバナラス。從ツテ大明會典ノ卷十九ニモ洪武十九年ノ令ヲ述ベテ

各處民凡成丁者 務各守ニ本業 出入鄰里必欲ニ互知 一其有遊民ニ及稱商賈雖有引 若錢不
レ盈萬文ニ鈔不レ及ニ十貫ニ俱送ニ所在官司ニ遷ニ發此外

他里ノ無錢ナ遊民ヲ恣ニ入レナイ方針ヲ明ニシテ居ル。ケレドモタバ一片ノ法律ガヨク人ノ流ヲ支ヘ得ベキモノトモ思ハレナケレバマタ人情カラモ經濟カラモ不都合トセネバナラヌカラツイ典故紀聞卷九ニ見ユルヤウナソレハ不仁ナレバヨロシク意ヲ加ヘテ緩撫流通スベシトイフ宣宗ノ勅旨トナツテシマツタ。ヨツテ流民ガ今モ人ノ都市ニ集ルヤウニ其頃モ、北方ヘノ米運ビヤラソノ外ノ業務ニ多忙デアツタ或ハ救濟制度ノ比較的ニ完備シテ居タ南京ナドニ集フタコトハ、成化實錄元年ニアル巡撫南直隸副都御史劉孜ノ上奏ニ鳳陽諸郡飢民流徙京城省甚衆トアルノデモ知ラレヤウ。然シ當時ノ都會ニ今程ニ人ヲ要シナイ。ソコデ政府ノ賦役ヤ誅求ノ及バナイ樂境ノ僧庵カ僻陋ノ山谷ニ潜リ込ムモ、決シテ偶然トセラレヌ。

佛教モ明ノ頃ニナルト隨分墮落シタモノト見エ僧侶ノ資格ナイモノマデモ平氣デ仲間ニ入レタカラ、政府ノ賦役ヲ免レヤウトスル連中ヤ莫大ナ寺領ヲメアテニ寄食スル者共ガ頻ニ來リ加ツタ政府モイタシ方ナク私ニ庵院ヲ靱ムルモノヤ私ニ僧尼ト爲ルモノヲ杖流シタリ還俗シタリサセ、更ニ府ナラバ四十名州ナラバ三十名縣ナラバ二十名ト僧ノ數ヲ限ツタモ見タガ、景泰ノ桂林府志ニ僧戸ノ四百二十六ヲ記シ隆慶ノ丹陽縣志ニ僧戸ノ四十九ヲ載セテ居ル程ダカラ自餘ノ府縣モ概ネソウダラウト察セネバナラナイ。マシテ崇禎ノ尙ホ縣志ニモ私ニモ僧トナルヲ嚴シク禁ジタバカリデナク、コノ遊民——當時ノ經濟思想ニ反スル遊民ヲ農耕ニ還元サセタコトヲイヒ、マタ四庫全書ニアル馬文升ノ奏議ニモ我朝ノ定制ニ從ヘバ天下ガ百四十七府二百七十七州千百四十五縣ナノデアルカラ、僧ノ數モ三萬七千九十餘デアルベキニ、成化十二年ノ度僧ガ十萬成化二十二年

ノ度僧ガ二十萬ソレニ前年ノ度僧二十萬ヲ加ヘタラバ五十萬ヲ下ラナイ、モシコレガ一人一年ニ米六石ヲ食ムトシタラバ二百六十餘萬石トナリ確ニ京師一年ノ歲用ニ足ルトサヘイフヲヤ。

ツギニ抵抗ノ少ナイ壓力ノ少ナイ樂境ト申セバ湖北ノ荆襄ガ陝西ノ漢中ヲ最モ適當トセネバナラヌナゼナラバ其處ガ山谷ノ深險ナタメコレマデ人ニヨツテ餘リ荒サレナカツタ處女地ラシク思ハレ、廣闊千里ト測ラレル原野ヤ谷間ノ沃土ガ參差シテル上ニ府カラ八日モカ、ル程ノ遠サナバカリデナク、土木ノ變ニソコノ近クニ屯シテ居タ軍隊ヲモ引キ上ゲタキリナノデアル——四庫全書ニ收ムル王怒ノ撫治荆襄——カラ。從ツテ先着土民ノ抵抗セナケレバ租稅賦課ノ壓力モヨク、自由ノ天地ニ拘束ナキ生活ヲナシ得ヤウ。宜ナルカナ陝西河南山西山東北直ノ饑民ガコ、ヲメガケテ南ニ流ル日ニ萬人トモ誇張サレテ居ル。恐ラク彼等ガ行ク——食ヲ求メマタ追ハル、哀號ノ聲寂シク流レ去ルハコノ世ノ修羅デナカラウカ。カクテ彼等ノ寄り集フ明史藁食貨志ノ于謙ノ上奏ニヨレバ荆襄ノ流民百萬ト注セラレ、マタ馬文升ノ計算ニヨレバ四川カラ漢中ヘト溢レ込シタモノダケデモ十數萬人ト稱セラレル。蓋シ此數ハ現代ノ饑民三千五百萬人ト記ルサル、ニ比較シテ強チ支那流ノ虚構トノミ評シ去ラレマイ。

四

支那ニ限ラズ内亂ヤ革命ヲタゞ將軍ノ野望カサモナクバ思想ノ反抗トバカリ美シク説キタガル傾キアルケレド、コレハ偶サカノ例デ、或ハ表面ソウラシク見ユル處ニモ仔細ニ研究スルト意外

ナ生活ノ問題ガ動機トナリ居ルニ驚ク事ガ尠クナイ。揚賜ガ直隸カラ山東ニカケテ絡繹スル流民ヲ視、コレ等ヲ故郷ヘ送り還サネバ大變ニナルダロウト上奏シタ漢末ニ、黃巾ノ亂ガ起ツタノデアル。マタ山東ヤ河南ヲ親シク巡ツタ成遵ガ、民草ノ安堵シナイコノトコロヘ、ヨシヤ黃河ノ築堤ニセヨ二十萬人モノ工夫ヲ寄セ集ムルノハ天下ノ大事ヲ惹キ起スヤウナモノダト健白シタガソノ元末ニ、白蓮ノ亂ガ起ツタノデアル。コノ外初等ノ東洋史ニ出ルクラキノ亂ナラバ、唐ヲ傾ケタ黃巢ニシロ明ヲ倒シタ闖賊ニシロ悉クコウシタ流民ト關係セヌ程ノモノガナイト斷言スルモ差支ナイ。ダカラ明一代ノ經濟家デアツタ丘濬モ、周ノ宣王ガ離散シヤウトスル萬民ヲ安集セシメタカラ中興シ晉ノ惠帝ハ流民ヲ撫恤セナカヅタカラ南遷セナケレバナラナカツタト道破シタ。然ラバカ、ル流民カラ大亂トナル謂レハ何處ニアルダラウカ。吾等ハコレヲ饑饉ト迷信ノ二ツニ歸シタイト思フ。

饑饉——イカニ百萬ノ流民ガ群レ集フトモ平作ノ頃ナラバトモカク人ノナサケデ食ニアリツコウケレド、一度饑饉ニナルトソノ人ノ情モ枯レ果テ、シマウカラ、スグニモ食ニ差支ヘナケレバナラス。併モソノ饑饉ニアノヤウナ天候ト土地ノ間ニ蹢躅スル支那民族ヲ、早カラモ水カラモ蝗カラモソノ上ニ交通ノ不便カラモ屢襲フ。ケレドモコレヲノ解說ハ支那ノ實狀ヲ熟知セラル、東亞經濟研究ノ讀者ニ、タトヘ古書ニソノ好例ヲ多ク認ムルニセヨ寧ロ無用ト存ゼラルレバヨロシク省略スルガ、カクモ饑饉ニトリツカレタ流民ノ明日カライカニナルダラウカヲ考ヘネバナラナイ。彼等ハ漁リ得タ食ノ盡キルヲ最後ニ弱リ行ク命ヲ座シテ期スルダラウカ。モシ然ラズバ彼等ハ

進ンデ食ヲ奪フベキニ出ズルダラウ。コヽニ騷擾ガアル、コヽニ内亂ガアル。從ツテ明代ヲ通ジテ最モ饑饉ノ多イ江北ワケテモ湖廣山東陝西ニ最モ亂ノ多カツタコトヲ叙スルト共ニ、成化ノ劉千斤ハ明廣カラ正徳ノ劉六ハ山東カラ崇禎ノ李白成ハ陝西カラ起ツタコトヲ忘レテハナラナイ。

迷信

——トコロガコノ流民ヲ更ニ内亂ノ方ヘト急ガシムルモノニ迷信ノ存在ヲ加ヘネバナラス

コノ迷信ハ既ニ迷ヒノ心デアルカラ彼等ヲ迷ハシムルモノナラバ奇怪ナ宗教デモ偉大ナ人物デモ變リハナイ。ソレハ遠ク黃巾ノ亂ガ道教ダトカ白蓮ノ輩ガ佛教ダトカラ引用セナクトモ、現ニ山東ニ發シタ永樂十八年ノ唐婦兒ハ自ラ佛母ト稱シ前後ノ豫言ヲスルバカリデナク衣食デモ財寶デモ欲スルガマヽニ須ラク運ビ來タカラ、スグニ數萬ノ亂民ヲ集メ得タトイハレテ居ル。マタ水滸傳ニ現レ來ル梁山泊ノ豪傑連モミナ並優レタ膂力デ部下ヲ引キ纏メテ居ルナラバ、明代ノ荆襄ニ勇ヲ振フタ李鬚子——古今治平略卷十三ニ見ユル李胡子ト同人ナコトハ辭源ノ解スル鬚ノ字ヲ讀メバ自ラ明トナラウ——ナドモ劉千斤——千斤ノ重サナ物ヲ舉ゲ得タカラカク稱セラル——ナドモ必ズ彼等ノ強ソウナ體格デ亂徒ヲ引キツケタモノデアラウ。

ソレカライヨ／＼彼等ノ旗舉ゲトナルノデアアルガソノ宣言ガマタ面白イ。イツタイ彼等ノ流亡モ、村里ニ居ツタ頃上ノ者ドモカラ虐メ拔カレテノ飛ビ出シダカラ、盛ニ彼等ノ復讐ヲ試ミヤウトスル。イハハ彼等ガ官ノ牛ヤ馬ヲ借りテ耕セバ、ソノ牛馬ガ死ンデモ理非ナク辨償サセラレルシ、マタ官田ヲ佃作スレバ遠イ處ノ官倉ヘマデ何ノ報ヒモナク運ビ納メネバナラナイ上ニ、ソノ納米ニモ豫メ雀ヤ鼠ニ食ヒ荒ラサレル分マデ計ツテ添エネバナラナイ。ダカラ闖賊モ奉天倡義

文武大元帥或ハ代天撫民德威大將軍ナド、稱シタリ、福王ノ隱家ヲ探リアテレバソノ屍ヲ鹿ノ肉ト共ニ煮テ食ラフ程ノコトニナル。更ニ彼等ノ田地ヲ強奪サレタ富豪ニ對シテモ、積シタ富ヲ李白成軍ノ開封ヲ陷レタトキ米ヤ金ノ數十萬ヲ饑民ニ賑恤シタヤウニ分配シナケレバヤマナイ。即チ彼等ハ獨占セラレタル富ヲ奪ツテ四散シ弱衆ト雜ツテ樂シマントスルノダ。

コウシタ内亂トカ革命トカハ惡イコトニ違ヒナイ。ケレドモ支那ノヤウナ國柄ノ上ニ、明代トナリテハ苛斂ヲ行ハレテモンレヲ訴フベキ處モ正スベキ人ヲモ、何處ニモ見出セナイナダカラ、嫌デモ國民ガ自己ノ意志ヲ表明スル手段ノ直接行動ヲ賴リトセネバナラス。現ニ正徳四年ニ四川ヲ騷ガセタ監廷瑞ノ徒輩ハ亂ヲナシ民ヲ苦メタニ相異ナイガ、彼ノ言ヒ分ニヨルト我兵ノ來ルモ汝民ヲ梳ルニ過ギスケレド官兵ノ來レバ汝等ヲ篋リスル程ニ、政府ノ連中ハ平時ナラバ誅求ヲ事ニシ亂時ナラバコレヲカコツケニ荒掠ヲ專ラニスルノダカラ、却ツテ亂賊ヨリモ甚シイ場合サヘアル。マタ地主ニシテモ、小作人ガ正當ノ小作料ヲ納メテ居ルノニナホ附加ヤウノモノヲ取り立テルカラ、福建ノ茂七ガ正統十三年ソノ不法ヲ詰ツテ一揆ヲ起シタ程ノ亂暴ヲ免レナイ然ルニ亂賊デモ一派ノ闖賊ノ如キ馬ヲ盜ムノガ第一功軍服ガ第二功衣服ガ第三功デ、モシ日用以外ノ珍寶ヤ金銀ヲ齎シ來タナラバ勳功ニ當ラヌト定メタトコロナドハ、ヨシヤソノ富ニ堪エナイトノ惡口アルニモセヨ、彼等ガ無益ノ掠奪ヲセヌ一節ニ無限ノ興會ヲ覺エネバナラス。カク官必ズシモ正シカラズ賊必ズシモ惡ナラズトセバソノ不正ヲ正ニ戻スベキ何等カノ手段ナケレバナラズ、マタ他ノ法ナクバコノ亂ニヨリ外ハナイト悲シクモ認メテヤラネバナラナカラウ。

吾等ハ既ニ流民カラ大亂トナルマデヲ見タレバコレヨリ大亂カラ革命ヘト惡化シ行ク傾向ヲ考ヘタイ。ソレモ便宜ノタメ社會ノ崩壞ト政府ノ顛覆トノ二ツニ分ケテ述ベヤウト思フ。

社會ノ崩壞——常ナラバ流賊ヲ共同ノ敵ト防グ良民デモ、コウ生活ヲ脅カサレテハ寧ロ流賊ヲ少クモ食ヲ配ツ義軍ト心得テ、歡迎スルバカリデナク加擔スルヤウニナル、例ヘバ福建ノ良民ノ如キ小作ヲ代表シテ地主ニ反抗シテクレル茂七ニ賛成シ、後官憲ニ捕ハレテカラモ吾等ハ良民タハ富民ノ魚肉タルヲ苦ンデ茂七ニ從フノミトサヘイフ。マタソレハ陝西ノ闖賊ガ明代デモ最モ不安ナ區域トセラレタ遙カ南ノ湖廣マデ押シ進ンダコトカラモ察セラレヤウ。從ツテ彼等ノ往來スル所ハ悉ク良民ノ安定ヲ破壞シ恰モ一波ガマタ一波ヲ誘フテ動搖ガイヨ／＼激シクナルヤウニ、遂ニ社會ノ根底ヲ震ルハセ革命ヘト落チ行カシムルニ至ルノデアル。如何ナラバ家ト家トヲ村ト村トヲ連ネテ居ル社會ノ綱紀ガ斷チ切ラルレバ、人間ハ再ビモトノ野蠻性ニ逆戻リセネバナラナイカラ。

政府ノ顛覆——民衆ガコウ動搖シテハ天子ハ既ニ民ヲ治メルタメノ存在ヲ失フタモノトイフベク、マタ天子トシテノ價值ヲ棄テタモノトモ支那ノ思想カライヘヤウ。サスレバタトヘ流賊ト惡罵セテル、モ多數ノ民衆カラ崇敬サレ其等ヲ統御シ得ナバ、彼ニ取ツテ代ラウト氣付クモノソレハ致シ方ナイ。ダカラ何處ノ流賊デモ少シ大キクナルトスグ、藍廷瑞ノヤウニ李白成ノヤウニ王ト稱シ百官ヲ任命スルモ當然デナカラウカ。蓋シ漢ノ高祖ニセヨ明ノ太祖ニセヨ天子トナリテハ嚴メシク控ヘタルモ、ヤハリカ、ル流賊ヲ引率シタモノニ外ナラナイカラ。故ニ吾等ハ斷言スル明

ノ亡ビタノハ廷臣ノ專横トカ宦官ノ苛斂トカヨリモ全クコウシタ流賊ニヨルト而シテ吾等ニ賛成スルモノタゞニ明史藁ノ流賊傳バカリデアルマイ。

五

カク流民カラ流賊トナリ果ハ朝廷ヲ推倒スル程ニナルノダカラ、早クヨリ朝廷ノコレヲ對策ヲ考量スル決シテ偶然デナカラウ。ソレニハ流民ヲ出サナイタメノ善政ヲ何ヨリモ大切ナモノト思フケレド、コノ善政ヲ今ハ當面ノ問題トセラレナイカラ措ラク略ニ從ヒ、タゞ當面ノ流民對策ニツイテノミ解説シタイ。マヅ政治上カラ見ルナラバ流民ヲ撫デルタメノ特別ナ官吏ヲ設ケタコトハ、政令ノワタリ兼ネル土地ニ縣ヲ置イタコトデアラネバナラヌ。前者ハ正統ノ頃カラ始メラレ山東山西河南陝西湖廣ノ府州ニ佐貳官ヤ四川陝西ニ副使ヤ湖廣ニ參議ヤ河南ニ參政ヲ續々ト命ジタコトデアル。マタ後者ハ景泰ノ頃カラ試ミラレテ大學總長ノ周洪謨ヨリ述ベラレ都御史ノ李賓ヤ原傑ノ行フタモノデアル。即チ府州カラ遠ク離レ併モ流民ガ集團シテ治メニクイ處ニ、鄆西白河山陽南召桐拍伊陽ノ諸縣——コレラハミナ憲宗ノ十二年ニ湖廣布政司内ニ新設サレタモノノミデアルガ、コノ外ニモコノ後ニモナホコノ例ガ多イダウト信ズル——ヲ置イテ專ラ流民ヲ附籍統治シタニ外ナラナイ。ツギニ生活上カラ考フルナラバ食ヲ與ヘ居ヲ備フルコトデアラネバナラヌ。コノ食ヲ與フルコトニハ預備倉ト施米法トアリ、居ヲ備フルコトニハ本籍ニ還送スルコト其地ニ定着セシムルコトマタ他方ニ安插セシムルコトガアラウト思フ。

預備倉ニモ諸種ノ様式ガアリソウダケレド官デ設ケル倉ト民デ設ケル倉トノ二ツダケニ止メタ
イ。官ノ預備倉ハ洪武ノ法令ニヨルト各縣ニ四ツノ倉ヲ建テ平時ニ穀ヲ糴レ急時ニソレヲ發賑ス
ルノデアアル。トコロガソレモ初ノ程ハ其地ノ年モ高ク篤實ナ人物ヲ選ンデ管理セシメテ置イタカ
ラ、開國ノ泰平ト相待ツテ至極結構ニ運ンデ來タラシイガ、正統ニナルトモウ駄目ダ。各處ノ預
備倉ヲ一々檢査シソシテ冒借カ虧缺カハタ侵盜カ私用カヲ仕別ケシタリ、マタ倉ソノ物ノ廢レヲ
舊ニ復シタ程デアルカラ、ハヤ制度モ崩レ掛ケタモノト見ナケレバナラス。從ツテ成化ノ時ニ官
吏デ米ヲ六十石納ムレバ考試ナクトモ出世サセ、軍民デ二百石ナラバ正九品ニ二百五十石ナラバ
正八品ニト位階ヲ安賣シテモ強チソウ不思議デアルマイ。民ノ預備倉ハ古クカラ有名ナ義倉トカ
社倉トカデアアルガイマーマトメニシテ述ベヤウナラバ、毎年貧富ノ差等ニ應ジテ粟麥ノ一石以下
ヲ出シ合ヒ村ノ社ニ蓄ヘ、コトナケレバコレヲ貸シ出シ利ヲ納メコトアレバコレヲ配ツ法。コレモ
十里毎ニ一萬五千石二十里毎ニ二萬石カラ、七百里ノ十八萬石八百里ノ十九萬石マデ、形ノ上デ
備リ居ルケレド、内ヲ窺フトヤハリ百鬼ノ夜行ヲ免レヌ。イハハソノ貸出ニ當ツテモ返ヘス見込
ノナイヤウナ鰥寡癯疾ニハ言ヲ構エテ貸サナイ、ソレナラ借受ケタ中産ノ人達ガスンナリ元ト利
ヲ揃エテ戻スカト見ルニ、コレモマタ官吏ト通謀シテ糖ダノ石ダノ草ダノヲ雜ゼテ一石ノ米モ五
斗六斗シカ正味ヲ含マナイノダカラ、ソノ倉ヲ開カネバナラヌ凶年ニナル頃ニナルト殆ド空シク
ナツテルヤウナ始末。

ツギニ施米法ヲ述ブレバ米ノマ、デ與フルト粥ニシテ與フルトノ二ツガアリ、ソレニモ一時的

ナノト或期間ナノトマタ一年中ヲ通ジテナノトノ三種ガアル。米ノ施シナラバ仁宗ガ山東ノ布政使ナル石執中ヲ責メテ五日ノ間ニ倉ヲ悉ク飢民ノタメ開キ盡サシメタナドヲ有名ナ話トナシ居ルガ、ソレ程デナクトモ寒サ時ノ正月カラ四月マデトカ養育院ノ如ク毎月トカ、大人ヘ三斗小人ヘ一斗ヲ配ツコトノアルノヲ記憶セネバナラス。更ニ粥ノ施シニナルト、來リ乞フモノニ給スレバヨイノデアルカラ、飢民調査ノ必要モナク至極簡便デアルヤウニ見受ケル。ケレドモ一方ニ粥ガ間ニ合ハナイマタ多過ギルナドノ缺陷ガアルバカリデナク、他方ニ一ツノ町デ貰ヘルトナルト可ナリノ遠クカラ押シ掛ケ來ル弊害ヲ免レナイ。ソコデ全國一樣ニ大縣ナラバ十二ヶ所中縣ナラバ八ヶ所小縣ナラバ六ヶ所ノ給粥廠ヲ造ラセ、マタ貧民ノ混雜ヲ防グタメ軍隊ヲ遣ハシ、マヅ本ノ札ヲツイデ一人ヅ、ニ三碗ヲ、ソレ／＼與フルコトニシタ。トコロガソレモ明代ノ支那官吏ダカラ着腹モ尠クナク、施米ニモ施粥ニモイツモ事ヲ缺イデ居ツタ有様デアル。

最後ニ籍ヲ失フテ居ル彼等ニ住ムベキ土地ヲ與ヘナケレバナラス。ソノ第一法ハ本籍ニ還送スルコトデ凡ソ故郷ヲ重ンズル國民ヤ國定ヲ尊ブ政府ノ必ズ試ムベキコトデアラウ。從ツテ里長ヤ里甲ヲシテ自分ノ里甲ニ屬スル流民ヲ隣人ノ親族ヲ煩ハシテ引キ戻サシメタリ、マタ戻ラウトスル流民ニ對シテ旅費ヲ給シ、沿道ノ官憲ヲシテ衣食ヤ船賃ノ保護ヲサヘ行ハシメタ。ナホ彼等ガ本籍ニ返ツタ後モコレマデノ不足ナ税金ヲ除カレ、更ニコレカラ後數年ノ賦稅ヲモ免ゼラル、ノダカラ、非常ナ優遇ト云ハネバナラナイ。然ラバ彼等ハカ、ル被護ノ下ニ再ビ故郷ニ安定ナ生活ヲナシ送ツタカトイフニ、強チソウトノミ斷ゼラレス。コ、ニソノ第二法ノ其地ニ安着セシムルコ

トガ必要トナル。何故ナラバ彼等流民ヲイカニ返ヘスモ、三日乞食スレバ止メラレナイヤウニ、マタ故郷ヲ出直シテ來ルタメ、イクラ骨ヲ折ツテモ望ミガナイカラ。故ニソレヨリモ彼等ノ行クガマ、ノ好ム土地ニ安堵セシメタガ、寧ロ得策デ彼等ノ喜ブ所デアラウ。從ツテ初ノ頃ハ他所ヨリ來レル人達ヲ決シテ入レナカツタツノ地ノ里甲モ追々ヤムナク入レルヤウニナツテ來タ。イハハ荆襄ノ流民ニ對シテモ前ニ巡撫トナツタ項忠ヤ楊璿ハ一モ二モナク令ヲ下シテ逐ヒ拂フタモノダガ、後ニ牧民シタ李賓ヤ原傑ナドハツトメテソノ流民ヲ土着セシムル政策ヲ施シタモノデアル。ケレドモカ、ル流民ハタバアソコガ食ヘソウダナドノ噂ヲ信ジテ來ルモノモ多イノダカラ、蠶ノヤウニソノ散布ガ必ズシモ面白イトイヘナイ。ソコデ第三法ノ他ノ土ニ移スコトガ起ラネバナラス。元來政治殊ニ支那ノ政治ハ寡ヲ患ヘズシテ均シカラザルヲ患フルモノナレバ、人ト土トノ按配ヲヨホド巧ニ行ヒ、人ト土トガ萬遍ナク過モ不足モナイヤウニ心掛ケルヲ必要トスル。ダカラマズ故郷ヘ歸レトイフヲモ歸ラズ、ソウカトテ其地ニアルモ田地サヘ持テソウモナイ連中ヲ、強迫的ニ北方ヤ邊疆ノ稀薄ナ所ニ運ビ行ク。永樂元年ニコレラノ流民ヲシテ北京附近ノ佃民トシタコトハ確ニソレヲ證明スルモノデアラウ。マタカク強迫的デナクトモ自由ニ招募ニ應ゼシメテ各地ニ餘地ヲ求メテ土着セシムルコトモ尠クナイ。ソレモ四庫全書ニ收メラレタ商輅ノ招撫流移疏ヲ見レバ、流民ノ多カリソウナ所ヘ榜文ヲ掲ゲテ招キ北邊ヘ安住セシメタコトヲ充分ニ觀察シ得ヤウ。

制度ハソレノ立派デアルケレド心態ノ曲ツタ官吏ニ流民ノ救濟ナドノ出來タモノデナカラウ

ソレハ歷朝ノ、型ニ箝ツテ流民カラ崩壊スルノデモ察セラル。故ニ吾等ハ宮廷ノ美シイ歴史モ歴史ニ相違ナイガ流民ノ機ラシイ歴史モ歴史デアルコトヲ、マタ寧シク歴史デアルナラバ宮廷モ流民モ同ジク歴史ヲ推移セシムル動機タルニ異イナイコトヲ是認セネバナラス。然ラバ宮廷ノ歴史ヲ説クト共ニ流民ノ歴史ヲモ説カネバナラス、タゞ前者ガ權勢ノ欲望ニ支配サル、ニ反シ後者ハ生活ノ欲望ニ支配サル、ノミト思フ。(一九二〇・一一・二六)

清代ノ廣東貿易 (第四回、完)

稻 葉 岩 吉

一五、行 欠 Hong debts

江寧條約 (A.D.1842) ノ第五條ニハ、左ノ正文ガアル。

清國政府ハ、廣東ニ於テ通商シタル英國商民ヲシテ、必ズ其目的ノ爲メニ清國政府ヨリ特權ヲ得タル行商(公行)ト特ニ通商セシメタリシガ、清國皇帝ハ、將來英商ノ居住スベキ各港ニ於テ其例ヲ廢シ、何人モ通商貿易ニ從事シ得ルコトヲ許スベキヲ約ス、尙ホ清國皇帝陛下ハ英國政府ニ對シ、洋銀三百萬弗ヲ支拂フヲ約ス、コレ英國臣民ヨリ多額ノ負債ヲ起シ、支拂無能力トナリタル行商即公行ノ債務ノ爲メナリ。

本文ノ行商即公行 (Hong merchants, or Co-Hong) ノ債務ハ、行欠ニ相當シ、約條正文ニ計上サレタ三百萬弗ハ、ソレノ全體デアルカ否カハ別ニ議スベキモ、行商ガ、久シキヨリ外商ニ債務ヲ負フテ居タコトハ事實デアッタ。

行欠ニ關シテハ、粵海關ノ諸記錄ノ上ニ散見サレルノデアルガ、ソレガ海關ノ重大問題ヲナシタノハ、乾隆二十五年 (A.D.1760) 前後デアッタ、即チ乾隆二十五年トイヘバ、廣東ガ支那ニ於ケル唯一貿易港タル指定ヲ得タ時ヨリ僅三年内外ヲ出テ居ラヌノデアルガ、早ヤ行欠ノ事情ノ現ハレタトイフコトハ、興味アル問題トイハネバナラス。廣東貿易ノ取引ニ關スル特質ハ、前回禁止令ノ際ニモ述べタ通り、物物交換ヲ原則トナシ、ソノ差額ダケ銀貨ヲ以テ授受ストイフノデアッタ。貿易ガ平調ニ行ハレ、輸出入ノ差額ノ鉅大ナラザル場合ハトモアレ、否ラザル時ニハ、内外何レカノ一方ニ於テ、相當銀貨ヲ取扱ハナケレバナラヌノデアルガ、支那ハ、ソノ紋銀輸出ノ禁止サレテアル以上、行商側ニ所持スル銀貨ハ多カラズ、隨テ、行商ハ、外人ニ對シテ、一種ノ債務ヲ負ハナケレバナライコトニナル、ソレハ必然ノ經過デアッタ。もゝすノ指摘スルトコロニヨレバ、カ、ル際ニ於ケル負債償却ハ、外國貿易ノ附加税ニヨリテ供給セラレタ、即チソノ割合タル、綠茶一擔ニ付キ一兩二、黑茶六百二十文、而シテ絹ハ六兩ナリキ」トイツテ居ル。

更ラニ負債ノ發生サル、場合ノ一ハ、行商ニ對スル外人ノ投資デアッタ。外人ハ早クモ廣東市面ニ於ケル金融、及ビソノ高利ヲ狙ツテ、利益ヲ獲得シタノデアッタ。もゝすハ、行商ガ、債務ヲ仕拂切レナクナッタ最初ノ記錄ハ、乾隆三十九年 (A.D.1774) ニ始マルトイフ。支那記錄ニ

ヨレバ、政府ガ、交結外國詎騙財物例トイフ新律ヲ公布シ、外國人ヨリ借入レタ銀ハ、査追沒收
スト布告シタノハ、乾隆二十四年中ノコトデアル（もゝすハ乾隆二十五年ニ始マルトイツテ居ル）
トイツテ居ルニ徴シ、廣東市面ノ外資ハ、既ニ相當ノ威力ヲ示シテ居ツタコトガ分カル。支那記
録ニ現ハレタ行缺ノ最初ノモノハ、乾隆四十五年ノ行商顏時瑛、張天球事件デアッタ。左ノ如シ。
乾隆四十五年、刑部奏シ言フ、廣東巡撫李侍堯奏稱ス、乾隆二十五年ノ議准ニ、内地行店ニシ
テ、夷人ニ向ヒ、禁ニ違ヒ、借貸勾結スルモノアラバ、外國詎騙財物例ニ照シテ問擬シ、所借
ノ銀ハ、査追入官トアリ。例禁ヲ申明セルヨリ後、二十年來、各國夷商ノ交易、年清年欸シ、
從テ夷商ヲ施缺スルノ事ナカリキ、詎ゾ上年九月、いざりす國土名咬咄喇吵船一隻、船主噴
嗽ナルモノアリ、港脚鬼子ヲ順帶シ、番稟一封ヲ呈出シ、内ニ稱ス、廣東行商、夷人ノ銀兩ヲ
欠スルコト甚ダ多シ、求ム行商ヲシテ還回セシメヨト。ヨリテ、各國夷商大班ニ傳諭シテ、傳
詢セルニ、據リテ稱ス、本國王吩咐アリ、放債シテ、天朝ノ禁令ニ違フアルヲ許サズ、二十年
來俱ニコレ年清年楚、並ビニ私ニ相借貸スルノ事ナシ。或ハ我國港脚ノ不肖鬼子アリテ、番銀
ヲ攜帶シテ來廣シ、私債ヲ偷放セルモ亦タ定ムベカラズト。隨テ大班等ノ報聞ニ據ルニ、放債鬼
子共ニ十一人アリ。泰和行ノ顏時瑛ハ夷人ノ本利番錢一百三十五萬四千餘圓ヲ欠シ、裕源行張
天球ハ夷人ノ本利番錢四十三萬八千餘圓ヲ欠ス。張天球ノ供實ニ據ルニ、止ダ夷人ノ銀十餘兩
ヲ欠セルノミ、夷人利銀ヲ將テ一併ニ作本シ、換票收執、疊滾加息二十餘年、コ、ヲ以テ積ム
コトカクノ如キノ多キニ至レリ。査スルニ、夷人禁ニ違ヒテ放債シ、又タ復タ重利滾息ス、自

ラ應サニ例ニ照ラシテ追銀入官スベシ、但ダ放債二十五年例禁ノ先ニアリ、皇上遠人ヲ綏柔スルノ至意ヲ仰體シ、其原本ヲ按ジ、例ニ照ラシテ一倍ノ息ヲ加ヒテ追還セシメヨ。顏張二人ハ原捐ノ職銜ヲ革去シ、交結外國詎騙財物例ニ照シ、遠邊ニ發シテ軍ニ充シ、所有貲財房屋ハ、地方官ニ交シ、悉ク查明ヲ行ヒテ、估變シ、應完ノ餉銀ヲ控繳スルヲ除クノ外、俱ニ夷人ニ付シテ收領シ、併セテ辦理ノ緣由ヲトツテ、該大班ニ剴切曉諭シ、ソレヲシテ該國王ニ轉知シテ、港脚鬼子ヲ嚴飭セシメ、嗣後、禁ニ違ヒテ放債スルヲ許サズ。モシ再ビ犯スコトアラバ、即チ追銀入官シテ、驅逐回國セシメヨ云々、旨ヲ奉ズ、議ニ依レト。(粵海關志卷二十六所引)

律ノ正文ハ、カナリ峻嚴デアツタトイハネバナラヌ、而モ放債ハ、活潑ニ行ハレタ。外人ノ重利疊滾ハ、サルコトナガラ、行商等ハ、無遠慮ニ借財シ、債務ニツイテ眞面目デハナカッタ。而カモンノ背後ニ飽クナキ支那官憲ノ誅求ガアリ、ソレガ行商等ヲ窮迫ニ導クモノデアツタカラ、所謂行欠ハ、年々ニ増加スルノ一方ニアツタ。

もゝすノコノ點ニ關シテノ記述ハ、精緻デアル。彼レハ「公行ハ、外國貿易ヨリ利益ヲ搾取スル搾乳者ト解セラレ、ソノ成シ得ル限りヲ搾取セリ。コノ特權ヲ得ントセバ、豫メ多大ノ金額ヲ要ス、即チコノ組合ニ入ラントスルモノハ、二十萬兩ヲ出サルベカラズ、然ルニ、道光八年ニ至リ、外國商人等ガ、コノ組合員ヲ本來ノ員數ニ復スベキ要求ヲ提出セシ頃ニハ、既ニソノ組合員タルニ必要ナル金額ノ負債ヲ爲スモノ發生セリ」トイヒ、「抑モコノ組合ハ、公益ノタメ、時々五萬兩乃至十萬兩ノ義捐金ヲナサルベカラズ、例ヘバ飢饉ノ場合、或ハ黃河ノ氾濫セシ場合、

或ハ子弟ノ爲メニ官職ヲ購フ場合ニ於ケルガコトシ。尙ホ道光十一年ノ勅令ニヨリテ、支那商ノ外商ヨリ受ケタル負債ガ償却セラレシ際ニ、組合員ノアルモノハ、百十萬弗ヲ義捐シ、ソノ他ノモノ又タ之ニ準セリ、道光二十一年中、廣東市ノ賠償ニ際シテモ、同上ノモノ、百萬弗ヲ義捐セリト説明シ、二千六百萬弗ノ費ヲ據有シ、世界當時ノ最大富商ト知ラレタル行商スラ、ソノ衰頹ハ、避ケガタイ官憲ノ壓迫誅求ニヨルモノナルコトヲ指摘シテ居ル。(モース國際支那 The Canton factories, the Quiescent policy 各節參照)。

支那側ノ記錄ニハ不十分デアルケレドモ、外國記錄ニハ、行欠ノ數目ガ、カナリ詳細ニ計上サレタル。顯著ナルモノヲ舉グレバ、西紀一七七四(乾隆三九)年代ノ二十六萬六千六百七十二弗ヲ手始メトシテ、一七七九(乾隆四四)年代ニハ、元利合計四百二十九萬六千六百五十弗、一八一〇(嘉慶一五)年代ニハ東印度會社ヨリ約百九十五萬弗同一三年(嘉慶一八)ニハ五商社員負債合計三百九十六萬四千百九十七弗等、ソレヲハ、種々ノ方便ニヨリテ支拂ハレタガ、一八三六年(道光一六)年代ニナツテ、興泰行ニ對スル外人ノ要求額ハ、二百七十三萬八千七百六十八弗ノ大數ヲ見ルニ及ビ、興泰ハヤガタ破産シタ。モースノコノ際ニ於ケル經過ニハ、左ノ興味アル事實ヲ述べテ居ル。

一八三七年四月二十一日、興泰行ノコトニ關係セル外商等ハ、一般公行ヲ動カシテ、興泰ノ負債償却ニ對スル命令下布ヲ、總督ニ要求シタ。總督ハ答フルニ、先ヅカ、ル短期日ニ於テ、斯カル巨額ノ負債ヲ蒙リシニツイテ驚愕ノ意ヲ表ハシ、行商等ハ須ラク之ヲ調査シ、ソノ結果ヲ

報告スベク、然ル後ニ相共ニ責任ヲ負擔スベキヲ述べ、外人ニ一種ノ保證ヲ附與シタ。外人等ハ、六月二十日ヲ以テ、再ビ總督ニ負債償却ノ實行ニツキテ迫ルトコロアツタ。總督ハ、マタ調査ヲ命ジタ。七月一日、外人ハ、興泰ノ頭取ヲソノ郷里ナル南京ヨリ召還センコトヲ要求シタ。總督ハ、速ニ調査セシムルトコロニアツタ。コノ命令ハ、ソノ後七月二十日ニモ、九月十三日ニモ、十二月一日ニモ發セラレタ。サレド、十二月十七日ノ命令ハ、コノ再三再四要求セラレタ償還ノ件ニ從ヒ能ハザルコトヲ示シタノデアル。恰モ、コノ際ニさんぐわノ財務ノ清算ガ協定セラレタ、コノ商社ハ久シキ以前ヨリ破産ノ情態ニ在リ、負債額一百萬弗トイハレテアツタガ、コノ清算ニ於テ、興泰ト同ジク皆済サルベキモノトノ協定ガ出來タ。而シテ公行員ハ、コノ間ニ在リテ、ソノ責任ヲ負ヒ、債權者等ガ要求スル支拂方法ノ、年賦ヲ以テ五年若クハ六年トナスヲ無利子ニシテ十五年償却ヲ申出タガ、後ニハ十二年ニ改メタ。カクシテ、此事件ハ當該地方官廳ノ報告ニヨルモノトナリ、之ニ關スル件ハ、地方出納官ト審査官ノ手ニ移サレタ。コノ官憲ノ報告ニヨレバ、興泰行ニハ十萬弗、さんぐわニハ二十四萬弗、而シテふあつとぐわニハ四十一萬八千弗ノ關稅未拂額ニヨル負債アルヲイツタ。十二年支拂ノ條件ノ下ニ債務ハ、遂行セラルベキ筈ニアツタ。而モ若シ急激ニコノ償還ヲ迫ルナラバ、公行ハ、或ハ責任ヲ否認スルニ至ルコトアルベキヲ警告シタノデアル。債務者ハ、今ヤ辛抱シキレナクナツタ。ソコデ、一八三八年（道光一九）三月二十一日附ヲ以テ、再ビ總督ノ注意ヲ喚起シ、而テ後、ぱーまーすとんニ宛テ建白書ヲ送り、事情ヲ具陳シタノデアル、ソノ結果、負債ハ、年賦ニテ拂フコト

、ナリ、興泰ハ無利子ニテ八年半ニ、きんぐわニハ六分ノ利子ヲ以テ十年間ニ皆済スベキコトニ協定セラレタ。興泰ノ負債ニ於ケル四分ノ第一回配當金九萬四百五十七弗ハ、一八三八年十一月三十日ニ仕拂ハレ、三分第二回配當金六萬七千八百四十三弗ハ、一八三九年二月四日ヲ以テ仕拂ハレ、きんぐわノ負債ニ於ケル四分ノ第一回配當金四萬弗ハ、一八三九年一月十四日ニ於テ仕拂ハレタガ、コノ他ニ於テ仕拂ハレタモノハ唯ノ一錢モ無カツタ斯クテコノ事件ハ、遂ニ南京條約第五條ニ定メラル、ニ至ツタ、云々。

一六、結 言

清代ノ廣東貿易ガ公行ニヨリテ獨占セラレ、而カモソノ組織ノ、敢テ創造的デナカツタコトハ明白デアル。公行ハ、元明時代ノ貿易ノ承繼デアリ、清代ニ於テハ、ソレヲ廣東一港ニ局限シタダケノコトデアツタ。制度ノ上ニ就テハ、前代トノ類似ガ多イ。明代ニ在テハ、貿易ハ市舶司ニヨリテ取扱ハレタ、而シテソレニハ市舶大監ト稱スル天子ノ近侍ガ、欽派サレタ。コノ事實ヲ粵海關ノ場合ニ見ルニ、海關監督ガ、滿人ニノミ限定サレテアツタコトニ一致ストイハナケレバナラス。カク監督ヲ地方ニ委任セズ、専ラ中央ヨリ派遣シタコトハ、廣東貿易ヲ特別ニ尊重シタコトニ與カリ、同時、北京政府ノ廣東ニ對スル觸感ガ鋭敏デアツタコトヲ證スル。清朝ノ一野乗ハ、下ノ如キ逸話ヲ傳ヘテ居ル。「或ル歲晩デアツタ、大和殿ノ寒イ夜ヲ唯タ一人ノ老人ガ、宿直ノタメニ取り殘サレテアツタ、夜半高貴ノ方ラシイ偉丈夫ガ、ソコニ現ハレ、宿直者ニ話シカケタ。彼レハ老人

ノ謹慎ナル態度ヲ賞讃シタ後、何物カ其ノ欲スルマ、ノ褒美ヲ取ラセヤウトイツタ。老人ハ臆シナガラモ自分ハ廣東ノ一河泊所ノ官吏トナリタイ、廣東ハ格別ニ收入ノアルトコロデアルカラトイツタ。偉丈夫ハ笑ツテ首肯シテ去ツタ。詎ゾ知ラン、コノ偉丈夫コソ時ノ天子(雍正)ナラントハ。翌日、直ニコノ老人ヲ呼ビ出シテ、希望ノマ、ノ官職ヲ與ヘタ。トイフノデアル。コノ話ハ、雍正帝ガ微行ヲ好ミ、下情ニ通ジテ居ルトイフ證明ヲ主トシタノデアルケレドモ、吾人ハ、ソレヨリモ、廣東ナルモノガ、イカニ北京ニ理解サレテアツタカ、滿洲旗人ノ一老人ニスラ、カウシタ感觸ガアツタトイフコトハ、寧ロ興味アル事實デアルコト、思フ。

廣東貿易ニヨル利益ハ、外人ガソノ屈辱的待遇ヲ隱忍シツ、モ、ソレニ從事シタコトノ長久ナルニ考ヒ、最モ諒解ヲ得ナケレバナラヌ。モ一すニハ、下ノ記述ガアル。

情況カクノ如キニ關ハラズ、商館(十三洋行)ニ住メル外商等ハ、其支那商人ニ對スル位置關係ニ就キテ、敢テ不平ヲ抱タトイフノデハナカツタ。公行制度ハ、專業權ヲ獲取セシモノノ如キモ、尙ホ總ジテ之ニ關スル軋轢ハ、殆ンド起ラナカツタトイツテモヨイ。外國人等ハソノ本國市場ト遠隔シ、又タ交通ノ容易ナラザルコトニヨリテ、寧ロ彼等ノ專業權ヲ喜ンデ居タ。サレド東印度會社ハ、依然トシテ、英國トノ貿易ノ獨占ヲ保チ、コノ當時ニ於ケル株式ノ配當金ハ、支那トノ通商ニヨリタル利益ノミデ之ヲ支拂ツテ居ツタ。外國商人等ハ、船舶ニ對スル稅、及ビ公所基金ヘノ寄附ヲ除キテハ、税金トシテハ、直接ニ一錢ダモ支拂フ必要ハナカツタ。又ソノ目前ニ致サル、強奪ハ、一モ受クルコトナカツタ。サレバ、又商館ノ中ノ借家ニ閉デ込メラ

レタル其不愉快ナル生活ニ甘ジテ更ニ希望アル充足ノ途ヲ講ゼナクナツタ。

カ、ル説明ハ、或ル程度マデ信用セラレ得ベキ性質ノモノデアル。種々ノ點ニ於テ一致ヲ見出サル、我長崎出島ノ蘭人生活ハ、廣東 Factory ノソレニ比較シテ、敢テ下ルモノデハナカッタガ、蘭人ハソレニモ拘ハラズ、幕府ノ歡心ヲ求メツ、アツタ。もゝすハ、諸記録ニヨリテ、コノ間ノ説明ヲ試ミテ居ル。

種々ノ事件ニツキテ最良ノ説明ハ、コノ支那商人ト外商トイフ親密ナル競争者ノ間ニ存スル個人關係ニアル。コノ兩者ハ商業上ノ名譽ト誠實トニ於テハ、時ノ古今、洋ノ東西ヲ問ハズ、之ニ並ブモノナシト聞エテ居ル。即チ彼等間ノ商行爲ハ契約書類ニヨラズ、全然口頭ノ誓ニ成ツタ。而シテ又タ相互ノ關係ハ外國貿易ニ於テ能ク効ヲ奏シタ。公行ノ制度ガ、外商ヲシテ生計ヲ得セシメタルノミナラズ、尙相應ノ財産ヲ積マシメタルコト、及ビ組合員ノ一人ガ、財政困難ニ陥リタ外商ノ負債ヲ償却スルトイフコトハ、支那商ノ同情ニヨルト稱セラル、ケレドモ、一面ヨリ視レバ、カクノ如キ同情ハ、莫大ナル利益ノ餘裕アルベシトノ事實ニ想到セシムルノデアル。

勿論外人ニハ、地位ノ低下ニ關シテノ不平ガアリ、ソレハ、折ニ觸レ機ニ觸レテ問題ヲナシタケレドモ、乾隆時代ヨリ嘉慶時代マデハ、尙ホ平穩ノ狀態ニアツタラシイ。此等ノ點ヨリ見レバ一八四二年ノ戰爭ノ原因ヲ以テ、直ニ東廣生活ノ束縛ニアリト視做スコトノ、必シモ全體デナイコトハ明白デアル。

シカシナガラ、以上ノ推測ハ貿易狀態ガ平穩ニ行ハレタ際ノコトデアル。公行ノ財政上ノ窮迫ガ年々ニ増加スルコトヲ目撃シ、而モ、ソノ窮迫ハ、官憲ノ誅求ニ關連シ、又タソノ放資ノ不安ニ陷リテ、債務者ノ責任ノ毫モ認メラレナイトイフ果敢ナイ事實ヲ見ルニ至ツテ、外人ノ決シテ、現狀ニ甘ズルモノデナイコトハ、想像サレルノデアルガ、支那商ガ、ソノ國家ノ政治的腐敗内亂ニ影響シテ、益々不如意ナルニ反シ、外人間ニハ格段ナル一事實ガ發生シタ。ソレハ、英國ノ東印度會社ガ一八三四(道光一四)四月ヲ以テ、支那ニ對スル專業權ノ廢止サレ、同時、人民ノ自由貿易ガ獎勵セラル、ニ及ビテ、英國ノ活躍ガ非常ノ進歩ヲ加ヘタ、左表ヲ見ヨ。

輪 入	英	人	米	人	合	計
一八三一—三二年	二〇、五二〇、〇二七	弗	二、三八三、六八五	弗	二二、九〇三、七一二	弗
同	一八三六—三七年	三四、四三三、六二二	三、二一四、七二六		三七、六五〇、三四八	
増 加	一三、九一五、五九五	八三一、〇四一		一四、七四六、六三六	
輪 出	一八三一—三二年	一三、二一六、四八三	五、九九九、七三二		一九、二一六、二一五	
同	一八三六—三七年	二五、三三九、二八四	九、五二七、一三九		三四、八六六、四二三	
増 加	一二、一二二、八〇一	三、五二七、四〇七		一五、六五〇、二〇八	

「英人ノ專業ハ廢止セラレタ、英商者等ハ、牧羊者ナキ羊ノ如クニ放タレメ」トノもゝすノ批評ハ適切デアツタ、但ダ一方英人ノカ、ル新タナル態度ニ對立シテ、支那ハ依然獨占權ニヨル公行ヲ放棄セズ、從ツテ英人貿易ガ發達スレバスルホド、公行ニ對スル不平ハ増加スルコトニナル。ソレハ必然デアツタ。もゝすが「英人等ハ商業上占ムルトコロノ地位ノ薄弱ナルヨリシテ、又ソ

ノ政治上社交上及ビ個人關係ニ於テ、更ニ深遠ナル感情ヲ惹起スルニ至ツタ」ト評シタノハ味フベキコトデアル。

不幸ニモ、阿片問題ハ、カウシタ氛圍氣ノ只真中ニツキ落サレタ。實ニ阿片ノ密輸入ハ外人ノ自由ナル貿易ヲ調節スルニ倔強ノ題材デアルト解セラレタノデアル。コレマコトニ支那ニ取リテ逃レガタイ運命ノ下ニアツタ。

傳統の運命ノ下ニソノ絶對權ヲ誇リツ、アツタ公行モ、憐レ阿片戰爭ニヨリテ最後ヲトメタノデアル。阿片戰爭ハ好マシクナイコトデアツタケレドモ、英人ノ獲得シタ公行ノ撤回ノ要求ハ、近代經濟史ニ特筆サルモノデナケレバナラス。但タ南京條約ト、モニ多クノ開港場ガ現ハレ、ソコニ英人等ノ通商ヲ行フニ際シテ、彼外人ハ、好ミテ買辦ヲ使用シ、ソノ慣習ハ今日ニ及ンデ居ルガ、買辦制度ハ、或ル意味ノ公行 *Company* デアルトイッテモヨイ。買辦制度ヲ撤回セナケレバ、南京條約ノ眞精神ハ透過セズニアルモノトイフコトガ出來ヤウ。コレ即チ吾人ノ面前ニ提出セラレツ、アル未解決ノ問題デアリ、而モソレガ廣東貿易ヨリノ連鎖デアルノデアル。(完)

支那ノ銀ニ就テ (二)

水 田 淳 亮

六

次ハ唐ノ時代デアルガ、即チ西紀六一八年カラ初マツテ約三百年ニ亘レル唐朝ハ史上ニ所謂漢族雄飛時代ト稱セラル、所ノモノデアリ且ツ後世ニ於テ治術ノ洪範ヲコノ時代ニ則ツタトイハレル程ノ時代デアアルガ、貨幣殊ニ商品貨幣タル銀ニ對シテ採ツタ所ノ政策ヲ見ルト所謂王道の思想ヲ基調トシタモノデアルトハイヘ却テ其弊竇ニ墮シテ仕舞ツテ極メテ固陋ナル點ガ少クナカタコトニ氣ガ付クノデアアル、尤モコノ點ダケヲ捉ヘテ論ズルナラバソレハ獨リ唐ニ限ラレタ譯ノモノデナク支那否恐ラクハ東洋全體ヲ通ジテノ政治思想ノ根本特徵ヲナスモノデアアルカモ知レナイガ、ソハ唐ニ於テ殊ニ色彩鮮明ニ且ツ極端ナ政策トナツテ顯ハレタノデアアル、而テソガ細節ニ至ツテハ以下筆ヲ進ムルニ從ツテ徐々ニ其要旨ヲ展開サセヨウト欲スルモノデアアルガ、先以テ當時ニ於ケル銀幣ノ流通ニ就テ記スナラバ黃宗義ノ明夷待訪錄ニハ

大歷(西紀七六六年)以前嶺南用錢之外雜以金銀丹砂象齒

トアル、コレハ何ヲ典據トシタモノカ知ラナイガ前節ニ引用シテ置イタ交趾廣東廣西方面ノ金銀

流通トイフコトト一致スルモノデアル、而テ有名ナ韓退之（西紀七六八—八二四年）ノ錢重物輕狀（韓昌黎全集第三十七卷）ニヨルト「五嶺買賣一以銀」トアリ、又コレト同ジ意味ノ史料トシテハ白居易ト并ンデ詩名ノ高カツタ元稹（西紀七八〇—八三一年）ノ奏狀（日知錄ニヨル）ノ中ニ

自嶺已南以金銀爲貨幣自巳以外以鹽帛爲交易黔巫峽用水銀朱砂繒綵巾帽以相市

トイフ文句ガアル、上來引用セル所ニヨツテ見ルト銀幣利用ノ程度ハ時ニヨリ場所ニヨリ相異ガアリ流通區域モ擴大シタモノト考ヘラレルノデアルガ、兎ニ角南方地方ガ前代以來引續キ銀幣流通地帶デアツタトイフコトダケハ疑ヲ容ル、餘地ガナイノデアル。

然ルニコ、ニ注意ヲ要スルハ銀幣流通地帶タル嶺南地方ハ同時ニ銀ヲ毎年ノ貢獻トンタコトデアル、杜氏通典ニ從ヘバ

始安郡（桂州）貢銀百兩

江夏郡（鄂州）新興郡（新州）寧仁郡（黨州）各貢銀五十兩

臨賀郡（賀州）貢銀三十兩

ヲ初トシ、其他ノ二十七郡カラ各貢銀銀五十兩ヲ致シタコトガ記シテアル、其郡州名ヲ掲ゲルト次ノ通りデアル。

邵陽郡（邵州）高要郡（端州）平樂郡（昭州）南潘郡（潘州）陵水郡（辨州）高涼郡（高州）

臨江郡（龔州）潯江郡（潯州）循德郡（嚴州）臨封郡（封州）南陵郡（春州）招義郡（羅州）

定川郡(牢州) 懷德郡(賓州) 寧浦郡(橫州) 象郡(象州) 開陽郡(瀧州) 感義郡(藤州)
 平琴郡(平琴州) 合浦郡(廉州) 連城郡(義州) 龍城郡(柳州) 同陵郡(勤州) 晋康郡(康州)
 恩平郡(恩州) 朱崖郡(崖州) 萬安郡(萬安州)

シカモ以上ノ中邵鄂二州ヲ除クノ外ハスベテ南部地方即チ廣東廣西ニ在ルノデアツテコレニヨツ
 テ當時ノ銀產地モ判然スルト同時ニコノ地方ガ銀幣流通地帶タリシ關係モ首肯シ得ラル、コト、
 思フ、而テ燃料其他ノ都合デ後世ニ至ツテ產額ガ減ジタカト思ハル、頃ニハ更ニ雲南方面ノ開採
 ガ進ンデ來テ豐富トハイハレナイガコノ南部支那一帶ノ地ガ支那國產銀ノ源流トナツテ絶エズ一
 部ノ供給ヲ續ケタコトハ注意シナケレバナラヌ點デアル、而テ清ノ姚文枬トイフ人ノ用銀利弊論
 ヲ見ルト嶺南ガ銀幣地帶タルノ理由ヲ

蓋地瀕南海坑冶多而海舶利也

トシテ居ルソシテ顧炎武ノ說ハ明ニハ知り難イガ恐ラクコレト同意見デハナイカト思ハレル節ガ
 アル、余モ亦上來檢討シタ所カラ斷定シテ銀流通ノ第一原因ヲ附近一帶ノ銀產額ノ多キニ歸スル
 モノデテル。

(註)日知錄モ原註ノ中ニ唐代貢銀ノコトヲ引用シテ居ルガ通典ト照シ合シテ見ルト唯一ツ其州名ニ一致シナイ所ノモノガアル
 即チ日知錄ノ註デハ「其土貢則貴州貢銀百兩」ト出テ居ルガ通典ニハ貴州トイフ州名及ビコレニ該當スル郡名ノ下ニハ他

ノ土貢ガ記シテアツテ銀ガ出テ居ナイ其代リニ始安郡今桂州トアル下ニ貢銀百兩ト見エテ居ル異本ヲ參看スルコトガ出來
ナイカラ何レトモ斷言シ兼ヌルガ桂州ハ今ノ廣西省ニアリ地理書ヲ見テモ銀銅朱砂玉石等ヲ產スルコトガ記シテアルカラ
コノ方ヲ正確ナモノト認ムベキデアラウ

七

サテ以上ノ如ク南方支那ガ銀幣流通地帶デアルニ對シテ中部支那ハ如何カト見ルトコノ方面ハ
概シテ銅幣流通區域デアツタ、然ルニコ、ニ銀ニ對スル關係上注意ヲ要スルハ唐ニ入ツテ後ハ銅
幣ノ需給ガ次第ニ不調ノ度ヲ高メテ來タコトデアツテコレニ應ズル對策ハ種々ノ形式ヲトツテ
顯ハレテ來タ、即チ積極の方策トシテハ生産政策詳言スレバ銅產額ノ増加策モ講ゼラレ又銷鎔禁
止トカ域外流出禁止トカイフ消極的ナ策モ行ハレタガ何レカトイヘバ前者ヨリモ寧ロ後者ノ消極
的方策ニ力瘤ヲ入レタカニ考ヘラレルノデアル、而テコノ外貞元二十年（西紀八〇四年）カラ太
和四年（西紀八三〇年）マデノ間ニハ綾羅絹布ノ類ヲ兼用セシムルトカ十緡若クハ百緡以上ハ布帛
粟等ヲ參ヘ用ヒシムルトカイフ禁令ヲ發シ所謂物品貨幣ノ代替ヲ強制スルコトニヨツテ幾分デモ
錢幣ノ節約ヲ計ラントスルガ如キ姑息策ニ出タコトモアル、今コノ點ニツキ詳說スルハ本題ノ範
圍外ノコトデアルカラ措クガ要スルニコレヲノ策タルヤ何レモ當時ノ所謂錢重物輕ノ壓迫ニ對應

セシメンガタメノモノデアツテ場合ニヨツテハ自然經濟ヘノ逆轉ヲモ敢テ厭ハナカツタコトハ注意シナケレバナラヌ點デアル。

サテ再ビ本題ニ戻ツテ銀ニ就テ記スト今イツタヤウナ政策ノ行ハレタ時代ノコトデアルカラ積極的ニ銀坑ヲ開發シテ時務ノ急ニ備フルガ如キコトモ行ハレナカツタ、又一方ニ疆外トノ通商ガ飛錢ノ出現ヲ促シタ一理由トセラルコトナドカラ當然便利ナ金銀ガ盛ニ需要セラレタデアラウト考ヘラレルガ事實ハコレニ反シテ漢代以後ハ却テ金銀ノ利用ガ減ジテ來テ居ルノデアル、ソシテ金銀尊重思想又ハ尙銀思想ドコロカ反對ニ賤銀思想ヲ散見スルトイフコトハ甚ダ怪ムベキ事柄デアル、而テソレハ畢竟王道的思想カラ胚胎シタ謬レル思想デアルトイハナケレバナラヌ今余ハコノ思想所有ノ一例トシテ太宗ヲ舉ゲルコトガ出來ル、貞觀ノ初ノコトデアルガ侍御史權萬紀ガ宣饒二州ノ銀坑ノ有望ナルニ着眼シテコレヲ開採セシメ稅銀法ヲ適用センコトヲ上言シタ所ガ太宗ノ答ハ次ノヤウデアツタ

朕之所乏者非財也但恨無嘉言可以利民耳卿未嘗進一賢退一不肖而專言稅銀之利欲次恒靈視我邪

コレガタメニ萬紀ハ遂ニ黜ケラレテ仕舞ツタトノコトデアルガコノ紀事ハ色々異ツタ解釋モサレヨウガ余ハコレヲ以テ財貨殊ニ銀ニ對シテ如何ニ嚴肅主義者流ノ見解ヲ以テ臨ンダカノ一例ト

シテ見タイノデアル、シカモコノ思想ハ決シテ太宗一人ノ思想デハナク當時ノ多數人ノ頭ヲ支配シテ居タ所ノモノデアリ同時ニ恐ラク唐代全體ヲ通ジテノ時代思想ノ一デアツタト言ヒタイ、勿論儒教ヲ以テ規準原理トセル當時ノ政治思想ハ畢竟民衆ノ精神的醇化境地ノ出現ヲ理想境トスルノデアツテソレニハ儉素ノ徳目ハ第一ニ修養シナケレバナラヌモノデアル、然ルニコノ徳目ノ内包スル所ハ多クノ場合財若クハ欲望ヲ否認スル所ノ物質賤視主義又ハ禁欲主義ト相隣セルモノデアル、果然コノ思想ノ潛流ハ後ニ至ツテ更ニ一層明瞭ニ憲宗ノ政策ノ上ニ顯ハレテ來タ。

ソレハ元和三年（西紀八〇八年）ノコトデアルガ鑛政ニ關スル詔勅ガ發セラレタ、コレハ當時行ハレテ居タ銀ノ採掘ヲ全然禁止セシメヤウトイフ主旨ノモノデアツタ、其文ニ曰フ

天下有銀之山必有銅鑛銅者可資於鼓鑄銀者無益於生人權其重輕使務專一其天下自五嶺以北採

銀坑宜禁斷

コノ詔勅ノ意味ハ銅ハ鑄錢ノ材料ニ充テルコトガ出來ルカラヨイガ銀ハカ、ル實用ニ適シナイモノデアルカラ銅ノ採掘ニハ全力ヲ注イデ銀ノ採掘ハ嶺南以外デハ全然禁止スルトイフノデアル今コノ禁令ニ關スル卑見ヲ述ベル前ニ順序上當時ノ採鑛狀況ヲ記ストコレヨリ先、後魏ノ時銀坑ノ發見アリ銀官ヲ置イテ採銀ノコトヲ司ラシメタコトガアルガ、唐ニ入ツテ後ハ初ハ銅鐵ノ二種ニ對シテ採鑛課稅法ヲ制定適用シ次デ其中葉頃ニハ銀ニモ課稅シタコトガアル、然ルニ余ガコ

、デ説明スルマデモナク銀ハ多クハ金銅鉛等ノ金屬ニ伴フテ産スルモノデアツテ單獨ニ産出スルコトハ少イ、而テ唐ノ賤銀思想ハ非常ニ激シカツタトハイフモノ、鑄錢ニ必要ナ銅ノ採掘ヲ認メル以上全然銀ノ採取ヲ爲サシメナイトイフコトハ言フベクシテ行ハレナイ事柄デアル、ニモ係ラズ、一方ニ銅ノ採掘ヲ獎勵シツ、他方ニ採銀ヲ禁止スルガ如キハ極メテ迂遠ナル方策ト考ヘザルヲ得ナイ、而テ前記ノ稅銀制度ノ如キハ收入主義カラ來タモノカソレトモ銅鐵ニ對スル課稅ノ權衡上カラ起ツタモノカソノ理由ニ就テハ余ハ斷定ヲ下スダケノ資料ヲ有セザルモノデアル。

サテ銀ハ前ニモ引用シテ置イタ通り或時ハ下幣トセラレ或ル時ハ中幣トセラレナガラ賞賜ニ器飾ニ相當ノ用ヲナシタモノデアルガコノ時ニナツテ何故ニ人生ニ益ナシトイフガ如キ賤銀思想ガ起ルニ至ツタカ、コレハ是非攻究シテ置キタイ問題デアル、余ガ今マデニ得タ資料ニ若干ノ思辨ヲ加ヘテ作り上ゲタ卑見ヲ述ベルナラバソレハ單ニ太宗ヤ憲宗ノ嚴肅思想若クハ時代思想ダケカラノ一元的解釋——簡明デハアルガ不得要領ナ解釋——以外ニ別ニ銀ノ虛用トイフコトモ考ヘテ見ナケレバナラスト思フ、然ルニコノ點ニ關シテハ黃金ニ關スル事實ヲバ旁證トシテ引用スルヲ便トスルカラ宋ノ太宗ト杜鎬トノ問答ヲ借用シテ説明材料ニ充テルコトニスル、即チ

宋太宗問學士杜鎬曰兩漢賜予多用黃金而後代遂爲難得之貨何也對曰當時佛事未興故金價甚賤トアル通り漢代ニハ金ハ盛ニ頒賜ニ用ヒラレタノデアルガ後ニハ段々乏シクナツテ來タ、コレハ

全クソレノ虚用ニヨルモノデアル、然ルニ銀ハ其産額モ金ヨリハ多量デアッタモノデアルカラ金程ニ缺乏ヲ感ズルコトハナカツタカモ知レナイガ金ト同様ニ種々ノ服飾器用土木ノ飾等ニ用ヒラレタコトハ事實デアツテシカモ其虚用ノ程度ハ漢以後ニ於テ一層激シクナツタモノト余ハ推定シテ居ルノデアル、シカシコノ臆斷ヲ證據立テルダケノ的確ナ事實ハ今ノ處見當ラナイカラ或ハ却テ反對ナ結論ニ達スルコトトナルカモ知レナイガ、余ハ日昭許衍灼著中國工藝沿革史略ニ

唐宋以來黃金漸少而製品器多銀故製金銀者俗稱銀匠

トアルコトヤ當時ノ史書ニ度々銀器ニ關スル記事ヲ散見シタルコトカラ前代ヨリモ銀ガ廣ク盛ニ裝飾ニ使用サレタモノト臆測シテ居ル次第デアツテ尙コノ點ニ關シテハ識者ノ示教ニヨツテ更ニ最後ノ斷案ヲ下シタイモノト思ツテ居ル。

サテカクノ如クニ銀ノ用途ガ虚飾玩用ノ方ヘ移ツタコトガ事實ダトスレバソレガ中幣下幣ドロカ全然人生ニ用ナキモノトサレルノハ儉素ヲ德目トスル頭カラ出テ來ル當然ノ反動思想デア、ソシテコノ不自然ナ爲政者側ノ賤銀思想ハ其反對ニ立ツ民衆ノ尙銀思想ト對立サシテ考ヘルトキ一層意味深キモノナルコトガ看取サレルノデアル、コレ余ガ銀ノ虚用ナル一原因ヲ拈出シテソレヲ賤銀思想ノ論理的根柢トシタ所以デアル。

八

北宋及ビ南宋（西紀九六〇—一二七八年）ノ時代ハ如何カト云フトコレモ銅幣以外ノ貨幣ニ對シテハ無爲無策デアツタト評スルノ外ナク、從ツテ銀ガ通貨ノ形態ヲ以テ流通スルガ如キコトハナカツタ、而テ宋ニ於テモ金銀銅ノ虛用ニ關シテハ屢制令ヲ發シテ禁止シタガ唐ガ銀ニ對シテ採ツタヤウナ拔本的方策ヲ以テ臨ンダトイフコトハ史上ニ見ル能ハザルコトデアル、ソシテ眞宗ノ頃カラハ服飾器具ニ金銀ヲ用ヒルコトガ殊ニ甚シクナツタ形跡ガアル。

然ルニ宋代ニ於テ注意セザルベカラザルハ銀産額ノ増加デアル、果シテ如何様ナ方策ヲ講ジタカハ判明シナイガ課銀即チ毎年課スル所ノ銀ノ納付額ヲ開寶三年（西紀九七〇年）ニハ三分ノ一ダケ減ズルノ令ヲ下シタコトガアルシ太宗ノ如キモ銀冶ノ官營ヲ非トシテ衆庶ノタメニ民力ノ休養ヲ計ツタコトデアルカラコレラガ直接間接ニ刺戟トナツタモノト見エル、併シ大體ニ於テハ官營ヲ本則トシテ行ツタノデアツテ各種鑛物トモ其産額ハ激増シタ、銀ダケノ國庫收入デモ次ノヤウナ數字ヲ示シテ居ル

至道末年（西紀九九七年）十四萬五千餘兩

天禧末年（同一〇二一年）八十八萬三千餘兩

皇祐年中（同一〇四九年—）二十一萬九千八百二十九兩

元豐元年（同一〇七八年）二十一萬五千三百八十五兩

コレヲ唐ノ最高記録タル二萬五千兩ニ比スルト非常ナ増加デアアルガ増減ハ常ナカツタ様子デア
ルコレハ銀鑛ノ本質上及ビ生産費ノ關係上致方ナキコトデアル而シテ國庫ハ非常ニ裕福デアツタ
然ルニ宋ハ國ヲ興シテ後間モナク眞宗（西紀九八八—一〇二二年）ノ頃カラ北方諸國トノ關係ガ
圓滿ヲ缺キ遂ニ遼ト戰ヲ交フルニ至ツタガ利アラズシテ澶淵ノ盟（西紀一〇四四年）ヲ結ビ銀十
萬兩絹二十萬匹ヲ贈ルノ條約ヲ爲シタ、ソレカラ康定二年（西紀一〇四二年）ニハ更ニ銀十萬兩
ヲ増シテ贈ルコトニナツタソシテ其翌年ニハ西夏ヘモ銀幣ヲ與フル條約ヲ結ンダ、カク銀ノ國外
流出ニヨツテ國庫ノ負擔ハ増加シタガ一方ニ課銀ノ收入モアツタカラソレハ甚シキ重荷トハナラ
ナカツタ。

以上ノ如ク北方諸國ヘノ銀ノ流出ガ行ハル、他方ニ國際間ノ銀流動狀況ヲ考フルト沿海開港場
カラ海ヲ越エテ南方ニモ銀ハ出テ行ツタ、宋史食貨志ニヨレバ輸出品トシテ金銀絹錢鉛錫雜色帛
瓷器輸入品トシテ香藥犀象珊瑚其他十二品ガ舉ゲテアル、シカシ貿易差額ヲ銀デ受取ツタコトモ
アルデアラウカラ銀ノ流出ハ銅錢程ニ甚シクハナカツタニ相違ナイ、而テ宋ノ市舶司ハ廣東ノ外
福建省ノ泉州浙江省ノ杭州明州山東省ノ密州ニ置カレテアツタカラ瀕海地方ハ南カラ始ツテ漸次

北ノ方デ銀ノ使用ニ慣レタモノト考ヘルコトガ出來ル。

次ニ宋代デ銀幣ノ流通ニ關係アルハ税金ノ銀納ヲ認メタコトデアル、即チ景祐二年（西紀一〇三五年）ニ嶺南デ銀ヲ代納スルコトヲ許シ次デ熙寧十年（西紀一〇七七年）ニハ夏秋兩稅ノ一部ヲ銀納セシメタ所ガ夏稅ハ三萬餘兩秋稅ハ二萬八千餘兩ニ上ツタソウデアル、宋ノ南渡後隆興二年（西紀一一六四年）ニハ温州臺州處州徽州ハ水運ノ便惡シキニヨリ夏秋兩稅其他ノ賦課ヲ銀納セシムルコト、ナツタ、コノ四州ハ今江蘇浙江二省ニアルカラ前ニイツテ置イタ瀕海地方ニ於ケル銀ノ流布區域ノ擴大ト相應スルモノト看做スコトガ出來ル。

次ニ遼夏二國以外ニ金國ニ對シテモ當時トシテハ非常ニ多額ナ限ヲ贈ルノ約ヲ結ンダ、ソレハ次ノ通りデアル。

西紀一一二六年	銀四百萬兩金二十萬兩
同 一一四一年	每歲銀絹二十五萬兩匹
同 一二〇八年	每歲銀絹三十萬兩匹

犒軍銀三百萬兩

一方ニ課銀ヤ稅銀ノ國庫收入アリトハイヘカクテハ國庫負擔ノ増加トイフコトノ外ニ銀ノ國外流出國內減少トイフコトニナルノデアルカラ淳熙元年（西紀一一七四年）ニハ金銀出界罪ヲ立テ

金國ヘノ銀輸出ヲ禁ジ同九年ニハ蕃舶ニヨリテ海外ニ輸出スルヲ禁ジ、後ニ光宗紹熙三年（西紀一一九二年）ニハ宋金ノ境界タリシ淮河以北ニ錢銀ヲ輸出スベカラザルノ禁ヲ發シ大イニ銀ノ流出ノ防止ニ努メタ、コレニヨツテ銀幣ノ流布ヲ察シ得ルト共ニ國際間ノ貿易ガ主トシテ銀ニヨツテ行ハレタコト並ニ銀ノ要度増進トイフコトヲ理解シ得ルノデアル。

是ニ由テ看取シ得ルノハ銀ノ流動ハ國際的ニハ後ニモ記サントスルガ如ク西カラ東ヘノ方向ヲトリ、國內デハ南カラ北ヘノ方向ヲトリテ進ンダトイフコトデアル、尤モ余ガコノ北漸ヲ主張スル根據ハ前記事項ノ外何レモ頗ル薄弱ナモノデアツテ推論ノ材料トシテハ別ニ Douglas Carruthers Unknown Mongolia ニアル左ノ紀事

From contemporary history we learn that in the days of Herodotus (fifth century B. C.) these Yeniseians were in the Bronze Age, whilst four centuries later Strabo remarks that they used gold and bronze, a little iron, but no silver.

次ニ爐式今省ニアル

燕齊諸道則地氣寒而石骨薄不產金銀

トイフ材料其他最近ノ支那鑛產地ニ關スル文献ヲ提出シ得ルノミデアルガ朝貢ニ關スルモノヤ遼金探鑛ノ結果カラ透觀シテモドウシテモ銀產額ハ稀少デアツタト考ヘザルヲ得ナイ、尤モ元代ニ

入りテハ密雲薊州瀘州奉先等デ銀ヲ採ツタトイフコトハアルガ探掘期間其他ノ關係上コレヲモ大勢ヲ動スニハ足ラナイカラ矢張り余ガイフ如ク銀ノ流動ノ主張ハ南カラ北ヘノ方向ヲトツタト見ルニ何等ノ不都合モナイト信ズルノデアル

九

宋ト時代ヲ同クシテ北方ニ覇ヲ唱ヘテ居タ所ノ遼金二國ノ銀ニ就テ記サンニ、前ニ述ベテ置イタ通りコノ兩國ハ戰勝ノ結果何レモ宋カラ銀幣ノ贈與ヲ得タノデアルガ、瀘淵ノ盟ガ成立シテ銀ノ流入ヲ見ルニ至ツタ時ヨリモ十數年前ニ既ニ遼ハ西南路招討司ノ奏言ニヨツテ陰山山脈(山西直隸二省ノ長城外ニアル)中ニ銀ヲ發見シテ銀冶ヲ置イタコトガアリ又コレト時ヲ同クシテ遼河上流地方ニ人ヲ遣シテ銀產地ノ探索ニ努メシメタコトガ遼史ニ出テ居ル、シカシ前ニモ記シタヤウナ事情カラ其結果ニ就テハ見ルベキモノガナカツタ、然ルニ其後重熙十一年(西紀一〇四二年)ニハ宋ニ向ツテ氈及ビ銀ノ輸出ヲ禁ズル旨ノ制令ヲ發シタコトモアル、コレハ瀘淵ノ盟ノ成立ニ先ツ二年前ノ出來事デアル、シテ見ルト當時遼ガ銀ノ國內蓄積トイフコトニ就テ如何ニ熱心デアツタカラ窺フニ難クナイ、而テコ、ニ疑問トナルハ遼ニ於ケル銀ノ流通デアルガ若シ銀産ガ豊富デナイトスレバコレハ他ヨリ流入シタモノト見ルノ外ナイ素ヨリ銀ノ流入ハ戰勝又ハ通商ノ結

果ニ待タザルベカラザルモノデアツテ、遼ハ西河地方即チ後周頃ニ西域銀錢ノ通用アリタリト傳ヘラル、地域ト境ヲ接シタコトモアリ又茶馬氈等ノ交換モ行ハレタコトデアルカラコレラノ機會ニ於テ銀ハ北方人ノ手ニ入ツタモノト見ナケレバナラナイ。

次ニ金國ハ如何カトイフト國內ニ於ケル銀坑ノ開發ニ努メ自給法ニヨツテ銀ノ増加ヲ計ラントシタコトハ遼同様デアアル、其外戰勝ノ結果トシテ莫大ナ銀ヲ獲得シタノデアルカラ一般ニ銀ハ豊富デアツタト思ハレル殊ニソレハ國庫ニ於テ左様デアツタコト、察セラレル、ソコデ政府ハ軍人や文官等ニ支給スル俸給ヲ銀ヲ以テシタヤウナ次第デアツテ俸祿ノ銀給トイフコトニヨツテ交通ノ不便ナ廣イ場所ヲ控エテ居ル所ノ金朝ハ實物支給ヨリモ非常ナ便益ヲ受ケタモノデアアル、而テ當時流通シタ銀ハ一個五十兩ノ塊錠デアツテ政府ハ錢トノ交換率ヲ銀錠五十兩ニ對シ錢百貫即チ十萬文ト定メタガ、コレハ當時邊境其他ニ於ケル交換支拂用ヨリ言ヘバ少シク大ニ失シ不便ガ少クナイノデ民間デハ所謂切り使ヒ即チ必要ニ應ジテ小サク截鑿シテ使用スルトイフコトガ普通デアツタ、カク銀錠ハ流通上ニ不便ガアルカラ承安二年（西紀一一九七年）ニ至ツテ初メテコレヲ銀貨ニ改鑄シ其種類ヲ一兩二兩三兩五兩十兩ノ五種トシ承安寶貨トイフ名稱ヲ附シ其一兩ハ錢二千文ニ當ルモノト定メタ、コレガ實ニ支那近世ニ於ケル銀貨ノ嚆矢デアアル、然ルニコノ銀貨モ不思議ニ三年間行ハレタノミデ承安五年ニハ廢止セラレタノデアアルガ其失敗ノ理由ハ不正ナル截鑿

が行ハレ内容價格ヲ維持スルコトガ出來ナカッタカラデアル、而テ當時銅錫ノ合金デ造ツタ所謂
暇銀ノ如キモ偽造サレテ流通シタトノコトデアルカラ銀貨鑄造ノタメ却テ幣制ヲ攪亂サルルコト
、ナリ承安五年ニハ錢ヲ法貨トナシテ支拂上ノ不便ヲ除去セザルベカラザルノ止ムヲ得ザルニ至
ツタ。(未完)

雜錄

支那外債ノ失敗原因

井上 翠

其ノ利害ノ由來ヲ考フルニ國民性ノ得失ハ之ガ主要原因ニ居ルモノニシテ、是等ノ諸國ノ興敗モ殆ンド斯ニ由ラザルハナシ、所謂國民性トハ何ゾ、即チ外債資金ノ支配權監督及ビ投資セル目的物ノ管理權コレナリ。

第一、近代ノ經濟組織ニ在リテ凡ソ富源ノ開發實業ノ振興ヲ謀リ及ビ國庫歲出入ノ不足ヲ補フニハイヅレモ資金ニ俟タザルベカラズ、而シテ資金ノ獲得ハ内債ト外債トニ賴ルモノナリ、前者ハ其ノ關係單ニ國內ニ限ラレタレバ比較的危害輕キモ、後者ハ國際上ニ影響スルモノナレバ其ノ危害モ稍重シ、善ク國家ヲ理ムル者ハ外債ヲ捨テ内債ニ趨ルハ蓋シ外國勢力ノ侵入ヲ防ギ其ノ利權ヲ維持セント欲スレバナリ、之ヲ史乘ニ按ズルニ國家窮乏ノ時ニ當リ外債ヲ募集スルハ何レノ國ニテモ採來リシ手段ニシテ其ノ發生セル利害ハ一樣ナラズ、英米日ノ如キハ之ニ因リテ以テ興リ、埃及土耳其印度ハ之ヲ以テ敗レタリ、故ニ外債モ亦絕對の有害ニシテ益無キモノトハ謂ヒ難シ、而シテ

近世ニ於テ人ノ國家ヲ滅ボスモノハ多クハ經濟的政策ヲ以テス、而シテ國民性ノ取得ハ投資國ノ必ズ爭フ所ニシテ、其ノ極債務國ハ財政權ヲ喪失シ實業權ヲ奪ハレ遂ニ國ヲ亡ボスニ至ルモノナリ、支那ハ清末ヨリ以來屢外債ヲ發行シタリ、若シ之ヲ善用セバ國計民生ノ裕カナラザルヲ患ヒザリシモ、之ガ局ニ當リシ者ハ率ネ皆飢エタル者ハ食ヲ擇バザルガ如ク苛刻ノ條件ニ甘ジ國民性ヲ喪失スルニ十分ナリキ、且ツ一借款ゴトニ上下羣集シテ之ヲ啜ヒ其ノ身ヲ毒セラルルヲ顧ミズ、其ノ運用ノ當ヲ得タル者ハ殆ンド見ザリシナリ、近口新銀行團ガ支那ノ財政ヲ検査監督セントスルニ就キテモ土耳其埃及ノ敗亡ニ鑑ミ感慨ナクンバアラザルナリ。

第二、各國ガ支那ニ投資セル初期ニ在リテハ各

自政策ノ爲ニスルニ係リ相聯絡セズ、而シテ各國間相互ニ軋轢セルガ故ニ支那ノ受クル害ハ比較的少カリシモ、斯ニ由リ勢力範圍ナルモノヲ激生シ、其ノ範圍略定マルニツレテ投資ノ地方モ一定ノ區域ヲ劃スルニ至リ、鐵道鑛產等殆ンド各國ニ分配セラレタリ、然レドモコハ經濟的借款ニ就キテ言ヘルノミ、其ノ政治借款ニ於テモ初メハ步調ヲ一ニセザリシガ一九八六年以後聯合借款漸ク盛ナルニ及ビ關稅鹽務等ノ管理監督ノ上ニ漸次壓迫ヲ加

テ實業權ノ佔有ハ殆ンド列國ノ協定スル所トナリテ支那自身ハアル一國ヨリ自由ニ資金ヲ借入ルコト能ハザルナリ、ゴノ財政權及ビ實業權ノ喪失ハ良ニ慨嘆スベキコトナリ。

第三、初メ英獨二國ノ對支投資ハ匯豐德華兩銀行聯絡ノ舉ニ出デタリシモ、相互間ノ競爭マタ劇烈ナリキ、一八九六年及ビ一八九八年ニ締結セシ中日戰爭賠償借款(合計三千三百萬磅)及ビ一八九五年締結セシ露佛借款四億法郎ハイヅレモ二三ヶ國ノ共同出資ニ係リ、海關ノ收入ヲ以テ其ノ擔保ニ當テタリ、而シテ一八九八年ノ英獨借款モ亦關稅ヲ以テ擔保トセリ、是ニ於テ列國ノ財政權侵害ハ遂ニ其ノ萌芽ヲ發生スルニ至レリ、北清事變ニ聯合軍北京ヲ陷レ、其ノ結果團匪賠償金トナリ、一九〇二年一月一日ヨリ一九四〇年末マデ二年賦償還スルコトトナリ、關稅ノ管理權ハコレヨリ全ク外人ノ手ニ歸シタリ、所謂國際關稅委員會コレナリ、列國ガ支那財政權ヲ侵害セルハマサニ露佛借款中日戰爭賠償借款英獨借款及ビ團匪賠償金ヲ以テ嚆矢トナス、而シテ其ノ發生ノ原因ハ政治的

者モ勢力範圍ノ關係上投資國ハ常ニ一定セリ、即

借款ニ在リテ經濟的借款ニアラザリシナリ。

政治的借款ハ財政權ヲ侵害シ經濟的借款ハ實業權ヲ佔有ス、一八九八年支那ハ中央公司ト鐵道借款ヲ締結セリ、コレヨリ鐵道ノ管理權ハ悉ク英人ノ手ニ歸セリ、當時支那國民ハ羣起反對セルモ政府ハ全然輿論ヲ顧ミザリキ、一九〇八年一月十五日又々英獨ト津浦鐵道借款五百萬磅ヲ締結セリ、(年利五釐)內譯匯豐銀行引受ハ八十五萬磅、德華銀行三百十五萬磅ニシテ其ノ建築權ハ分チテ二段ト爲ス、即チ天津ヨリ大運河ニ至ルマデノ北段三百八十哩ハ獨逸資本ヲ以テ建築シ、大運河ヨリ浦口ニ至ル南段二百三十六哩ハ英國資本ヲ以テ建築セリ、夫レ資金ハ支那自國ノ借入シタルモノニシテ其ノ支配權ハ英獨ニ操縱セラル、而シテ顯カニ之ヲ南北ノ二段ニ分チ建築ノ資金ヲ區別セル所以ハ英獨二國ガ借款ノ國民性ヲ取得セント欲スルニ出デタルモノナリ、サレバ津浦鐵道ノ建築管理ニ於テモ其ノ契約第十七條中ニ南北二段ノ工事ニ關シテハ支那政府ハ須ラク投資國ノ承認ニヨリ適當ナル英獨技師長ヲ聘請スベシト規定シ、第一條中ニ

モ借款未ダ償却セザル以前ハタトヒ鐵道工事竣工スルモ支那政府ハナホ英獨人ヲ聘任シテ技師長ニ充當スベシト規定セリ、其ノ借款國民性ニ於ケル注意ハ深シト云フベシ、然モ英獨財團ハ尙ホ以テ足レリト爲サズ、本國政府ヲシテ支那政府ニ交涉シ以後ノ借款ハ其ノ管理權ヲ一層擴大スベク一層明顯ト爲スベキコトヲ要求セリ、コレヲ換言セバ支那實業權ノ獲得ハ一層擴大ニシテ明確ナルベシト云フニ在リ。

津浦鐵道借款ニ繼ギテ起レルモノハ川粵漢鐵道借款ナリ、是ヨリ先キ英米二國共同ニテコノ借款ヲ引受ケントセシガ、一九〇四年米國ハ其ノ計劃ノ不利ナル點ヨリ之ヲ果サズ、一九〇五年ニ至リ英佛兩國共同出資シテ建設セント計劃セシガ獨逸ハ其ノ利權ガ英佛二國ノ爲ニ獨占セラルベキヲ恐レ加入ヲ要求セリ、茲ニ一九〇六年六月川粵漢鐵道借款ノ協議ヲ見タリ、然ルニ米國財團ハ一九〇四年支那政府ガ米國公使ニ對シテ爲セル宣言「他日湖廣方面ニ鐵道借款ヲ起サントスル時ハ先ヅ英米二國ノ資本家ニ商議スベシ」ニ基キマタ加入ヲ

要求セリ、支那ハ止ムヲ得ズ遂ニ英米獨法四國ノ財團ニ由リ四國銀行團ヲ組織シテ此ノ借款ヲ引受ケシメ、一九一一年六百萬磅ノ借款ノ正式印ヲ見ルニ至レリ、支那政府ノ無能力ニ非ズンバ英米獨法ハ何ニヨリテ此ノ實業上ノ佔有權ヲ把持スルヲ得ンヤ。

川粵漢鐵道借款既ニ成リ四國財團ハ鐵道ノ權利獲得ニツキ左ノ協定ヲ遂ゲタリ。

(一) 建築、全線ヲ分チテ四段トナス、(1) 粵漢鐵道ハ武昌ヨリ起リ岳州長沙ヲ經テ廣南廣東ノ境界ニ至リ廣東線ト相接ス、延長凡ソ九百料、英國技師長之ヲ管轄ス、(3) 川漢鐵道ハ京漢線ノ廣水驛ヨリ襄陽ヲ經テ宜昌ニ至ル、延長凡ソ六百料、獨逸技師長之ヲ管轄ス、(3) 宜昌ヨリ四川省夔州ニ至ル延長凡ソ三百料ハ米國技師長之ヲ管轄ス、(4) 將來建設スヘキ夔州ヨリ内部ニ至ル一線ハ佛人ノ投資ニ由ルヘシ。

(二) 管理權、鐵道ノ建設及ビ管理權ハ絕對ニ支那政府ニ屬ス、唯ダ工事中支那政府ハ英米獨佛四國ヨリ各自技師長ヲ傭聘スベク、マタ米國管轄區域内ニ要スル各種ノ材料ハ中英公司及德華銀行ニ注文スベシ。

(三) 擔保、借款契約第九條ノ規定ニ從ヒ、湖北湖南ノ釐金收入鹽稅收入及ビ湖北ノ米穀稅ヲ以テ擔保トナス。

川粵漢鐵道借款調印當時ハ第十四條ノ規定ニ由

リ借款資金ノ若干ヲ支那銀行ニ預入レタリシガ、革命ノ亂起リ改メテ匯豐、德華、滙理、花旗ノ四銀行ニ預入レ、各鐵道ノ會計ニハ外國人ヲ傭聘スルコトナリ、支那實業權ノ佔有ハ又タ一步ヲ進ムルニ至レリ。

革命以前財政權ヲ喪失セル政治的借款ノ最モ大ナル者ハ團匪賠款ナリ、其ノ經濟的借款即チ津浦川粵漢鐵道借款ノ如キハ實業上ノ國民性ヲ喪失スルコトマタ頗ル大ナリ、且ツ列國ノ據有セル勢力範圍ナルモノハ支那實業借款ヲシテ殆ンド全然外人ノ掣肘ヲ受クルニ至ラシメタリ。

第四、一九一一年十月革命ノ軍起リ、四國銀行團ハ支那ニ對シ暫ク借款ヲ停止セリ、民國秩序略ボ定マリテ一九一二年二月二十七日唐紹儀ハ銀行團ト六千萬磅ノ善後大借款ヲ協定シ、其ノ翌日滙豐銀行ヨリ二百萬兩ノ交付ヲ受ケ、三月七日又タ七百萬兩ノ交付ヲ受ケタリ、三月九日總統袁世凱ハ重要ナル文書ヲ銀行團ニ交付シ宣言シテ曰ク、今後支那改革ノ目的ノ爲ニ起ス所ノ外債ニ關シテハ銀行團ハ有利ノ選擇權ヲ獲得スルコトヲ得ト、コ

レ支那ガ借款ノ自由ヲ自ラ束縛セルモノナリ、當時露國ハ四國銀行團ニ満足セズ暗ニ比國財團ヲシテ唐紹儀ト一百萬磅借款ノ約ヲ結び、續イテ一千萬磅ノ契約ヲナシ京張鐵道ヲ其ノ擔保トシテ提供スルコトトセシガ、ソノ契約第十五條ニ華比銀行ハ支那今後ノ借款ニ優先權ヲ有スルコトヲ規定セリ、四國銀行團ハ三月九日ノ袁總統ノ宣言ニ背反スルヲ以テ抗議ヲ提出シ、並ニ再ビ借款ニ應ゼザルヲ聲言シ、一方英國ヨリ比國財團ニ警告シ其ノ契約ヲ取消サシメタリ、支那ハ大ニ恐レ比國財團ト締結セシ契約ヲ取消シ、復タ銀行團ト協商ヲ開ケリ、コノ時ニ當リ支那ノ外債發行ハ殆ンド其ノ自由ヲ失ヒタルモノト云フベシ。

比國財團ノ借款契約取消サレテ四國銀行ハ組織ヲ改メテ六國銀行團トナリ、借款條件ハ益苛酷トナレリ、其ノ善後大借款ニ對シ提出セル重ナル條件ハ左ノ如シ。

- (一) 借款ノ用途ニ關シテハ銀行團ハ十分ノ權利ヲ保有スベシ
- (二) 支那ハ一會計檢査機關ヲ設ケ外人ヲシテ之ヲ司ラシメ、並ニ外人ニ行政上種々ノ權利ヲ與フベシ。

(三) 關稅委員會ノ例ニナラヒ特別機關ヲ組織シ以テ擔保トスル關稅ヲ管理スベシ。

(四) 借款公債ノ市價ヲ維持スルガ爲ニ支那政府ハ六千萬磅ノ公債發行濟トナラザル以前ニ其ノ他ノ財團ニ向ヒテ借款スルヲ得ズ。

(五) 今後五年間ニ於テ銀行團ハ支那ノ財政ヲ代理スベシ。

以上ノ各項中第五條ハ勿論、其ノ二三兩條ノ關係モマタ頗ル重大ナリ、此ノ如キハ土耳其ノ財政委員會ニ讓ラザルモノナリ、是ニ於テ支那政府ハ毅然トシテ之ニ反對シ、寧ロ租稅ヲ整理シテ資金ヲ取得スル法ヲ講ズルトモ、外債ヲ借ラザルヲ宣言セリ、然レドモ當時ハ各省費用浩繁ニシテ紛々外國公司ニ向ヒテ借款契約ヲ締結セシ際ナレバ財政總長ハ英國財團ニ向ヒ克里斯浦借款一千萬磅ヲ借定シ、鹽稅剩餘金ヲ以テ擔保トセリ、六國銀行團ハ其ノ擔保品ガ銀行團ノ利益ヲ妨害スルヲ以テ抗議ヲ提出シ、克里斯浦借款ハ僅カニ五百萬磅ヲ交附シテ廢約トナレリ、然ルニ支那政府ニ於テハ資金ヲ需ムルコト甚ダ急ナリケレバ已ムヲ得ズマタ六國銀行團ニ向ヒ借款ヲ請求セリ、蓋シ當時支那ハ他ニ借款ノ道ヲ謀ルモ悉ク六國銀行團ノ阻害

ヲ受ケ且ツ財政上借款ハ一日ヲ緩ウスル能ハザルヲ以テ忍ビテ六國銀行團ニ向ヒ談判ヲ繼續セシモノナリ、然モ六國銀行團ガ要求セル條件ハナホ苛酷ナリ、其ノ内部ニ於ケル意見モ一致セザル所アリ、米國財團ハ遂ニ脫退ヲ宣告シ、六國銀行團ハ五國銀行團トナリ善後大借款ハ決着ヲ見ルニ至ラザリキ。

一九一三年四月二十六日五國銀行ノ代表銀行タル匯豐、德華、東方滙理、道勝、橫濱正金五銀行ハ始メテ支那政府ト善後大借款二千五百萬磅(年利五釐)ヲ締結セリ、其ノ條件ハ以前ニ比スレバ較寬ナルモ支那財政權ノ損失ハ是ヲ以テ最モ甚シトナス、當時設置セラレタル鹽務署ハ其ノ大權ハ殆ンド外人ニ操ラレ、其ノ他國債局長ニ外人ヲ聘用スルコト、借款用途ハスベテ銀行團ノ干涉ヲ受クルコト等、其ノ支那財政權ヲ喪失スルコト小々ニ在ラザルナリ、歐洲戰爭以後ノ借款ハ其ノ危害善後大借款ノ如ク甚シカラザルモ、其ノ財政權ヲ損害シ實業權ヲ佔有スルコトハ依然トシテ異ナラズ、歐戰中日本ガ支那ニ對スル借款ハ其ノ條件ハ

率ネ秘密ナレバ其ノ害ノ大ナルコト尤モ言フニ忍ビザルナリ。

第五、支那ノ借得セル外債ヲ歴考スルニ其ノ政治的ト經濟的ナルニ論ナク國民性ヲ喪失セザルハナシ、而シテ政治的借款ノ目的ハ擔保權ノ管理ニアリテ借款ノ支配ノ如キハ其ノ餘事ノミ、而シテ經濟的借款ノ目的ハ擔保品ノ管理ト投資目的物ノ施設トニアリ、故ニ外債ヲ借得スル毎ニ支那ハ益自由ニ之ヲ處置スルコト能ハザルニ至ル、而シテ其ノ原因ハ(1)政治的借款ハ銀行團ニ專有壟斷セラレタルコト、(2)經濟的借款ハ勢力範圍ノ爲ニ專有壟斷セラレタルコトノ二端ニ歸スベシ、カク政治的及ビ經濟的借款ハ外國ノ爲ニ壟斷セラレタルバ其ノ借款ノ國民性モマタ其ノ壟斷ヲ免レザルナリ、而モ其ノ外債ハ自由ニ之ヲ利用スルヲ得ズ、且ツ財政權實業權トモニ侵害佔有セラレ、外債ハ動モスレバ國計民生ノ上ニ危害ヲ加フルニ足ル、吾人ハ埃及土耳其ノ敗亡ヲ觀テ誠ニ感慨ナキ能ハザルナリ。

今ヤ新銀行團ステニ成立セリ、其ノ政治的タル

ト經濟的タルニ論ナク借款ハ皆專有シテ之ヲ壟斷セント欲ス、サレバ今後益其ノ國民性ヲ喪失シ、其ノ極或ハ國ヲ亡ボスニ至ルベシ、吾人ノ望ム所ハ今後外債ヲ起ス時ニ當リ、若シ國民性ノ喪失ヲ免レザルニ於テハ寧ロ退キテ之ヲ國內ニ謀ルベシ、目下ノ經濟的借款ハ一刻ヲ爭フモノニアラザレバ、國事略ボ平定スルヲ待チテ徐ロニ進行ヲ圖ルヲ妨グズ、且ツ支那ハ社會上ノ游資少カラズ、

若シ政治清明ニシテ善良ナル金融機關アリテ之ガ流通ヲナシ、事業ノ上ニ投資スルニ至ラバ富源ハ開發セラレ實業ハ振興シ外債ヲ仰グ必要ナカルベシ、政治的借款ヲ以テ言ヘバ、國事ノ紛亂財政ノ不整頓ハ日々外債ヲ起スモナホ效益ナカルベク、徒ニ當局者ノ浪費ニ供スルノミ、故ニ今マ之ガ爲ニ計ルニ、第一ハ內爭ヲ息ムルコト、第二裁兵ヲ斷行スルコト、是ナリ、數年來歲出入ノ内容ヲ歴觀スルニ果シテ能ク內爭ヲ息メ裁兵ヲ實行シ得バ財政ノ補綴ノ術ナキニアラザルナリ、或ハ謂ハンコノ裁兵ノ費用ハ之ヲ銀行團ニ仰ガザルヲ得ザルベシト、吾人ノ視ル所ニテハ唯ダ當局者ニ裁兵ノ

決心無キヲ憂フルノミ、若シソノ決心アラバ內債ヲ發行シテ其ノ費用トセバ國民マタ喜ンデ應募スベシ、蓋シ近年人心兵ヲ苦シムコト久シ、若シ裁兵ヲ實行セバ內國擾亂モ大ニ減退スベク、今後ノ國庫負擔モマタ輕減スベシ、而シテソノ兵士ハ之ヲ水利開鑛修路ノ方面ニ充ツコトヲ得ベシ、故ニ政府果シテ能ク裁兵ノ爲ニ內債ヲ募ラバ國民ハ喜ンデ之ヲ助成スベキナリ。

上述ノ如クナレバ今後支那ノ政治及ビ經濟上ニハ殆ンド外債ヲ仰求スル必要ナシ、新銀行團ガ專有壟斷シテ以テ財政權ヲ侵害シ實業權ヲ佔有セントスルモ得可カラザルナリ、其ノ外人ノ手ニ委シタル財政權ト實業權ハ財政ノ餘裕ヲ生ジタル時ニ漸ヲ逐フテ回收スベシ、若シ能ク內爭ヲ息メ裁兵ヲ實行セバ租稅ハ整頓セラレ財政ハ餘裕ヲ生ズルニ至ルベシ、而テ之ヲ成スハ支那國人及ビ政府ノ自覺ニ待ツベク、若シ夫レ長夢未ダ醒メズハ國計民生ハ全ク外人ノ手ニ操縱セラル、ニ至ルベシ。

(銀行週錄一七三號ヨリ譯出)

謬レル滿蒙除外論

松田琢海

滿蒙ニ於ケル我國ノ既得權ヲ、對支新借款團ヨリ除外スベシトノ論ハ、大分以前カラ朝野ノ間ニ議セラレ、大陸在住者ノ注目ヲ惹イテキタガ、這般愈々列國ノ了解ヲ得タト、或新聞紙上ニ傳ヘラレタ。何レ詳細ガ發表サレルモノト思ヒツ、今日ニ至ツテモ何等具體的ノ説明モ發表モナイ。從ツテ其内容ヤ又既得權ノ實質ハ判ラナイガ、一派ノ唱ヘテ居ル意味ノ滿蒙除外論——其ハ私ノ理解スル處デハ、滿蒙ハ我帝國ガ多大ノ犠牲ヲ拂ツテ居ル所ダカラ、何國ノ資本モ勢力モ入レナイ——ナレバ私ハ當地デ實際ニ滿蒙貿易ニ從事シテ居ル立場カラ、其不當不理ナル事ヲ叫ビタイノデアル。勿論私ハ微々タル一商人デアルカラ、我々ノ伺フコトノ出來ナイモノトシテアル政事上ヤ軍事上カラノ關係ヤ理屈ハ判ラナイ。只單ニ實際ニ吾人青年——未來ノ日本ヲ預ツテユク責任ノアル其青年

——ノ眼ニ影ジタ所ヲ、基礎トシテ論ズルノデア
ル。先ヅ第一ニ滿蒙ハ我國ガ筆紙ニ盡シ難キ幾多
ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルカラ、列強ノ勢力ヲ加ヘルコ
トハ出來ナイ。更ニ平ク吾等商人仲間ノ言葉デ云
ヘバ『己達ノ開イタ土地ダカラ誰モ手ヲ附ケテク
レルナ』ト云フコトガ、果シテ言ヘルダロウカ。
成程耳觸リハ非常ニ好シイ。然シ翻ツテ考ヘテモ
見ヨ、滿蒙ハ支那ノ領土デアル、十餘年前侵略ノ
野心アル露國ヲ懲サント、吾人ノ父兄ガ劒ヲ抜イ
テ立ツタソノ土地デアル。私ハ大戰前約一箇年半、
揚子江沿岸デ商賣シテ居ッタコトガアル。ソノ時
香港英人商業會議所ガ發頭トナツテ、揚子江一帯
ハ英人ガ專ニ驅開拓シタ所ナルニ、近來獨逸及日本
ノ勢力ガ駸々トシテ入込デキルコトハ、實ニ怪
シカラヌ、吾々英人ハ本國ノ援ヲ受ケテ、内外
一致勢力範圍ノ確保ニ努力セネバナラヌト、眞劍
ニ騒イダコトガアツタ。ソノ時私ハソノ非禮ソノ
非理ナルコトヲ痛切ニ感ジタモノデアルガ、當ニ
僥許リデハナイ、英人ノ一部ヲ除ク總テハ、同意
見ノ様デアツタコトヲ記憶シテキル。マタ同論者

ノ大ナル理由トシテ、大ニ恐レ警戒シテキルコトハ、萬一除外セズンバ米國ノ勢力ガ這入ルダロウト云フ論據ラシイガ、果シテ然ラバ退イテ加州問題ニ對スル吾人ノ輿論ヲ考ヘテ見ルガ好イ、双方ノ主張ヲ拔キニシテ、實際吾等同胞ヲ虐待シ、甚シキハ危害ダニ加ヘマジキ一部米人ノ偏見不法ハ、吾等商人ト雖今後尙ソノ態度ヲ改メズンバ、正義ノ劍ヲ拔イテ彼等ニ反省ヲ促シタイトマデ思ツテキル。加州問題ニ對スル吾人ノソノ決心ソノ判斷ヲ以テ、コノ問題ヲ見レバ理屈ニ於テ已ニ誤ツテキルコトガ容易ニ諸カレル。然シ一派ノ連中ハ、ソレハ書生ノ空論ニ過ギナイ、實用向デナイト云フカモ知レナイ。然ラバ實際方面ヲ研究スルタメニ、私ノ遭遇シタ小サイナガラモ一ツノ事實ヲ述ベテ見タイ。私ハ學校ヲ卒業シテ、山東省デ五年間獨立自營シテキタ。青島占領以來軍政ガ敷カレ、潮ノ如ク押寄セテ來タ日本人ノ勢力ニ阻レテ、青島デハ外人ノ企業ナドト云フコトハ、餘程至難デアツタガ、英米煙草會社ハ山東鐵道ノ沿線坊子附近ノ片田舎ニ、幾多ノ苦辛ト費用ヲ懸ケテ、

漸ク土人ニ煙草栽培ヤラ改良ヲ實行セシメテ、著シイ成績ヲ舉ゲルニ至ツタ。スルト間モナク、青島ニ二三ノ日本人經營ノ煙草會社ガ出現シテ、昨年（一九一九年）アタリハンノ產出サレル葉煙草ノ大部分ガ、之等日本人ノ手デ取扱ハレタ様デアル。乃チ之等ハ日本人デヤラナイデ、外人ノ投資ニ依ル結果ガ、日本人ノ手ニ依ツテ納メラレルニ至ツタ實例デハアルマイカ。更ニ又獨逸ガ巨額ノ費用ト工夫ヲ費シテ出來タ青島港モ、日獨戰爭以前實際ニ最モ多ク利用サレテキタノハ、日本品ノ貿易デアツタコトモ、廣イ意味ノ善イ例デアロウ。故ニ假リニ論者ノ云フ、米國ガ巨資ヲ擁シテ滿蒙ニ入シンダトセヨ、因循ナル資本家ヤ國家ノ權力ニ隱レテ仕事ヲスル我が不德義千萬ナル資本家ハ、甚ダ困ルデアロウ。然シソコニ必然競爭ガ起リ、競爭ノ起ル所ニ殷盛ヲ來シ、而シテ益本邦人ノ活躍舞臺ヲ大キクシテクレルニ違ヒナイ。勿論暫クハ米國品ガ盛ニ輸入セラレ、米國ヲ謳歌セシムルカモ知レナイガ、米國ガ永遠ニ慈善國デナイ以上、之等ノ投資ニ依リテ利益ヲ受ケルモノハ、支那自

身ト支那内地ニテ經濟的手腕ノ秀ダ者デアルベキ
 ダ。支那ト文明ノ差百年モ百五十年モ違フ米人が、
 能ク支那商人ト伍シテユクヤ否ヤ、疑問ナキヲ得
 ナイ。現ニ昨年(一九一九年)英米人が各地相呼應シ
 テ、巧ニ日貨排斥ヲ實行セシメ、ソノ間自國品ヲ
 盛ニ賣付ケタ。ソノ靚面ハ本年(一九二〇年)春ノ大
 恐慌ニ遇ツテ、彼等ノ間ニ多大ノ失敗者ヲ出シ、
 支那ニ於ケル商取引ノ至難、支那人性格ノ不可解
 ナルヲ、今更ナガラこぼシテイルデハナイカ。然
 ルニ日本ハ支那内地ニ於テハ、ソノ忍耐ノ點ニ於
 テ、生活ノ安價ナル點ニ於テ、更ニ同文ナル點ニ
 於テ、何レノ國民ヨリモ大ナルはんぢきやつぶヲ
 得テキルト云フコトハ、強チ自惚許リデモナイト
 思フ。導クニソノ方向ヲ誤ラナカツタナラ何國ガ
 支那ヲ開拓スルトモ、結局ノ勝利ハ吾人ノ手ニ納
 ルベキモノデアルト信ズルモノデアル。今デモ大
 規模ノ投資企業コソ、根本ノ資本ノ缺乏デ一步ヲ
 讓ツテキルガ、ソノ投資ノ結果ヲ利用シテ、支那
 内地デ實際ニ活躍シテキルモノデ、吾人ノ右ニ出
 ツルモノハナイ有様デアル。

從來各國ノ殖民地政策ナルモノハ、極端ナル資
 本家保護ヲ實現セシメ、ソノ土地ノ者ノ幸福ハ多
 ク念頭ニ置カレテキナカツタ。然シ今日デハ到底
 コンナ政策ハ許容サレベキモノデハナイ。又採用
 シタトコロデ、寸効ナキ愚策デアルト云フコト
 ハ、朝鮮ノ現狀ニ照シテ能クソノ一斑ガ示サレテ
 ナル。

以上私ハ實際方面ヲ見タ積リデアルガ、尙之ト
 私ノ最モ恐レテ同論者ヲ排斥シタイ事ハ、カ、ル
 愚論ガ行ハレルコトニ依ツテ、吾人青年ノ元氣ヲ
 沮喪セシムルコトデアル。吾人ノ進ムベキ方向ヲ
 誤ラシメ、百年ノ後ニ吾人が幸福ナル民族トシテ、
 到達シテアラネバナラヌ彼岸ト、ソコニ大ナル懸
 隔ヲ見出サシムルデアロウトノ懸念デアル。私ハ
 何ヨリ先ヅ之ヲ警戒シテ貫ヒタイ。國家ノ將來ニ
 不吉ノ豫言ヲナスモノハ、最モソノ國民ヲ恥辱シ
 タコトデアルガ、當事者ノ近視眼的政策ノ結果デ、
 往々國民ヲ取返シノツカヌ不幸ノ運命ニ陥ラシメ
 タコトハ、古往今來幾多ノ實例ガ歴史ニ殘ツテキ
 ル。明治維新ノ際、非常ニ耳觸リノ善カツタ攘夷

論ヲ、當時一般ガ懷イテイタ通りニ實行シテキタナラ、今頃ハ我國民ノ運命ハドウナツテキタッロウカ。私ハ本論者ヲ以テ、當時ノ攘夷論者ト、同一ナル誤謬デアルト斷言シタイノデアル。内地ニハ港灣ニ道路ニ、ソノ他資本ヲ要スベキトコロハ澤山アル。滿蒙ヲ以テソノ不足勝ナル資本ノミノ活動舞臺ト限定シテ置ク必要ハ毫モナイ。ソナ根情ヲ棄テ、自由ニ世界ノ資本ヲ輸入セシメ、先ヅ第一ニ滿蒙ヲ開拓シ、茫漠限リナキコノ土地ヲ、世界ト共ニ樂シミタイ。然ラバ人口増殖問題ノ如キ解決モ、亦案外容易デアロウ。滿蒙ノ地ヤ吾人父兄ノ尊キ血ノ染込ンテ居ルトコロデアル、コノ土地ヲ以テ私利ヲ計ル一派ヤ、近視眼的爲政者ノタメニ百年ノ計ヲ誤ルガ如キヲ見ルハ、到底忍ビ難キ苦痛ト云ハネバナラス。コレ敢テ愚筆ヲ採ツテ大方ノ教示ヲ仰グ所以デアル。

(一九二〇、一一、一一)

倭寇時代ニ於ケル日・韓・漢ノ貿易品 (上)

肅堂 後藤秀穂

私ハ或ル論題ニ就テ貴重ナル本誌ノ餘白ヲ借ルベク承認ヲ得タノハ、昨大正九年春イマダ櫻花ノ蕾堅キ頃デアツタガ宛モ其頃カラ宿痾激増、半年ヲ死生ノ間ニ彷徨シ、燈花親ム可キ好時節ヲモ空過シ、歳云ニ暮ル、比ホヒニ到リテ、ヤ、心身ノ輕快ヲ覺ユルニ到ツタ。

私ガ本誌ノ餘白ヲ借ルベキ或ル題目トハ。

倭寇時代ニ於ケル大内氏ヲ由心トシテノ東亞貿易。

ト云フノデ、ソレハ私が多年疑問トシタル二ツノ不審チ一ツニ結び付ケテ、イサ、カ解決ノ端緒ヲ試ミントシタノデアツタ。

ソノ二ツノ不審トハ。

A. 外交上、貿易上ニ何等カノ大交渉ヲ持チ居ルベキ大内氏ノ事蹟ガ、全ク不明、又ハ誤ラレテ居ル史壇ノ奇蹟。

B. 大陸ニ於テハ、明朝一代ノ倭寇ハ、沿海數千里非常ナル大被害ヲ蒙リ、大亂、大擾嘉靖末ニ到リ始テ熄ミシニ此時代一葦帶水ヲ隔テタル半島ガ如何ニシテ其禍ヨリ脱出シ得タリシカ。

以上難解ノ二問題ヲ一ツニ結び附ケテ、ソガ解決ヲ試ミント

スルニ在リ。

リシテ其論壇ヲ特ニ本誌ニ要求セシハ、古來對外的關門トシテ、且ツハ大内氏ノ故地トシテ、口碑史料ノ猶存スルモノアルベク、從テ遺蹟遺蹟ノ深カルベキ、中國諸先輩ノ教示ヲ仰ガントスルニ在リキ。

命メテタク來シ歳ヲ迎ヘタル心祝ヒニ、屠蘇ノ香リ新シキ年ノ始、悠然ト机ニ向ヘバ、塵積ル硯ノ蓋ヨリモ猶深ク鎖サル、心身ノ懊惱未ダ全ク癒ヘズ、果シテドンナモノガ出來ベキカ。

緒言 本篇起稿ノ趣旨

私ハ、以後二三回ニ亘リ、貴重ナル本誌ノ餘白ヲ借リテ「倭寇時代ニ於ケル大内氏ヲ中心トシテノ東亞貿易」ナル一文ヲ發表スベク、先ヅ其前提トシテ、此ニ當年ニ於ケル東亞三國ニ亘ル貿易品ノ何タリシヤヲ一考シ置カント思フ。

爾カル理由ハ、私ノ主張タリ、結論タル倭寇本來ノ面目ハ、乃チ海上往來貿易ノ健兒ニシテ、ソガ爲政者頑迷ノ壓迫ト、人民相互間ノ衝突トヨリシテ、コ、ニ所謂ル倭寇トシテ時々出現スルモノ。ソノ倭寇トシテ顯ハレザル時代ニハ、不斷ノ貿易

者・密貿易者トシテ存在繼續スルモ、密貿易ノ密ナルヨリ口碑・記錄ノ存スルナク、タゞ時々倭寇トシテ顯ハル、時ノミ人ノ視聽ニ上ル事、宛モ走ル汽車ノ誰人ニモ注意サレズ、タマゞ衝塞・脱線ノ在リシ場合ニ、新聞紙ノ記事ヲ賑ハスガ如シ。

左レバ倭寇ハ、斷ヘザル海外貿易ノ或ル時機ニ於ケル瘤ニシテ、又以テ眼印シ・浮標トモ目スベシ。此浮標ヲタグラバ、以テ沈メラルタル繩ノ全體ガ、何時カハ引キ上ゲラル可ク思フ。コレ東洋貿易史ヲ研究スベク、先ヅ鐵ヲ倭寇ノ鼻ニ入レシ所以ノ一ナリトス。

密貿易ト云ヘバ、如何ニモ人聽キガ惡ルケレドモ、コハ言葉ノ使ヒ様ニシテ、一方ヨリ云ヘバ、當局者ノ失政ヲ補足スル國民的自治運動トモ云ヒ得ベシ。ソノ理由ヲ簡單ニ云ヘバ。

我が國ハ、開國時代ヨリハ鎖國時代ノ永カリシ國ナリ。ソノ鎖國ガ果シテ國民ニ幸福ナリシヤ、モ一ツ直接ニ云ヘバ、カクシテ國民ハ生存シ得ベカリシヤ。鎖國論ノ提唱者、つれ／＼草ノ著者兼好法師スラ、鎖國ノ除外

例トシテ藥物輸入ヲ承認セザルヲ得ザリキ。猶モ一ツノ除外例タルベキ書物ノ輸入ハ、足ラザルニ足ルヲ知ル現在品ノ書寫ニテ、不滿ノ満足ヲ補ハントセルニアラズヤ。精神ニ糧ナク、病ノ床ニ藥餌ナキ國民ハ、如何ニ不安ニ、如何ニ憐レナルヤ。

コ、ニ於テカ、ソノ缺陷ヲ補フべく起テルガ、箇人の海外發展ノ海上健兒ナリ。貿易者・密貿易者ナリ。勝テバ官軍負クレバ賊、ワシントンモ、ルーテルモ、其始テ起ツヤ謀叛人ナリキ。吾人ハ密貿易者時トシテ機會ノ不祥ニ際シテノ倭寇。爲政者ノ頑冥不靈ガ國民心身ノ糧ヲ奪ヘルニ反抗シテ起テル海上ノ健兒ソノ代表名詞タル倭寇ノ名ナ、健ナ氣ナル、天ツ晴ナル、全國民ノ感謝ニ價スベキ昔シナツカシキ佳名ナリト思惟スルヲ禁ズル能ハザルナリ。

而シテ斯ク云フ事ヲ空言ヨリ超脱センガ爲ニ、彼等ガ何ヲ輸出セシヤ、何ヲ輸入セシヤ。ソノ輸出・輸入ニ依リテ、國民ト國家トニ何ヲ齎ラセシヤ。此等ノ問題ヲ決スべく、先ヅ當時ノ貿易品ニ就テ一ツタリノ攻究ヲ要スベク思フ。

シカシ密貿易ノ密ナルヨリ、法網ノ裏ヲグルル仕事ナルヨリ、ソノ多クハ板子一枚下ハ地獄ナル冒險的性質ヨリ來ル不學ノ人物ナルヨリシテ。コ、ニ直接材料ヲ求ムルハ不可能事ナリ。依リテ世ニ顯ハレタル他ノ史料ヨリ類推シ、歸納シテ、一種ノ結

論ニ到達スル面倒ヲ忍バザル可ラズ。此ニ到リテ又兩面ノ不都合アリ。

一ハ、我邦ニ在リテハ此時代ニ主トシテ足利氏對明朝ノ文學地ヲ拂ヒ、史料全ク缺乏ス。獨リ我ノミナラズ、大陸ニ於テモ亦然ルヲ免レズ、假ヘバ、東西洋考ハ明朝ニ於ケル、最初ノ、且ツ殆ド唯一ノ外國研究書ナリ。シカモ其著者ハ、比較的相近キ世ノ事柄ノ全ク不明ナルニ嘆息シテ「諸國前代之事、史籍倍詳、而明興以來爲略、即國初之事、掌故粗備、而嘉隆以後爲尤略ト云ヘル、猶我が善隣國實記著者ノ嘆ノ如カリキ。

況ンヤ、歲月幾變遷ノ今日ニ於テヤ。

他ノ一ハ、相手國タル支那ニ在リテハ、坊主ノ憎クテ累ヲ袈裟ニ及ボス如ク、倭寇ニ困頓シタルヨリ、併セテ貿易方面ニマデハツ當リシ、多クノ記者ハ日本ヲ以テ一刀一扇ノ外他ノ産ナシト云ヘリ而シテ其發頭人ハ實ニ、溫厚ノ君子人タル、善謀ノ好將軍タル、當年對倭寇ノ總兵官俞太猷タリシナリ。

彼ハ云フ。

蓋倭人ノ桀驁剽悍、嗜レ貨輕レ生、非ニ西南諸夷之比。在ニ隋元之世、爲患中國最甚。其地又無他産、一刀一扇、非レ者下西南諸夷諸貨可レ資ニ中國之用ニ者也。故祖宗絶レ之、視ニ諸番一特嚴。

呈總督軍門楊公揭(正氣堂集)

之ニ倣フテ、當世・後代ノ記者概ネ一刀・一扇說ヲ採レリ。

左レド貿易ハ必ズ兩儲ケナラザル可ラズ、利益ノ投合ナラザル可ラズ。嘉靖ノ大倭寇既ニ發シ、世ハ切ツタ張ツタノ血腥キ中ニ在リテ、猶彼我ノ貿易ハ流星光底下ニ繼續サレツ、アリキ。

徐諸氏ハ云フ

聞、蘇、松濱海小民、頗與賊往來貿易。賊用而賄之、使爲ニ耳目、故我之動靜、賊無ニ不知者。

復張半州總督書 (世經堂集卷二十五)

彼ハ此時倭寇ノ害ノ尤モ激シク、其郷土ガ全ク其脚底ニ蹂躪サレツ、アリシ江北ノ出身ニシテ、廊廟ノ副總理タリシ人ナリ。言豈吾人ヲ欺カンヤ。

而シテ又一方ニ於テハ、當年第一ノ倭寇、通タリシ籌海圖篇ノ著者鄭若曾ハ、其後年ノ著江南經略ニ於テ、江南人ノ倭人ト相抱合スルノ狀ヲ記シテ云フ。

用三福船、須下雇三福人二駕使上、其人多與倭通、遇賊輒縱而不レ擊、大洋運舵、毫釐千里、以三風不レ便爲レ詞、乃其故態也。

コレハ、倭寇ヲ擊ツニハ福建船ガ第一ダガ、大ニシテ重ク、福建人デナクテハ操レヌ故、ソノ人ヲ雇フテ船頭ニスレバ、眞逆ノ場合ニ舵ヲ反ラシテ倭寇船ヲ取り逃スト云フノデ、此騷擾最

中、福建人ハ實ニ忙裡閑アリ、倭人ト相交易シツ、アリシナリ。カ、ル有様デ、寇必ズシモ寇ナラズ。右ノ手ニ劍アルト同時ニ

左ノ手ニ算盤アリシナリ。シテ其算盤ハ兩儲ケナラザレバ手ガ

打テヌナリ。

彼等ハ果シテ何ヲ輸入シ何ヲ輸出セシカ。

一刀一扇論者ノ外ニ正直ナル人ハ、正直ニ日本貨物ノ大陸人ニ必要ナルヲ云ヘリ。鄭曉ハ當年第一

ノ學者人トシテ、眞ツ正直・眞ツ四角、頗ル融通ノ利カヌ堅人ナリキ。シカモ彼ハ倭寇ノ害尤モ甚シカリシ海鹽ノ出ニシテ、ソノ身ハ最初ノ江北討倭

ノ任ニ當リシ人ナリキ。)

彼ハ云フ。

夷中百貨、皆中國不可缺者、夷必欲售、中國必欲得之。

吾學篇

彼ト同郷同庚ニシテ、剛直容レラレズ、早ク官ヲ辭シテ郷ニ還リ郷ニ在リテ倭寇圍中ニ苦悶セシ錢薇モ亦云フ。

夷物亦中國所必需、而苟隔閼華夷之情、吾恐寇抄之禍未レ已也。

承啓堂稿

貿易ハ兩儲ケナラザル可ラズト云フ經濟上ノ原則ハ、果シテ吾人ヲ欺カザリキ。

彼ノ必ズ得ントシ、我ノ必ズ售ラントセシ貨物ハ何ゾ。

武備志著書ガ日本研究ノ結論ニ曰ク、

日本雖ニ屢肆啓疆、然志在レ通市、得其道、可ニ願指使之。

圖書篇著者モ亦對倭通市ノ利ヲ說テ云フ。

人皆好レ生而嗜レ利、化レ寇而爲良、且因以裕國用一矣。

言、好カラザルニアラズ。サレド其悟ルヤ遅カリキ。大男總身ニ智慧ガ廻リカネテ、其大概徹底ハ嘉靖大寇ノ苦ガキ經驗ヲ經タル後ニアリ。

此點ニ於テ朝鮮ハ一日ノ長アリキ。

之レ必ズシモ半島人ノ大陸人ヨリ多智ナリシニアラズ。古來壓迫ニ馴レ、屢從ニ慣レシ彼ノ先天性ト、且ツハ麗末既ニ實物の教訓ニ接セシトヨリ來リシ結果ナリトハ云ヘ、又對倭策ノ祖師タル申叔舟ガ、至誠愛國ノ賜タラズトセズ。

彼ハ癸亥條約ノ一員トシテ日本ヲ觀タリ、而シテ彼ハ未來永久ニ半島ノ對日本策ノ經典タル可キ其著海東諸國記ニ自序シテ云フ。

習性强悍、精ニ於劍槊、慣於舟楫、與我隔海相望。撫レ之得ニ其道、則朝聘以レ禮、失ニ其道、則輒肆ニ剽劫。

私ガ本論ニ說明ヲ試ミントスル所ノ、嘉靖ニ於ケル大陸大寇時ニ當リ、半島ガ危クモ其側杖ヲ遁レシハ、彼ノ實藏ニ此護符的經典ノ藏セラレ、而ノテ不完全乍ラモ歷代ソヲ遵奉履行シツ、來リシ結果ニアラザルハ無シ。

倭寇豈腹カラノ海賊ナランヤ。知慧ノ一番足ラヌ男ガ強盜トナリ、中ナルノガ窃盜トナリ。上ナルノガすり巾着切トナリ、上ノ上ガ詐欺師トナル。左レド世未ダ巾着成金モ無ク、詐欺成金モナシ。コ、ニ於テカ算盤片手ニ一紙半錢ヲ爭フ前垂カケノ、途ニハ地面ヲ買ヒ藏ヲ建ツルノ多智ナルニ如カザルナリ。

世人、希クバ倭寇ヲ視テ痛快呼バハリスル、彌次ノ半疊ヲ護ルヨ、彼等ハ實ニ凄慘ナル犠牲者タリシナリ。

此犠牲者ヲ出シテ得ントセシ國家の缺陷ノ國民の要求ハ果シテ何物ナリシカ。

コレ實ニ此稿ガ解説ヲ試ミント撰スル所ナリ。

我既ニ記錄ナク、彼亦傳ヘズ、之ヲ知ルノ頗ル難キモ、知ラザレバ遂ニ意味ヲ成サズ。

(二) 明代輸出ノ日本貨

大體ヲ攻究シ置カントスル所以ナリ。

此時代ニ於ケル海外輸出品ニ就テノ記錄ハ、本邦ニ於テハ一ツモ無イ。依リテ之ヲ相手國タル韓・漢ノ書ニ求ムル外ハ無イガ、ソレトテモ心甚シク卑吝ニシテ、口阿堵ヲ言フヲ愧ヅル大陸性ニ加ヘテ、文筆ノ士ノ世情ニ昏ク、經濟の無能者タル一般的通有性ト、且ツハ緒言中ニ云ヘル坊主憎サノ袈裟的筆法ヨリ、此時代特ニ對日的公正ノ記事ヲ留メザルト等ノ理由ヨリシテ、此問題ニ就テ甚シク吾人ヲ困厄セシムルヲ免レナイ。

ソノ不完全ノ中ニ在リテ之ヲ求ムレバ、土臺トナ

ルベキモノニアリ。

一ハ、天順五年一四六一ニ成リシ大明一統志寛正二年載スル

所土産。

二ハ、弘治十五年一五〇二ニ成リシ大明會典文龜二年記スル

所貢品。

トノ二ナリ。二者共ニ不完全、不徹底ヲ免レザレド、他ニ無キ以上之ニ據ルノ外ナシ。

後來ノ明人ハ、皆舊ニ據リテ此二者ノ中ノ何レカノ一ヲ撰ミテ其書中ニ入レ以テ日本物産ノ全體ヲ悉スモノトシテ、平氣ナ顔デ澄マシ居レリ

試ニ其一例ヲ舉グレバ

ハ浙兵制考附スル所日本風土記ハ、豐公出師ノ噂聞ヘテ、曾テ倭寇ニ身震ヒセシ浙江人ガ日本研究ノ資料トシテ集輯セシモノナレドモ、此書對日貿易品ニ就テ一辭ヲ載セズ、タゞ會典ニ依リテお茶ヲ濁スノミ。

東西洋考ハ、明代ニ於ケル最先且ツ唯一ノ對外國商業ノ寶庫トシテ珍重スベキモノナレドモ、其日本ニ對スル態度ハ、當年初來ノ歐人トシテ、盛ニ小兒ヲ買ツテ喰フト噂サレシ佛郎機葡萄牙人又紅夷(和蘭)ト同一棚ニ祭リ込ミ、之ニ記シテ「或

曰、日本、紅夷、何以特書、其梗實船ニ者也。(凡例)ト云ヒテ敬遠、否惡遠シ、土產ニ就テ一統志所載ノモノヲ載セ、且ツ之ニみいら的舊史ノ註ヲ附セシノミ。

此等有數ノ裏書既ニカクノ如シ、ソノ他ハ知ル可キノミ、依リテ此ニ先ヅ其基礎タルベキ二書ノ記載ヲ掲グ

下ニ參照トナルベキモノヲ付載シ、且ツ參照トシテ朝鮮ノ分ヲモ掲グ。

コレハ我ノ輸出品ナリ、輸入品ニ就テハ後ニ記ス可シ。

第一表ノ下ニ付記シタル二書ハ、當時ノ記ニ依リテ、上記輸出品中ニ在ル本邦產地ヲ知ルノ一助トス。



第一表

薛氏日本考
(一五二〇頃)
(嘉靖初)

吾學篇
(一五六〇末)
嘉靖ノ末

東西洋考
(一六二〇頃)
(萬曆ノ末)

庭訓往來
(南北朝時代)

新猿樂記
(室町時代)

漆螺硯扇花細黑羊驢水杉多冬青白丹鐵銅水硫水琥銀金
錮布絹雉牛木羅青玉珠土銀黃晶珀

明朝へ贈品

馬	應永八 永樂三	十四	二十疋	二十疋	二十疋	十疋	四疋
鎧	一領 外筒丸一領一領	一領	一領	一領	一領 並櫃棒	一領	一領
劍	十腰	撒金鞘太刀二把	同上	同上	龍太寶三貫文充	撒金鞘柄	二把
腰刀	一振	黑漆鞘太刀一百把	同	一百把	二腰信國作之	黑漆鞘柄	一百把
鉛	一百把	一百柄	一百	百筋	大刀 百腰	一百把	
塗金裝綵屏風	三双	三幅	三幅	三双	三双	三双	
瀝金厨子	硯筥一合	同上	同上	同上	同上	同上	
同上手箱・文臺	文臺一箇	同上	同上	同上	同上	同上	
金匣	(此品朝鮮へノ贈品ニハ必ズアレド支那へノ分見當ラズ)	同上	同上	同上	同上	同上	
同粉匣木	一百把	大小三十塊	一百	一百	把 皆彫骨、蒔繪	大小二十塊	
貼金屬	大小三十二塊 計二百斤	大小二十塊	二十塊	二十塊	把 箱納之、五重	大小二十塊	
瑪瑙	見當ラズ	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	
水晶數珠	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	
硫	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	
蘇木	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	
牛皮	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	一萬斤	
池樣 千帖	硯一面	長刀一百柄	一面	一面	百枝 朱作者四條井上善良	一面	

(弘一五〇二)
大明會典
(應永八)
永樂三
(同)
上
同九
一四二
一
(同)
上
永享三
宣
九年
(同)
上
享德二
一四五
三
景泰四年
(戊子入明記)
應仁二
一五六
八
成化四
(京華集)
文明十
一四七
七
成化七
三

第三表 朝鮮へノ贈品

奎町將軍ヨリノ贈品

(李朝實錄)

大内氏ヨリノ贈品

文明四年
(續善隣國寶記)
西曆一四七二
朝鮮成宗三年

寶德二年一四五〇
世宗三十三年

延德三年一四九一
成宗二十二年

文明十三年一四八三
成宗十四年

明應二年一四九三
成宗二十四年

裝金屏風

二張

同上

一雙

同上

二帖

鎧

諸緣具大刀

一具

同上

黑皮諸緣具

一具

綵畫扇

二百把

同上

同上

同上

五十柄

朱漆鐙

十柄

同上

黑鞘

十振

長刀

一十把

黑漆鞘柄大刀

一十柄

同上

二柄

朱漆梳

十具

同上

朱柄長刀

十柄

大紅漆木車梳

計七十事

銅銚並挺子

各一十箇

太刀

一百把

朱漆梳

十具

朱柄長刀

一百把

大紅漆淺方盆

計二十事

銅銚並挺子

各一十箇

紅漆盆

二十箇

摺疊扇

五十柄

同上

金泥

一百把

蒔繪硯箱

一箇

練緯絹

一領

硯

一十面

白鍊絹

十匹

同上

水墨畫

五端

鏡臺

一箇

練緯絹

十段

紅漆雜色木桶

二箇

屏風

一雙

同上

水墨畫

一雙

酒壺

一隻

甘青

一觔

銅銚子

四箇

落莪木

五十斤

白綾紋袖

五端

跳子提子

一具

綠青

二觔

練素

一十疋

紫石紋硯

十枚

練素

二百觔

練素

一十四

以上ヲ常例トシ時ニ
瑪瑙ヲ贈リシ事アリ

以上ヲ常例トシ時ニ
ハ硫黃・桂心等ヲ附
ス

由來支那人ノ書ヲ作ルヤ、概ネ糊ト鉄刀ニテ前人ノ記述ヲ剪裁スルニ止マル、故ニ其間死顔ト生顔トノ區別ナク、前表示ス所日本土産、勅撰ノ一統志ヲ以テスラ、既ニ二千年前ノみいらヲ拾ヒ來リテ之ヲ今日ニ擬セントス。故ニ其由來ヲ知ラザレバ頗ル理解シ難キモノアルヲ以テ、此ニ前史記スル所ノ略ヲ舉ゲ

魏志。計ニ其道里、當ニ在ニ會稽東治之東、

植ニ禾稻。紵麻、蠶桑、緝績。出ニ細紵、

織絲、

其地無ニ牛、馬、虎、豹、羊、鵲。

倭地溫暖、冬夏食ニ生菜。

出ニ眞珠青玉。

其山有ニ丹。

其木、有ニ榑杵、豫樟、榑櫟、投櫃、烏號、楓

香。

其竹、篠、簞、挑支。

南史。

有ニ薑、橘、椒、蒹荷、不レ知ニ以爲ニ滋味。有ニ獼猴、黑雉。貢品。班布二匹二丈。倭錦、絳青縑、縣衣、帛布、丹水獭、短弓矢、掖邪狗、白珠五千孔、青大白珠二枚、異文雜錦二十匹。

種ニ禾稻紵麻、蠶桑織績。

有ニ薑、桂、橘、椒、蘇。

出ニ黑雉、眞珠、青玉。

有ニ獸如ニ牛。名ニ山鼠。又有ニ大蛇。吞ニ此獸。蛇

皮堅不レ可レ斫、其上有ニ孔、乍開乍閉、時或

有ニ光、射中而蛇則死矣。

物產略與ニ儋耳朱崖同。

地氣溫暖。

隋書。有ニ如意寶珠、其色青、大如ニ鷄卵。夜則

有ニ光云、魚眼睛也。

唐書。獻ニ虎魄大如ニ斗碼礪若ニ五升器。

宋史。日本國僧裔然、貢ニ銅器十餘事。

曰

畜有ニ水牛、驢、羊、多ニ犀象。

產_二絲蠶_一、多織絹、薄緻可_レ愛。

土宜_二五穀_一、而少_レ麥。

東奥州產_二黃金_一、西別島出_二白銀_一、以爲_二貢賦_一。

肅然之來、獻孝經一卷、越王孝經新義第十五

一卷、皆金縷、紅羅襪、水晶爲_レ軸。

肅然遣_二其弟子喜因_一奉_レ表來謝。

別啓貢_二佛經_一、納_二青木函_一。

琥珀、青紅白水晶、紅黑木縷子念珠、各一

連。並納_二螺鈿花形平函_一。

毛籠一納、螺杯一口。

葛籠一納、法螺二口、染衣三十枚。

金銀蒔繪筥一合、納髮鬘二頭。

又 一合、納參議正四位上、藤佐理

手書二卷、及進奉物數一卷、表狀一卷。

又 金銀蒔繪硯筥一合。納_二金硯_一、鹿毛筆、

松煙墨、金銅水瓶、鐵刀。

又 金銀蒔繪扇筥一合、納檜扇二十枚 蝙蝠

扇二枚。

螺鈿梳函一對、其一、納_二赤木梳二百七十一

雜 錄 倭寇時代ニ於ケル日・韓・澳ノ貿易品

其納_二龍骨十概_一。

螺鈿玉案一。

螺鈿玉几一。

金銀蒔繪平筥一合、納_二白細布五匹_一。

鹿皮籠一、納_二貂裘一領_一、螺鈿鞍轡一副、銅鐵

鐙、紅絲鞦、泥障、倭畫屏風一双、石流黃

七百斤。

而シテ此等ノ品ガ、如何ニ取扱ハレテ明代ノ書ニ

上リシカ、又明末(豊公征韓後交通途絶ヘシ時代)

ニ於テ、猶何モノガ日本產トシテ歡迎サレシカラ

觀ルベク、東西洋考ノ註記ハ此點ニ便利ナルヲ以

テ此ニ附記ス

日本土産(東西洋考)

錦 魏志曰、貢異文

雜錦二十四。

椒 魏志曰有橘椒兼

荷不知以爲滋味

黑雉 見

南史

山鼠

死矣

南史曰有獸如牛名山鼠又有大蛇吞此獸蛇皮堅不可斫上有孔乍開乍閉有光射中蛇則

青玉 見南史。

如意珠 隋書曰、色青大如雞卵、夜則有光、魚眼精也。

犀象 宋史曰多犀象

紬絹 宋史曰、產絲蠶多、織絹薄纖可愛。

花布 景初二年獻斑布、宋時獻白細布。

金銀 僧奩然曰、東奧州產黃金、西另島出白銀、以爲貢。

琥珀 宋時充貢。

螺鈿 宋時貢。

石硫黃 宋時貢。

水晶 宋時貢、有青紅白三色。

屏風 宋時貢畫屏風、今亦有入中國者、畫金隱起如打成帖著。

銅 見一統志

鐵 見一統志

硯 見一統志

漆 一統志曰以漆製器甚工緻兩山墨談曰宣德時遣漆工至倭國傳其法以歸。

瑪瑙 華夷考曰、出日本、立土石間、種有三、般紅黑而白紋如纏絲者妙、研木不見熟者纔貢。

刀 倭刀甚利、中國人多鬻之、其精者能卷之圓蓋百鍊而繞指也。

扇 兩山墨談曰中國前惟用團扇、元初東南使者持聚頭扇、人皆譏笑之、我朝永樂初始有持者及倭充貢遍賜羣臣天下遂通用之

交易

自市舶罷而倭不能來射利之徒率多潛往倭輒厚結之欲以誘我乃舶主之黠者至冠進賢衣綺繡說稱閩撫材官與重申互市之約彼雖在疑信亦厚遺之以庶幾幸而售耳其意乃滋不可測矣 宋史曰交易用銅錢文曰乾元大寶

上記ノ諸記載ヲ觀テ、私ハ大明一統志編者ノ流、石、一、一隻眼アリシヲ思ハズンバアラズ。

彼ノ記事ハ多ク凡ハ上ノ詮索ニシテ、頗ル實地ニ遠キ傾向アルニ關ハラズ、其頭ハ相當ニ働キ居リシモノ、如シ。

彼ノ失敗ハ、宋史ニ據リテ、水牛・驢・羊ヲ出セシニ在リ。宋史ノ記事ハ大體ニ於テ眞實且ツ必要ナル記事タルヲ失ハザリシニ、唯此一項ノミ誤ヲ傳フ、恐ラクハ他邦ノ記事ノ一項ガタマ／＼此ニ混入セシナラン。

撰リニ擇ツテ一統志編者ガ此一項ヲ拾ヒ上ゲシハ陋ナレト、ソノ下文ニ連續シ居レル犀・象ヲ拾テシハ、マダシモ賞スベキ値ナシトセザルニ、日本船入港ノ關門タル寧波ニ在リテ、シカモ嘉靖大寇ノ雲蒸ニ驚カサレテ、日本研究ノタメニ成リシ薛氏日本考ガ此犀象ヲ拾ヒ込ミ、學識共ニ明一代ニ卓絶セシ鄭端簡ガ其擧ニ倣ヒシヨリ、惡書濫造時代タル萬曆ノ諸書カ、譯モナク之ヲ襲蹈シ、遂ニ日本ヲ犀象國タラシメタルハ、言語同斷ナリキ。

コレ一些事ノミ。左レ大陸式ノ書物ニハ到ル所此流義多キヲ以テ、時ニ對日觀察點ノ途方モナキ見當外レニ走ル事アリ。此等ニ對スル注意ノ一例トシテ此ヲ舉ゲシナリ。

次ニ此一統志ガ、新ニ銅・鐵・扇・硯・漆器ヲ加ヘタルモ好シ、コレ實ニ此時代ニ於テ彼ヲ賑セシ輸出品ノ一タリキ。

一統志ガ新ニ多羅木・杉木ヲ加ヘ、而シテ吾學篇ガ之ヲ省キタル共ニ好シ。此等從前ニナクシテ、只宋代ニ大々的輸出サレ、而シテ明代ニ到リテ絶廢ニ歸セシモノ。

ソレガ缺陷トシテハ、當代尤モ重要ナル輸出品トシテ（會典ノ貢品中ニ見ユル）刀・馬以下ヲ落セシ事ニシテ、此點ヨリ見テ此書ノ編者ガ、單ニ古書ノミニ重キヲ措キ、眼ヲ現代ニ注ガザリシヲ知ルニ足ル。

吾學編ガ蘇木ヲ加ヘシハ、之ヲ會典ノ貢品中ヨリ抜キシトスルモ、更ニ新ニ胡椒ヲ加ヘシニ到リテ、尤モ面白キ時代的幻覺ニ對スル興味ヲ感セザル能ハザルナリ。

余ク日本ニ無キ、且ツ日本人ニ嗜好モ必要モナキ此等ノ品ガ、如何ニシテ日本產トシテ彼等ニ信ゼラレシカ。

ソレガ果シテ何ラ意味スルカニ就テハ、後ニ説ク所アル可シ。

要之、貢品・物產ノ二者ヲ土臺トシテ、更ニ他ニ參考シ、取舍宜シキヲ得バ、當年ノ輸出入品ノ必ズシモ知リ難キニアラズ。

私ハ以下ニ少シク之ヲ記シテ見ヨフト思フ。

●寄贈出版物

昨年十月以後ノ寄贈出版物並ニ寄贈者芳名ヲ錄シテ感謝ノ意ヲ表ス。

滿洲ノ煙草

最近十年間世界生絲ノ生産消費分配狀況一覽

及世界生絲市場價格比較表

橫濱大日本蠶絲會橫濱支所

戰後貿易復興策トシテ商務員制度ノ提唱

滿蒙諸慣習概要土地商租

朝鮮鐵道旅行案内

鐵嶺ト開原及山東地方

幣制改革以降(自一八九七年至一九一〇年)

ノ露西亞中央銀行

香港上海銀行ノ發達及其ノ現況

奉天鐵道附屬地概觀

英蘭ニ於ケル農業勞働ノ狀態及ビ其供給

贈正五位松浦宗案ト我農業

戰時及ビ戰後ノ國際貿易

開戰以來ノ各國物價ノ趨勢

戰後一年間ノ米國外國貿易

米國ニ大商工團體ノ經濟政策ニ關スル意見

英國海運界ノ諸問題

物價騰貴ト其策

同

滿鐵地方部勸業課

日本銀行調查局

滿鐵調查課

田中忠夫氏

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

滿洲事情第一輯

研究館月報 每號

經濟資料 每號

埠頭月報 每號

支那 每號

實業週報 每號

營口商業會議所月報 每號

週報 每號

山東經濟事報 每號

東拓月報 每號

商業研究所彙報 每號

滿蒙實業彙報 每號

財政經濟時報 每號

東方時論 每號

上海港貿易統計月報 每號

臺灣時報 每號

大陸工報 每號

亞細亞時論 每號

山東公論 每號

農商公報 每號

護謄時報 每號

日印協會々報 每號

支那鑛業時報 每號

上海日本人雜穀肥料同業組合月報 每號

(1511)

1511

外務省通商局

長崎高等商業學校研究館

滿鐵東亞經濟調查局

青島守備民政部埠頭事務所

東亞同文會編纂部

漢口日本商業會議所

營口商業會議所

上海日本商業會議所

青島山東經濟時報社

東洋拓殖株式會社調查課

神戶高等商業學校研究所

大連商業會議所

東京其社

東京其社

上海日本商業會議所

臺灣總督府其所

大連興亞技術同志會

東京黑龍會

濟南其社

農商部編輯處

東京其社

東京其社

滿鐵鑛業部地質課

上海同組合

滿蒙之文化	每號
綿絲同業會月報	每號
支那研究彙錄	每號
電氣工業雜誌	每號
支那問題	每號
調查時報	每號
北京實業週刊	每號
日華公論	每號
日本法政新誌	每號
會計	每號

滿蒙文化協會	上海同會	北京亞細亞通信社	北京司法部電氣工業學校雜誌部	東京其社	滿鐵調查課	北京實業同志會	天津其社	日本法政學會	東京其社
--------	------	----------	----------------	------	-------	---------	------	--------	------

第

八

寄贈出版物



前號目次

論 說

支那時局解説

稻葉講師

北宋貨幣史論(一)

田中講師

研究及調査

支那ニ於ケル自然科学ノ發達

柏田法學士

植物油界ノ大勢ト滿洲大豆ノ將來

駒井德三

支那電報符號ノ研究

石山福治

清代ノ廣東貿易(三)

稻葉講師

支那ノ銀ニ就イテ(一)

水田教授

雜 錄

支那文明ノ根本的改造

安倉教授

支那ニ於ケル棉業整理ノ情況

井上翠

大正十年一月八日印刷

大正十年一月十日發行

定價一册金四拾錢
郵稅四分
一年分郵稅共
壹圓七拾六錢

山口縣吉敷郡小鮭村大字下小鮭

第七百五十三番地

編輯者兼

大田 一穂

東京市本郷區駒込吉祥寺町廿九番地

印刷者

加藤 保

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷所

文明社印刷所

電話九段二二六三番

山口高等商業學校内

發行所

東亞經濟研究會

振替口座福岡一〇一〇七

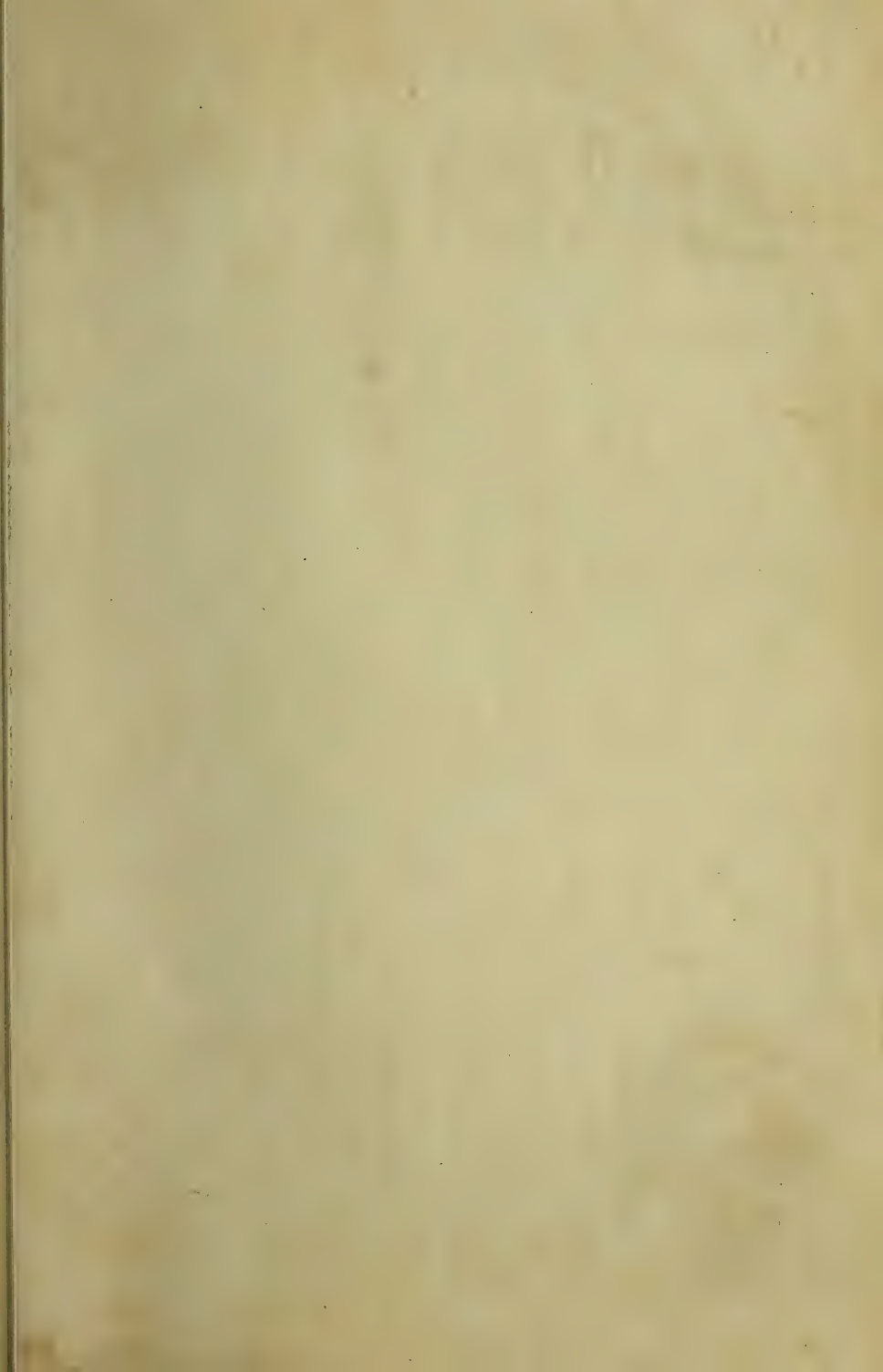
東京市神田區南神保町六番地

發賣所

有斐閣雜誌店

電話本局四三二〇

振替口座東京五四〇六



山東高等商業學校

東亞經濟研究

第五卷 第二號

大正十四年四月發行

論說

(禁轉載)

我邦ノ南洋貿易ニ就テ……………法學士 木村 增太郎

塞外茶貿易論……………講 師 田 中 忠 夫

支那將來ノ企業ト勞働問題……………教 授 前田 幸太郎

研究及調査

葡萄牙人支那渡來顛末……………文學博士 矢 野 仁 一

支印茶戰ト英國……………法學士 柏 田 忠 一

祖會牙倫及ヒ牙行ニ就テ……………講 師 稻 葉 岩 吉

支那ノ銀ニ就イテ(三完)……………教 授 水 田 淳 亮

會 報

會告三件、寄贈出版物

本會役員

會長

評議員

校長横地石太郎

講師 稻葉岩吉

教授井上翠

教授岩本安之助

講師西山榮久

教授德重伍介

教授大橋末彦

教授大本利一

教授鷺尾健治

教授蒲生保鄉

講師 吉田 虎雄

教授只見徹

講師 田中忠夫

教授 田中 保平

教授奈倉次郎

教授久保清彦

講師牧野清利

教授前田幸太郎

教授 菰田萬一郎

評議員

同
教授齊藤源四郎

同
教授北島常晴

同 教授水田淳亮

同 教授 穴 倉 保

同 教授 菱川 精一

同 教授 鈴木 孫彦



會計委員會
委員
主席
副主席
秘書長
副秘書長
財政部
稅務局
關稅局
銀行局
保險局
證券局
期貨局
信託局
不動產局
勞工局
勞工保險局
勞工福利局
勞工教育局
勞工訓練局
勞工就業局
勞工安全衛生局
勞工健康局
勞工衛生局
勞工保健局
勞工福利局
勞工教育局
勞工訓練局
勞工就業局
勞工安全衛生局
勞工健康局
勞工衛生局
勞工保健局

調查委員 松井 上 翠

請簡中忠大

同
琴
授
作
田
莊
一

編纂委員 講 師 稻 葉 岩 吉

同
我
授
非
上
翠

同 教授 德重 伍介

季 挂 來 月 似 注

同
季
杜
清
生
代
苑

同
諸
商
田
中
忠
犬

[illegible]

同
季
換
作
日
莊

東亞經濟研究

第五卷 第二號 大正十年四月發行

論 說

我邦ノ南洋貿易ニ就テ

木村 增太郎

一

我邦ノ南洋貿易(爰ニ南洋トハ假ニ英領馬來、暹羅、比律賓、
群島、蘭領東印度及佛領印度支那ヲ指稱ス)ハ、歐洲戰爭中ニ躍進的大發展ヲ遂ゲ一舉ニシテ南洋各地方ニ於ケル外國貿易ノ大半ヲ、我商品ニ依テ占握セシモノ、如クニ傳ヘラレタ、勿論我對南貿易額ハ、戰時中異常ノ激增ヲ告ゲタコトハ事實デアルガ、南洋各地方ノ貿易上ニ於ケル我地位タルヤ、未ダ全貿易額ノ一割餘ヲ占有セルニ過ギナイ、即チ戰前ノ我對南貿易ハ、纔ニ少額ノ雜貨ヲ輸出シテ、主トシテ瓜哇糖ト暹羅西貢米トヲ輸入シタニ過ギナイ、從テ其貿易額タルヤ大正四年ノ如キ尙輸出二千九百萬圓輸入三千五百萬圓合計僅ニ六千五百萬圓デ其外香港經由

貿易ヲ加フルモ、尙七千萬圓ヲ超ユルコト多カラザル狀況デアツタガ、大正七年ニハ輸出入略ボ
 相半バシ、一躍三億圓ヲ突破シ、四倍以上ノ急増ヲ示シテ居ル、併シ翻テ南洋各地方ニ於ケル貿
 易上ノ地位ヲ顧ルニ、一九一八年ノ各地方ニ於ケル貿易統計ハ、左ノ如キ數字ヲ示シテ居ル。

一九一八年南洋各地國別貿易表

一、輸入貿易

國別	英領馬來	暹羅	比律賓	蘭領印度
英 本 國	六四、八五六、二五八	一八、四七八、〇一二	五、五二八、〇〇〇	七八、六三〇、〇〇〇
英 領 印 度	八二、六七二、二〇七	一五、五六九、九八〇	三、八七九、〇〇〇	三二、七九一、〇〇〇
英 領 南 洋	八、六二二、一八〇	一六、六四八、六四四	一五、八四六、〇〇〇	一五、八四六、〇〇〇
香 港	三一、九一〇、四二六	一七、四四七、三三六	一一二、〇〇〇	一三九、〇〇〇
南アフリカ	三、八七八、〇一四	二七七、八〇三	七、三八八、〇〇〇	二一、四八七、〇〇〇
濠 州	九、九四二、三〇九	七、〇八三	二七、〇〇〇	四八七、〇〇〇
錫 蘭	八四五、五六五	八八二	三〇五、九一二、〇〇〇	四八七、〇〇〇
加 奈 陀	三、六一八、四一〇	五〇、〇〇六	一、六一三、〇〇〇	一、八二〇、〇〇〇
埃 及	七二四、三三七	六八、七一六、六一	一、一九七、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇
其他英領計	二〇七、九六八、〇〇三	一二七、三一五	一、六一三、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇
丁 抹	八六、二七四	五六二、四五五	一、六一三、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇
佛 國	一、七四四、三六五	一五二、八八五	一、六一三、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇
伊 國	一、一九七、四五三	七三四、八五一	一、六一三、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇
和 蘭	二四〇、〇四八		一、六一三、〇〇〇	一、一九七、〇〇〇

諸 露 西 瑞 其 支 佛 蘭 暹 米 比 日 其 總	威 國 牙 典 洲 那 度 度 印 羅 國 賓 本 他 計	三三、四〇〇	四〇三、六九七	五七、四三五	六七、五八九	一七、四六四、六七三	一八、五二六、八〇〇	一〇八、二六六、三七三	七七、〇七八、八〇〇	一〇、三八七、九一四	八二七、一九七	五一、三五〇、十四〇	二、三八九、〇七四	五〇六、二八九、八三五
六三、〇七二	五五	一四、一六	七一、〇六一	一、九九八、三五三	八、五二一、二七六	八九八、八九三	四、二四〇、四九一	四、七九八、〇一二	七〇、八五一	七、四八四、一一八	三二、九二六	九六、〇七七、六四八	六三、〇七二	五五
一九八、〇〇〇	三二、〇〇〇	一一、〇〇〇	六二八、〇〇〇	一、六八〇、〇〇〇	四、五〇一、〇〇〇	一〇、〇五一、〇〇〇	四、七〇四、〇〇〇	六二、四四〇、〇〇〇	一、六一九、〇〇〇	一四、五八〇、〇〇〇	七、七三八、〇〇〇	二五八、九五五、〇〇〇	一九八、〇〇〇	三二、〇〇〇

二、輸出貿易

國 別	英 領 馬 來	暹 羅	比 律 賓	蘭 領 印 度
英 本 國	六七、〇二六、六七二	四、七七五、〇一七	三八、九六三、〇〇〇	三八、三二五、〇〇〇
英 領 印 度	三一、七六四、九〇七	四、四四二、三三七	三、一五一、〇〇〇	六一、八三七、〇〇〇
英 領 南 洋	九、〇一二、一五五	六六、九三〇、二二七	一〇、〇一六、〇〇〇	一八四、九七二、〇〇〇
香 港	二〇、一二八、五七二	四〇、〇二二、二六五	一〇、〇一六、〇〇〇	五一、〇九一、〇〇〇
南 ア フリ カ	三九一、六六三	三四三、〇一九	一〇、〇一六、〇〇〇	一二、三七八、〇〇〇

論 說 我邦ノ南洋貿易ニ就テ

(一五七)

三

上表ニ依テ觀ルニ、或ハ多少ノ重複アルヲ免レナイガ、南洋一帯ノ貿易ハ、少クモ年額輸入ニ於テ十億圓以上。輸出ニ於テ十四五億圓内外ニ迫ブモノト言ツテヨイ（佛領印度支那ノ貿易額ハ輸入五千億二千八百萬法ニ過ギナイカラ上表統計ニハ之ヲ計上セナカツタ次第デアル）從テ我邦ノ貿易ハ、結局纔ニ南洋ノ貿易上、輸入ニ於テ一割餘、輸出ニ於テ一割弱ヲ占有セルニ過ギナイ、英國ノ如キハ、乾坤一擲國ヲ堵シテク大戰ニ從ヒナガラ、尙十八年ノ戰時中ニ於テ、英本國スラ一割以上二割近クノ地位ヲ保持シ、其屬領ノ貿易額ヲモ加算センカ、南洋貿易上ニ於テ、依然トシテ四割内外ノ優位ヲ占守シテ居ル、米國ノ南洋貿易ハ、戰前ニ在テハ、單ニ比律賓ニ對スル貿易ノ外、特ニ見ル可キモノガ無カツタガ、戰時中我邦以上ノ躍進的發展ヲ遂ゲ遂ニ英本國ヲ凌駕シテ、輸入ニ於テ約二割、輸出ニ於テ三割五分内外ノ地位ヲ占メ確固タル一大勢力ヲ彼地ニ扶殖スルコトニナツタ。

二

今ヤ各列強ハ、何レモ戰時中ニ其經濟上ニ被ツタ瘡瘍ヲ可及の迅速ニ醫センガ爲メニ、内ニ在テハ産業ノ復活輸入品ノ抵制ヲ策スルト共ニ、極力對外的活躍ヲ試ムベク心營シツ、アルカラ、我邦トシテハ、何時迄モ製品ノ銷路トシテ歐米ノ市場ノミニ信賴スルコトハ出來ナイ、從テ一面ニ於テ飽ク迄支那南洋ノ市場開拓ニ努力セナクテハナラス、就中南洋一帯ノ市場ハ、上表示ス如ク

今日已ニ十億圓以上ノ購買力ヲ有シ、支那ノ六七億ニ比シテ遙ニ廣大ナル販路デアリ、且ツ之ニ隣接シテ印度濠州テフ大市場ヲ控ヘ、而カモ我邦ノ間ニハ地理上將タ歷史上密邇ナル干繋ヲ有スルカラ、我商品ニトリ重要ナル市場トシテ目注セネバナラヌ、而ルニ歐洲戰爭ナル千歲一遇ノ好機ニ逢着シナガラ、尙今日我邦ガ、叙上ノ地位ヲ占獲セルニ過ギナイコトハ、洵ニ遺憾タラザルヲ得ナイ。

固ヨリ我邦ニ於ケル各種工業ノ進歩ハ、未ダ歐米ノ夫レニ迫バナイガ、現時南洋地方ニ需要セラル、商品ノ多クハ、現下ノ我工業界ニ於テ之ヲ供給スルコトハ、強チ不可能デハナイ、否ナ寧ロ其民度ヨリシテ、本市場ハ我邦ノ工業程度上、最モ適應シタ製品ノ銷路ト言ツテヨイ、即チ歐米向ト支那向トノ中間ニ位スル中等品ノ市場デアル、加フルニ殊ニ吾人ノ見ヲ以テスルニ、南洋市場ハ我邦ニトリ特殊ノ干繋ヲ有シテ居ル、蓋シ元來彼地方ニ居住セル五千萬ニ餘ル馬來種族ナルモノハ、風俗慣習其他生活態容ニ於テ、世界ノ諸民族中最モ否ナ唯一ノ我大和民族ニ類似セル諸點ヲ有スル種族デアルト共ニ、本地方ニ於テハ從來英國品ガ、久シキニ亘ツテ優位ヲ占メ居ルトハ云ヘ未ダ彼等馬來民族ノ生活ヲ左右スル迄ニ、販路上ニ堅實ナルノ根蒂ヲ有シテ居ナイ、即チ換言セバ、商品ニ對スル彼等ノ慣習嗜好ナルモノハ他國ノ如キ強固ナル基礎ヲ有シテ居ナイノデアル、斯ノ如ク彼等ガ、其輸入外國品ニ對シテ、根強イ執着ヲ有シテ居ナイト云フ點ハ、比較

の共通シタ生活上ノ慣習ノ下ニアル我邦トシテハ、最モ着目スベキ、又乘ズベキ特異ノ點デハナカラウカト思惟スルノデアル、是レ蓋シ馬來民族ナルモノハ、何等ノ自發的文明ヲ有セザルハ勿論、國トシテモ民族トシテモ、記スルニ足ルベキ歴史トシテモ之ヲ有セズ、其統治者ノ如キモ時代ニ依リ變更シ、且ツ地方のニ分割サレ、加フルニ外國品ノ消費モ未ダ年代淺ク、從テ彼等ノ嗜好趣味ナドノ如キモ、根本的ニ未ダ育成セラル、ニ至ラナイノデ、唯其自然界ヨリ感受シ、若クハ宗教的傳説ニ基イテ有シテ居ル多少ノ特性ガアルノミニ過ギナイカラデアル。

而ルニ元來我邦ノ海外貿易ノ發展ニ對スル最モ大ナル缺陷ハ、我内國向ノ商品ノ少ナクナイコトデアル、即チ風俗慣習ガ、餘リニ諸外國ノ夫レト甚シキ徑庭ヲ有スルガ爲メニ、國內ニ需要セラル、我製品ハ、動モスレバ外國ノ需要ニ適應セナイ傾ガアル、隣邦ノ大市場タル支那ニ於テモ、其生活タルヤ、多クノ點ニ於テ寧ロ歐米ニ類似シテ居ルガ爲メ、我對支貿易上ニ於テモ如上ノ嫌アルヲ免レナイ、此レガ爲メ我邦ニ於テハ、近代ノ製造業ニ於テ生産費ヲ可及的低減セシムルト共ニ、品質ノ改善統一ヲ期スル爲メノ第一要件タル大量生産ヲ、凡テノ商品ニ對シテ實行スルコトガ、動モスレバ困難デアル、而カモ如上ノ缺陷タルヤ、今日ノ進歩セル國際貿易ニ處スルニ於テ、我國運ノ發展上特ニ遺憾トスル所デアル、而ルニ南洋地方ハ叙上ノ如ク商品ニ對スル需要ガ未ダ強ク固定サレテ居ナイ傾向ガアルカラ、今後我當業者ノ努力如何ニ依テハ、他國ニ需要サレ

ナイ我特殊商品デモ、相當販路ヲ開拓スルコトガ出來、又意匠圖案等ニ於テモ、我邦本來ノ趣味ヲ普及セシムルコトガ、強チ不可能デハアルマイト信ズル、現ニ他國ニ全然需要ノ無イ細巾浴衣地ノ如キ、近年或ル商人ガ、試ニ之ヲ輸出シテ相當販路ヲ開拓セシ如キハ、偶々叔上ノ點ヲ實證シタ一例デアル、又意匠圖案等ニシテモ、彼ノ瓜哇更紗ナルモノガ、著シク我邦人ノ趣味ニ合致スル點カラ觀テ、彼地ノ住民ガ傳來的ニ嫌惡セルモノデナイ以上ハ、我邦本來ノ趣味ヲアル程度マデ普及セシムルコトガ、左迄難事デハナカラウ。

斯ノ如ク南洋地方ハ、我商品ノ市場トシテ、前途殆ド展望無涯ノ觀ガアルト言ツテヨイガ、殊ニ彼地方ノ天產物ヲ利用スル輸入貿易上ヨリノ見地カラシタナラバ、南洋一帯ハ一層重要ナル干繫ヲ有シテ居ル、蓋シ熱帶ヲ制スルモノハ、世界ヲ征ストノ言ノ當否ハ兎モ角、少ナクモ工業原料並ニ食料品ノ供給地トシテ、無限ノ經濟資源ヲ藏有スルノ一點ニ於テ、熱帶圈內ニ地位スル南洋地方ガ、今後世界ノ文明、人類ノ幸福ヲ増進セシムル上ニ、重大ナル意義ヲ有スルコトハ疑ナキ所デアル、隨テ我邦ノ如キ其領域內ニ、開發スベキ經濟資源ヲ藏スルコトノ乏シキ國ニ於テハ其豊富ナル天產物ヲ輸入シ、利用スルコトノ必要ナルハ言ヲ俟タナイ、而カモ歐米各國ハ概シテ其本國及近隣ノ屬領ニ於テ、廣大ナル天然資源ヲ包有シテ居ルカラ、南亞ノ物資ヲ利用スルノ必要ガ左迄痛切デナイ、之ヲ需要シテ自然ノ維持ニ緊要トスルハ、獨リ我邦ヲ數フルノミト言ツテ

ヨイ。

叙上ノ如ク南洋地方ニ對スル我邦ノ關係ハ、領ル重大ナル地位ニ在ルト共ニ、其間ノ經濟的連絡ヲ更ニ密邇ナラシムルコトガ、左迄難事デナイニ拘ラズ、今日尙上述ノ貿易關係ヲ有スルニ過ギナイノハ、是レ固ヨリ我國經濟組織ノ根本ニ幾多ノ缺陷ガ在ルカラデ、之ガ發展策ヲ講ゼントスルニハ、勢ヒ根本的改善ニ斧鉞ヲ容ル、必要ハアルガ、併シ其事タルヤ、言フ可クシテ容易ニ行ヒ難ク、又一面ニ於テハ多少南洋貿易ニ伴フ特種ノ缺陷モ存在スルノデ、以下其等ニ就キ管見ヲ試ミ、進ンデ其發展策ニ論及シタイト惟フ。

二

抑々我南洋貿易ノ發展ヲ圖ラントスルニハ、須ラク貿易ノ根底ヲ輸入ニ措クコトガ必要デアル即チ我製品ノ銷路ヲ廣ク南洋地方ニ進展セシメントスルニハ、寧ロ彼地ノ產物ノ輸入利用ニカムルニ如クハナイ、蓋シ南洋地方ノ如キ、民度ノ未ダ概シテ低キヲ免レナイ地方ニ於テハ、先ヅ彼地住民ノ購買力ヲ培養スルコトガ急務デアルト共ニ、輸入貿易ヲ主眼トシタナラバ、輸出運賃ノ如キハ殆ド之ヲ顧慮スルヲ要セナイコトニナル、殊ニ叙上ノ如ク、我邦ノ如キ工業原料並ニ食料品ノ自給ヲ圖ルコトガ出來ズ、是非國外ノ供給ニ俟タネバナナイ國ニ於テハ、一層原料天產物

ノ輸入利用ニ力メネバナラナイ、而シテ之ガ爲メニハ、彼ノ秘藏セル天然資源ヲ開發スルコトガ先決問題デアル。

而ルニ現下南洋百五十萬方哩ノ廣大ナル地域ニ於テ、砂糖、護謨、椰子、麻、茶、煙草、珈琲規那其他ノ藥用原料、香料等ノ有用ナル工業原料若クハ食料品ノ栽培製造ニ對シテ、歐米各國ノ投下セル資本額ハ、固ヨリ精確ナル數字ハ之ヲ窺知シ難イガ、少クトモ十數億ヲ下ラナイニ拘ラズ、我邦ノ投資額ナルヤ、近年護謨麻及砂糖ニ對シテ少ナカラザル増進ヲ示シタ如ク稱セラル、ガ、未ダ總額一億ニモ足ラナイ、加之南洋天產物ノ諸外國ニ輸出セラル、モノガ、年額少クモ十五億圓ニ迫ブニ拘ラズ、我邦ニ輸入セラル、モノハ、從來ノレコレドナル一九一八年ニ於テ尙、一億五千萬圓ニ上ルニ過ギナイ、而カモ其一部ハ船腹ノ關係上更ニ米國其他ニ再輸出セラレタモノデ全額ガ我邦ニ於テ利用消費セラレタモノデハナイ。

是ヲ以テ吾人ハ、一面我資本ヲ以テ南洋未開ノ富源ヲ開發スルト共ニ、他面我邦内ニテ其天產物ノ利用ヲ圖ルコトノ先決ノ要務ナルヲ提唱スル所以デアル、殊ニ南洋地方ニ於テモ既ニ開拓セラレタル地域ハ、極メテ一部分ニ止マリ、纔カニ瓜哇及馬來半島ノ一部ヲ數フルノミデ、其他ノ地方タルヤ未ダ大半未拓ノ富源デアル、從テ鐵、石油、錫等ノ有用礦物ノ秘藏セラル、量ノ巨額ナルハ勿論、未ダ十分利用ノ途ノ發見セラレナイ天產物ノ如キモ亦タ、決シテ少ナクナイノミ

ナラズ、栽培物トシテモ更ニ有用ナル適作品ノ有無ニ關スル研究ガ、未ダ十分遂ゲラレテ居ラナイ、今後此等ノ事業ガ、邦人ニ依テ染手セラレタナラバ、應テ我邦工業發展ノ根蒂モ築造セラル、コトニナリ、輸出貿易ノ如キ期セズシテ飛躍ノ機ニ接スルデアラウ。

由來南洋投資ヲ促進セシムル上ニ於テ、最大ノ障礙トナルコトハ、概シテ巨額ノ資本ヲ固定セシメナケレバナラヌ事デアアル、是レガ爲メ假令熱帶產業ナルモノガ、比較的確實デアツテ且ツ相當ノ利廻ニ當ルニシテモ、多クノ資本家ノ進ンデ着手セナイ所以デアアル、是ヲ以テ今後邦人ノ企業ヲ推獎センガ爲ニハ、是非トモ南洋地方ニ於ケル各種企業ニ低利資金ヲ供給スルノ策ヲ講ズルコトガ必要デアアル、即チ特種ノ貸付銀行ヲ設クルコトガ第一ノ要務デアアル、今日英國及ビ和蘭ノ投資額ガ十數億ニモ達及シタノハ、一ニ特種ノ任務ヲ帶ベル銀行ノ後援若クハ活躍ニ負フ次第デアアル尙南洋投資ニ就テ論議スベキ點頗ル多イガ、後日更ニ稿ヲ改メテ説述スルデアラウ。

四

南洋一帶ニ於ケル住民ノ大部分ハ、所謂馬來種族デアツテ、其數約五六千萬ト稱セラル、而シテ其生活程度タルヤ、固ヨリ未ダ頗ル低級タルヲ免レナイ、其爲メニ動モスレバ我貿易業者ノ多クハ、南洋市場ハ所謂粗製品ノ需要地トノミ速斷セルヤノ傾ナキヲ得ナイ、從テ戰時中我南洋

輸出貿易ハ、少ナカラヌ躍進ヲ遂ゲタガ、翻テ其内容ヲ査究センカ、概シテ戰前ヨリ供給セラレタ粗製下級生産品ノ輸出ガ、單ニ激増シタニ過ギナイト云フガ如キ觀ガアルノデ、眞ニ穀米品ノ代用品タルニ足ル高級生産品ノ輸出ニ至ツテハ、比較的著大ノ發展ヲ示シテ居ラナイ、尙甚シキニ至ツテハ、商品本來ノ用途ニ適應セナイ不正品ノ供給セラレタ實例スラ、從來稀ナリトセナカツタ、勿論斯ル事實ノ發生ヲ見ルニ至ツタノハ、一面ニ於テ戰時中本市場ノ物質ノ著シク缺乏シタニ乘ジテ殆ド海外貿易ニ經驗ノナイ、謂ハバ幾多ノ一時的貿易業者ガ出現シテ、毫モ將來ノ信用ヲ顧慮スルコトナク、眼前ノ利益ノ吸收ニ齷齪シタガ爲メト、尙今日ニ於テモ我南洋貿易ノ一半ガ、我邦在留支那商人ノ手ニ依テ營マレ居ルモノガ在ルカラデモアル、而シテ此等ノ不正商ハ漸次淘汰セラレツ、アルヤノ觀アルト共ニ、支那商ノ貿易權モ漸次邦商ノ手ニ移リツ、アルガ、併シ何レニシテモ、概シテ我南洋輸出品ノ大半ガ、粗製品タルヲ免レナイコトハ、爭フ可ラザル事實デアル。

而ルニ南洋市場ノ真相ヲ査究スルニ、我ガ多クノ貿易業者ノ觀察スルガ如キ粗製品ノ銷路デハ決シテナイ、勿論去リトテ優良品ノ市場トノミ斷ズルハ、語弊ガアルガ、少クトモ耐久性ニ富ム商品ノ需要地デアルト斷定シテ差支ナイ、蓋シ南洋ノ住民ハ、一面ニ於テ過去數百年間耐久性ニ富ム歐洲製品殊ニ英國品ヲ主トシテ消費シ來リ、之ガ使用ニ慣熟シテ居ルノデ、比較的粗製品ト

稱セラル、米國品ハ、從來主トシテ比律賓地方ノミヲ市場トシ、其他ノ南洋市場ニ輸入セラレタ
ノハ我邦製品ト同シク、歐戰以來ノ事實デアルト共ニ、他面彼等住民ハ本來天恵ニ富ム熱帶ニ在
住セル關係上、生活ガ極メテ安易デ且ツ單簡デアリ、而カモ支那ナド、異ナリ歷史上比較的平和
ナル生活ヲ營ミ來ツタ關係上、殆ド彼等ニハ未來ニ備ヘルト云フ貯蓄心ガ缺如シテ居ル、斯ノ如
ク貯蓄ニ乏シキニ加ヘテ、概シテ末ダ農業經濟ヲ主トセル關係上、絶ヘズ生活必需品ニシテモ之
ヲ買換ヘルト云フ餘裕ガ無イ加フルニ南洋地方ニ於テハ動モスレバ彼等ノ生活慣習上、將タ熱帶
タル關係上商品ノ種類ニ依テハ著シク其耐久性ヲ弱メル傾向アルヲ免レナイ、是レ本市場ニ於テ
概シテ耐久性ニ富ム商品ノ需要セラル、所以デアル。

斯ク南洋市場ハ一ハ從來ノ慣習上、一ハ住民ノ生活上ノ必要カラシテ、決シテ粗製品ノ需要地
デナイニ拘ラズ、從來我邦ヨリ供給セシ商品ハ、動モスレバ甚シク粗製ニ失シ、價格ダニ廉ナラ
バ、其品質ノ如何ハ問フ所ニ非ズト云フガ如キ方略ヲ以テ徒ラニ購買者ノ需要ヲ唆カシタルカノ
感アルヲ免レナイ、勿論其結果短時日間ニ、比較的本邦商品ノ販路ヲ進展セシムルヲ得タカノ觀
アルモ、併シ半面ニ於テ之ガ爲メ、本邦品ノ聲價ヲ失墜シ、率テ商人ノ信用ヲ低下シタルコトハ
爭フ可ラザル事實デアル、從テ多クノ消費者ハ勿論、本邦品ヲ取扱フ外商ノ如キモ、本邦品トサ
ヘ云ヘバ根本カラ粗製品ト決定セルヤノ傾ガアル、爲メニ折角ノ優良品モ本邦製ノ商標ヲ附スレ

バ、之ヲ高價ニ販賣シ難イト云フ嫌ガアル、其結果今ニ於テ尙南洋市場ニ、我商權ノ根蒂ヲ扶殖樹立スルコトガ出來ナイ、現狀ヲ以テ進ンダナラバ、恐ラク今後歐洲經濟界ノ回復ニ伴フ捲土重來ト、米國ノ東亞飛躍トニ因テ、漸ク戰時中ニ占メタ南洋ニ於ケル我商品ノ銷路モ大半奪去セラ
ル、デアラウ。

於是乎、如上ノ缺陷ヲ矯正シ、貿易ノ發展ヲ助長センガ爲メニハ

一、我邦工業組織ノ改善ヲ圖ルコト

二、輸出品ノ検査ヲ嚴重ニスルコト

三、同業組合ヲ組織セシムルコト

四、當業者ヲシテ市ノ實況ニ通曉セシムルコト

ガ必要デアル、殊ニ就中粗製品貿易ヲ防止シ、輸出ヲ旺ナラシメンガ爲メニハ、我邦ノ工業組織ヲ改造スルコトガ根本ノ要務デアル、現時ノ如キ我製造業ノ大半ガ尙、小規模ナル分散的小量生産組織デハ、統一的製品ヲ供給スルコトノ出來ザルハ勿論、粗製品ノ多ク現ハル、ハ、免レ難イコトデアル、從テ速ニ我邦ノ輸出品工業ヲシテ、大規模ノ大量生産組織ニ進展セシムルコトガ、急務デアルガ、去リトテ此事タルヤ、遽ニ之ヲ期待スルコトハ頗ル難事タルヲ免レナイ、從テ寧ロ現時ノ小規模ナル製造業者ニ、夫々組合ヲ組織セシメテ低利ノ工業資金ヲ貸與シ、以テ其製品

ノ統一ヲ圖ルト共ニ、彼等ノ地位ヲ大ニ健實ナラシメテ、商人ニ左右サレナイ様ニ爲スガ、刻下ノ事情ニ照シ最モ得策トスル所デアロ。

併シ如上ノ方策モ總テノ製造業ニ之ヲ及ボスコトハ、殆ンド不可能デアルカラ、一面ニ於テ輸出品ニ對シテ品質検査ヲ勵行スルコトモ亦タ必要デアル、勿論元來斯ル問題ハ、製造業者及貿易業者ノ德義心ニ訴フルノ外ナキモノデ、從來勵行セラレテ居ル各種輸出品ノ検査ノ如キ、事實其効果ノ疑ハシキ場合ガ、決シテ少ナクナイガ、併シ商業道德ノ發達シナイ我邦ノ現狀ニ於テハ、一層検査ヲ嚴重ナラシムルコトガ必要ナルヲ失ハナイ、而シテ検査ヲ徹底的ナラシムル爲メニ、海外ノ商業機關ト連絡ヲ保チ、検査ヲ胡麻化シタ商人ニ對シテハ嚴重ナル制裁ヲ科スルヲ要スル。

尙貿易業者ヲシテ相互ニ自制セシムル爲メニ、同種商品取扱業者ヲシテ夫々組合ヲ組織セシムルコトモ亦タ必要ナルヲ失ハナイ、蓋シ現時我貿易業者ハ、本國及海外ニ於ケル輸出入商間ニ在テモ、又各相互ノ間ニ於テモ、何等ノ統一連絡ナク、動モスレバ同志擊ノ競争ニ没頭シ、ソノ結果支那商其他ノ外商ニ漁夫ノ利ヲ得セシムルガ如キ實例ニ乏シクナク、而カモ之ガ爲メニ遂ニ粗製品、甚シキニ至テハ不正品スラ供給シ、同志ヲ倒サズンバ己マザルガ如キ行動ニ出ヅルニ至ルノミナラズ、率テ自殺的ノ結果ニ陷ルガ如キ例ガ稀デナイ、殊ニ從來南洋貿易ニ於テ屢次實見シタ事例デハ、折角一商人ノ奮闘ニ依テ、或ル新商品ノ販路ガ擴メラル、ヤ、必ラズヤ他ノ商人

ハ競フテ同一ノ商品ノ取扱ヲ開始シ相互ニ激烈ナル自殺的競争ヲ爲スニ至ルコトデアル、爰ヲ以テ今後同種商品ノ取扱業者ヲシテ、夫々組合ヲ組織セシメテ、相互ニ連絡統一ヲ圖リ、實ニ自制的ニ商品ノ品質改善ヲ促シ、各自ノ利益ヲ確實ナラシムルノミナラズ、更ニ進ンデ協同一致ノ力ヲ以テ、金融保險運送等ニ關スル諸般ノ改善策ヲ講ゼシムベキデアル、勿論由來我商人ノ共同協戮ニ就テハ、多年宣傳セラレナガラ、容易ニ實行セラレナイ所デアル、此際特ニ政府並ニ商業會議所其他ノ商工機關ノ熱心ナル指導誘發ヲ望マザルヲ得ナイ。

叙上ノ如ク不正品ハ勿論、可及的粗製品ノ供給ヲ防過スルガ爲メニハ、諸般ノ施設企劃ヲ必要トスルガ、根本ノ改善ハ矢張當業者各自ノ自覺ニ俟タネバナラス、幾多ノ改善策モ結局自發的デナクテハ、有終ノ効果ヲ全ウスルコトガ出來ナイ、之ガ爲メニハ當業者ヲシテ可及的市場ノ實況ニ通曉セシムルコトガ、當面ノ急務デアル、從來我邦ノ輸出品製造業者ナルモノハ、輸出商若クハ仲買商ノ願使ニ甘ンジ、殆ド彼等ニ左右セラレ居ルト共ニ、輸出商モ亦タ動モスレバ、海外ニ於ケル代理商ニ制肘セラレ居ル傾ガアル、從テ彼等ノ業務ナルモノハ自發的獨立的デナイ、之ガ爲メ市場ニ適應シタ機宜ノ策ヲ講ズルコトガ出來ナイ、殊ニ我邦ノ南洋貿易ノ如キハ、相當ナル調査ト準備ノ下ニ發展シタモノデナク、戰時中ノ物質缺乏ニ乘ジテ寧ロ偶然ノ増進ヲ示シタモノデアルガ爲メ、商品ノ品質形狀色合其他諸般ノ點ニ於テ、必ズシモ我輸出品ハ實際ノ需要ニ適應

セリトハ言ヒ難イノデアル、從テ當業者ヲシテ一面海外ノ實情ニ通曉セシムルト共ニ、他面彼等ヲ指導シ其自覺ヲ促ス爲メニ、政府ハ各地ノ商工業機關ト密接ナル連絡ヲ保持シ、以テ諸般ノ宣傳ニ盡スト共ニ彼等ヲ誘發スベク努力スルコトガ必要デアル。

五

粗製品貿易ヲ可及的防遏スルコトノ必要ナルハ、叙上ノ如クデアルガ、去リトテ南洋市場ニハ絶對ニ粗製品ノ需要ガ無イト言フノデハナイ、商品ノ種類ニ依テハ、敢テ粗製タルモ差支ナイガ可及的耐久性ニ富ム品質ノ商品ヲ供給スルヲ要スルト共ニ、勿論南洋地方ノ如キ民度ノ未ダ頗ル低キヲ免レナイ地方ニ於テハ、廉價テフ商標ハ、最モ顧客ヲ招致シ得ル捷徑デアルガ、去リトテ廉價ナルニ於テハ、品質ノ奈何ハ問フ所デナイト云フガ如キ商略ハ、決シテ永遠ノ策デハナイコトヲ提唱セント欲スルノデアル、既ニ叙ベタ如ク南洋ノ土民ハ、假令其文明ノ程度ハ低イトハ云ヘ、多年歐洲ノ高級生産品ヲ消費シ來リ、之ガ使用ニ慣熟セルト共ニ、天恵ニ富ミ土地ノ生産力頗ル大ナルモ、未ダ著シキ工業ノ發達ヲ見ナイ爲メニ、外國品ニ對スル購買力タルヤ、決シテ支那ナドノ比デハナイ、支那ニ於ケル國民一人當リノ外國品購買力ハ、未ダ三圓ニ充タナイニ拘ラズ南洋土民ニアツテハ少クモ二十圓内外ニ上ツテ居ル、從テ彼等ニ對シテハ、寧ロ優良ナル耐久

的商品ヲ提供シテ、進ンデ彼等ノ需要ヲ喚起セシムル位迄ニ努力スルノガ、永遠ニシテ確實ナル商策タルヲ疑ハナイ。

併シ元來商業ノ眞諦タルヤ、品質ノ優秀ナル商品ヲ可及的廉價ニ供給スルニ在ルハ、固ヨリ言ヲ俟タナイト共ニ、殊ニ南洋地方ハ文化ノ低キダケ品質ノ奈如ヨリモ價格ノ低廉ト云フコトニ動カサレ易イ、之ガ爲メ從來我貿易業者ノ多クハ、廉價政策ニ依テ急速ニ販路ヲ獲得セント焦慮シ徒ラニ粗製濫造ヲ生産者ニ迫リ、生産者ハ又市場ノ實情ニ通曉セズ、商人ニ願使セラレ居ル現状デアルカラ、己ムナク生産功程ヲ省略スルコトニノミ腐心シ、命ノマ、ニ粗惡品若クハ甚シキニ至ツテハ不正品スラ、供給シ來ツタノデアル、從テ今後ハ價格ヲ廉ナラシメンガ爲ニハ、品質ヲ劣惡ナラシムルコトナク、品質ハ飽ク迄之ヲ改善向上セシメ、寧ロ價格ハ別途ノ努力ニ依テ之ヲ廉ナラシムルコトガ必要デアル、而シテ凡ソ其方法トシテハ、一面生産組織ノ改善ニ依テ、商品ノ生産費ヲ低減セシムルト共ニ、他面販賣組織ノ改善ニ依テ、可及的販賣費ヲ節約スルコトニ外ナラヌ。

生産組織ノ改善ニ就テハ、上述ノ如ク生産組合ヲ組織セシメテ、低利資金ノ貸付ヲ圖リ、彼等ノ地位ヲ健實ナラシムルヲ得策トスルガ、假令資金ヲ供給セナイマデモ、夫々協同シテ相互的ニ信賴ヲ固クスベキ組織ヲ設ケシムルコトガ必要デアル、即チ換言セバ、原料ノ購買ヨリ製品ノ販

賣ニ至ル間ニ於ケル諸種ノ點ニ於テ、カ―テル式組織ヲ設ケタナラバ、自然ト生産費ヲ節約スル
コト、ナルヤ疑ナイ、而シテ販賣費ノ低減ニ付テハ、現狀ノ下ニ於テハ直接貿易ノ促進ヲ以テ最
モ有効トスル、更ニ進ンデ重要輸出品ノ如キニ在テハ、共同販賣所ヲ設立セシムルヲ最モ得策ト
スル、從來我邦經濟界ノ一大缺陷ハ、仲界商ノ多キニ失スル點デアル、率テ貿易界ニ於テモ同様
ノ嫌アルヲ免レナイ、其爲メニ粗製品デモ消費者ノ手ニ歸スルマデニハ、比較的價格ガ不廉トナ
ラザルヲ得ナイ、品質粗惡ニシテ而カモ價不廉ナルニ於テハ、需要ヲ永續セシメ増加セシムルコ
トノ出來ナイノハ、固ヨリ理ノ當然デアル、爰ヲ以テ今後可及的貿易ヲ直接的ナラシムルコトガ
急務タルヲ失ハナイ、之ガ爲メニハ一面海外ニ於ケル商品陳列館若クハ商務官制度ヲ完備シ迅速
ニ市況ヲ内地當業者ニ知ラシムルハ勿論、進ンデ興信的業務ニ努力セシムルト共ニ、他面上述ノ如
ク一般當業者ヲシテ市場ノ實況ニ通曉セシムルコトガ要務デアル、尙重要輸出品、例ヘバ南洋市
場ニ在テハ、綿製品陶磁器醋酸等ノ如キ商品ノ製造業者又ハ取扱商ヲシテ、共同販賣所ヲ主要市
場ニ設ケシムルコトガ良策デアル、斯クセバ從來ノ如キ無用ノ仲間經費ヲ著シク節約シ得テ、商
品ヲ廉價ニ供給シ得ルノミナラズ市場ノ實需ニ適應シタ商品ヲ供給スベク機宜ノ策ヲ採ルコトヲ
得テ、不正品ハ勿論粗製品ノ供給ヲモ、自ヅト防止シ得ルデアラウ。

尙價格ヲ可及的廉ナラシムル爲メニ、特ニ輸出獎勵ヲ必要トスル商品、例之綿製品、醋酸其他

ノ藥品、せめんと、硝子器、せるろいど製品、其他金屬製品及化學工業品等ニ對シテハ、營業稅若クハ所得稅ヲ可及的輕減シテ、一種ノだんびんぐヲ爲シ得ル餘力ヲ與フルガ如キ、或ハ又此種ノ商品ニ對シテ國內ノ鐵道運賃ノ如キハ場合ニ依テハ之ヲ免除シ、汽船運賃ノ如キモ補助金交付ノ條件トシテ、船會社ヲシテ出來得ル限り輕減セシムルガ如キモ亦タ、販路擴張ノ一策タルヲ失ハナイ。

六

南洋地方ニ在ツテハ、動モスレバ品質ノ奈何ヨリモ、價格ノ低廉ナルコトガ、需要ヲ誘起セシムル基トナリ易キハ叙上ノ如クデアルガ、其對應策ノ一トシテ、可及的長期ノ掛賣ヲ爲スコトモ亦タ一良策デアル、否ナ或ハ寧ロ最モ有効ナル最上策デアルカモ知レヌ、殊ニ前ニモ叙ベタ如ク本地方ノ如キ、住民ハ貯蓄心ニ乏シク且ツ未ダ農業經濟ヲ主眼トシ、概シテ商工業ニ從事スル者ノ如クニ、必要ニ應ジテ隨時金融ノ便ヲ受ケ得ナイ者ニトツテハ、長期ノ掛拂ハ其最モ便トスル所デアル、從テ長期ノ掛賣ハ、需要者ヲ誘フ最良ノ術策デ、率テ販路擴張ノ捷徑ト言ツテヨイ、併シ之ガ爲メニハ、從來二ヶ月内外ヲ慣例トセル我南洋貿易ノ爲替手形期限ヲ、少クモ四ヶ月以上六ヶ月内外ニ延長スルコトガ必要デアル、此點ハ從來貿易業者ノ最モ渴望セル所デ、又屢次識

者ニ依ツテ提唱セラレタ所デ、一ニ其方法如何ニ繫ル宿案デアル。

凡ソ吾人ヲ以テ觀ルニ、本問ノ要件タルヤ、一面爲替銀行ノ爲替資金ヲ豊富ナラシムルト共ニ他面貿易業者ノ信用ヲ擴張スルコトニアルト信ズル、如上ノ二點ダニ解決セバ、之ガ實行ハ左迄難事デハアルマイ、從來ノ我邦ニ於ケル爲替銀行ハ、概シテ資金ガ不十分デアツタガ爲メ、資金ヲ長期間固定セシメルコトハ、殆ド不可能デアツタ、去リトテ猶太人ニ依テ經營セラレタ獨逸ノ銀行ノ如クニ、投機ニ染手スルダケノ勇氣ト手腕トハ認メラレナイ、勿論我ガ爲替銀行ノ多クハ、戰時中ノ好景氣ヲ利用シテ、何レモ相當ノ増資ヲ爲シ、隨テ資金モ多少豊富トナツタガ、尙之ヲ長期間固定セシメルコトハ、多少難事タルヲ免レナイ、爰ヲ以テ一定ノ爲替銀行ヲ限リ、一定額迄社債發行ノ特權ヲ附與スルヲ得策トスル、斯クスレバ相當長期間資金ヲ固定シテモ、銀行トテハ何等ノ苦痛ヲ感ゼナイ、而シテ他面之ニ對應スル爲メニ、貿易業者側ニ在テハ、組合ヲ組織シテ共同ノ信用ヲ以テ報ユルカ、然ラザルモ最モ利害ノ密邇ナル同業者等ガ、數名連帶ノ責任ヲ以テ之ニ應ズルコトガ良策デアル、或ハ又組合ニ關聯シテ一種ノ引受機關ヲ設クルガ如キモ亦タ、一策タルヲ失ハナイ、而シテ此種ノ銀行内ニハ特ニ南洋課ナルモノヲ設ケシメテ常ニ貿易業者ト接觸ヲ圖リ、相互ノ了解ヲ圓滿ナラシムルト共ニ、一面貿易業者ニ對スル指導監督ノ任ニ當ラシムベキデアル、蓋シ銀行ノ常ニ貿易業者ヲ危險視スルハ、半面ニ於テ貿易業者ノ内部ニ對シ十

分ナル了解ヲ缺クト共ニ此ガ監督ノ途不十分ナルカラデアル、斯ノ如クニシテ爲替資金裕トナリ貿易業者ノ銀行ニ對スル信用擴張セラレタナラバ、長期ノ貸付ハ、必ズシモ難事デハアルマイ。

七

我南洋貿易ノ發展上、看却ス可ラザルハ、支那商デアル、凡ソ南洋百五十萬方哩ノ地域内ニ於テ、約三十億ニ近イ貿易ガ行ハレテ居ルガ、此經濟圈内ニ於テ如上ノ莫大ナル貿易品ガ、何レノ國人ニ依テ集散セラル、カ、即チ換言セバ輸出品ヲ市場ニ集メ、輸入品ヲ各地方ニ分布スル實權ガ、何レノ國人ニ掌握セラレ居ルヤト云フニ、領土權ヲ有スル英人デナク蘭人デナク、固ヨリ佛人デモ米人デモナク、尙更馬來人デモナイ、概言セバ一ニ全ク支那商人デアル、即チ支那商ナルモノハ南洋經濟界ノ主人公ト言ツテヨイ、在南支那人ノ總數ハ約三百萬ト稱セラル、ガ、彼等ノ商業上ノ根柢ハ、各地方殆ド到ル所ニ隈ナク扶殖セラレテ居ル、一タビ彼等ガ衷心ヨリ進ンデ日本品ヲ排斥スルガ如キコトアランカ、我在留輸入商ハ手ヲ拱ネテ、其成行ヲ傍觀セザルヲ得ナイコトハ、大正九年並ニ八年ノ兩回ノ排貨事件ニ於テ經見シタ所デアル、彼等ガ華僑ノ名ヲ以テ、支那本國ノ經濟界乃至政治界ニ對シテモ、一種ノ偉大ナル勢力ヲ有スルモ、畢竟南洋ニ於テ實力アル成功者ノ少ナカラズ存在スルガ爲メニ外ナラス、而シテ彼等支那商ノ中ニハ、直接我神戶橫

濱ノ居留支那商ト連絡ヲ通シ、本邦商品ノ輸入ニ從事セル者モ少ナクナイ、此種ノ商人ガ、主トシテ粗製品ヲ供給シテ、本邦商品ノ名聲ヲ失墜セシムルノ一因ヲ爲スニ至ツタコトハ、既ニ叙述シタ如クデアル。

抑々現時ニ於テ尙我邦外國貿易ノ一部分ガ、支那商ノ手ニ依テ營マレ居ルハ、我貿易業者ノ一恥辱タルヲ失ハナイ、是レ畢竟我當業者ガ、何等ノ統一連絡ナク、殆ド支離滅裂ノ狀態デ、徒ラニ同志擊競争ニ没頭セルガ爲メニ外ナラナイ、我當業者ニシテ共同協戮ノ舉ニ出デタナラバ、決シテ今日支那商ノ界在ヲ許容セナイ、南洋市場ニ在テモ、彼等ニ處スル對應策タルヤ、結局同ジク共同ノ策戰ニ出ヅルノ外ナイ、而ルニ前ニモ説述シタ如ク、由來我邦當業者ノ協同的連結タルヤ、屢次諸般ノ方面ニ於テ唱導セラレツ、アルニ拘ラズ、其實ヲ舉グルコトガ出來ナイ、是レ決シテ協同ノ利益ヲ知悉セナイガ爲メデナク、知テ而カモ行フ能ハザル所以ノモノハ一ニハ邦人ガ由來團體的訓練ヲ經ルコトガ少ナク、共同的行動ノ修練ガ無イカラデモアリ、又二ツニハ我邦人ハ未ダ國際貿易上ノ經驗ガ淺ク、協同ノ利益ヲ痛切ニ直覺スルコトガ無イカラデアルガ、尙根本ノ要點ナルヤ、一面我邦人ハ概シテ公共ノ觀念ニ缺クル所ガアルト共ニ、他面自主自治の精神ニモ缺如セル所ガアルカラデアル、由來我邦ハ、家族主義ノ國デアリナガラ、親族故舊以來ノ同胞ノ集合ニ於テハ、一般ノ利益ト云フコトヲ主眼トセナイ嫌ガアル、而シテ家族主義ニ拘束セラレ

タ關係上、自主的自治的デナイ、從テ他人ノ權利ヲ尊重スルハ、則チ自己ノ權利ヲ重シズル所以デアリ、應テハ自己ノ權利ヲ伸張セシムル基デアルコトヲ自覺シナイ、小我ヲ棄テ、大我ニ合スルハ、畢竟自助ノ基デアルコトヲ惟ハナイ、是レ邦人ノ概シテ一致協同ノ困難ナル所以デアルト共ニ、團體行動ノ成功セナイ重大原因デアル、是ヲ以テ上來叙ベタ當業者ノ協同モ、切ニ政府官憲ノ指導斡旋ニ俟ツノ外ハナイ。

尙南洋ノ市場ニ在テハ、可及的小賣商ヲ普及セシムルコトモ必要デアル、是レ我商權扶殖ノ根本策デアルト共ニ、一面商品ノ消費者ガ、主トシテ馬來民族デアル關係上、支那商ニ左右セラルハコトヲ回避スル一策トモナル、而シテ之ガ爲メニハ、小中流商人ノ爲メノ小金融機關ノ成立ヲ促スコトヲ要スル、尙南洋ノ主要市場ニებ——とめんとすとあヲ開設スルガ如キモ亦タ、如上ノ目的ヲ達成スルノ一策デアル。

上來叙述セシ南洋貿易助長策ニ就テハ、未ダ論ジテ盡サル所多キモ、叙上ノ方策ニ對シ緩急宜シキニ從ヒ、適宜施設實行シタナラバ、必ラズヤ本貿易ノ振興ヲ見ルニ至ルデアラウ。

塞外茶貿易論

田中忠夫

目次

- 第一章 塞外茶貿易ノ發達
- 第二章 塞外茶貿易ノ方法
- 第三章 塞外茶貿易ノ効果
- 第四章 塞外茶貿易ノ將來

第一章 塞外茶貿易ノ發達

- 茶ハ何故ニ又如何ニシテ、塞外民族ニ傳播シタルカ、想フニ塞外民族ニ茶ノ傳播シタルハ、
1. 塞外民族ノ茶ヲ必要トスルコト。
 2. 茶ハ運搬性ニ富ムコト。
 3. 塞外民族ノ支那民族ト接觸セシコト。
 4. 支那民族ノ塞外茶輸出ニ努メシコト。

等ノ原因ニ歸スルコトヲ得ベシ。今ソノ第一第三及ビ第四ノ原因ニ就キテ、少シク述ブルトコロアルベシ

第一節 塞外民族ノ茶ヲ必要トセルコト

塞外民族ハ遊牧ヲ以テ、ソノ生活トナシ、農耕ニ親シマザルヲ以テ、ソノ食物ハ畜產物即チ動物性食品ニ限ラル。『宋史職官志』(七)ニハ『元符末、程之邵言、戎俗食肉飲酪、明史食貨志』ニハ『番人嗜乳酪』ト云ヘリ。是レ塞外民族ガ肉ヲ食ヒ、乳酪ヲ飲ミ、專ラ動物性食品ヲ主食トスルモノナルコトヲ謂ヘルナリ。現在ニ於テモ、蒙古、西藏ニ於テハ、遊牧ヲ以テソノ生活トナシ、未ダ農耕ニ親マザルモノ多ク、ソノ食物ノ狀態ヲ觀察スレバ、如何ニ過去ニ於テ民族ガ肉ヲ食ヒ、乳酪ヲ飲ミツ、アリシカラ推測スルコトヲ得ベシ。

今我ガ參謀本部ノ調査ニ據ルニ、興安嶺ノ東南部ハ既ニ滿漢人ノ移住ニ依リテ開拓漸ク進メルヲ以テ、コノ間ニ雜居スル蒙古人モ、滿漢人ト均シク、高粱、粟、小麥、黍其他ノ雜穀、野菜類(大根白菜、蕎麥、苳葱、馬鈴薯、芹、西瓜、南瓜、茄子等)ヲ用ヒ、マタ盛ニ雞豚ヲ飼ヒ、牛乳及ビソノ製品ヲ用フルコト殆ドナシ。

開拓地隣接地方ニ於テハ、黍又ハ粟ヲ主食トシ、牛乳又ハソノ製品獸肉ヲ用ヒ野菜類ヲ混用ス興安嶺地方ニ於テハ黍ヲ用ヒ、種々野菜ヲ食シ、牛乳及ビソノ製品ノ獸肉ヲ多量ニ用フ。

興安嶺ノ西北部、外蒙古及ビ錫林郭勒盟ノ如キニ於テハ、雜穀野菜トモ殆ド耕作セラル、コトナ

ク、黍ハ甚ダ貴重ナルヲ以テ、一人一食僅ニ一握ヲ食スルニ過ギズ。此ノ地方ニ於テ、主食ト見ルベキハ、茶乳及ビ羊肉等ナリ、小麥粉、干饅飩ノ如キハ珍シキ馳走トシテ、唯富者又ハ王公等ニアラザレバ用ユルコト稀ナリ。察哈爾及ビソノ西部ニ住スル人民モ、外蒙古及ビ錫林郭勒盟地方ト略ボ同一ノ狀態ナレドモ、近時開墾ノ進捗ニ伴ヒ、漸次雜穀豐カトナリ、且ツ從來ト雖市場ニ近キヲ以テ、外蒙古及ビ錫林郭勒盟地方ニ比シテ、遙ニ便宜多ク、ソレト共ニ穀物ヲ食スルコト稍多量ナリキ。今日ハ開拓ノ進歩、農耕ノ盛シナル地方程、雜穀野菜等ノ植物性食品ヲ使用スルコト多ク、牛乳及ビ其ノ製品等ノ動物性食品ヲ使用スルコト少キヲ觀ル。故ニ農耕ノ殆ド發達セザル古代ニ於ケル塞外民族ハ、現在蒙古ニ於テ最モ農耕ノ發達セザル外蒙古及ビ錫林郭勒盟地方ノ土人ヨリモ、尙ホ多クノ動物性食品、尙ホ少キ植物性食品ヲ使用シ、殆ド動物性食品ノミヲ偏食セシコトヲ推測シ得ベシ。

現今、蒙古人ガ如何ナル動物性食品ヲ攝取シツ、アリヤヲ察スルニ、牛乳及ビ其製品並ニ肉類ニ大別セラル。

(一)牛乳及ビ其製品

蒙古人ノ最モ多ク且ツ恒常的ニ營養ヲ得ルハ、牛乳及ビ其ノ製品ナリ。蒙古ニテハ各戸必ズ多少ノ牛ヲ有シ、少キハ數頭ヨリ多キハ數百數千頭ニ及ビ、家畜ハ彼等ノ財產ナリ。中等人ハ平均十五頭ヲ有シ、其中年々平均シテ搾乳シ得ルハ四頭位ニシテ、十五頭ノ牛

數以上ハ牡牛ニテ悉ク之ヲ去勢セリ。乳牛ハ五、六、七、八ノ四個月ハ、一日一頭約三升、九、十、十一ノ三個月ハ一日一頭約一升ヲ搾乳スルコトヲ得。

(a) 生牛乳、蒙古人ハ牛乳ヲ生ノマ、飲用スルコト殆ドナシ、蓋シ彼等ハ生牛乳ハ下痢ヲ發シ、衛生上有害ナリト信ズルガタメナリ。然シ絶對的ニ生牛乳ヲ用ヒザルニアラズ、茶ニ之ヲ入レテ飲用スルハ、彼等ノ常習ニシテ、蒙古人ノ營養品トシテ閑却スベカラザル食品ナリ。

(b) 酸乳(チアガ) 搾乳セル牛乳ノ殘部ヲ土甕ニ入レ、溫室ニ放置シ、毎日二回位、搾絆シツ、盛シニ乳酸醱酵ヲ起サシメテ得タルモノ、即チ酸乳ナリ。コノ酸乳ナルモノハ、蛋白濁濁ヲ呈シ、中ニ雲片狀絮狀ノ「カゼイン」ノ變化物等ヲ混有スル酸味アル飲料ナリ。數年間之ヲ貯藏シテ使用スルコトアリト云フ。

一人一日ノ飲乳量ハ、嶺内外ニ依リテ多少アリ、嶺内ハ平均六合、嶺外ハ平均一升五合四勺ニ當リ、農耕進マザル嶺外ノ蒙古人ハ、農耕ノ進メル蒙古人ニ比シ飲乳量多キヲ觀ル。二三旗内ノ一人一日飲乳量ヲ觀ルニ次ノ如シ。

嶺内 阿爾科爾沁旗

六〇〇 合

東札魯特旗

四〇〇

達爾罕旗

八〇〇

嶺外 東烏珠穆沁旗

西烏珠穆沁旗

一四・四
一六・三

蒙古人ハ之ヲ營養品トセズ、寧ロ嗜好品乃至藥品(消化器病ニ對スル)トシテ、意ヲ用ヒツ、使用スルモノナリ。
(c)黃油(乳肪、シトラス) 牛乳ヲ搾取シテ、六、七、八月頃溫室ニ放置シテ、上層ニ浮ベル乳皮ヲ取り、麻袋ニ入レテ水分ヲ去ル。得タル乳皮ハ、鍋ニ入レテ攪拌シツ、煮沸シ、黃油トナス。尙ホ上層ニ浮ベル脂肪ヲ採集シ、若クハ十、十一月、頃多ク製スル奶皮子ヲ強煮攪拌シテモ之ヲ得。然シコノ種ノ黃油ヲ使用スルコトハ、甚ダ稀ナリト云フ。春夏ノ草ヲ食ヘル牛ノ搾乳ヨリ取レルモノハ黃色ヲ呈シ、晚秋冬ノ枯草ヲ食ヘルモノヨリ取レルモノハ白色ヲ呈スルモ、後期ニ於テハ搾乳少ク、前期ニ取レルモノニテ黃油ヲ製スルナリ。黃油ハ羊、就中羊ノ胃若クハ腸管ヲ乾燥セル物ニ詰メテ之ヲ貯藏ス。食鹽ヲ加ヘ若クハ炒米ニ加ヘテ之ヲ食スルモ、贅澤品トシテ多ク使用スルコトナシ。

(d)奶豆腐(ウーチゴ) 普ク使用セラル、食物ナリ。黃油ノ原料ナル乾皮ヲ取レル殘餘ノ凝結物ヲ、麻布ニテ濾シテ水ヲ去リ、之ヲ鍋ニテ攪拌シツ、粘稠濃厚ナラシメ、後、木製ノ型ニ入レテ方形トナシ、更ニ日光ニ乾カシテ製セルモノナリ、新鮮ナレバ軟クシテ且ツ彈力アリ、直チニ壞レ易キヲ以テ之ヲ壞シ、古キハ硬ク厚サ五糎乃至十五糎位ノ板トナス。之ヲ拳ニテ割り、炒米ニ

茶ヲ加ヘタルモノ、中ニ投ジテ浸シ、而シテ柔軟トナシタル後ニ至リテ之ヲ食ス。

(e) 奶皮子(ウルモ) 晩秋初冬ニ製セル新鮮ナル牛乳ヲ煮、水分ヲ蒸發セシメ、ソノ表面ニ凝固セルモノヲ取り、且ツ乾カシタルモノニシテ、蒲鉾形ノ半圓形ヲ呈シ、頗ル貴重品ナレバ、賓客用トシテ、炒米ニ茶ヲ入レタルモノニ少量混ジテ食スルノミ。ソノ味頗ル佳良ナリト云フ。

(f) 凝結乳(スト) 牛乳ヲ單ニ攪拌シテ凝結シタルモノトナシ、而シテ之ニ種々ノ食品ヲ混ジテ食フ。著シク古キモノヲ見ルコトナシ。

(g) 乳菓 奶豆腐ノ未ダ凝結乾燥セラレザルニ先チ、單ニ砂糖ヲ加ヘ、若クハ小麥粉蕎麥粉ト共ニ混ジ、型ニ入レテ之ヲ製ス。烏珠穆沁旗地方ニ於テハ、生乳ヲ放置シ、而シテソノ析出スル乳皮及ビ「カゼイン」乳糖ノ發酵セルヲ集メ、之ヲ一種黃白色ノ塊狀ニシテ強ク酸臭ヲ發スル菓子トシテ客ニ供ス。

(h) 乳酒(アラヒ) 乳酒ハ酸乳中ノ酒精ヲ蒸シテ得タルモノニシテ、酒ヲ愛好スル蒙古人ハ、高粱燒酎ト共ニ、之ヲ愛好スルコト甚シキモノアリ。

(二) 肉類 肉類トシテハ彼等ノ收用セル羊肉、牛肉、馬肉、鶏肉、豚肉ノ外、野獸、鳥肉並ニ鶏卵等ヲ用フ。

興安嶺以東開墾ノ進捗シ、雜穀蔬菜ノ供給比較的豊富ナル地方ニアリテハ、動物性食品モ比較

的少量ニ之ヲ使用シ「フオイト」ノ保健溫量ニ近ヅキ得ベシト雖、興安嶺以西貓額ノ菜園ダニナ
 キ地方ニ住ム純蒙古人ハ、野菜穀類ニ乏シキヲ以テ、興安嶺ニ近キ烏珠穆沁旗ノ土人ノ如キハ、
 嶺内ニ來リテ畜產品ト穀類野菜ヲ交換スルノ便アレドモ、多クハ是ノ如キ植物性食品ヲ得ルコト
 困難ナリ。從ツテ「フオイト」ノ保健食量ヲ攝ランガタメニハ、動物性食品ノ外、適宜ノ植物性
 食品ヲ攝取スルノ必要アリ。蓋シ穀類野菜ノ供給比較的豊富ナル興安嶺附近ニ於テスラ、主要ナ
 ル植物性食品ハ炒米ニシテ他ハ牛乳及ビ羊肉ノミ。蒙古人一人一日平均攝取溫量ハ炒米約一六三
 瓦、牛乳一、二八二瓦、羊肉八〇瓦ニシテ、右三種食品ヲ要素ニ分析スレバ、

蛋白質 八四、二三〇^瓦 三四五、三四三^{カロリ}

脂肪質 六三、五四三 五九〇、九五〇

含炭素 一七八、二〇〇 七三〇、六二〇

計 三二五、九七三 一、六六六、九一三

ニシテ、溫量ハ到底「フオイト」ノ保健溫量ニ達セズ。假令易業男子ト雖約一千「カロリ」ノ
 不足ヲ生ズ。老幼男女ニヨリテ差異アリ、尙ホ野獸肉、斃死牛肉等ヲ加フレバ、壯年男子ノ攝取
 スル溫量ハ、漸ク二千「カロリ」ニ達スルノミニシテ、衛生上良好ナリト謂フ能ハズ、況ンヤ
 穀類野菜ノ缺乏スル興安嶺以西ニ於テ、保健溫量ヲ取ランガタメニハ、何モノカニ依リテ植物性

食品ヲ得ルノ必要大ナルモノアリ。純蒙古人ノ食品ハ、殆ド動物性食品ニ限ラレ、ソノ動物性食品モ多クハ古キモノヲ用フルヲ以テ、蒙古人ノ食品ハ動物性ニ偏シ、新鮮ニ缺クルモノト謂フベシ。此ノ傾向ハ、蒙古ニ於ケル滿漢人ノ農耕未ダ進マズ、交通ノ發達セザリシ昔日ニ於テハ、更ニ甚シキモノアリシナラン。是ノ如キ偏食ト新鮮ナル食品ノ缺乏トハ、單ニ保健溫量ノ攝取ヲ困難ナラシムルノミナラズ、壞血病 (Scurvy) ヲ惹起スルニ至ルコトアリ。茲ニ於テ乎、植物性食品トシテ運搬ニ便ナル茶ハ、蒙古人ノ動物性食品偏食ノ缺陷ヲ補ヒ、彼等ノ生命ヲ保持スルニ好適ノ食品タリ。醫學ノ示教スルトコロニ據リテ、直チニ茶ノ壞血病ニ效能アルコトヲ説明スル能ハズト雖、動物性食品ヲ偏食スルコト多キ蒙古人ニ取リテ、茶ノ必需品タルコトハ、古來滿漢人間ニ於テ認メラル、トコロナリ。故ニ蒙古人並ニ西藏人ハ古來支那ヨリ供給サル、茶ニ依テ壞血病ノ災禍ヲ免レ、辛ウジテ保健溫量ヲ攝取スルヲ得シモノト謂フベシ。

註 日露戰爭ノ時久シク旅順包圍セラル、ヤ新鮮ナル植物性食品ニ缺乏シ、動物性食品ニ偏食セシタメ、旅順ニハ壞血病ノ患者ヲ發生セリト云フ。

附註

是レ宋史職官志ニ「元符末、程之邵言、戎俗食肉飲酪、故茶貴而病於難得」ト云ヒ、明史食貨志ニ「番人嗜乳酪、不得茶則困以病、故唐宋以來、行以易馬法、用制氏戎」トアル所以ナリ其他文獻ニ「蒙古人及ビ西蕃人ハ皆茶ヲ以テ生ヲ養ヒツ、アリ」トノ記事ヲ散見スルモ、敢テ怪

シムニ足ラザルナリ。

第二節 塞外民族ノ支那民族ト接觸セシコト

氏及ビ羌ノ二族ハ共ニ西藏種ナリ、氏ハ前漢、武帝ノ時ニ渭水流域ニ散居シ、後漢ノ末馬超ノ亂ニ從ヒ、後敗レテ半バ四川ニ入り、半バ渭水流域ニ分綻セラレ後此ノ種族ハ著シク繁衍シ、羌ト共ニ次第二支那人ノ生活ヲ脅セリ。羌ノ根據地ハ青海地方ナリ。前漢末王莽ノ亂ニ乗ジテ漢ノ塞内ニ入り、後漢末ノ大亂以後益々深ク内地ニ移住シ、四川甘肅ノ境上ニテハ漢人ト雜居シ、進ミテ渭水ノ下流域ニ入ルモノ少カラザリキ。東胡ノ遺類タル烏丸及ビ鮮卑ノ或者ハ、後漢時代ニ入りテ、國都ノ守備兵ニ充テラル、機會ヲ得、或者ハ内地ニ居住スル權利ヲ得、臆テ彼等ノ地位ハ漢人ニ對立スルニ至レリ。匈奴亦秦ノ盛期ニ當リテ、冒頓ナル名君現レ、支那ノ内亂ニヨリ長城ノ守備兵ヲ概ネ撤スルヤ、之ヲ機トシテ黄河ヲ渡リ、支那ノ内地ニ肉薄セリ、漢ノ朝廷ハ、之ニ家女及財物ヲ贈リ、剩ヘ國境貿易ヲ認メテ漸ク和親ヲ結ビヌ。外族ノ支那割據ハ最早ヤ時期ノ問題トナリタルガ、漢末ノ内亂、三國ノ分立、サテハ晋ノ八王亂等、歩々破綻ノ度ヲ加ヘ、外族ヲシテ自ラ支那輕侮ノ念ヲ強カラシメタリ、果セル哉、匈奴ノ一派劉淵ハ西紀三〇四年ヲ以テ、自立シテ漢ト號シ、西晋ノ國都長安ヲ陷レ、東晋ハ新ニ建康ニ興レリ。事既ニ茲ニ至ル、支那ノ各周圍ニ環視セル諸外族ニシテ、誰カ食指ヲ動カサザルベキ。中原ハ正ニ外族興亡ノ舞臺ト化シ、

興亡吞滅石火ノ如ク、西紀四三九年北魏ノ大武帝鮮卑ヨリ出デテ江北茲ニ一統セラレ、而シテ竟ニ盛大ナル北朝ハ創建セラレス。

外族ノ支那侵入漸ク進ミ、漢人ノ衣食調度ニ接スルヤ、自ラ之ニ浸染セザルヲ得ズ、殊ニ動物性食品ヲ主食トスル外族ガ、支那ノ植物性食品ヲ觀ルヤ、自ラ之ヲ以テ偏食ノ害ヲ除去スルニ至ルヤ當然ナリ。氏羌ノ割據セシ四川省ノ如キ、支那最初ノ茶產地ニシテ、前漢武帝ノ時王褒ハ「武陽茶買」ト云ヘルガ、武陽ハ王褒ノ故郷四川省眉州府彭山縣ニ外ナラズ。揚雄亦「方言」ニ「蜀西南人謂茶曰葍」ト言ヒ、晋ノ張載ハ登成都樓詩ニ揚雄ノ、豪奢ヲ敍シ、「芳茶冠六情」、滋味播九區」ト陳ベタリ、想フニ氏羌ハ漸ク前漢時代ヨリ渭水流域並ニ四川省ニ侵入シ、漢人ニ接觸シテソノ飲茶ノ風ニ浸染シタルモノナルベシ。他方支那人ハ東晋ノ南遷ニ依リ、茶ノ產地タル江南ニ移リ、飲茶ノ風ハ是ヨリ大ニ發達シ、江北ニ浸入セル外族ノ飲茶ノ風ヲシテ益助長セルモノアリ。

「洛陽伽藍記」ニ、北魏ノ彭城王勰ガ、王肅ノ（南齊ヨリ北魏ニ奔リ孝文帝ニ信任セラレタルモノ）ノ風ニ感染シテ茗飲（茶ハ

別名ニ沈溺セル劉鎬ヲ、「蒼頭ノ水厄ヲ好ムハ逐臭ノ失學壘ノ婦ノ類ナリ」ト嘲笑セシ以來、北朝ノ

士大夫ハ皆茗飲ヲ耻ズルニ至レリ、ト記セリ、依此觀之、北朝ノ士ハ南朝ノ風ニ感染シ、ソノ結

果トシテ、茗飲ノ風モ漸ク北朝ニ傳播シタルモノト謂フベシ。彼ノ王肅ハ、有名ナル茶飲ニシ

テ、北朝ニ奔リタル當時ハ、北朝人士ノ、食品タル羊肉酪漿 如何ニシテモ口ニ入ラズ、鯽魚ノ

羹ヲ食シ、茗汁ヲ飲ミ、而モ一飲ニ一斗ヲ飲ムノ狀ニシテ、遂ニ京師子ノ間ニ「漏卮」ノ綽號ヲ得タリ。北魏ニ於テハ、洛陽ニ都セシ以來、南人ノ歸化ヲ獎勵シ、洛陽城ノ南、伊洛二水ノ傍ノ歸正里ニ、吳人坊ト稱スル南人ノ居留地ヲ設定シ、水産物ノ取引ハ此ニ於テ行ハレタリ。是等ノ歸化南人ハ北遷ノ後モ依然トシテ飲茶ノ風ヲ持續シ、茶ハ南方ヨリ北方ニ輸入セラレ、之ガタメニ北人モ亦、飲茶ノ風ニ浸染セザルヲ得ザリシナラン。北朝ニ於テハ朝貴ノ讌會ニ茗飲ノ設アリ北魏ノ劉鎬ガ茗飲ニ沈溺シタルガ如キ、即チ王肅ヲ初メ、南人ノ茗飲ノ風ノ傳播セシ證左ナリ。北朝即チ塞外民族ノ茗飲ニ沈溺スルハ、ソノ江北占領時代ニ於テ南朝ニ對シ物資ノ供給ヲ受クルノ必要ヨリ民族經濟ノ獨立ヲ害スルノミナラズ、植物性食品ノ缺乏セル塞北ニ退キタル後、茗飲ニ要スル茶ノ供給ヲ得ルタメ、全ク自給經濟ノ基礎ヲ破壞シ、南方ノ物資ニ依ルノ流弊アリ。故ニ北朝ハソノ國民ヲ這般ノ風習ニ遠サカラシメンコトニ注意シタルガ如ク、北魏ノ孝文帝ガ南齊ヨリ投降シタル王肅トノ間ニ試ミタル趣味多キ問答ノ如キ、王肅ノ齋シタル茗飲ノ風ヲ排斥セントセシモノナルコト、略ボ推測スルニ難カラズ（支那茶業史論 第四章參照）。

外族ノ排茶政策ハ、北魏ニ端ヲ發シ、金亦之ニ倣ヘルガ、外族ノ茶ヲ要スルコト漢人ノ比ニアラズ、茶ハ漢人ニ於テハ嗜好品ナリト雖、外族ニ於テハ必要品ナレバ、外族ノ塞北ニ退クヤ、何物ヲモ提供シテ茶ヲ獲得セントスルニ至ル、斯クテ漢人ハ外族ニ茗飲ヲ傳ヘ、而シテソノ經濟ヲ

南方ニ依屬セシメ、他日ソノ傳ヘシ茶ヲ以テ、外族ヲ操縱スル鍵ヲ得タルモノト謂フベシ。

第三節 支那民族ノ塞外茶輸出ニ努メシコト

塞外民族間ニ於ケル支那茶ノ需要ハ、人口ノ増加、富力ノ増加、飲茶ノ普及、飲茶量ノ増加、及嗜好ノ向上ニ依リテ、ソノ量ヲ増加シ、ソノ質ヲ精良ニスルガ故ニ、塞外民族ニ對スル茶ノ輸出自ラ増加スベキモ、支那政府ニ於テハ、殊ニ積極的ニ外族間ニ於ケル茶ノ需要ヲ促進セシムルノ必要ヲ感ジタリ。

1、財政ヲ豊裕ニスルコト

支那政府ハ茶ヲ專賣トシ、茶商ニ茶課ヲ賦課セルガ故ニ、塞外茶輸出ノ増加ニ依リテ、茶取引ヲ盛ニシ、茶課ヲ増加シ、其收入ヲ豊裕ニス。

2、軍馬及ヒ農馬ヲ充實スルコト

支那ハ國內ニ馬匹ノ牧養盛ナラサルヲ以テ、國防充實シ、農業ヲ發達セシムルタメ、軍馬及農馬ヲ塞外ヨリ輸入スルヲ要シ、從テソノ對價トシテ茶ヲ塞外ニ輸出スルヲ要ス。明朝ノ如キ一時種馬ニ依リテ馬匹ノ内地自給ヲ圖リタルニ、之ガタメニ圖ラズモ民嗟ヲ招キ、甘肅省ノ回教徒ヨリ番馬ヲ輸入スル止ムナキニ至リタリ。

3、茶業ノ發達ヲ促スコト

茶業ノ發達ヲ促スタメニハ、單ニ廳内販路ノミニ依ラズ、廣ク販路ヲ國外ニ擴張セザルベカラズ、是レ民生ヲ豊カニスルト共ニ、政府ノ茶課收入ヲ増加シ、財政ヲ裕ニスルノ效果アリ。

4、外族ノ隸屬關係ヲ緊密ニスルコト

茶ハ一タビ外族ニ傳播スルヤ、其生活必需品トナリ、其需要自ラ増進シ、從テ支那ハ常ニ之ニ適量ノ茶ヲ輸出シテ其隸屬關係ヲ維持シ得ルモ、其隸屬關係ヲ一層緊密ニシ、ソノ操縱ヲ一層容易ナラシムル爲ニハ、外族ノ茶ニ對スル需要ヲ一層強烈ニセザルベカラズ、此レ亦支那政府ガ塞外茶ノ輸出増加ニ努メ、外族間ニ茶が廣ク且ツ強ク需要セラル、ニ至リタル一因ナリ。

支那政府ニテハ是ノ如ク塞外茶輸出ノ維持増進ハ有利且必要ナルヲ以テ、外族間ニ於ケル茶ノ需要ノ自然的増進ニノミ委スルコトナク、番僧入國スレバ之ニ食茶ノ携帶ヲ許シ、外族ヨリ茶ノ贈貢ヲ要求スレバ之ニ應ジ、又殊更使臣ヲ外族ニ派遣シテ彼等ニ金牌信符ヲ配布シテ、番馬ノ輸出及支那茶ノ輸入ヲ獎勵スル等茶輸出増加ノ爲ニ種々ノ政策ヲ取レリ。是ノ如キハ支那茶ノ外族間ニ廣ク且ツ強ク需要セラル、ニ至リタル原因ナリト謂フベキ歟。

是ノ如クニシテ、支那茶ノ漸次塞外地方ニ輸入セラレ、土着民族ノ必需品トナリ、以テ重キヲナスニ至レリ。

第二章 塞外茶貿易ノ方法

第一節 輸出權ノ獨占

外族ニ對シ茶ヲ適量ニ輸出シ、財政上ノ利益ヲ收メ、外族ヲ支那ニ隸屬セシムルタメニハ、支那政府ハ茶ノ輸出權ヲ外國並ニ自國臣民ニ對シテ獨占スルヲ要ス。何トナレバ、外國ニ茶ノ外族輸出權ヲ與フルトキハ、支那ハ財政上ノ利益ヲ喪失スルノミナラズ、ソノ外國ヲシテ却テ外族ヲ操縱セシメ、外族ト結託シテ支那ニ侵入スルノ危險アレバナリ。是レ支那歷朝ノ君主ガ茶ノ輸出權ヲ他國ニ與ヘズ、自ラ之ヲ獨占セシ所以ニシテ、明ノ神宗ガ西海丙兔ノ開市ヲ申込ミタルトキ茶市ノミハ之ヲ鎖シ、而シテ支那ノ緞、絹、布、糧等ノ貨物ニ對シテノミ之ガ交易ヲ許可シタル眞意モ、亦茲ニ存スト謂フベシ。

近議、西海丙兔ノ開市卽以招番、餘茶用易北馬、將使番人仰給於北狄、彼此勢今貽患匪細、宜照原議與北狄市、惟緞絹布糧等物、茶篋仍留、招番人、定期以定遵守、

次ニ自國臣民ニ對シテモ、茶ノ塞外輸出ヲ開放ス可ラサルハ、民間ニテハ自己ノ利益ニ驅ラレテ多量ノ茶ヲ輸出シ、コレガタメニ外族ヨリ輕侮ヲ受ケ、茶ニ依リテ外族ヲ御スルヲ得ザルニ至ルハ勿論、茶ノ塞外輸出ニ依ル利益ヲ民間ニ奪ハレ、政府ハ之ニ依リテ、財政ノ富裕ヲ期シ得ザルニ至ルヲ以テナリ。茲ニ於テ乎、塞外茶貿易權ヲ政府ニ於テ獨占シタルガ、支那政府ハ輸出權ノ獨占ヲ確保スルガタメ如何ナル方法ヲ取りタルカ。政府ハ商人及ビ官吏ノ私茶(密輸出茶)ノ輸出並

ニ官吏ノ私茶輸出ヲ默認スルヲ嚴禁シ、コノタメニ中央ヨリ國境ニ官吏ヲ派遣シ、四川及陝西ノ關隘ヲ巡茶セシメタリ、之ヲ巡茶御史、馬政御史、巡視茶馬官員等ト呼ベリ、時ニハ地方官憲ニ巡茶ヲ命ジ、時ニハ經費膨脹ノタメニ廢止セルコトアリ。

然シ一時ノ變態トシテ商人ノ茶輸出ヲ認ムルコトアリ。是レ邊塞ニ糧餉缺乏シ、之ヲ充實スルタメ、邊塞ノ積茶ヲ商人ニ拂下ゲ、コノ對價トシテ糧餉ヲ納入セシメ、ソノ茶ハ商人ヲシテ之ヲ塞外ニ輸出セシメ、之ト共ニ、馬匹ヲ輸入シテ政府ニ納入セシムルモノナリ。

第二節 茶馬ノ交易

茶ノ輸出及馬ノ輸入ハ古來支那ト外族ノ間ニ於ケル貿易ノ大宗ナリ。然リ而シテ茶輸出ノ對價ハ常ニ馬ナリシ乎、馬輸入ノ對價ハ常ニ茶ナリシ乎、是レ疑問トスルトコロナリ。

想フニ、茶輸出ノ對價ハ常ニ馬ナリシナリ。蓋シ茶輸出ノ對價トシテ外族ヨリ輸入シ得ルモノニハ、毛皮等アレドモ、此ノ輸入ニ對シテ茶ヲ輸出スルトキハ、茶ノ輸出ハ増加シ、供給過剩トナリ、茶ノ外族ニ對スル價值ハ低下シ、外族ハ自ラ離反スベケレバナリ。想フニ亦、馬輸入ノ對價ハ常ニ茶ナリシナリ。蓋シ馬輸入ノ對價トシテ輸出シ得ベキモノニハ、絹、銀、錢等アレドモ、絹ハ外族ノ生活必要品ニアラズシテ、需要多カラズ。銀亦然リ。錢ハ外族ニ武器製造ノ材料ヲ與フルコト、ナリ、絹及ビ銀ガ茶ヲ輸入スルタメニ再輸出セラル、トキハ、政府ハ茶ヲ以テ馬ノ輸

入ヲナス能ハズ、マタ茶ハ多ク政府ノ專賣マタハ課稅物件ナルヲ以テ、茶取引ノ發達及ビ茶馬ノ交易ハ政府ノ利益トナルベキヲ以テナリ。

第三節 交易機關及ビ交易場所

宋朝ハ今ノ陝西甘肅ノ北邊ニ、西夏國ヲ建テタル西藏族ニ、多額ノ茶、銀、絹等ヲ贈リ、西夏人ノ茶ヲ嗜ムニ乗ジ、茶ヲ以テ彼等ヲ懷柔セルガ、之ニハ蜀茶ヲ利用セリ。宋ハ蜀茶管理ノタメニ都大提舉茶場ヲ設ケ、買馬ノタメニ買馬司ヲ置ケルガ、神宗元豐元年(西紀一一七一)ニ至リ、兩者ヲ合併シテ茶馬司トナセリ。茶馬司ニ於テハ買馬ト榷茶トノ二務ヲ兼掌セルガ、南宋ハ茶ト馬トノ二務ヲ分離シ、文官ヲシテ茶務ヲ武官ヲシテ馬務ヲ管掌セシメタリ。

明朝ハ宋代ノ茶馬司制度ヲ繼承シテ茶馬司ヲ設ケ、清初亦然リ。

茶馬交易機關タル茶馬司ハ、外族トノ境界地方ニ設ケラレ、歷代陝西、甘肅、四川方面ニソノ設立ヲ觀タリ。宋ハ河州熙州(甘肅省)方面ニ、明ハ碣門、黎州、雅州、筠連、(四川省)、洮州、漢中(陝西省)、秦州、岷州、河州、臨洮、西寧、甘州、莊浪(甘肅省)等ニ、何レモ茶馬司ヲ置キタリシカ、清亦然リシナリ。

第四節 交易時期

毎年蕃族ヲ招徠シテ番馬ト茶ヲ交易スルニ、初メニハ一定ノ時期ナリ不定期ナリシガ、宋ノ神

宗萬曆四年^(西紀一五七六)以來、茶馬司ニ依リ一定ノ時期ヲ設ケタリ。即チ洮州茶馬司ハ五月、河州及甘肅

茶馬司ハ六月、西寧茶馬司ハ七月ナリ。交易時期ヲ一定シタルハ一時ニ多數ノ蕃族及良茶ヲ招徠シ、蕃族間ニ茶ニ對スル需要競争及ビ馬ニ對ルス供給競争ヲ惹起セシメ、成ルベク茶價ノ上騰ヲ圖ラントスル者ニシテ、一面ニハマタ交易事務ヲ簡捷ナラシムルノ利便ナルニ由ル者ト謂フベシ。

第五節 交易價格

茶馬司ニ於テハ茶馬ノ交易價格ニ關シ一定ノ比率ヲ制定セルガ、ソハ時代ニ依リテ變動、場所ニヨリテ差異アリ、マタ茶ト馬ノ品質ニヨリテ差異アルコト勿論ナリ。時代ニヨリテ茶馬ノ交易價格ニ變動アルコト次ノ如シ。

明 初

茶一〇〇斤

上馬
中馬
下馬

七〇
五〇
四〇

一三八四年

上馬
中馬
下馬

三〇
二〇
二〇

一三八八年

上馬
中馬

一七〇
一五〇

平馬

一〇〇

一四九〇年

上馬

一二〇

一六四四年

中馬

九〇

一七二七年

下馬	七〇
上馬	一二〇
中馬	九〇
下馬	七〇

由是觀之、時代ノ進ムニ從ヒ、漸次馬價ハ上騰シ、茶價ハ下落シツ、アリ。然シ時代ノ進ムニ從ヒ、漸次細茶ノ輸出増加シタルコトヲ稽フルニ、馬價ノ上騰及茶價ノ下落ハ、上掲數字ヨリモ著シカリシコトヲ推測シ得ルナリ。

場所ニヨリテ交易價格ニ差異アルコトヲ觀ルニ、洪武一七年^(西紀一三八四)五月、河州及永寧茶馬司ニ於テハ上馬一匹茶四十斤、中馬三十斤、下馬二十斤ナリシニ、同年四月烏撒烏蒙東川北部ニ於テハ馬一匹茶百斤ニシテ、兩地ノ茶價及馬價ニハ大ナル逕庭アリ。

塞外輸出茶ハ多ク支那政府ノ獨占供給ニ係ル財物ナルヲ以テ、茶價ハ頗ル高キヲ常トス、コノ場合ニハ、支那政府對塞外民族間ニ於テ價格ヲ競フノ外、更ニ塞外民族側ニ於ケル需要競爭ヲ生ジ、支那政府ハ茶ノ輸出货量ヲ縮減スルガ故ニ、需要競爭甚シク、茶價ハ支政那府ノ表示價格ニ近ヅキ高ク決定セラル。之ニ反シテ、支那政府ガ馬匹ノ需要急且大ニシテ、茶ノ輸出货量ヲ激増スルトキハ、需要競爭弱ク、茶價ハ塞外民族ノ表示價格ニ近ヅキ低ク決定セラル。支那輸入馬ハ多ク塞外民族ノ競爭供給ニ係ル財物ナルヲ以テ、馬價ハ頗ル低キヲ常トス、コノ場合ニハ、支那政府及ビ塞外民族ニ於テ、價格ノ高低ヲ競フノ外、更ニ塞外民族側ニ於ケル供給競爭ヲ生ジ、塞外民

族ハ馬ノ輸出货量ヲ縮減セザルガ故ニ、馬價ハ支那政府ノ表示價格ニ近ヅキ低ク決定セラル。馬ノ需要獨占並ニ之ガ供給競争ハ、馬價ヲ低クシ、茶ノ供給獨占並ニ之ガ需要競争ハ、茶價ヲ高クスル所以ナリ。

茶ノ塞外輸出ハ原則トシテ支那政府ノ獨占ニ係ルモ、茶商ハ内地ニ於ケル茶利少クシテ塞外ニ於ケル茶利大ナルニ誘惑サレテ茶ノ塞外密輸出ヲ敢テスルニ至ル。コノ場合ニハ、茶商ハ支那政府トノ競争上獨占價格ヨリモ低キ價格ヲ以テ茶ヲ輸出スルガ故ニ、外族ハ低價ナル私茶ヲ購買シテ番物ヲ販賣スルヲ喜ビ、高價ナル官茶ヲ購買シテ番馬ヲ販賣スルヲ厭フ。從ツテ支那政府ノ茶ノ獨占供給ハ破壊セラレテ競争供給トナリ、茶價ハ下落セザルヲ得ザルニ至リ。茶法ハ壞レ、邊防急ヲ告グルニ至ル。且ツ官茶ヲ取扱フ茶戸ニ賦課スル茶課ノ納入ハ減少シ、政府ガ一定ノ番馬ヲ輸入スルニ要スル茶ノ輸出ハ増加シ、彼此相俟ツテ政府ノ財政ヲ困難ナラシム。是レ支那政府ガ茶ノ獨占供給ヲ確保スルガタメ、私茶ノ輸出ヲ嚴禁シタ所以ナリトス。

第六節 交易數量

番馬ノ輸入額ハ時代ニヨリテ増減一ナラズ、而シテ是レ茶馬ノ需給關係如何ニ由ル。

西紀一一六五年

九、〇〇〇

一一七四年

一二、九九四

一四九〇年

四、〇〇〇

一六〇一年

一一、五〇〇

一六二一年

二、四〇〇

第二章 塞外茶貿易ノ效果

塞外茶價貿易ハ支那ニ如何ナル效果ヲ齎セルカ、

(一) 政治的效果

イ 軍馬ノ補充ヲナシ、國防ヲ充實セルコト

ロ 茶貿易ノ禁通ニ依リ外族ヲ制御セルコト

(二) 文化的效果

イ 支那ノ文化ヲ外族ニ傳播シ、相互ノ領解ヲ得、ソノ支那化ヲ促進セルコト

ロ 外族ノナキモノヲ供給シ、外族ヨリ恩惠ニ對スル好感ヲ得タルコト

(三) 經濟的效果

イ 專賣ニ依ル利益ヲ増大シ、財政ヲ富裕ニセルコト

ロ 茶業ノ發達ヲ促進シ、民生ヲ潤セルコト

ハ 農馬ヲ補充シ農業ノ發達ヲ促進セルコト

ニ 茶取引ノ發達ヨリ爲替制度及紙幣ノ發達ヲ促進セルコト等はナリ。

塞外茶貿易ハ支那ニトリ叙上ノ效果アリタルモ、其ノ反面ニハ弊害ヲ伴ハザリシヤト惟ハル。

即チ

(一) 外族ニ對シ茶ノ輸出不能、激減、若クハ茶價ノ暴騰アルトキハ、外族ハ茶ヲ獲得セシガタメニ、支那ニ對シテ侵略ヲ試ミ之ガタメ茶ノ外族傳播ハ外族ノ支那侵入ノ誘因ヲ増加セシ結果トナルコト

(二) 支那以外ニ茶ノ供給國現ハル、トキハ、外族ハ之ニ隸屬シ易ク、塞外茶貿易ノ利益ヲ失ヒ、更ニ種々ノ弊害ヲ生ズルコト是ナリ。

次ニ塞外茶貿易ガ塞外民族ニ如何ナル利弊ヲ齎ラセシカラ究ムルニ、

(一) 政治的利弊

イ 支那ノ軍備ヲ充實セシメ、外族ノ國防ヲ危殆ナラシメタルコト

ロ 茶貿易ノ禁通ニ依リ支那ニ制御セラレシコト即チ民族經濟ノ獨立ヲ失ヒ、支那ニ政治的隸屬ヲ餘儀ナクセラレシコト

ハ 茶ノ缺乏ヲ生ズルヤ、武力ニ訴ヘテマデモ之ヲ獲得セザルヲ得ザルニ至リシコト

(二) 文化的利弊

イ 動物性食品偏食ノ必要ナク、壞血病ヲ減少シ、民族ノ増殖幸福ヲ増進セシコト

ロ 支那文化ニ接觸シ、開明シ機會ヲ増大セルコト

ハ 支那ニ文化的ニ征服セラル、機會ヲ増大セルコト

(三) 經濟的利弊

イ 馬ノ牧養ヲ増進セシコト

ロ 民族經濟ノ獨立ヲ破壞セシコト

第四章 塞外茶貿易ノ將來

蒙古及西藏ハ、支那茶ノ輸入ニ依リテソノ生活資料ヲ獲得シ、支那ハ番馬ノ輸入ニ依リテソノ馬匹ヲ充實シ、互ニ有無相通シテ經濟的利益ヲ享受シツ、アルハ、蒙藏支那間ニ茶ヲ通ジテ成立セル單純ナル經濟的關係ナリ。然シ茶ニ依リテ成立セル蒙藏支那間ノ關係ハ、單ニ叙上ノ經濟的關係ニ止ラズ、別ニ重大ニシテ複雑ナル政治的關係ノ存スルコトハ、前ニモ少シク叙説シタルトコトナルガ、茶ヲ通ジテ成立セル蒙藏支那間ノ政治的關係ノ將來ニ就テ、茲ニ少シク論述ヲ試ミ以テ擱筆セント欲ス。

夫レ牧畜ハ、古來蒙古人唯一ノ生業ナリシモ、或ハ時勢ノ壓迫ニ基キ、或ハ漢滿人ノ蒙古植民ノ進展ニ依リ、今ヤ日ヲ逐フテ衰頽ニ傾キツ、アリ。牧畜ノ利ハ農耕ノ利ニ及バズ、加之人口ノ

増加ニ伴ヒ、狩獵時代ヨリ遊牧時代ニ移リ、更ニ轉ジテ農耕時代ニ遷移スルハ、理數ノ自ラ然ラシムルトコロ、蒙古ニ於ケル牧畜ノ衰頹亦怪シムニ足ラザルナリ。既ニ直隸省ニ接近セル卓索圖盟ノ全部及ビ東三省ニ接近セル哲里木盟ノ東半部ノ如キハ、農耕盛ニ興リ、亦昔日ノ水草ヲ逐フ蒙古在來ノ遺風ハ、之ヲ見ルベカラザルニ至レリ。是ノ如ク牧畜衰頹シテ農耕漸ク勃興スルヤ從來牧畜ノ生業タル關係上、乳類肉類等ノ動物性食品ヲ主食トシ、僅ニ茶ヲ以テ壞血病ノ災禍ヲ免ル、ノ不便ナキニ至ル。尙ホ交通ノ便開ケバ、植物性食品ノ供給モ容易トナルヲ以テ、從來壞血病防止策トシテ必要缺クベカラザリシ茶ノ必要ハ、大ニ減少セラル、故ニ支那ニ隸屬シテ茶ノ供給ヲ確保スルノ必要、亦大ニ減殺セラル、次第ナリ。

現在蒙古ニ供給セラル、茶ハ、支那產ナリト雖、ソノ輸出權ハ支那政府ノ獨占ニアラズシテ、支那商人及露國商人ニ開放セラレ殊ニ東清鐵道及西伯利鐵道ノ開通スルヤ、蒙古向支那茶ハ支那ヨリ海路浦鹽ニ輸送サレ、之ヨリ兩鐵道ニ依リテ蒙古ニ分輸セラル、モノ多シ、支那茶ハ今ヤ是ノ如ク自由且ツ低廉ニ、蒙古ニ供給セラル、ニ至リシヲ以テ、茶ニ依リテ成立セシ蒙支間ノ緊密ナル政治的關係ハ、大ニ疎遠タラザルヲ得ズ、寧ロ今日ノ如クンバ、却テ露蒙間ニ新ニ茶ニ依リテ緊密ナル經濟的及政治的關係ヲ成立スルニ至ルベシ。

(露國ノ崩壞ニ依リテコノ關係ハ少シク變化シタルモ、西伯利方面ヨリ蒙古地方ニ茶ヲ供給スル國ト蒙古トノ關係ハ之ヨリ益々緊密ヲ加フベシ)

茶ハ西藏人ノ生活上首トシテ缺クベカラザル物資ニシテ、清朝ノ西藏ヲ征略シ、遂ニ之ヲ屬藩トナシ得タルモ歸スルトコロハ、西藏人ノ茶ヲ強ク需要スルニ在リトハ、英人「クーバー」ト共ニ確言シテ憚ラザルトコロナリ。吾人ハ、清初ニ於テ彼ノ準噶爾及ビ蒙古人等ガ、西藏ニ入りテ熬茶ノ禮ヲ施セルハ、清朝ニ對シテ有力ナル西藏操縱ノ鍵ヲ提供セルモノニ外ナラザルヲ覺エズンバアラズ。蓋シ熬茶ノ禮ハ西藏以外ノ信徒ガ、喇嘛ニ歸依シ又ハ喇嘛ヨリ或ル特別ナル稱號ヲ得ンガタメニ、貴重ナル茶ヲ布施スル宗教上ノ一儀禮ナリト雖、喇嘛ハ之ニ依リテ多量ノ茶ヲ擁有シ、之ヲ西藏ニ分賣シテ巨大ノ利益ヲ博スルコト、ナリ、支那ハ之ニ用フル多量ノ茶ノ供給ヲ獨占シ、喇嘛ニ恩惠ヲ與ヘテ之ヲ懷柔シ、西藏人ニ對シテ生殺與奪ノ權限ヲ掌握スルモノナレバナリ。

叙上ノ關係ハ必ズシモ清朝ニ始マリシモノニアラズシテ、唯茶ニ對スル西藏人ノ嗜好利用ノ興味アル古キ歴史ヲ再演セシニ過ギザルナリ。「クーバー」又曰ク「茶ハ西藏ニアリテ不廉ナル贅澤品ナリ、何トナレバ喇嘛僧徒ハ、ソノ小賣ヲ以テ自ラ巨利ヲ專ラニスルコト、猶ホ清人ノ卸賣ヲ以テ自ラ巨利ヲ專ラニスルガ如ク、因テ人民ヲシテコノ貴重品ニ換ユルニ勞力及ビ製造品ヲ以テセシメ、以テ彼ノ輩ヲシテ絶對的ニ己レニ依頼セシムルヲ以テナリ。穀物、犁牛、馬、更ニ進ンデハ最愛ノ兒童スラ、之ヲ貪婪ナル僧徒ニ與ヘ、以テ茶ニ易フルノ止ムナキニ至ル」ト。喇嘛ガ西

藏ニ於テ支那茶ノ專賣ニ依リテ收得スル利益ノ巨大ナルコト、歷代支那政府ガ茶ノ專賣及ビソノ塞外輸出權獨占ニ依リテ收得スル利益ニ優ルトモ決シテソレニ劣ルコトナキヲ觀ル。

一八九六年、「くーばる」ノ入藏セントスルヤ、「西藏ハ佛陀ノ國ナリ、拉薩ハ聖地ナリ、常ニ貿易關係ヲ絶タザル」「ねばーる」人ヲ除クノ外ハ、他國人ノ境ニ入りテ遍歷スルヲ許サズ」トノ献言ハ、喇嘛ニ依リテ提出セラレタリ。若シ果シテ此言ノ如クンバ、喇嘛ノ外人排斥及鎖國ノ理由ハ、宗教上ノ偏見ヨリ來レルモノト謂ヒ得ベシ。然シ喇嘛ノ外人排斥ノ理由ハ、宗教上ニアラズソハ寧ロ單ナル口實ノミ。喇嘛ノ西藏鎖國ノ眞因ハ、別ニ嚴トシテ存スルモノナリ。外人ノ遍歷ニ依リテソノ宗教上ノ權威ヲ失墜センコトヲ怕ル、ニ在ル乎、曰ク然ラズ。門戸ノ開放ニ依リテ外國ト事端ヲ繁クシ、兵禍ヲ醸スニ至ルベシト云フニ在ル乎、曰ク然ラズ、吾人ノ究知スルトコロヲ以テスレバ、ソノ主要ナル理由ハ、是ノ如キ宗教上政治上ノ問題ニアラズシテ、喇嘛ノ財源ガ英領印度トノ貿易ニ依リテ剝奪セラレ、ソノ收入ヲ減殺セラルベキコト是レナリトス。ソノ貿易トハ言フマデモナク、亞桑ヨリノ茶輸入ヲ意味スルモノナリ。

近ク一九〇八年、駐藏大臣ガ『江孜商埠ヨリ印度ノ茶葉西藏ニ輸入セラレ、四川茶ハ之ト競争スルヲ困難ニシテ、今後四川茶商ノ損害ハ百萬兩ヲ下ラザルベシ、四川茶ノ保護政策ハ刻下ノ急務ナリ』トテ、農工商部ニ乞ヘルヲアリ。之ヲ以テ單ニ四川茶保護ノ必要ニ基ク献言ナリト解スルハ、餘

リニ皮相ナリ。是レ喇嘛ガ飽クマデ自己ノ磚茶專賣權ヲ固持シテ、ソノ巨利ヲ壟斷シ、私腹ヲ肥シ、生涯錦上ノ花タラントスル、貪婪ノ心ヲ發露セルモノニ外ナラズ。『くーぱる』ノ入藏拒絶當時ノ倫敦「たいむず」ノ所説「爰ニ英商ヲシテ西藏ニ入ラシムル上ニ於テ、大ニ清國トノ談判ヲ阻止スルモノハ、磚茶ノ專賣權是レナリ」トイヘルハ、コノ間ノ委曲ヲ詳悉セル至言ナリト謂ハザルベカラズ。要スルニ、支那ハ、西藏ニ生活必要品タル茶ヲ供給シテ、西藏人ノ死命ヲ制シ、喇嘛僧徒ニソノ專賣權ニ依ル巨利ヲ與ヘテ、喇嘛ノ服從ヲ要求シ、茲ニ西藏ニ對シ最モ平和的ニ、最モ根底的ニ宗主權ヲ確立スルモノト謂フベシ。想フテ茲ニ到レバ、支那茶ハ西藏ヲ支那ニ隸屬セシムル強靱ナル紐帶ナリト言フモ、敢テ當ヲ失スルモノニアラザル所以ヲ知ルヲ得ン。コノ強靱ナル紐帶ハ、永久ニ西藏ヲ支那ニ連結スルヲ得ベキ乎、吾人大ニ疑ナキ能ハズ、亞桑ニ於テ茶ノ培養ニ從事スル者ノ計算ニ依レバ、若シ今日求ムルガ如キ貿易上ノ利便ヲ得ルコトアラバ。一斤ノ價四あんな(一、あんなハ一留比ノ十六分ノ一)乃至六あんなノ割合ヲ以テ、自家モ相當ノ利益ヲ得テ、「ぶらまぷーとら」河ノ「すぢや」ニソノ磚茶ヲ輸送スルコトヲ得セシ。若シ便利ナル道路開通スルコトアラバ、「ばぶん」ニ至ルニ、他ノ六十日ニ對シ、僅ニ二十日ニシテ足ルヲ以テ、遂ニ清人ヲ西藏市場ヨリ一掃スルニ至ルベシ。是レ北京ニ於テモ、將又拉薩ニ於テモ、萬々理解スルトコロニシテ、此二都ニ於テ、英國ノ商人ト旅客トニ對シ、故障ヲ抱ク所以ノモノハ、右ノ情狀ニ因テ明白

ナリ」ト。將來印度茶ニシテ西藏市場ニ跋扈シ。支那茶ノ當市場ヨリ一掃サル、曉ニハ、西藏ニ對スル支那ノ宗主權ハ瓦解シ、西藏ハ英國ノ羈絆ニ移轉サル、ニ至ルベシ。駐藏大臣ノ農工商部ニ對シテナセル四川茶保護ハ焦眉ノ急務ナリトノ稟請ハ、聽テ西藏經營ニ關スル一大警鐘ニ外ナラズ。

蒙古及西藏ヲ支那ニ連絡セル強靱ナル紐帶ハ、今ヤ漸ク切斷セラレ、熟セル果實ハ母樹ヲ放レテ地ニ墜チントス。蒙藏支那關係ニ於ケル茶ノ勢力ヤ亦絶大ナリト謂フベシ。西藏ハ印度茶ニヨリテ新ニ英國ニ隸屬スベキガ、蒙古ハ果シテ何レノ國ノ羈絆ニ屬スベキカ。(完)

支那將來ノ企業ト勞働問題

前 田 幸 太 郎

一 昨年華盛頓ニ於テ開カレタル第一回國際勞働會議ニ於テ勞働時間ニ關スル條約ノ規定ニ關シ日本並ニ印度ガ特殊國トシテノ待遇ヲ受ケタルトキ、支那モ亦同様ノ待遇ヲ受ケタルガ、同國ニ就テハ何等ノ決議ヲ見ルニ至ラズ、條約ノ規定ヲ將來ノ會議ニ讓ルベク定メラレタリ。其後國際勞働

會議ハ開カレタレ共、支那ニ就テハ尙何等條約上ノ規定ヲ見ルニ至ラザルナリ。是レ豈支那ニ於ケル労働問題ガ未ダ急速ノ解決ヲ要スベキ状態ニ在ラザル者ト認メラル、ニ由ルニアラザランヤ。固ニ支那ニ於ケル労働問題ハ世人未ダ之ヲ重視セズ、或ハ支那ニ於テハ労働問題ガ社會上ノ大勢力トナルベキ時代ハ永久ニ來ラザルベシト爲ス者アリ、然ラズシテ労働問題ハ世界的思潮ナレバ、思想ニ國境ナキ限り如何ナル國家モ之ガ波動ヲ免ル能ハズト爲ス者ニアリテモ、支那ガ労働問題ノ爲メニ苦メラル、時代ハ遠キ將來ノ事ト考フルガ如シ。此等ノ說ノ當否ハ後ニ點檢スルトシ、若シ支那ニ從來労働問題ノ起ラザリシ原因ヲ繹スルナラバ支那企業ノ幼稚不振實ニ之ガ主タル原因ニ居ラザルベカラズ。人往々支那ニ労働問題ノ起ラザル所以ヲ以テ支那人労働者ノ無自覺ニ歸ス。然リ、労働者ノ無自覺ハ労働問題ノ發生ヲ妨グベキ有力ナル原因ナラン。而シテ支那ノ労働者ガ無自覺ノ状態ニ在ルコトハ事實ナリ。然レ共労働問題ハ必シモ労働者ノ自覺ヲ待テ始メテ起ルモノニアラザルナリ。思ヘ、日本人労働者ニ果シテ何ノ自覺アルカ。而シテ日本ハ今ヤ労働問題解決ノ急要ニ迫マラレツ、アルニアラズヤ。日本ニ労働問題ノ起リタル、却テ労働者ガ自己ノ立場ヲ自覺セザルニ由ルト言フヲ得ン。自己ノ立場ヲ自覺セザルガ故ニ猥リニ同盟罷工ヲ起シテ却テ自己ノ立場ヲ苦シウスルナリ。予ハ戰時中我國ニ頻發シタル同盟罷工ノ多クヲ以テ労働者ノ成金の氣分ニ基クト爲ス。固ヨリ物價ハ戰時中大ニ騰貴シタリ。然レ共労働者ノ賃銀増額ノ要求ハ果シテ物價

ノ騰貴率ヲ支辨スベキ程度ヲ超ユル事ナカリシカ。今次ノ戰爭中英國軍需品製造職工ハ平均平時ノ三倍ノ賃銀ヲ受ケタリトイヘリ。又大阪ニ於ケル某工場ニテハ一日十圓ノ賃銀ヲ一般職工ニ向テ支拂ヒタリト聞ク。而シテ斯カル事實若シクバ報道ガ如何ニ一般勞働者ノ成金の氣分ヲ煽揚スルニ與リテカアルカハ想像ニ難カラズ。他會社工場ノ職工ニシテ斯カル待遇ヲ受クル以上、我等モ亦之ヲ受クベキ權利アリ、我等ノミ不良ノ待遇ヲ以テ甘ンズベキ理由アラシヤ、勞働者トシテ斯ク考フルニ至ルハ人情ノ自然ナリ。於是乎其賃銀增額ノ要求ハ物價騰貴ニ基ク生活費ノ増嵩ヲ支辨スル程度ヲ以テ止ラズ、進ンデハ利潤分配要求運動ノ形ヲ取ルニ至ル。現ニ大正六年夏福井縣大野町ノ一製絲工場ニ於テ三百八十餘名ノ女工連ガ起シタル同盟罷工ハ物價騰貴ノ理由ノ外、生糸相場騰貴ノ結果會社ガ莫大ノ利益ヲ收メタルコトヲ理由ト爲シ居リ、故ニ賃銀ヲ増額セヨト言ヘルモノニシテ、明ニ利潤分配要求運動ニ外ナラズ。如此明白ナル旗幟ヲ押立テザル同盟罷工ニアリテモ、物價騰貴ニ基ク生活費支辨ヲ標榜シテ其實利潤ノ分配ニ與ラントノ運動ニ非ルハナシ。是ヲ企業者ガ原料品ノ騰貴ヲ機會トシテ騰貴率以上ニ物價ヲ釣上グルニ比較シテ考フルハ失當ナリトシテモ、少クトモ其機會ヲ利用スル心理ニ至リテハ彼此同斷ナリト謂フベシ。然ルニ企業者ハ自ラ戰爭ノ與フル好機會ヲ捉ヘテ暴利ヲ收ムルコトヲ當然ト考フル半面、勞働者ガ其利益ニ均霑セントスルヲ不當ト考フル傾キアリ。斯クシテ兩者ノ意思合致セザル所勞働問題ハ發生ス。然レ

ドモ労働者ノ要求ガ企業者又ハ同輩ノ成金振ヲ羨ムノ心理ヨリ漠然利潤ノ分配ヲ望ムニ止リ、其主張ヲ確實ナル根據ト計算トノ上ニ立テザル限り、労働問題ハ眞劍トナリ來ラズ、從テ其運動ガ成功ニ終ル確カラシサ尠シ。見ヨ、我國ノ同盟罷工ハ忽チ企テラレ忽チ息ムニアラズヤ。我國ニ於テハ歐米諸國ニ於ケルガ如キ根強キ同盟罷工ハ決シテ企テラル、コトナシ。固ヨリ彼地ノ労働事情ト我國ニ於ケル其レトハ全然其性質ヲ異ニシ、之ヲ比較スベキモノニアラザレ共、我國ニ於ケル同盟罷工ガ、例ヘバ線香花火ノ如クバツト起リテバツト息ムモノ、蓋シ之ヲ企ツル労働者ニ何等ノ信念ナク、自覺ナク、唯夫成金の氣分ニ推進メラレテ彼等ハ輕舉妄動スルモノニ過ギザレバナリ。見ヨ、戦争熄ミテ幾ナラズ、労働問題ノ聲ハ忽然トシテ屏息セルニアラズヤ。固ヨリ世ノ中ガ不景氣トナリ、何レノ會社工場モ利益ノ代リニ損失ヲ殘スニ至ラバ、賃銀増額ノ運動ハ一時停止スベキハ當然ナレ共、若シ労働者ノ企業者ニ對スル種々ノ主張ニ正當ノ根據アラバ、开ハ戰時ト平時、好景氣ト不景氣トヲ問ハザルベキ道理ニ非ズヤ。然レドモ予ハ今日日本ノ労働問題ヲ議セントスルモノニ非ズ。唯ダ戰時中頻リニ發生セル日本ノ労働問題ガ労働者ノ自覺ナクシテ起レルモノナルコトヲ明ニスレバ足レリ。日本ノ労働者ガ歐米ニ於ケル労働者ノ如ク資本制産業組織ノ下ニケル労働者ノ地位ヲ自覺シ、國家ヲシテ同盟罷工ノ決シテ法理上不正當ニ非ル所以ヲ認メシメ從テ時ニ同盟罷工ヲ命ズル事アルベキ労働組合ノ存在ヲ公認セシメ、斯カル労働組合ノ下労働者

ノ利益幸福ノ爲メ一致團結スルニ至ラバ、其時コソ日本ノ勞働運動ガ線香花火ノ如クナラズ、歐米ニ於ケル勞働運動ノ如ク有力ニ根強ク而シテ勞働者ノ有利ニ決着スベク企テラル、秋ナラン。而シテ我國勞働界ノ事情ガ此方向ニ向テ健全ノ發達ヲ遂ゲツ、アルコトハ吾人之ヲ認ムルニ躊躇セズ、今ハ我國勞働者ガ自覺ニ向ツテノ過渡期ニ在ルモノト謂フベシ。戰時中起レル勞働問題ハ如何ニシテモ之ヲ勞働者ノ自覺的行動ト視ル能ハザルナリ。但ダ譬ヒ輕舉妄動ニセヨ、勞働者ガ就テ勞働問題ヲ提起シ得タル我國經濟社會ノ狀態コソ注意ニ値ヒスルモノナレ。我國經濟社會ノ狀態トハ何ゾヤ。企業ノ勃興是レナリ。我國ニ企業ノ起レルハ古キ事ニアラズ。徳川時代企業アリトシテモ家内工業アリシノミ。自由貨銀勞働ニヨル工場制工業ハ未ダ存スル事ナシ。明治ニ入りテ工場制工業起レルモ、政府ノ保護ノ下外國ノ技術者ヲ聘ンテ行ハレタル小規模ノ企業ノミ。其漸ク民間ノ獨立事業トシテ企業ノ起ルニ至レルハ大約明治廿年以後ニアリ。此頃ヨリ日本ノ企業ハ漸ク活氣ヲ呈シ來リ、製絲、綿糸紡織、製鐵等ノ大工場制工業ヲ初メトシ、木綿、絹、燐寸、煙草、紙、毛織物等ニ關スル工場制工業相次デ起リ、日清、日露ノ兩役ハ日本ノ國力ヲ俄ニ増大スルト共ニ、企業ニ向ツテモ健全ナル發達ヲ遂グベキ經濟上ノ基礎ヲ與ヘ、更ニ今次ノ歐洲大戰ニ基ク世界未前ノ好景氣ニ乗ジテ我國ノ企業ハ其商業ト共ニ愈勃興スルニ至レルモノナリ。我國ハ米國ト共ニ成金國ト呼バル。成金の成功者ハ雨後ノ筍ノ如ク發生シタリ。然レ共成金の成功者タ

リ、成金國タル、豈偶然ノ事實ナランヤ。一朝時運ニ際會スレバ之ニ乗ジテ活動シ得ベキ商業上ノ基礎タル企業——有爲活潑ナル企業ニシテ存シタレバコソ、我國ハ歐洲戦争ノ結果幾多ノ成金の成功者ヲ生ミ、成金國トナルヲ得タルナレ。而シテ又是レニヨリテ企業ノ異常ナル勃興ヲ招致スルコトヲ得タルナレ。若シ夫レ労働問題ガ労働者ノ自覺ニ基カズ、輕浮ナル成金の氣分ヨリシテ起サレタルハ遺憾ナリトシテモ、而モタトヒ成金の氣分ニ基ク労働問題ニセヨ、依リテ起リ得ベキ我國經濟社會ノ狀態——企業ノ勃興其レ自身ハ大ニ慶スベキニ非ズヤ。之ヲ支那ニ就テ見ヨ。支那ハ何故歐洲戦争ニ由リテ米國並ニ日本ト同様成金國トハナラザリシゾ。支那ハ日本並ニ暹羅ト共ニ東洋ニ於ケル一大雄邦ナリ。然レ共商業上世界ノ落伍者ナリ。商業ヲ以テ世界ニ活動スルニ足ルベキ企業上ノ基礎ヲ有セズ。日本ノ企業ハ之ヲ歐米ニ於ケル企業ニ比スレバ遙ニ幼稚ナルモノナラン。然レ共支那ノ企業ハ日本ノ其レヨリモ更ニ幾層倍幼稚ナリ。有體ニ言ヘバ支那ニハ未ダ企業ラシキ企業ナシ。故ニ一旦戦争起リ、未前ノ好景氣來ルト雖、是レニ乗ジテ活動スルコト米國又ハ日本ノ如クナル能ハザリシナリ。而シテ斯ノ企業ノ幼稚不振ナルコト是レ労働問題ガ未ダ支那ニ於テ社會上ノ大勢力トナルニ至ラザル所以ナリ。蓋シ労働問題ハ資本制産業組織ノ下企業者労働者對立ノ關係ニ於テ起ルベク、而シテ此關係ノ確立スルハ企業勃興ノ後ナラザルベカラザレバナリ。

將來支那ニ企業ガ勃興スルノ曉、勞働問題ノ發生ハ必至ノ勢ヒナルカ。米國ハ世界ニ於ケル資本制産業組織ノ最モ發達シタル國ナリ。而モ資本主義ノ兒ト稱セラル、社會主義ハ米國ニ於テハ勿論盛ナレ共、他ノ資本主義ノ國ニ於ケル程盛ナラズ。是レ米國ニハ政治上、經濟上、社會上種々ノ特殊ノ事アリテ、社會主義ノ發達ヲ妨グレバナリ。支那ニモ將來企業ガ勃興スルシテ、勞働問題ノ發生ヲ妨グベキ特殊ノ事情存セザルガ。之ニ就キテハ支那人ノ國民性ヲ知り、此國民性ガ如何ニ支那人勞働者並ニ企業者ノ上ニ作用スルカヲ觀ルコト必要ナルベシ。而シテ支那人ノ國民性ヲ知ル事ハ容易ナラズ。但ダ安全ニ言ヒ得ル事ハ、支那多年ノ惡政又ハ政治的混亂ガ彼等ヲ驅リテ運命論者タラシメ、在ルガ儘ノ狀態ニ順應スル樂觀者流タラシメ、政治ニ對シテ無頓着タラシメシ、個人主義的タラシメシ一事ナリ。此國民性ヲ基準トシテ先ヅ支那人勞働者ノ如何ナルモノナルカヲ觀ルニ、彼等ハ樂觀者流タリ、運命論者タル結果、極メテ低級下等ナル生活狀態ヲ以テ満足スルコトヲ知ル。予昨夏大連ニテ福昌公司經營ノ苦力收容所碧山莊ヲ觀ル。莊ハ約八十棟ノ煉瓦造建物ヨリ成リ、一棟ハ長サ十七間、横三間即チ五十一坪アリテ、此中ニ一百人ノ苦力ヲ容ル。疊一枚ニ一人ノ勘定ナリ。各棟ニハ入口ニ炊事場アリ、一房ヲ爲ス。炊事場ノ次ガ苦力ノ居室ナリ。唯見ル、一面ニ敷キ詰メラレタル「アンペラ」ト、其上ニ安置セラレタル枕ト、壁ニ釘ヲ打ツケテ其

レニ引掛ケラレタル汚ゲナル帽子ト、紐ヲ一方ヨリ一方ニ渡シテ其レニ吊サレタル檻樓衣ト是レノミ彼等ノ財産ハ要スルニ之ニ止ルナリ。雜居ナレ共、自ラ各自ノ場席ハ定リ、己レノ場席ニ已レノ財産ヲ置ク。貯金ハナシ。苦力ニハ貯蓄ノ觀念ナシ。所謂手ヨリ口ニ生活スルノ人種ニシテ、儲ケタル丈ハ都テ費消スルノ有様ナリ。若シ金アレバ之ヲ胴卷ニ容ル。大洋錢ヲ最モ好ミ、幾枚カノ大洋錢ヲ胴卷ニ容レテ仕事ニ出ヅル時モ之ヲ携フルノ有様ナリ。留守中盜ミ去ラル、憂ヒナシ。予等參觀者ハ案内者ニ導カレテ室内ニ入レルニ、數名ノ苦力在リテ予等ヲ視テニコ／＼ト笑フ。斯カル生活ヲ送リテモ別ニ不平モナク、其心閑カナルナラン。彼等ハ仕事ニ出デ、ハ、恰モ機械ノ如クニ働ク。或人ハ彼等ヲ運命ノ影ノ如シト評シタリ。非凡ナル忍耐力ト精力トヲ以テ黙々トシテ規則盡メナル労働ヲ續クル狀態ヲ形容シタルモノナリ。彼等ハ仕事ヨリ歸リテ爲ス事ナケレバ莊ノ公園地ニ至リ、道上ニゴ／＼ト眠ル。狭キ「アンペラ」ヲ敷クモアリ、敷カヌモアリ。煤ケタル帽子ヲチヨト面上ニ置キテ夏ノ光線ヲ避ケツ、眠ル。人通過スレドモ安眠ヲ妨ゲラル、事ナシ。彼等ハ夢ニ翌日ノ仕事ヲ考ヘ居ラザルナルベシ。而シテ時來レバ起キテ食事ニ歸ル如此者實ニ支那人労働者ノ生活ノ一斑ナリ而シテ予ガ以上ノ記述ノ目的ハ、之ニ依リテ必シモ支那人労働者ノ生活ガ低級下等ナルコトヲ言ハントスルニアラズ。如此ハ支那人労働者ノ生活トシテハ寧ロ上等ノ部類ニ屬ス。是レ以下ノ生活ヲ營ム支那人労働者ハ甚ダ多シ。予ガ之ニ由リテ言ハントスル所ハ、彼等ノ生

活狀態其者ヨリモ寧ロ之ヲ以テ甘ンズル彼等ノ樂觀的人生觀ニアリ。而シテ彼等ニシテ樂觀的人生觀ヲ有シ、現狀ヲ打破シテ向上發展セントノ希望ト之ニ伴フ熱心トヲ有セザル限り、彼等ノ企業者ニ對スル反抗ハ激甚ナラザルベキ理ナリ。今日我國勞働者ノ企業者ニ對スル反抗ガ歐米勞働者ノ企業者ニ對スル反抗ニ及バザルハ何ゾヤ。我勞働者ト歐米勞働者ト其生活ニ對スル人生觀ニ大ナル相違アレバナリ。即チ我國勞働者ガ低級下等ナル生活ヲ以テ満足スルニ不拘、歐米勞働者ガ遙ニ高キ生活ヲ要求スル結果ナリ。之ヲ別言スレバ我國勞働者ハ衣食住ノ慾望ノ満足ヲ以テ満足スレ共、歐米勞働者ハ是レ以上進ンデ文明社會ノ一員トシテ文化生活ヲ營ミ得ルヲ以テ満足セントス。故ニ同盟罷工ノ際我國勞働者ガ生計ノ困難ヲ以テ賃銀増額ノ要求ノ理由ト爲スニ反シ、歐米勞働者ハ文化生活ヲ營ミ得ザルコトヲ以テ之ガ理由ト爲スノ有様ナリ。然ルニ支那人勞働者ハ我國勞働者ヨリモ更ニ遙ニ低キ生活狀態ヲ以テ満足スルモノナリトセバ、其企業者ニ對スル反抗ハ之ガ激甚ノ程度ニ於テ歐米勞働者ノ反抗ニ及バザルハ勿論、我國勞働者ノ反抗ニモ及バザル道理ニアラズヤ。然ラバ支那人勞働者ガ其生活狀態ヲ離レテ企業者ニ對シ反抗スベキ理由別ニ存スルヤトイフニ、予ハ却テ之ニ反對ノ傾向アルコトヲ認ムルモノナリ。支那人ハ現狀ニ順應スルコトヲ知ル。彼等ハ現狀ヲ不備不完全ナルモノト識ルモ、之ヲ枉グベカラザル運命ナリト觀念シテ之ニ満足スルコトヲ知ル。見ヨ、支那ノ歴史幾千年治者ヲ更ユルコト幾回ナルヲ知ラザルモ、彼等ハ

常ニ堯舜ノ民ト同様天ヲ樂ミテ治者ノ治ムル所ニ任セタルニアラズヤ。卽チ彼等ハ善政ニ對シテ勿論不服ナキト同時ニ、惡政ニ對シテモ亦大ナル不服ナキナリ。要スルニ治者ノ何人ナルヤハ彼等ノ深ク問フ所ニアラズ。故ニ將來企業ガ勃興スルノ曉、企業者ノ勞働虐使ガ太甚シキニ及ブ場合ハ別トシ、單ニ企業者ナリトノ理由ヲ以テ勞働者ガ企業者ニ反抗スベシトハ想像スル能ハズ。何人企業者タルモ彼等ニシテ勞働者ノ生活ヲ保障スル以上勞働者ハ之ニ満足スルナラン。此意味ニ於テ將來ノ支那ノ勞働問題ヲ溫情主義ヲ以テ解決シ得ベシト爲スノ論ハ首肯シ得ラレザルニアラザルナリ。否日本ノ勞働問題ヲ溫情主義ヲ以テ解決セントスル說サヘモ予ハ或程度迄之ヲ首肯シ得ルナリ。溫情主義者ハ曰フ「日本ノ國體ハ君ハ人民ヲ治ムルヲ以テ終生ノ願トシ、人民ヲ一家族ノ如クニ考フ。所謂人民ハ悉ク是レ陛下ノ赤子ナリ。陛下ハ畢竟溫情主義ヲ以テ人民ヲ治メラル、モノニ外ナラズ。故ニ此主義ヲ企業者對勞働者ノ關係ニ應用スルハ、陛下ノ採リ玉ヘル溫情主義ヲ擴布スル所以ニシテ、苟クモ企業者ニシテ此意味ニ於テ事業ヲ經營シ、勞働者ノ生活上ノ安固ヲ計ルニ於テハ、勞働者タルモノ何ノ必要アリテ企業者ニ反抗センヤ」ト。又曰フ「企業者ハ常ニ勞働者ノ要求ヲ待タズ、我ヨリ進ンデ彼等ノ幸福安全ノ爲メニ圖ルナリ。然ラバ勞働者モ企業者ノ情誼ヲ諒トシ、強キ責任觀念ヲ以テ注意シテ仕事ニ當ルベク、從テ勞働能率モ高カルベシ。而シテ企業者ニシテ注意スレバ何ガ勞働者ノ幸福利益ナルヤヲ知ルコトハ容易ナリ。例ヘバ親ハ不

斷ニ子ノ事ヲ考フルガ故ニ、子ノ泣クヲ見テ飢エタルカ、寒キカ、痛キカヲ識別スルコト容易ナリ。子ハ唯泣クニ止レドモ、親ハ其泣ク意味ヲ心ヨリ心ニ傳フ。企業者モ亦如此不斷ノ注意ヲ労働者ノ上ニ拂フコトニヨリ労働者ノ所願希望ハ之ヲ聞カザルニ知リテ自ラ進ンデ適當ノ處置ヲ施スコトヲ得ベシ」ト。而シテ如此論ハ企業者ト労働者トヲ對等ノ地位ニ置カズ、労働者ヲ企業者ノ奴隸視スルモノナリトシテ學者ノ非難スル所ナレドモ、理論ハ如何様ニモアレ、企業者ニシテ眞ニ陛下ガ人民ヲ治メラル、ガ如キ廣大無邊ナル心、又ハ親ガ家庭ノ子女ヲ視ルガ如キ親切周到ナル感情ヲ以テ労働者ニ對シ、一意専心、彼等ノ幸福利益ノ爲メニ圖リテ倦マザルニ於テハ、實際上労働者ハ之ニ満足シテ、敢テ問題ヲ提起セザルナラン。満足セザルモノハ、現實ヲ離レテ理想ヲ論議スル社會主義者又ハ社會政策學者ノ徒ニシテ、労働者自身ハ彼等ノ議論ニ關係ナク、企業者ノ情誼ニ感ジ、企業者ノ用ヲ爲スコトヲ樂ムナラン。但ダ温情主義ハ又一ノ理想ニシテ、之ヲ實現スルコトハ容易ナラズ。人ニ善良ナレ、善良ナラバ喧嘩ハナカラント言フガ如シ。但ダ善良ナルコトハ困難ナルガ故ニ、喧嘩ハ起ル。且又温情主義ノ適用ハ現今ノ工場制工業ノ下ニアリテハ往時ノ手工業又ハ家内工業ノ下ニ於ケル程容易ナラズ。何者小人數ノ場合、都テノ人間ヲ識リテ之ニ温情ヲ注グコトハ比較的容易ナレドモ、數十數百數千ノ人間ガ群集スル場合、悉ク其容貌又ハ姓名ヲ識リテ之ヲ丁寧親切ニ取扱フコトハ困難ナルベケレバナリ。故ニ温情主義トイフガ如キ感情ニ依

頼セズ、道理ニ依リテ問題ヲ解決セントシテ、社會政策又ハ社會主義ノ論ハ起リ來レルモノナリ。遮莫温情主義ニシテ之ヲ實現スルヲ得バ、我國現今ノ労働者ハ必ズ之ニ満足スルニ相違ナシ。我國ノ労働者ハ未ダ温情主義ヲ嫌ラズ思フ程ニ人格上ニ醒メ居ラザレバナリ。況ンヤ我國労働者以上無自覺ナル支那人労働者ガ温情主能ノ是非ヲ論議スルガ如キハ之ヲ想像スルコト能ハズ。温情多々倍々可ナリ。彼等ハ温情ノ結果ヲ樂ムノミ。其温情ガ何人ヨリ出ヅルカハ彼等ノ問フ所ニ非ルベキナリ。滿洲ニ於ケル工場ノ特色トシテ寄宿舎ヲ設ケテ労働者ヲ收容ス。而シテ或地方ニアリテハ一週一回肉ヲ與ヘテ労働者ノ勞ヲ慰ムル習慣アリ。是レ勿論工場主ノ温情ニシテ義務ニハ非ルナリ。然ルニ若シ工場主ニシテ肉ノ惠與ヲ怠ランカ、労働者ハ團結シテ仕事ヲ爲サルコトアリトイフ。如此ンバ彼等ハ温情ヲ辭セザルノミナラズ、又實ニ之ヲ要求スルモノト謂フベシ。故ニ今寄宿舎内ニ演舞場ヲ設ケテ芝居ヲ觀セシメ、或ハ蓄音器ヲ聽カシメ——前出苦力收容所碧山莊ニ於ケルガ如ク——、又ハ醫療所ヲ設ケ、醫師ヲ置キテ彼等ノ健康ヲ保全スル——碧山莊又ハ南滿鐵道附屬工場ニ於ケルガ如ク——ノ工場主アランカ、彼等ハ嬉々トシテ其狀態ヲ樂ミ、此狀態ヲ作り出ス所ノ人ガ何人ニシテ且如何ナル動機ニヨリテ動キツ、アルヤヲ問ハザルベキナリ。且支那人労働者ガ温情ヲ樂シムベキ理由別ニアリ。蓋シ支那人労働者ノ供給ハ極メテ潤澤ニシテ、固ヨリ地方ノ狀況ニ依リ又ハ労働ノ種類ニ依リ之ヲ一概ニ言フ能ハザルヤ勿論ナレ共、總ジテ企

業者ハ勞働者ノ募集ニ大ナル苦心ヲ要セズ。之ヲ勞働者側ヨリ言ヘバ彼等ハ激シキ競争ノ結果雇ハル、ノミ。故ニ雇ハル、コト自身ヲ以テ一ノ恩惠ト考フル傾キアリ。企業者ハ何時ニテモ勞働者ヲ解雇シテ他ノ勞働者ヲ雇入ル、事ヲ得。是レ上述ノ如ク支那人勞働者ノ供給ガ極メテ潤澤ナルノミナラズ、且支那人ノ工業ガ粗製工業ヲ主トスル結果、企業者ガ要スル所ハ不熟練勞働ニシテ、不熟練勞働ナル以上如何ナル勞働者モ之ヲ提供スルヲ得ベケレバナリ。故ニ支那人勞働者ハ解雇セラレザルコトヲ以テ一ノ恩惠ト考フル傾キアリ。故ニ彼等ハ唯其生活ヲ保障スベキ待遇ヲ與ヘラル、ニ満足シテ、敢テ低キ賃銀ト永キ勞働時間トヲ辭セザルナリ。一昨年ノ巴里國際會議ニ於テ國際勞働法制委員會ハ他ノ諸種ノ原則ト共ニ勞働商品ノ原則ヲ決議シタリ。勞働商品ノ原則トハ、勞働ヲ以テ單ニ商品ト視ルベカラズトノ原則ニシテ、勞働ヲ單ニ商品ト視ルガ故ニ企業者ハ可及的低キ賃銀ト永キ勞働時間トヲ以テ勞働者ヲ雇使シテ其營利心ヲ満足セシメントシ、勞働者ノ幸福利益ニ就テハ毫モ顧慮スル所ナキナリ。然レドモ企業者ガ如此ナラバ勞働者モ亦其勞働ヲ賣ラザレバ可ナリ。然ルニ勞働者ハ斯カル自由ヲ有セズ。何者彼等ハ其勞働ヲ賣リテ生活スルモノナレバナリ。故ニ勞働ヲ賣ルコトハ勞働者ニアリテハ一日ノ急ヲ爭フベキ問題ナリ。之ヲ企業者ニアリテハ勞働ヲ買フコトハ一日ヲ爭フベキ問題ニアラズ。彼等ハ廣ク勞働市場ヲ物色シテ徐ロニ最モ自己ニ有利ナル勞働ヲ買ヒ得ル自由アリ。然ラバ勞働ヲ單ニ商品ト視ルトキハ勞働者ノ不利

益ハ知ルベカラズヤ。之ヲ換言スレバ労働ハ商品ナリトシテモ一般商品ニ對スル經濟上ノ原則ハ労働商品ニ對シテハ行ハレザルナリ。故ニ労働ヲ又人格ト視、労働者ノ利益ヲ保護セントスルモノ是レ労働ヲ商品ノ原則ナリ。労働ヲ人格ト視ル時ハ企業者ハ之ヲ得ル場合ニ於テモ猥リニ低キ賃銀ト永キ労働時間トヲ以テ労働者ヲ雇使スルコトヲ爲サズ、彼等ノ幸福安全ヲ保障スベキ待遇ヲ與フル事トナルベキナリ。然ルニ此労働商品ノ原則ハ何國ニ於テモ之ヲ實行スルコト困難ナルハ勿論ナルガ、支那ニ於テハ特ニ之ガ實行困難ナル事由アリ。何ゾヤ、労働者ノ過剰是レナリ。労働者ハ急ギ其労働ヲ賣ラザルベカラザルガ故ニ、企業者ノ爲メニ之ヲ買ヒ倒サル。然ルニ支那ノ労働者ハ労働過剰ニ基ク激シキ競争ノ結果、其労働ヲ投賣セザルベカラザル状態ニアリ。如此レバ企業者ガ労働ヲ商品視スルニ傾クハ已ムヲ得ザル所ニアラズヤ。故ニ労働商品ノ原則ハ何國ニ於テモ勿論必要ナレドモ、支那ノ如キ國情ニ於テ特ニ其必要アリ。而シテ此原則ヲシテ權威アラシムルニハ、労働者自身先ヅ労働ノ人格ナル所以ヲ信ズルヲ要ス。然ルニ教育ノ進歩ト智識ノ發達トニ於テ最モ遅レタル、而テ彼等ヲ自覺ニ向テ導ク所ノ社會政策ノ運動ヲ有セザル支那人労働者ガ如何ニシテ労働人格ノ理ヲ領解スルヲ得ンヤ。而シテ彼等ノ自覺ヲ妨グルモノハ、彼等ノ樂觀的人生觀ナリ。此人生觀ヲ有スルガ故ニ彼等ハ惡キ労働條件ノ下奴隸ノ如ク働クヲ辭セズ。而シテ彼等ノ間ニ於ケル激シキ競争ハ彼等ヲシテ其奴隸的境遇ヲ以テ一ノ恩惠ノ如ク感ズルニ至ラシム

既ニ然リ、然ルニ今企業者ニシテ當ニ彼等ノ生活ヲ保障スルノミナラズ、又寄宿舎ヲ設ケテ彼等ノ生活上ノ便宜ヲ計リ、娛樂機關ヲ設ケテ彼等ノ勞ヲ慰メンカ、勞働者タルモノ何ノ理由アリテ企業者ノ溫情ヲ排斥スベケンヤ。否彼等ハ豫期セザル特典トシテ之ヲ歡迎センノミ。

三

然ラバ支那ニ於ケル勞働問題ノ解決ハ易々タルカ。然リ、溫情主義ハ以テ支那ノ勞働問題ヲ解決スルニ足ルベシ。然レドモ支那ノ企業者ガ溫情ノ所有者ナリヤ否ヤハ自ラ別問題ナリ。元來企業者ハ企業社會ノ人間ナリ。企業社會トハ營利心ニ由リテ支配セララル社會ヲ謂フ。今日貨幣經濟ノ下如何ナル社會ノ人間モ多少營利心ニ由リテ支配セラレザルモノナシ。即チ貨幣獲得ヲ以テ目的トスルハ各種ノ業務皆然ラザルハナシ。然レドモ農工商者以外ノ人間ガ貨幣獲得ヲ目的トスルハ生計維持ノ爲メニスルモノニシテ、農工商者ノ如ク貨幣増殖ノ爲メニスルモノニアラズ。否彼等ハ其一定セル貨幣的收入ヲ容易ニ増加シ得ザル地位ニアリ。言換フレバ營利心ヲ有シ得ザル狀態ニアリ。農工商者ト雖營利心ヲ有シ得ザル狀態ニアリタル間ハ生計維持ヲ以テ其目的トシタルモノニシテ、但ダ貨幣經濟成立シ、貨幣ガ貨幣ヲ生ミ出スノ理ヲ教ヘラル、ニ及ビテ、茲ニ彼等ハ初メテ營利ノ目的ヲ以テ其業務ニ從事スルニ至レルモノナリ。從テ營利心ハ今日貨幣經濟ノ

下ニアリテモ社會ノ全般ヲ包括スル精神ニアラズシテ、此精神ノ最モ完全ニ行ハル、ハ企業社會ニ外ナラズ。而シテ此社會ニアリテハ人ハ友愛、同情等ノ感情ニ依リテ行動セズシテ、可及的多クノ貨幣的利益ヲ贏得セントノ理性的判斷ニ依リテ行動ス。然ラバ企業者ハ本來冷酷ナルベキモノナリ。今支那ノ企業者ニ此原則ヲ破ルベキ特殊の原因アリヤ。否彼等ニハ却テ此原則ニ忠實ナルベキ特殊の原因アリ。开ハ又支那人ノ國民性ニ淵源ス、而シテ支那人ヲシテ此國民性ヲ養ハシメタルモノハ支那多年ノ惡政治ナリ。支那ノ惡政治ヲ一言ニシテ蔽ヘバ生命財產ノ安固ナラザル是レナリ。支那ニ於テハ賄賂ハ尙貨幣ノ如シ、何物ヲモ購フコトヲ得。政治上ノ權力ヲ購フコトヲ得。支那ノ官吏ガ頻リニ賄賂ヲ貪ルハ、一ハ其獵官資金ヲ償却センガ爲メナリ。裁判ノ結果ヲ購フコトヲ得。支那ニ裁判制度ノ發達セザルハ之ガ爲メナリ。納稅ノ免除ヲ購フコトヲ得。支那ノ稅制ニ於テハ直接稅中一定ノ租稅ハ中央政府直屬ノ官署ヲシテ徵收セシメ、爾餘ノ諸稅ハ地方各省ヲシテ一定額ノ納稅ヲ請負ハシムルモノナルガ故ニ地方各省ニ於テハ徵稅ヲ以テ一ノ營利事業視シ、賄賂ヲ納ムルモノハ納稅ヲ免除シ、良民ハ之ヲ苛斂誅求スルノ有様ナリ。支那ガ如此賄賂政治ヲ執ル以上、支那人ノ國家觀念又ハ社會的精神ハ衰亡シ行カザルベカラズ。而シテ單リ其色彩ヲ濃クシ來ルモノハ彼等ノ個人主義的傾向ナリ。支那人ヲ以テ本來ノ個人主義者ト爲ス謬レリ但ダ李朝數百年ノ惡政ガ朝鮮人ヲ驅リテ怠慢癩惰、貯蓄心ニ乏シキ國民タラシメンガ如ク、支那

歴代ノ惡政治ガ支那人ヲシテ國家ヲ信賴セズ、社會ヲ信賴セズ、唯自己ヲ信賴シテ、其幸福利益ヲ増進スルコトヲ考フル個人主義的國民タラシメタルノミ。而シテ如此國民性ヲ有スル支那人ガ企業者トシテ現ハル、トキ、彼等ハ果シテ何ヲ爲スベキヤ。然リ、勉ムル所ハ自己ノ利益ニアリ。而シテ自己ノ利益ノ爲メニハ、他人ノ利益、之ヲ正確ニ言ヘバ國家又ハ社會ノ利益ヘ之ヲ犠牲ニ供スルコトヲ憚ラザルナリ。支那人ノ會社ヲ經營スルヤ、先ヅ利益金ヲ積立テ、會社ノ基礎ヲ鞏固ニスル事ヲ考フル前、之ヲ配當シテ私腹ヲ肥サンコトヲ考フ。支那ニ官利ナル語アリ。會社又ハ組合ノ出資者ガ事業ノ成績如何ニ不拘其投下資本ニ對シテ受クル一定歩合ノ配當ヲ指スモノナリ。事業ノ成績良好ナリト雖會社ハ猥リニ配當ヲ爲スベキモノニアラズ、一定ノ積立金ヲ控除シ殘餘アラバ之ヲ配當スベキモノナルコト予ノ説明ヲ待タザル所ナリ。然ルニ支那人ノ會社ヲ經營スルヤ、缺損アルモ尙配當スルモノニシテ、是レ畢竟會社ノ資本金ヲ配當スルモノニ外ナラズ。而モ如此制度ニ依ラザレバ支那人ノ會社ハ成立セザルナリ。則チ定款中官利ニ就キテ規定スルヲ例トシ、法律之ヲ禁ズルニ至リ、斯カル規定ヲ避クル會社ニアリテモ、尙且官利ハ實際上之ヲ配當スルノ有様ナリ。之ニ由リテ思フニ支那人ガ會社ニ出資スルハ金ヲ會社ニ貸スモノナリ。事業ヲ經營セントスルモノニ非ズ。換言スレバ利子ヲ收ムルニアリテ利潤ヲ獲得スルニアラズ。彼等ニ金貸業者ノ心理アルベシ、企業者トシテノ心理ナキナリ。企業者ハ資本ヲ投下シテ事業ヲ經營

ス。而シテ其目的ハ不定ナル利潤ヲ獲得スルニアリ。蓋シ利潤ハ始メヨリ利子ノ如ク一定セズ。大ナルコトアルト同時ニ小ナルコトアリ、又全ク無キ事アリ。即チ事業ノ經營ニハ、巨利ヲ博シ得ベキ機會モ存スルト同時ニ、危険モ亦伴フ。其危険ハ當ニ利潤ノ上ニ止ラズ又資本ノ上ニアリ。即チ企業者ハ全然利潤ヲ獲得スル能ハザルノ危険アルノミナラズ又、資本其者ヲモ失フノ危険アリ。然レドモ此危険ガ存ズルガ故ニ又巨利ヲ博シ得ベキ機會モ存スルモノニシテ、人ハ此機會ヲ捉ヘントシテ危険ヲ冒シテ事業ヲ經營スルナリ。株式會社ノ繁榮ハ此見地ヨリ觀察スルトキハ容易ニ首肯シ得ベシ。蓋シ人ガ株式會社ニ出資スルハ決シテ株式ノ賣買移轉ガ自由ナル理由ニヨリ、其出資額ノ回收ガ容易ナルガ故ニアラズ。寧ロ其出資額ハ之ヲ捨ツルモ辭セズトノ覺悟アルニアラザレバ、人ハ始メヨリ株式會社ニ出資セザルベキナリ。人ハ唯ダ飽ク迄モ其資本ヲ危険ニ暴シテ以テ可及の大ナル利潤ヲ贏得セントシテ株式會社ニ出資スルナリ。今支那人ガ其株式出資ニ對シテ一定利子ヲ請求スル以上、彼等ハ株式應募ヲ以テ社債應募ト混同スルモノニシテ、其資本ヲ危険ニ暴シテ利潤ヲ贏得スル意思アルモノト視ルヲ得ズ。即チ彼等ニ企業的精神アルモノト言フコトヲ得ズ。然レドモ彼等ニ企業的精神ナシトハ營利心ナシトノ意ニアラズ。否彼等ニハ旺盛ナル營利心アリ。但ダ彼等ノ營利心ハ一ノ組織又ハ經營ノ中ニ入りテ深遠雄大ニ働カザルノミ。蓋シ支那人企業者ハ會社資本ヲ其出資者ノ人格ヨリ引離シ、一ノ獨立ナルモノトシテ之ヲ自由ニ活

動セシムルノ理ヲ領解スル能ハズ。之ヲ別言スレバ彼等ハ會社ヲ組織スル各員ノ人格ヲ融合シテ一ノ獨立ナル團體人格ヲ作り、之ヲシテ其力ヲ伸ベシムルノ理ニ通セズ。左レバコソ彼等ハ會社事業ノ成否ニ不拘其出資額ニ對スル配當ヲ受ケントスルナリ。然レドモ法人觀念ハ初メヨリ人ノ當然有スル所ニアラズ事業經營ノ精神先ヅ發達シ、事業經營ノ形態ヲ研究シテ、然ル後到達シタル結果ナルノミ。初メニハ自然人格ヲ認メシノミ。然レドモ國民的市場又ハ世界的市場ニ於ケル競爭ノ壓力ハ多數人ノ資本並ニ勞力ヲ結合スルコトニヨリテ其社會上經濟上ノ勢力ヲ強大ナラシメ、之ヲ獨立ノ一體トシテ活動セシムルコトヲ必要ナラシムルニ至リ、茲ニ法人觀念ハ發達スルニ至レルモノナリ。今支那ノ企業者ニ事業經營ノ精神ナシ。如何ゾ團體人格ニ關スル觀念アランヤ。彼等ガ團體人格ヲ認ムルニ至ルニハ之ニ先チテ彼等ノ事業經營ノ精神ガ發達スルコトヲ必要トスルナリ。然ルニ彼等ガ事業經營ノ精神ハ彼等ノ國民性タル個人主義的傾向ノ爲メニ累セラレテ其發達ヲ遂ゲ能ハザル狀態ニアルコト既ニ論述シタル所ニシテ、此個人主義的傾向ガ、再タ支那人企業者ノ法人觀念ノ發達ヲ妨ゲツ、アルナリ。

支那人企業者ハ私利ヲ營ムニ急ニシテ、企業基者ノ利益ヲ顧ミザルモノト謂フベシ。故ニ支那人ノ企業ハ永續スルモノ尠ク、或ハ永ク不振ノ狀態ニ在リ。如此ンバ如何ゾ勞働者ニ好キ賃銀ト多クノ非勞働時間トヲ與ヘテ彼等ノ生活狀態ヲ改善シ、彼等ノ人間的修養ヲ完カラシムルヲ得

シ。企業者ガ企業其者ヲ虐待シ、其健全ナル發育ヲ計ラザル以上、労働者ニ對シテ温情ヲ寄セントスルモ、是レ到底能ハザルナリ。即チ労働虐使ハ企業者ノ意思ナラズトシテモ、其レガ當然ノ結果トナル。然ルニ將來企業ガ勃興スルノ曉支那人企業者ノ温情ハ労働者ニ向テ發動スベキカトイフニ支那人企業者ガ其個人主義的傾向ヲ改メザル限り、彼等ノ労働虐使ハ淪ラザルナルベシ。今日支那人企業者ハ利益金アレバ直ニ之ヲ配當シ、毫モ後日ノ計ヲ爲サズ。從テ労働者ガ負傷又ハ罹病スルトキ之ヲ療養セシムベキ資金ヲ有セズ、労働者ガ老廢職ニ耐ヘザルニ至ルトキ之ニ向テ養老金ヲ授クル事ヲ得ズ。將來企業ガ勃興スルニ至ラバ、此等ノ狀態ハ當然淪リ來ルベキモ、而モ支那人企業者ガ其個人主義的特性ヲ捨テザル限り、彼等ハ多々倍々其營利心ヲ満足セシメテ労働者ノ爲メニ計ルコト薄キヲ免レザルベシ。

四

企業者ニ労働虐使ノ客觀的事實アリトシテモ、之ヲ虐使ト感ズル主觀的事實労働者ニ存セザラバ、問題ハ起ラザルベキナリ。支那人労働者ガ低級下等ナル生活ヲ以テ満足スルモノナルコトハ既述ノ如シ。而シテ是レ彼等ガ現狀ニ順應スル樂觀的人生觀ニ基クモノナルト亦既述ノ如キモ、同時ニ彼等ハ其生活ノ低級下等ナル所以ヲ自覺セザルガ故ニ之ヲ苦痛トセザルノミ。而シテ彼等

ノ健康ハ永ク彼等ヲシテ其生活ノ低級下等ナル所以ヲ自覺セシムルニ至ラズ。若シ「頑健」ナル語ヲシテ其最適ノ場所ヲ得セシメントセバ、支那人勞働者ノ身體ニ若クハナシ。彼等ハ衛生ニ向テ極メテ無頓着ナリ。彼等ノ下等ナルモノハ樹下ニ臂ヲ曲ゲ、石上ニ脚ヲ伸シテ眠ルヲ辭セズ。彼等ハ又濁水ヲ飲ミテ平然タリ。彼等ガ胃腸ニ有効ナル菲蒜ヲ好ンデ食スルハ自然ノ要求ニ基クモノナリ。彼等ハ又永ク沐浴セズシテ垢ノ自然ニ退散スルニ任ス、彼等ノ沐浴セザルハ殆ド犬猫ト選バズ。猫ハ尙面ヲ洗フ。然レドモ支那人勞働者中ニハ毎朝洗面ヲ省略スル者アリ。戲言スルモノハ曰ク、「一生涯ヲ通ジ三回以上沐浴セザル支那人勞働者ハ多カラン。三回トハ生レタルトキ嫁ヲ迎フルトキ、及死シタルトキヲ指ス」ト如此ンバ彼等ガ自ラ沐浴スルハ一生涯唯一回ノミ。如此支那人勞働ハ衛生ニ對シテ無頓着ナレドモ、而モ病氣ニ對スル抵抗力ハ強キヲ以テ有名ナリ道傍ニ眠ル勞働者中ニハ有菌者少ナカラズト言ハル。而モ彼等ハ發病セザルガ故ニ自ラ有菌者ナルコトヲ覺ラザル狀態ナリ。ペーんとニハれつど、ぼいずんアリ。而モペーんと製造會社ニ雇使セラル、支那人勞働者ハ之ニ害セラル、コト日本人勞働者ノ如ク太甚シカラズト言ハル。黃燐ニモ毒素アリ。之ニ中テラルレバ顎骨疽ト稱スル極メテ悲慘ナル病氣ヲ惹起ス。而モ燐寸製造會社ニ於ケル支那人勞働者ハ永ク黃燐ヲ取扱フニ平均、其罹病率遙ニ日本人勞働者ノ下ニアリト言ハル。支那人勞働者ニシテ如此頑健ナリトセバ、彼等ハ永ク危險且不衛生ナル生活ヲ續ケテ之ヲ危險

且不衛生ト覺ラザル道理ニシテ、從テ企業者ノ勞働虐使ハ結果ニ於テ勞働虐使ナラザル譯ナリ。虐使ヲ虐使ト感ゼザルモノニ何ノ虐使ガアランヤ。然レドモ支那人勞働者ガ無自覺ノ狀態ニアルノ故ヲ以テ勞働問題ノ發生ヲ否定スルヲ得ズ。勞働者カ自覺スレバ歐米ニ於ケルガ如キ根強キ勞働問題ハ發生スベク、勞働者ガ自覺セズトモ亦勞働問題ハ發生シ得ベキコト、予ガ本篇冒頭論述スル所ノ如シ。而シテ支那勞働問題ニ關スル決定的原動力ハ企業ノ勃興是レナリ。支那ノ企業ニシテ勃興スル以上、譬ヒ他ニ之ヲ妨グル種々ノ原因アルコトヲ認メザルベカラズトシテモ、勞働問題ノ發生ハ所詮避ケ難キ命數ナリト觀テ可ナラン。而シテ支那ニハ勞働問題ノ發生ヲ容易ナラシムベキ特殊的原因アリ。开ハ企業ガ勃興スレバ支那人ノ有スル怖ルベキ力タル團結力ヲ利用スル者ヲ生ジ來ランコト是レナリ。夫レ非買同盟ハ支那人ノ慣用手段ナリ。日本ハ現ニ彼等ノ排貨的團結ノ爲メニ苦ミツ、アリ。彼等ハ何故此團結力ヲ企業者ノ勞働虐使ニ對シテ揮ヒ來ラザルヤ今日未ダ此必要大ナラザルノミナラズ、從テ又此團結力ヲ利用スルモノヲ生ゼザルガ爲メナリ。然レドモ企業ノ勃興ト共ニ企業者ノ勞働虐使ガ社會上顯著ナル事實トナルニ至ラバ、必ズヤ此團結力ヲ利用スル勞働運動者ノ運動ハ現ハレ來ルベシ。固ヨリ非買同盟ト罷工同盟トノ間ニハ性質上ノ差異アリ。故ニ非買同盟ヲ爲ス國民ガ必ズ罷工同盟ヲ爲ス國民ナリトハ論斷スル能ハズ。蓋シ非買同盟ノ爲メニ苦ムモノハ外國商人ニシテ支那人ニアラズ。支那人ハ一國ノ商品ヲ買ハザ

ルモ他國ノ商品ヲ買ヒ得ベシ。但ダ多少高キモノヲ買ハザルベカラザルノミ。罷工同盟ニアリテハ然ラズ。罷工同盟ノ爲メニ苦ムモノハ勿論企業者ナレドモ、勞働者モ亦苦ム。而シテ同盟運動ガ失敗ニ終ルトキ、最モ苦ムモノハ勞働者ナラザルベカラズ。然ルニ支那ニ於テハ罷工同盟運動ガ失敗ニ終ルベキ可能性甚ダ多シ。是レ既述ノ如ク支那人勞働者ノ提供スル勞働ハ何人モ提供シ得ベキ性質ノモノナルノミナラズ、其提供者ノ數ハ殆ド無盡藏ニシテ、一ヲ失フモ他ヲ以テ容易ニ之ヲ補充シ得ルガ爲メナリ。然レドモ企業者ハ勞働者ノ補充ガ容易ナルガ故ニ現ニ雇使セル勞働者ヲ解雇スルヲ可ナリトスル理由ナク、永ク使ヒ慣レタル勞働者ヲ解雇スルハ企業者ニトリ兎ニ角打撃ニ相違ナキガ故ニ、勞働者ガ團結シテ企業者ニ當ルノ利益ハ固ヨリ有リ。從テ勞働運動者ガ彼等ノ團結力ヲ利用シテ彼等ヲ一ノ組織ノ下ニ統一スル理由亦有リ。而シテ支那人勞働者ノ間ニハ己ニ一ノ組織アリト稱シテ可ナリ。蓋シ彼等ハ單獨ニテ雇使セラル、モノ少ク、普通苦力頭又ハ頭目ト稱シ、我國ノ親方的ノモノアリテ彼等ノ下ニ統一セラレテ働ク。多數ノ勞働者ヲ收容スル所ニアリテハ普通三十人乃至五十人ヲ以テ一班ハ組織セラレ、五班乃至十班ヲ以テ更ニ大ナル班ハ組織セラル。而シテ苦力頭ノ苦力ニ對スルヤ、恰モ兵卒ニ對スル士官ノ如ク號令嚴重一步モ假借セズ。苦力又唯々トシテ之ニ服從シ、敢テ背犯スル事ナシ。是故ニ企業者ニ於テハ賃銀、勞働工程其他一般事項ヲ都テ苦力頭ト協議シテ定メ、直接苦力トハ交渉セザル有様ナリ。苦力頭

ハ苦力ノ爲メニ有利ナル勞働條件ヲ確保スルコトヲ勉ムルノミナラズ、又苦力ノ一身上ノ爲メニ計リテ懇切ヲ極ム。但ダ支那人勞働者ノ間ニ存スル此鞏固ナル結合ハ同郷者間ニノミ現ハル、モノニシテ、他郷ノ者ハ却テ之ヲ排斥スルノ實狀ナリ。故ニ支那人企業者ハ支那固有ノ以夷制夷主義ヲ學ンデ勉メテ鄉黨ヲ異ニスル者ヲ集メ、彼等ヲ相排擠セシムルコトニヨリテ彼等ノ團結ヲ薄弱ナラシメントス。然レドモ彼等ノ有スル鄉黨的團結力ハ之ヲ轉ジテ職業的團結力タラシメ能ハザルカ。今日支那人勞働者ガ同郷者ヲ以テ團結スルハ、斯クシテ相互ノ利益ヲ保護スルモノナラン。他郷ノ者ヲ排斥スルハ斯クシテ同郷者ノ利益ヲ確保スルモノナラン。然レドモ彼等ガ鄉黨ヲ以テ團結シ、他郷ノ者ヲ排斥スルハ偶々企業者ノ乗ズル所トナル所以ナルヲ覺ラバ、彼等ハ他郷者ト雖猥リニ之ヲ排斥セザルニ至ルナラン。而シテ勞働者自身ノ自覺ハ遲々タリトシテモ、彼等ヲシテ斯ク覺ラシムルモノハ企業ノ勃興ニ伴フ企業者ノ勞働虐待ト、又之ニ促サレテ現ハルベキ勞働運動者ノ運動ト是レナリ。然ラバ支那勞働問題ノ發生如何ハ懸リテ支那企業ノ勃興如何ニアリト斷言スルモ不可ナキガ如シ。知ラズ支那ノ企業ハ勃興スベキヤ否ヤ。

五

支那ノ企業ハ勃興スベキ望ミ甚ダ少シ。人往々支那ノ企業ガ近時漸ク活氣ヲ呈シ來レルヲ云フ

然リ、歐洲大戰ニ基ク世界好景氣ノ餘響ヲ受ケテ支那ニ於テハ國貨振興、洋貨抵制ノ聲盛トナリ、之ニ促サレテ支那ノ企業ガ多少ノ活氣ヲ呈スルニ至レルコトハ事實ナリ。而シテ今日尙其餘勢ヲ保チツ、アル日貨排斥ノ影響トシテ日本商品ノ支那輸入ガ減退シタル結果、支那内地ノ製造工業ガ支那人企業又ハ合辦企業トシテ多少起ルニ至レルコトモ事實ナリ。然レドモ如此ハ果シテ一時ノ現象ナラザルベキカ。之ヲ支那企業ノ歴史ニ見ヨ、支那ニハ企業ノ一時的勃興ヲ見タル時代アリ。蓋シ日露戰爭後利權獲得ニ基ク外國人企業ノ隆興ヲ見ルヤ、支那人中志有ル者窃ニ之ニ平カナラズ。今ニシテ支那ノ企業ヲ振興スルニアラズンバ、支那ノ企業ハ將來回復スベカラザル打撃ヲ受クベシト叫ビ、彼等ハ利權回收論ヲ提ゲ立チテ、苟クモ外人既得ノ權利ニシテ隙ノ乘ズベキアラバ之ヲ回收スルニ腐心シ、一方頻リニ法令ノ制定改廢ヲ行ヒテ支那人企業ノ振興ヲ獎勵シタル結果、茲ニ支那人企業ハ民營企業トシテ多少ノ隆興ヲ見ルニ至レルナリ。然レドモ是レ一時ノ現象ニシテ支那ノ企業ハ久シカラズシテ再ビ衰頹ニ赴キ、且利權回收論其者モ支那財政窮乏ノ結果外資輸入ノ必要ヲ生ズルニ至リテハ之ヲ支持スルヲ得ズ。否却テ利權ハ倍々借款ノ擔保トシテ外國人ノ所有ニ歸シ、從テ外國人企業ガ勃興スルト反比例ニ支那人企業ハ衰頹ニ赴ケリ。近時人ノ好デ云爲スル支那企業ノ勃興モ亦此先例ヲ踏襲スルモノニアラザルカ。惟フニ企業ハ舶來品トシテ日本ニ入り來レルガ如ク又支那ニ渡來セリ。而モ日本ガ此舶來品ニ倣ヒテ兎モ角モ日本固有

ノ企業ヲ作り上グル事ニ成功シタルニ反シ支那ハ今日未ダ斯カル時代ニ達セズ。見ヨ支那ニハ綿絲布、生絲、絹織物、毛織物、燐寸、皮革、煙草、砂糖、紙其他ノ品目ニ關スル幾多ノ製造工業存スルモ、此等ノ中何ヲ以テ果シテ支那固有ノ工業ト稱シテ可ナリヤ。強テ求ムレバ綿絲紡績業ナランカ。然レドモ此綿絲紡績業スラ之ヲ經營スル會社ノ資本金概ネ弱小ニシテ、一旦經濟界ノ不況ニ際會セバ忽チ操業休止ノ狀態ニ陷ルベキ會社多キニ居ルト言ハル、ニアラズヤ。爾餘ノ工業ハ之ヨリ想像シテ知ルベキノミ。日本ト支那ト、同ジ企業ノ出發ヲ持チ乍ラ何ノ異ル所アリテ之ガ發達ニ如此相違ヲ來セシヤ。日本ニ於テハ政府保護企業時代ヲ經テ民營獨立企業時代來リ、企業ハ年ヲ逐フテ健全ニ發達シ行ケリ。支那モ亦企業ハ半官事業トシテ起リ乍ラ（光緒十六年我ニアリテハ明治廿五年李鴻章氏韓旋ノ下上海ニ起サレタル綿絲布製造會社機器織布局是レ支那ニ於ケル工場制企業ノ嚆矢ナリ。此會社ハ資本金ヲ四十萬兩トシ之ヲ一株百兩四千株ニ分チ、株主ハ悉ク官吏ヲ以テシタリ。）日本ト同様ノ徑路ヲ取ル能ハズ。政府ノ熱心足ラザリシ爲メカ。否支那ノ政府ハ企業ノ振興ニ向テ從來決シテ冷淡ナリシニアラズ。而シテ今日ト雖支那企業ノ爲メニ計リテ周到親切ナルモノアリ。即チ或ハ公司保息條例ヲ出シテ新設會社ノ配當ヲ保證シ、或ハ工場維持辦法ヲ出シテ流動資本ノ調達ヲ幫助シ、或ハ特種工業品ノ輸出税、釐金税、鐵道運賃等ヲ輕減又ハ免除シ、或ハ大資本ヲ集メテ工場制工業ヲ行フ者ニ爵位其他ノ榮典ヲ授ケ、其他勸業委員會ヲ組織シ、國貨展覽會ヲ開キ、工業試驗所、工商訪問所ヲ設ク

ル等經營慘膽到ラザルナシ。此等各種ノ施設經營ハ、タトヒ其レガ支那特有ノ聲言徒ニ大ニシテ實行ノ美之ニ伴ハザルモノナリトシテモ、固ヨリ以テ支那企業ノ隆興ニ資スル所尠カラザラン。然レドモ退テ考フルニ政府ノ企業獎勵ノ如キハ抑モ末事ニシテ、世界ノ歴史ニ之ガ類例乏シカラザルガ如ク、元ト經濟上ノ進歩ハ上ヨリ強要シテ之ヲ達成シ得ベキモノニアラズ、一ニ國民企業的精神ノ發達ニ待ツノ外ナキナリ。然ルニ支那人ノ企業的精神ガ萎靡不振ノ狀態ニ在ルコト、予ガ曩キニ論明スル所ノ如シ。企業的精神振ハザルガ故ニ企業的能力モ亦發達セズ。此二ツハ實ニ相關的關係ヲ有セルモノナリ。然ルニ支那人ニ企業的精神無キヲ説明シテ支那ノ識者ハ曰フ「是レ支那人ガ「知ルハ易ク行フハ難シ」ノ格言ヲ信仰スルガ爲メナリ。彼等ハ永ク此格言ヲ以テ養成セラレタリ。故ニ行ハントスル前矢先事ノ成否ヲ考フ。而シテ成功ノ見込確實ナル事業ニ非レバ彼等ハ決シテ着手セザルナリ。之ヲ日本人ニアリテハ行フコトハ知ルヨリモ易シ。彼等ハ失敗ニ頓着ナクドシ／＼實行ス。而シテ結局成功ス。是レ過去幾十年間日本ノ經濟上ノ進歩ガ迅速ナルニ反シ、支那ノ進歩ガ遅々タル所以ナリ」ト。是レ固ヨリ一面ノ觀察ニシテ決シテ誤謬ニ非ズ然レドモ支那ノ識者ハ一層進ンデ如何ナル實際上ノ必要ガ支那人ヲシテ「知ルハ易ク行フハ難シ」ノ格言ヲ信仰スルニ至ラシメタルカヲ觀察スル必要ナキカ予ヲ以テ觀レバ是レ支那ニ於テハ事業ガ容易ニ成功セザルガ爲メナリ。譬ヒ成功スルモ、其成功ノ結果ヲ確實ニ保有スル事ガ困難ナル

ガ爲メナリ。之ヲ別言スレバ支那ノ政治惡シキガ爲メナリ。而シテ支那ノ惡政治ハ其影響スル所甚ダ廣キナリ。元來企業ノ成立ニハ滿タサルベキ幾多ノ前提條件アリ。先ヅ企業ハ自由人格者タル企業者ガ同ジク自由人格者タル勞働者ト契約ヲ結ビテ行フ營利行爲ナルガ故ニ、職業、住所移轉、契約等ニ關スル個人ノ自由ノ原則ガ認メラレ、營利行爲ノ結果ガ確實ニ自己ノ所有ニ歸屬スルコトガ認メラル、ニ非レバ起リ得ザルナリ。又企業ハ市場生産時代ノ現象ニシテ賣ルコトヲ目的トシテ行ハル、モノナルガ故ニ、國內全般ニ亘ル所ノ交通系統ガ發達シ、貨幣經濟ガ普及シ、生産品ノ流動自在ニシテ、一地ニ於テ買手ナキトキハ之ヲ他地ニ齎シテ需要ヲ喚起シ、國民的市場ニ於ケル多數ノ需要者中何人カニヨリテ買取ラルベキ可能性増加スルニ非レバ起リ得ザルナリ。且又企業ハ生産費ヲ節約スル必要上當然大量生産ナラザルベカラザルガ故ニ、企業ニ投下スベキ資本充實シ、信用機關備リテ資本ノ運轉自由ナルニ非レバ起リ得ザルナリ。此他尙多クノ條件ヲ舉ゲ得ベシ。然ルニ支那ニ於テハ種々ノ封建的束縛存シテ個人ノ活動上ノ自由ナク、法律制度不完全ニシテ所有權ノ確實ニ保護セラル、コトナシ。交通系統モ亦完備セリト言フ能ハズ。鐵道網ノ四方ニ張ラル、アリト雖、支那ノ廣袤ノ大ニ比較セバ殆ンド言フニ値ヒセザルナリ。即チ物貨ハ主トシテ水運ノ便ニ依リテ四方ニ撒布セラル。晴雨順ナレバ則チ好シ、一朝旱魃久シキニ及ベバ水運ノ便ハ忽チ杜絶シ、物貨ハ空シク中央市場ニ停滯スベシ。且通信機關發達セザルノ結果ハ地

方ノ情況ヲ知ルコト敏活ヲ缺キ、今日甲地ニ雨降リ草木疲弊ストスルモ、又乙地ノ降雨作物ヲ蘇生セシムトスルモ、此等ノ報道ノ中央市場ニ傳ハルハ遙ニ後日ノ事ニ屬シ、豫メ事變ニ備ヘ又ハ活機ヲ制スル能ハズ。若シ夫レ度量衡制度並ニ幣制ノ錯雜混淆、資本ノ缺乏、信用機關ノ不整備ニ至リテハ世界周知ノ事實ナリ。而シテ此等ノ狀態ガ依然トシテ改マラザルハ支那政治ノ罪ナリ。支那ニハ未ダ企業者勞働者對立ノ關係ハ確立セズ、之ヲ換言スレバ此兩者ガ未ダ夫々社會上ノ一階級トシテ存在スルニ至ラズ。而シテ斯カル狀態ノ實現セラル、ハ企業勃興ノ後ナラザルベカラザレドモ、企業ノ勃興ニハ又斯カル狀態ノ存在ガ必要ナルナリ。即チ一方ニ旺盛ナル勞働力ヲ有シ、勞働能率ニ富ミ、向上的精神ヲ有スル勞働者ノ階級アルト同時ニ、他方ニ組織ト經營トニ長ジ資本ト勞働トヲ適當ニ結合シテ活潑ナル營利心ヲ満足セシメントスル企業者ノ階級アルニアラザレバ企業ハ勃興スベカラザルナリ。是レ最重要ナル企業勃興ノ前提條件ナリ。然ルニ支那ノ政治惡シキガ故ニ支那人勞働者ノ能率ハ上進セズ（支那ニ於テハ義務教育ノ制度ナク、近時廣東ニ於テ始メテ此制度ガ樹テラレタル始末ニシテ、教育制度不完全ナレバ勞働能率ハ上進スルニ由ナシ。）向上的精神ハ發達セズ。支那ノ政治惡シキガ故ニ支那人ハ滔々相率キテ個人主義的トナリ團體人格ヲ認ムル觀念ニ乏シク、企業的精神萎靡シテ振ハザルコトハ既述ノ如シ。然ラバ支那今日ノ幼稚不振ナル企業狀態ヲ改善スル一ニ政治ノ改善ニ待タザルベカラザル次第ナレドモ、支那

政治ノ改善ハ果シテ百年河清ヲ待ツノ類ナラザルカ。

六

支那政治ノ改善ハ其中央集權ノ成立ト密切ノ關係アリ。中央集權トハ其政治ヲ國內全般ニ對シテ行ヒ得ベキ組織ヲ謂フ。言換フレバ一國家又ハ一國民ヲ包括シテ其上ニ立テラル、政治組織ナリ。從テ此組織ヨリ生ル、制度ハ、其レガ如何ナル制度タルニセヨ、都テ國內全般ニ對シテ行ハレ得ルモノナラザルベカラザルナリ。此制度ノ上ニ立ツニアラザレバ政治ノ改善ハ到底行ルベカラザルナリ。然ルニ支那ノ中央集權ノ成立ハタトヒ其レガ絶望的ナラズトシテモ、其極メテ困難ナルベキハ何人モ疑ハザル所ナリ。今日支那ニハ各省ヲ連ネテ聯合體ヲ組織シ、此聯合體ノ上ニ中央政府ヲ設ケ各省ノ政治ハ之ヲ各省ノ自治ニ一任セントスル所謂連省自治政治ノ採用ヲ提唱スル一派ノ政治家アリ。然レドモ各省ノ自治ハ今日故ラニ之ヲ唱ヘズトモ已ニ其實アリト稱シテ可ナリ。今日ノ急務ハ省自治ニ非ズシテ、此省自治ノ狀態ヲ改ムルニアリ。各省其欲スル所ヲ爲シテ中央政府ノ威令行ハレザルガ故ニ支那ノ政治ハ混亂腐敗スルニ至レルナリ。支那ノ政治ハ裁判制度、租稅制度、教育制度、度量衡制度各省マチ／＼ナリ。此政治ノ不統一ヨリ支那ノ惡政治貨幣制度、其他諸制度ハ初ル。故ニ今日ノ支那ハ其政治ヲシテ國內全般ニ行ハレシメ得ベキ鞏固ナル中央集權政治ヲ建ツルヲ以テ最急務ト爲ス然ルニ支那目下ノ情勢ヨリ推シ是レ極メテ困難ナル事ナリトセバ、

企業ノ成立ニ要スル幾多ノ前提條件ハ到底滿タサル、ヲ得ズ。然ル限リ支那ノ企業勃興ハ望ミ少キナリ。於是乎予ハ勞働問題ニ立歸リテ言ハザルベカラズ。勞働問題ヲ企業者及勞働者間ノ單純ナル爭議ト見レバ支那ニモ固ヨリ勞働問題ハ起ルベシ。否現ニ支那ニハ幾多ノ勞働問題アリ。彼ノ先キニ歐洲戰爭ノ爲メ佛國戰場ニ送ラレタル廿萬ノ支那人勞働者ガ歸還シ、支那各地ニ散布セラレタル結果、此等ノ勞働者ノ在ル工場ニテハ多少勞働問題モ發生シタル有様ナリ。然レドモ企業者及勞働者間ノ單純ナル爭議ハ其レガ屢々繰返サル、トシテモ、未ダ以テ社會上ノ大勢力トナル事ナシ。企業者並ニ勞働者ガ夫々一ノ社會上ノ階級トシテ成立シ、相對峙スルニ至リテ茲ニ初メテ社會上ノ大勢力タルベキ勞働問題アリ。然ルニ右述ブル對立關係ハ一國ノ企業ニシテ幼稚不振ナル限リ發生スルヲ得ズトセバ、支那ニ於テハ勞働問題ハ近キ將來ノ問題トシテ其價值少キモノナリ。或ハ勞働問題ハ支那ニ於テハ其レガ社會上ノ大勢力タルベキ時代永久ニ來ルコトナシト論結スルモ亦不可ナキガ如シ。但ダ支那ニ勞働問題起ラズトイフコトハ支那人企業ニ就テ之ヲ言フノミ。支那ニハ之ト竝デ外國人企業アリ。合辦企業アリ。此等ノ企業ニ就テモ勞働問題起ラザルベキヤ否ヤハ、別ニ一考ヲ要ス。然レドモ之ヲ解ク鍵ハ一ノミ、企業ノ勃興如何トイフコトナリ。而シテ私見ヲ以テスレバ合辦企業ハ今日一ノ過渡の制度トシテ存スルニ止リ、將來其跡ヲ斷ツニ至ルナラン若シ殘ルトシテモ其レハ實質的外國人企業トシテ殘ルニ止ラン。外國人企業ニ至

リテハ勃興スベキ望ミ大ニアリ。元來支那ノ天產物寶庫ハ誰人カノ之ヲ開クヲ要スルモノナリ。而シテ若シ支那ノ國民ニ企業的精神ト資本トアリ、支那ノ中央政府ニ企業成立ノ前提條件ヲ滿タスベキ力アラバ、支那ノ天產物ハ支那人企業ニ據リテ當然利用セラルベキ者ナリ。然ルニ事情如此ナラズトセバ之ニ代リテ此任務ヲ遂行スベキモノナカルベカラズ。企業的精神ト資本トヲ有シ、其本國ノ中央集權ノ力ニヨリテ支那ニ於ケル企業成立ノ前提條件ヲ或程度迄滿タシ得ベキ外國人企業ハ是レナリ。支那ニ於ケル外國人企業者ハ英米佛日其他ノ諸國民ニ別ル。而シテ此等諸國民ノ間ニ於ケル經濟的競争ハ支那ニ於ケル外國人企業ヲ刺戟シテ一層之ヲ盛ナラシムルナラン。支那ニ於ケル經濟戰ニ於テ列國ガ目標トスル處ハ日本ニアリ。日本ガ支那トノ經濟的關係ニ於テ他ノ列國ニ比シ自然的並ニ人爲的ニ幾多有利ノ點ヲ有シ、從テ列國トノ競争上優越ノ立場ニ在ルコトハ列國ヲシテ日本ヲ競争上ノ目標タラシムル所以ナリ。列國殊ニ英米ガ支那トノ經濟的關係ニ於テ日本ニ優ル所ハ唯日本ヨリモ強大ナル資本ヲ擁スル點ニアリ。故ニ英米二國ガ支那ニ於テ日本ト戰フニハ屈強ノ武器トシテ唯資本ヲ以テスルノ外ナシ。商業ヲ以テ戰フニモ資本的ニ戰フノ外ナシ。於是乎英米二國ハ支那ニ資本ヲ注入シテ有利ナル幾多ノ製造工業ヲ起シ、安キ商品ヲ供給スル事ニ依リテ日本ノ商品ト對抗スルノ計劃ヲ立テツ、アリ。近時支那内地ニ於テ起サル、製造工業ガ英支又ハ米支合辦ノ形ヲ採ルモノ少ナカラザルハ之ヲ證スルモノナリ。事情如此トセバ日本

ガ支那トノ關係ニ於テ有スル地理的利益ハ、今日ニ於テハ確ニ大ナル強味タルニ相違ナケレドモ將來何時迄其權威ヲ保テ得ベキヤハ大ナル疑問ナラザルベカラズ。於是乎日本モ亦支那ニ製造工業ヲ起シテ英米人企業ニ對抗スルノ必要ヲ生ズルニ至ルベシ。斯クシテ支那ガ將來外國人企業ノ活動舞臺トナルベキコト殆ド疑ヲ容レザル所ナリ。單リ製造工業トノミ言ハザルナリ。支那ノ富源ヲ開發スルコト其レ自身ガ一ノ大ナル企業ナリ。何者支那ノ富源ヲ開發スルニハ、未成鐵道ノ敷設トイヒ、電信線ノ架設トイヒ、運河ノ浚渫トイヒ、水災ノ排除設備トイヒ、之ニ關連シテ起ラザルベキ事業甚ダ多シ。而シテ此等ハ都テ外國人企業ニ依リテ達成セラルベキ者ナレバナリ。但ダ茲ニ一考ヲ要スルコトハ、外國人ハ支那ニ於テ自由ニ企業ヲ營ミ得ルニアラズ、外國人ガ企業ヲ營ミ得ル地域ハ條約上許サレタル各開市場又ハ開港場ニ限ラレ、支那内地ニ及バズ。開港場又ハ開市場ニ於テモ外國人ハ各種ノ企業ヲ營ミ得ルニアラズ。鑛山業ヲ營ム能ハズ。電燈、水道馬車鐵道事業ハ之ヲ營ミ得ルトシテモ、支那政府ヲシテ一定地區内ノ獨占權ヲ認メシムル必要アリ。之ヲ得ザレバ此等ノ事業ハ營ミ得ザルニ均シ。然レドモ支那政府ヲシテ外國人企業ニ對スル制限ヲ緩和又ハ撤廢セシムルコトハ外國人國力又ハ外交上ノ問題ニシテ、現ニ此方向ニ向テ進ミツ、アルノミナラズ、現在ノ狀態ヲ以テモ少クトモ事業上ノ制限ハ合辦企業ノ形式ニヨリ之ヲ免ル、コトヲ得ルナリ。即チ鑛山業ハ合辦企業トスルトキハ之ヲ許サルベキノミナラズ、電燈、水

道、馬車鐵道等ノ事業モ合併企業トスルトキハ容易ニ一定地區内ノ獨占權ヲ獲得シ得ルノ實情ナリ然レドモ又更ニ一考ヲ要スルコトハ企業ノ成立ニハ滿タサルベキ一定ノ條件アリ、此條件ガ滿タサル、ニハ中央集權ノ成立ヲ必要トスルニ、支那ノ中央集權ハ其成立スベキ望ミ甚ダ少キコト既述ノ如クナリトスレバ、支那ニ於ケル外國人企業ハ支那人企業ト同様亦到底勃興スベカラザルノ理ナリ。但ダ支那ニ於ケル企業成立ノ條件ハ、外國人本國ノ中央集權ニヨリテ或程度迄ハ滿タサレ得ベシ。蓋シ支那ニ於ケル外國人企業ハ主トシテ先ヅ外國人本國ノ勢力地帶内ニ發生スベクレバナリ。例ヲ滿洲ニ採ランカ、滿洲ニ於テハ日本政府自ラ鐵道ヲ經營シテ交通ヲ便ニシ、銀行ヲ經營シテ資本ノ運轉ヲ自由ニシ、或ハ軍隊ヲ置キ、病院ヲ設ケテ在留民ノ安寧健康ヲ保全シ、或ハ學校ヲ創設シテ教育ノ普及ヲ計ル。而シテ此等ノ施設經營ハ將來倍々完備ニ近クベシ。故ニ我國人ノ企業的精神ニシテ旺盛ナラバ、滿洲ニ於ケル日本人企業ハ之ヲ發達セシメ得ベキ道理ナリ。尤モ最近成立シタル英米佛日四國新借款團ハ支那ニ於ケル列國ノ勢力地帶ヲ打破スルヲ以テ目的トシ、日本ガ新借款團ノ活動スベキ地域ニ關シ、一旦滿蒙除外ノ要求ヲ提出シ乍ラ之ヲ撤回シタル點ヨリ觀察スレバ、日本モ亦勢力地帶打破ニ賛成シタルモノト言ハザルベカラズ。從テ新借款團ノ結合ガ鞏固ナル限リ各國ハ將來或特殊ノ地方ヲ以テ自國ノ勢力範圍内ナリトシテ自由ノ行動ヲ採ル能ハズ各國共同の二種々ノ施設經營ヲ爲サルベカラザル譯ナレドモ、是レ却テ支那

ニ於ケル企業成立ノ前提條件ヲ充分ニ満たスベキ所以ニシテ、一國獨力ニテ遂グベカラザル事業モ共同ノ力ヲ以テハ容易ニ達成シ得ベク、斯クシテ支那ニ於ケル列國ハ、各自對等ノ地位ト權利トヲ有シテ新借款團ノ齎ラス種々ノ設備ヲ利用スルヲ得ベシ。而シテ新借款團ノ活動ハ固ヨリ支那全般ノ幸福利益ヲ増進スル所以ナレドモ、而モ之ガ利益ヲ最モ多ク利用スルモノハ支那人ニアラズシテ外國人ナルベシ。然ラバ外國人企業ガ將來支那ニ於テ勃興スベキコト何レノ點ヨリ觀ルモ疑ナキニ似タリ。

七

於是乎再ビ勞働問題ニ立歸リテ言ハンニ、將來支那ニ勞働問題ガ起ルトセバ、开ハ先ヅ外國人企業ニ關連シテ起ルナラン。而シテ支那ニ起ルベキ勞働問題ハ外國人企業者對支那人勞働者ノ問題ナル點ニ於テ特色アリ、(支那ニ於ケル外國人企業ガ支那人勞働者ヲ以テ行ハルルモノナルコトハ深く説明ヲ要セザラン。是レ支那ニ於テ要スル所ガ粗製工業ニシテ粗製工業ナル以上勞銀ノ低キ支那人勞働者ヲ使用スルヲ有利トスル事ヲ考フレバ明瞭ナリ。)即チ同業者トシテハ同國人勞働者ニ對スルト異ルモノアルベク、勞働者トシテハ同國人企業者ニ對スルト異ルモノアルベク、此結果問題ノ解決ヲ困難ナラシムル怖レナキカ。固ヨリ企業者ノ勞働虐使ハ同國人ト異國人トヲ選

ブモノニアラズ。然レドモ異國人ニ對スル場合、其レガ一應合理的ニ考ヘラルル結果トシテ一層露骨ニ行ハル、コトナキカ。同時ニ支那ニ於ケル外國人企業者ハ支那人企業者ノ如ク無理解ニアラズ。少クトモ支那人企業者ノ如ク企業其者ヲ虐待スル事ナカラシ。從テ支那人勞働者ハ外國人企業者ノ下ニ働クヲ以テ支那人企業者ノ下ニ働クヨリモ比較的幸福ナルベキヲ信ズベキ理由アリ。若シ溫情主義ヲ以テ問題ノ發生ヲ未前ニ防止スル思慮深キ企業者アリトセバ、開ハ支那人企業者ノ中ニアラズシテ外國人企業者ノ中ニアルベシ。然ルニ外國人企業者ガ溫情主義ヲ以テ勞働問題ヲ解決セントスルトキ、一ノ障害トナルベキモノハ支那人ノ排外的思想ナラシ。支那ニハ今日勞働者ノ鄉黨的團結アルコトハ已ニ述ベタリ。然ルニ此鄉黨的團結ヲシテ職業的團結タラシムル屈強ノ力ハ支那人ノ排外的思想ナリ支那ノ勞働運動者ニシテ、此排外的思想ヲ巧ニ利用スルトキハ多數ノ支那人勞働者ヲ一ノ組織ノ下ニ統一シテ有力ナル勞働運動ヲ起スコトハ必ズシモ難事ナラザルベシ。今日支那ニ於テハ勞働者ノ補充ニ些ノ苦心ヲ有セズ此點ヲ樂觀スル企業者多シ。然レドモ支那人勞働者ノ職業的團結ガ成立スルノ曉、此狀態ハ一變スベキコトヲ豫期セザルベカラズ。否現ニ支那ニ於ケル勞働者ノ補充ハ漸ク困難トナリツ、アリ。是レ支那政府、府ガ勞働者ノ供給ニ干渉スルニ至レル結果ナリ。支那政府ガ過般ノ歐洲戰爭ニ際シ、勞働者ヲ佛國戰場ニ送リタル事ハ既ニ述ベタリ。而シテ彼等ハ移民規則ニヨリ極メテ良好ナル條件ノ下

ニ送ラレタルモノナルガ、今ヤ支那政府ハ滿洲ヲモ外國ト同様ニ取扱ヒ、山東方面ヨリスル苦
力ノ出稼ハ之ヲ歐洲戰場ニ向ヒタルモノト同様移民規則ニヨリテ律セントシツ、アリ。之ガ實現
セラル、ノ曉在滿企業者ノ打撃ハ大ナルモノアラン。將來勞働運動ガ盛トナルトキ、支那ノ官民
ガ何ヲ企ツベキヤハ豫メ計リ知ルベカラザルナリ。支那ノ勞働問題ヲ樂觀スル者ハ再タ支那人勞
働者ノ無自覺ヲ云フ。然リ、彼等ノ自覺ハ遠キ將來ノ事ナラン。然レドモ勞働者ガ自覺セザルガ
故ニ勞働問題ノ解決ハ却テ困難ナル場合アルコトヲ思ハザルベカラズ且又列國ガ經濟的競争ノ狀
態ニ在ル以上、支那ニ於ケル外國人企業者ガ協同團結シテ勞働者ニ當ルノ困難ナル事情モ之ヲ考
察シ置ク必要アリ。之ニ就テ差當リ考フベキハ職工ノ爭奪戰ナリ。職工ノ爭奪ハ同國人企業者ノ
間ニモ固ヨリ行ハルベシ。現ニ歐洲戰爭ニ基ク好景氣ノ際滿洲ニ於テハ日本人經營各油房ノ間ニ
盛ナル職工ノ爭奪戰行ハレタリ。同時ニ協定モ亦能ク行ハレタリ。外國人企業者間ニアリテハ如
此ヲ得ザルベシ。然ラバ此點ニ於テモ支那勞働問題ノ解決ハ容易ナラザルナリ。日本人企業者
ハ特ニ支那ノ勞働問題ヲ輕視セザル必要アリ。支那人ノ有スル團結力ニ就テ最モ怖ルベキ理
由アルモノハ、日本人ナレバナリ。遮莫勞働問題ノ起リ得ベキ在支日本人企業ハ幸ヒナル哉。

(大正一〇、三、一九)

研究及調査

葡萄牙人支那渡來顛末

矢野 仁 一

葡萄牙人ノ支那渡來マデノ歐羅巴諸國ノ支那ニ對スル關係ハ、只ダ商賣若クハ僧侶ナドガ、時々彼我ノ間ヲ往來スルト云フ關係ニ止マリ、連續シタ關係デハナカツタノデアル。葡萄牙人ガ支那ニ渡來シテ、終ニ澳門ニ殖民地ヲ開クコトニナツテカラ、彼我ノ交通ハ始メテ連續スル關係トナリ、發達シテ今日ニ及ムダノデアルカラ、此葡萄牙人ノ支那渡來ト云フコトハ、近世東洋史ノ上ニ於テ極メテ重要ナ事件トナル次第デアル。ソレニ近世東洋史ノ特色ハ、外國ノ關係ト云フコトニアルノダカラ、此外國關係ノ源流トナル葡萄牙人ノ支那渡來コソハ、近世東洋史ノ上ニ於テハ、何ヨリモ重大ナ事件ト言ハナケレバナラヌ。ソレニモ拘ラズ、此重大ナ事件ニ就テハ、藤田豐八博士ガ曩キニ東洋學報第八號第一號ニ葡萄牙人澳門占據ニ出ルマデノ諸問題ト云フ一大論文ヲ發表セラレ、之ガ研究ニ先鞭ヲ着ケラレタル外、未ダ之ガ研究ニ手ヲ染ムルモノナク、藤田博士ノ指摘セラレシ如ク、支那人ノ所傳ハ支那人ノ所傳、葡萄牙人ノ所傳ハ葡萄牙人ノ所傳トシテ、相違アリ低悟アル如ク見エテ居ルママニ殘サレテ居ルノハ、實ニ近世東洋史上ノ一大缺陷ト言ハナケレバナラヌ。藤田博士ノ研究ハ、獨リ先鞭ノ功ヲ推スノミナラズ、例ヘバたまんの島ヲ市門澳ト考定サレシ如キ、幾多難解ノ問題ニ對シテ、新解釋ヲ試マレシ點ニ於テ我が東洋史界ニ寄與サレシ功績ハ洵ニ少カラザルモノデアル。私モ此事件ニ就テハ、聊カ研究シタ事モアリ、多少藤田博士ト意見ヲ異スル點ガアツテモ、問題ノ範圍ハ猶ホ廣汎ニシテ之ヲ容レテ餘リアリ、却ツテソレハ同博士ノ研究ヲ補表スル所以デアルト考ヘ、幸ニ東亞經濟研究雜誌ノ與ヘラレタ機會ヲ利用シテ敢テ之ヲ繼續發表スルコト、シタノデアル。

第一章 葡萄牙人支那渡來ノ由來

一 葡萄牙王ノまらつか遠征隊派遣ト其支那通商ニ就テ

葡萄牙人ノ支那渡來ハ後ニ述ブル如ク、西曆一五一四年頃ノコトデ、一五一一年まらつか占領後ノ事實デアルガ、之ニ就テハ、先ヅ葡萄牙王ハ初メヨリ支那通商ノ考ヘガアリ、其必經ノ地トシテ、まらつかヲ占領スル様ニナツタノデアルカ、或ハまらつか占領前ニ於テ、全ク支那通商ノ考ヘガ無ク、まらつかヲ占領シテ、始メテ支那通商ノ考ヘヲ起ス様ニナツタモノデアルカ、二タ通リノ疑問ヲ起スコトガ出來ル、葡萄牙領印度第二代ノ總督あるぶけるけガ、まらつかヲ占領シタ直接ノ原因ハ、一五〇九年ニ葡萄牙王どん・まぬえるノ命ヲ受ケテ、まらつかニ航シタでいおこ、⁽¹⁾るべす⁽¹⁾とせけいらニ對スル、まらつか王ノ罪ヲ問フニアツタ。ソレハ問題デナイ、問題ハ葡萄牙王ガせけいらヲまらつかニ派遣シタ最初ノ目的如何ト云フコトデアルガ、之モまらつかハ所謂南洋ノ咽喉デ、藥料、香料其他各種商品ノ集散地デアリ、あらびヤノ印度洋ニ於ケル商權モ、まらつか貿易ハ其要素ヲナシテ居タ様ナ關係ガアツタカラ、せけいらヲシテ、まらつか貿易ノ利益ヲあらびヤ人ノ手ヨリ奪フコトガ出來ナイモノデアルカ、探ラシタ様ナコトデ、初メヨリ支那通商ノ考ヘガアツテ、其必經ノ地トシテ、まらつかノ占領ヲ企畫シタモノデ無イコトハ明カデ、問題トスル程ノコトデハナイ。然カシ葡萄牙王ガ當時支那通商ノ考ヘヲ全然持ツテ居ラズ、支那通商ノ考ヘハ、まらつかノ遠征ヲ試マシメ、或ハ之ヲ占領セシメタ結果、始メテ持ツ様ニナツタ

1) Diogo Lopes de Sequeira

モノデアルカト云フニ、サウデハナイ、どなると。ふあー⁽²⁾がそんノ自ラ翻譯シ、註解ヲ加ヘテ、發表シタ『廣東に於ける葡萄牙捕虜の書簡』ノ序文ニりすばん⁽³⁾葡萄牙國立記録局ノ古文書ヲ引用シ、せけいらハ一五〇八年二月十三日まらつか發見ノ爲メ、りすばんヲ出帆スルニ當リ、葡萄牙王ヨリ種々ノ訓命ヲ受ケタガ、支那人及ビ支那ニ關シ、例ヘバ支那商人ハ何處カラ、如何ニ遠方ノ國カラ、何時、如何ナル商品ヲ以テ、まらつか其他ノ貿易地ニ來航スルカ、毎年來航ノ船舶數、船舶ノ様式、まらつか其他ノ地ニ於ケル商館ノ有無、資産ノ有無、勇壯ノ度、武裝ノ有無、衣服ノ狀態、體格ノ大小、其他宗教ノ如何、國土ノ大小、國王ノ有無多少、回々教徒、或ハ其國ノ法律宗教ヲ奉ゼザル異種族居留ノ有無ノ如キ、各種ノ事情ヲ調査スルコトハ、其一ツデアツタト云フコトヲ記シテ居ル。じいさすノ『史的まかち』⁽⁴⁾ニモ、葡萄牙ノ第一回遠征隊ガ、葡萄牙王ヨリ支那ニ關スル種々ノ事情、殊ニ外國人ノ支那ニ居留シテ居ル事實ノ有無ヲ調査スベキ訓命ヲ受ケタコトヲ記シテ居ル。じいさすノ第一回まらつか遠征隊トハ、せけいらノ艦隊ヲ指スモノデアルカ否ヤ、明言シテ居ラヌケレドモ、其前ニ葡萄牙人デまらつかニ航海シタば⁽⁵⁾るてみーノ様ナモノモアルガ、ソレハ王命ニ依テ派遣サレタ者デナク、王命ニ依テ派遣サレタ者ハ、せけいらガ最初デアルノミナラズ、既ニふあーがそんノ引用セルりすばん記録局ノ古文書ノ様ナ證據ガアツテ見レバ、矢張りせけいら艦隊ヲ指スモノト考ヘテ間違ヒガナイ様デアル。葡萄牙王ガせけいらヲまらつかニ派遣スルニ當ツテ、支那ニ關スル種々ノ事情ヲ調査セシメタト云フコトハ、當時既ニ支那通商ノ考ヘガ、葡萄牙王ノ胸中ニ往來シテ居タコトヲ想像セシムルニ足ルノデアル。サウシテ葡

2) Donald Ferguson, Letters from Portuguese Captives in Canton, written in 1534 and 1536; Bombay 1902.

3) Alguns Documentos do Arquivo Nacional, etc. (Tishon 1892) pp. 194-195; Maritimos e Coloniaes ser. 3 (1843) p. 490.

4) M. de Jesus, Historie Macao, 1902 p. 1.

5) Barthemy.

葡萄牙王がまらつかニ於テ、支那ニ關スルサウ云フ調査ガ出來ル様ニ信ジタト云フ事ハ、支那人ノまらつかニ居ル者ノ多イ事ヲ知ツテ居タ證據デ、あらびやノ商權ノ要素ヲナシテ居ルまらつか貿易ノ利益モ、此支那人トノ貿易ヨリ來ルコトヲ信ジテ、竟ニ支那通商ノ考ヘヲ起ス様ニナツタモノデハナイカト云フ想像ヲ下スコトモ出來、葡萄牙王ハ何故ニ支那通商ノ考ヘヲ起ス様ニナツタカト云フコトヲ説明スル材料トモ考ヘラレルノデアルカラ、其事自身、葡萄牙王ガ當時既ニ支那通商ノ考ヘヲ持テ居タト云フ事實ノ保證トナル譯デアル、之ヲ要スルニ、葡萄牙王ハ初メヨリ支那通商ノ考ヘアツテ、其必經ノ地トシテ、まらつかノ占領ヲ企圖シタモノデハナイガ、然カシマらつか占領前ニ於テ全ク無カツタ支那通商ノ考ヘヲ、まらつかヲ占領シテ、初メテ起ス様ニナツタモノデモナイ。葡萄牙王ハ前カラ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居テ、あらびや人ノ手ヨリまらつか貿易ノ利益ヲ奪ハントシテ、せけいらノ艦隊ヲまらつかニ派遣スルコトニナツタノヲ機會トシテ、果シテ支那通商ノ可能ナルヤ否ヤヲ調査セシメントシタモノデアル。

二、まらつかノ貿易ニ就テ

一五一〇年頃いたりや文デ出版サレタばるてみーノ旅行記ニ、めらちやノ町ニ就テ、自分ノ信ズル所デハ、世界ノ何レノ場所ヨリモ多數ノ船舶ハ此地ニ輻湊シ、アラユル香料ノ種類ハ固ヨリ、他ノ多數ノ商品ハ此地ニ集散スルコト云フコトヲ述ベテ居ル。だんうあーすノ『印度ニ於ケル葡萄牙人』ニ據ルト、ばるてみーハ一五〇九年前後ニ、まらつかヲ巡訪シタコトガアル様デ、めらちやハまらつかヲ指シタモノデアル。あるぶけるけノ子デ、同名ノあるぶけるけノ書イタ『あ

6) Melacha
7) The Travels of Ludovico di Barthemy (Ludovico di Varthema)—Danvers, The Portuguese in India, Vol. 1 p. 181, note, p. 223.

る⁽⁸⁾ぶけるけ紀傳』ニあるぶけるけがまらつか攻撃ニ際シ、要害ヲ建設セントシ、艦隊各艦長等ヲ集メテ評議シタ時ニ、まらつかハ全世界ノ重要ナ港デ、世界ノ各地、殊ニかゝる及ビめつかノ同々教徒ハ、紅海海峡ノ以東各地ノ人民ト共ニ、香料貿易ノ爲メニ、まらつかニ來ルト云フ話ヲシタコトガ見エテ居ル。又まらつかノ繁榮ニ就テ記シ、まらつかハ如何ナル暴風ニモ妨ゲラレナイ安全ナ港デ、東ヨリ來ル者ハ、此處デ西ノ商品ヲ仕入レ、西ヨリ來ル者ハ、此處デ東ノ商品ヲ仕入レルコトニナツテ居リ、毎年あらびや、ペルシヤ沿岸、及ビ印度沿岸各港ノ船舶、支那人、⁽⁹⁾ゴールス人(ゴールスハゴール人ト云フ意味デアラウ、ゴールスニ就テハ、日本人ヲ指シタモノデアルト云フ藤田博士ノ説、高麗ノ音ノ轉訛カモ知レナイト云フ新村博士ノ説等ガアル)じや⁽¹⁰⁾うあ人ノ船舶、ペグ及ビ其近傍諸地方ノ船舶ハ、まらつかニ來ルコトヲ例トシ居ル、此まらつかニハ、世界ニ知ラレテ居ル限りノ香料、藥料ガ集マツテ居ルト云フ様ナコトガ述ベテアル。又せ⁽¹¹⁾けいらがまらつかカラ難ヲ免レテ葡萄牙ニ歸リ、まらつかノ殷富ナ有様ヲ報告シタコトガ、だん⁽¹²⁾うあーすニ見エテ居ル。明ノ嘉靖十五年(一五三五年)頃出版サレタ明ノ黃衷ノ海語ニモ、滿刺加諸夷輻湊之地、亦海上一小都會也ト記シテ居ル。せけいらノ派遣ハ一五〇八年デ、ばるてみーノ旅行記ノ出版サレタ一五一〇年ノ前デアルカラ、此旅行記ノ影響ト考ヘルコトノ出來ナイコトハ勿論デアルガ、ばるてみーガえじぶと、しりや、あらびや、ペルシヤ、及ビえちおびやナドヲ旅行シタノハ、一五〇三年カラ一五〇八年ニカケテノ事ト云フコトダカラ、其旅行ノ報告ガ、旅行記ノ出版サレナイ前ニ、早く葡萄牙ニ傳ツテ、葡萄牙王ヲ動カシタモノカモ知レヌ。ばるてみー

8) Afonso Dalboquerque, Commentaries of A. Dalboquerque, Vol. III, p. 100

9) Gores

10) 東洋時報第百九十四號歐勢東漸初期ニ於ケル海外ノ日本人

11) 藝文第六年第一號足利時代ニ於ケル日本ト南國トノ關係

12) Danvers Ibid, Vol. I, p. 181.

13) 學津討源本海語卷上滿利加

ニ限ラズ、ばるてみーノ様ナ旅行家ガ、別ニ其前ニアツテ、まらつかノ話ヲ傳ヘナカツタトモ限
ラナイ。旅行家ガ實際ニまらつかノ話ヲ傳ヘナカツタニシテモ、ソレ程有名ナまらつかデアルカ
ラ、其話ハ直接間接ニ葡萄牙ニ傳ツテ、葡萄牙王ヲ動カシタコトハ想像サレル。

三、支那まらつか間ノ貿易及ビ交通ニ就テ

でいあごーろペす¹⁴・ど・せけいらガ一五〇九年九月十一日まらつかニ到着シタ時、三四艘ハ支那
人所有ジャンク船ガ、まらつか港ニ碇泊シテ居リ、せけいらハ直チニ其等支那人ト懇意ナ關係ト
ナツタコトハ、ふあーがそんニ見エテ居ル。あるぶけるけ紀傳ニ、毎年支那船舶ノまらつかニ來
ルコトガ例ニナツテ居ルト云フコトガ記シテアル。一五一一年あるぶけるけガまらつかニ渡航シ
タ時、五艘ノ支那ジャンク船ガまらつかノ港ニ碇泊シテ居タ事ハ、だんうあーすノ『印度に於け
る葡萄牙人』ヤ、『あるぶけるけ紀傳』ニ見エテ居ル。あるぶけるけハ葡萄牙兵ヲ上陸セシムル爲
メニ、此等ノ支那ジャンク船備付ケノ小帆船ヲ借用シ、又暹羅ニ使節ヲ派遣スルニ就テモ、二度
ナガラ支那ジャンク船ヲ利用シテ居ル。又うむーじ¹⁵ハ航海記旅行記集所載ノこるさり¹⁶ヨリ、
一五一五年一月六日日附デ、めでいき¹⁷侯ニ宛テタ手紙ニ、支那國ノ商人ハ麝香、大黃、眞珠、磁
器、緞子、繻子、絹、錦欄ノ様ナ各種ノ精製品ヲ載運シ、大海ヲ横過シテ、まらつかニ來リ、ま
らつかヨリ香料ヲ積載シテ、歸航スルト云フコトガ述ベテアルトノコトハ、ゆーるノ『支那及び
支那への道』ニ見エテ居ル。當時支那船舶ノまらつかニ往來スルモノノ多カツタコトハ想像サレ
ル。明ノ正統十年一四五五年支那ニ貢シタまらつかノ使節ガ、まらつか王ノ入朝ノ爲メニ一大船

4) Danvers Ibid, Vol. I, P. 223
15) Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III, Introd. p. xxi.
16) Ramusio, Navigazioni e Viaggi.
17) Andrew Corsalis.
18) Lorenzo de Medici.
19) Colonel Yule, Cathay and the Way Thither, vol. I. Prelim. Ess, p. XLI, Note 2.

ヲ賜ハリ、長途ノ航海ニ便宜ヲ得ンコトヲ請ヒ。許サレタト云フ明史滿刺加傳ノ記事ニ依テ考ヘルト、當時支那さらかの間ノ交通ハ、まらつかヨリ支那ヘ往ク場合デモ、支那船舶ニ依ツタモノノ様ニ考ヘラレル。當時まらつかハ明ノ朝貢國トシテ貢使ノ入朝絶エズ、明ヨリモ屢々勅使ヲ差遣シテ居ルコトハ、明史滿刺加傳ニ見エテ居ル。ソレハ既ニまらつか支那間ノ交通ガ盛デアツタ結果デモアリ、又明ノ勅使まらつかノ貢使ノ往來ガ頻繁デアツタ結果、まらつか支那間ノ交通ハ益々盛ニナツタ様デアル。葡萄牙王ガカウ云フ關係ヲ知ツテ居タト云フコトニ依テハ、積極的ノ證據ハナイガ、既ニばるてみーノ様ナ旅行家ノ報告デ、まらつかノ貿易ノ盛ナ有様ガ、葡萄牙ニ知ラレテ居タトスレバ、まらつかニ於ケル支那人ノ貿易、まらつか支那間ノ交通ノ盛ナ有様モ、知ラレテ居タモノト想像シテモ宜シイ様デアル。然ラバ葡萄牙ガせけいら艦隊ヲまらつかニ派遣シナイ以前ヨリ、既ニ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居タト云フコトモ、少シモ不自然ナコトハナイ譯デアル。

四、あるぶけるけノまらつか占領ト葡萄牙ノ支那通商ニ就テ

葡萄牙ハ支那通商ノ目的ヲ以テ、まらつかヲ占領シタ譯デモナケレバ、まらつか占領ノ結果トシテ、支那ニ通商スルコトニナツタノデモナイ。只ダ葡萄牙王ハ初メヨリ支那通商ノ考ヘガアツタノデ、せけいら艦隊ヲまらつかニ派遣スル序デニ、支那ノ事情ヲ調査セシメタマデアルト云フ事ハ、既ニ前論ニ於テ之ヲ明カニシタ積リデアル。然ラバ葡萄牙ノ支那通商ト、まらつか占領トハ、其位ノ關係―葡萄牙王ガまらつかニ於テ、支那ノ事情調査セシメタト云フ位ノ關係デ、外ニ

直接ノ關係ガナイカト云フコトハ、次ニ起ル所ノ疑問デアル。

あるぶけるけガ葡萄牙王ノ様ニ、初メヨリ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居タト云フ證據ハナイ。あるぶけるけノまらつか遠征ハ、單ニ葡萄牙王ノ意ヲ體シテ、せけいら艦隊ニ對スルまらつか王ノ罪ヲ問フニ過ギナカツタ。然カシまらつかニ渡航スルト、間モナク、一ハ經濟上ノ考ヘ、一ハ政治上ノ考ヘヨリ、支那通商ノ利益ト必要トヲ感ズルコトニナツタ様デアル。

あるぶけるけハまらつか王ニ對シテ、葡萄牙人ノ監禁釋放ト、葡萄牙人ノ貨財還償トヲ要求シタ時ニ、まらつか王ハ先ヅ和ヲ議シ、然ル後ニ葡萄牙人ヲ釋放シ、其貨財ヲ還償スベシト言ヒ、陰ニ防禦ヲ修メタノデ、あるぶけるけハ其不信ヲ怒リ、まらつか攻撃ノ決心ヲナスニ至ツタノデアルガ當時五艘ノ支那ジャンク船ガ、まらつかノ港ニ碇泊シテ居ツテ、船員船舶ヲ提供シテ、あるぶけるけノまらつか攻撃ヲ援助セントシタ。支那ジャンク船ガ、一時五艘マデモ碇泊シテ居タト云フ事ハ、支那船舶ノまらつか航通ガ、如何ニ頻繁デアツタカト云フコトヲ證明スルモノデアル。あるぶけるけハ支那ジャンク船ノ船長等ニ、好意ヲ謝シテ其援助ヲ辭シタケレドモ、猶ホ葡萄牙兵ヲ上陸セシムル爲メニ、支那ジャンク船備付ノ吃水ノ淺イ小帆船ヲ借用シ、又暹羅ニ使節ヲ派遣スルニ當ツテモ、二度ナガラ支那ジャンク船ヲ利用シテ居ル。故ニあるぶけるけハ葡萄牙王ト違ツテ、初メヨリ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居タモノデハナイガ、まらつかニ渡航シテ、目前ニ支那まらつか間ノ交通貿易ノ盛ナ有様ヲ見ルニ及ンデ、貿易上ノ考ヘヨリ、支那通商ノ利益ヲ感ズル様ニナツタコトハ想像サレル。

又政治上ノ關係カラ言ツテモ、まらつかハ明ノ朝貢國デ、明ノ成祖ガ永樂元年一四〇三年ニ、中官尹慶ヲまらつかニ派遣シテ、明ノ威徳ヲ輝カシ、賞賜ヲ厚クシテ、招徠ノ意ヲ示シタ結果、まらつかノ使節ハ、尹慶ニ隨ツテ明ニ入貢シ、永樂三年一四〇五年、成祖ハまらつかノ君長拜里迷蘇刺ヲまらつか國王ニ封ジ、再ビ尹慶等ヲ派遣シまらつかノ山ヲ封ジ、山上ニ御製ノ碑銘ヲ勒シテヨリ、貢使ハ絶エズ入朝シテ居リ、まらつか王親カラ妻子陪臣ヲ率キテ入朝シタコトモ、一再ナラズアル。現ニせけいらノまらつかニ派遣サレタ一五〇八年（明ノ正徳三年）ニ、まらつかノ貢使端亞智ト云フモノハ入朝シ、亞劉ト稱シテ通事トナツテ居タ支那人蕭明舉ノ爲メニ殺サレタ様ナ事件ガアル。明ヨリモ屢々勅使ヲ派遣シテ居ル。ばるてみ⁽²¹⁾ノ旅行記ニ、まらつかノ町ハしに王ニ納貢シテ居ルト言ツテ居ル。しにハ暹羅ヲ指シタノデアルト云フ説モアルガ、暹羅ト解スルヨリハ、支那ト解スル方ガ適當ナ様デア⁽²²⁾ル。十九世紀ノ英譯者、或ハだんがあゝすヨリハ、當時ノ葡萄牙人ハ事實ノ正當ナル關係ヲ理解シ、まらつかヲ以テ、支那ノ朝貢國ト考ヘタ様デア⁽²³⁾ルソレハ兎モ角トシテ、あるぶけるけニまらつかト支那トノ此關係ガ分ラヌ筈ハナイカラ、新ニまらつかヲ破ツタ關係上、支那ト親交ヲ修メテ、其朝貢國タルまらつかノ爲メニ、應援ノ兵ヲ出サシメザル必要ヲ感ジタト云フコトモ想像サレル。

まらつか王ハあるぶけるけニ敗ラレタ後支那ノ援助ヲ求メテ、興復ヲ討ラントシタガ、支那ハ應ジナカツタ。まらつかノ乞援使ガ支那ニ着シタノハ、明ノ正徳ノ末、一五二〇年頃ノコトデア⁽²⁴⁾ル。あるぶけるけハ一五一五年明ノ正徳十年ニ死ンダノデア⁽²⁵⁾ルカラ、まらつかガ乞援使ヲ支那

20) Parimçura (Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III. p. 72.)

21) The Travels of Ludovico di Varthema. Jakluyt ed. p. 223. (Danvers, Ibid, Vol. I. p. 181.)

22) Sini

ニ出シタコトモ、支那ガ之ニ應ジナカツタコトモ、知ラズニ死シタ譯デアルガ、あるぶけるけ紀傳ニ支那帝ガまらつかノ乞援ニ應ジナカツタノハ、あるぶけるけガ在まらつかノ支那艦長等ヲ好遇シ、又其支那通商ニ意アルコトヲ聞知シ、之ト親好ノ關係ヲ維持セントシタルガ爲メデアル様ニ述ベテ居ル。支那帝ガまらつかノ乞援ニ應ジナカツタノハ、あるぶけるけニ支那通商ノ意アルコトヲ聞知シタ爲メデアルト云フコトハ事實デナイ。皇明實錄⁽²³⁾及ビ明史佛郎機傳ニ、佛郎機即チ葡萄牙ノ使節びれすが入京ヲ許サレシ時ノ御史邱道隆ノ上奏ヲ載セテ居ルガ、其中ニ請却其(佛郎機)貢獻、明示順逆、遂使歸還滿刺加之疆土之後、方許朝貢、脫或執迷不悛、雖外夷不煩兵力、亦必檄召諸夷、聲罪致討、庶幾大義以明ノ文ガアル。此上奏ハ禮部ノ議覆ヲ經テ、裁可サレタノデアルガ、當時明廷ノまらつかヲ援ケテ、佛郎機討伐ノ兵ヲ出サナカツタノハ、外夷天朝ノ兵力ヲ煩スニ足ラナイト云フ考ヘデアツタ。支那帝があるぶけるけニ支那通商ノ意アルコトヲ聞知シ、まらつかノ乞援ニ應ジナカツタト云フあるぶけるけ紀傳ノ說ノ信ジ難キコトハ明カデアルガ、あるぶけるけ紀傳ニサウ云フ說ノ傳ヘラレテ居ルト云フコトハ、當時まらつか邊ノ葡萄牙人間ニ、サウ云フ說ノ行レテ居タト云フ證據デアル。葡萄牙人ガ支那帝ノまらつかノ乞援ニ應ジナカツタ譯ハ、あるぶけるけガ支那艦長等ヲ好遇シ、又其支那通商ニ意アルコトヲ聞知シタ爲メデアルト云フ說ヲ信ジテ居タト云フコトハ、葡萄牙人自ラあるぶけるけニ支那通商ノ意アルコトヲ信ジテ居タ證據デ、葡萄牙人自ラあるぶけるけニ支那通商ノ意アルコトヲ信ジテ居タト云フコトハ、あるぶけるけニ實際支那通商ノ意ガアツタト云フコトヲ推定セシムル一ノ材料デアル。

23) Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III. p. 133.

24) 皇明實錄正德十五年十二月ノ條

まらつかニ碇泊シテ居タ支那ジャンノ船ノ船長等ガ、歸國ヲ望ミシ時ニ、あるぶけるけガ猶ホ數日間逗留シテ、まらつかノ滅亡ヲ見届ケタル上、歸ツテ支那帝ニ報告センコトヲ求メ、一艘ノ撓走船ヲ提供シテ、葡萄牙人ノ勇敢ナ戰爭振ヲ目撃セシメントシタ事實、又彼ガ艦隊ノ各艦長等ヲ召集シテ、支那ジャンク船ノ歸國セザル中ニ、急ニまらつかヲ攻撃シテ、葡萄牙人ノ武勇ヲ示シ、依テ支那人ノ萬葡萄牙人ニ對スル輕侮心ヲ除カントスル彼ノ決心ヲ告ゲタル事實モ、亦あるぶけるけニ支那通商ノ考ヘガアツタコトヲ推定セシムル他ノ材料デアル。

英吉利博物館寫本部ウゑるずりー侯文書ノ中ニ、支那派遣諸使節報告ト題スル、侯爵家代理人ヨリ英吉利博物館ニ提出シタ文書ガアツテ、其中ニ葡萄牙ノ支那ト親交ヲ計ラントスル計畫ヲあるぶけるけニ歸シ、彼ハ此計畫ヲ實行スルニ及バズシテ死ンダゲレドモ、彼ガ此計畫ヲ以テ葡萄牙王ニ致シタ報告ハ基トナツテ、一五一八年葡萄牙王ノ使節ヲ乗セタ支那派遣ノ艦隊ハ、りすぼんカラ出帆スルコト、ナツタ様ニ言フテアルト云フコトデアル。一五一八年りすぼんカラ出帆シタト云フ葡萄牙王ノ使節ヲ乗セタ支那派遣ノ艦隊トハ、何ヲ指スモノデアルカ、明カデナイ。一五一七年まらつかノ知事じよるじ・だるほけるけガまらつかヨリ支那ニ派遣シタふえるなん・べれずど・あんどらーデノ艦隊ハ、支那帝ニ對スル葡萄牙王ノ書簡ト進物トヲ携帶シタびれすト云フ使節ヲ乗セテ居ルガ、此艦隊ハ一五一七年ニまらつかカラ出帆シタモノデ、びれすモ印度ヨリ本國ニ送ルベキ藥種ノ選擇ニ任ジテ居タ藥劑師デ、葡萄牙王ヨリ支那ニ使節派遣ノ事ヲ命ゼラレタル葡萄牙領印度總督ノ任命シタモノデアルト云フコトダカラ、りすぼんヨリ出帆シタルモノデハナイ

25) Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III, Introd. p. XXI-XXII pp. 99-100; Danvers, Ibid, Vol. I. pp. 223-224.

26) Add. M.S., 118, 875, fo. 24: Report of Embassies to China, presented to the Br. Museum, by the Representatives of the Marquess Wellesly. (Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III, Introd. pp. XXVI-XXIX)

27) Torge d'Alboquerque.

28) Fernão Perez d'Andrade.

29) Thomas Pires.

30) Barros, Dec. III, Book II, Chap. VIII, (Jesus, Historie Macao, p. 3; Ljungstedt, a Historical Sketch of the Portuguese Settlement in China, 1836, Boston, p. 920.

一五二二年廣東沖ニ達シタ葡萄牙王ノ使節めるろーくーていによろノ艦隊ハ、りすぼんヨリ出帆シタモノ、様デハアルガ、葡萄牙王ガあるぶけるけノ報告ニ動カサレテ、始メテ支那ニ派遣シタ使節デハナ⁽³²⁾イ。葡萄牙王ハあるぶけるけノ報告ニ動カサレテ、一五一八年始メテ支那派遣ノ使節ヲ乗セタ艦隊ヲりすぼんカラ出帆セシメタト云フうゑるずりト侯文書、支那派遣諸使節報告ノ記事ハ、ドウモ信ジ難イ様デアル。随ツテ此報告ノ根本史料タル價值モ疑ハル、譯デアルガ、縦令ソレガ後世ノ追記デアルトシテモ、葡萄牙王ガ支那ニ使節ヲ派遣スルコトニナツタノハ、あるぶけるけノ報告ニ動カサレタモノデアル、あるぶけるけハ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居タモノデアルト云フコトガ、深ク葡萄牙人ノ間ニ信ゼラレテ居タト云フコトダケノ證據ニハナルノデアル。

ふあトがそんハあるぶけるけガ暹羅其他ノ地方ニ使節ヲ派遣シナガラ、支那發見ノ爲メ、葡萄牙遠征隊ヲ派遣スルコトハ、或ル理由ヨリ差控ヘタコトヲ述べ、其脚註ニばもろすハあるぶけるけガまらつか滯留中、支那ニモ他ノ地方同様、使節ヲ派遣シタ様ニ記シテ居ルケレドモ、ソレハ支那本國デナク、まらつかニ碇泊シテ居タ支那人ヲ指スモノデアラウト言ツテ居ル。然カシ⁽³³⁾ふあトがそんノ引用セルあるぶけるけノ一五一二年八月二十日日附ハ葡萄牙王宛ノ書簡ニハ。あるむず、すまとら、及ビ支那生産ノ三種ノ生糸ヲ見本トシテ、贈ツタコトヲ述べ、コレハ必ズ陛下ノ嘉納スル所ナルベク又コレニ依テ巨利ヲ舉グルヲ得ベク、毎年まらばーヨリ、兵船ニ胡椒ヲ積載シテ、支那(ちんす)ニ送り、毛糸、黄金、大黃以外ノ商品トハ一切交易シナイト云フコトニシタナラバ、如何ニ多量ノ生糸ヲ得ントスルモ、只ダ陛下ノ望ミ次第ナルベク、又其航路モ想ヒノ外

31) Martin Affonso de Mells Continho.

32) Jesus, Ibid, P. 8.

33) Donald Ferguson, pp. 2-3, Note.

遠クナイト云フ様ナコトヲ述ベテアル。同年四月一日日附ノ書簡ニハ、じやうあノ水先案内ヨリ得テ紛失シタまらい字ノ大地圖ノ中、支那ノ航路ヲ示シテ居ル部分ヲ寫シ取リテ送ツタコトヲ言ツテアル。

之ヲ要スルニ、あるぶけるけガ支那通商ノ考ヘヲ持ツテ居タコトハ、殆ンド疑ヒガナイ。サウシテあるぶけるけガ此考ヘヲ持ツ様ニナツタノハ、彼ガまらつかニ渡航シテ、目前ニ支那まらつか間ノ交通貿易ノ盛ナ有様ヲ目撃シタ結果デアルトスレバ、葡萄牙ノ支那通商ト、あるぶけるけノまらつか占領トハ、其間ニ直接ノ關係ガナイニシテモ、間接ノ關係ガアルコトハ疑フコトガ出來ヌ。

五、明ノ成祖ガ中官尹慶ヲまらつかニ派遣シタ理由ニ就テ

明ノ成祖ガ中官尹慶ヲまらつかニ派遣シタ理由ハ、明史瓜哇傳ニ、永樂元年じやうあノ使節ガ成祖ノ即位ヲ入賀シタ記事ノアルコトヲ考ヘテ、此じやうあノ使節カラまらつかニ、拜里迷蘇刺ト云フ有力ナ君長ガアルコトヲ聞知シタ爲メデアラウカト想像サレル。拜里迷蘇刺ハあふぶけるけ紀傳ノぱりむすらデアアルコトハ疑ヒガナイ。ぱりむすらハ元來じやうあ王⁽³⁴⁾ばたらたひれる、即チ明史瓜哇傳ノ八達那巴那務ノ所屬地、ぱりむばんノ酋長デ、じやうあ王ノ女ヲ納レテ妃トナシ、後じやうあ王ニ叛イテ、じやうあ兵ノ攻撃ヲ蒙ムリ、しんがぼーるニ通ジ、終ニびんたむ⁽³⁵⁾ノ地ニ移リ、漁民ヲ撫シ、海賊ヲ招キ、まらつか國ヲ創建スルニ至ツタモノデアアル。あるぶけるけ紀傳ニ據ルト、まらつかハ初メ漁業ト海賊トヲ兼業トセル二三十許リノ聚落ニ過ギナカツタノデアアル。

34) Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol. III, p. 72.

35) Bataratamurel

36) Palimbão(東すまとらノ Palembang)

37) Bintao, Bintam

ガ、ぱりむすらノ移住以來、四ヶ月ニシテ百人トナリ、二年ニシテ二千ノ人口ヲ算スルニ至ツタ
ノデ、じやうあ王モ舊怨ヲ棄テ、和親ヲ講ジ、巨額ノ補助金ヲ與ヘタト云フコトデアルカラ、永
樂元年ニ入觀シタじやうあノ使節が、ぱりむすらノ話ヲ傳ヘタト云フコトハ、極メテ有リ得ベキ
コトデアル。明史滿刺加傳ニ、其地無王、亦不稱國、服屬暹羅、ト言ツテアルニ拘ラズ、尹慶ノ
まらつかニ至リシ時、既ニ會長拜里迷蘇刺アリテ、之ヲ歡迎シタ様ニ書イテアルコトヲ考ヘルト
此拜里迷蘇刺ハ、始メテまらつか國ヲ創造シタモノデアツテ、ぱりむすらト同一人デアルコトハ
想見サレル。明ノ張燮ノ東西洋考、黃省曾ノ西洋朝貢典錄ニ、永樂三年明ニ使ヲ遣シタまらつか
ノ會長ヲ西利八兒速刺ト言ツテ居ルノハ、恐ラク誤傳デアラウ。

六、まらつか乞援使支那到着ノ年代ニ就テ

まらつか王ハあるぶけるけニ敗ラレテ國ヲ失ヒ、ばはんニ遁レタ後、叔父なせむ、むたりある
ヲ使節トシテ、支那ニ遣ハシ、支那帝ノ援助ヲ得テ、興復ヲ計ラントシタノデアルガ、あるぶけ
るけ紀傳⁽⁴⁰⁾ニ據ルト、此時支那帝ハ韃靼ノ侵寇ヲ口實トシテ、援兵ヲ出サナカツタト云フコトデア
ル。明史滿刺加傳ニ據ルト、まらつか王蘇端媽末ガ佛郎機ニ國ヲ奪ハレ、出奔シテ使ヲ明ニ遣ハ
シ、難ヲ告ゲタ時ニハ、明ニ於テハ世宗ハ方ニ嗣立シ、佛郎機ヲ攻メテ、まらつかノ故土ヲ還サ
シメ、暹羅國王等ニ、救災恤鄰ノ義ヲ諭シテ、援兵ヲ出サシメントシタガ、應ズルモノナク、ま
らつかハ遂ニ亡ビテ、興復ノ機ハ絶ツニ至ツタノデアル。まらつかノ乞援使が、世宗嗣立ノ年ニ
來タモノトスレバ、あるぶけるけがまらつかヲ亡ボシタ一五一年ヨリ十一年モ經過シテ居ル。

38) Afonso Dalboquerque, Ibid; Vol. III, p. 72 ff.

39) Nacem Mudaliar

40) Afonso Dalboquerque, Ibid, Vol, III, pp. 131-134

少シク晩ソ過ギル様デアル。ふれつとしゆないでるノ中世東亞細亞諸史料研究ニ、そるたうノ獨逸文ニ譯シタばるろすノ亞細亞各十年紀ニ基イタ支那葡萄牙間ノ初期ノ交通ニ關スル記事ハ載セテアルガ、其中ニ、一五二一年葡萄牙ノ使節びれすノ北京着前後、廣東ノ官憲ヨリ、葡萄牙人ハ名ヲ商人ニ托シタ國事探偵デアルト云フ様ナ、葡萄牙人ニ不利益ナ上奏ヲシテ來タト云フコト、サウシテソレハまらつか王所屬^{ソルダン}ノ一人ノ臣下ノ運動ニ依ツタモノデアルト云フコトガ述ベテアル、じいさすノ史的まか⁽⁴³⁾ニモ、葡萄牙ノ使節びれすが入京ヲ許サレタ當時、一人ノ密使ガ、葡萄牙人ノ爲メニ國ヲ逐ハレタまらつか前王ノ所屬^{エックソルダン}びんたむノ君^{ラジャ}ノ爲メニ、支那帝ノ保護ヲ求メントシテ南京ニ來リ、種々ノ運動ヲナシ、南京ノ總督ヲシテ、佛郎機即チ葡萄牙人ハ、名ヲ貿易ニ托シ、防備ノ手薄ナ地點ヲ探偵シ、印度まらつかト同様ニ、商人トシテ居住シ、後ニ兵力ヲ以テ侵奪セントスル目的デ、來テ居ルノデアルト云フ様ナ上奏ヲ、書カシメルコトニ成功シタコトヲ記シテ居ル。ばるろすノ記事トハ、廣東ノ官憲ト、南京ノ總督トノ違ヒガアルダケデ、大體同一ノ記事デアル。ばるろすハ足嘗テ印度ノ地ヲ踏ンダ事ノナイ者デハアルガ、りすばんノ印度、みな、せうた局⁽⁴⁴⁾ニ職ヲ奉ジテ居タ關係上、官府ノ諸記録公文書ヲ涉獵スル便宜ヲ有シテ居タノデ、亞細亞ニ於ケル葡萄牙ノ征服發見ノ歴史タル彼ノ亞細亞各十年紀ハ、特別ノ價值ヲ有シテ居ルモノト云ハナケレバナラヌ。第一ノ十年紀ハ、一五五二年、第二ノ十年紀ハ一五五三年、第三ノ十年紀ハ一五六三年ノ出版デ、一五二六年二月二日マデノ記事ヲ包含シ、最モ精嚴ヲ推サレテ居ル、じいさすノ『史的まか⁽⁴⁵⁾』ハ、遙カニ後世ノ編纂物デ、其價值ハ固ヨリばる

41) Dr. Bretschneider, *Medieval Researches from Eastern Asiatic Sources*, Vol. II. P. 318, Note, 1171.

42) D. W. Soltau's German Translation of J. de Barros' *Decades de Asia* 1821. III. pp. 63—76, 203—209.

43) M. de Jesus, *Ibid.*, P. 7.

44) "House of India, Mina and Ceuta"

45) K. G. Jane Vasco da Gama, and his Successors London, p. 300; Bretschneider *Ibid.*, Vol. II, p. 317.

ろすニ比較スルコトハ出來ナイガ、其考證論斷ノ往々偏見臆斷多キニ反シテ、其史實記事ハ、葡萄牙ノ舊書古記録ニ憑據シ、概シテ信用スルニ足ル様デアル。ばるろす、じいさすノ二書、共ニまらつか或ハまらつか所屬臣下ノ乞援使ガ、葡萄牙使節びれすノ北京入京前後ニ支那ニ來テ居ル様ニ言ツテアル以上ハ、あるぶけるけ紀傳ニ言ツテアルまらつか王ノ乞援使なせむじたりあるノ支那到着ハ、一五二〇年、一五二一年、明ノ正徳十五年頃ト推定セザルヲ得ナイ様デアル。モウ一ツ之ヲ確ムル材料ハ、ふあーがそんノ翻譯註解シタ『葡萄牙捕虜ノ書簡』デアル。ソレニハ一五二一年一月武宗ガびむト云フ城ヨリ二りーぐノ距離ニアル一ノ町ニ駐蹕シタ時ニ、葡萄牙人ノ譎詐ヲ訴ヘタ三通ノ抗議狀ヲ受取ツタガ、其中ノ一ツハ、まらい人ノ書簡デ、葡萄牙王ノ使節ノ支那ニ來タ目的ハ、眞實デナク詐僞デアル先ヅ要害ヲ探偵シテ、兵力ヲ以テ之ニ繼グ爲メデアル、既ニ石ヲ建テ家ヲ設ケタノデアルカラ、直チニ領土主權ヲ奪フニ至ルベシ、まらつか其ノ地方ハ、前鑑デアル、葡萄牙人ハ盜賊デアルト述ベテアル。ふあーがそんは何ニ據ツタカ、此使節ノ名ヲとわんもはむ⁽⁴⁷⁾まどト言ツテ居ル。一五二〇年明ノ正徳十五年ニハ、韃靼ノ小王子ガ大同宣府ヲ侵シタ事實ガアツタ、あるぶけるけノ記事ニモ合スル様デアル。皇明實錄正徳十五年十二月巳丑、武宗ノ南京ノ途中、駐蹕中ノ記事ニ、滿刺加亦曾具奏求救ト言ツテアツテ、御史邱道隆ガ、漁刺加朝貢詔封之國、而佛郎機併之、且啗我以利、邀求封賞、於義決不可聯、請却其貢、明示順逆、遂使歸還滿刺加疆土之後、方許朝貢ト上奏シ、禮部ハ宜候滿刺加使臣到日、會官、譯詰佛郎機使侵奪鄰國擾害地方之故、奏請處置ト議覆シタコトヲ載セテ居ル。皇明實錄ニヨルト、正

46) Donald Ferguson, Ibid, pp. 105—106.

47) Tuwang Muhammad (D. Ferguson, Ibid, Introd. p. 16)

德十五年十二月ノ朔ハ己亥デアル。サウスルト、己丑ハ十二月中ニアル筈ガナクナル。三正綜覽ニハ十二月ノ朔ヲ乙酉トシテアル。之ニ從ヘバ、己丑ハ十二月初五日トナル。まらつかノ支那帝ニ救ヲ求メタ奏文ハ、まらつかノ乞援使ノ齎シタモノデアルカドウカ、コレダケデハ明カデナイガ、明史佛郎機傳ニヨルト、支那ガ佛郎機ノ名ヲ知ツタノハ、正德十三年ノコトデアル。正德十三年ハ明史ノ誤リデ、正德十二年デアルコトハ後ニ述ベル積リデアル。兎ニ角正德十二年ヨリ前ニハ、まらつかカラ佛郎機ニ就テ上奏シタコトノナイコトガ分カルカラ、矢張りまらつかノ乞援使ノ攜帶シタモノデ、皇明實錄ニ曾具奏求救ト言ツテ居ルノハ、乞援使ノ廣東ニ來着シタ當時、即チ正德十五年十二月ヨリ餘程前ノ時期ニ、之ヲ廣東官憲ニ提出シテ、翻譯ノ上轉奏ヲ願ツタ事實ヲ示スモノデアラウ。サウスルトまらつかノ乞援使ガ支那ニ來タ年ハ、一五二一年デハナク、一五二〇年デナケレバナラヌコトニナル、東西洋考ニモ、顧炎武ノ天下郡國利病書ニモ、邱道隆ノ上奏ヲ載セテ居ルガ、其上奏ノ中ニ、近日滿刺加國王奏其佛郎機奪國讐殺等情云々ノ文ガアル。邱道隆ハまらつかノ乞援使ガ齎シタまらつか王ノ奏文ヲ聞知シ、ソレニ據テ、此上奏ヲナスニ至ツタモノデ、まらつかノ乞援使ガまらつか王ノ奏文ヲ齎シテ支那ニ來タノハ、邱道隆ノ上奏シタ時ヨリ餘リ遠イ昔ノコトデハナイ様デアル。邱道隆ノ上奏ニ、近日ト言ウテ居ル。一五二〇年以前ノコトデナイコトハ疑ヒガ無イ。

藤田博士ハ東洋學報第八卷第一號ニ於テ、名山藏ノ正德十三年國王蘇端媽末爲佛郎機曾所逐、而據其地、使三十人者從廣東入貢ノ記事ハ、滿刺加ト佛郎機ノ間ニ混亂ガアルコトヲ指摘サレ、

正徳十三年ニ三十人者ヲ出シタノハ、滿刺加ノ蘇端媽末デアルト斷言サレテ居ルガ、此名山藏ノ記事ニハ使者留不去、劫奪行旅、掠食小兒、廣人苦之、會滿刺加來訴云々ノ文ガアツテ、明カニ滿刺加ノ來訴ハ正徳十三年以後ノコトデアルカラ、若シ正徳十三年ニ滿刺加ガ朝貢シタモノトスレバ、滿刺加乞援使ハ一兩年ヲ隔テ、更ニ渡來シタコト、ナル譯デアル、ソレニ當時まらつかハ既ニ滅ビテ仕舞ツテ居ルノダカラ、正徳十三年ニ朝貢シタモノトシテモ、通常ノ朝貢デナク、乞援ノ爲メデアルモノト想像セザルヲ得ナイ。サウスルト。二度モ引續イテ乞援使ヲ出シタコト、ナル譯デ、サウ云フコトハ信ゼラレナイ様デアル。名山藏ノ此記事ハ、矢張り滿刺加ト佛郎機ノ間ニ混亂ガアル點ニ誤謬ガアルノデハナク、正徳十二年ノ佛郎機ノ廣東進航ヲ正徳十三年ト誤ツタ點ニ誤謬ガアルモノト考ヘラレル。隨ツテ獻徵錄ヤ、明史稿ヤ、明史ノ正徳十三年佛郎機入貢ノ記事モ、滿刺加ノ入貢ヲ佛郎機ト誤ツテ踏襲シタノデハナク、佛郎機入貢ノ年ヲ正徳十三年ト誤ツテ踏襲シタモノデアル。

第二章 葡萄牙人支那通商ノ起源

ばーど(1)うつどハ其印度省所藏古記録報告ニ於テ、葡萄牙人ハ一五〇八年一五〇九年間ニ初メテ支那ニ渡航シタ様ニ言ツテ居ルコトハ、ふあーがそんニ見エテ居ル。然カシ(2)ばーどうつどハ果シテ印度省古記録ニ其徵據ヲ發見シタモノデアラウカ、ドウモ疑ハシイ。ふあーがそんハばーどうつどノ此年代ハ確カニ間違ヒデアルト斷言シテ居ル。

1) Birdwood, Report on the Old Records in the India Office, p. 108

2) D. Ferguson. Ibid, p. 3, note.

ゆゑるハ其著『支那及び支那への途』⁽³⁾ニ於テらむじおノ『航海記旅行記所載ノこるさりすヨリめでいき候ニ宛テタ一五一年一月六日附ノ手紙ニ、昨年中我が葡萄牙人中ニ、支那ニ渡航シタモノガアツタガ、支那ノ國習トシテ、外國人ノ入國ヲ許サナイノデ、上陸ハ出來ナカツタケレドモ、其商品ヲ賣ツテ、非常ノ利益ヲ得タ、支那ハ寒國デ、香料ノ需要ハ莫大デアルカラ、香料ヲ支那ニ持ツテ往ケバ、葡萄牙ニ持ツテ往クト同様ニ、非常ニ利益ガアルト言ツテアルコトヲ引キ、之ヲ葡萄牙人ノ支那ニ渡航シタ最初ノ記録ト考ヘテ居ル。

こるさりすノ手紙ハ、何處デ書イタモノデ、又其中ニ言ツテアル支那ニ渡航シタト云フ葡萄牙人ハ、何處カラ出帆シテ、何處マデ往ツタモノデアルカモ分ラナイガ、此手紙ノ中ニ、支那商人ノまらつかニ來テ貿易スルコトヲ述べ、其次ギニ葡萄牙人ノ支那ニ渡航シタコトヲ書イテアルコトカラ推測スルニ、恐ラクまらつかニ來タ支那商人ノじやんく船ナドニ搭乘シテ、渡航シタモノデアラウ。

一五一四年中支那ニ渡航シタ葡萄牙人ハ商人デ、葡萄牙王、葡萄牙政府、若クハ印度總督、或ハまらつか知事ナドノ派遣シタモノデハナイ様デアル。然ルニ一五一四年一五一五年頃ニあるよけるけ部下ノ士官デ、有名ナじよるじあるぶあれすト云フ者ガ、まらつかカラじやんく船ニ依テ、廣東近傍ニ至リ、此處ニ葡萄牙ノ紋章ヲ刻シタ石柱ヲ建テタト云フコトハ、ふあーがそん⁽⁶⁾ヤ、じいさすこ⁽⁷⁾、ばるろすノ亞細亞各十年紀ヲ引用シテ書イテアル。ふー⁽⁵⁾がそんニ據ルト、コレハばるろすが一五二一年六月どうあると、こえりよーガ支那ニアル葡萄牙人ノ支那艦隊ニ襲撃

3) Colonel Yule, Cathay and the Way Thither, Vol. I, Prelim.Ess.cxli, note 2.

4) Ramusio. Navigazioni e Viaggi, Vol. I., 1613, Venetia, 2, ff., 180, 181.

5) Torge Alvares

6) D. Ferguson, Ibid, p. 3. (Barros Dec. III., VI. ii.)

7) Jesus, Ibid, p. 2. (Barros, Dec. III., Book II, Chap. viii)

サレ、危険ニ陥リシ時ニ、まらつかカラ、一じやんく船デ廣東ニ到着シタ事ヲ述ブル序デ、偶然ニ、あるぶあれすノ渡航ノコトニ言及シタモノデアルト云フコトデ、こえりよーハ其親友ノあるぶれすヲ愛スル爲メ、足ヲ停メテ其同胞ノ苦難ヲ救ハナケレバナラヌ様ニナツタノデアルガ、あるぶあれすハらふえーる⁽⁸⁾べれすとれろノ此地方ニ來リシ年ノ前年ニ來リテ、葡萄牙王國ノ紋章ヲ刻ンダ石柱ヲ建テ、其下ニ其年失ツタ愛兒ヲ葬ムリ、今マタ自分ガこえりよーノ到着後纔カ二十一日目ニ、病氣ノ爲メニ斃レ、同ジ石柱ノ下ニ葬ラル、コト、ナツタノデアル、ふあー⁽⁹⁾がそんなこるさりすノ書簡ニ見エテ居ル一五十四年ニ支那ニ來タ葡萄牙人ハ即チあるぶれすヲ指スモノ、如ク考ヘテ居ルノデアル。ぶれつとしゆないでるノ『中世研究』ニ載セテアルそるたうノ獨逸譯ばるるすニ據ツタ支那葡萄牙人ノ初期ノ交通ニ關スル記事ニモ、又りつて⁽¹⁰⁾るノ地理學ニ載セテアル同ジクばるるすニ據ツタ記事ニモ、ドウ云フ譯カ、此あるぶあれすノ渡航ノコトハ書イテナイ。あるぶあれすハドウ云フ目的デ、誰ニ派遣サレタ者デアルカモ、じいさすノ記事デハ分ラナイガ、支那ニ派遣サレタ遠征隊ト言ツテアルコトカラ考ヘ、又其まらつかカラ出帆シテ廣東近傍ノ地ニ葡萄牙王國ノ紋章ヲ刻ンダ石柱ヲ建テタト云フコトカラ考ヘルト、自ラ貿易ヲ行フ爲メニ渡航シタ者デナク、支那ニ於テ、葡萄牙人ノ爲メニ出來ルナラバ、貿易ノ根據ヲ獲ル目的⁽¹¹⁾デ、まらつかノ知事じよるじ、どあるぶけるけナドカラ派遣サレタモノ、様デアル。じえーんノ『ぶあすこだがま及び其繼承者』ニ、始メテ支那ニ遠征隊ヲ派遣シタ者ヲまらつかノ知事じよるじとあるぶけるけトシテ、遠征隊派遣ノ年ノ、一五十四年デ、遠征隊ノ運命ハ、ドウナツタカ分ラヌ様

8) Rafael Perestrello

9) D. Ferguson., Ibid. pp. 3-4.

10) Carl Ritter, Die Erdkunde von Asien., 1834 Berlin, Bd. III, S. 827.

11) K. G. Jane, Vasco de Gama and his Successors, London, p. 226.

ニ言ツテアル。此遠征隊ハあるぶあれすノ遠征隊ヲ指スモノデアルコトハ、ペれすとれろノ支那渡航ヲ翌年ノ事ト言ツテアルコトカラ判斷サレル。あるぶあれすノ翌年ニ支那ニ渡航シタペれす⁽¹²⁾とれろガ、まらつかノ知事ニ派遣サレタルモノデアルコトハ、ふあーがそんノ引用セルばるろすノ記事、そるたうノ獨逸譯ばるろすニ據ツタぶれつともゆないでるノ記事、じゆんぐすてつとノ『支那ニ於ケル葡萄牙殖民地ノ略史』ニ見エテ居ル。まらつかノ知事じよるじ・どあるぶるけハ、先ヅあるぶあれすヲ派遣シテ、葡萄牙人ノ貿易上ノ根據地ヲ觀察準備セシメ、尋デ、其報告ニ基イデ、ペれすとれろヲ派遣シタルモノノ様デアル。じよるじ・どあるぶけるけハ、ドウヤラ大あるぶけるけノ遺志ヲ承ケ繼イデ居ル様デアル。ペれすとれろノ支那渡航ハ、ぶれつとしゆないでるニハ、一五一五年カ、一五一六年カ分ラヌ様ニナツテ居リ、じえーんニハ、一五一五年ノコトニナツテ居ルガ、じいさすヤ、じゆんぐすてつとニハ、一五一六年ノコト、シテアルふあーがそんニハ、ペれすとれろハ一五一五年ニまらつか商館長デアツタ兄ノ死ンダ後、始メテ支那ニ渡航ガ出來ル様ニナツタト言ツテアル。ふえるなん・ペれす・ど・あんどらーでガ、一五一六年七月、まらつかニ居ツタ時、葡萄牙人ハペれすとれろ一行ガ、支那ニ捕虜トシテ抑留サレタノデナイカト、非常ニ心配シテ居タガ、其後數週間ニシテ、此心配ハ羨嫉ノ情ニ變ツタト云フコトハ、ふあーがそんノ記事ニ見エテ居ル。一五一六年九月ごあニ歸着シタコトハ、ばるろすニ書イテアルトノコトデアル。⁽¹³⁾此年ノ上信風ノ始マル三四月頃ニ、まらつかヲ出帆シタモノトハ考ヘラレナイノデアル。恐ラク一五一五年ニまらつかヲ出帆シ、一五一六年ノ上信風ノ始マル時マデ

12) Barros, Dec., III, II, vi, (D. Ferguson, 1bid, p. 7. note.)

13) D. Ferguson, 1bid, p. 7. note.

ニ歸還セヌノデ、葡萄牙人ガ心配シ出シタモノデアラウ。サウスルト、あるふあれすノ支那渡航ハ、一五一四年ノコト、ナリ、ふあーかそんガ、あるふあれすハ即チこるさりすノ書面ニ見エテ居ル一五一四年ニ支那ニ渡航シタ葡萄牙人其人デアル様ニ言ツテ居ルノモ、必ズシモ不都合ハナイ譯デアルガ、あるふあれすハドウモ葡萄牙官憲ノ派遣シタモノ、様デ、こるさりすニ見エテ居ル商人トハ違ツテ居ル様ニ思ハレル。恐ラク一五一四年ニ支那ニ渡航シタ葡萄牙人ハ一、二人デハナク、あるふあれすモ他ノ商人モ同様ニ渡ツタモノデハアルマイカ。ふあーがそんハ當時ペれすとれるナド、同ジク、葡萄牙ニ官仕シテ居タいたりや人ぎあうあんに、だ・えむぼりノこちんノ港デ書イタ一五一五年十一月十五日日附ノ書簡ニ言ツテアル支那ヲ發見シタト云フ葡萄牙人ハ、矢張り此最初ノ支那渡航ニ關スルモノ、様ニ考ヘテ居ル。

第三章 たまん占據時代ノ葡萄牙ト支那トノ關係

ニ就テ

一 葡萄牙最初ノ貿易港たもう或はたまんニ就テ

じいさすノ史的まかあニ、ばるろすノ亞細亞各十年紀ニ據ツテ書イテアル一五一五年ニあるうあれすが葡萄牙ノ紋章ヲ刻シタ石柱ヲ建テタト云フたもうハ、抑モ何處デアルカ。コレハはくる⁽¹⁾と會社名譽幹事めーじよあガ、めんどーざ大支那帝國記序文ニ、ばるろすニ據ツテ、一五一七

14) Giovanni da Empoli.

15) D. Ferguson Ibid, p. 5.

16) R. H. Major. Introd. to Mendozas History of Great and Mighty Kingdom of China London, 18 p. xxxi.

年ふえるなんべれす・ど・あんどらーでノ到着シタ島ト言ツテ居ルたまん・ぶれつとしゆないで
るノ『中世研究』ヤ、りつてゐるノ地理學ニ、そるたう獨逸譯ばるるすニ據ツテ書イテ居ルたまん⁽²⁾
一五一八年ふえるなんノ兄弟しまん・ど・あんどらーでノ到着シタ様ニ言ツテ居ルたむト、同一ノ
場所デアルコトハ、言フマデモナイガ、ぶれつとしゆないでゐるニハ、たまんハ支那ノ海岸カラ三
りぐノ距離ニアツテ、廣東ト貿易ヲ行フ外國船舶ハ、凡テ此處ニ投錨スルト書イテアリ、又め
じよあや、りつてゐるニハ、たまんハ大陸カラ三まいる隔ツテ居ルト書イテアルダケデアツテ、其何
レノ場所デアルカト云フコトハ、明カニシテ居ナイ。伊太利人ノ所謂さんしやん島⁽⁵⁾、葡萄牙人ノ
所謂さんしやん島⁽⁶⁾、英吉利人ノ所謂せん⁽⁷⁾と・じようんす島トノ異同ニ關シテハ、勿論何ノ説明モ
シテ居ナイ。專ラばるるすニ據ツタぶれつとしゆないでゐるニハ、さんしやん島ニ關スル何等ノ記
載モナク、りつてゐるニハさんしやん島ノコトヲ書イテ居ルガ、ソレハ一五二〇年葡萄牙人が廣東
カラ驅逐サレ、支那ノ東方諸港ニ設ケタ殖民地ガ廢滅ニ歸シタ後、猶ホ廣東或ハ廣東海岸トノ交
通ニ念ヲ絶タズ、貿易船ノ航行ヲ止メナカツタ時ニ、其休養地トシテ、臨時ニ假小屋ヲ設ケ、出
帆ニ臨ンデ、之ヲ撤去シタ様ナ場所デアルト言ツテ居ルダケデ、たまん或ハたむトハ、何ノ關係
モナイ様ニナツテ居ル。コレカラ考ヘルト、ばるるすニハ、たまんとさんしやんとノ關係ニ就テ
ハ、何モ言ツテ居ナイ様ニ見エル。殆ドさんしやんニ關スル記事スラモナカツタ様デアル。りつ
てゐるノさんしやんニ關スル記事ハ、ばるるすニ據ツタモノデハナイノデアル。じゆんぐすてつと
ニモ、ばるるす其他ノ歴史家ガ、屢々たまんヲ、まらい語デ貿易場ノ意味ヲ有スルべねあ⁽⁷⁾が、或

2) Tamang

3) Simao d'Andrade.

4) Tomu

5) Sancian (Sanshan)

6) Sau—cian.

7) Beneaga.

ハ⁽⁸⁾うえねあがノ名稱ヲ以テ、呼デ居ルコトハ言ツテ居ルガ、たまんハさんしやん島、或ハさんしやん島ノ一ツノ港デアルト云フコトハ、ばるるす等ニ根據ガアル様ニハ言ツテ居ナイノデアル。要スルニばるるすノ様ナ、未ダ天主教宣教師ノ支那ニ渡來シナイ以前ノ、葡萄牙人ノ著作家ノ書ニハ、たまんト云フ名稱ハ見ハレテ居ルガ、さんしやんと云フ名稱ハ見ハレテ居ナイ様デアル。たまん及ビさんしやんと云フ二ツノ名稱ガ、此時代ノ葡萄牙人ノ著作家ノ書ニ、並存シテ、違ツタ場所デアル様ニナツテ見ハレテ、居ルコトハ無イ様デアル。

之ニ反シテ、天主教宣教師渡來以後ノ、天主教著作家ノ書ニハ、不思議ニたまんと云フ名稱ハ見ハレズ、却ツテさんしやんと云フ名稱ガ見ハレテ來ル、支那ニ關スル天主教著作家ノ書デ、最モ古ク、又古イダケニ、支那ニ對スル歐羅巴ノ注意ヲ喚起シタコトデ有名ナ、西班牙ノめんどーざ⁽⁹⁾ノ大支那帝國記ニハ、たまん或ハさんしやんノ名稱ガ見ハレテ居ナイ。めんどーざ⁽¹⁰⁾ノ次ギニ有名ナ書ハ、べるじつくノ耶蘇會宣教師とりごうるとノ基督教支那傳教史デ、めんどーざ⁽¹¹⁾ノ書ハ、其影響ノ大ナルニ反シテ、不精確ナ傳聞ニ基ツイタモノデアルケレドモ、コレハ自分ノ實際ノ經驗研究ニ基ツイタモノデ、其點カラ、最初ノ精確ナ記錄ト言ツテモイノデアルガ、コレニハ、さういえるが一五五一年日本カラ出帆シテ、印度ニ歸航ノ途中、さんしやんノ島ニ寄港シタコトヲ記シテハ、當時葡萄牙人ハ未ダまかあノ町ヲ建テズ、此まさんしやんノ島ニ於テ貿易シテ居タコトヲ述⁽¹¹⁾べ、又さういえるが支那布教ノ目的ヲ以テ、一五五二年まらつかカラ葡萄牙ノ船デ、さんしやんニ到着シタコトヲ記シテハ、さんしやんノ耕作サレテ居ナイ無人ノ荒島デ、當時葡萄牙人及

8) Veneaga.

9) F. Tuan Gonzoleze de Mendoza Historia de las Cosas Mas Notables, pitosy. Costombres, delgran Reyno dela China. Spanish 1855 Rome.

10) Nicolas Triganet (金尼閣) T. S. Chritiana Expeditione apudo China 1615 Rome. Histoire de l'Expedition Chrestienne an Royaume de la Chine p. 1616, Lyon.

11) Trigault, Aistoire de l'Expedition Chrestienne an Royaume de la Chine. p. 207.

ビ支那人ハ貿易ノ爲メニ、此處ニ集合スル習慣ニナツテ居ルコトヤ、昔カラ此貿易ノ時ダケ、天幕及ビ樹枝ヤ、藁ノ假小屋ヲ急設スルコトニナツテ居タコトナドヲ述ベテ居ル。⁽¹²⁾又十七世紀ノ葡萄牙宣教師デ、有名ナせめどーノ大支那帝國記ニハ、さんしやんハ葡萄牙人ノ最初ノ支那通商時代ニ、港ノ用ヲナシテ居タモノデ、葡萄牙人ハ毎年此天地ニ、藁小屋ヲ作ツテ、貿易期間ノ用ニ供シ、貿易ガ終レバ、之ヲ棄テテ直チニ出帆歸航スルヲ例トシテ居タコトヲ述ベテ居ル。此ノ如ク十七世紀頃ノ支那ニ來タ天主教ノ著作家等ハ、さんしやんヲ葡萄牙人ノ最初ノ貿易地デアル様ニ書イテ居ルニ拘ラズ、たまんニ關シテハ、名稱スラモ書イテ居ナイノデアル。あるぶけるけ紀傳ノ序說ニ、支那人ガさんしやんノ港ニ於テ、葡萄牙人ニ貿易ヲ許シテ居ツタ時代ニ、葡萄牙人ハあふりかカラ黄金、もるつか諸島カラ香料、せいろんカラ象牙、寶石等ヲ持ち來リ、支那人ト各種ノ絹織物、磁器、樹膠、葉草及ビ茶ヲ貿易シタコトヲ述ベ、此茶ハ此後北歐羅巴ノ諸國ニ必要ナ品物トナツタ様ニ言ツテ居ル。⁽¹⁵⁾あるぶけるけ紀傳ノ序說ハ、あるぶけるけノ子ノ小あるけるけガ、書イタ本記傳ヲ、英譯シタばーちノ、千八百七八十年代ニ書イタモノデアルカラ、其記事ハ直チニ信ズル譯ニ行カヌガ、さんしやんガ葡萄牙人ノ支那ニ於ケル最初ノ貿易港デアツタト云フ事ハ、後世迄葡萄牙人ノ間ニ信ゼラレ、ソレガばーちノ記事ニ反映シタモノデアルト云フ證據ニハナル様デアル。

此ノ如ク、一方ニ於テ、ばるろすノ様ナ天主教ノ未ダ支那ニ渡來シナイ以前ノ、葡萄牙著作家ハ、たまんヲ葡萄牙人ノ支那ニ於ケル最初ノ貿易地ト考ヘ、さんしやんニ就テハ、一言モ述ベテ

12) Trigault Ibid, p. 216.

13) Alvarez Semedo (魯德照) Relatione della grand Monrchia della Cina, 1642 Madrid. Eng. Trans, 1655 part II Chap. 1.

14) Afonso Dalboquerque, Ibid, iii Introd. xxiii.

15) Walter de Gray Birch.

居ナイノニ、一方ニ於テハ、とりごうるとハべるじつく人デアルカラ之ヲ別トシテモ、せめど一ノ様ナ、天主教渡來以後ノ葡萄牙著作家ハ、却ツテさんしやんヲ葡萄牙人ノ支那ニ於ケル最初ノ貿易地ト考へ、たまんニ就テハ、一言モ述ベテ居ナイノデアル。

初メテたまんハ即さんしやんデアル。否さんしやん島の西北岸ニアル港デ、港ノ名ヨリ島全體ノ名ニモ用キラル、コトニナツタモノデアルト云フコトヲ言ヒ出シタ者ハ、じゆんぐすてつとノ様デアル。じゆんぐすてつとハたまん、たまん、たもう、たむハ何レモ同様ニ、さんしやん島、或ハ其港ノ名トシテ、區別ナク用キラレタモノデアル様ニ言ツテ居ル。まどろーるノ南支那ニモ、さんしやんニ葡萄牙人ガ一五二一年以來利用シタ一ツノ碇泊所ガアツテ、一五五一年さういえるが日本ヨリ歸航ノ途次、葡萄牙人ノたまおト稱シテ居タ北方ノ灣ニ寄泊シタコト、一五五二年二月十七日、さういえるが支那入國ノ志ヲ以テ、再びさんしやんニ來リ、滯留ニケ月半、志ヲ遂グルニ至ラズシテ、廣東ノ方言デにみうト云フ小灣ニ於テ、死シダコトヲ記シテ居ル。まどろーるノ記事ハ、餘程曖昧デ、一五二一年以來葡萄牙人ノ利用シタト云フ碇泊處、さういえるガ日本ヨリ歸航ノ途次ニ寄泊シタト云フ葡萄牙名ノたまお灣、さういえるノ死ンダト云フ廣東名ノにみう灣ノ關係ハ、全ク分ラナイ様ニナツテ居ルガ、之ハ恐ラク色々ノ史料ニ據ツタ爲メデ、にみうト云フ灣ニ就テハ、自分ハ今之ヲ考定スベキ材料ヲ持タヌケレドモ、少クモ一五五一年さういえるノ寄泊シタト云フたまおハ、一五二一年以來葡萄牙人ノ利用シタさんしやんノ碇泊處デアルト云フノガ、まどろーるノ考デアルコトハ疑ハレナイ。一五二一年以來葡萄牙人ガさんしやんノ碇泊處ヲ利用シ

16) Madralle, Chine du Sud, 1904 Paris pp. 45. 46.

17) Nimiū

タト云フコトハドウ云フ根據ニ依ルモノデアルカ明カデナイガ、縱令ソレガ誤マツテ居ルニシテモ、一五二一年頃ノ葡萄牙人ノ貿易港ハ、たまん即チたまぢデアルノニ、ソレヲさんしやんノ碇泊處デアル様ニ言ヒ、一五五一年さういえるノ寄泊シタ港ハさんしやんデアルノニ、ソレヲたまぢト言ヒ、サウシテ此兩方ヲ同ジモノノ様ニ考ヘテ居ルト云フコトハ、たまん即チたまぢハ、さんしやん島或ハ其港ヲ指シタモノデアルト云フ考ガ、じゆんぐすてつと以來引續イテ、今日マデモ、葡萄牙人ノ間ニ信ゼラレテ居ル證據ト見做スコトガ出來ル様デアル。然シばるろす等ガたまんヲ貿易地デアル様ニ言ヒ、とりげうると、せめど等ガ、さんしやんヲ葡萄牙人最初ノ貿易地デアル様ニ言ツテ居ル以上ハ、たまんハ大陸カラ三リーグダト云ヒさんしやんハ大陸カラ三リーグダト云フカラ困ルガ、若シサウ云フコトサヘナケレバ、此二ツノ地ハ、實際ニ同一ノ場所ヲ指シタモノデアラウト云フコトハ、じゆんぐすてつとヲ待ツマデモナク、何人ニモ考ヘラル、所デアル。然シ三リーグト三リーグノ違ヒハ、根本的ノ違ヒデ、カウ云フ違ツタ距離デ標示サレタたまん及ビさんしやんハ、違ツタ場所デアルト考ヘル外、考ヘ様ガナイ様デアル。ぶれつとしゆないでるハ、たまんノ位置ヲ、支那カラ三リーグト言ツテ居ル。同ジばるろすノそるたら譯ニ據ツタリつてゐるハ、たまんノ位置ヲ、大陸カラ三まいると言ツテ居ル。一リーグハ普通二まいる半乃至三まいると計算サレテ居ルガ、めーじよあヤ、りつてゐるハ、まいるヲリーグト同視シタモノデ、ばるろすノそるたら譯ニハ、たまんノ位置ハ大陸カラ三リーグトナツテ居ルノデハナカラウカ。此ノ如ク、ばるろすノそるたら譯ハ、たまんノ位置ヲ、大陸カラ三リーグトシ、と

りごうるとハさんしやんノ位置ヲ、大陸カラ三十リーグトシ、何レモ大陸ヲ標準トシテ、距離ヲ記述シ、而カモ其距離ガ一方ハ三十リーグトナツテ居リ、一方ハ三十リーグトナツテ居ルカラ、其根據ハ同一デ、三リーグハ三十リーグノ誤リカ、三十リーグハ三リーグノ誤リカ、ドチラカ一方ノ誤リデアラウト云フ想像モ、出来ヌコトハナイガ、ソレハ仕方ノナイ場合ノ已ムヲ得ザル想像デソレヨリハ、とりごうると、せめどー等ガさんじやんヲ、葡萄牙人最初ノ貿易地デアルト言フテ居ルノハ、間違ヒデアルト考フルコトガ出来レバ、ソレハ其方ガ餘程無理ガナイ様デアル。然ルニしえしんハ其著『うあすこだがま及び其繼承者』ニ於テ、たまん或ハたもうハ、うえに아가ノ島トシテ知ラレ、廣東河口ニアル島ノ一ツデ、うえに아가ハマライ語⁽¹⁹⁾ノばるにやがカラ轉訛シタモノデ貿易ノ意味デアルガ、廣東河口ノドノ島ヲ指シタモノデアルカト云フコトハ、未ダ擬定ヲ經テ居ナイ、之ヲさういえるノ死ンダせんといょうんす島ト同一視スルコトハ、固ヨリ誤リデアルト述べ、たまん島ノ名稱ヤ、位置ニ就テハ、ふあがそんノ説ガアツテ、其著『廣東に於ける葡萄牙捕虜の書簡』ノ序文ニ述ベテアル様ニ言ツテ居ル。ふあがそんノたまん或ハたもうニ就テ記シテ居ル所ハ、只ダソレハ葡萄牙人ニ依テ、一般ニうえに아가ノ島(或ハべに아가)ト呼バレ、廣東ノ河口ニアル島デアルト云フニ過ギナイ。たまんヲさんしやんと同一視スルコトハ誤マツテ居ルト云フコトハ、ふあがそんノ説ヨリ、じえんノ推論シタモノ、様デアル。ふあがそんノ書ハ、廣東ニ於テ監禁サレタ葡萄牙人ノ使節ビ⁽²¹⁾す一行中ノ二人、くりすとうあん、ういえいら及びうあすこ、⁽²¹⁾かるうあガ、一五三四年及び一五三六年ニ聯合シテ書イタ二通ノ書簡ノ本文ヲ譯シテ、之ニ

18) K. G. Jane, Vasco da Gama and his Successors 1460—1580, London, pp. 227—228.

19) Barnigaga.

20) Christvao Vieyra

21) Vasco Calvo.

一五五〇年マデノ葡萄牙人支那交通ノ記事ヲ序言トシテ添ヘタモノデアル。

葡萄牙人ガ當時たまんに於テ貿易ヲ行ツテ居タコトニ就テハ、支那ノ史料ニ、之ヲ徵記スベキ何等ノ記事ガ見當ラナイ。しまん・ど・あんどらうでガ、此たまんに柵ヲ樹テル様ニナツテ、始メテ支那ノ史料ニ、其反響ガ見ハレル。皇明實錄⁽²²⁾ヤ、明史佛郎機傳ニハ、柵ヲ樹テタ者ハ、廣東懷遠驛ニ留マツテ居タ佛郎機デアル様ニ書イテアル。明ノ張燮ノ東西洋考⁽²³⁾、顧炎武ノ天下郡國利病書ニ引用シテアル御史邱道隆、何鰲ノ正德十五年ノ上奏ニモ、澳門紀略(官守篇)ニ引用シテアル明ノ給書中王希文ノ嘉靖初年ノ上奏ニモ、佛郎機ノ柵ヲ樹テタコトハ言ツテアルモ、柵ヲ樹テタ場所ガ何處デアルカ言ツテナイ。然ルニ東西洋考ニ舊廣東通志ヲ引き、正德十二年佛郎機ガ貢ヲ進メ、封ヲ請フヲ名トシテ、大舶ニ駕シ、廣州澳口ニ突入シタ時ニ、撫按巡(撫按密使)ノ會典舊例ニ規定ガ無イト云フ異議ノ爲メニ、廣州澳口カラ、東莞ノ南頭ニ退去シナケレバナラヌコトニナリ、其處ニ家ヲ造リ柵ヲ樹ツルニ至ツタト云フコトヲ記シテ居ル。明ノ嚴從簡⁽²⁵⁾ノ殊域周咨錄ニモ、天下郡國利病書ニモ、殆ンド同様ノ記事ヲ載セテ居ル。正德十二年佛郎機ガ大舶ニ駕シテ、廣州澳口ニ突入シタト云フ事ハ、一五一七年ふえるなん、ペレス、ど、あんどらうでガ、二艘ノ葡萄牙船ト共ニ、廣東ニ進航シタ事實ヲ指スモノデ、東西洋考ニ引用シテアル舊廣東通志ヤ、殊域周咨錄、天下郡國利病書ナドノ記事ハ、ふえるなん・ペレス・ど・あんどらうでハ、廣州澳口カラ東莞ノ南頭ニ退去シテ、其處ニ柵ヲ樹テタ様ニ解釋セラル、ガ、コレハ彼ノ兄弟れまんと・ど・あんどらうでガ、一五一八年たまんに來テ、柵ヲ樹テタ事實ヲ混同シタモノデアルコトハ

22) 皇明實錄正德十五年十二月ノ條

23) 東西洋考卷五呂宋一百十九

24) 天下郡國利病書卷一前行人司行人嚴從簡編卷九、卷七

25) 殊域周咨錄卷一

26) 天下郡國利病書卷一

殆ド疑ヒガナイ。只ダしまん・ど・あんどらーでノ柵ヲ樹テタたまんハ、即チ東筦ノ南頭デアルカ否ヤハ、猶ホ殘ツテ居ル所ノ問題デアル。東筦ノ南頭ハ、明ノ洪武年間ニ東筦守禦千戸所ヲ設ケタコトガアリ、又其處ニハ明代ニ戍守ノ兵ヤ、兵船ガ備ヘテアツタ今ノ新安縣ノ十都海濱ニアル兵要ノ地デアル。若シ佛郎機ガ實際此地ニ柵ヲ樹テナカツタナラバ、サウ云フ明カナ事實ヲ無視シテ、佛郎機ハ此地ニ柵ヲ樹テタ様ニ書クト云フコトハ、如何ニシテモ餘リニ甚シキ間違ヒデ、如何ニ支那人デモ、カウ云フ間違ヲシヤウトハ考ヘラレナイ位デアル。若シ佛郎機ノ柵ヲ樹テタ場所ハ、即チ東筦ノ南頭デ、佛郎機ガ東筦ノ南頭ニ柵ヲ樹テタト云フコトハ、しまん・ど・あんどらーでガ、たまんニ柵ヲ樹テタ事實ヲ指スモノトシ、たまんハ即チ東筦ノ南頭デ、さんしやんデナイトスレバ、前ニ述ベタじえいんノ説ヲ、支持スルコト、ナリ、たまん、さんしやんノ異同問題ニ取ツテ、重大ノ事件デアル。天下郡國利病書⁽²⁸⁾ニ引用セル明ノ兩廣巡撫都御史林富ノ嘉靖八年ノ上奏ニハ、正德十二年佛郎機夷人ガ、東筦縣界ニ突入シタコトヲ述ベテアルダケデ、其此處ニ柵ヲ樹テタコトヲ述ベテ居ナイ。又前ニ述ベタ様ニ、御史邱道隆、何鰲ノ正德十五年ノ上奏、給事中王希文ノ嘉靖初年ノ上奏ニハ、佛郎機ノ柵ヲ設ケタコトガ述ベテアルモ、樹ヲ設ケタ場所ガ、何處デアルカ、述ベテ居ナイ。然ルニ東西洋考ニ引用シテアル舊廣東通志ヤ、殊域周咨錄ノ様ナ萬曆時代ノ編纂物ニ、始メテ正德十二年佛郎機ガ廣州澳口ヨリ退去シテ、碇泊シタ東筦ノ南頭ハ、佛郎機ノ柵ヲ樹テタ場所デアル様ニ、解釋ガ出來ル記事が見ハレルノデアル。ダカラ疑ヘバ隨分疑フコトモ出來ル譯デ、正德嘉靖頃ノ支那人ハ、しまん・ど・あんどらーでノ柵ヲ樹テタ實際ノ場所

(27) 大清一統志卷三百四十廣州府古蹟東莞城籌海圖編卷三、卷三十
(28) 天下郡國利病書卷一百二十

ヲ知ツテ居タカモ知レヌガ、只ダ柵ヲ樹テタリト云フコレダケデ、場所ヲ書イテ居ナイ。然ルニ萬曆頃ニナルト、柵ハ現ニナクナツテ仕舞ツテ、其實際ノ場所ヲ知ツテ居ル者モ無イ様ニナリ、只ダしまん・ど・あんどらゝでノ柵ヲ樹テタ事ヲ書イテ居ル記録ト、ふえるなん・ぺれす・ど・あんどらゝでノ廣州澳口カラ東莞南頭ニ退去碇泊シタ事ヲ書イテ居ル記録トニ據ツテ、東莞南頭ニ柵ヲ樹テタモノ、如ク、考ヘル様ニナツタモノデナイカト云フ様ナ想像ヲ下サレヌコトモナイガ、ソレニシテモ、東莞ノ南頭ノ様ナ、廣東河口ニ濱シテ、現ニ兵備モアリ、兵船モ備ヘテアル要害ノ地ニ、實際樹テラレナカツタ柵ガ、樹テラレタ様ニ考ヘルト云フ事モ、餘リニ甚シイ間違ヒデ、如何ニ支那人デモ、サウ云フ間違ヲシャウトハ思ハレナイ、只ダ支那人ハ葡萄牙人ヲシテカウ云フ兵要ノ地ニ、任意ニ柵ヲ樹テシメテ、何等ノ抵禦手段ヲ取ラナカツタモノト考ヘナケレバナラヌコトニナル無理ハアルガ、矢張柵ガ樹テラレタモノト考ヘル方ガ順當デアル。⁽²⁹⁾ 藤田豊八博士ハ、南頭ノ東沿岸、九龍ニ接シタル屯門澳コソハ、なもうデアルト言ツテ、廣東名勝志ノ記事云東莞南頭城、古之屯門鎮乃中路也ト云フ記事、唐ノ賈耽ノ廣川東南行二百里、至屯門山ト云フ記事、嶺外代答ノ其(外夷)欲至廣者、入自屯門ト云フ記事、明一統志ノ杯渡山ニ關シテ、在東莞縣南一百九十里、上有滴水巖、一名屯門山、唐韓愈詩、屯門雖云高、亦應波浪沒、卽此ト言ツテ居ル記事ヲ引キ、屯門ハ古來航海者ニ最モ注意セラレタル山デアルコトヲ證シ、又ばるろすがふえるなす・ぺれす・ど・あんどらゝでノなもうヲ出デ、廣東ニ向フニ當ツテ、此許可ヲ得ンガ爲メニ接衝シタル様ニ言ツテ居ルなんとノ「びあ」⁽³⁰⁾ハ、南頭ノ備倭デアルト言ヒ、籌海圖編(卷三)ノ舊制每

29) 東洋學報第八卷第一號葡萄牙人澳門占據ニ至ルマデノ諸問題

30) Pio of Nanto.

歲末夏初、風汎之期、通行府衛所縣、捕巡備倭等官、出海防禦倭寇番舶、動支布政司庫餉銀、僱募南頭等驍勇兵夫、與駕船後生、每船分撥五十名、每艘船四艘、一官統之ト云フ記事ヲ引テ、之ヲ證明シ、更ニだんぐあすノたまんカラ廣東マデノ距離ヲ約十八リーグトシ、支那港灣警備ノ駐セラル一島マデヲ三リーグト言ツテ居ル記事ヲ引キ、たもう或ハたまんノ地ヲ、上川島ニ擬定スルコトハ、殆ンド問題トスルニ足ラズ、屯門澳ニ擬定スルノ寧ロ至當ナルコトヲ論斷セラレテ居ル。コレハ餘程有力ナ説デ、自分ノ今日マデノ、研究ニ於テハ、之ニ反對スベキ材料ヲ發見シナイノデアル。

葡萄牙王ガびれスニ繼デ派遣シタめるろーくゐてによゝハ、一五二二年葡萄牙カラ、たもう或ハたまんヨリ一層支那ニ於ケル葡萄牙人ヲ保護スルニ適シタ場所ニ於テ、柵ヲ樹テ、之ヲ占領スベキ訓令ヲ受ケ、其許可ニ關スル協定ハ、びれすト北京政府トノ協定ニ依ツテ、既ニ出來テ居ルモノ様ニ考ヘテ、少シノ疑念モ抱カズ、たまんニ入港シタト云フ事實ハ、たもうノ地勢、葡萄牙人ヲ保護スルニ適セズ、支那大陸ト懸絶シテ居ル上川島ニアルコトヲ、暗示シテ居ル様ニ見エヌコトモナイガ、コレモ東筦ノ南頭屯門等ノ海澳ガ、海賊竊盜ノ巢穴ガアツタト云フ籌海圖編(卷三)ノ記事ニ參照スレバ、必ズシモサウ考ヘナクテモ宜シイ様デアル。

31) Martin Affonso de Mello Continho

32) Jesus, Ibid. p. 9.

支印茶戰ト英國

柏田忠一

目

- 一 緒論
- 二 英人ト午後ノ茶
- 三 史的觀察
- (イ) 茶ノ故郷
- (ロ) 印度茶業史
- 四 茶戰ノ現況
- 五 茶戰ノ將來

一 緒論

英人ノ家庭趣味中、自慢ノ一トシテ數ヘラル、モノハ午後ノ茶 (Afternoon Tea) デ、一家ノ團欒モ社會的交際モ、此ノ午後ノ茶ヲ通シテ行ハル、ノデアアル。喧騒ノ世界的中心ト思ハル、倫敦ノ丘中デ、夥シク推積サレタ書類ノ混沌裡カラ逃レテ事務員ノ頭腦ニ平和ナ休息ヲ與ヘルノモテーはラズ (Tea House) デアル、此ノ茶店ニ於ケル英人ハ、恰カモかふえーニ於ケル佛蘭西人、茶館ニ於ケル支那人ト同ジク、頗ル非常ニ吞氣ナモノデ、此所ニじよんぶるノ特色ハ遺憾ナク發

起サレル。少シ大キナ茶店ニナレバ、其所ニハ西洋將棋ヤ、賭博道具ナドガアツテ、煙草ノ烟ノ濛々ト立籠ル中ニ、例ノ雁首ばいぶヲ啣ヘ乍ラ、じょんぶるハ悠々然トシテ茶ヲ飲ンデ居ル。天下正ニ泰平デアル。

彼等英人ハ此ノ茶趣味ヲ以テ頗ル自慢デアル、一寸富裕ナ家庭ニナレバ、其ノ茶ノ立テ加減ナドニ就イテ仲々長イ講釋ヲ聞カサレル事ヲ餘儀ナクサレル場合ガ屢々アル。彼等ノ喫茶ハ支那人ヤ日本人ノ夫ト共ニ一大習慣トナツテ之ヲ除キスルコトハ喫煙家ガ禁煙スルト一般、先ヅ以テ不可能ノ事デ、其ノ一個年ニ輸入スル額ハ年々増加シ、一九一七年ニ於テハ、印度ヨリ二億九千二百五十三萬三千餘封度ヲ、錫蘭ヨリ二億〇八百九萬餘封度ヲ、同年度ニ於テ支那ヨリ一億二千六百二十六萬餘封度ヲ、而シテ其他ノ諸國ヨリ約七千九百二十六萬封度、此ノ總計實ニ六億六百二十餘萬封度ノ巨額ニ達スルノデアル。三千餘萬人ノ英人ガ一個年ニ要スル茶量ハ決シテ支那及ビ日本人ノ夫ニ比シテ遜色アルモノデ無イ。而カモ、產茶國ハ東洋ニ限ラレ、茶ト絹トハ、如何ニ彼等歐米人ガ切齒扼腕ススルモ當分ノ間ハ否、永久ニ東洋ニ其供給ヲ仰ガザレバ彼等ノ家庭並ニ社會的生活ヲ愉快ナラシムルコトハ出來ナイノデアル。

印度ト茶、支那ト茶、而シテ英國ト茶。茶ヲ通シタ此ノ三個國ノ關係ハ之ヲ政治的ニ觀テモ、亦之ヲ經濟的ニ見テモ、仲々面白イ問題デ、英國市場ニ於テ漸次其ノ地歩ヲ失ヒツ、アル支那茶ト將ニ之ニ取ツテ代リツ、アル旭日昇天ノ印度茶トハ各々其ノ國ノ國家經濟ト至大ノ關係ヲ保ツテ居ル。支那ヲ財政的ニ活殺スルモノハ茶ト絹ナリトセバ、其ノ一方ノ毒藥ハ印度ノ茶デアルト

謂ハネバナヲヌ。印度茶（錫蘭茶ヲ包含ス）ハ支那ヲ經濟的ニ殺ス殺人刀ナリトセバ、之ヲ醫ス者ハ實ニ英人デアル。

支那ニ於ケル茶業ノ發達ハ遅々トシテ牛歩ノ如キモ、其ノ數千年來ノ經驗ト廣大ナル茶園トハ相俟ツテ尙ホ世界第一タルヲ失ハヌ。英人ハ幾度力之ニ向ツテ投資ヲ試ミ、自カラ資本家タルノ地歩ヲ占メント努メタケレドモ、舊慣牢乎トシテ抜クコトガ出來ズ、虎視眈々タル英國資本家ノ爪牙モ遂ニ如何トモスルコトガ出來ナクテ、去ツテ之ヲ印度ニ試植スルコト、ナツタノデアル。時ハ一八三六年、初メテかるかつたノ植物園ヤ、くまおん、あつさむ其他ノ諸州ニ試驗的ニ植付ケラレタノデアル。之ニ關スル史的觀察ハ後節ニ説クコト、シテ、英國人ガ抑モ茶ヲ喫シ初メタノハ、何時頃デ、其ノ牢乎トシテ抜ク可カラザル習慣トナツタ徑路ヲ大體述ベテ見ヤウト思フ。

二 英人ト午後ノ茶

世界第一ノ茶通ノ如ク自カラ考ヘテ居ル英人ハ、實ハ茶ニ對スル趣味ガ甚ダ幼稚デアル。彼等ハ殆ト紅茶以外ハ喫マナイ。砂糖ト牛乳トデ味ヲ付ケテ、眞ノ茶ノ味ハ二分カ三分ノ所ヲ喜ンデ喫ム。吾々ヤ、支那人ガ茶ヲ用ユルノトハ話ガ違ウ。茶器ヤ茶室ニ關スル趣味ハ全ク東洋流トシテ除外シテ見テモ、茶其者ニ關スル趣味ガ全ク違フ。尤モ、斯克マデニ深い習慣ニナツタノダカラ之ヲ英國茶トシテ一種ノ茶趣味トシテ論ズルノモ可イカモ知レヌガ、東洋流ニ解釋スレバ、彼等ニハ本當ノ茶ガ解ラヌト謂ツテ可カラウ。夫レハ別トシテ、彼等ノ茶ニ關スル史的觀察ヲヤツ

テ見ヤウ。

初メテ茶ガ英人ノ咽喉ヲ濕ホシタノハ何時ノ頃カハ甚ダ明瞭ヲ缺イテ居ルガ、少クトモ一六六〇年九月二十六日ガ先ヅ最初ノ頃デハ無イカト云フコトデアル。有名ナサミゆゑる、ペビーすノ日記ニ、倫敦デ初メテ茶ヲ喫シタ事實ガ書イテアル。之レハ英國ノ茶史上、重要ナル日トシテアル (Bygone England, by William Andrews, 1892. "A Talk about Tea" P. 132 f.) ガ此ノ年カラ、英國ハ茶ヲ課税ノ目的トシテ取扱フ様ニナリ、茶一がろんニ對シテ八べんすノ税ヲ徴シタル。爾來、茶税ノ率ハ年ト共ニ變ツテ行ツタガ、遂ニ英國財政上ノ一税源トナルニ到ツタノデアル。和蘭人ガ支那ヨリ茶ヲ歐洲ニ輸入シタノハ一六一〇年前後デ、其中デ之ヲ英國ニ輸入シタノハ一六四五年頃デアルト云フ説ト、夫レ以前ニ、東印度會社ニ依リ既ニ輸入サレタト云フ説トアル (A few Facts About Indian Tea, by Sir James Buckinglam, P. 5.)。併シ倫敦ノかつみえー、はうすニ現ハレタノハ一六六一年、ペビーすノ飲ンダノヲ最初トシテ擧ゲテ居ル。故ニ一六六〇年以前ニ英國ニ茶ノ輸入ヲ見タコトハ事實デアラウケレドモ、恐ラク藥用力何カニノミ使用サレ、一般ノ飲料トシテ之ヲ市中ニ見ルニ到ツタノハ矢張り一六六〇年以後ノ事デアラウト思フ一六一〇年頃、和蘭人ハ茶一封度ノ價六磅カラ十磅デ英國ニ輸入シタト云フ記事モアル。當時、茶ガ如何ニ貴重ニ取扱ハレ、又如何ニ萬病ノ妙藥トシテ英人ニ視ラレタカハ、一六五八年九月三十日ノ "The Mercurius Politicus" 誌上ニ於ケル左ノ廣告文ニ徴シテ明カデアル。

"That excellent, and by all Physicians approved, China drink called by the Chineans

Tcha, by other nations; Tay alias Tee, is sold at the Sultaness Head Coffee House, in Sweeting's Rents by the Royal Exchange, London." ("A TALK about Tea" P. 133)

丁度此ノ頃、矢張り倫敦ノ取扱所附近ノ一珈琲店ノ主人が大要左ノ如キ茶ノ廣告ヲ揭示シテ、茶ノ特効ヲ吹聴シタノデ、當時ノ英國人ノ茶ニ對スル智識ノ程が大抵想像ガ出來ル。此ノ廣告文ハ現ニ大英博物館ニ保管サレテアル。

茶ハ夏冬ノ候溫度ヲ調和ス、之ヲ飲用スレバ最モ衛生上ヨク長壽ニ到ルマデ健康ヲ保ツ可シ、其主ナル特効ハ次ノ如クデアル。

五體ヲ活潑ニシ且ツ壯健ナラシメ、頭痛、眩暈、倦怠ヲ治シ、憂鬱ヲ散ジ、結石病ヤ腎砂病ニ最モ特效ガアル。呼吸困難ヲ治シ、視力ヲ増シ、惡氣分ヲ一掃ス。胃傷ヲ強壯ニシ、食慾ヲ増シ、消化ヲ助ク、特ニ肥滿者並ニ肉食過多ノ結果ノ脂肪過多ノ人ニ最モ善シ。惡夢ヲ散ジ、頭腦ヲ安靜ニシ、記憶力ヲ増ス睡眠ヲ深クシ、妄眠ヲ治シ常ニ氣分ヲ爽快ニス、夫故ニ、徹宵勉強スルモ身體ヲ害スルコトガナイ。……之ヲ牛乳ト水ニ混和シテ常ニ飲用スレバ内臟ヲ強健ニシ肺病ヲ未然ニ防グ。感冒、脹滿、壞血病ハ云ハズモガナ、凡百ノ傳染病ニ特效アリ、此ノ葉(茶葉)ノ功德及ビ其妙力ニ就イテハ佛蘭西、伊太利、和蘭ヲ始メ、其他ノ耶蘇教國ニ於ケル醫師、名士ノ使用セル證明ガ澤山アル。英國ニ於テハ一封度六磅カラ十磅ノ價ヲ以テ賣却

サレタガ弊店ハ一封度十六志ヨリ五十志ヲ以テ之ヲ販賣ス可シ云々ト。

此ノ廣告ハ一般ニ非常ノ印象ヲ與ヘ、上流社會ナドデハ旺ンニ之ヲ用ユル様ニナツタ如ウデア
ル。

一六六二年、ちやゝるす二世ガ葡萄牙ノかたりな親王ト結婚シタガ、親王ハ其ノ母國ニ於テ茶
趣味ヲ解シテ居タノデ、英國ニ來テカラハ、上ノ好ム所、下之ヲ做フ様ニナリ、一層茶趣味ガ英
國ニ傳播スル如ウニナツタ。詩人えどもんど、わーらーガ、かたりな皇后ノ誕生日ニ次ノ如キ短
詩ヲ物シテ、此ノ不思議ナ藥草ヲ讚美シテ居ル。

“Venus her myrtle, Phoebe has her bays;

Tea both excels, which she vouchsafes to praise,

The best of Queens and best of herbes we owe

To that bold nation which the way did show

To the fair region where the Sun does rise,

Whose rich productions we so justly prize.

The Muse's friend, tea does our fancy aid,

Repress keep that palace of the soul serene,

Fit on her birthday to salute the Queen.”

わーらーハ當時ノ上品ナ戀愛詩人トシテ名ガアツタノデアルガ、茶ヲ讚美スル詩ヲ作ツタノハ

彼ニ取ツテハ最初デ、而シテ恐ラク英國ニ於テモ最初ノモノデアラウ。

どくとる、さみゆえる、じよんそん (Dr. Samuel Johnson) ノ説デハ、茶ノ英國ニ最初ニ輸入サレタノハ一六六六年デ、和蘭人ノ手ヲ通シテ來タト主張シテ居ルガ “Rugge's Diurnal” ニ依レバ一六五九年ニハ茶ハ倫敦ノ珈琲店ヤ街ノ到ル處デ見ルコトガ出來タト論ジテ居ル。一六六一年ニハ東印度會社ガ國王ニ茶ヲ献ジテ居ルシ、其後數年シテ一六七七年ニハ同會社ハ支那ヨリ四千七百十三封度ノ茶ヲ輸入シ、市場ヲ狂ハシタコトガアル。此ノ頃マデハ、茶ハ非常ニ貴重ナ飲料トシテ貴族ノ家庭デ無ケレバ之ヲ常用トスルコトガ出來ナカッタノデ、上流社會デハ、娘ノ結婚ニ際シ、一種ノ誇リトシテ、且ツハ其ノ家庭ノ名譽トシテ、茶ヲ嫁資又ハ嫁入道具ノ意味デ持タシテヤツタ慣習モアル。一七二六年 (我が享保十一年)、ちやゝるす、ろーじやー博士ノ家デ、近隣ノ人々ヲ招イテ茶ノ響應ヲヤツタ。所ガ、茶葉ヲそゝす鍋ニイレ、ばたート藥味トそゝすヲ混ゼテ煮詰メタノデ、折角ノオ茶モ何ダカ譯ガ解ラナクナツタト云フ滑稽談ガ博士ノ日記帳ニ載ツテ居ル。萬事ガ此ノ調子デ仲々振ツタ珍談ヤ悲喜劇ガ各所ニ演出サレタ事ト思ハレル。サウシテ、恐ラク分量ナドモ盲滅法デアツタト思ハレル節モアル。夫レハ斯ル混沌時代ヲ徘徊スル間ニ茶毒ニ罹ツタ不眠症ヤ神經衰弱症ニ苦悶スル徒輩ガ漸次増加シテ來タ事デアル。其所デ憂國ノ士ハ英國ノ前途ヲ考ヘ、國民衛生ノ自衛上カラ茶ノ飲用並ニ其ノ輸入販賣ヲ禁止セントスル運動ヲ起シ、遂ニ一七四四年 (我が延享元年)、茶ノ飲用ヲ禁止スル請願ガ議會ガ通過シテ了ツタ。爾來上流社會ニ於テ禁茶運動ガ漸ヤク盛ンシナツテ來タガ、其ノ動機ノ一ハ、單ニ衛生上カラノミデ

ナク、經濟上カラモ來テ居ルコトガ解ル。一七四五年“Female Spectator”誌上に次ノ如キ記事ガ掲載サレテ居ル。

オ茶ノてゝぶるハ子守附デ二人ノ子供ヲ養育スル以上ノ經費ガ要ル、加之、凡有經濟ノ破壞者デアリ、善良ナル家政ノ斷末ヲ來タシ、且ツ懶惰ノ源泉デアル……………云々ト。

斯ンナ具合デ、當時ノ英國ハ、飲茶國タランカ否カノ過渡期デ、反動ニ對シテ更ニ反動ガ起リ天下ハ二派ニ岐レテ茶戰（東洋ニ於ケルト別ノ意味）ヲ演ジテ居タ。有名ナじよんそん博士ナドハ飲茶ノ主戰論者デ、彼ハ喫茶王（“The King of tea-drinkers”）ノ綽名ヲサヘ付サレタ程デアル。ばるまーすとん卿（Lord Palmerston）モ亦タ有名ナ愛茶家デ、彼ハ茶碗ヲ手ニシテ議院ニ登ッタサウデアル。あーぞー、りーどノ著“Tea and Tea-Drinking”中ニ、『ぐらつどずとんハ事務ヲ執ツテ深更ニ及ビ往々夜半カラ午前四時頃ニカケテ強度ノ茶ヲ喫ミ、而カモ就寢前ニ之ヲ用ヒテ毫モ彼ノ睡眠ヲ妨グルコトガ無カッタ云々ト』……………

東洋ニ於テ茶ハ社交上ノ最大要素デアル如ク、英國デモ今デハ、オ茶ナクテ何ノ己レガ櫻カナデアル。しどにー、すみすが『おー有難イ、オ茶ヨ、オ茶ナクテ何ノ己レガ櫻カナ “What would the world do without tea?” ト叫ンダノモ無理ハナイ。彼ハオ茶以前ニ生レナカッタ事ヲ神ニ感謝シテ居ル。

英人ハ從來、其茶代ヲ支那ニ拂ツテ來タノデアルガ、今ヤ支那ヲ棄テ、印度及ビ錫蘭ニ代ツテ來タ。英人ガ印度茶ニ投ゼル資本ハ三億五千萬るびーニ達シ、内、英本國ニ登録セル會社ノ資本

額ハ二億九千八百餘萬るびーデ印度ニ登録セルモノハ僅カニ四千八百二十餘萬るびーニ過ギナイ英國ハ自國產ノ茶ヲ自國人ノ手ヲ通シテ飲ム政策ヲ採ツテ來タノデ、支那ハ其ノ大顧客ヲ失ヒツ、アル譯デアル。今ニシテ支那ガ覺醒シナケレバ、支那茶ハ遂ニ世界市場ノ外ニ投リ出サレルカモ知レヌ。

三 史 的 觀 察

(5) 茶ノ故郷

茶ノ原產地ハ何處デアルカ。是レハ仲々植物學者ノ間ニ爭トナツテ居ル、或ハ支那ト云ヒ、又或ハ印度ト云フ。支那及ビ日本ニ古クカラ野生ノ茶ガアツタト云フコトモ確カデアルガ、其ノ起源ハ明カデナイ。

Fortune 氏ハ支那ニ於ケル產茶地方ニ關スル智識ノ第一人者デアルガ、未ダ野生ノ茶ニ關シテ何等發見スル所ガ無イ。

A. de Rosthorn ハ其著 “On the Tea Cultivation in Western Szechuan etc” ニ於テ「私ハ未ダ野生ノ茶樹ヲ見タコトガナイ、私ノ此ノ見解ノ上ニ立ツテ私ノ報告ヲスルノデアル」ト云ツテ居ル。

Müller ノ著 “Select Extra-Tropical Plants eligible for Culture etc” ニハ、日本ノ各地ニ茶ノ野生樹ガアル、例ヘバ駿河產ノ野生茶ノ如キ夫レデアル、併シ之ヲ以テ茶ノ元祖ナリト云フコトハ

誤リデアルト論ジテ居ル。

William Moorcroft 及 G. Trebeck ノ共著 “Travels in the Himalayan Provinces of Hindustan and the Panjab etc.” (1841. London) ニハ前印度ノひまらや地方ガ茶ノ故國デアルト論ジテ居ル。

斯クノ如ク、茶ノ原產地ニ就テハ學者ノ議論ガ區々デアツタノデアルガ、一八三四年ニ印度政廳ハ茶ノ栽培ニ關シ委員ヲ指定シ、印度あつさむ (Assam) 地方ノ茶ト支那茶ト同一ノモノデアるか否ヤ、又支那茶ヲ印度ノ各地方ニ移植シテ果シテ功果ヲ收メ得ルヤ否ヤ等ニ就キ報告ヲ徵スルコトニナツタ。而シテござどんヲ支那ニ派遣シ茶ノ樹ト其ノ種子ヲ求メタノデアル。

所ガ、ござどん及ビ助手ノぐつたふガ其使命ヲ達シテ茶ノ種子ト製茶工ヲ伴ヒテかるかつたニ歸ル前ニ、印度あつさむ州ニ於テ一大發見ガ報告サレ、茲ニ委員會ノ見解ガ展開シテ來テ、方針ガ變更サレルコトニナリ、ござどん等ハ呼ビ返サレルコトニナツタ。

あつさむ州ニ於ケル發見トハ、ぜんさんす少佐 (Major Jenkins) 及ビしやーるとん大尉 (Captain Charlton) ノ二名ガ同州ニ土生スル茶樹ガ此所ニ原始的ニ生ジテ居ル事實ヲ確メタ事デアル。即チしやーるとん大尉ハあつさむ州ノ茶樹ガ此ノ地ニ原生スルモノデアルト云フ斷定ヲ確立シ、ぜんさんす少佐ハ此ノ結論ヲ得ルニ多大ノ努力ヲシタト云フノデ、此ノ二人ガ一八四二年一月三日ニべんごーるノ農事園藝協會 (The Agricultural and Horticultural Society of Bengal) カラ金牌ヲ贈ラシタ (A few Facts About Indian Tea, by Sir James Buckingham, 1910) 併シ是レヨリ以前一八

二三年ニ R. Bruce ナル商人ガ取引上ノ目的デあつさむ地方ヲ旅行シテ居タ、此ノ男ガ別ニ學問上ノ目的ガアツタ譯デハ無イガ、上部あつさむノ處デヤ地方 (Satiya) デ茶ノ樹ヲ發見シタノデア。恰カモ該地方ニ英人ガ居タガ、此ノ英人某ハぶるーすノ兄弟ノ C. A. Bruce ガ茶樹ノ發見ヲ報告ニ及ンダ。當時此ノ地方ハ第一次緬甸戰爭ノアツタ事トテ、上部あつさむ地方ニハ英國軍人ガ澤山駐屯シテ居タ。一八三九年ニ『製茶ノ報告』ガアツタケレドモ、『余ハ既二十四年前ニ之ヲ發見セリ』ト云フしやーるとんノ主張デ (“When I First discovered it some 14 years ago”)、金牌ハ遂ニ其ノ手ニ墜チタ (Die Theeindustrie In Indiens und Ceylons, von Dr. A. Kiefer, Wien. 1902)。

あつさむ州ニ於ケル茶樹ノ發見ハ確カニ學界ニ對スル一大貢獻デアルニ違ヒナイガ、併シ果シテあつさむ生ノ茶樹ガ茶ノ元祖デアルカ否カハ以上ノ發見ノミデハ未ダ立證サレタモノト謂フヲ得ナイ。或ハ上部緬甸地方ナリト云ヒ (だういつど、すこつと等) 又或ハテペラ地方 (Hill Tipperah) ナリトモ云フ。而シテ今日デハ先ヅ上部緬甸ヲ以テ茶ノ故國ナリト云フコトニ大體決ツテ居ル (A. Kiefer 著同上、頁一〇)。然ラバ雲南地方ニ於ケル支那茶ハ如何ト云フコトニナルガ、此ノ方面ノ研究ハ未ダ充分發達シテ居ナイ如ウデア。二三ノ報告ハアルガ、未ダ學問的ニ權威ガ無イ。支那ノ古書ニモ茶樹ハ佛僧ニ依ツテ印度カラ持ち來タサレタト書イテアルガ、之レモ學問上カラハ疑問トシテ見ナケレバナラス。支那茶ト印度茶トハ其ノ樹性ヲ大分異ニシテ居ル。多クノ植物學者ハ “*Thea assamica*” ト “*Thea chinensis*” トヲ截然區別シテ居ル位デ其ノ

何レガ母デ、何レガ娘デアルカハ將來ノ學界ニ遺サレタ問題デアル。

只、茲ニ、推定的斷定ヲ下シテ居ル露國ノくらすのー教授(Prof. Krassnow)ガ居ル。教授ハ曰ク『茶ノ樹ハ遠イ昔カラ二種ノ變種ニ分レテ居タ、即チあつさむ茶ト支那茶トデアル。前者ハ印度ニ、後者ハ尙ホ今日、南部日本ニ野生シテ居ル、(多分臺灣ニ)。久シキニ亘ル栽培ノ後ニ、あゝアレガ原生ナリトシテ發見サレタノデアルト』。サリ乍ラ、此ノ斷案モ亦、遂ニ、疑問ニ答フルニ疑問ヲ以テシタニ過ギナイデハ無イカ。

(ろ) 印度茶業史

一九一九年末ノ統計ニ依レバ、印度ニ於ケル茶園ノ面積六十七萬八千五百三十三英町ニシテ是レヨリ產スル茶ハ總計三億八千〇四十五萬八千九百七十五封度デ此ノ内、二億八千二百餘萬封度ハ實ニ英國ニ向ケテノ一個年ノ輸出額デ、產茶國トシテ世界第一タル支那ニ向ケテサヘ一九一七年ニハ九百二十二萬餘封度ノ輸出ヲシテ居ルノデアル。之レガ僅々一世紀足ラズノ時日ニ於ケル印度茶ノ成績デアルカラ驚クノ外ハ無イ。而シテ近キ將來ニ於テ支那茶ヲ世界市場カラ驅逐スルノモ恐ラク印度茶デアラウシ、亦タ延イテハ我ガ日本ノ茶業ニモ影響ヲ及ボスコトニナルダラウト思フ。此ノ恐ル可キ印度茶ガ果シテ如何ナル經路ヲ採ツテ進ンデ來タカ、之ヲ史約ニ觀察スルノハ、同ジク產茶國タル吾國ニ取ツテ亦、多少、意味ノアル事デハ有ルマイカ。

一七八〇年(安永九年)、かーねる、あーど(Coland Kyd)ガ、かるかつたニ於ケル彼ノ庭園ニ茶樹ヲ植ヘタノガ恐ラク印度ニ於ケル茶園ノ最初デアラウ。彼ハ此ノ茶樹ヲ廣東カラ移植シタノ

デアルガ、氣候風土ガ適シタト見ヘテ非常ニ繁茂シタ。

一七八八年(天明八年)、印度總督ビー、じよせふ、ばんくす(Sir Josef Banks) & Behur, Rangpur 及 Kuch-Behar 地方ニ茶ノ栽培ヲ行ツタノデアルガ、ばんくすガ如何ニシテ之等ノ地方ヲ選擇シタカハ驚ク可キコトデ、當時之等ノ地方ハ未ダ英國ノ支配下ニ無カツタノデアル。

其後、印度各地ニ茶ニ關スル新研究ヤ栽培ガ試ミラレタガ、遂ニ一八三四年、印度茶業史ニ一新紀元ガ劃サレタ。夫レハ前節ニモ大要述べタ通り、印度總督べんちんく卿(Lord Bentinck)ハ印度ニ茶樹移植ノ可能問題等ノ研究ノ爲メ、十三名ノ委員ヲ任命シ、其ノ意見ニ從ツテあるもら(Almor)ノ附近、即チ今日ノ印度北西諸州ニ五個所ノ茶樹試驗場ヲ選擇シ、ごるどん(Goldon)ヲ支那ニ派遣シテ茶種及ビ茶樹並ニ茶工ヲ求メシムルコトニナツタノデアルガ、ごるどんノ歸印ニ先立チ、あつさむ州ニ於テ原生ノ茶樹ガ發見サレタノデアル。是レガ動機トナツテ、印度政廳ハあつさむ茶ノ性質及ビ其狀態等ヲ其原產地ニ於テ親シク研究セシムル目的ヲ以テ三人ノ學者ヲあつさむニ派遣シタ。即チどくとる、わーりうち(Dr. Wallich)、ぐりふす(Griffiths)及ビまくれらんど(McClelland)ノ三名デ、前二者ハ植物學者デ後者ハ地理學者デアル。一八三六年一月、彼等ハすつどや(Suddya)ニ着シ研究ヲ繼ケタノデアル。而シテ上部あつさむ地方一帯ニ夥ダシキ茶樹ノアルコトヲ發見セルノミナラズ、茶樹ノ大ナルモノニ至ツテハ高サ四五十呎ニ達シ幹ノ直徑六吋ニ及ブ古木ノ存在ヲ確カメテ驚イタノデアル。

之ト前後シテ一八三六年ノ初メ、ごるどんハ支那ヨリ歸印シ伴ヒ來レル三名ノ支那人紅茶製造

職人ハかるかつたヨリ直チニあつさむニ送ラレタ。其年ノ暮、ぶるーす氏(Bruce)ハ十二箱ノ茶ヲかるかつたヨリ見本トシテ英國ニ送ツタノデアルガ、是レ實ニ英領印度ニ於テ製造サレタ最初ノ茶デアル。此ノ十二箱ガ倫敦ニ到着スルヤ、大ニ倫敦人ノ好奇心ヲ煽リ立テ、一封度ノ價十六志ヨリ三十四志ニ競リ上ゲラレタ (A few facts about Indian Tea. P. 7.)。

一八三九年、第二回目ノ印度茶ハ倫敦ニ輸出サレタ。總計九十五箱デ、此ノ内十箱ハ政府ニ獻納シ、残り八十五箱ハ一八四〇年三月十七日競賣ニ付シタ。一封度ノ價四志ヨリ十一志。

ごるどんガ支那カラ持ツテ來タ茶ノ種子ヲかるかつたニ蒔キ、苗木四萬二千本ヲ得、之ヲ左ノ地方ニ分植シタ。

二〇〇〇本

まどらす地方

一〇〇〇〇本

あつさむ地方

二〇〇〇〇本

北西諸州

所ガまどらす地方ニ送ツタ茶苗ハ約半年ノ運搬時日ニ殆ド其大部分ハ枯死シ、僅カニ生存セル苗木ハに在るぎり丘地方ニ移植サレ今日該地方ノ茶園ノ母本トナツタ。あつさむ地方ニ送レルモノモ亦殆ト同一ノ運命ニ陥リ、四萬二千ノ苗木中生存セルモノ僅カニ八千本ニ過ギナカツタ。

一八三九年(天保十年)ニハあつさむ蒸會社(The Assam Company)ガ設立サレ、しー、えー、ぶるーす(C. A. Bruce)ハ其最初ノ監督デアッタト云フ。該會社ハ一八四一年八月ニかるかつたニ於テ第一回ノ株主總會ヲ開イタガ、資本金百萬馬克、四割ノ拂込デアッタ。

一八六四年ニハ印度ハ一大恐慌ニ襲ハレ、金價ガ下落シ、某茶業會社ノ如キハ五百萬馬克全株拂込ニテ其財産ハ僅カニ五十萬馬克トナリ、後ニハ二十三萬六千馬克ヲ以テ計算サル、ニ至リ、一八九二年ニ至ルマデ全ク無配當ノ狀態ニ在ッタト云フ程デアル。併シ乍ラ、印度全體トシテハ漸次茶業ノ發達ヲ來タシ、ばんじやぶ洲 (Punjab) ヲ始メ、べんごーる州 (Benegal)、でつかん (Dekan) 南部緬甸ニモドシ、茶園ガ開拓サレ、今日デハ其總投資四千萬磅ニ及ブ様ニナツタ。一八六六年ニ於ケル英國人ノ輸入茶ハ一億二百二十六萬五千封度で、内印度茶ハ僅カニ四分ニ過ギナカツタ。當時ノ英人ハ各人三封度四二ノ割合ノ消費デアツタガ、一九〇三年ニハ六封度〇三ニ激増シ總輸入額二億五千五百三十六萬餘封度デ、内印度茶五割九分ヲ占メ、支那茶ハ僅カニ一割ニ激減シテ了ツタ。一九一七年ニ至ツテハ印度茶ハ二億九千九百七十二萬封度ニ激増シ、支那茶ハ其反對ニ一億九千七百餘萬封度ニ急減シタノデアル。一八三六年、ござどん民ガ初メテ支那カラ茶ノ種子ヲ運ンデ來テ、之ヲかるかつたニ蒔付ケタ時カラ僅々八十年ノ歲月ガ經過シタノミデアルガ、桑田變海、後生恐ル可シ、支印茶戰ハ遂ニ印度ヲシテ名ヲ成サシムルニ至ツタノデアル。

四 茶戰ノ現況

漸次支那茶ノ壘ヲ摩シテ之ヲ凌駕セントスル英領印度茶ノ大勢ヲ洞察シテハ、流石ニ吞氣ナ支那財政家モ支那將來ノ國策ニ想及シテ默視シテ居ル譯ニハ行カナクナツタト見ヘ、一九〇五年、委

員ヲ印度及ビ錫蘭ニ派遣シテ實況ヲ調査セシムルコトニナツタ。爾來產茶獎勵ノ爲メ特別ノ法令サヘ發布サレ、張鷟翁專ラ其ノ首班トナツテ活動シ、南京ハ茶業専門學校ヲ設ケ、一九一五年ニハ特ニ茶業局ヲ設ケテ銳意產茶ノ振興ヲ劃シテ居ルガ、茶業ニ關スル因習ノ久シキ、未ダ改革ノ曙光サヘ見エヌ。同年、輸出税二割ノ削減ヲ行ヒテ輸出ヲ督勵シ、多少効果ハ有ツタ如クデアアルガ、歐洲大戰ノ影響ト銀價ノ騰貴トハ相俟ツテ一般輸出ヲ萎縮セシメ、次イデ露國ノ大革命アツテ此ノ方面ヘノ綠茶輸出ノ中絶トナリ、支那ノ茶業ハ悲觀的事實ノ連續ニヨリ多大ノ打撃ヲ蒙ツタノデアアル。只、茲ニ、支那茶業ニ取リテ最モ力強ク感ズルノハ外資及ビ外力ガ茶業界ニ突入シテ居ナイ事デアアル。故ニ、支那ノ國產タル絹、茶及ビ雜穀中、最モ有望ナモノハ茶業デアアル。問題ハ、如何ニシテ印度茶ト對抗シテ行クカニ在ル。最近二十數年間ノ印度及ビ錫蘭茶ト支那茶トノ世界市場ニ於ケル消長ヲ數字上ヨリ觀察シテ見ヤウ（單位封度）。

年	號	印	錫	蘭	支那（紅茶と綠茶）	支那（靚茶其他）
一八九六——九七		一五〇、四二一、二四五	一一〇、〇九五、一九四	一六一、五三八、九三三	七八、五六七、三三三	
一九〇〇——〇一		一九二、三〇〇、六五八	一四九、二六四、六〇三	一四四、二七〇、九三三	五、一九〇、六六七	
一九一〇——一一		二五六、四三八、六一四	一六八、九二五、一一七	一二三、九四七、七三四	八四、一五八、九四三	
一九一五——一六		三四〇、四三三、一六三	二一四、九〇〇、三八三	一四三、六六二、〇〇〇	九三、七七六、六六七	
一九一六——一七		二九二、五九四、〇二六	二〇八、〇九〇、二七九	一二六、二六〇、八〇〇	七九、二五九、七二三	
一九一七——一八		三六〇、六二三、七六八	一九五、二三一、五九二	八九、一一五、三三三	六〇、九三六、六六六	
一九一八——一九		三二六、六四五、七八〇	一八〇、八一七、七四四	四三、四二二、九三三	一〇、四四五、八六六	

(以上ノ數字ハ The Indian Year Book, 1920 年ニ依ル)。

一九一六—一七年ノ印度茶輸出額ハ其前年度ニ比シテ著シキ減少ヲ示シテ居ルノハ、同年度ハ茶業ノ大打撃ヲ蒙ツタ年デ、前年度ニ比シ約一割四分ノ減少デアル。其原因ノ一ハ船腹ノ減少ト第二ノ華客タル露國ノ革命デアツテ對露輸出ニ於テ約九百萬封度ヲ減ジ、對英輸出ニ於テ約其一割ヲ減ジ、其他佛國ヘハ一九一五—一六年度ニ於テ十八萬三千封度ノ輸出アリシモノガ、一九一六—一七年度ニ於テハ僅カニ八萬封度ヲ輸出シタルニ止ツテ居ル。最モ大ナル打撃ハ對英輸出デ之レハ年額約二億三四千萬封度ニ達スルヲ以テ、其一割ハ實ニ二千三四百萬封度デ、此ノ減少ハ直チニ一六一六—一七年度ノ數字ヲ低下セシメタノデアル。

更ニ翻ツテ支那茶ノ對外輸出ニ就キ一瞥ヲ與ヘテ見ルナラバ、次ノ如キ驚ク可キ事實ヲ發見スルデアラウ(單位封度、毎年ノ平均數)。

年	號	印	度	支	那
一八八八—一八九二		一〇五、五二九、〇〇〇		二四二、二一三、〇〇〇	
一八九三—一八九七		一三五、四〇八、〇〇〇		二三四、五〇七、〇〇〇	
一八九八—一九〇二		一七二、六八九、〇〇〇		一九二、四二七、〇〇〇	
一九〇三—一九〇七		二一〇、六一一、〇〇〇		二〇〇、三二八、八〇〇	
一九〇八—一九一二		二五五、三九四、四一八		二〇二、一三〇、一八六	
一九一三—一九一七		二九九、七一九、六六七		一九七、〇二四、七四六	

即チ印度茶ノ輸出ハ一八九二年ヨリ一九一七年ニ至ル二十五年間ニ約二億封度ヲ増シタ譯デ、正ニ十八割ノ激増デアル。之ニ反シ支那茶ハ同期間ニ約四千五百萬封度ニ割ノ減少デアル。之ヲ

大體論上カラ觀ルニ、一八八八年ニ於ケル支那茶ノ輸出ハ二億八千九百萬封度デ英領印度ノ夫ハ只僅カニ九十萬封度ニ過ギナカツタノデアル。進ンデ一九〇八年ニハ、支那ハ二億一千萬封度ニ落下シ、印度ハ其反對ニ二億二千八百萬封度トナリ一舉ニシテ支那茶ヲ凌駕シテ了ツタ。若シ夫レ、一九一六年度ニ至ツテハ支那茶ハ憫レム可シ二億〇五百萬封度臺ニマデ墜チ、旭日昇天ノ印度ハ茶三億三千八百五十萬封度トナリ、尙ホ益々増加ノ階梯ヲ踏ンデ居ル。

五 茶戰ノ將來

統計ハ最モ公平ニ支那茶ノ世界市場ニ於ケル地位ヲ物語ツテ居ル。一九二〇年ノ印度年鑑ニ依レバ、支那ハ一八九六年ヨリ一九一九年ニ至ル二十三年間ニ紅綠茶ニ於テ一億六千五百五十三萬封度ヨリ、一落千丈、四千三百萬封度ニ墜チ、正ニ七十三パーセントノ減少デアル。若シ夫レ紅綠茶以外ノ彈茶其他ニ至ツテハ、例令露國革命ガアツタ爲トハ云ヒ、七千八百五十萬封度ヨリ一〇四十四萬封度ニ落下シ實ニ八十七パーセントノ減少ナリトハ、如何ニ樂觀主義ノ支那當局デモ多少反省スル所ガアツテ然ル可キデアラウト考ヘル。

在英佛ニ於ケル支那學生聯合會ハぶろばかんだノ意味で各種ノ小冊子ヲ發行シテ居ル、例ヘバ (1) China and the League of Nations, (2) The Relations between China and Japan during the Last twenty-five years, (3) The World peace and Chinese Tariff Autonomy (4) China's Position in international Finance 等ノ如キモノデアルガ、此ノ中(3)ニ於テ、次ノ如ウナ事ヲ論ジ

テ居ル。曰ク、

先ヅ第一ニ輸入關稅が列強ニ依ツテ制限サレテ居ルノデ、支那産業ノ幼芽ハ格安ナル外國輸入品ニ依ツテ**毫**リ去ラレ、元來ノ幼稚ナル産業國ハ更ニ益々惘然ナル狀態ニ蹴落サレルノデアル。第二ニハ、此ノ低少ナル關稅率ハ、更ラヌダニ不足勝チナル支那ノ財政ヲ益々窟乏ナラシメ、遂ニ政府ヲ驅ツテ釐金稅ノ如キ惡稅ヲ懲スルノ止ムナキニ立到ラシメテ居ル。從ツテ地方産業ハ重稅ニ壓セラレテ發達セズ、茶、絹ノ如キ國產ヲ始メトシ其他ノ原料品、雖モ、相當ノ價格ヲ以テ世界市場ニ現ハル、事ハ困難トナツテ來ルノデアル。……其結果ハ、過去二十年間ヲ通ジテ毎年輸入超過トナリ、正貨ハ常ニ外國ニ流出シツ、アルノデアル夫レニモ拘ラズ、支那産業ガ尙ホ今日マデ繼續シテ居ルノハ、外國ハ消費ス可キ資金ヲ常ニ供給シテ居ルカラデアル。一旦、此ノ貸與ニシテ中止センカ、支那ノ産業ハ舉ゲテ外國人ノ手ニ歸スルデアラウ。關稅制限ニ依ツテ蔭付ケタ種子ハ、其時コン豐年滿作ノ收穫ヲ舉ゲル秋デアル云々……ト。

(The World Peace And Chinese Tariff Autonomy, P, 11)。

私ノ考デハ、支那茶ノ改良ハ日本人ノ手ニ俟ツ可キモノデアルト思フシ、又タ、日本ハ其進歩セラル技術ト資本ト而シテ營業制度ヲ支那ニ向ツテ輸出シナケレバナラヌ、支那ノ綿糸ト製糸ニ向ツテハ日本人ハ大ニ注意シテ來タガ茶ニ對シテハ未ダ一指ヲモ染メテ居ナイ。茶ト絹ノ改良ハ單ニ支那及ビ日本個々ノ國家經濟問題タルノミナラズ大東洋全體ノ財政問題デアル。之ヲ東洋人ノ手ニ專有シ得ルカ否カハ實ニ東洋復活能否ノ岐ル、大問題デアル。

私、思フニ、印度茶ハ今後益々其繁盛ヲ擅ニスルデアラウト。併シ玆ニ注意ス可キハ、印度ニ於ケル革命思想ノ漫延ト、印度勞働者反英思想ノ勃興トデアル。六十五萬ノ印度茶業勞働者ハ三億五千萬るビーノ英國資本ニ何時マデモ屈シテ居ルダラウカ否カ、之ガ問題デアル。現ニ昨年ハ孟買其他ニ於テ、英國品ノ不買同盟ガ起リ、學生ハ英國品ヲ燒棄シタリ破毀シタリシテ快ヲ叫ンダ位デアル。六百萬ノ印度人ガ革命家ギヤンデー (Gandhi) ノ手ヲ通ジテ自治ヲ請願シタデハ無イカ。商人及ビ實業家中ニハ、印度ノ經濟的獨立ヲ劃シテ手紡ト手織トヲ獎勵スル者ガ續出シテ來タデハ無イカ。如何ニモ、印度ハ利害相反セル幾多ノ王國ヤ地方ニ分離シテ居ルガ、大印度主義ノ運動ハ決シテ悔ドル可キモノデハ無イ。

ギヤンデー氏ヲシテ云ハシムレバ、『英國ノ來印以前ハ印度人ハ、一結合、一體ヲ成シテ居タガ、英國來ルニ及ンデ互ニ相反目スルニ至ツタ』ト。或ハ然ラン。一九一一年ノ "Daily Mail Year Book" ニ依レバ一九一九年三月末ノ外國貿易ハ實ニ二億八千二百萬磅ニシテ前年度ノ夫ニ比シ約二千萬磅ノ増加デアル。新智識ノ所有者トナツタ印度人ハ此驚ク可キ印度ノ富源ト、彼等自身ノ貧乏トヲ比較シテ反省考慮スル如クニナツテ來タカラ堪ラス。

『英國ヲ乾干ニセヨ』トハ印度國ノ富ヲ知り始メテ彼等ノ貧ニ氣ガ付イタ若イ印度人ノ叫ビデア。倫敦ヤ、おつくすふおーど乃至けんぶりつちで勉強シテ居ル印度學生ハ、英人ノ頭腦ヲ輕蔑シ始メタ。是レガ、印度産業ニ取リ將來ドレ丈ケノ影響ヲ持チ來タスカハ未知ノ問題デハ無論アルガ、斯ル未定ノ不安ヲ別ニシテハ支那茶ノ將來ハ遂ニ悲觀的結論ヲ生ムノ外ハ無イ。支那茶業

ニ新生命ヲ吹キ込ムノハ實ニ支那人夫自身タルハ論ヲ俟タヌガ、併シ、支那茶業ノ改革ハ日本ノ手ヲ俟ツテ遂行サレル可キモノデアルト思フ(一九二一、一、三)。

駟會・牙僧及ヒ牙行ニ就テ (上)

—支那稅源ノ歷史的考察—

稻 葉 岩 吉

目 次

一、緒言

二、上代支那ノ商業

三、戰國時代ニ於ケル商人ノ地位

四、駟及ヒ駟僧

五、抑商主義ヨリ賤商政策ヘ

六、晉令逸文

七、牙ノ由來唐ノ節度使

八、牙郎市牙及ヒ牙僧

九、牙ト衙

十、牙人及ヒ牙行

表記

參考書目梗概

一、緒言

支那各種稅源ニ對スル歷史的考察ヲ試ムルコトハ、極メテ煩瑣ナル事業デアルケレドモ、他面ヨリ見レバ、頗ル興味多ク、同時ニ、コノ民族ノ政治史・經濟史ニ密接スルモノトイハナケレナラス。支那ハ、一大農業國デアルコトノタメニ、古來政府收入ノ主ナルモノハ、收益稅ニ由ル田賦一項ニ限ラレタ。田賦以外ノモノハ、本質的ニ於テハ稅ト稱スベキデハナイ、臨時ノ意義ヲ以テ創造サレ、ソレガ時ノ推移トモニ固定的ノ課稅トナツタモノガ比々然リデアル。例ヘバ、消費稅ニ由ル鹽引ノ如キ、茶引ノ如キ、凡ベテ或ル時代ノ特發事件ニ餘義ナクサレテ創造サレタモノデアルコトハ、歷史ニ證明サレ、ソノ始メハ單ニ「捐」ノ名ニ於テ採用サレタモノデアツタ。捐トハ報効ノ意義ヲ表出シ、人民ガ政府ノ歲入要求額ニ對シテ、自發的ニ義捐ストイフニ外ナラヌノデアルガ、ソレガ前ニ述べタ如ク、時代ノ推移ニツレテ、固定的稅源ノ地位ヲ獲得スルコトニナツタ。加之、支那ニ於テハ、コノ種ノ稅源ト限ラズ、一般ニ沿襲的ナルコトヲ免レナイ。ソノ理由ハ、種々デアラウ。近カイ例ヲ舉グレバ、前ニイツタ田賦デアアル。今日ノ地租ニ關スル一般の法規ハ、大抵明代ノ法制ニ依據シ、敢テ改ムルコトノ無イモノデアアル。清朝ハ明朝ニ代ハリテ、北京ノ主人公トナリ、附近五百清里ホドノ土地ヲ圈取シタケレドモ、支那本部ノ田制ハ、明ノ萬曆初年ニ取り決メタ稅則ニ據ルトイフ詔ヲ下シ、ソレニヨリテ始メテ人民ノ歡心ヲ博シタモノデアツタ。田賦ヲ更ラニ地方的ニ檢察スルトキニハ、コレラノ事實ガ、一層深ク證明サレテアル。

即チ蘇州附近ノ土地ニナルト、税ノ基礎ヲナストコロノモノハ、南宋ノ昔ニアルラシイ。ソノコトハ顧氏ノ日知錄ニモ記サレテアル。畢竟、支那ニ於テハ、^{ダイナスチ}國家ガ變遷シテモ、ソノ政治内容ニ接觸シ、之ニ變革ヲ及ボスコトノ程度ガ、サホド深刻デナイ。況ンヤ人民ニ直接スルトコロノ税則ニ於テヤ。支那各種ノ税源ヲ究ムルトキニハ、自カラ歴史ニ溯ルノ必要アルコトハ、コノ點ニ於テモ首肯サレル。

本題ニ掲グルトコロノ營業税ノ如キハ、固ヨリ沿襲的ナルコトガ、必然デアル。而モ一倍政治史ニ密接シテ居ルコトヲ特記スルノ要ガアルノデアル。吾人ハ、先ヅ該税ノ中心タル牙行税ヲ研究シテ、而シテ後、他ノ一般的ノモノニ及ビタイト思フ。

二、上代支那ノ商業

營業税ハ、目下ノトコロ、菸酒牌照税・牙税・當税ノ三種ニ區別スルコトガ出來ル（民國財政史第二編二二二頁）。サリナガラ、之ヲ本來的ノヨリイヘバ、三者中、後ノ二種ガ、營業税ノ全體ヲ占メテ居リ、尙ホ歷史的ノヨリ見ル場合ニハ、牙税（牙行税）ガ、營業税ノ全部デアルトイツテヨイノデアル。

牙税ハ何故ニ營業税ノ全部デアルカトイフコトニツイテハ、支那民族ノ歷代ノ政府ガ、如何ナル態度ヲ以テ、商人ニ臨ミツ、アツタカトイフコトニ、相當諒解ヲ得ナクテハナラヌケレドモ、ソレニ先チテ、支那商業ハ、上代ニ於テモ、今日ノ如ク萎靡不振デアツタ、決シテ他ノ歐洲ヤ西部

亞細亞ノ如キ發達ヲ得ナカツタトイフ從來ノ見解ニ對シテ、一二ノ考察ヲ試ミナケレバナラナイ。私見ヲ以テスレバ、カ、ル見解ハ、尙ホ早計タルコトヲ免レナイ。一般ノ支那史家ニ於テハ、支那ガ古來一大農業國デアリ、ソノ經濟道德ノ方面ヲ見テモ、農業ヲ本務デアルトスルコトノタメニ、商業ハ、發達セナカツタ、否ナソノ地位ハ低級ニ置カレテアツタトイフケレドモ、ソレハ表面ノコトデアリ、支那ノ自然、及ビ社會ノ推移ニ考ヘテモ、カ、ルコトハ、遽カニ首肯スルコトガ出來ナイノデアル。

第一ハ、支那ハ西紀前ニ於テ早モ封建政治ヨリ離脱シタノデアルガ、ソノコ、ニ至ツタ原因ハ、主ニ封建諸國ノ氏族經濟ガ、ソノ生命ヲ失ヒ、支那ハ一天下（社會）タルベキ運命ヲ開ライタカラデアルトモイヘル。封建時代ニ於テ、諸侯國ハ、土地分授ノ制ヲ支持シテ居ツタ。從ツテ、自給自足ヲ主義トナシ、人民ノ私有地ヤ自由產業ヲ禁止シテ居タワケデアルガ、ソレガ、周室ノ統治破壊ト、モニ、根底ヨリ搖撼シ出シタノデアアル。自給政策ハ、一面ヨリスレバ閉關主義デアリ、封建國家ガ權威ヲ示シテ居タ際ニハ、列國相互ノ交際スラモ稀有デアツタワケデアアルガ、戰國ニナツテ、ソレガ、全然破壊サレタ。所謂說客ノ游說時代ガ出現シタノデアツタ。史家ハ、楚ノ大夫申公巫臣ガ、晉ニ走リ、吳ニ使シ、吳ヲ中原ノ一勢力タラシメタ際ヲ以テ、春秋戰國ノ一轉期ヲ劃ストイツテ居ルガ、コノ事實ハ、揚子江以南ノ富力ガ、早モ北支那ニ波及シタ。封建諸國ガ、ソノ前代ノ封地ニ固着スルコトヲ許サナクナツタモノトモ見ラレ、申公巫臣ノ行動コソハ、明白ニ戰國說客ノ先蹤ヲナシタモノトイハナケレバナラナイ。カノ支那最古ノ運河ト知ラレタル邗溝

(揚州運河)ガ、吳王夫差ニヨリ開鑿サレタトイフコトハ、ソノ表面ノ理由ハ、兵食運輸ニアルニセヨ、裏面ニ於テハ、江南經濟力ノ發展ヲ表示スルモノデアリ、黃河文明ト揚子江文明トノ障壁ガ撤退サル、コトトナツタモノト解釋スルコトガ出來ヤウ。廣大ナル支那平原ガ、カ、ル政治經濟ノ狀態ニ置カレタ際ニ、商人ノ地位ガ、依然低級ニ沈滯スベキヤ否ヤ、ソレハ信ゼラレナイ。

第二ハ、支那中原ト外族トノ關係デアル。前ニ述ベタ吳(蘇州)ノ勢力ガ、北支那ノ平原ニ及ボサレタトイフコトハ、儼正ニイヘバ、外國勢力ノ侵入、支那トノ交錯ヲ意義スルケレドモ、ソレハ姑ク置キ、當時西北支那ヤ東北支那ノ邊疆ヨリシテ支那本部トノ交通ヲ求メタ外國種族ハ、可ナリ多クヲ示スノデアル。吾人ハ、今西洋史家ノ一人ガ指摘シタ周ノ武王ノ帝紂ヲ刺シタ「輕呂ノ劍」ハ、匈奴ノ寶劍デアリ、ソレハ土耳其古語ニ胚胎ストイフ興味アル考證ヤ、趙襄子ガ智伯ノ頭ヲ飲器トシタコトハ、東胡ノ風習ヲ受ケタトイフ見解ヲ援イテ、吾人ノ所見ヲ固メントスルノデハナク、支那ノ工藝品タル絹織物ハ、早クヨリ中央亞細亞トノ交通ヲ促ガシ、同時中央亞細亞ヤ蒙古方面ヨリハ、ソレラ各地方ノ天產物ヤ生產物ノ多クヲ支那ニ供給シツ、アツタコトヲ指摘シタイ。支那ハ古代ニ於テ、既ニ一種ノ國際關係ヲ、ソノ貿易上ニ體現シテ居ツタトイフコトモ出來ヤウ。カ、ル際ニ於テ、支那自體ノ商業ハ、不發達ニアリトイフコトヲ得ルデアラウカ、ソレハ畢竟矛盾デアル。

三、戰國時代ニ於ケル商人ノ地位

翻ツテ、支那商人ノ、史上ニ顯ハレタモノヲ求ムルニ、何人モ、最初ニ注意スルトコロハ、戰國末ニ、陽翟(河南)ノ大賈人呂不韋ナルモノガ、一躍、秦ノ相國ニナリ上ツタコトデアラウ。史記(卷八五)ノ所傳ニハ、「呂ハ陽翟(河南)ノ大賈人デアツタ、往來シテ販賤賣貴シ、家ニ千金ヲ累ネタ」トアル。鄭玄ガ周禮ヲ注シタモノニヨルニ、行曰商、處曰賈トアリ、賈ハ一定ノ塵舗ヲ有スルモノトモ思ハル、ケレドモ、史記ニイフトコロノモノハ、必シモ商ト賈トノ間ニ界限ヲツケルホドノ必要ハナク、一般ノ商人ト解シテ差間ヒガナイ。呂不韋會々趙國ノ邯鄲市場ニ賈シタ際、秦ノ莊襄王ガ、マダ子楚トイヒ、ソノ國ニ質子トナリテ、内政ノ不如意ニ苦ミテ居タノニ出會シ、コレ奇貨可居トイヒ、王ニ資金ヲ供給シタ。他年王ノ卽位シタ時ニ、彼レハ相國トシテ秦ニ乘リ込ミタトハ、コレ又タ史記ノ所傳デアルガ、カ、ル行事ハ、彼レハ今日デイフトコロノ政商ノ面影ヲ傳ヘテ居ル。ソレ以外ノコトハ、不明デアアル。呂不韋ノ出身ガ商人デアリ、ソレガ政治上ニ投資スルニ至リ、遂ニ目的ヲ果シタトイフ事實ダケハ、イカニモ、商人ノ地位ノ發展ヲ示シテ居ル。タゞ呂氏ノ富ヲ成シタトコロノ商業機關ナリ、將タ商人トシテノ種類ニツイテハ、何等語ルトコロガナク、讀者ヲシテ、幾分ノ失望ヲ禁ゼザラシムルモノガアルガ、幸ニモ、呂氏ト略ボ同時代ノ史上ニ於テ、コノ種ノ體型ヲ求ムルコトガ出來ルノデアアル。ソレハ外デハナイ、著名ナル魏ノ文侯ノ師、段干木ソノ人デアアル。

段干木ハ、晉國ノ大駟デアツタ。駟トハ駟會ヲイヒ、後世イフトコロノ駟會又ハ牙會ハソレデアル。段干木ノ名ハ、コノ點ヨリ視テ、支那商業史ニ特書サルベキ地位ノ人デアラネバナラス。

段干木ニツイテノ史記(卷四四)ノ所傳ニハ、魏ノ文侯ガ、孔子ノ高足タル子夏ニ經藝ヲ受ケ、同時、段干木ヲ客トシテ禮遇シ、彼ノ門閭ヲ過グルヤ、未タカツテ軼セズンバアラズトイヒ、東晋皇甫謐ノ高士傳ニハ、段ヲ以テ守道不仕ノ隱士デアリ、文侯ガソレヲ見出シテ師禮シタトイフ傳説ヲマコトラシク述ベテ居ルケレドモ、吾人ノ見ルトコロデハ、聊カ之ニ反シテ居ル。ナルホド文侯ハ、子夏ニ經藝ヲ受ケタニハ違ヒナイガ、ソレデアルカラトイツテ、段干木ヲ守道不仕ノ高士ニ擬スルコトハ早計デアアル。史記ハ、タゞ文侯ガ段ヲ民間ニ求メテ、之ヲ禮遇シタトノミイヒ、ソノ何故ニ禮遇ヲ與ヘタカニハ言及シテ居ナイ。皇甫謐ナドノ考ハ、要スルニ東晋人ノ潤飾デアルトシカ思ハレヌノデアアル。

然ラバ、文侯ハ、何故ニ段ニ禮シタカトイフニ、吾人ハ、ソレハ段ガ國中切ツテノ大駟デアツタカラダト解釋シタイノデアアル。段干木ノコトニ就テハ、史記以前ノ記錄ニモ散見シテアル、呂氏春秋(卷四)ハ左ノ一節ガアル。

子張ハ魯ノ鄙家ナリ、顔涿聚ハ梁父ノ大盜ナリ、孔子ニ學ビタリ。段干木ハ晉國ノ大駟ナリ、子夏ニ學ビタリ、高何縣子石ハ齊國ノ暴者ナリ、鄉曲ニ指セラル、子墨子ニ學ビタリ(孟夏紀尊師)

淮南子ハ、コノ記事ニヨツタモノカ、「段干木、晉ノ大駟、而モ文侯ノ師トナル」トイヒ、イヅレモ卒直ニ段ノ素性ヲ説明シ、彼レハ高士デモ隱君子デモナク、全ク大駟デアツタトイフコトヲ語ツテ居ル。吾人ハコノ説明ノ下ニ、研究ヲ進メテ見タイト思フ。

四、駟及ビ駟僮

段干木ハ既ニ大駟デアルトシテ、駟トハ何物デアルカラ考ヘテ見タイ。吾人ハ、前節ニ於テ、駟ハ駟會デアリ、後世ノ牙僮ガソレデアルトイツタガ、コノ結論ヲ肯定スルニツイテハ、尙ホ幾多ノ辨證ガ伴ハナケレバナラナイノデアル。先ヅ史記(一二九)ノ所傳ヲ見ルニ、貨殖傳ニ左ノ一節ガアル。

夫レ貧ヲ用ヒテ富ヲ求ムル、農ハ工ニ如カズ、工ハ商ニ如カズ、繡文ヲ刺スルハ、市門ニ倚ルニ如カズト、コレ末業(商業)ハ貧者ノ資ナルヲ言フナリ(中略)金錢千貫ヲ子貸スルハ節スル駟會ナリ。貧賈ハ之ヲ三ニシ、廉賈ハ之ヲ五ニス、此レ亦タ千乘ノ家、ソノ大率ナリ。(下略)

史記ノ本文ハ、漢書食貨志ニソノマ、引用サレテアルケレドモ、何レモ判讀シガタイ、(本文ニ子貸金錢千貫節駟會トアル)史紀集解ニヨレバ、徐廣ハ、駟會ノ駟ヲ説明シテ、「馬僮也」トイヒ、漢書音義ニモ、「會亦是僮也」トイヒ、「節ハ貴賤ヲ節物スルナリ、謂フハ、其餘利ヲ估僮シテ、千乘ノ家ニ比ス」トイツテ居ルガ、唐ノ顏師古ノ漢書ニ注スルトコロニヨレバ、「僮ハ二家ノ交易ヲ會合セシムルモノナリ、駟ハ其首率ナリ」トイヒ、明瞭ニ史記ノ駟會ハ、後ノ駟僮・牙僮デアルコトヲ語ツテ居ル。

吾人ハ、以上ノ諸記事、頗ル重要ナル指示ヲ得タコト、思フノデアル。ソレハ外デハトイ、後漢ノ徐廣ガ、駟ヲ馬僮ナリトイツタコトデアル、而シテ僮ハ、師古ノ説明ノ如ク、估僮ノ意義デアリ、ソノコトハ、後漢書郭太傳注ノ所引トシテノ説文ニ「駟ハ會也、兩家ノ買賣ヲ合スルヲ

イフ、今ノ度市ノ如シトアルノデモ知ラル、ゴトク、僧ハ會買ノ意義デナケレバナラズ、從ツテ、之ガ原義ニ溯リテ考フレバ、駟ハ、馬ノ賣買ニ關與スル仲人デアツタ、馬ト限ラズ、一般牛馬ノ取引ニ關シテノ仲買人デモアリ、又タ取引市上ノ親方(管理者)デモアツタ、勿論ソノ管理權ハ、自然有力者ニヨリテ把持セラレタワケデアラウケレドモ、賣買双方ノ意志ハ、駟僧ニヨリテ疏通サレタニ違ヒナイ、ソレデコノ取引ノ報酬トシテ、何程カノ手數料ヲ收メ得タルモノト思フ。コレガ駟僧ノ原始的意義ヲ傳ヘタモノデナケレバナラナイ。北方支那コトニ晉國(山西)アタリデ、蒙古方面ヨリノ豊富ナル馬匹ヲ市上ニ受入レ、ソレガ支那中原ニ分配サル、コトハ、自然デアリ、從ツテ、ソコニ駟僧ノ優ナルモノガ現ハレタト解スルコトハ自然デアアル。呂氏春秋ガ、段干木ヲ目シテ晉國ノ大駟ナリトイツタノハ、頗ル興味アルコ、イハネバナラヌ。

凡ソ商業ナルモノハ、本質的ニ於テ一種ノ口錢業者デアアル。口錢業者ハ、商業ノ原始的型態ヲ示スノモノト解セラレルガ、而カモ、コノ口錢業者ハ、ソノ國、ソノ地方ノ産業ノ異ナルニヨリテ、型態ヲ別ニスルコトハ勿論デアリ、北方支那ニ於テハ、先ツ馬市ヨリシテコノ種ノ商習慣ガ現ハレタ。尙ホコノ意義ヲ敷演スレバ、生産ニ於テハ農業ヲ主トシ、軍事ニ於テハ、車戰ノ制度ヲ支持シテ居ツタ北方支那ノ當代ニ於テ、馬市ハ、最モ殷賑ヲ極メ、ソコニ比較的組織立テラレタ取引關係ガ行ハレタ、ソレハ駟僧ノ名ニテ知ラル、仲買デアルトイフコトモ出來ル。獨リ馬市トノミ限ラズ、支那ノ「市」ナルモノノ起原ハ、牧場ニ於ケル牛馬ノ取引ニ始マルノカモ知レナイ(說文解字卷五參照)馬市ガ、敢テソノ名ノ如ク牛馬ノミノ取引ニ限ラレズ、一般的生産物ノ

取引モ行ハル、コトハ必然的デアリ、ヤガテ駟僮ハ、市場ノ司配權ヲ掌握スルニ至ツタノデ、ソノ昔單ニ牛馬取引ニノミ使用サレタ名稱ハ、展開シテ一般的仲買ヲ意味スルコト、ナツタニ違ヒナイ。段玉裁ノ說文解字注（第十篇上）ハ「蓋シ駟ハ、本ト馬ヲ平會買賣スルノ稱、因リテ以テ凡物ヲ平會スルノ稱トナス」トイヒ、呂氏春秋ニ段干木ハ晋國ノ駟ナリトアルト附言シテ居ル。

五、抑商主義ヨリ賤商政策ヘ

カクノ如ク、支那民間ノ商業界ニハ、駟僮ト稱スル一種ノ仲買業者ガ發生スルニ至リ、ソレヲ仲買業者ノ間ヨリ段干木ノ如キ賢諸侯ヨリノ禮遇ヲ受クルホドノ優者ヲ出シタトイフコトハ、興味アル事實トイハネバナラス。畢竟、カ、ル現象ハ、商業ノ地位ノイカナリシヤヲ示スモノデアリ、支那當代ノ有スル商業組織ハ、相當ノ發達ヲ示シタモノトイハネバナラス。吾人ノ本題ハ、主ニ駟僮ニ源ヲ發スル牙行稅ヲ説明スルモノデアルカラ、他ノ商業機關ヤ、貨幣ノ狀態ニハ及バナカツタケレドモ、コレヲ各方面ヲ綜合シデモ、ソノ展開ノ步調ハ、順序ヨク進行シツ、アツタモノトイフコトガ出來ヤウ。カクシテ支那民族ハ、戰國末期ニ於テ商人トシテ、世界ニ貢獻スベキ素質ヲ有スルニ至ツタワケデアルガ、ソレガ、俄然停滯シタノデアル。停滯トイフヨリハ、寧ロ退却シタ。之ガ根本的理由ニ就テハ、下ノ事實ヲ思考セラレルノデアル。

右ノ事情ニツイテハ、支那歷代ノ政府ガ、イカナル態度ヲ以テ、商人ニ臨ミタルモノカ、ソノ政策ハ如何、思想ハ如何、コレヲ諸點ニ就テ、十分ノ諒解ガナクテハナラス。吾人ハ下ノ如ク觀

察スルノデアル。支那ハ古來一大農業國デアル。精確ナル歴代ノ數字ヲ示スコトハ艱難デアルケレドモ、農業生活者ハ總人口ノ八九割以上ヲ占メテ居タコトハ疑ハレナイ。支那民族ガ何時頃ヨリ農業生活ニ移ツリ、而シテ政府ハ、農本政策ヲ主張スルニ至ツタカハ、明白デナイケレドモ、晚クモ、戰國時代ニ於テ、ソノ萌芽ヲ見タ。時代ノ推移展開ニ對シテ、格別ノ注意ヲ拂ツテ居タ當代學者意見中ニハ、既ニソノ兆向ガ現ハレテ來タノデアル。固ヨリソレハ農本ヲ主トスルコトノタメニ、商人ヲ抑制セナケレバナラヌトイフ趣旨ニ於テナサル、モノデアツタ。儒家ノ正宗タル荀子ニ、ソレガ明瞭ニ看取サル、ガ、ソノ嫡系ト知ラレタル韓非子ニ至リテハ、一般商工業者ヲ賤ミ疾ミテ、「邦國ノ蠹毒」デアルトマデ極言スルニ至ツタ。

戰國時代ガ終ハリテ、秦ノ始皇帝現ハル、ニ及ビテ、コノ方針ハ、一層明白ニ、政治上ニ採用サル、コト、ナツタ。韓非其人ハ、秦ニ用ヒラレナカツタケレドモ、ソノ政見ハ、殆ンド全部ハ皇帝ニ採用サル、ニ至ツタトイツテモ過言ハアルマイ。而モ、這般重農主義ノ政策ヲ採用スルニ至ツタ裏面ノ理由ヲ考ヘレバ、前述ノゴトク、支那民族ノ社會ガ發達シテ、國民經濟ガ顯著ナル進歩ヲ見タコトノタメニ、氏族經濟ハ全然脅威セラレ、ソコニ自由商業ガ現ハル、コト、ナリ、ヤガテ、ソノ勢力ハ、政治上ニマデ及ボサル、コト、ナツタコトニ想到セザルヲ得ナイノデアル。前ニ述ベタ呂不韋ノ如キハ何ヨリモ適證デハアルマイカ。

ツマリ、商業發達ハ、戰國以來ノ大勢デアツタ、政府——農業保護ノ主權者トシテハ、コノ大勢ヲ以テ好マシカラザルモノトシタ、ソレハ商人ガ、農村生活ヲ脅カシ、人民ノ本業デアルト考ヘ

ラル、農業ヲ疏スルカラデアルトシタ。荀子ヨリモ韓非ノ意見ハ、コノ點ニ就テ徹底シテ居ツタ。政府ノ抑商主義ガ、進ミテ賤商主義トナツタノモ、一ハ韓非子ノ意見ノ成功デアルトイフテモヨイ。秦亡ビテ漢トナリ、法制・政治ニ於テ、前代ノ影響ヲ、著シク感受シタ漢ハ、依然賤商主義ヲ採用シタ。高祖ノ如キハ、賈人ノ絹ヲ衣、車ニ駕スルコトヲ禁ジタリ、若クハ課スルニ重稅ヲ以テシタノデアル(後節參照)。高祖ノ後、武帝ノ代ニ入りテ、漢ハ大ニ兵ヲ匈奴ニ用ヒ、爲タニ兵力ノ不足ヲ來シ、之ガ補充ヲ民間ニ求メタコトガアツタガ、コノ場合、武帝ノ政府ハ、壯丁ヲ農村ヨリ徵發スルコトヲ避ケテ、次ギノ九種類ノ階級ニ求メタノデアル。一、死囚、二、亡命者、三、不良少年、四、有罪官吏、五、贅婿、六、賈人、七、從前市人ニ籍ヲ置イタモノ、八、父母ノ市籍アリシモノ、九、祖父母ノ市籍アリシモノ、以上第一ヨリ第四マデハ、支那ノ政治トシテハ、古來ノ慣習デアルカラ、何モ怪マル、ニハ及バヌ。第五ハ、支那家族制度ヨリ見テ變態デアルトシテ、一般ニ賤マレタモノ、カ、ル階級ヲ不良少年ヤ有罪官吏ト一樣視スルコトハ相應理由アルガ、第六以下第九ニ至ルマデハ、幾ント今日ノ常識ヲ以テ解釋スルコトハ出來ガタイノデアル。何ガ故ニ、賈人ヤ市籍ヲ有スルトコロノ一般商人ハ、死囚ヤ亡命ト同ジキ待遇ヲ受ケザルヲ得ナカツタモノカ。死囚ヤ亡命者ハ、一般齊民デハナイ。商人ヲ以テ此等ノモノト同一視スルトイフコトハ、商人ガ齊民ト一樣ノ待遇ヲ享有スルモノデナイトイフコトニ歸セナケレバナラヌ。畢竟、商人ハ賤民デアルコトノ爲メニ、徵兵令ノ適用ヲ受ケタ。即チ知ル漢ノ武帝ノ政策ハ、兵ノ補充ヲ直接的トシタノデアルケレドモ、他面、傳統的デアルトコロノ賤商主義ヲ實現シ、

之ニ兵ナル苦役ヲ課シテ、此等ヲ抑壓セントシタモノデアルコトヲ。前節ニ述ベタ駟僧ガ、カ、ル政策ノ下ニ於テ如何ナル影響ヲ受ケタカハ、寧ロ興味アル問題デアル。

六、晋令逸文

史記(卷三〇)ノ平準書ニハ、下ノ文字ガアル。

漢興リテ秦ノ弊ニ接シ、丈夫軍隊ニ從ヒ、老弱糧饑ヲ轉ズ。作業劇シクシテ而モ財匱シ。天子ヨリ鈞駟ヲ具フルコト能ハズ。コ、ニ於テ、秦錢ノ重クシテ用ヒ難キタメニ、民ヲシテ錢ヲ鑄ラシム、黃金一斤ニツキ錢一萬貫ノ割合ナリ。法ヲ約ニシ禁ヲ省キ、而シテ、不軌逐利ノ民、餘業ヲ蓄積シ、以テ市上ノ物價ヲ稽考シ、物價昂騰ヲ見計ヒテ出賣スルガ故ニ、米價ハ一石萬錢ニ至リ、馬一匹百金ヲ以テ呼ブ。天下已ニ平キ、高祖乃チ令シテ、賈人ハ絲ヲ衣、車ニ乗ルヲ得ズ、租稅ヲ重クシテ之ヲ困辱セリ。孝惠・高后ノ時、天下初メテ定マルガタメニ、復タ商賈ノ禁ヲ弛ベタリ、然ドモ、市井ノ子孫、亦タ仕宦スルヲ得ズ(下略、意譯)

以上ノ外、文帝ニ進言シタ賈誼ノ意見トカ、景帝ニ說イタ黽錯ノ意見デアルトカ、コレラハ何レモ商人ヲ困辱スルコトヲ以テ目的トナシ、同時農人ノ迫害ヲ免レシメタイトイフノデアツタ。政府モ機ニ觸レ時ニ臨ミテ、コノ政策ヲ實效アラシメタ。平準書ニヨレバ、武帝ノ時ニハ、商人——市籍アルモノ及ビ家族ニハ、土地所有權ヲ公認セズ、違犯者ハ、ソノ田地ヲ籍沒シ、其家僮ハ沒入スルトイフ法令モアツタ。尤モ、戰國時代ヨリノ商人ノ地位ハ、顯著ナル發達ヲ示シテ居

タノデアルカラ、政府ノ法令ナドデハ、容易ニ屈服スル筈ノモノデハナク、武帝ノ如キハ、洛陽賈人ノ子桑弘羊ナドヲ財務官ニ拔擢シタナドノ矛盾モアツタホドデアルケレドモ、前ニ述べタヤウナ歷代ノ法制ハ、漸次ニ商人ノ地位ヲ侵害シ、自卑自屈ノ一方ニ走ラセタニ違ヒナイ。吾人ハ寡聞ニシテ、漢ノ政府ガ、駟僮ヲイカニ取締ツタカヲ知ラヌケレドモ、駟僮ハ賤丈夫ノコトデアアル、君子ノナスベキモノデハナイトイフ思想ノ一般ニ行キ互ツタコトハ、今ヤ爭ハレヌ事實トナツタムデアアル。ソノコトハ、後漢書(九八)郭太傳ニ

左原ハ陳留人ナリ、郡ノ學生トナリ、法ヲ犯シテ斥ケラル。林宗嘗ツテ之ト路ニ遇ヒ、酒肴ヲ設ケテ慰メテ曰ク、昔、顔涿聚ハ梁甫ノ巨盜ナリ、段干木ハ晉國ノ大駟ナリ、卒ニ齊ノ忠臣、魏ノ名臣トナル。云々

トイヒ、同書(一一三)逢萌傳ニハ

初メ萌、同郡ノ徐房・平原ノ李子雲・王君公ト友トシ善シ、並ニ陰陽ヲ曉リ、懷德穢行アリ、房子雲ト養徒各千人、君公、亂ニ遭ヒテ獨リ去ラズ、僮牛自ラ隠ル。

章懷太子注ニ「僮トハ兩家賣買ノ價ヲ平會スルヲイフ」トイヒ、嵇康ノ高士傳ニハ、「君公、易ニ明カニ、郎トナリテ數々事ヲ言ヒ、用ヒラレズ、乃チ自ラ汚シテ奴婢ニ通ジ、免ゼラレテ歸ル、詐リ狂シテ僮牛者トナリ、口ニ二價ナシ」トアル。此等文獻ニヨルニ、僮即チ駟僮ナルモノハ、君子ノコトデナイ、官僚萬能ノ時代テモアルカラ、賤業者ノ一二數ヘラレタコトガワカルノデア
ル。

コノ傾向ハ、晋代ニ入リテ、益々色彩ガ濃厚ニナツタ。晋令ノ逸文ニハ下ノ正條ガアルノデア
ル、曰ク

僧賣者ハ、皆ナ巾ヲ著クベシ、額ニ白巾ヲ帖シ、僧賣ノ種類及ビ姓名ヲ記スベシ、一足ハ白履、
一足ハ黒履ヲ穿タシム（廣韻所引、原文ニ僧賣者皆當著巾、白帖額、言所僧賣及姓名、一足白
履、一足黒履トアリ）。

章太炎氏ハ、コノ法令ト前ニ掲ケタ漢ノ高祖ノ禁令トシ舉ゲテ、歷代政府ノ軍人ヲ抑制スル二事
デアルトイツテ居ル（五朝法律索隱）。章氏ハ、「漢ノ令ハ誠ニ過刻デアアル、吏道ノ壞レナイ所以ノモ
ノハ、廉恥ノ二字ニ存ジ、商賈ハ惟ダ積貯培克ヲコレ務ムル、已ニ仕宦シテモ、其貪冒ヲ禁ズル
コトガ出來ナイ、既ニ本業ガ商賈デアル以上、仕宦スルヲ得セシメズトモヨイ。タゞ其子孫ハ、
一般人民ト異ヒガナイノニ尙ホ其族世ニ因ツテ禁錮スルトイフコトハ、コノ制ノ過失デアアル。若
シソレソノ章服ヲ殊ニシ、以テ標幟トナスコトハ、兼併者ヲシテ政治ニ干與セシメズ、在官者
亦タ商人ト伍スルコトヲ羞デシムルモノデ、コレハ今世デモ行フコトガ出來ル（中略）漢土諸律ヲ
觀ルニ、徒ラニ政府擁護ノモノハアルガ、未ダ資本家ヲ擁護スルモノハナイ。數朝ノ制定ニハ良
楮ノ異ヒハアルガ、幸ニ拜金ノ辱ハナイノデアアル（同上）。

トマレ、以上ノ事實ヲ檢察スルニ、商業地位ハ、秦漢以降、俄然低下シタコトハ爭ハレズ、ソ
ノ結果トシテ、驅會ハ賤業視サレタノデアルケレドモ、尙ホ經濟上ノ機關トシテ、ソコニ立脚シ、
支那社會トシテハ、必須ノ要件ヲ具ヘテ居タニハ違ヒナイ、ソレガ晋代マデノ型態デアラウト思

ハル、ガ、所謂南北朝時代ヨリ隋唐時代ニ入ツテカラ、駟儻ハ、ソノ性質ヲ一變シテ來タ。駟儻ガ仲買デアルコトノ作用ハ、一樣デアルケレドモ、ソレガ商人ノ手ヨリ離ル、ヤウニ至ツタ。唐代ニ散見スルトコロノ牙儻ハ、ソレデアロウト思フ、以下少シクコノ經過ニ就テ述ベテ見タイ。

七、牙ノ由來——唐ノ節度使

駟儻ガ、牙儻ノ名ヲ以テ呼バル、ニ至ツタマデニハ、幾多ノ變遷ガアル。牙儻ノ儻ガ、駟儻ノ儻デアルコトハ、誰モガ注意スルトコロデアルケレドモ、ソハ何故ニ、「駟」ヲ「牙」ニ易ヘタカトイフ點ニツイテハ、明白デナイ。

吾人ハ牙儻ノ牙ハ、牙旗ノ「牙」ニ淵源スルコト、思フ。「牙ハ、象ノ牙デアル、古代天子ガ出征スル場合、大牙旗ヲ立テタ。ソレハ竿上ニ象ノ牙ヲ飾ツタカラ、故ニ牙旗トイフ」トハ李善ノ文選注(三)ニ示ストコロデアル。李善ハ象ノ牙トイヒ、牙ハ象ニ限ラレテアルケレ共、ソレハ特別ノ場合デアリ一般ニハ、他ノ銳利ナル野獸ノ牙ヲ以テ飾リトシタニ違ヒアルマイ。既ニ天子ナリ將軍ナリガ、出征ノ際ニ牙旗ヲ用ヒ、牙旗ノ樹テラル、トコロニハ、主將ガ居ツタ。牙門旗トイフ名稱モ出來タ(魏志)。ソレガ軍隊ノ單位ヲナシタ場合モアルラシイ(魏ノ丸都斷碑)。コレラノ慣習ハ、ヤガラ、牙旗ノ掲揚サル、ト否トニ論ナク、主將ノ居處ハ「牙」ヲ以テ表出スルコト、ナリ、牙帳、牙宅、牙城トイツタヤウ名稱ガ取次ニ現ハレテ來タノデアル。資治通鑑、貞元元年ノ胡三省注ニ、「唐ハ大明宮含元殿ヲ正牙トナシ、亦之ヲ南牙トイフ」トイヒ、所謂正牙、南牙トイフ

名稱ガ、史上ニ散見スルニ考ヘレバ、唐代ニ於テハ、ソノ常套語トシテ、天子ノ宮殿ヲモ「牙」トイヒ、~~シレニ~~北ノ區別ヲ置イタコトガ明白デアル。タゞコノ場合、斷ハツテ置キタイコトハ、牙門ナリ、牙帳ナリ、凡ソ牙ノ名稱ヲ冠スルモノハ、天子ノ居處ニ限ラルベキモノデハナカツタ、一般官府ヲモ指シタモノデアル。封氏聞見記(卷六)ガ、「近俗、武ヲ尙ブ、コ、ヲ以テ公府ヲ通呼シテ公牙トナレ、府門ヲ牙門トナス」トアルノハ、ソレデアル。

牙官・牙前・牙兵・押牙・都押牙等ノ名稱ガ、コレヨリ取次ニ現ハレテ來タガ、ソレハ唐代ニ於ケル地方軍團即チ節度使等ニ屬スル兵種及ビ階級ノ名稱デアツタ。ソレハ大勢デアル。今日支那ノ督軍ヲ以テ、唐代節度使ニ比擬スルコトハ、必シモ全體デナイケレドモ、地方ノ兵權・財權及ビ司法權ヲ專占シタ一種ノ督軍ガ、節度使ノ名ヲ以テ、現ハル、ニ至リ、ソレガ、絶ヘズ、中央政府ヲ脅威シタモノデアツタ。就中、魏博ノ節度使ガ統率シタ藩鎮ハ、數十年ニ亘リテ世襲シ、ソノ牙兵ハ、一時四方ニ雄視スルトイフ始末デアツタ。ツマリ、武人ノ全盛ハ、六朝末期ヨリノ大勢トモ稱スベク、之ガタメニ、支那地方ノ産業ハ、彼等武斷ノ徒ニ把持セラレ、左右セラル、ニ至ツタ。天子ノ宮殿スラモ、一時ハ南牙・正牙トイツタコトニ顧ミ、且ツ封氏見聞記ノ所傳ニ鑑ムルモ、唐代ノ世相ハ、略ボ窺知セラレルコト、思フ。而シテ、コノ必要ノ結果トシテ、從來、商人ノ手ニヨリテ支持セラレテ居タ商業機關ナリ、商人ノ地位ヤハ、彼等ニヨリテ侵蝕セラレタルコトガ頻々デアツタコトハ容易ニ想到シ得ルノデアル。之ヲ我國ノ例ニ示セハ、神社ヤ寺ガ勢ヲ得タ時代ニ於テハ、各地ノ市場ハ、祠官ヤ僧侶ニ司配セラレ、ソレガ武士時代ナレバ、自ラ諸國

豪族ノ手ニ移動シタト同様デアル、歐洲ノ寺院時代ニモ同一ノ痕跡ヲ見ル。

ハ、牙郎・市牙及ビ牙儉

牙儉ノ名ハ、商人ノ手中ニアツタ駟儉ヲバ、武士政治ニヨリテ掠取シセラレタモノデアロウト思フ。コノ推測ヲ確カムルニハ、先ヅ牙郎・市牙ナル名稱ノ唐代ニ現ハレナケレバナラナイ。次ギノ諸記録ハ、吾人ニ下ノ事實ヲ教ヘテ居ル。其一ハ安祿山事蹟(學海類篇所收、唐姚汝能纂)デアルガ、同書ハ彼レノ生立ヲ敘シテ

安祿山……長シテ姦賊殘忍、智計多シ、善ク人情ヲ揣リ、九番語ヲ解シ、番市牙郎トナル。

トアル。該記事ヲ以テ唐書(二二五上)ノ安祿山傳ニ比スルニ、多少ノ出入ガナイデモナイ、即チ本文ノ九番語ガ六番語ニ作ラレテアルケレドモ、大體ニ於テハ一致スベキ記録デアル。安祿山ハ、營州柳城ノ雜胡デアリ、幽州(北京)ノ節度使張守珪ニ用ヒラレタコトハ知ラレテアルガ、ソノ雜胡デアツタタメカ、外國語ヲ解シテ居ツタ。ソレガ機縁ヲナシテ、節度使ノ互市牙郎トナツタトイフコトハ、頗ル興味アルコト、思フ。祿山ト同僚ノ史思明モ、略ボ之ト同一デアツタ。通鑑ノ玄宗開元廿四年注ニ、肅宗實錄ヲ引イテ左ノ文字ガアル。

祿山互市牙郎トナル、又タ史宰干(思明)ナルモノアリテ、祿山ト里閭ヲ同ジクシ、一日ヲ先後シテ生ル。長ズルニ及ビテ相親愛シ、皆ナ互市牙郎トナル、驍勇ヲ以テ聞ユ。

胡三省ハ、コノ本文ニ注シテ、「牙郎ハ駟儉デアル、南北ノ物價、其口ニ定マル、而シテ後相與ニ

貿易ス」トアル。胡注ニハ、牙郎ガ駟僧デアルコトノ旁證ヲ示シテナイコトヲ遺憾トナスケレドモ、今日、吾人ノ目見シ得ベキ史料ノ範圍ニテハ、牙郎ノ内容ヲ知ルノ便モナク、胡注ヲ信憑スベキモノトシテ採用スルヨリ外ニ途ハナイ。

サラニ注目スベキモノハ市牙ノ成立デアル。唐書食貨志、建平四年ノ條ニ、

戶部侍郎趙贊、除陌錢ヲ稅センコトヲ請フ、天下公私、貨物ヲ給與スルニ、率一貫ニ付キ、舊ト二十ヲ算(稅)セリ、加算シテ五十トナサン、他物ヲ給與シ、或ハ兩換スルモノハ、釣錢ヲバ率トナシテ之ヲ算(稅)ス、市牙ヨリ各々印紙ヲ給シ、人ニシテ買賣アレバ、隨テ署名セシメ、翌日之ヲ合算ス、貿易ニ市牙ヲ用ヒザルモノアレバ、ソレニ私簿ヲ給ス、私簿ナキモノハ、投收自集セシム。其錢百ヲ隱スモノハ二千ヲ投入シ、杖六十トス。告者ニハ十千ヲ賞シ、其家資ヲ取ル。法既ニ行レテ、主人市牙、其柄ヲ專ラニスルヲ得、率ネ隱盜多ク、公家ノ所入、曾テ半ヲ得ズ、怨嗟ノ聲、囂然天下ニ滿ツ、(下略)

トアル。コノ記錄モ判讀スルコトガ、較々艱難デアルケレドモ、唐代ノ市上ニハ、既ニ市牙ト稱スルモノガアツタ、ソレハ官府ノ命ヲ受ケテ、一般取引ニ關與シ、稅ヲ買賣双方ヨリ受入レテ居ツタ。タゞコノ記錄ニヨレバ、市牙ハ、ソノ權利ヲ濫用シテ、公家ノ收入ハ、却テ期待ニ副ハナカッタヤウデアル。

以上二個ノ場合ヲ考案スルニ、前者ハ、戰國以來ノ慣習デアツタ駟僧ガ、牙門ニヨリテ行ハル、ニ至ツタ。牙郎ノ名ニテ知ラレタモノハソレデアアル。市牙亦タ然リ。市牙ト牙郎ト相異ルトコ

ロハ、一ハ國境貿易デ、他ハ國內市場デアルトイフダケデ、ソノ内容ヨリ見レバ、驅僮ガ、官設ノモノトナツタトイフニ過ギナイ。カクシテ牙郎ナリ市牙ナリヲ總括スルトコロノ民間名稱ガ現ハレタ、ソレハ牙僮デアルト思フ。唐書(一七五)張文新傳ニ、左ノ記事ガアル。

文新……嘗テ婢ヲ買テ約ヲ遷セリ、牙僮ニ搜索陵突セラル、御史劾舉セシガ、逢吉(李)之ヲ庇シテ窺治セズ(下略)。

コノ事實ハ、元和年間ノコトデアロウト思ハル、カラ、當時既ニ牙僮ノ名稱ガ成立シテ居ツタコトガ立證セラレルノデアアル。更メテイフガ、コノ場合、「牙」トイフ文字ハ、既ニソノ本義ヲ失ヒ、官府トカ公府トカイフ意義ヲ占ムルニ至ツタ、故ニ牙僮ナル文字ハ、官設驅僮ノ意義ト見テ大差ガナイ。

夢梁錄ノ一節ニ「府宅官員ニシテ、寵妾・歌童・舞女・厨娘・針線供過粗細ノ婢妮ヲ欲スル場合、官私ノ牙嫂及ビ引置等ノ人アリ」ノ記事ガアルガ、コノ事實ハ、前出張文新ノ買婢ト牙僮トノ關係ヲ説明スルコトガ出來ル。唐代ニ「牙嫂」ガアツタトイフ記録ハ、マダ見ナイケレドモ、宋代ニハ官私兩様ノ牙嫂ガアツタ。

九、牙 ト 衙

牙僮ノ「牙」ガ、ソノ原義ヲ失ヒテ、官府トイフ意味ヲ有スルニ至ツタ經過ノ、政治史ニ密接スルコトハ、前述ノ次第デ明瞭デアアルコト、思フ。牙僮ガ、驅僮ノ地位ヲ奪ツタモノデアアルコトモ、

前ニ述ベタ。カ、ル推移ハ自然デアルトハイヘ、ソレニハ、武人專權ノ陰影ノサシテアルコトハ否定サレナイ。故ニ武人專權時代ハトマレ、一旦ソノ聲價ガ、失墜スルコトニナルト、曩時ノ尊稱ハ、寧ロ輕侮ノ名詞トナルコトモ免レナイ。唐ノ記錄ニヨルニ、天子ノ禁軍ハ「侍官」トイッタ、禁中ヲ守衛シ、天子ニ近侍スルコトヨリ生ジタ名稱デアルガ、ソレガ暫クニシテ、市民ノ相嘲罵スル場合ニ用フル套語トナツタコトガアルトイフ。牙官ノ場合モ、之レニ近似スルノデアアル。通鑑注代宗ノ廣德二年ノ條ニ「節鎮州府、皆ナ牙官アリ、行官アリ、牙官ハ牙前ノ驅使ニ給シ、行官ハ行役四方ニ出シム、五季以後、武官ヲ詬詈スルニ、率ネ牙官トイフ」トアル。吾人ハ、該注ニヨリ一個ノ指示ヲ得タコト、思フ。ソレハ外デハナイ、唐末五季トイヘバ、支那民族ハ、一般ニ武人ノ横暴ニ苦ミ、一齊ニ文治派ノ擡頭ヲ望ミテ居タ際デ、武人排斥ノ嘲勢、沛然タルモノガアツタ。「牙」ナルモノハ、カツテハ天子ノ宮殿ニスラモ適用サレ、上下爭ヒテ、コノ名詞ヲ使用シタ。牙官ノ名ガ、一時光榮デアツタコトモ略ボ想像サレルコトデアロウ、而カモ、ソレガ一旦ニシテ詬罵ノ標語ト化シタ。「牙」ナル名詞ヲ冠スルコトハ何トナク不快デアアル、賤業臭味ガシテナラナイ、トイッタ思念ハ、當代ノ凡ベテヲ通ジテアツタ。通鑑注、德宗十八年ノ條ニ「唐ハ東内ハ含元殿ヲ以テ正牙トシ、西内ハ大極殿ヲ以テ正牙トナス。唐制ニ、天子ノ居ヲ衙トイヒ、行ヲ駕牙トイフ、牙ト衙ト同ジ」トイヒ、衙門ノ文字ガ、何時ノマニカ衙門トナリ、「牙前」ハ「衙前」トナリ、凡ソ官府ノ上ニ於テ、「牙」ノ名ヲ冠シタルモノハ、率ネ「衙」ノ文字ニ取り易ヘラレタ。コレラノ事實ハ、大方五季ヨリ宋初ニ行ハレタコトデアロウト思フ。但タ「牙僧」ノ「牙」ガ依然更

改サレズニアツタコトハ、ソノ事ガ、武人ト同様賤視サルベキ商人ノ業務デアツタカラデアル。

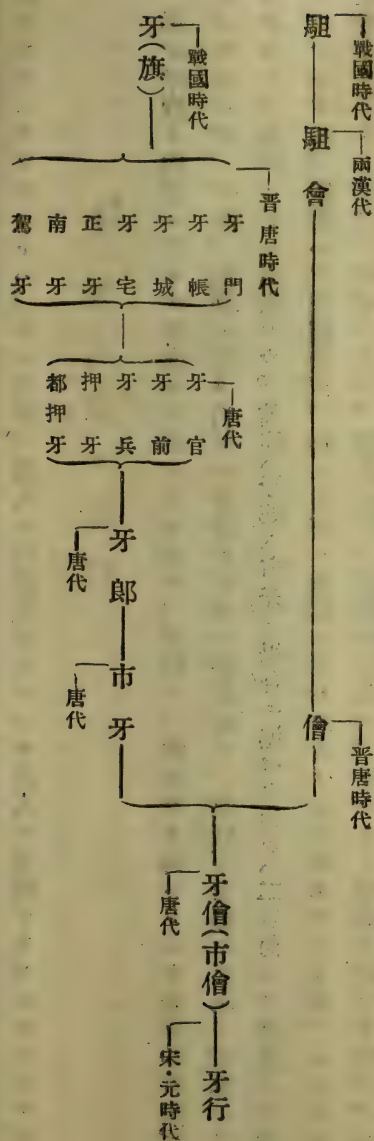
十、牙人及ビ牙行

再ビ牙僧ノ内容ニツキテ考察シテ見タイト思フ、牙僧ハ、政府ヨリ與ヘラレタ獨專仲買商デア
ルトモイヘル、同時、民間ニ於テ自然ニ發展シテ來タ仲買商ヲ、政府ガ公認シテ之ニ獨專權ヲ與
ヘタモノト見ルコトモ出來ヤウ。前節、牙郎ト市牙ノ場合ニ述ベタ如ク、二者何レモ官設ノ牙僧デ
アルケレドモ、後者ハ民間驢僧ガ、時ノ政府ニ承認セラレタカノ如ク解セラル、ガ、コノ見解ハ
至當デアロウト思フ。何ゼナラバ、秦漢以降、民間仲買人ハ、カナリノ壓迫ヲ受ケテ來タ、シカ
シソレガ亡ビタイフノデハナイ。依然商業界ノ牛耳ヲ握ツテ居タワケデアルカラ、牙僧制度ガ、
公布サレタトスレバ、ソレハ、政府ガ民間ノ既得權ヲ承認シタマデノコトニナル。同時ニ政府ガ無
力ナル場合、若クハ國內ガ割據ニ陷ツタ場合ニ於テハ、コノ承認權ガ、怪シクナルニ決マテ居ル。

牙僧制度ガ發達シテカラ、政府向キデハ、單ニ彼等ヲ「市牙人」ト呼ビ、(後唐、天成四年趙燕奏
條——冊府元龜)ヤガテ「牙人」ト呼ンダ(文獻通考食貨、乾通七年戶部言)。同時、牙人ノ店舗ヲ
指シテ「牙行」トイツタノデアル。牙行ノ名ハ、宋代ニ始マルカト思ハル、ケレドモ、未ダ知見セ
ナイ。知レル範圍デハ、元史ノ世祖本紀至元二十二年ノ條ニ「六月詔シテ商稅ヲ減ジ、牙行ヲ罷
メ」云々トアルカラ、遅クモ宋末元初ニ於テコノ名稱ノアツタコトガワカル、蓋シ店舗ヲ「行」ト
呼ブコトハ、南宋以來ノ俗稱デアツタカラデアル(夢梁錄)。

政府ハ、牙行ニ對シテ課税シタ、即チ獨專權行使ニ關スル承認手數料ト視テ可ナルモノデアロウ。前ニ引イタ趙燕奏條ニハ「切ニ見ルニ、京城人、莊宅ヲ買賣スルニ、官中ノ印契ヲ要シ、價格一貫文ニツキテ、契税二十文ヲ抽シ、ソノ市牙人ハ、一貫文ニツキ一百文ヲ收ム、カクテハ、甚ダ貧民ヲ苦マシム、請フ條理ヲ行ハン」トアル(冊府元龜同上)、コノ記事ハ簡單デアルガ、當代田宅賣買ニハ、印契税ヲ要シ、コノ手續ハ、凡ベテ市牙人ヲ經由シタコトガ知レル。宋代ニ於テハコレヲ税名ヲ一般ニ牙契税ト呼ビタ(容齋續筆)。但ダ遺憾ナルコトニハ、唐宋時代ニ於ケル牙税ノ詳細ヲ知ルコトガ不可能デアリ、較々精確ナル數字ハ、元明以降ノ諸記錄ニ由ルノ外ハナイノデアアル。(未完)

以上所説ヲ表記スレバ左ノ如シ



(注) 胡注ニヨレバ、牙官ハ牙前ニ驅使サレルモノデ、牙前ハ名稱デナイヤウニイツテアルケレドモ、牙官ト牙前ト混同サレテアル記事ガアルカラ、牙官ハ一ニ牙前ト呼ビタモノカト思ハレル。「牙」ガ宋代以後ニ「衙」ニ代ハツタ次第ハ本文ニモ述ベテ置イタガ、李氏朝鮮時代ノ「衙前」ハ、「牙前」ニ相當スルカト疑ハレル。「衙前」ガ、市上ヲ支配シ、ソレニヨリテ口錢ヲ收得スルナドハ、牙郎ノ性質ヲモ兼ネテ居ル。(今西龍氏示教)

參考引用書

(1) 荀子 (2) 韓非子 (3) 呂氏春秋 (4) 史記 (5) 周禮 (6) 淮南子 (7) 漢書 (8) 後漢書 (9) 文選李善注 (10) 說文解字注 (11) 廣韻 (12) 唐書 (13) 資治通鑑胡注 (14) 安祿山事蹟(學海本) (15) 封氏聞見記(同上本) (16) 高士傳 (17) 冊府元龜 (18) 夢梁錄(學海本) (19) 文獻通考 (20) 容齋續筆 (21) 通雅 (22) 元史 (23) 圖書集成 (24) 章太炎文鈔 (25) 民國財政等

支那ノ銀ニ就テ (三完)

水 田 淳 亮

一〇

上來記述シタル所ニヨリテ、金宋時代ニ於ケル銀ノ地理的移動ハ簡單ナガラ多少明ニナツタト

思フガ、更ニ觀察ノ方面及ビ時代ヲ他ニ轉ジ、蒙古族活躍ノ初カラ其衰亡ニ至ル頃マデノ關係事項ヲ論究センニ、先ヅ第一ニ説明シナケレバナラヌコトハ、銀ガ從來ト異ツタ別方面カラモ這入ルコトニナリ、シカモソレガ北方支那地方ニ集中セラレタトイフコトデアル。

彼ノ蒙古族ハ十三世紀ノ初カラ十四世紀ニカケテ、近クハ印度波斯方面カラ遠クハ歐洲及ビ南洋方面ニマデ侵略ノ手ヲ延バシ、終ニ比類少ナキ大版圖ヲ形作ツタノデアルガ、コレヨリ先キ支那ト海外トノ通商ハあらびあ商人若クハ波斯商人ノ手ニヨリテ營マレ、彼等ヲ通ジテ銀ハ南方支那ニ流入シテ來タコトハ今迄モ説明シタ通りデアル、而テ十二三世紀頃支那トノ通商ニ參與シ南方ト直接又ハ間接ノ交渉ヲ續ケテ居タ國々ノ狀況ハ宋末福建泉州ノ市舶司タリシ趙汝适ノ諸蕃志ニ詳記サレテアル、然ルニ元代ニ入り一方海路南方向トノ海外交通モ引續キ行ハル、ト同時ニ他方陸路歐亞ノ交通モ漸次盛トナリ、前掲諸蕃志ニ記載セル四十有餘ノ諸邦以外ノ團々トノ關係交渉モ始マツタノデアル、中ニ就テ最モ吾人ノ注意ヲ惹クモノハ露西亞トノ關係デアルガ、今余ハ茲ニ蒙古ノ歐露征服ニ關スル詳細ヲ述ベルノ遑ヲ持タナイカラ端的ニヨノ方面カラノ銀ノ流入ニ就テ記サントスルモノデアルガ、コノ場合先ヅ承知シテ置カナケレバナラヌコトハ歐羅巴デハ今ノ佛蘭西ニシロ獨逸ニシロ奧匈方面ニシロ何レモ十一二世紀頃カラ銀ノ採掘ガ殊ニ盛ニナツタコトデアツテ、一時ハ各國トモ相當多額ノ產出アリ鑛業都市サヘ出現シタ有様デアル、而テ十三世紀以後歐洲全體ガ戰亂ノタメニ惱マサル、コト甚シキニ及ビ何レモ其採掘事業ハ中絶ニ歸シテ仕舞ツタ次第デアル、而モ當時佛蘭西及ビ西班牙ニ於ケル銀鑛ノ採掘ニ就テハあらびあ人ノ力ニ待ツ

所大ナリシコトハ余ガ第二ニ讀者ノ注意ヲ乞ハントスル所デアル。

サテ此ノ時代ノ露西亞ニ於ケル銀ノ產出ハトイヘバ、コレモ當時ノあらび人トシテ有名ナいぶん、ばつうた (Ibn Batuta) ニヨリテ其產出ノアリタルコトガ紹介サレテ居ルコトハあらび人ノ活動ヲ知ル意味ニ於テ興味アルコトデアル、コレニ就テハまるこ、ぼうろ旅行記ニモ露西亞ノ章下ニ

They also possess many silver-mines, from which they derive a large amount of silver.

トコレヲ裏書タルニ足ル文句ガアル、尤モコノ記述ニ就テハ疑ヲ挾ム者モアルガ、今日デハ一般ニ前二者ノ記事ヲ肯定スル方ニ傾イテ居ル、デアルカラ歐露ニ於テ銀ノ產出シタコトハ正確ナ事實ト認メテヨイ。

次ニソレガ直接支那ニ這入ツタノ問題ニ就テ研究シテ見ルト、銀ガ蒙古人ノ手ニ渡ツタト云フ事ダケハ明瞭デアル、時代ハ少シク後レルガPrincelvanヲ責メタ言葉ノ中ニ次ノ如キ句ガアル。

"Thou didst bring Mongols to Russia, and give them land. They love for those enemies and their speech is beyond measure; thou givest gold, lands and silver to them; thy oppression of church is unsparing." Curtin, J. *The Mongols in Russia*. pp. 432.

是ニ由テ觀レバ露西亞デ銀ガ蒙古人ノ手ニ這入ツタコトダケハ確實ト見テヨイ、而テ歐露ニ於テハ北方 Rostov ya Jaroslavl 等ノ都市マデモ一時ハ蒙古人ノ治下ニアリ、收稅官ヲ派シテ苛斂誅求ヲ行ツタトイフコトデアルカラ、必ズヤ此ノ方面カラ直接蒙古人ノ持出シタ銀ハ相當多額ノ

モノデアツタニ相違ナイ、コレト同一ノ事例ハ他ノ方面カラモ求メ得ラレヤウガ、其詮索ハ不満足ナガラ以上ニ止メ置クコトトシ、サテ其銀ガ北部支那ニ流入シタトイフ説ニ關シテハ今ノ所コレトイフ明確ナ證據モ提出シ兼ねルガ、前出 Curtin ノ著書 (二六三頁) ニ Prince Yaroslav ガ西紀一二四五年頃拔都ノ命ニヨリテ元ニ朝貢シタ時ノ狀況ガ記サレテアルカラソレヲ引用スルト次ノ通りデアル。

The gifts which those persons brought with them formed whole camps filled with treasure. Of silver and gold alone there were five hundred wagon-loads.

コレハ數十ノ外邦カラ朝貢シタ時ノ模様ヲ記シタモノ、一節デアルガ、恐ラク其場所ハ朝廷トハイヘ全ク名ノミデ實ハ幕營ニ過ギナイ位ノ所デアツタラウト思ハレルガ、ソレデモ當時貢獻シタ金銀ガ五百車ニ上ツタトイフコトハ、其記事ニ幾分ノ誇張アリト假定シテモ兎モ角モ蒙古活躍時代ノ偉力ヲ知ルニハ十分デアリ、且ツ銀ガ北方ニ集中サレタトイフ解釋ニ證據力ヲ與フルニハ足ルコト、思フ、斯クシテ從來トハ異ツテ西方カラ東方ニ直接流入スルトイフコトガ始マリ、ソレノ本源トシテ一方ニハ露西亞ガアツタコトハ斷定シテ差支ナイト思フ、尙ホコノ外アルユル方面カラ朝貢シタコトヲ考ヘテ見ルト本節ノ初ニ掲ゲテ置イテ銀ノ北方流入トイフ事柄ハ決シテ不當ナル説デハアルマイト思フ、尙ホコノ問題ニ就テハ支那ノ文獻ニハ如何ナル史料ガアルカ、今ソレヲ確メルコトノ出來ナイノハ遺憾デアル。

一
一
次ニ貿易ニ基ク銀ノ流入ニ就テ記スト、コノ時代ノ支那ノ主要輸出品ハ先ヅ生糸ト茶ニ指ヲ屈シナケレバナラヌガ、コレハ金銀珠玉香木其他ノ珍奇ナ品物ト交易サレタモノデアル。

然ルニ元朝ハモト北方ニ起リ一般ニハ此等邊疆地方ハ文化發達ノ程度モ低ク錢幣ノ流通モ極メテ乏シカツタ、ソレハ古クハ金朝ガ大定十三年（西紀一一七三年）ニ會法ヲ行ツタ時ノ狀況ニ照スモ明デアルシ（註）又元代デハ憲宗ガ回鶻カラ水精盤珍珠傘ノ貢獻ヲ受ケタトキ方今百姓疲弊急トスル所ノモノハ錢ノミト嘆ゼラレタコトニ徴シテモ明デアル。

（註）時車駕東巡費用百出自遼以東錢貨甚少計司欲輦運以支調度戶部尙書張亨謂上京路都四千里若輓錢而行率三而致一在費國用重勞民力不若行會法

斯カル狀態デアル所カラ流通上ノ不便ヲ輕減スルタメニハ鈔幣ヲ發行シ全クノ紙幣國ト化シテハ專ラ將士ニ對スル賜與ニ充テタ、而テ他方又平和的手段ニヨル金銀吸收政策ヲ講ズルコトヲ忘レナカツタ、なるこ、ぼうるニ從ヘバ當時印度及ビ其他ノ國ノ商人ハ金銀珠玉ヲ携ヘ來リテ交易ヲシタノデアル（註）然ルニ元朝ハ此等ノ金銀ガ内國商人ノ手ニ入ルヲ欲セズ、悉クソレヲ府庫ニ吸收スルノ方策ヲ採リ、舶載金銀ノ取扱ハ官府ノ專管トナシ商人ガ直接外國商人カラ金銀ヲ受取ルコトハ認メナカツタ、即チ至元十九年（西紀一二八二年）ニハ外國商人ノ持チ來レル商品ノ對價トシテハスベテ紙幣ヲ交付スルノ令ヲ發シタ、コレニ從ヘバ蕃商ハ受取リタル紙幣ヲ以テ金

銀以外ノ他ノ品物ヲ購入シテ携ヘ婦ルヨリ法ハ無イ譯デアル、次デ其翌年ニハ檀香麝香木等ノ所謂香本ヲ外國商人ヨリ買受クル場合此ガ代金ノ支拂ヲ金銀ヲ以テスルヲ嚴禁スルノ令ヲ下シタ、デアルカラ金銀ノ取扱ハ全ク官府ノ特權トナツタ譯デアル。

(駐元代ニハ珠玉塊石類ガ珍重セラタ、コノコトハ丘文莊ノ次ノ文ニヨリテ明デアル、至元所謂寶者則異于塊石碎砂之屬形既不圓文又不瑩鳴呼棄有用之金銀易無用之砂石元胡人也)

以上ヲ概括シテ考フルニ、元代ニ至リテ銀ハ今迄ヨリモ餘程多方面カラ流入スルノ道ガ開カレ多クハ北部地方ニ集マツタノデアツテ、恐ラク其大部分ハ朝廷ノ祕庫ヲ賑ハシ漸次民間ニ流布サレタモノト見ルベキデアラウ。

二二

次ニ余ハ元朝ニ於ケル銀ノ生産政策ニ就テ、一瞥スルモノデアアル、充ヅ第一ニ注意スベキコトハ銀ノ採掘ノタメニ強制勞働制度ヲ採用シタコトデアアル、コレハ從來宋時代ハ専ラ自由勞働ニヨリテ採掘ヲ續ケテ來タコトニ對シテ特異ニ感ゼラル、點デアアル、尤モ中統元年(西紀一二六〇年)ニハ一時其制度ヲ廢止シ勞働者ヲモ解放シタノデアアルガ、其後ニ至ツテ更ニコレヲ復活シタ、シテ見ルト強制勞働制度ハ元代ノ採鑛上ノ一特色ト見テモヨイノデアツテ、宋朝ガ自由制度ニヨリテ産額ノ増加ヲ計リタルト全然反對シテ居ル、コレガ理由ハ如何デアルカトイフニ大體次ノ二項ニ要約スルコトガ出來ル、即チ

一、自國鑛產ノ開發ヲ計ルノ必要ナカリシコト、詳言スレバ多クノ外邦ヲ征服シテ金銀ノ富源ヲ一手ニ掌握シ、外部カラ續々銀ノ流入アリタルヲ以テ強テ國內ニ於テ其自給策ヲ講ズルノ必要ナカリシコトデアル。

二、鈔幣ノ發行ニヨリ硬貨ノ必要ヲ感ズルニ至ラナカツタコト、即チ詳言スレバ、元朝ニ於テハ劉秉忠ノ所謂錢用于陽楮用于陰ナドトイフ一種ノ陰陽說ニ從ツテ、錢貨ノ不足セルヲ幸ニ銀鈔ヲ發行スルノ方策ヲ採ツタノデアルガ、其武力ヲ背景トセル權勢ニヨリテ、紙幣ノ流通モ比較的圓滑ニ運ンダノデアル。

コレ等ノ理由ニヨリテ、採鑛上強テ、逢迎的政策ニヨラズトモ不都合ヲ感ズルマデニ至ラズ、從ツテ彼等ノタメニハ傳統的トモイハルベキ武斷的ナ方法ニヨリテ採鑛ヲ行ツタノデハナイカト思フ次第デアル。

(註) Collins, W. E.—*Mineral Enterprise in China*, pp. 23.

III

本節ニ於テハ引續キ元時代ノ銀幣及ビ銀ノ流布ニ就テ簡單ナル説明ヲ試ミント欲スルモノデアル。

元代ニハ多額ノ銀ガ國庫ノ收入トナツテ來タコトハ前記ノ通りデアル、ソレニモ係ラズ不思議ナコトニハ元代ハ純然タル軟貨國デアツテ紙幣ヲ以テ唯一ノ法貨トナシ、硬貨ハ全然コレヲ鑄造

セザルノ方策ヲ執ツタ、コレハ貨幣制度上特異ナル事柄デアル、而テ其理由ニ就テ記述スルコトハ他ノ機會ニ讓ルコト、シ、唯一ツコノ時代ノ幣制上省略スルコト能ハザルハ、所謂馬蹄銀ノ初メテ出現シタトイフコトデアル、其來歴ニ就テハ輟耕錄ニ詳細ガ出テ居ルカラ之ヲ次ニ摘録シテ置ク。

銀錠上字號楊州元寶乃至元十三年大兵平宋回至揚州丞相伯顏號令搜檢將士行李所得撒花銀子銷鑄作錠每重五十兩歸朝獻納

コレニヨリテ見ルト將士ハ各地デ銀ヲ掠奪シタモノト思ハレル、而テ其後ニ至ツテ又元寶ノ鑄造ガ行ハレタ、即チ輟耕錄ニハ此ノ如ク記サレタル。

後朝廷亦自鑄至元十四年者重四十九兩十五年重四十八兩遼陽元寶乃至元二十三年二十四年征遼東所得銀子而鑄者

コノ元寶銀ハ其後ニ至リテ寶賜ノ用ニ充テラレ、漸次民間ニ流布シテ取引ノ用ニ供セラル、ニ至ツタノデアツテ輟耕錄ニハコレニ就テハ

世祖大會皇子王孫駙馬國戚從而頒賜或用貨賣所以民間有此錠也

トノ記事ガ出テ居ル。

次ニ銀ノ流布ニ關シテ特ニ吾人ノ注意ヲ惹ク事柄ヲ摘記スルナラバ、カクノ如ク祕庫ニ積マレタ所ノ銀ガ大部分ハ功臣其他ヘノ賜與ノタメニ費サレタトイフ事實ヲ舉ゲナケレバナラヌ、元朝ガ歲賜其他ノタメニ莫大ナ銀ヲ撒布シタコトハ實ニ前代未聞ノコトデアル、コノ事ハ日知錄ニモ

古來賞賜之數莫侈於元

ト記シテアル、尙同書ニハ

成宗即位賜駙馬蠻子帶銀七萬六千五百兩闊里吉思一萬五千四百五十兩高麗王王暉三萬兩其定諸王朝會賜與有至金千兩銀七萬五千兩者

トイフコトモ出テ居ル、元史食貨志ニモ歲賜ノ項ニ諸王其他ノ者ニ對スル銀ノ賜與ガ記サレテアル、コレハ漢時代ニ黃金ヲ頒賜シタノトアル點ニ於テ好一對ノ事蹟トイフテヨイ、而テ殆ド浪費的トイハル、マデニ銀ヲ撒布シタノハ蒙古古人ノ銀ニ對スル特別ノ愛好ガアツタコトニモヨルデアラウガ(註一) 一方元朝ハ紙幣ヲ以テ一種ノ本位貨トナシ殆ド無制限的ニ之ヲ發行シ得ル狀況ノ下ニアリタルガ故ニ、財政上甚シキ顧慮ヲ要シナカツタトイフコトモ其理由ノ一ト見テヨイ(註二) えどさんすモイヘルガ如ク元朝ガ若シ金銀ノ撒布トイフ點ニ就テ今少シク緊縮方針ヲ採ツタナラバ其餘命ハ幾何ナリトモ延長シ得ラレタヤモ知レナイノデアアル(註三)

斯ノ如ク銀ガ浪費的ニ撒布サレタトハイフモノ、コレガ流布ノ疎密程度ヲ地方的ニ考察シテ見ルナラバ、依然トシテ南方ニ密ニシテ北方ニ疎デアツタノデハナイカト思フ、當時ノ銀器ノ利用等ヲ調べテ見テモコノ觀察ハ正當ナルガ如ク思ハレル、輟耕錄ニハ元明時代ノ有名ナ銀匠ノ名前ガ列舉シテアルガンレノ地的分布ヲ見ルト嘉興平江松江廣東等デアツテ北方地方ノ名稱ガナイ廣東ガ當時カラ今日ニ至ルマデ支那銀器ノ產地トシテ著名ナルハ人ノ知ル通りデアアル、然ルニ北方殊ニ疆外地方ニナルト銀器ノ使用モ餘リ行ハレナカツタカニ考ヘラレル、元朝ノ文臣張德輝ト

イフ人ノ嶺北紀行ノ一節ニモ具ニ嶺北(コ、デハ漢人ノ所謂壩外ノ地即チ陰山以北ヲ指スノアレ)ノ風物ヲ叙シテ

其什器皆用樺木不以金銀爲飾尙質也

トイツテ居ル、コレニヨリテ略ボ同地方ノ狀況ヲ窺フコトガ出來ルコト、思フ、

註一 清朝時代ニモ蒙古諸帝ノ汗、親王、郡王、貝勒其他ニ對シテハ銀五十兩乃至五百兩ヲ賞賜シ、其他朝貢ノ場合使人隨帶人等ニモ外賞ト稱シ銀錠ヲ賜與スルノ則例ガアッタ

註二 Edkins, Chinese Currency pp. 11

註三 Ibid. pp. 10.

(完)

附記 最初ノ豫定デハ近代マデノモノヲ纏メル積デアッタガ、少シク考フル處アリ一應本稿ヲ以テコノ篇ノ完結トシテ置

ク次第デアル

會 告

●只見教授辭任 本會創立以來評議編纂庶務委員トシテ専ラ會務ニ執筆セラレタル只見徹氏ハ病氣ノ爲メ退職シ郷里埼玉縣栗橋町ニ歸リ靜養中ナリ本會ノ今日アルハ氏ノ盡力ニ負フ所大ナリ茲ニ謹デ謝意ヲ表シ、併セテ平癒ノ一日モ早カラシムコトヲ禱ル

●作田教授歸朝 カネテ歐米留學中ナリシ作田莊一氏ハ去ル一月廿九日北野丸乗船するせいゆ發三月十日一路無事歸朝セラレタリ

●貿易科近況 支那貿易科本年度卒業生ハ四名外ニ聽講生十名アリ其ノ氏名及ビ研究論文左ノ如シ

卒業生

買辦制度ノ研究

安達庸男

支那蠶絲ト絹織物

中田豐衛

支那ノ羊毛

宇高芳隆

天津ノ通貨ト關稅

雲成義太郎

聽講生

伊藤熊市 稻垣得之 伊佐幸作 加藤文平

會 告

加藤尙武 藤井美郎 木村庸三 城下觀一
瀬川政男 杉富士雄

寄贈出版物

本年一月以後ノ寄贈出版物並ニ寄贈者芳名ヲ錄シテ感謝ノ意ヲ表ス。

佛國戰禍地方ニ於ケル農業

農業トラクターニ就テ

滿洲事情第二編

戰事戰後ノ金融及金貨問題

大連商業會議所年報

大正八年青島埠頭年表

調查彙纂第三卷第二三號

金融事項參考書

支那ノ産業ト金融

支那陸境關稅制度綱領

「チエツク、スロボキア」共和國憲法

銀價及銀市場並ニ銀爲替統轄制度ニ就テ

勞働時間ト生産高並ニ勞働者ノ健康

歐米取引所調査委員會報告集一二、

支那ノ富源

支那人社會ノ性的缺陷

支那學 每號

北海道帝國大學經濟學農政學研究室

同

外務省 通商局

大阪高商銀行業務研究室

大連商業會議所

青島埠頭事務所

北海道拓殖銀行

大藏省理財局

田中忠夫

外務省臨時調查局

同

朝鮮銀行東京調査支局

農商務商工局

日本銀行調査局

三井合名會社調査課

小島祐馬

同

大正八年朝鮮貿易要覽

Commercial Handbook of China

研究館月報 每號

經濟資料 每號

埠頭月報 每號

支那 每號

營口商業會議所月報 每號

商業研究所彙報 每號

滿蒙研究所彙報 每號

財政經濟時報 每號

東方時論 每號

上海港貿易統計月表 每號

大陸工報 每號

亞細亞時論 每號

護謨時報 每號

臺灣時報 每號

上海日本人雜穀肥料同業組合月報 每號

滿蒙之文化 每號

綿絲同業會月報 每號

電氣工業雜誌 每號

支那問題 每號

日華公論 每號

朝鮮總督府週報 每號

岡本春三山東經濟時報 每號

長崎高商研究館山東公論 每號

滿鐵東亞經濟調查局支那研究彙錄 每號

青島守備民政部埠頭中華經濟 每號

東亞同文會編纂部調查彙報 每號

營口商業會議所調查彙報 每號

神戶高商研究所調查報告 每號

大連商業會議所山林彙報 每號

東京其社日本法政新誌 每號

東京其社會計滿洲經濟時報 每號

大連興亞技術同志會外報摘要 每號

東京黑龍會 每號

東京其社 每號

臺灣總督府其所 每號

上海同組合 每號

滿蒙文化協會 每號

上海同會 每號

北京電氣工業學校雜誌部 每號

東京其社 每號

天津其社 每號

京城同會 每號

上海日本商業所議會

青島其社

濟南其社

北京亞細亞通信社

上海其社

山下汽船株式會社調查課

山本商店綿布部

大阪高商銀行業務研究室

農商務省山林局

日本法政學會

東京其社

大連其社

三井合名會社調查課

東亞經濟研究合本

第一卷 定價金一圓十錢也

第二卷 定價金一圓五十錢也

第三卷 定價金一圓七十錢也

第四卷 定價金一圓九十錢也

送料各卷共內地金十二錢

臺灣、樺太、金參拾錢

滿鮮、支那、金四十五錢

右各卷各號トモ殘本アリ本會ニ御照會

ヲ乞フ

大正十年四月八日印刷
大正十年四月十日發行

山口縣吉敷郡小鯖村大字下小鯖
第千七百五十三番地

編輯者

大田 一穂

印刷者

加藤 保

印刷所

東京市神田區三崎町三丁目一番地
文明社印刷所
電話九段二三六二番

發行所

山口高等商業學校內
東亞經濟研究會
振替口座福岡一〇一〇七

發賣所

東京市神田區南神保町六番地
有斐閣雜誌店
電話本局四三二〇
振替口座東京五四〇六

定價一冊金四拾錢
郵稅四分
一年分郵稅共
壹圓七拾六錢

山口高等商業學校校長
山口高等商業學校講師

横地石太郎先生序
田中忠夫先生著

最新刊

支那の産業と金融

菊判五百頁
總布裝兩入
金四圓三拾錢
書留送拾九錢

本書は著者多年支那の産業と金融に就て實地を踏査考究したる結晶にして在來の机上論と其撰を異にせる對支關係者の必讀書なり

（斑 一 容 內）

- 【周代貨幣史論】政治及財政狀態——經濟一斑——商工狀態——貨幣用語と種別——物品貨幣金屬貨幣——機關——鑄造——造幣權——錢幣考——形狀——模倣——錢文【漢代經濟政策論】
- 【後唐貨幣史論】鑄造——流通——偽錢——銷錢——貯藏——調整【後晉貨幣史論】
- 【後唐貨幣史論】銅禁政策の内容——動機——効果——銅鏡佛像——遼代貨幣史論——鑄造——流通——外國錢——銷錢——流通——調整——價格——結言
- 【支那茶葉總論】茶の名稱——茶の原產地——形狀——成分——効能——衰因等——生産組織——金融機關の改善——交易上の振興策——販路擴張方法【支那茶消費論】支那人の喫茶量及嗜好——産額——産地——種別其他
- 【銀價の騰落と支那經濟界】金融に及ぼす影響——外國貿易——商業上農業上工業上交通及供給等——及ぼす影響——長沙——融事情——進貨——銀銅——銀元——銅元——金融機關——中日——湖南——裕洲——寶興鑛業其他
- 【米國對支利權政策】水道借款——道准——大運河浚渫——福建軍港其他【米國硝子工業】原料——製品——製法——工場——支那硝子——日本對支硝子政策【蘇州經濟事情】交通——商業——工業絹織物——染織——紡績——製絲——麥粉——電燈其他【新銀行團問題】起原變動と日本——勢力範圍の危險——銀行團歷史——列強其他

前大藏大臣
若槻禮次郎閣下序
山口高等商業學校講師
田中忠夫先生著

支那經濟研究

金送 列強の支那投資、生産と物資の現状及將來を精述し支那經濟史及貨幣史論に到つては前人未到の曠野を開拓せんもの。

山口高等商業學校

東亞經濟研究

第五卷 第三號

研究

葡萄牙人支那渡來顛末(二)……………文學博士 矢野仁一

駝僧牙僧及ヒ牙行ニ就テ……………講師 稻葉岩吉

中華民國ノ標準語問題……………講師 石山福治

支那茶業史論……………講師 田中忠夫

論說

樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ……………講師 稻葉岩吉

調査

支那ノ蠶業及機織業(一)……………中田豐衛

江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ……………瀬川政雄

雜錄

支那人まほめつと傳(一)……………教授 菱川精一

最近支那財政ノ收入支出實況……………教授 井上翠

湖南省ノ硝子工業……………講師 田中忠夫

山口高等商業學校校長
山口高等商業學校講師

横地石太郎先生序
田中忠夫先生著

最新刊

支那の産業と金融

菊判五百頁
總布裝兩入
金四圓三拾錢
書留送拾九錢

本書は著者多年支那の産業と金融に就て實地を踏査考究したる結晶にして在來の机上論と其撰を異にせる對支關係者の必讀書なり

(斑 一 容 内)

【周代貨幣史論】政治及財政狀態——經濟一斑——商工狀態——貨幣用語と種類——物品貨幣金屬貨幣——機關——鑄造——造幣權——錢幣考——形狀——模樣——錢文【漢代經濟政策論】【後唐貨幣史論】鑄造——流通——偽錢——銷鑄——貯藏——調整——貨幣政策論【後馬貨幣史論】銅禁政策の内容——動機——効果——銅鏡佛像【遼代貨幣史論】鑄造——流通——外國錢——銷鑄——流通——調整——價格——結言【支那茶業總論】茶の名稱——茶の原產地——形狀——成分——功能——衰敗——衰因等——生産組織——金融機關の改善——交易上の振興策——販路擴張方法【支那茶消費論】支那人の喫茶量及嗜好——産額——産地——種別其他【銀價の騰落と支那經濟界】金融に及ぼす影響——外國貿易——商業——農業——工業——交通及供給等に及ぼす影響——長沙——融事情——通貨——銀銅——銀元——銅元——制錢——金融機關——中日——湖南——裕洲——寶興鐵業其他【米國對支利權政策】水道借款——道准——大運河浚渫——福建軍港其他【米國硝子工業】原料——製品——製法——工場——支那硝子——日本對支硝子政策【蘇州經濟事情】交通——商業——工業絹織物——染織——紡績——製絲——麥粉——電燈其他【新銀行團問題】起原變動と日本——勢力範圍の危險——銀石團歷史——列強其他

前大藏大臣
若槻禮次郎閣下序
山口商講師

支那經濟研究

金送 列強の支那投資、生産と物
三料 資の現状及將來を精述し支
圓金 那經濟史及貨幣史論に到つ
八十 合 七九 番 番
ては前人未刊の曠野を開拓

東振 京日 本京 橋一 數七 寄五 町番 大 阪 屋 號 發 兌 三 四 話 局 電 本 七 八 七 三 番 番

山口高等商業學校

東亞經濟研究

第五卷 第三號

研究

葡萄牙人支那渡來顛末(二).....	文學博士	矢野仁一
祖僧牙僧及ヒ牙行ニ就テ.....	講師	稻葉岩吉
中華民國ノ標準語問題.....		石山福治
支那茶業史論.....	講師	田中忠夫

論說

樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ講.....	講師	稻葉岩吉
-----------------------	----	------

調査

支那ノ蠶業及機織業(一).....		中田豐衛
江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ.....		瀬川政雄

雜錄

支那人まほめつと傳(一).....	教授	菱川精一
最近支那財政ノ收入支出實況.....	教授	井上翠
湖南省ノ硝子工業.....	講師	田中忠夫

山口高等商業學校校長
山口高等商業學校講師

橫地石太郎先生序
田中忠夫先生著

最新刊

支那の産業と金融

菊判五百頁
總布裝兩入
金四圓三拾錢
書留送拾九錢

本書は著者多年支那の産業と金融に就て實地を踏査考究したる結晶にして在來の机上論と其撰を異にせる對支關係者の必讀書なり

（斑 一 容 內）

- 【周代貨幣史論】政治及財政狀態——經濟一斑——商工狀態——貨幣用語と種別——物品貨幣金屬貨幣——機關——鑄造——造幣權——錢體考——形狀——模樣——錢文【漢代經濟政策論】
- 【後唐貨幣史論】鑄造——流通——偽錢——銷鑄——貯藏——調整【後晉貨幣史論】
- 【後居貨幣史論】銅禁政策の内容——動機——効果——銅鏡佛像【遼代貨幣史論】鑄造——流通——外國錢——銷鑄——流通——調整——價格——結言
- 【支那茶葉總論】茶の名辭——茶の原產地——形狀——成分——効能——衰頹——衰因等——生産組織——金融機關の改善——交易上の振興策——販路擴張方法【支那茶消費論】支那人の喫茶量及嗜好——産額——産地——種別其他
- 【銀價の騰落と支那經濟】金融に及ぼす影響——外國貿易——商業——農業——工業——交通及供給等に及ぼす影響——長沙——融事情——進貨——銀鑄——銀元——銅元——制錢——金融機關——中日——湖南——裕湘——寶興鐵業其他
- 【米國對支利權政策】水道借款——道淮——大連河凌漢——福建軍港其他【米國硝子工業】原料——製品——製法——工場——支那硝子——日本對支硝子政策【蘇州經濟事情】交通——商業——工業絹織物——染織——紡績——製絲——麥粉——電燈其他【新銀行團問題】起原變動と日本——勢力範圍の危險——銀石團歷史——列強其他

前大藏大臣
若槻禮次郎閣下序
山口商講師
田中忠夫先生著

支那經濟研究

金送
圓金料
八拾七

列強の支那放資、生産と物資の現状及將來を精述し支那經濟史及貨幣史論に到つては前人未到の曠野を開拓

大阪屋號

東京
日本橋
數寄
寄五
町番

兌發

電話
三二四
七八二
番

山口高等商業學校 東亞經濟研究

第五卷 第三號

研究

葡萄牙人支那渡來顛末(二).....	文學博士	矢野仁一
駙儉牙僧及ヒ牙行ニ就テ.....	講師	稻葉岩吉
中華民國ノ標準語問題.....	石山福治
支那茶業史論.....	講師	田中忠夫

論說

樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ講	師	稻葉岩吉
------------------	---	------

調査

支那ノ蠶業及機織業(一).....	中田豐衛
江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ.....	瀨川政雄

雜錄

支那人まほめつと傳(一).....	教授	菱川精一
最近支那財政ノ收入支出實況.....	教授	井上翠
湖南省ノ硝子工業.....	講師	田中忠夫

評 會
議 員
員 長

[illegible]

教授	講師	講師	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	校長						
前田幸太郎	牧野清利	國吉三省彦	久保清彦郎	永井龍太郎	奈倉次郎	武田敏信	田中保平	田中忠夫	吉田虎雄	蒲生保鄉	鷺尾健治	大本利一	大橋末彦	德重伍介	西山榮久	今津明	岩本安之助	井上翠	稻葉岩吉	横地石太郎

評議員

同

同

同

二

5

會計委員

庶務委員

調查委員

同

同

同

編纂委員

同

同

11

11

51

司

同

教授 作田 莊一

教授 齊藤 源四郎

教授雜賀思義

委 托 代 理 人

文 奉
之 拉
之 万
日 日
骨 骨
一 一

受命大系

~~~~~

教授 蒲生 保 郷

教授 水田淳亮

教授并上奏

講師 田中忠夫

教授 作田 莊一

教授 水田 淳亮

講師 稻葉 岩吉

教授 井上 翠

孝 友 德 重 仁 介

文 委 士 拉 育 亨 三 月 吳 伯 邵 沅

收 免 日 中 保 三

韓而曰中忠夫

敬受作印莊一

教授 水田淳亮

# 東亞經濟研究

第五卷第三號 大正十年七月發行

## 研究

### 葡萄牙人支那渡來顛末 (二)

矢野 仁一

#### 第四章 たまん占據時代ノ葡萄牙ト支那トノ

##### 關係ニ就テ

二 ふえるなん・べれす<sup>(1)</sup>・どあんどらーで及ビとめ・びれすノ支那渡航ニ就テ  
ばるろすノそるたう譯ニ據ツタぶれつとしゆないでるニ、一五一六年八月十二日まらつかノ知  
事ガ、べれすとれろヨリ何ノ報知モ無イノデ、其安否ヲ探ラシムル爲メニ、支那ニ渡航セシメン  
トシタふえるなん・べれす<sup>(1)</sup>・どあんどらーでハ、風浪ノ難ニ遭ツタモノカ、支那渡航ノ目的ヲ達セ  
ズシテ、まらつかニ歸ラナケレバナラヌ様ニナツタガ、歸ツテ見ルト、既ニべれすとれろハ、支

研究及調査 葡萄牙人支那渡來顛末

(三二九)

一

1) Bretschneider, Ibid, Vol. II, p. 317.



那カラ、支那人ニ商品ヲ賣ツテ、非常ノ利益ヲ得テ歸ツテ居タノデ、彼ハ再ビ支那ニ派遣サル、コト、ナリ、胡椒ヲ積載シテ、一五一七年六月十七日まらつかヲ出帆シタ様ニ言ツテ居ル。ペレスとれるハ支那カラ澤山ナ貨物ヲ積載シテまらつかニ歸リ、二十倍ノ利益ヲ得タバカリデナク、支那人ノ平和ヲ愛シ、葡萄牙人トノ親交ヲ望ミ、其性情ノ善良、親愛スルニ足ルコトヲ報告シタノデ、ふえるなん・ペレスハ、當時意中ニアツタ印度べんごうる行キヲ延期シテ、急ニ支那行キヲ決行スルニ至ツタト云フコトハ、ふあーが<sup>(3)</sup>そんなモ見エテ居ル。然シ、かえるなん・ペレスノ支那行キハ豫定ノ計畫デ、ペレスとれるノ冒險奇利ノ譚ハ、此計畫ノ實行ヲ促ガシタコトハアツテモ、之ニ依ツテふえるなん・ペレスノ計畫ヲ産ミ出シタモノデハナイ。當時葡萄牙ニ官仕シテ彼ト支那行キヲ共ニスベキ筈ノじおづあんに・だ・えむほりト云フ伊太利人ノ船ガ、すそとらノばさいノ港デ火ヲ失シ盡ク胡椒ノ船荷ヲ焼失シタ爲メ、ふえるなん・ペレスハ一時支那行キヲ見合せ、べんごうる行キヲ先ツ實行セントシタガ、まらつか知事ノ勸止ニ遇ヒ、澁々支那行キニ同意シタノデアッタガ、丁度此時ニペレスとれるガまらつかニ歸著シタノデ愈々支那行キヲ決心シタニ過ギナイ。<sup>(4)</sup>ふえるなん・ペレスノ支那渡航ハ、葡萄牙王ノ命令ニ出デタコトハ明カデアル。ふあーがそんな、彼ハじおづあんにノ船ガ焼失シタノデ、所謂支那發見ヲ中止シテ、先ツべんごうる發見ヲ舉行セントシタコトヲ叙シ、ソレハマタ葡萄牙王ノふえるなん・ペレスニ委任セルモノデアルト言ツテアル。

3) Ferguson, Ibid, p. 8.

4) Ferguson, Ibid, p. 8.

其他ふえるなん・ペれすが、廣東ニ於テ、支那官憲ヨリ上陸ヲ勸メラレシ時ニモ、自分ハ船舶ノ安全ニ就テ、葡萄牙王ニ責任アリト言ツテ、辭ツタコトカラモ推定サレル。ふあゝがそんニ引用セルじおうあん<sup>(5)</sup>にノ一五一年十一月十五日こちん發ノ書ニ、此年葡萄牙派遣使節ノ支那ニ赴クベキコトヲ述ベテ居ルガ、コレハ葡萄牙王ノ既ニ此時カラ支那ニ使節派遣ヲ考ヘテ居タコトヲ指示スルモノデ、此使節ヲ護送スベキ船隊ノ指揮官トシテ、あぶるけノまらつか占領以來舊隊ノ總指揮官デアツタふえるなん・ペれすが任命シタモノデアルト云フコトモ、大概間違ヒナキ想像デアラウ。

じゆんぐすてつとニモ彼ガ支那海ノ或部分ヲ測定スベキ葡萄牙王ノ訓命ヲ受ケテ居タコトガ述ベテアル。兎モ角ふえるなん・ペれすが支那行キハ葡萄牙政府ノ官命ニ依ルモノデアルコトハ、彼ガべんごうる行キヲ先ツ舉行セントセシ時ニ、まらつか知事ガ烈シク之ニ反對シ、貿易ノ利益ハ兎モ角、只ダペれすとれろ一行の運命ヲ見届クルダケノコトデモ、直チニ支那行キヲ決行スベキコトヲ勸説シタコトガ、ふあゝ<sup>(7)</sup>がそんニ述ベテアルコトカラモ推知サレル。

ふえるなん・ペれすがじおうあん<sup>(5)</sup>にノ船荷ガ焼失シタ爲メ、支那ニ往ツテモ貿易ノ利益ナキヲ虞リ、支那行キヲ延期セントシタコトヤ、ペれすとれろノ支那貿易ニテ巨利ヲ博シタ譚ガ、俄カニ彼ノ支那行キヲ決行セシムルニ至ツタコトナドカラ考ベテモ、貿易ノ利益ハ固ヨリ彼ノ支那行キ

5) Ferguson, Ibid, p. 6.  
6) Ljungstedt, Ibid, p. 92.  
7) Ferguson, Ibid, p. 7.

ノ目的ノ一デアツタコトハ論ズルマデモナイガ、然シ彼ノ更ニ重要ナル使命ハ、前ニ述べタ様ニ  
葡萄牙派遣ノ使節護送ニアツタコトハ明カデアル。此時支那派遣ノ葡萄牙使節トシテ任命サレタ  
モノハ、とめ・びれす<sup>(8)</sup>ト云フ藥劑師デ、頗ル才幹ニ富ミ、あるふけるけニ器重セラレ、毎ニヨク委  
任ノ事務ヲ辨理シテ令名ガアツタノデ、新總督ろぼ・そあれす・ど・あるべるかりあガ葡萄牙王ヨ  
リ支那派遣使節ノ人選ヲ委任サレテ着任スルヤ、匆々とめ・びれすノ才幹必ズ能ク支那ノ國土ニ  
關スル重要事項ヲ探究復命スベク、僅ニ支那ノ草木藥物ニ關スル報告ニ止マラザルベキヲ信ジテ  
之ヲ任命スルニ至リシコトハ、ふあーがそん<sup>(10)</sup>ノ註記ニ見エテ居ル、じゆんぐすてつ<sup>(11)</sup>とニモ、ペレ  
すとれるガ支那カラ歸ツテ、此名高キ國ニ關シテ齋シタ報道ハ、印度總督ヲ動カシ、總督ハとめ・  
びれすノ風采嫺雅、資性溫和、又明敏ニシテ學識ニ富ミ、凡ソ外交官ニ必要ナル一切ノ資格ハ殆  
ンド備ヘザルナキヲ悦ビ、支那派遣ノ使節ヲ任命シ、ふえるなん・ペれすト行ヲ共ニセシムルニ至  
ツタコトヲ述ベテ居ル、とめ・びれすが支那皇帝ニ對スル書簡及ビ禮物ヲ携帯シタコト、北京ニ至  
ツテ支那帝ニ謁見スベキ葡萄牙王ノ訓命ヲ受ケタコトハ明カデアルガ、其如何ナル使命デアツタ  
カト云フコトニ就テハ、じいさす<sup>(14)</sup>ニふえるなん・ペれすが廣東ニ進航シ、支那官憲ニ其葡萄牙王ノ  
使節トシテ同行シタとめ・びれすノ上陸ヲ求メ、又廣東ニ於テ商業關係ヲ開カンコトヲ要求シタ事  
廣東ノ總督ガふえるなん・ペれすノ廣東ニ於テ商館設立ノ許可ヲ請ヘルコトヲ奏報シタ事ガ述べ

8) Thomé Pires.

9) Lapo Soares de Albergaria.

10) Ferguson, Ibid, p. 11, note.

11) Ljungstedt Ibid, p. 92.

12) Jesus, Ibid, p. 3; Ferguson, Ibid, p. 11.

13) Ljungstedt, Ibid, p. 92.

14) Jesus, Ibid, pp. 3, 7.



テアリ、じゆんぐすてつとニ、一五一七年ふえるなん・べれすが廣東ニ於テ三人ノ地方官ニ會シ、  
 彼ノ同行シタ葡萄牙王ノ使節ハ、支那帝ニ謁見シ、葡萄牙王ト和親ヲ結び、葡萄牙人ノ貿易自由  
 ノ許可ヲ請フベキ葡萄牙王ノ訓命ヲ帶ビテ居ル事ヲ告ゲタコトガ述ベテアルニテ大概ヲ髣髴スル  
 コトヲ得ルノミデアル。『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニモふあーがそんニモ、葡萄牙王ノ書簡ハ北京ニ於  
 テ開封サレ、廣東ニ於テふえるなん・べれすノ命ニ依テ通事等ノ書イタ書簡ト文辭ノ相反對シテ  
 居ル事が發見サレタコトハ述ベテアルガ、如何ナル文辭ガ書イテアツタカト云フコトハ明カデナ  
 イ。じいさすニ葡萄牙王ガとめ・びれすノ使命ガ失敗ニ歸シタコトヲ知ラズ、支那ト修好條約ヲ結  
 バシメントシテ支那ニ派遣シタ第二回ノ使節まるていむ・あふあんそ・ど・めるろ・くゝてによガ、  
 一五二二年たまん或ハたまんヨリ一層支那ニ於テ葡萄牙人ヲ保護スルニ適當ナ場所ニ、柵ヲ樹テ  
 之ヲ守備スベキ訓命ヲ受ケ、たまんニ來タコトヲ述ベテ、之ガ許可ニ關スル協定ハ、既ニとめ・び  
 れすト北京政府トノ商議ニ依ツテ、出來テ居ル様ニ信ジテ、何等ノ疑念ナク、たまんニ入港シタ  
 コトガ述ベテアリ、とめ・びれすノ使命ニハ、たまん樹柵ノ許可ヲ得ルコトモ含ンデ居ル様ニ考ヘ  
 ラル、ガ、ふあーがそんノ記事ニハ、まるていむ・あふあんそハ、葡萄牙王ヨリ支那皇帝ト平和條  
 約ヲ結び、又たまんニ柵ヲ樹ル爲メ務メテ皇帝ノ許可ヲ得ベキ委任ヲ受ケテ、一五二二年七月ま  
 らつかニ來タノデアルガ、既ニ此時ニ於テ、支那ト葡萄牙トノ關係ハ惡化シテ居タコトガ分カツ

15) Ljungstedt, Ibid, p. 92.

16) Ferguson, Ibid, p. 104.

17) Ferguson, Ibid, p. 16.

18) Jesus, Ibid, p. 9.

19) Martim Affonso de Mello Coatinho.

20) Ferguson, Ibid, pp. 19, 20.

タニモ拘ラズ、支那ニ進航ノ目的ヲ續行シタコトガ見エテ居ルコトカラ考ヘルト、じいさすノ記述ハ、少シク言ヒ過ギテ居リ、之ヲ證據トシテ、とめ・びれすノ使命ガ、たまん樹柵ノコトマデモ含ンデ居タト斷定スルコトガ出來ナイ様デアル。とめ・びれすノ使命ハ、支那ニ於テ、葡萄牙人ノ爲メニ自由貿易ノ許可ヲ得ルコト、廣東ニ於テ商館設立ノ許可ヲ得ルコトノ外ニハ、支那ト親好ヲ修ムル位ノモノニ過ギナイ様デアル。サウシテふえるなん・べれすハ支那ト貿易ヲ行ヒ、支那海ヲ測量スル外、言フマデモナクとめ・びれすノ使命ヲ援助スベキ任務ヲ持ツテ居タモノト想像サレル。

ふえるなん・べれすハとめト共ニ、カウ云フ外交上貿易上ノ重大ナ使命ヲ持ツテ、武装ヲ施シタ大小八艘ノ船隊ヲ率キテ、一五一七年八月十五日たまんニ着イタノデアル。當時海賊警備ノ爲メ此近傍ニ碇泊シテ居タ支那ノ艦隊ガ、數個ノ小彈ヲ發シテ、此異様ナ新來者ヲ迎ヘタガ、ふえるなん・べれすハ、船員ヲ戒メテ、平和ナ態度ヲ堅持シテ抵抗シナカツタノデ、無事ニたまん港ニ入港スルコトヲ得タ。じゆんぐすてつとハ、猶ホ此時びれすが支那艦隊ノ士官ニ饒多ノ餽遺ヲナシタコトガ、其平和ナ態度ヨリ以上ニ、彼等ノ信用ヲ博セシムルニ至ツタ原因デアルコトヲ指摘シテ居ル。

ふえるなん・べれすハたまんニ入港シタ後、珠江ヲ進航シテ廣東ニ至ルベキ許可ヲらんだをノビ

あニ求メタコトガ、ふあーがそんニ見エテ居ル。藤田博士ハばるろすニ依ルト、ふえるなん・ペレ  
 すノたまんヲ出テ廣東省城ニ向フヤ、其許可ヲ得ンガ爲メニ、なんとーノびおト接衝シテ居ルガ  
 此なんとーハ云フマデモナク南頭ノ對音デ、びおハ備倭官ノ音譯デアルト言ハレテ居ルガ、ばる  
 るすノ原文ニなんとート言ツテアルノヲ、ふあーがそんハらんたをト訂正シタモノデアルカハ、  
 自分ノ知ラザル所デアルガ、らんたを、なんとー恐ラク同一ノモノデ、共ニ南頭ノ音譯デアルト云  
 フコトハ疑ヒガアルマイ。『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニモなんとーハ海賊ノ根據地デアルト言ツテ居ル  
 東莞ノ南頭屯門等ノ海澳ガ海賊窃盜ノ巢窟デアツタト云フ籌海圖編ノ記事ト參照シ、なんとー即  
 チ南頭ニシテ、たまん(屯門)ニ近キらんたをト同一地ナルコトヲ推定セシムル一材料デアル。川  
 島文學士ガ曾テ『元和航海記ノ研究』<sup>(26)</sup>ニ於テ、らんたをハ香港ノ直グ西北ノらんたを(英文)デア  
 ルト言ハレタダケデ、南頭ニ言ヒ及バレナカツタノハ聊カ物足ラヌ感ガアル。

然ルニ此許可ハ廣東官憲ヨリ受クベキモノナリトテ、らんたをノ官憲ハ素氣ナクモ應ジナカツ  
 タノデムえるなんハ焦燥廣東進航ヲ急ギ、船隊ノ中特ニ四艘ヲ選ビ、之ヲ率キテたまん港外ニ出  
 テ、折柄ノ暴風ニ橋ヲ吹折ラレ種々ノ故障ニ遭遇セシモ、辛ク難破ヲ免レ橋ノ附ケ替ヘナド應急  
 工事ヲ施スト共ニ、大小二艘ノ船舶及ビ數多端艇ヲ率キテ、何レモ武裝嚴メシク、先ツらんたを  
 ニ至リ、じおうあんにヲシテ喇叭手護衛隊隨伴、同地官憲ニ廣東進航ノ許可ヲ交渉セシムルニ及

22) Ferguson, Ibid, p. 10.

23) Nanto.

24) 東洋學報第八卷第一號三四頁

25) Ferguson, Ibid, p. 132.

26) 續史的研究三三九頁



ビ、曩キニ廣東官憲ヨリ受クベシトテ拒絕サレシ許可券モ與ヘラレ、水先ヲ供給セラル、コトニナツタノデ、ふえるなん・べれすハ珠江ヲ進航シ、らんたをヨリ三日ニシテ廣東ニ着シ、廣東港外ニ投錨シタト云フコトハ、ふあーがそん<sup>(27)</sup>ノ記事ニ見エテ居ル。時方ニ一五一七年九月ノ末ツ方デアツタ。

一五一七年ハ明ノ正德十二年デ、籌海圖編<sup>(28)</sup>ノ刑部尙書顧應祥云、佛郎機國名也、非銃名也、正德丁丑、予任廣東僉事署海道事、驀有大海船二隻、直至廣城懷遠驛、稱係佛郎機國進貢、其船主名加比丹、其人皆高鼻深目ノ記事、東西洋考呂宋ノ條舊廣東通志ヲ引キテ記シタル佛郎機素不通中國、正德十二年駕大舶、突至廣州澳口ノ記事、天下郡國利病書<sup>(29)</sup>ニ引用セル明ノ西廣都御史林富ノ嘉靖八年ノ上奏中ノ正德十二年有佛郎機夷人、突入東莞縣界ノ記事ハ此時ノ事ニ關スルモノデア  
ルコトハ疑ヒガナイ。然ルニ藤田博士ノ指摘サレシ如ク、明ノ何喬遠ノ名山藏、明史稿、明史佛郎機傳、明ノ焦竑ノ獻徵錄、明ノ茅瑞徵ノ象胥錄ナドニハ佛郎機船ノ入廣シタ年ハ正德十三年ニナツテ居ル。然シソレハ間違ヒデ、正德十二年デナケレバナラスコトハ、當時廣東左布政使吳廷舉ガ佛郎機ノ朝貢ヲ許サントシタ事實アリ、林富ノ嘉靖八年ノ上奏ニ、至正德十二年、有佛郎機夷人、突入東莞縣界、時布改使吳廷舉許其朝貢、爲之奏聞、此則不考成憲之過ノ記事アリ、殊域周咨錄、天下郡國利病書、海外諸蕃佛郎機ノ條ニモ、略ボ同様ノ記事アルニ依リ知ルベク、吳廷

27) Ferguson, Ibid, p. 10.

28) 籌海圖編卷十三

29) 天下郡國利病書卷一百二十海外諸蕃五市

舉ノ左布政使時代ハ、右布政使ヨリ陞任シタ嘉靖十一年ヨリ、副都御史ニ轉ジテ湖南ニ移任シタ嘉靖十二年マデニシテ、ソレハ吾學編名臣記ニ依テ知ルベク、吳廷舉ノ左布政使時代ニ入廣シタノデアルカラ、ソレハ遅クモ嘉靖十二年ヲ下ルコトガ出來ナイカラデアアル。籌海圖編ニ正徳丁丑佛郎機ノ廣城ニ進入セシ時、廣東僉事署海道事顧應祥ガ總督陳金ニ報ジテ廣城來臨ヲ請ヒシ記事アリ、陳金ノ二度目ノ兩廣總督時代ハ正徳十年カラ十二年マデノ事デ、ソレハ弇山堂別集ノ記事ニ依テ知ルベク、コレ亦葡萄牙入廣ノ必ズ正徳十二年ヨリ下ルコト能ハザル一徵證デアアル。

### 三　とめ・びれすノ廣東ニ上陸シ、ふえるなん・べれすノ廣東ニ於テ

#### 貿易ヲ許サレシ事情ニ就テ

前述ノ如ク葡萄牙人ハ一五一四年頃ヨリ支那海ニ出入シテ居ルガ、ソレハ何レモ支那ヤザらいノジャンク船デ渡來シタモノデアアル。又珠江ヲ進航シテ廣東ノ前面ニ達スルト云フコトハ出來ナカツタノデアアル。歐洲式船舶ヲ以テ廣東ニ進航シタノハ、ふえるなん・べれすが始メテアル。十三世紀ノ末カラ十四世紀ニカケテ、羅馬法王ノ北京ニ派遣シタ天主教宣教師じよん・で・もんで・こるぐゐのや、じよん・で・まゐりによりナドヲ除イテハ、歐羅巴諸國ノ使節デ、國王ノ書ヲ以テ、支那ニ來タト云フコトハ、之ガ最初デアルカラ、支那人ヲシテ疑懼ノ念ヲ抱カシメシモ無理ナラズ、ソレニふえるなん・べれすハ廣東ニ着港シテ、每橋ニ旗ヲ掲ケ、禮砲ヲ放ツタノデアルカラ、

30) 弇山堂別集卷六四。

1) Ferguson, Ibid, p. 10; Bertschneider, Ibid, Vol. II, p. 317.

サウ云フ事ニ經驗ノ無イ支那人ヲ如何ニ驚カシタカ、想像サレル。皇明實錄正德十五年十二月ノ條ニ御史何鰲ノト奏ヲ載セテアルガ、其中ニ佛郎機最號兇詐、兵器比諸夷獨精。前年駕大舶、突進廣東省下。銃砲之聲震動上下ト言ツテアリ、明史佛郎機傳ニモ、何鰲ノ此上奏ヲ記シ、前歲駕大舶、突入廣東會城、礮聲殷地ト言ツテアリ、東西洋考ノ呂宋ノ條ニモ、舊廣東通志ヲ引キ、佛郎機素不通中國、正德十二年駕大舶、突至廣州澳口、銃聲如雷ト記シテ居ル。天國郡國利病書ニモ同様ノ記事ガアル當時ノ事ニ關スル記事ナルコトハ明カデアル。

然ルニ會典ニモ祖訓ニモ見エテ居ナイ佛郎機船ガ旗ヲ掲ケ、珠江ヲ進航シ、虎門ヲ越過シテ廣東省城ニ突入シ、禮砲ヲ放ツ様ナ行爲ヲ敢テシタニ拘ラズ、支那官憲ハ何等有力ナ抵制手段ヲ取ツタ様ニ見エナイ。不思議ト言ハザルヲ得ナイ。當時廣東布政使ヨリふえるなん・ペレスニ對シテ此ノ如キ支那ノ習慣ヲ無視シタル異例行爲ニ驚異ノ情ヲ表シ難詰シ來リシコトガ、ふあ<sup>(3)</sup>ーがそんニ見エテ居ルガ、ふえるなんハ之ニ對シテ、是支那ノ禮ヲ知ラザルノ過ニシテ、却ツテ自分ニアツテハ、尊敬ヲ表スルノ意ニ他ナラザルヲ陳謝シタノデ、布政使ノ疑ヒモ解ケシト覺シク、ソレ以上ノ抗議ヲナサズ、葡萄牙人ノ入廣ヲ以テ廣東ヨリ稍離レタル内地ノ一都城(梧州)ニ駐在スル官憲ニ報告シタ。ふえるなん・ペレスハ此等支那官憲ノ着廣ヲ待ツ間、一行中ノ何人ニモ上陸ヲ許サズ、貿易モ嚴ニ廣東河内ノ端艇ニ止メタノデ、其謹慎ナ行爲ノ効果ハ、數日ノ後、前記官憲ガ廣

2) 天下郡國利病書卷百十九、海外諸蕃

3) Ferguson, Ibid, p. 10.



東ニ到着シ、ふえるなん・べれすト數回ノ照會ヲ交換シタル末、日ヲ定メテふえるなん・べれすヨ  
リじあうあんに多數の隨員ヲ伴ヒテ威儀嚴メシク廣東ニ至リ、葡萄牙今度ノ使命ノ目的ヲ反復説  
明セシムルニ及ビテ見ハレ、支那官憲ハ、之ニ關シテ皇帝ニ奏聞旨ヲ請フベキコトヲ約シ、ソレ  
マデ葡萄牙使節ノ廣東ニ上陸居住スルコトヲ許シタト云フコトデアル。<sup>(4)</sup>

東西洋考ニ引用セル舊廣東通志、<sup>(5)</sup>殊域周咨錄、<sup>(6)</sup>天下郡國利病書ナドニ據ルト、佛郎機ノ大舶ハ  
初メ廣州澳口ニ突入シタガ、韋テ撫按(巡撫按察使)ノ會典舊例ニ規定ガ無イト云フ異議ノ爲メニ  
東莞ノ南頭ニ退去シタト云フコトデアル。撫按ノ異議ノ爲メニ東莞ノ南頭ニ退去シタト云フ事ハ  
支那官憲ハ全ク抵制手段ヲ取ラナカツタト云フ譯デナカツタ證據トモ考ヘラレルガ、ふあゝがそ  
ん、ぶれつとしゆないでる、じゆんぐすてつと、じいさす等ニハ見エテ居ナイ事デアルカラ、必  
ズ事實デアツタトハ定メ難ク、廣東官憲ガ、祖訓ニモ會典ニモ見エナイ、佛郎機ノ如キ番舶ノ、廣  
東省城ニ突入スルヲ看過シ、何等有力ナ抗禦手段ヲ試ミナカツタト云フコトハ、直チニ上奏シ難  
ク、撫按異議ニ依テ、東莞ノ南頭ニ退去セルモノ、如ク、事實ヲ矯飾シテ上奏セルモノナラザル  
ナキガ疑ヒナキニ非ズ。假令ソレガ事實トシテモ、平和ノ態度ヲ持シテ支那人ニ對シタふえるな  
ん・べれす等が平和ニ目的ヲ達スル必要ノ讓歩ト思惟シタモノナルベキハ、とめ・びれすが隨員使  
役人等ト共ニ上陸ヲ許サレ、特ニ館舍ヲ供與サレ、支那皇帝ヘノ獻納品ハ嚴重ニ保管サレ、ふえ

4) Ferguson, Ibid, p. 11.

5) 東西洋考卷五、呂宋機

6) 殊域周咨錄卷九、佛郎機

7) 天下郡國利病書卷一百十九、海外諸蕃

るなん。べれすモ、上陸スベキ官ノ勸誘ヲ受ケタレドモ、船舶ノ安全ニ對シテ、葡萄牙王ニ責任アリトテ辭退スルヤ、携帶貨物ノ販賣交易所ニ充ツル爲メ、河邊近ク一家屋ヲ得タシト要求シテ許サレ貿易ヲ行フ爲メ、代理人、書記其他ヲ上陸セシメシコトガふあーがそん等ニ見エテ居ルニテ想像サレル。支那官憲ノ有力ナ抗禦手段ノ爲メニ、餘儀ナク東莞ノ南頭ニ退去シタモノトハ考ヘラレナイ。ぶれつとしゆないでるニとめ・びれすハ、其隨員ト共ニ上陸ヲ許サレ、支那人ヨリ厚遇ヲ受ケ、愉快ナ館舍ヲ供與サレ、貿易ノ爲メ携帶セル葡萄牙人ノ貨物モ、陸揚庫入ヲ許サレシ記事、じゆんぐすてつとニ、ふえるなん・べれすハ一時ノ紛議ヲ和解シ、一行七人ヨリ成ル葡萄牙人ハ上陸ヲ許サレ、支那ニ於テ通例外國ノ使節ガ受ケル様ナ待遇ト給養トヲ受ケシ記事ガアル。じいさすニモ略ボ同様ノ記事が見エテ居ル。籌海圖編ニ佛郎機大海船ノ廣城懷遠驛ニ突入シタル事ヲ叙シ其船主名加比丹、其人皆高鼻深目、以白布纏頭如同回回打扮、即報總督陳西軒公金、臨廣城、以其人不知禮、令於光林寺習儀三日、而後引見、查大明會典並無此國入貢、具本參奏云々ノ記事ヨリふえるなん・べれすハ平和ノ態度ヲ持シタルガ故ニ、廣東官憲トノ交渉ニ任ジタルじおづあんにノ如キモ、其意ヲ體シ、廣東官憲ノ命ノマ、ニ叩頭ノ禮ナドモ行ヒ、總督陳金ニ謁見シタモノノ様デアル。

支那官憲ガ會典祖訓ニ記載ナキ葡萄牙船ノ廣東進入ヲ敢テ禁止セザルノミナラズ、却テとめ・び

7) Ferguson, Ibid, p. 11.

8) Bre'schneider, Ibid, Vol, II, p. 317.

9) Ljungstedt, Ibid, pp. 92, 6.

10) Jesus, Ibid, pp. 3, 4.

れすノ上陸ヲ許シ懇篤ナ待遇ヲ與へ、ふえるなん・べれす等ニ廣東ニ於テ貿易スルコトヲ許シタト  
 云フ事ハ如何ニ説明スベキモノデアラウカ。じえーんノうあすこだ・がま及び其繼承者ニたまん<sup>(11)</sup>  
 ニ投錨セル八艘中廣東ニ進航セル二艘ノ葡萄牙船ガ、廣東ニ到着セル時、支那ノ禮儀ヲ無視シ合圖  
 ノ禮砲ヲ放チ、又每檣ニ旗ヲ掲ケテ裝飾シタノデ、支那官憲ニ詰問サレ、ふえるなん・べれすガ辯  
 解セルコトヲ述ベシ後、じえーん・ふえるなん・べれすガ葡萄牙王使節ヲ廣東ニ同行シタ理  
 由ヲ説明スル任ニ選バレシコトヲ記シ、此じえーん・ふえるなん・べれすノ航海記旅行記集  
 ニ收録サレテアルト註シ、又使節とめ・びれすガ喇叭手ヲ先頭ニ立テ、隨員一行ト共ニ廣東城中  
 ヲ進行セル行列ノ美觀ナリシコトヲ述べ、支那ノ通事ハ佛郎機王ガ四海ノ君タル天子ニ貢ヲ進メ  
 封ヲ請フ爲メ、此使節ヲ派遣シタモノデアルト云フ様ナ、葡萄牙王ノ使節トシテハ敢テ言ヒ得ナ  
 イ説明ヲシタノデ、支那官憲ハ其懇誠ヲ悦ビ、朝貢ノ事ヲ支那帝ニ上奏シテ旨ヲ請フコトヲ許シ  
 とめ・びれすニ館舍ヲ供與シ、ふえるなん・べれす及ビ其部下ニ貿易ヲ許ス様ニナリ、葡萄牙船ハ此  
 貿易ニ依テ得タ數多ノ支那貨物ヲ積載シテ歸航シタコトヲ記シテ居ル。支那通事ハ佛郎機王ノと  
 め・びれすヲ派遣シタノハ天子ニ貢ヲ進メ封ヲ請フ爲メデアル様ニ説明シタト云フじえーんノ記  
 事ハ『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニ據ツタモノデアルコトハ明カデじえーんダケデハ、支那通事ノ此説  
 明ハふえるなん・べれすノ本意デアルカ、ソレトモ彼ノ本意デハナイガ、平和ニとめ・びれすノ入

11) Jane, Vasco da Gama and his Successors, p. 228.

12) Ferguson, Ibid, pp. 57, 103.



觀、廣東ノ貿易ノ許可ヲ得ントシタ彼ノ意思ヲ忖度シテ、此ノ如ク説明スルニ非レバ、到底支那ニ於テ目的ヲ達スベクモアラズトナシ、而カモ此ノ如ク説明スルハ到底彼ノ同意スル所ニ非ルヲ察シ、支那通事自ラ勝手ニ試ミタ解釋デアルカ否カ分ラナイガ、矢張り『葡萄牙ノ捕虜ノ書簡』ヲ參考スレバ、ソレガ分ルノデアル。即チ通事等ガふえるなん・ぺれすニ知ラシメズ、勝手ニ葡萄牙王ノ使節派遣ハ、天子ニ貢ヲ進メ封ヲ請フ爲メデアルト述べタコトハ此『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニふえるなん・ぺれすガ廣東ニ到着セル時、通事等ヲシテかびたん・もーあ即チ水師副提督ガ、葡萄牙王ノ支那皇帝ニ致セル使節ト共ニ來着セル旨ノ書簡ヲ認メシメタルニ、該通事等ハ支那ノ習慣ヲ斟酌シ、かびたん・もーあ及ビ使節ハ佛郎機王ノ命ヲ受ケ、四海ノ君タル天子ニ臣服シ、其冊封ヲ請フ爲メ入貢シタル意味ヲ以テ、其等ノ書簡ヲ認メ、此書簡ノ故ニ支那ノ習慣ニ隨ツテ入國ヲ許サレシコトヲ述べ、通事等ハふえるなん・ぺれすニ之ガ説明ヲナサズ、ふえるなん・ぺれす亦終ニ之ヲ知ルニ及バズ、通事等ハ只ダ自分等ハ内容ヲ理解シテ居ルカラ、支那ノ習慣ニ從ツテ宜シキ様ニ認メタル由ヲ告ゲタノミデアルト言ツテアルニテ分ルノデアル。支那通事ガ、カウ云フ説明ヲナシ、支那官憲ハ此説明ヲ悦ビ、其朝貢ノ許可ヲ奏請スベキヲ許シ、とめ・びれす等ヲシテ廣東ニ滞留シテ、許可ノ諭旨下ルヲ待タシメタト云フコトハ、支那ノ事情トシテモ有リ得ベキコトデ、支那ノ史料ニモ其證據ヲ求メルコトガ出來ル。天下郡國利病書ニ引用セル明ノ兩廣都御史

林富ノ嘉靖八年ノ上奏ニ、至正德十二年、有佛郎機夷人、突入東莞縣界、時布政使吳廷舉許其朝貢、爲之奏聞、此則不考成憲之過トアリ、又殊域周咨錄佛郎機ノ條ニ、其舶住廣州澳口、布政使吳廷舉聞於朝ノ記事ガ見エ、天下郡國利病書海外諸蕃佛郎機ノ條ニモ、駕大舶突至廣州澳口、銃聲如雷、以淮貢請封爲名、右布政使兼按察副使吳廷舉許其朝貢ト云フ記事ガ見エテ居ル。籌海圖編(卷十三)ニモ顧應祥ガ總督陳金ノ廣東出府ヲ請ヒ、佛郎機人ヲシテ光林寺ニ於テ習禮セシメシ後引見シタル記事ノ後ニ、查大明會典並無此國入貢、具本參奏、朝廷許之、起送赴部ノ文アリ。明史滿刺加傳ニモ、佛郎機亦遣使朝貢請封、抵廣東、守臣以其國素不列王會、羈其使以聞ノ記事アリ、佛郎機即チ葡萄牙ハ祖訓會典ニ列載セル朝貢國ニ非ズ、廣東ノ守臣タル陳金吳廷舉ナドガ葡萄牙ノ使節とめ・ひれすヲ廣東ニ羈留セシメテ朝貢ノ許可ヲ奏請シタコトヲ述ベタモノデアル。明ノ焦竑ノ獻徵錄ニ、正德十三年其(佛郎機)會殺國(滿刺加)王遣加必丹末等三十人、入貢請封ト言ツテアルノモ、明史佛郎機傳ニ、正德十三年遣其使臣加必丹末等、貢方物請封、始知其名ト言ツテアルノモ、此時ニ關スルモノナルコトハ明カデ、正德十三年ハ十二年ノ誤リデアルコトハ言フマデモナク、又使臣加比丹末ノ加必丹末ハかびたん。もゝあノ漢音譯デ、支那人ハふえるなん。べれすが來廣ノ初メニ同行シタ様ニ言ハシメタかびたん。もゝあト使臣トフ一人トシ、使臣かびたん。もゝあトシかびたん。もゝあヲ使臣ノ名ノ如ク考ヘ、後ニ北京ニ於テ使臣トハ詐稱デ實ハ國事探偵デア

ル間牒デアルト判決ヲ下ス様ニナツテカラ、使臣ノ文字ヲ除去シテ、單ニかびたんもーあト稱スル様ニナツタモノデ、かびたんもーあハ即チとめ・びれすヲ指スモノデアルト云フコトハ『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニ見エテ居ル。藤田博士が加必丹<sup>(14)</sup>ハイフマデモナク、かびたんノ音譯デ、コ、ニハふえるなん・べれすヲ謂フノデアラウト言ヒ、或ハ獻徵錄ノ加必丹末ハ、かびたんもーあノ對音デ、ふえるなん・べれすヲ指スノデアルト言ハレテ居ルガ、白玉ノ微瑕タルヲ免レナイ。獻徵錄ニ加必丹末トアリテ、使臣ノ二字ナク、明史ニ却ツテ使臣加必丹末トアルハ、獻徵錄ノ史料トシテ明史ニ優ルコトヲ證明スルモノデアラウ。ソレデ布政使吳廷舉ガ佛郎機即チ葡萄牙王ハ、貢ヲ進メ封ヲ請フ爲メ、此使節ヲ派遣シタモノデアルト云フ所謂天朝ノ體制ニ合スル支那通事ノ說ヲ聞キ、其朝貢ノ事ヲ上奏シテ、諭旨ヲ請フコトヲ許シ、諭旨ノ下ルマデ、とめ・びれすノ廣東ニ上陸シ、羈留ヲ許シタト云フコトモ説明ガ出來ル譯デアル。とめ・びれすガ廣東ニ於テ、懇篤ナ待遇ヲ與ヘラレタト云フコトモ、廣東ニ於テ番人ノ館舍ト定マツテ居ル懷遠驛ニ於テ、朝貢國ノ使臣ニ與ヘラル、様ナ定例ノ待遇ヲ與ヘラレタト云フ意味ニ過ギナイ。

とめ・びれすガ廣東上陸ヲ許サレ、懇篤ナ待遇ヲ與ヘラレシコトハ、コレデ説明出來ルガ、ふえるなん・べれす等ガ、廣東ニ於テ貿易ヲ許サレシハ、如何ナル譯カ、コレダケデハ説明出來ナイ。獨リ支那ノ史料ニ、直接ノ徵據ガ求メ難イノミナラズ、支那ノ國法ノ上カラ考ヘテモ、少シク不都

14) Ferguson, Ibid, pp. 68, 118.

15) 東洋學報第八卷第一號三一頁

16) 同上三三頁



合ヲ免レナイ。

一體支那ノ國法ニ於テハ、朝貢國ノ定例ノ貢舶ガ、貿易ノ目的デ附帶シテ居ル貨物ヲ貿易スルコトハ許サレテ居ルガ、朝貢國以外ノ諸國ノ船舶ハ固ヨリ、朝貢國ノ船舶デモ、定例ノ貢舶以外ノ船舶、即チ所謂私舶ハ、貿易ヲ禁ゼラレテ居ルノデアル。葡萄牙即チ佛郎機ハ固ヨリ貿易ヲ許サルベキ例ニハナイノデアル。ソレニモ拘ラズ、支那ノ官憲ガ貿易ヲ許シタト云フコトハ、事實デアルナラバ、ソレハ如何ニ説明スベキモノデアルカ。

籌海圖編(卷十二經略二開互市)ニ、予按今之論禦寇者、一則曰市舶當開、一則曰市舶不當開、愚以爲皆末也、貢舶與市舶一事也、分而言之、則非矣、(中略)何言乎一也、凡外夷貢者、我朝皆設市舶司以領之、在廣東者、專爲占城、暹羅而設、在福建者、專爲琉球而設、在浙江者、專爲日本而設、其來也、許帶方物、官設牙行、與民貿易、謂之互市、是有貢舶、即有互市、非入貢即不許其互市明矣、(中略)今若單言市舶當開、不論其是期非期、是貢非貢、則釐貢與互市爲二、不必俟貢而常可以來互市矣、案祖宗之典章、可乎哉ノ文アリ。日本ニ就テ言ヘルモノナレドモ明ノ朝貢國定期ノ貢舶ニ限ツテ貿易ヲ許シタル制度ヲ知ルコトガ出來ル。

名山藏ニ引用セル御史邱道隆何鰲ノ上奏ニ昔祖宗時、夷貢有期、毋敢闖入、自吳廷舉弛禁、于是夷心無厭、射利如隼、揚帆如馳、以致佛郎機伺隙而侮、今宜驅絕之ノ文ガ見エ、皇明實錄(正

德十五年十二月巳丑) 及ビ明史佛郎機傳ニ引用セル御史何鰲ノ正德末ノ上奏ニ、祖宗ノ時四夷ノ朝貢ハ定例ノ年分アリ、且ツ海防モ甚ダ嚴ニシテ、來ル者モ多カラザリシニ、近頃布政使吳廷舉ガ上供ノ香物缺少軍餉收備ノ必要ヲ理由トシテ、定例ノ年分ニ拘ラズ、番舶ノ來廣貿易ヲ許スコトヲ唱議シテ以來、番舶ハ海滙ニ絕エズ、蠻人ハ州城廣州ニ雜選スルト云フ有様デ、禁防ハ疏トナリ、水路ノ秘密ハ保タレヌコトニナツタカラ、佛郎機ハ機ニ乗ジテ突至スルニ至ツタノデアルト云フコトガ述べテアル。布政使吳廷舉ガ年分ヲ限ラズ、番舶ノ來廣貿易ヲ許スコトヲ唱議シタノハ何年ノコトデアルカ、其結果番舶ハ海滙ニ絕エズ、蠻人ハ州城ニ雜選スルニ至リ、佛郎機マデモ來ル様ニナツタト云フコトデアルカラ、正德十二年佛郎機ノ入廣以前ノ事デアルコトハ言フマデモナイ。吾學編名臣記卷二)ニ吳廷舉ガ正德九年廣東右布政使トナリ、番舶進貢交易ノ法ヲ立テンコトヲ記シテアル。恐ラク之レニ關スルモノデ、正德九年カラ十一年マデ、吳廷舉ノ右布政使時代ノ事トスルニ差支ヘガナイ様デアル。皇明實錄(正德十二年五月)ニ、命番國進貢並裝貨船舶、權十分之二、解京及存留餉軍者、俱如舊例、勿執近例阻遏、○先是兩廣姦民私通番貨、勾引外夷、與進貢者混以圖私利、招誘亡命、略買子女、出沒縱橫、民受其害、參議陳伯獻請禁之、其應貢番夷不依年分者亦行阻回、至是有布政使吳廷舉、巧辯興利請立一功法、撫按官及戶部皆惑而從之、不數年間、遂啓佛郎機之釁、トアリ、天下郡國利病書(卷百二十、海外諸蕃入貢互市、抽

分有則例）ニモ、正德十二年巡撫兩廣都御史陳金、會勘副使吳廷舉、奏欲或飭宋朝、十分抽二、或依進貢事例、十分抽三、貴細解京、麤重變賣、收備軍餉、題議只許十分抽二トアリ、年分ヲ限ラズ番舶ノ貿易ヲ許スコトニナツタ結果、正德十二年陳金、吳廷舉等ハ、此貿易ニ對シテ抽分ノ事ヲ奏請シ、十分ノ二ヲ抽スルコトニ定メラレタモノデアラウ。何鰲ノ上奏ニ據レバ、布政吳廷舉ガ年分ヲ限ラズ、貿易ヲ許シタカラ、俄カニ廣東ニ來ル外國貿易船ガ多クナツタ様デアルガ、鄭曉ノ各學編（四夷考卷上日本）、ヤ廣東通志（卷百八十經世略二十三市舶）ニ引用セル明彙典ニ夷中百貨、皆中國不可缺者、夷必欲售中國、中國必欲得之ト言ツテアル様ナ事情ハ、必シモ日本ノ貨物ニ限ツタ譯デナイノミナラズ、外國貿易船ノ來レバ來ル程、財政上ノ都合ハ好イ譯デアルカラ、廣東ノ官吏ガ誠實ニ祖訓會典ノ規定ヲ守ツテ朝貢國定例ノ貢舶以外ノ私舶貿易ヲ許サナカツタモノデナイコトハ想像サレル。吳廷舉ノ布政使時代以前ニハ、全クサウ云フ私舶ノ廣東ニ來ルモノガナカツタカト云フニ、サウデハナイ。前ニ引用セル皇明實錄（正德十二年五月）ニ番國ノ進貢船裝貨船ニ、十分ノ二ノ課稅ヲナスニ至ツタノハ、吳廷舉ガ巧利ノ爲メニ、稅法ヲ立テンコトヲ巧辯奏請セシ結果ナルヲ記シタル後、先是兩廣奸民私通番貨、勾引外夷、進貢者混以圖利、招誘亡命、略買子女、出沒縱橫、民受其害、參議陳伯、獻請禁之、其應貢番夷、不依年分者、亦行阻回ト言ツテアル。朝貢國定例ノ貢舶以外年分ニ依ラズシテ來廣貿易スル者多ク、讒カニ陳伯獻ノ請ヒニ依テ阻



同セラル、ニ至ツタ様ナ次第デアル。籌海圖編ニ貢舶與市舶一事也、分而言之則非矣、市舶與商舶二事也、合而言之則非矣、(中略)貢舶王法之所許、市舶之所司、乃貿易之公也、海商者王法之所不許、市舶之所不經、乃貿易之私也、日本原無商舶、商舶乃西洋原貢諸夷、載貨舶廣東之私溥、官稅而貿易之、既而欲避抽稅省陸運、福人導之ノ文アリ、浙江ヲ貢道トセル日本ハ貢舶以外ニ商舶ノ貿易ヲ許サレズ、廣東ヲ貢道トセル西洋ノ朝貢國ニ限ツテ、貢舶以外ノ商舶モ貿易ヲ許サレシコトヲ述ベシモノデアル。必ズシモ吳廷舉以後ノ事實ヲ述ベタモノ、様ニハ思ハレナイガ、少クモ吳廷舉ガ公然年分ヲ限ラズ、貿易ヲ許スコトニナツテカラ、私舶ノ廣東ニ來ルモノガ多クナツタコトハ想像サレル。ふえるなん・へれすノ廣東ニ來テ貿易ヲ求メタノハ、丁度此時デアル。吳廷舉ノ趣意ハ、朝貢國定例ノ貢舶以外ノ船舶ニ貿易ヲ許スニアツテ、朝貢國ニ非ル佛郎機即チ葡萄牙ナドノ船舶ニ貿易ヲ許スニアラザルハ明カデ、當時佛郎機船ガ廣州澳口ヨリ東莞ノ南頭ニ退去シナケレバナラナカツタト云フコトハ事實デアレバ固ヨリ、事實デナイニシテモ、サウ云フ上奏ガアリ、或ハ聲言ガ行レタト云フコトハ、既ニ佛郎機船ノ公許ノ例ニアラザリシコトヲ示スモノデアルガ、吳廷舉ノカウ云フ政策ハ、財政經濟上ノ見地カラ來タモノデ、吳廷舉ハ既ニ朝貢國ノ定期以外ノ私ノ貿易船ニ貿易ヲ許スコトヲ財政經濟上必要デアルトシタ以上ハ、佛郎機船即チ葡萄牙船ノ貿易ヲ、朝貢國デナイト云フ理由ニ依ツテ許サヌト云フコトハ考ヘラレナイ。吳廷舉ハ既

ニ其朝貢ノ事ヲ上奏シテ諭旨ヲ請ハントシテ居ルノデアル。サウスルト、じえーんノ記事ニ葡萄牙王ノ支那ノ使節ヲ派遣シタノハ、貢ヲ進メ封ヲ請フ爲メデアルト云フ支那通事ノ説明ハ、支那官憲ヲ悦バシ、廣東ニ於テ自由ナ貿易ガ許サル、様ニナツタト云フコトガ見エテ居ルノモ、必ズシモ不思議ハナイ譯デ、葡萄牙ガ朝貢國ニ非ズシテ、廣東ニ來ルヲ許サレ、貿易ヲ許サレシハ吳廷舉ノ財政經濟上ノ見地カラ來タ政策ノ結果トモ擴張トモ見ラレルノデアル。カクテふえるなん・ペれす等ハ廣東ニ於テ貿易ヲ許サル、コトニナリ、其間ニ人ヲ派シテ秘密ニ廣東ノ各地ヲ探ラシメ其見聞ヲ報告セシメタ様ナコトモシテ居ルガ、纔カニ貿易ニ着手シタバカリデ、とめ等ノ一行ヲ殘シテ急ニ廣東ヲ引揚ゲたまんニ退去シナケレバナラヌコトニナツタノデアル。然シ之ハふえるなん・ペれすノ自分ノ都會デ、たまんニ殘シテ置イタ艦隊ガ海賊ノ襲撃ヲ受ケタト云フ總報ニ接シ、之ヲ救済スル緊急ノ必要ニ迫ラレタコト、自分ノ引率セル船員隨員ノ間ニ猛烈ナル熱病及ビ赤痢ガ流行シテ、じあうあんにモ之ニ斃レタ程デアツタコト、此ニツノ原因カラデ廣東官憲ノ反對、或ハ壓迫之ヲ餘儀シタ譯デハナイ。

四 ふえるなん・ペれすノまらつか歸航及ビじよるじ。ますかれにや<sup>(18)</sup>

すノ漳州進航ニ就テ

じゆんぐすてつとニ、ふえるなん・ペれすハたまんニ於テ商務ヲ終リ、次期ノ下信風即チ西南風

17) Ferguson, Ibid, p. 12; Ijungstedt, Ibid, p. 6; Jesus, Ibid, p. 4.  
18) Jorge Mascarenhas.

ノ始マリ次第出帆セント急ギ、其一行ノ何人カラ如何ナル損害ヲ被ツタ支那人ニ對シテモ自ラ之ガ辦償ノ責ニ任ズベキヲ宣言シテ、支那人ノ信用ヲ博シタコトヲ述ベテ居ル。<sup>(19)</sup>ふえるなん・ペレスガたまん出帆前ニ支那人ノ損害辦償ヲ宣言シタト云フコトハ、じいさすニモ見エテ居ル。彼ガ支那貿易ノ利益アルコトヲ認メ、此利益アル貿易ヲ永ク維持スル爲メニハ、支那人ノ風俗習慣ヲ尊重シ、支那人ノ信用ヲ博スル必要アルヲ痛切ニ感ジタモノ、様デアル。<sup>(20)</sup>ふあゝがそんモふえるなん・ペレスハ其支那滯留中、事ヲ辨ジ身ヲ行フニ熟練ト技巧ヲ以テシタ爲メ支那人ニ與ヘタ葡萄牙人ノ印象ハ非常ニ好ク、ふえるなん・ペレスガ支那ヨリ積載歸航シタ貨物ニ依リ巨利ヲ得タノモ、ソレダケノ價ガアルト言フテ居ル。

ふれつとしゆないでるニ、<sup>(21)</sup>

<sup>(22)</sup>

遠征隊ノ使命ノ成功ヲ知事ニ報告セシムルト共ニ、じよるじ・ますかれにやすニ命ジテ、支那沿岸ヲ探險セシメシコト並ビニじよるじ・ますかれにやすハ數隻ノジャンク船ヲ以テ、福建ノちんちえ<sup>(23)</sup>おマデ進航シタコトヲ記シ、ちんちえおハ舊時ノ葡萄牙人ガ福建漳州港ニ與ヘタ名稱デアルコトヲ註記シテ居ル。ちゆあると・こえりよーハ一五一六年・ペレスとれるノ安否ヲ探ル爲メ、ふえるなん・ペレスト共ニ支那ニ派遣サレタモノデ、ふえるなん・ペレスハ目的ヲ達セズ、まらつかニ引還シタガ、彼ハふえるなん・ペレスニ別レ暹羅ニ冬ヲ過シ、ふえるなん・ペレスガ第二回ノ遠征隊ヲ

19) Ljungstedt, Ibid, p. 6; Jesus, Ibid, p. 4.

20) Ferguson, Ibid, p. 13.

21) Bretschneider, Ibid, p. 317.

22) Duarte Coelho.

23) Chincheo.



以テたまんニ來タ一ト月前即チ一五一七年七月ニたまんニ着シタモノデアル。

じよるじ・ますかれにやすハ支那沿岸ノ探險ヲ命ゼラレテ、ちんちえおマデ進航シタト云フノハぶれつとしゆないでるノ所説デアルガ、ふあーがそんニ據ルト、彼ノちんちえおニ進航シタノハ琉球探險ノ爲メデふえるなん・ペれすがたまんニ於テ、船ヲ修理シ、貿易ヲ行ツテ居タ時ニ、たまんニ琉球人ノジャンク船ガ來タノデ、此琉球人ニ就テハ、豫テまらつかニ居リシ時ヨリ聞知シテ居タ事デアルカラ、じよるじ・ますかれにやすニ命ジテ、琉球ノ地理人民ニ就テ、詳細ナル報告ヲ得ントシ、支那ノ水先ヲ雇ツテ探險セシメントシタガ、天氣ノ惡カツタ爲メニ、漳州以上ニ進航ガ出來ナカツタノデアルト云フコトデアル。然シソレガ後ニ葡萄牙人ノ漳州殖民地ノ基礎トナツタ。<sup>(26)</sup>じいさすニハふえるなん・ペれすが日本ノ商人ガ夥タシキ黃金ヲ積載シテ、たまんニ入港シタノヲ見テ、日本ヲ探險セシムル爲メ派遣シタ様ニナツテ居ルガ、ふあーがそんニ據ルベキデアラウ。

ぢゆあると・こえりよりガまらつかニ歸航スルト共ニ、一ジャンク船ガまらつかヨリ貨物ヲ積載シ、びんた國ノ君ト戰爭中ナルコトノ報ヲ齎シテたまんニ派遣サレタノデ、ふえるなん・ペれすが陸路ちんちえおニ使ヲ遣シテ、じよるじ・ますかれにやすノ歸航ヲ促シ、其間出帆ノ準備ヲ修メ、じよるじ・ますかにやすノたまん歸着ヲ待ツテ、一五一八年九月末たまんヲ拔錨シテ、無事まらつ

24) Ferguson, Ibid, pp. 8, 10.

25) Ferguson, Ibid, p. 12.

26) Jesus, Ibid, p. 4.

かニ歸航シタト云フコトハふあゝがそんニ見エテ居ル。<sup>(27)</sup>

## 五 葡萄牙王ノ使節とめ・びれすノ廣東滞留ニ就テ

とめ・びれすガふえるなん・べれすト共ニたまんニ入港シタノハ、一五一七年八月十五日デ、ふあゝがそんノ記事ニ據ルト、廣東ニ到着シタノハ九月末ツ方デアツタ様デアル。たまん入港カラ廣東到着マデ、一ト月餘ヲ費シタコトハ不審シケレド、今ハ之ニ依ル外ガナイ。ふあゝがそんニふえるなん・べれすガたまんヲ拔錨シ歸國ノ途ニ上ルニ當ツテ、廣東官憲ヨリ皇帝ニとめ・びれすノ入觀ノ許可ノ意アリトノコトヲ聞キ、安心出帆シタコトガ見エテ居ル。然ルニふえるなん・べれすノ弟しまん・ど・あんどらゝでガたまんニ到着シタ一五一九年八月ニ於テ、一年前廣東官憲ガ兄ふえるなん・べれすニ好信ヲ傳ヘテ悦バシテ居ルニ拘ラズ、とめ・びれすハ猶ホ入觀ノ勅許ヲ得ズ、廣東ニ羈留シテ居ツタ。然シ廣東ト北京トノ間ニ三度多少ノ時日ヲ隔テ、交渉ガ交換サレタ後、使節ハ出發入京ヲ許サル、コト、ナリ、一五二〇年一月二十三日、とめ・びれす一行ハ三艘ノ大キナ撓走船ニ絹布ノ日除ケヲ張り、葡萄牙ノ旗ヲ吊シテ出帆シタト云フコトハ、矢張りふあゝがそんニ見エテ居ル。ぶれつとしつゆないでるニモ、とめ・びれすガ廣東ニ滞留シテ居ル間ニ、入觀許可ノ報ガ廣東ニ達シ、とめ・びれすハ一五二〇年一月ニ漸ク廣東ヲ出發シ、四ヶ月ノ長イ旅行ノ後、當時支那皇帝ノ駐輦セル南京ニ達シタト云フコトガ見エテ居ル。サウスルト、とめ・びれすハ一五一

27) Ferguson, Ibid, pp. 12, 13.

1) Ferguson, Ibid, pp. 13, 15.

2) Bretschneider, Ibid, p. 318.

七年九月カラ一五二〇年一月マデ二年三四ヶ月間モ廣東ニ滯留シテ居ル譯デアル。廣東官憲ガ會典ニ規定セル朝貢國ノ列ニ非ル佛郎機即チ葡萄牙ノ使節ヲ、二年餘モ廣東ニ滯留セシメンコトハ如何ニ解釋スベキカ。名山藏(東南夷滿刺加)ニ正德十三年佛郎機入貢ノ事ヲ記シ、時廣東左布政使吳廷舉兼海道副使議許之、廣東守臣以佛郎機故不列于王會、羈其使以聞、詔給方物值、遣之歸、使者留不去、劫奪行旅、掠食小兒、廣人苦之、會滿刺加來訴、御史邱道隆、何鰲相繼疏言云々ノ記事アリ、明史滿刺加傳ニ、佛郎機亦遣使朝貢請封、抵廣東、守臣以其國素不列王會、羈其使以聞、詔予方物之直遣歸ノ記事アリ、又同書佛郎機傳ニ、正德十三年遣使臣加必丹末等、貢方物請封、始知其名、詔給方物之直遣還、其人久留不去、剽劫行旅、至掠小兒爲食、已而彙緣鎮守中貴、許入京ノ記事アリ、名山藏ヤ明史佛郎機傳ノ記事ハ使臣トかびたん・もゝあヲ一人トナシ、又使臣ト一五一九年八月たまんニ來テ柵ヲ樹テたしまん・ど・あんどらゝでヲ混同シ、久シク留ツテ去ラザル其人ハ、方物ヲ貢シ封ヲ請ヒタル使臣即チとめ・ぴれすが、行旅ヲ剽劫シ小兒ヲ掠メテ食トナシタト云フしまん・ど・あんどらゝでガ分ラヌ様ニナツテ居ルノミナラズ、鎮守中貴ニ彙緣シテ、入京ヲ許サル、ニ至ツタモノト同ジ人デアルカドウカト云フコトモ、分ラヌ様ニナツテ居ル。然シムあゝがそんノ記事及ビぶれつとしゆないでるノ記事ニ合セテ考ヘルト、此佛郎機ノ記事、及ビ滿刺加ノ記事カラ、とめ・ぴれす朝貢ノ事ガ廣東ノ官憲カラ上奏サレシ時ニ、祖訓會典ニ見エナイ始メ



テ名ヲ聞イタ様ナ國ノ使臣ハ、入謁ヲ許ス限リニ非ズ、貢物ノ値ダケヲ給シテ、使臣ヲ放還スベシト云フ詔ガ發セラル、コト、ナツタガ、ソレニモ拘ラズ、とめ・びれすハ廣東ニ留ツテ歸國ヲ肯ゼズ、根氣強ク入京ノ目的ヲ達セント盡力シ、權貴ニ覺縁シテ、終ニ其目的ヲ達スルコトニナツタ事情ガ推測サレル様デアル。籌海圖編ニ引用セル刑部尙書顧應祥ノ言ニ、正德十二年佛郎機進貢當時ノコトヲ叙シタル後、即報總督陳西軒公金、臨廣城、以其人不知禮、令於光孝寺、習儀三日、而後引見、查大明會典並無此國入貢具本參奏、朝廷許之、起送赴部、時武宗南巡、留會同館者、將一年ノ辭アリ、とめ・びれす等ガ廣東到着後間モナク、入京ヲ許サレシ様ニ見ユルガ、ソレハ武宗南巡ノ時デアツタトイヘバ、入京ヲ許サレシマデ二年餘ヲ費セルコトヲ、省筆セルモノト考ヘナケレバナラヌ。猶ホ此顧應祥ノ言ニ、世宗ノ嗣立後、とめ・びれすノ廣東ニ押回サレシコトヲ述べ、其人在廣久、好讀佛書ノ辭アリ、廣東滯留ノ久シカリシヲ示スモノ、様デアル。貢物ノ値ヲ給シテ使臣ヲ放還スベシトノ詔ガ廣東ニ達シタノハ、何時デアルカ分ラヌガ、二年餘リ要スル譯モナイノニ、廣東官憲ガ猶ホ彼ノ廣東羈留ヲ許シ、詔旨ヲ遵奉シテ之ヲ放還シナカツタノハ何故ナルカ。

じいさす<sup>(3)</sup>ハとめ・びれす 廣東滯留長引ケルヲ疑ヒ、何カ重大ナ故障ガアツタ爲メデアラウト考ヘ、前ニばるゝすニ據ツテ、彼ガ一藥劑師ノ身ヲ以テ葡萄牙領印度總督カラ、支那派遣ノ使節ニ

3) Jesus, Ibid, pp. 3, 4.

任命サレシハ、其外交官トシテ必要ナ資格ヲ具備セル爲メデアルト云フ事ヲ述ベナガラ、殆ンド之ヲ忘レシ如ク、當時ノ編年史家かすたに<sup>(4)</sup>えだやくーと<sup>(5)</sup>ハ、元來支那ニ派遣サレシ使節ハ、とめ・びれすニ非ズ、ふえるなん・べれすデアツタ様ニ言ツテ居ルガ、信ズベキ理由ガアル、ふえるなん・べれすハ支那朝廷ノ葡萄牙使節ヲ見ルニ、朝貢國ノ陪臣ヲ以テスル様ナ屈辱的待遇ヲ受クルニ忍ビズ、自ラ其使節タル地位ヲ棄テ、藥劑師タルとめ・びれすニ讓ツタモノカモ知レナイト云フ様ナ解釋ヲ下シテ居ル。とめ・びれすハ最初カラ葡萄牙王ノ使節トシテ支那ニ派遣サレシモノナラズトシテモ、ソレヲふえるなん・べれすハ勝手ニ自分ノ代リニ、使節ニ任命スル權アリトハ考ヘラレヌカラ、じいさすノ考ヘハ、とめ・びれすハ副使トシテ、或場合ニ使節ノ任務ヲ代行スベキ委任ヲ受ケテ派遣サレシモノデアルト云フデアラウガ、サウスレバ、矢張り官吏トシテ、ふえるなん・べれす同様ニ、名譽體面ヲ重シナケレバナラヌ譯デ、ふえるなん・べれすハ自分ナラバ、官吏トシテ支那ノ屈辱的待遇ヲ受クルコトハ出來ヌガ、とめ・びれすナラバ、藥劑師ナレバ、之ヲ受ケテモ宜シイト考ヘル筈ガ無イ。じいさすノ解釋ハ隨分不合理ナ解釋デ、前述ノ如クとめ・びれすノ廣東滯留長引ケルハ、サウ云フ譯デナイ。彼ガ入京ヲ許サレズ、放還ノ詔ガ發セラレシ後モ、歸國ヲ肯ゼズ、飽クマデ入京ノ目的ヲ達セントシテ、廣東ニ踏ミ留ツタモノデアル。

とめ・びれすノ廣東滯留ハ問題デナイ、問題ハ何故ニ廣東官憲ガ放還ノ詔ガ發セラレシ後モ、猶

4) Castanheira,  
5) Couto.

ホ之ヲ放還セズシテ、廣東滯留ヲ許容セルカト云フ點デアル。

とめ・びれすハ外交官トシテ、凡テ必要ナ資格ヲ備ヘテ居ルト云フノデ、一藥劑師カラ支那派遣ノ使節ニ任命サレシ位デアルカラ、入京ノ目的ヲ達スル爲メ、外交上種々ナ運動畫策ヲナシタコトハ想像サレル。又彼ハ支那派遣使節トシテ、既ニ葡萄牙ノ官吏ナリトハ言ヒナガラ、元來藥劑師出身デ、官吏出身ナラザルダケニ、名譽體面ヲ重ンゼザルベカラザル官吏トシテハ容認ノ出來ヌ様ナ、幾ラカ卑劣ナ手段モ容認ガ出來タト云フコトモ明カデアル。前述ノ如ク彼ガ鎮守中貴ニ資縁シテ入京ヲ許サル、ニ至ツタコトハ明史佛郎機傳ニ見エテ居ル、其一證トスルニ足ルノデアル。然シ彼ハ外交官トシテ凡テ必要ナ資格ヲ備ヘテ居タト云ツテモ、外國人トシテ鎮守中貴ニ資縁スルト云フ様ナ、深ク支那ノ内情ニ通ズルモノニ非レバ、能クシ難キ詭秘陰險ナ手段ヲ、支那人ノ助言或ハ助力ナク、取ツタト云フコトハ想像サレナイ。明史佛郎機傳及ビ殊域周咨錄(卷九佛郎機)ニ武宗南巡ノ時、佛郎機ノ使火者亞三ガ佞臣江彬ニ取入ツテ、帝ノ左右ニ近侍シ、從駕入京シタコトガ見エテ居ル。名山藏ニモ佛郎機ノ使者ガ江彬ニ行賄シ、其薦メデ武宗ノ巡幸ニ從ツタコトガ見エテ居ル。此火者亞三或ハ亞三コソハとめ・びれすノ爲メニ、或ハ彼ヲ利用シテ、入京ノ許可ヲ得ルマデ、廣東ニ滯留スルコトニ就テ、廣東官憲ノ承認ヲ得ル爲メ、種々ノ畫策運動ヲナシタモノデハアルマイカ。火者亞三ノ頗ル慧黠巧智ナリシコトハ、殊域周咨錄ニ明文ガアリ



明史佛郎機傳ノ彼ガ佞臣王彬ニ取入り、武宗ノ親寵ヲ固ウシ、其左右ニ侍シ、之ト嬉戲シタト云フノデ、非常ニ驕傲デアツタト云フ様ナ記事、名山藏ノ武宗ガ亞三ヲ見、屢々其語ヲ學ンデ樂ミトシタト云フ記事、及ビ禮部主事梁焯ガ北京四夷館ニ於テ、亞三ノ無禮ヲ怒リ、之ヲ杖打シタ時ニ、江彬ガ聞テ大ニ詬リ、彼嘗與天子游戲、肯下跪一主事耶ト言ツタト云フ記事カラモ想像サル。王彬ニ取入ルコトヲ知ツテ居タ彼ハ、權貴中官ニ夤緣スル術ヲ知ル資格アル者デ、彼ナラバ隨分内請賄通ナドノ手段ニ依ツテ、廣東官憲ノ歡心ヲ得ル位ナコトハナシ兼ネヌ者デアル。彼ハ元來支那人デ、葡萄牙語或ハむらい語ヲ善クシ、通事ナドニナツテ、とめ・びれすニ使ハレテ居タモノデナイカト思ハレル譯ハ次ノ五ツノ證據アル故デアル。第一ニ彼ガ支那人デ葡萄牙人ニ使ハレテ居タト思ハル、證據ハ、明史佛郎機傳ニ、彼ガ佛郎機ノ使ト稱シテ居タコト、及ビ彼ガ正徳十六年武宗ノ崩後、吏ニ下サレシ時ニ、本華人爲番人所使ト自白セルコトガ見エテ居ルコトデアル。殊域周咨錄ニモ有火者亞三、本華人也、從役彼國、久至南京ノ記事アリ。第二ニ彼ガ通事タリシハ前記刑部尙書顧應祥ノ言ニ今上（世宗）登極、以其不恭、將通事明正典刑ノ辭アルニ依テ知ルベシ。第三ニ彼ガ葡萄牙語或ハむらい語ヲ善クシタト思ハル、證據ハ、矢張り明史佛郎機傳ニ、武宗ガ彼ニ就テ時々戲レニ番語ヲ學ンダト云フコトガ見エテ居ルコトデアル。名山藏ニモ佛郎機有使者、曰亞三、能通番漢、（中略）武宗見亞三、時學其語爲樂ノ記事アリ。第四ニ彼ガとめ・びれす

ノ通事ナルニ拘ラズ、自カラ佛郎機ノ使ト稱シテ居タ様ニ思ハレル證據ハ、武宗ノ南巡シテ、南京ニ駐輦シテ居タ時ハ、皇明實錄ニ據ルト、正德十四年十二月二十六日舊曆九月二十三日丙戌新曆十月三日即チ一五二〇年舊曆一月二十六日マデノ間デ『葡萄牙捕虜ノ書簡』ヤぶれつとしゆないでるノ記事ニ據ルト、とめ・びれすハ一五二〇年一月ニ廣東ヲ出發シ、四ヶ月ヲ費シテ五月南京ニ達シ、支那王ニ近侍シタト云フコトデアルカラ、武宗ノ南京ニ駐輦セル間ニ、南京ニ來テ居ル譯デアルガ、明史佛郎機傳ニ、火者亞三ノ佛國郎機ノ使ト稱シテ、江彬ニ取入り、武宗ノ左右ニ侍スルコトニナツタノハ、武宗ノ南巡ノ時トナツテ居テ、恰モとめ・びれすノ南京ニ來タ頃カラ、佛郎機即チ葡萄牙ノ使ト稱シテ突然出現シテ居ルト云フコト、又タ武宗ノ北京還幸ハ、皇明實錄ニ據ルト、正德十五年十二月十六日舊曆一月十八日甲午新曆一月二十八日即チ一五二一年舊曆一月二十八日デ、びれすノ到着シタノモ、ぶれつとしゆないでるノ記事ニ據ルト、恰モ其前後、即チ一五二一年一月中デアルガ、明史佛郎機傳ニ火者亞三ハ武宗ニ從駕入都シ、會同館ニ居ルコトニナツタト云フ事ガ見エテ居ルカラ、矢張り佛郎機即チ葡萄牙ノ使ト稱シテ諸國貢使ノ館舍ト定マツテ居ル會同館ニ居住シテ居ルト云フコトデアル。ふあがそんハ葡萄牙捕虜ノ書簡ニ一五二〇年八月二日ニ其時マデ支那王トノ關係ニ就テ廣東ニ手紙ヲ書イタト言ツテアル記事ニ依リ、とめ・びれす等ノ北京到着ハ、恐ラタ一五二〇年七月ナルベシト推測シテ居ルノハ、隨分亂暴ナ推測デアル。第五ニ當

6) Ferguson, Ibid, pp. 57, 103.  
7) Ferguson, Ibid, p. 15.

時支那人デまらつかヤ暹羅ノ様ナ南洋地方ニ往ツテ、其地方ノ言語ニ習熟シ、其地方ノ人ニ使ハレ、通事ナドニナツテ、支那ニ來ルモノモ隨分多クアツテ、決シテ珍ラシイ事デナク、火者亞三ガ元來まらつか邊ニ往ツテ居タ支那人デ、葡萄牙語或ハまらい語ヲ善クシ、ふえるなん・ペレスガとめ・びれすト共ニ支那ニ派遣サル、ニ當リ、通事トシテ、隨伴シテ來タモノデナイカト思ハルル證據ハ、明史滿刺加傳ニ、正徳三年ニまらつかノ貢使端亞智ガ入朝セル時ニ、亞劉ト云フ元來江西萬安ノ人デ、罪ヲまらつかニ遁レタル本名蕭明舉ト云フ者ガ、通事トシテ端亞智ニ隨行シ、事ヲ爭ツテ端亞智ヲ殺シタト云フ様ナ記事が見エテ居ル事、殊域周咨錄(卷七暹羅卷九佛郎機)ニ、元來福建汀州ノ士人デ、本名謝文彬ト云フ者ガ驛販賣ノ爲メ、航海中風難ニ遭ツテ、暹羅ニ漂着シ其官吏トナリ、姓名ヲ英必美亞ト改メ、成化十三年暹羅ノ使トシテ、支那ニ來リ、南京ニ於テ、其從子瓚ト云フ者ト、蕃貨ヲ貿易シテ吏ニ下サレ、始メテ實ヲ吐イタ事ヤ、又廣東東莞縣白沙ノ巡檢何儒ガ抽分ノ爲メ、佛郎機船ニ至リシ時、其船上デ久シク彼國ニ住シ、造船及ビ銃ヤ火藥ノ製造法ニ通ジテ居タ揚三戴明ト云フ元ノ支那人ニ遇シテ、重賞ヲ以テ向化セシメンコトが見エ、按四夷使臣多非本國之人、皆我華無耻之士、易名竄身、竊其祿位者、蓋因去中國路遠、無從稽考、朝廷又憚失遠人之心故、凡貢使至、必厚待其人、私貨來皆倍償其價、不暇問其真僞、射利奸氓、叛從外國者益衆、如日本之宋素郷、暹羅之謝文彬、佛郎機之火者亞三、凡此不知其幾也ト言ツテアル



事ナドデアル。明ノ沈德荷ノ野獲編(補遺卷四、外國華人夷官)ニモ、正統元年瓜哇ノ使臣トナツテ入貢シタ財富八致滿榮ト云フ者ガ、自ラ實ハ洪茂仔ト言ヒ、福建龍溪縣ノ人デ、漁ヲ以テ生業トセルモノナルガ、倭ノ虜トナリ、遁レテ瓜哇ニ至リ、今名ニ改メテ使臣ニ派充セラル、ニ至ツタ者デアルト稱シ、復業歸家ヲ乞ヒシコト、同時ニ同ジク瓜哇ノ使臣トシテ來朝シタ揚惟西沙ト云フ者モ、實ハ郭信ト云フ支那人デ、揚惟西沙ハ瓜哇王ヨリ賜ヒシ名デアル事、又正統三年入貢セル瓜哇ノ使臣亞烈馬用良、通事南文旦及ビ良殷モ、孰レモ福建龍溪ノ人デ、矢張り漁ヲ生業トシ瓜哇國ニ漂着セル者ナリト稱シ、或ハ歸郷ヲ乞ヒ、或ハ祖廟祠堂ヲ歸祭シタル上、再ビ瓜哇ニ歸航センコトヲ乞ヒシ事、弘治十年入朝セル暹羅通事奈羅モ、自ラ福建清流ノ人デ、航海中暹羅ニ飄到シタモノデアルト稱シ、展墓ノ爲メ歸國センコトヲ乞ヒシ事ナドガ見エテ居ル。猶ホ時代ハ後レルガ、じよるじ・ふいりつぷすノ『中世時代<sup>(6)</sup>ニ於ケル福建ノ二商港泉州及ビ漳州』ト云フ論文ニ、一六〇四年(萬曆三十二年)和蘭提督ういゝぶらんど・ふあん<sup>(7)</sup>・うあゝういくノ艦隊ガ、始メテ支那海ニ見ハレ、澎湖島ニ碇泊シ、暹羅ヨリ通事トシテ隨ヒ來リシ一支那人ニ依ツテ、厦門トノ交通ヲ開カント試ミテ、成ラナカッタコトガ見エテ居ル。ソレデとめ・ひれすハ火者亞三ノ助力或ハ助言ニ依ツテ、廣東ニ於テ入京ノ目的ヲ達スルガ爲メ、種々ノ畫策運動ヲナシタモノト想像サレル。然シ幾ヲ彼等ノ運動畫策ガアツタト云ツテモ、又ふえるなん・ペレスガ廣東入港カラたまん

6) George Philips, Two medieval Fuh-kien Trading Ports. (Toung Pao, Vol. VI, 1895, p. 458)

7) Wybrand van Warwyk.

退去マデ、平和ナ態度デ終始シタ事ガ、彼等ノ運動畫策ヲ容易ナラシメタト云ツテモ、廣東官憲ガ貢物ノ値ヲ給シテ放還スベシトノ詔旨ヲ無視シテ、廣東滯留ヲ許スト云フニハ、他ニ之ヲ許スベキ經濟上或ハ其他ノ實質上ノ理由ナクテ叶ハヌ様ニ考ヘラレル。然ラバサウ云フ經濟上或ハ其他ノ實質上ノ理由ハアルカト云フニ、ソレハとめ・びれすが廣東ニ於ケル長滯留ノ間、貿易ヲ行ツテ居ツテ、前述ノ如ク財政經濟上外國貿易獎勵ノ政策ヲ取ツテ居タ廣東官憲ヲシテ、此貿易上ノ利益ニ與ルヲ得シメタ爲メデハナイカト推測サル、コトデアル。じいさす<sup>(9)</sup>ニ、とめ・びれすが北京ニ護送投獄サレシ後數年、廣東カラ葡萄牙人ノ手ニ達セル書簡ニ依ツテ、始メテとめ・びれすが廣東ノ獄中ニ於テ殘酷ナ拷問ヲ受ケ、北京朝廷カラ拒回サレシ禮物モ、貿易ノ目的ヲ以テ所持シテ居タ多少ノ麝香、大黃緞子、繻子、金銀等モ奪レタ事實ガ、暴露サレシコトガ見エテ居ル。ソレハ即チ『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニ盜賊ノ贓品トシテ沒收サレタト言ツテ列記セル大黃二十「キンタル」絹布千五六百個、絹手帕四千個、其他扇子、麝香、金銀及ビ葡萄牙支那製ノ布匹及ビ貴重品全部其他香料、鼈甲、胡椒類ナドヲ指スモノデ、此等ノ物品ハ、概シテ支那ノ產物デアルコトヲ考ヘルト、ソレハ貿易ノ目的ヲ以テ所持シテ居タモノデハナク、却ツテ貿易ノ結果所持スルニ至ツタモノデアルコトハ明カデアル。ソレハ兎ニ角トシテ、彼ガ廣東ニ於テ貿易ヲ行ツタコトハ之ニ依ツテ想像サレル。廣東官憲ガとめ・びれすノ廣東ニ於ケル貿易ヲ許シタノハ、新ニとめ・びれすノ

8) Jesus, Ibid, p. 8.

9) Ferguson Ibid, pp. 10, 108.

10) Quintães (Quintal).

貿易ヲ許シタノデハナク、ふえるなん・べれすニ許シタ貿易ヲ引キ續イテ許シタマデ、アルト考ヘラレヌコトモナイ。皇明實錄(正德十五年十二月己丑)ヤ、明史佛郎機傳ニ引用セル御史何鰲ノ正德末ノ上奏ニ、留驛者違禁交通ト言ツテアル。留驛者ハ廣東懷遠驛ニ留ツテ居ル者ト云フ意味デ懷遠驛ハ明史食貨志(市舶)ニ據ルト、洪武三年ニ諸蕃ノ貢使ガ益々多クナツタ爲メ、福建市舶司ノ來遠驛浙江市舶司ノ安遠驛ト共ニ廣州市舶司ニ置イテ、貢使ノ館舍トセルモノ、大明會典(萬曆市利卷百四十六、兵部水鳥驛下)ニモ廣東市舶提舉司所管ノ水馬驛トナツテ居ルノデアルカラとめ・びれす一行ノ廣東ニ於テ供與サレタ館舍ト云フノモ、此懷遠驛ニ於テ供與サレシモノナルハ疑ヒナク、懷遠驛ニ留ツテ居ルモノガ禁制ニ違ツテ交通シタト云フコトハ、彼ガ廣東ニ於テ貿易ヲ行フニ就テ、たゞんニ來テ居ル葡萄牙ノ貿易船ナド、交通シテ其接濟ヲ受ケタ事實ヲ意味スルモノデナイカト考ヘラレル。

#### 六 明代ニ於テ諸蕃貢使ノ館舍ノアツタ廣東懷遠驛ニ就テ

廣東通志(卷一百八十、經世略二十三市舶)ニ清ノ郝玉麟ノ廣東通志(雍正七年郝玉麟承命所輯八年開局、九年告成)ニ據テ、置懷遠驛於廣州城蜆子步、建一百二十間、以居番人、隸市舶提舉司ト云フ記事ヲ載セテ居ル。郝玉麟ノ廣東通志ハ廣東通志(卷一百九十一藝文略三)ニ採綴補苴、較爲賅備、至外蕃一門爲他志所罕見ト評シテ居ルモノデアルガ、今之ヲ見ルコトノ出來ナイノハ



遺憾ノ至リデア。隨テ蜆子歩ノ位置モ之ヲ明ニスル能ハザレドモ、市舶提舉司署ノ廣州府城外西南一里ニ在ツテ、宋ノ市舶亭海山樓ノ故地デア。ルコトハ、明ノ黃佐ノ廣東通志ニ據ツタ廣東通志(卷二百九十八古蹟略三、署宅一)ノ記事ニ見エテ居ルカラ、此市舶提舉司ニ隸シタ懷遠驛モ、亦其近傍即チ廣州府城外ノ西南郊ニアッタコトガ想像サレルノデア。果シテ明ノ姚虞ノ嶺海輿圖(守山閣叢書本)廣州府輿地圖ヲ見ルト、懷遠驛ハ廣州府城外西南郊ニ書イテアル。姚虞ハ嘉靖時代ノ進士デ、嶺海輿圖ハ彼ガ監察御史トシテ、廣東ヲ巡按シタ時ノ作ト云フコトデア。ルカラ、其圖ハ大體ニ於テ精確ト信ゼラレル。澳門紀略(官守編)ニ康熙二十四年粵海關監督ヲ設ケタル以來、賀蘭、英吉利、瑞國、璉國ノ如キ紅毛諸國、弗蘭西、呂宋ノ如キ佛郎機諸國ノ船舶ガ毎年二十餘柁ヲ率トシテ廣東ニ入港シ、大班即チ船長、二班即チ次長等ガ、十三行ト稱スル重樓崇臺ニ居住シタルコトヲ述ベ、即明於驛旁、建屋一百二十間、以居番人之遺制也ト言ツテ居ル。印光任、張汝霖(澳門紀略著者)ノ所謂清ノ十三行ハ、明ノ懷遠驛ノ旁ニアル番人館舍ノ遺制デア。ルト云フ考ヘハ又彼ノ位置ハ此ノ遺址デア。ルト云フニアルガ如ク思ハレル。モ、あすノ『支那帝國ノ國際關係』ニ掲ゲテアル清代廣東ノ外國商館平面圖ニ據ルト、一八四二年以前ノ舊十三行商館ハ廣東城ノ西南隅ヨリ六七百フィートノ距離ニアルくりく商館カラ始マツテ、でんまるく商館マデ西ノ方ニ約九百フィート續イテ居ル。明代ノ懷遠驛ハ廣州府城外西南一支那里ノ市舶提舉司署ノ近傍ニアツ

11) H. B. Morse, The International Relations of the Chinese Empire, 1910, pp. 70, 118.

タモノトスレバ、清ノ十三行ハ矢張り明ノ懷遠驛ニアツタ番人館舎ノ遺址或ハ少クモ其近傍ニ設ケラレタモノト考ヘナケレバナラス。桑原博士ハ『宋末<sup>(21)</sup>ノ提舉市舶司、蒲壽庚ニ就テ』ト云フ論文ニ於テ、宋代ノ市舶司ハ廣州府城ノ南珠江ノ北岸ニアツテ、蕃坊ト稱スルあらびや人ノ居留地モ、亦コノ方面ニ位置シタルガ如ク、述ベラレテ居ル。サウスルト、明ノ市舶司ハ宋ノ市舶司ノ故址ニアツタコトハ、前述ノ黃佐ノ廣東通志ニ據ツタ廣東通志ノ記事ニ見エテ居ルカラ、宋ノ蕃坊、明ノ懷遠驛、清ノ十三行ナド、變遷ハアルガ、廣東ニ於ケル外國居留地ハ毎ニ廣東城外ノ西南郊ニアツタ譯デアル。今ノ廣東沙面ノ外國居留地ハ、一八五九年(咸豐九年)英佛二國ガ兩廣總督ノ同意ヲ得テ、三十二萬五千弗ヲ費シ、沙面島ト稱シタル珠江沿岸泥土沮洳ノ地五十五『エーカー』ヲ埋立テ築岸シタルニ始マリ、英國獨リ五分ノ四ヲ出資シ、四十四『エーカー』ヲ得タノデアルガ、一八六一年ニ至リ英國ハ支那政府ヨリ此四十四エーカーニ對スル永租權ヲ讓與セラレ、之ヲ英租界ト稱スルニ至ツタト云フコトデアル。<sup>(13)</sup>

七 とめ・びれすノ入京ト其使命ノ失敗ニ就テ

とめ・びれすノ使命ハ、前述ノ如ク支那ト親好ヲ修ムル外ニ、葡萄牙人ノ爲メニ自由貿易ノ許可ヲ得ルトカ、廣東ニ於テ商館設立ノ許可ヲ得ルトカ云フコトニアツタトスレバ、其使命ノ到底成功シ難キハ、初メヨリ明カデアツテ、他ノ故障ヲ待ツ迄モナイコトデアル。ソレハ問題デハナイ

12) 史學雜誌第二十七編第二號七頁  
13) Eames, The English in China, p. 545.

問題ハとめ・びれすハ獨立國タル葡萄牙即チ佛郎機ノ使臣デアツテ、朝貢國ノ進貢使デナイ。彼ノ齋シタル葡萄牙王ノ書簡ハ、獨立國ノ君主ヨリ獨立國ノ君主ニ與ヘラレタルモノデ、朝貢國ノ君主ヨリ宗主國タル中國ノ天子ニ奉呈スル奏文デナイ。所謂中國ノ體式ニ合スルモノデナイコトハ明カデアルニ拘ラズ、何故ニ廣東官憲ハ其入貢ノ事ヲ奏請スルニ至ツタカト云フコトデアアル。又廣東官憲ガ其入貢ノコトヲ奏請セル時ニ、佛郎機ハ祖訓會典ニ記載サレタル朝貢國ノ列ニナイト云フノデ、入京不許可ノ詔ガ發セラレタコトハ問題デナイ、問題ハ何故ニ一旦入京不許可ノ詔ガ發セラレシニ拘ラズ、二年餘ノ後ニ入京ヲ許サル、ニ至リシカト云フコトデアアル。又入京ヲ許サレシ後朝貢國ノ使臣トシテ待遇サレシコトハ問題デナイ。又其待遇ヲ肯ゼザル爲メ其使命ヲ達スルコトガ出來ナカツタト云フコトナラバ、ソレモ問題トスルニハ足ラナイ。問題ハ何故ニ入京ヲ許サレテ入京スル時ニ、其乗船ニ獨立國タル葡萄牙ノ國旗ヲ掲クルヲ許サレシカ、何故ニ入京ヲ許サレシニ拘ラズ觀見スラ許サレナカツタカト云フコトデアアル。

第一ノ問題ハ何故ニ廣東ノ官憲ガ獨立國ノ葡萄牙即チ佛郎機ノ使臣タルとめ・びれすノ入貢ヲ奏請シタカト云フコトデアアル。

ふゑるなん・べれすが廣東ニ到着セル時、通事等ヲシテ自分ガ葡萄牙王ノ使節とめ・びれすと共に來着シタル意味ノ書簡ヲ認メシメシニ、通事等ハ彼等ガ葡萄牙王ノ命ヲ受ケ、四海ノ君タル天



子ニ臣服シ、其冊封ヲ請フ爲メ入貢シタ様ニ書簡ヲ認メテ廣東官憲ニ提出シ、入國ヲ許サル、ニ至リシコトハ、前ニ引用セル『葡萄牙捕虜ノ書簡』ニ見エテ居ル所デアル、後北京王宮内ニ於テ葡萄牙王ノ書簡ガ開封セラレ、其文辭倨傲ニシテ、廣東ニ於テ通事等ノ認メタル書簡ノ文辭ト全然相反スルコトガ發見セラル、ニ及ビ、葡萄牙人ハ支那ノ國事ヲ探偵スル爲メ詐僞手段ニ依ツテ入國シタルモノデアル、葡萄牙王ノ書簡ノ違ツテ居ルコトガ其證據デアルト云フ様ニ考ヘラレ、通事等ハ何故ニ葡萄牙王ノ書簡ニ一致セザル虛僞ノ書簡ヲ認メシカトノ質問ヲ受ケ、通事等ハ支那ノ習慣ニ從ツテ認メシノミ、葡萄牙王ノ書簡ハ封印ヲ施サレ北京ニ於テ支那國王ノ手ニ親呈スベク廣東ニ於テ開封繙讀スルコトヲ許サレザリシ故デアル。遠方ノ國ヨリ來リシ故ニ、支那ノ禮ニ嫺ハザリシモ、今後ハ之ニ從フコトニ努ムベシ。然シ支那ノ習慣ニ從ツテ書簡ヲ認メシニ就テハ罪ヲ受クベキニ非ズト辯疏シタコトガ、亦葡萄牙捕虜<sup>(1)</sup>ノ書簡ニ見エテ居ル。

抑モ支那ニ於テ朝貢國使臣ノ入觀ハ廣東或ハソレソレ其國ノ貢道ト定マツテ居ル地方ニ於テ、其齋シタル奏文ガ翻譯サレ、ソレガ所謂中國ノ體式ニ合シテ居ルト云フコトガ證明サレタ後デナケレバ奏請サレヌコトニナツテ居ルノデアル。通事等ハ此ノ中國ノ體式ニ合スル様ニふえるなん・へれす或ハとめ・ぴれすニ知ラシメズ、葡萄牙王ハ支那皇帝ノ冊封ヲ請フ爲メニ使臣ヲ派遣シタモノデアルト認メタル書簡ヲ提出シ入觀許可ノ奏請ヲ求メシモノナルコトハ明カデアル。

1) Ferguson, Ibid, pp. 57, 58, 104, 105.

北京ニ於テ葡萄牙王ノ書簡ノ文辭ガ廣東ニ於テ通事等ノ認メシ書簡ノ文辭ト相反スルコトガ發見セラレシハ、北京ニ於テ葡萄牙文ヲ譯解シ得シモノ無キコトニ考ヘレバ怪シムベキモ、ソレハ恐ラク、とめ・ぴれす等が一旦廣東ニ於テ支那官憲ノ要求ニ依リ、通事等ヲ立テ葡萄牙王ノ書簡或ハ其ノ副本ヲ譯呈セシメ、朝貢國奏文ノ體式ニ合セズトシテ返附サレシモノヲ帶シテ北京ニ至リ、跪拜ノ禮カ何カノ問題ニ關シテ、其獨立國ノ使臣タル身分ヲ明カニスル必要ヲ感ズル様ニナリ、提出シタ爲メデアラウ。

第二ノ問題ハとめ・ぴれすが廣東入港ノ當時一旦入京不許可ノ詔ガ發セラレタニ拘ラズ、何故ニ二年餘ノ後入京ガ許可サルルニ至ツタカト云フコトデアルガ、明史佛郎機傳ニ、已而蜚緣鎮守中貴、而許入京トアリ、鎮守中貴ニ蜚緣スルト云フ様ナ陰險詭秘ナ手段ハ、外國人タルとめ・ぴれすノ能ク取り得ル所トハ考ヘラレスケレドモ、支那人タル火者亞三ノ手ヲ借リタモノト考フレバ支那ノ事情トシテ、ソレデモ一應説明ハ出來ヌ事ハナイ様デアル。然シ既ニ佛郎機ハ朝貢國ノ列ニ無イト云フノデ、入京不許可ノ詔ガ發セラレタノニ、僅カニ二年餘ノ後ニ、幾ラ火者亞三ガ鎮守中貴ニ蜚緣スルカト云フ様ニ、運動巧妙ヲ極メタト云ツテモ、とめ・ぴれすが佛郎機ノ使臣トシテ、入京ヲ許サルルト云フコトハ考ヘラレナイノデアル。コレハ如何ニ解釋スベキモノデアルカ。

天下郡國利病書ニ引用シテアル御史邱道隆何鰲ノ上奏ニ佛郎機殘逆稱雄、逐其國王、先年潛遣

火者亞三、假充滿刺加使臣、風飄到澳、往來窺伺熟我道塗ト云フ文ガ見エ、東西洋考ニ引用シタ

ル彼等ノ上奏ニモ、同様ノ文ガ見エ、珠域周咨錄佛郎機ノ條ニモ、武宗南巡江彬用事導亞三、上

喜而留之、隨至北京、入四夷館不行跪禮且詐稱滿刺加使臣、朝見欲位諸夷上ト云フ記事ガ見エテ

居ル。邱道隆何鰲ノ上奏ニ、假充滿刺加使臣ト云ヒ、珠域周咨錄ニ、詐稱滿刺加使臣ト言フノハ

火者亞三ガ佛郎機即チ葡萄牙ノ使臣デアリナガラ、詐ツテまらつかノ使臣ト稱シタト云フ意味デ

アル。明史佛郎機傳ニハ、其使火者亞三因江彬侍帝左右云々トアリ、火者亞三ヲ直チニ佛郎機ノ

使トナシ、まらつかノ使ト詐リ稱シタコトヲ記シテ居ナイガ、ソレハまらつかノ使ハ詐稱デ、實

ハ佛郎機ノ使デアルト云フノデ、省筆シタモノデアルコトハ明カデ、火者亞三ハ矢張りまらつか

ノ使ト詐リ稱シテ居タコトハ殆ンド疑ガナイ、コレハ火者亞三ハとめ・びれすノ通事トシテとめ・

びれすノ入京ノ爲メニ盡力シタノデアルガ、佛郎機ノ使トシテとめ・びれすノ入京ヲ許サル、コト

ハ到底望マレナイコトヲ知ツテ、自カラ祖訓會典ニ書イテアル支那ノ朝貢國デ、現ニ葡萄牙ノ占

領ニ歸シテ居ルまらつかノ使ト稱シテ、入貢許可ノ奏請ヲ求ムルニ至ツタモノトデモ考ヘナケレ

バ、説明ノ出來ヌコトデアル。火者亞三ガ自ラまらつかノ使ト稱シテ、とめ・びれすヲシテ之ヲ稱

セシメナカッタノハ、とめ・びれすノ承諾ヲ得難キコトハ明カデアルノミナラズ、とめ・びれすハ

2) 天下一百九十九海外諸蕃  
3) 利卷五九  
4) 下西洋考錄  
天東西域殊

卷宋佛郎機



一旦廣東官憲ガ佛郎機ノ使トシテ入貢ヲ奏請シタモノデアルカラ、今更之ヲまらつかノ使ト稱シテモ、廣東官憲ノ承諾ヲ得ルコトハ出來ナイト云フ考慮ニ出デタモノデアルマイカ、ソレデ火者亞三ハやらつかノ使トシテ入貢ヲ許サレタトシテモ、とめ・びれすノ入京ヲ許サレタノハ、ドウ云フ譯デアアルカ、コレハ火者亞三ハ自ラまらつかノ正使ト稱シ、びれすヲ副使或ハ隨員トシテ、入京ノ許可ヲ求メタモノトデモ考ヘル外ハナイ様デアル。火者亞三ハ自ラまらつかノ使ト稱シテ、入貢ノ許可ヲ得タモノデアラウト考ヘルコトニモ、亦とめ・びれすヲ副使隨員ト稱シテ入京ノ許可ヲ得タモノデアラウト考ヘルコトニモ、隨分無理ナ點ハ澤山アルガ、其處ハ即チ鎮守中貴ニ蚤縁シテ入京ヲ許サル、ニ至ツタト云フ明史ノ記事アル所以デハアルマイカ、此處ニ亦一ツ注意シテ置キタイ事ハ、前ニ葡萄牙王ノ使節とめ・びれすノ廣東滯留ニ就テノ條ニ於テ、火者亞三ガ佛郎機ノ使ト稱シタ様ニ述ベタ事デアルガ、コレハ説明ノ便宜上述ベタ事デアツテ、此時ニ彼がまらつかノ使ト稱シタ様ニ述ベテハ、更ニ之ニ對スル説明ヲ要スルコトニナリ、徒ラニ記事ヲ混亂セシムル虞ガアツタ爲メデアル。

第三ノ問題ハ之ヲ二ツニ分ツコトガ出求ルガ、其一ツハ何故ニとめ・びれすが入京ヲ許サレテ入京スル時ニ、其乗船ニ葡萄牙ノ國旗ヲ掲グルコトヲ許サレタカト云フコトデアル。<sup>(5)</sup>じゅんぐすてつとニ、とめ・びれすが支那皇帝ノ許可ヲ得テ入京スルコト、ナリ、廣東カラ三年ノ滯留ノ後、

一五二〇年ニ出發シテ、南京及ビ北京ニ至リシコトヲ述べ、ばるろすノ葡萄牙文ノ原文ヲ引キとめ・びれすハ三艘ノ撓走船デ出發シタガ、彼ハ此等ノ船ヲ葡萄牙流ニ澤山ノ旗ヤ日除ケヲ以テ飾リ、猶ホソレニハ葡萄牙ノ國ノ名譽ノ爲メニ、葡萄牙ノ紋章アル旗ヲ載セテ往ツタコトヲ記シテ居ル。じいさす<sup>(6)</sup>ニモとめ・びれすが北京ノ召見ヲ許サル、エト、ナリ、一五二〇年三艘ノガリイ船ニ、支那ノ國習ニ反シテ、葡萄牙ノ國旗ヲ掲ゲ、運河ヲ進航シテ、北京ニ着シタコトヲ記シテ居ル、嘉靖時代ニ明ニ使シタ足利政府ノ使僧碩鼎ナドノ、寧波カラ河ヤ運河ヲ溯ツテ北京ニ往ツタ時モ、十八世紀ノ末英吉利ノ使節まかーとにい卿ガ、白河ヲ溯ツテ北京ニ往ツタ時ナド、同様ニ、進貢ト云フ二字ヲ記シタ牌ヲ、船頭ニ掲ケテ進航シタ事ハ、副使トシテ碩鼎ト同行シタ策彦<sup>(7)</sup>ノ初渡集ニ見エテ居ル。葡萄牙即チ佛郎機ノ使節タルとめ・びれすが、獨リ此ノ如キ牌ヲ掲ケズシテ、葡萄牙ノ國旗ヲ掲ケルコトヲ許サレタノハ、果シテとめ・びれすノ之ヲ掲ケタ目的ノ葡萄牙ノ國ノ名譽ガ認メラレタ譯デアラウガ、ドウモサウ云フ事ハ考ヘラレナイ。現ニ前ニ述べタ様ニ、じいさすニ據ルト、とめ・びれすノ携帯シタ葡萄牙王ノ書簡ハ、其文辭ノ倨傲ニシテ、入貢使臣ノ齎スベキ奏文ノ體式ニ合セザル事ガ、北京朝廷ニ指摘サレ、とめ・びれすノ使命ハ、失敗ニ歸スルニ至ツタト云フデハナイカ。ダカラとめ・びれすが北京進航ノ途中、其乗船ニ葡萄牙ノ國旗ヲ掲ケタト云フ事ハ、國旗ノ性質ヲ知ラナイ様ナ支那ニ於テ、何モ獨立ノ使節タル資格ガ認メラレタト云

6) Jesus. Ibid. p. 4.

7) 策彦初渡集 京都帝國大學文科大學藏本下ノ上

フ證據デハナイツレハ却ツテとめ・びれすノ進貢使タル資格サヘモ認メラレナカッタト云フ證據  
デハアルマイカ。言ヒ換ヘレバ火者亞三ハまらつかノ進貢使トシテ認メラレタノニ反シテ、とめ・  
びれすハ自分デハ葡萄牙即チ佛郎機ノ使デアル、其乗船ニ葡萄牙ノ國旗ヲ掲クルコトガ出來ルノ  
ハ、恰カモ獨立國タル葡萄牙ノ使ト云フ資格ヲ認メラレタモノ、如ク考ヘテ居タカモ知レヌガ、  
支那ニ於テハ火者亞三ノ副使或ハ隨員位ニ考ヘラレテ無視サレ、或ハ看過サレタ證據トナルノデ  
ハナカラウカ、或ハまらつかノ使ト稱シタ火者亞三ヲ珍ラシガツテ、之ヲ左右ニ侍セシメ、之ト  
嬉戲シタ様ニ言ハレテ居ル武宗デアルカラ、其好奇心ヨリとめ・びれすガ旗ヤ日除ケデ、葡萄牙流  
ニ其乗船ヲ飾リ、國旗ヲ掲ケルコトヲ放任シタモノデナイカト考ヘラレヌコトモナイ。ぶれつと  
ゆないでるニとめ・びれすガ南京ニ於テ、支那帝カラ北京ニ至ルコトヲ命ゼラレ、獨リデ出發シ、一  
五二一年一月北京ニ達シタコトヲ記シテ居ル、恰カモ武宗ノ南京カラ北京ニ還幸ノ前後ニ際シテ  
居ルガとめ・びれすハ餘リ注意サレナカッタモノ、様デアル。

第三ノ問題ノ中ノ一ツハとめ・びれすノ入京ヲ許サレタノハ觀見ヲ許サレタ意味デアラウガ、何  
故ニ觀見ヲ許サレナカッタカト云フコトデアル。

前ニ述ベタ如ク、火者亞三ハまらつかノ使ト稱シテ入京シ明史佛郎機傳ニ據ルト會同館ニ居ッ  
タノデアル。顧應祥ノ言ニモ留會同館者將一年ト言ツテアル。殊域周咨錄ニハ、四夷館ニ居ッタ



様ニナツテ居ル。會同館ハ俄羅斯館即チ今ノ露國公使館ノ前身デ、玉河橋ノ西ニアリ、明ヨリ清ノ初メニ至ルマデ、諸番貢使ノ館舍ト定マツテ居タモノデ、まらつかノ使ト稱シテ入京シタ火者亞三デモ、とめ・びれすデモ、會同館ニ居タモノデアルコトハ明カデアルガ、四夷館ハ明代ニ於テハ翰林院ニ隸シ、翰林院近傍長安左門外ノ玉河橋西ニアツタト云フコトデアルカラ、會同館ト略ボ同一ノ地ニアリ、自然ニ混同シ、會同館ヲ四夷館トモ稱スル様ニナツタモノデアルコトハ疑ガ無イ。此ノ如ク火者亞三ハ明ノ朝貢國タルまらつかノ使ト稱シ、諸番貢使ノ館舍タル會同館ニ居ツタニ拘ラズ、何故ニ跪禮ヲ行フコトヲ肯ンジナカツタカ、殊域周咨錄ニ武宗南巡、江彬用事、導亞三、上喜而留之、隨至北京、入四夷館、不行跪禮、且詐稱滿刺加使臣、朝見欲位諸夷上、主事梁焯執問杖之ト云フ記事ガ見エテ居ル、天下郡國利病書ニ有至部者、不行跪禮、朝見欲位先諸夷ト云ツテ居ルノモ、皇明實錄(12)ヤ明史(13)ニ引用シテアル御史何鰲ノ上奏ニ、至京者桀驁爭長ト言ツテ居ルノモ、火者亞三等ガ跪禮ヲ行フコトヲ肯ンセズ、朝見ニ諸夷ト平等ノ待遇ヲ受クルコトニ反對シタ事實ニ關係スルモノデアルコトハ明カデアル猶ホ明史佛郎機傳ニハ、亞三侍帝驕甚、從駕入都、居會同館、見提督主事梁焯、不屈膝、焯怒撻之、江彬大詬曰、彼嘗吳天子嬉戲、肯跪汝小官邪ト云フ記事ガアリ、名山藏ニ武宗見亞三(中略)他日有事四夷館入、坐而見禮部主事梁、焯怒杖亞三、彬聞大詬曰彼嘗與天子遊戲、肯下跪一主事耶トアリ。コレハ火者亞三ハ自分ハまらつかノ

9) 藝文大正四年九月號拙稿北京の露國公使館ニ就テノ註五會同四譯館ニ就テ參照  
10) 殊域周咨錄卷九佛郎機  
11) 天下郡國利病書卷一百十九外諸蕃  
12) 皇明實錄正德十五年十二月ノ條  
13) 明史佛郎機傳

使デアルガ通常ノまらつかノ使トハ違ツテ、天子ト嬉戯シタコトノアル程ノモノデアルカラ、僅カニ一會同館提督主事タル梁焯ニ膝ヲ屈スルコトガ出來ナイト主張シタ意味ニ過ギナイ様デアルガ、果シテソレダケノ意味ニ過ギナイノデアラウカ。

前ニ述ベタ如ク火者亞三ハとめ・びれすノ爲メニ、入京ノ許可ヲ求ムルコトニ就テ盡力シ、其手段トシテ自分ハまらつかノ使トナリ、とめ・びれすヲ副使或ハ隨員ト稱シテ、入京ノ許可ヲ得ルコトニナツタモノ、様デアル、とめ・びれすハソレトハ知ラズ、自分デハ葡萄牙ノ使節トシテ入京ヲ許サレタモノト考ヘテ居タ様ニ見エル、然ルニ今ヤ北京ニ至リ、會同館ニ入ルコトニナツテ、とめ・びれすハ自ラ知ラナイデアラウガ、跪禮ヲ行フニ非レバ、朝見進貢ヲ許サレナイコトハ明カナツタノデアル、火者亞三ハコレマデ支那官憲ニ對シテハ自ラまらつかノ使ト稱シ、とめ・びれすニ對シテハ、葡萄牙使命トシテ入京ヲ許サレタモノ、様ニ信ゼシメ、巧ニ兩方ヲ欺瞞シテ、とめ・びれすヲシテ入京ノ目的ヲ達セシメタノデアルガ、最早サウ云フ手段デハ、覲見ノ目的ハ達スル事が出來ナクナツタノデアル。支那官憲ヲシテまらつかノ使ト稱シテ居ル自分ヤ、とめ・びれす等ヲ諸夷ノ貢使ト同様ニ取扱ハズ、跪禮ヲ行ハズシテ、特ニ朝見進貢ヲ許サシムル事が出來ナケレバ、とめ・びれすヲシテ朝貢國ノ使臣タルコトヲ承諾セシメ、諸夷ノ貢使同様ニ跪禮ヲ行ハシメナケレバナラスト云フ進退兩難ノ地ニ立ツタノデアル。然シ、とめ・びれすノ跪禮ヲ行フコトヲ肯ン

ジナイ事ハ明カデアルカラ火者亞三ハ支那官憲ヲシテ自分等ヲ諸夷ノ貢使同様ニ取り扱ハズ、跪禮ヲ行ハズシテ、朝見ヲ許サシムル外ニ、取ルベキ途ハナカツタノデアル。然レドモ既ニ朝貢國タルまらつかノ使ト稱シテ、入京ヲ許サレタモノデアルカラ、今更まらつかノ使トハ詐稱デ實ハ獨立國タル葡萄牙即チ佛郎機ノ使デアルト言ツテ其理由ヲ以テ、跪禮ヲ行フコトガ出來ナイトハ主張シ難キ譯デアル。之ヲ主張スレバ、天朝ヲ欺罔シテ、入國ヲ謀リ、首善ノ都ニ潛入シタ罪ヲ免レナイノデアル。縱令主張スルコトガ出來タニシテモ、葡萄牙即チ佛郎機ト言ツテハ、入京デスラ許サレナカツタノデアルカラ、北京カラ拒回サル、ハ格別覲見ノ目的ヲ達シ難イ事ハ明カデアル。ダカラ火者亞三ハ自分ガ嘗テ天子ト嬉戲シタト云フ天子トノ特別ノ關係ヲ主張シテ、之ニ依ツテ支那官憲ヲシテ特ニ跪禮ヲ行ハズシテ覲見ヲ許サシメント試ミタモノデハアルマイカ。

## 駟儉牙儉及ビ牙行ニ就テ (下)

### — 支那稅源ノ歷史の考察 —

稻 葉 岩 吉



十二、<sup>私</sup>牙

十三、互市ト牙僧トノ關

十四、牙帖及ビ額數

十五、牙帖ノ發行權

十六、牙行ノ現狀

十七、餘説——龍斷ニ就キテ

## 十一、舶 牙

前同ノ説明ニヨリテ、駟僧ノ利權ガ、地方政府ニ括取セラレ、ソレガ牙僧ノ名デ呼バル、ニ至ツタ徑路ヲ觀取シ得ルコト、思フ。宋代以降、支那ノ獨裁政治ガ發達スルニツレテ、ソレガマタ著シク發達シ、牙僧ノ免許狀ヲ得テ居ナイモノハ、商人タル資格ガナク、政府マタコレニ課税スルコトヲ以テ、財源ノ主ナルモノトナシタノデアル。

宋亡ビ元ニナツテ、コノ傾向ハ一段ノ進歩ヲ遂ゲタラシイ。元ハ財政——歲入ヲバ主ニ地方官ノ請負ニ委ネタ傾向ガアツタカラデモアロウ。惜シイコトニ、元代ノ典據タル元典章及ビ元史ノ食貨志等ニハ、右牙僧ニ關シテ精細ナル條文ガ收メテナイカラ、アラユル場合ヲ説明スルコトハ不可能デアルケレドモ、世祖ハカツテ盧世榮ノ言ニヨリテ「各都ニ市易司ヲ立テ、諸牙僧人ヲ領セシメタ」商稅トシテ貨物四十分ノ一ヲ計上シ、「ソノ六割ヲ官吏ノ俸給ニ、四割ヲ牙僧ノ手數料

トシタ」(元史卷二〇五)コトガアリ、「油房・青果・匹段・煤炭・桑棗・磁器・木植・野麪等ノ諸牙行」ヲ立テ、徵稅シタ(同上)コトモ見ヘテ居ル。商稅トイフモノモアソタ。「商賈ノ稅アルハ、本ト以テ末ヲ抑フルナリ、而シテ國用亦々資ス。元初、未ダ定制アラズ。太宗甲午ノ年、始メテ徵收課稅所ヲ立テ、凡ソ倉庫院務官并ビニ合千人等ハ、各處ノ官司ニ命ジテ、有產有行ノ人ヲ選テ之ニ充テシメ、其ノ所辦ノ課程ハ、每月所ニ赴キテ輸納セシム」トイヒ、下文ニ「貿易借貸者アレバ、並ビニ徒二年、杖七十ヲ加ヘ、所ノ官ニシテ擾民取財者アルトキハ、其罪亦カクノ如シ」、トイヒ、世祖ノ中統四年ニ阿合馬・王光祖等ノ言ヲ用ヒ、「凡ソ在京權勢ノ家ニシテ商賈ヲナシ、及ビ官銀ヲ賣買スル人ハ、並ニ務ニ赴キテ輸稅セシメ、入城弔引セザルモノハ、匿稅法ニ同罪トス」トモアリ商人ハ一種ノ營業稅ヲ收メナケレバナラナカッタ。ソレハ商稅ノ基礎タル「契本」デアッタと思ハル、カラ、牙行稅モコノ範圍ヲ出ヅルモノデナイ。否ナ商稅ノ幾ンド全部ガ牙稅ノ性質デアアルカモ知レヌケレドモ、殘念ナガラソレハ明文ノ徵スベキモノガナイ。但タ元史(九四)食貨志ノ「商稅額數」ハ後世ノ「牙稅」ニ相當スベキ性質ノモノデアアルコトダケハ、想像セラレルノデアアル。尤モ元代ニテハ、以上ノ外ニ、市舶司ニ「舶牙」ヲ置キ、「額外課」トシテ「牙例」ト稱スル名稱ノ課稅ヲ上ゲテ居ル。

元典章ニハ市舶則法二十三條ガアル、凡ベテ海外貿易ニ關スル規定ヲ示シタモノデアアルガ、ソ

ノ一節ニ左ノ一節ガアル。

一、船舶ノ公驗ヲ請給スル場合ニハ、舊例ニ依リテ、保舶牙人ヲ招キテ保明セシムベシ、牙人ハ乗組人伴幾名ナルカ、船ヨリ買取ラレタル物貨ノ某處ニ往クベキカラ經紀公驗シ、本船ノ財主某人、綱主某人、直庫人某人、梢工某人、雜事等某人、部領等某人、人伴某人、船隻力勝若干、檣高若干、船面闊若干船身長若干ナルカヲ開具上申スベシ。大船一隻ニ付キタゞ小船一隻ヲ帶有スルヲ許ス、ソハ、柴水船トイヒ、公憑ヲ給スベシ。云々（下略）

コノ記事ハ簡單ナガラ、下ノ事實ヲ想定スルコトガ出來ヤウ。元ノ制度ニテハ、各開港地ニ市舶司ト稱スル官廳ガアリ、中央ヨリ長官ガ差遣セラレテ居ツタ（元史食貨志參照）。シカシ長官ハ、直接、外舶ニ關スル事務ヲ取扱フコトナシニ、之ヲ舶牙即チ牙人ニ一任シタノデアル。外舶ハ、牙人ノ保明ニヨリテ合法ノ通商ガ行ハレ、同時牙人稅關事務ニ關シテノ一切ノ責任ヲ取ツタラシイ、舶牙ノ地位ハ、カクテ貿易上、重要視セナケレバナラス。粵海關志凡例ニ「今ノ夷商、即古ノ船舶、今ノ行商（*Cohong* ヲ指ス）即チ古ノ舶牙、二者相須テ互市ヲ成ス」トアルノハ妥當ノ見解デアル。

シカシ、コノ制度ガ元代ノ創造デアルトスルコトハ、容易ニ斷定シ得ラレヌノデアル。南宋時代ニ於テハ、早クヨリ貿易ニ關シテノ條例ガ編制サレテアツタカラ、牙儉ト貿易ノ關係ノゴトキ



寧ロ重要視サレネバナラヌ筈デアル、但ダ遺憾ナルコトニハ、粵海關志所引ノ「宋會要」ダケデハ、明指スルコトガ出來ナイ、慶元條法事類（靜嘉堂文庫所藏）ニハ、果シテ如何、コレラハ他日ノ研究ニマツコト、シヤウ。

## 十二、私 牙

牙儉ハ、カク政府ノ利藪トナツタコトハ明白デ、牙行ハ必ズ官許ヲ得テ開設スベキ性質ノモノデアルニ違ヒナイケレドモ、牙儉ガ利藪デアルダケ、ソレダケ私設牙行ノ發生ヲ免レナイノデアツタ。吾人ハ、本誌（第一卷第一號）ニ於テ、度牒發行權ガ地方人ニ分占セラル、ニ至ツタコトヲ指摘シタコトガアルガ、モトモト度牒ハ、豪族ノ私度ヲ禁止スル政權ノ發動ニ外ナラナイカラ、政府ノ威力ガ喪失スルカ、或ハ十分ニ徹底セナイ場合ニ於テハ、私度ノ現出ハ、當然デアル。牙行マタコレニ同ジ、明ノ太祖洪武二年間ノ條令ニハ、左ノ一節ガアル。

令ス、天下府州縣鎮店ノ去處ニ、官牙・私牙アルヲ許サズ、一切ノ客商應有ノ貨物ハ、照例投稅ノ後、發賣ヲ聽從ス、敢テ官牙・私牙ニ係ルト稱スルモノハ、鄰里坊廂ノ拏獲赴京スルヲ許シ、以テ化外ニ遷徙セシム、若シ官牙ニ係ル場合ハ、其該吏ヲ全家遷徙ス、敢テ官牙・私牙ヲ爲シテ兩隣首セザルモノハ、罪、巡欄ニ同ジ、敢テ刀證シテ多ク客貨ヲ取ルモノハ、客商ノ拏シテ赴京

シ來ルヲ許ス。(大明會典戶部ノ條)

太祖ノ趣旨ノアルトコロハ、一般商人ハ貨物稅ヲサヘ納入スレバ、牙行ノ手ヲ經スニ自由ニ取引ヲ得シムルトイフニアツタ。ソレハ元代牙行ノ弊ニ鑑ミタモノトモ想像サレルノデアル。元代ヨリ官牙以外私牙ノアツタコトモ分カル。シカシ命令ハ十分ニ行ハレナカツタ。大明會典ノ條文ニヨルニ、「牙錢」ノ規定ハ頻繁デアリ、景泰五年ノ禁止ニハ「私充牙行」ヲ處罰スルノ條文ガアツタ。

#### 明律(卷九)ニモ

凡ソ泛海ノ客商ノ舶船岸ニ到ラバ、物貨ヲトツテ實ヲ盡シ報官シテ抽分ス。若シ沿港土商牙僮ノ家ニ停場シテ報セザルモノハ、杖一百。供報ストモ盡サルモノハ、罪亦カクノ如シ、物貨ハ竝ビニ官ニ入レ、停藏ノ人ハ同罪シ、告獲者ハ官ヨリ賞銀二十兩ヲ給ス。(戶律)

ノ明文ガアルカラ、所謂土商・牙僮ノ存在モ明白デアリ、同私充牙行埠頭ノ條ニハ、左ノ規定ガアル。

凡ソ城市鄉村ノ諸色牙行及ビ船埠頭ハ、並ビニ抵業ノ人戸ヲ選有シテ充應シ、官ヨリ印信文簿ヲ給シ、客商船戶ノ住貫・姓名・路引・字號・物貨ノ數目ヲ附守シ、每月赴官查照セシム。私充スルモノハ、杖六十。所得ノ牙錢ハ入官ス、官牙ニシテ埠頭容隱スルモノハ笞五十、革去ス。(市廛)

コレヲ條文ニヨレバ、太祖洪武年間ノ趣旨ハ、既ニ沒却サレテ、牙行ハ官許ノモノトナリ、ソレ以外ニ多クノ私牙ノアツタコトガ、明白ニシテ疑ハレナイ。清ノ康熙四十三年御史張蓮ノ疏ニハ下ノ事情ヲ述ベテ居ルノデアル。

地方棍徒、瓜果蔬菜等ノ物ニ於テモ、亦タ私カニ牙行ノ名目ヲ立テ、商民ヲ勒捐ス、請フ一切ノ私設牙行ハ、盡ク革除ヲ行ハン、云々。

私牙ノ取締ハ、カクテ重視セラレナケレバナラス。

### 十三、互市ト牙僮トノ關係

元代ニ於テ市舶司ニ牙人ヲ使役シタルコトハ、前節ニ述ベタガ、カ、ル組織ハ、唐代ノ互市牙郎ニ直接スルトコロナイマデモ、一種ノ間接的緣由ヲ示シテ居ルコトハ疑ハレナイノデアル。國家ノ法制ガ紊亂スルニツレテ、ソレヲ牙人ノ經營ハ、漸次官府ヨリ離脱シテ、私牙ノ形式ヲトルコトモ、略ボ想像サレヌデハナイ。「海鹽縣圖經」ノ一節ニハ左ノ記事ガアル。

元末、寓公姚桐壽事ヲ著シテ云フ、近年市舶長吏及ビ巡徼、上下求索百出、番船一タビ至ルゴトニ、衆皆ナ懽呼ス、曰ク丞カニ治廂セヨ、廩家當來セリト。昨年番人憤々トシテ至リ、露刃シテ市舶勾當ヲ相殺セリ、死者三人、主者匿匿シテ以テ聞セズ、射利厭クナク、開釐シテ最



モ本州ノ一大後患ヲナス、而シテ舶務ヲ總領スル楊發ナルモノハ、澈川ニ土着シ、其家復タ築室招商セリ。世々利權ヲ攬リ、富、僮奴千指ニ至リ、音樂ヲ盡善シ、僧ニ飯シ、寫藏建刹、兩浙三吳ノ間ニ偏シ、小民相爭ヒテ慕效シ、牙僧ヲ以テ業トナシ、奢僭攘奪ノ風ヲ習成セリ。明興リ、楊氏ヲ徙シテ其家ヲ藉シ、市舶司ヲ罷メテ後設ケズ、豪商大賈盡ク散去シヌ。二鎮城ノ民居之ガ爲メニ蕭條シ、復タ曩時ノ盛ニアラズ、而モ海上亦通番ノ禍ヲ免ル、ヲ得タル、桐壽ノ憂フルトスルノ如シ。

本文ノ楊發ノ一大牙僧デアツタコトハ、略ボ明白デアリ、多數ノ牙僧ガ、ソレニ慕效レタ。圖書集成」所載ノ雜課定例ニハ

凡ソ外夷入貢スルモノハ、我朝皆ナ市舶司ヲ設ケテ之ヲ領ス、廣東ニ在ルモノハ、專ラ占城・暹羅諸番ノ爲メニ設ケ、福建ニ在ル者ハ、專ラ琉球ノ爲メニ設ケ、浙江ニ在ルモノハ、專ラ日本ノ爲メニ設ク、其來ルヤ方物ヲ帶ブルヲ許ス、牙行ヲ設ケ、民ト貿易ス、之ヲ互市トイフ。コレ貢舶アレバ、即チ互市アリ。入貢ニ非レバ、其ノ互市ヲ許サルコト明ケシ。

トアルガ、這般用意ノ下ニ置カレタ海港場ノ牙行ハ、カツテ本誌上ニ解説ヲ試ミタ廣東ニ於ケル行商(Co-Long)ノ緣由ヲ語ルモノデアラネバナラヌ。行商ハ洋行商ノ略稱デアルケレドモ、正シクイヘバ、牙行商人ノ意義ニ受取ラル、デアロウ。行商ハ、阿片戰爭ト、モニソノ存在ヲ失ツタワ

ケデアルケレドモ、ソレノ一面ノ事業デアッタ買辦ハ、我長崎ノこむぶらト同名ノ下ニ、現代マデ、外商ニ密接スルノデアル。

## 十四、牙帖及ヒ額數

翻ツテ牙行ノ推移ヲ觀察スルニ、明代ニ於テ一度ビ企テラレタ牙行撲滅策ハ、實行セラルベクモアラズ、大勢ハ、牙行ヲ利用シテ、ソレニ課税スルコトガ、一面私牙ノ跳梁ヲ防壓スル政策トシテモ臨宜ノ手段デアルコト、解セラルハ、ニ至ツタノデアル。牙帖即チ牙行鑑札ノ下附ハ、カクテ當面ノ急務トセナケレバナラナイ。

牙帖ハ、政府ガ課税ノ目的ノタメニ、牙行ニ交付サル、鑑札デアル。「乾隆大清會典」ノ記載ニハ次ノ明文ガアル。

凡ソ城廂衢市、山場鎮集、舟車湊ルトコロ、貨財聚ルトコロ、民ノ良者ヲ擇ビ、之レニ帖ヲ授ケテ以テ牙僧トナシ、辦物平價、以テ貿易ヲ通セシム、而シテ其帖ニ税スルヲ牙税トイフ。

コノ本文ニツキテ、「清國行政法」ノ解説ニ「蓋シ牙行本來ノ業務ハ、賣主ト買主トノ間ニ立チテ互ニ之ヲ紹介シ、且ツ爲メニ物價ノ價格ヲ估定シ、其多寡ニ應ジテ、手数料即チ牙錢ヲ收ムルニ在リ、辦物平價、以テ貿易ヲ通ズトアルハ、即チコノ意ニ外ナラズ、而シテ、其ノ民ノ良者ヲ擇ビ

テ之ニ帖ヲ授ケ、以テ牙僧トナストイフヲ以テ觀レバ、其免許營業タルコトハ明カナリ」トハ妥當ノ見解デアルトイハネバナラヌ。但ダ「行政法」ガカ、ル支那政府ノ政策ハ、專ラ商人取締ニ原因スルガゴトク解シテ居ルケレドモ、ソレハ全體トハイフヲ得ナイ。否ナ、立法ノ精神ヨリスレバ、依然、徵稅ガ、主ナル目的デアルコト、思ハレル。ソノ次第ハ、政府ガ、コレヲ牙帖授與者ヲ限定シ、額數ヲ指示シタコトデワカル。

牙帖額數ノ創定モ、元明間ニアルコト、思ハル、ガ、確カナ年代ハ、判ラナイ。清朝ノ雍正十一年ニハ、次ノ諭文ヲ發シテ居ル。

各省商牙雜稅、固ト國課ニ關スルアリ、亦タ民ニ便スル所以ナリ。コ、ヲ以テ各省牙帖ヲ額設シ、俱ニ藩司衙門ヨリ頒發シ、州縣ノ濫給ヲ許サズ。增添ノ弊ヲ防ギ、累ヲ商民ニ遺サシメザル所以ナリ。近口聞クニ、各省牙帖、歲々增添アリ、即チ各集場中、雜貨小販ノ向來牙行ニ籍ナキ者マデモ、今、概ネ牙帖ヲ給ス、而シテ市井ノ奸牙、遂此ヲ恃ミテ把持シ、利息ヲ抽分スト是レ集場一牙戸多ケレバ、商民即チ一苦累ヲ多クスルワケナリ、況ンヤ牙帖納稅、毎歲多キコトナク、徒ラニ煩擾ヲ滋クスルハ、甚ダ平價通商ノ本意ニ非ズ、直省督撫ニ著シテ、各藩司ニ飭令シ、地ニ因リテ宜ヲ制シ、著シテ定額ヲ爲クリ、報部存案セシム、有司ニ任意增添セシムルヲ許サズ。嗣後、タ、額内ノ各牙ノ退帖項補ノ處ヲトツテ、查明シテ新帖ヲ換給シ、再ビ集



場ヲ新開シテ設クベキ牙行ハ、名數ヲ酌定シテ給發シ、亦タ報部存案セシム、此ノ如クンバ、貿易ノ小民、永ク牙戸苛索ノ弊ヲ除クベシ。(雍正上諭)

雍正帝ノ意志ノ、徵稅ノ増入ニ在ツタコトハ明白デ、小民保護ハ、ソノ表面ノ好辭令デアルコトハ想像サレル、シカシ、コノ上諭ノ結果、左ノ額數ガ決定サレタ。

京 城(北京) 八百八十九

奉天省 九百六十四

直隸省 一萬三千七百二十三

山東省 五千一百四十九

山西省 一萬九百十九

河南省 七萬六千九百九十二

江蘇省蘇州 布政使司所屬 一萬四千二百二十四

同 省江寧 布政使司所屬 一萬二千三百十七

安徽省 一萬三千四百三十九

江西省 四千五百十八

福建省

.....

浙江省

九千九百六十二

湖北省

九千二百四十八

湖南省

一千一百一

陝西省

三千三百四十四

甘肅省

九百九

四川省

七百九十八

廣東省

……

廣西省

……

雲南省

九十二

貴州省

二百七十七

以上ハ戸部則例ノ所載デアル。

## 十五、牙帖ノ發行權

牙稅ハ、政府ノ指定商人ガ、ソノ特許權ヲ得ルコトニヨリテ發生スル義務デアル。清朝時代ニ於テハ、牙行開設ノ希望者ハ、殷實ノ良民デアルコト（一）現ニ開業中ノ牙行ノ互結及ビ鄰佑ノ甘

結ヲ要スルコト(二)ノ二條件ヲ具備スベク、出願書ヲ受理シタ地方官ハ、之ヲ布政使ニ上申シ、布政使司ヨリシテ牙帖即チ免狀ヲ發行スルトイフコトニナツテ居ツタ。但シ一牙行ニハ一個ノ經紀ヲ充當スルノミデ、二人以上ノ共同經營ハ「朋充」ト稱シ、嚴ニ之ヲ禁止スルコト、シタ、蓋シ「朋充」ヲ許可スルコトニナルト、一牙帖ニ依リテ、數個ノ牙行ヲ營ムノ弊ヲ生ジ、牙行額數設定ノ本旨ニ背馳スルカラデアル。下級官吏ヤ衙役等ノ牙行營業モ禁止シタ。ソレハ官權濫用ノ弊ガ簇出スルニ因ルノデアル。

・牙行免狀ヲ受ケタモノハ、任意廢業ハ出來ナカツタ。但ダシ本人ガ死亡スルカ、老衰疾病ノタメ、其他己ムヲ得ナイ事由アルトキハ、廢業ヲ差許スガ、別ニ殷實ノ商人ヲ招募シテ、其補充ニ供シ、新帖ヲ換給スルノデアル。牙行ハ私カニ讓受ケヲスルコトハ出來ナイ、其私カニ相授受シテ牙行ヲ經營シタモノハ「頂冒」ト稱シ、「朋充」ト均シク嚴禁スルコト、シタ、外ニ牙行「革退」トイツテ、免許ノ取消ニ關スル法規モアツタ。福惠全書ノ著者ニヨレバ、カク法規ハ具ハリテ居ルケレドモ、容易ニ効果ハ舉ラナカツタラシイ。以ラク「牙稅ハ乃チ市價ノ身帖ナルニ、一帖ヲ以テ凡ソ數十人ヲ蔽フモノアリ、蓋シ帖ナケレバ私幫シ、帖アレバ以テ影射ヲナス、該房ソノ賂ヲ受ケテ舉セズ、若シ此人當ラザレバ、下手ヲ招キテ、頂名執帖セシメ、又タ該房ト其利ヲ分享シ而モ新帖ヲ換ヘズ、コレ一帖タハニ數十人ヲ蔽フノミナラズ、且ツ數十人ヲ頂換スベシ云々。(卷



八牙稅參照）ト、衙門ノ吏役ガ、牙行ニ結托シテ、朋充項冒ヲ行フノ弊ハ、既ニ前代カラノコトデアツタラシイ。

## 十六、牙行ノ現狀

牙行及ビ牙稅ノ實狀ハ、清代ト今日ト大ナル差異ヲ見ナイノデアル。民國財政史ノ著者ハ下ノ如クイツテ居ル。「牙稅一項ハ、前清ノ定例ナリ。部帖ヲ領用シ、限制綦嚴ナリ。歷時既ニ久シク視テ具文ニ同ジ。或ハ期滿チテ換ヘズ、或ハ照ナキニ私開シ、輾轉牽引、互ニ相影射ス、或ハ一帖ニシテ多行ヲ分設シ、或ハ一字ニシテ數業ヲ兼營シ、既ニ民蠹ヲナシ、復タ稅源ヲ妨グ、各縣知事、明ニ前項ノ情弊ヲ知ルモ、往々諭帖ヲ私給シ、革充ニ藉端シテ、鉅資ヲ婪取シ、視テ利藪トナス。マタ胥吏衙役アリテ、中ヨリ把持侵漁シ、帖捐年稅、率ネ中飽ニ歸スルニ至ル、剔弊裕課、自ラ緩ナルヲ容サズ、民國初元、各省ニテ牙稅ヲ廢辦シ、或ハ舊帖ヲ飭換シ、或ハ新牙ヲ創設シ、宿弊稍滅セシモ、辦法益々紊レタリキ。財政部深カク之ヲ憂ヒ、三年三月、遂ニ各省ニ電令シ、本地ノ情形ヲ按照シテ、章程ヲ妥擬シテ部ニ報ジ以テ整頓ニ資セシメタリ。コ、ニ於テ、散ヲ化シテ整トナスモノアリ。別ニ公司ヲ組スルモノアリ、舊制ニ依照スルモノアリ、財政部マタ四年九月ニ於テ、整頓大綱八條ニ擬定セリ、（一）無帖私開及ビ前清ノ舊帖ノ未ダ新帖ニ換ヘザ

ルモノヲ平均シテ勒シテ照章領帖セシム、(二)各牙紀前清ノ舊帖、已ニ新帖ニ換ヘ、未ダ帖捐ヲ繳セザルモノハ、五年分ニ於テ、一律等則ヲ按ジテ帖捐ヲ補縮スベシ、(三)各牙紀常年ノ稅則ハ直隸現行ノ稅率ニ比較シテ切實加増ス、(四)牙帖營業年限ハ、多クモ十年ヲ過グルコトヲ得ズ、凡ソ從前逾限ノ舊帖ハ、概ネ取消ヲ行ヒ、別ニ繳費領帖セシム、(五)帖捐稅率、亦タ直隸ヲ以テ適中ノ數トナシ、其各省ノ定章ニシテ超過スル者アラバ、悉ク其舊ニ仍リ、及バザルモノハ、比較加増スベシ、(六)領帖換帖ハ、應サニ帖費百分ノ二ヲ按シテ手數料ヲ徵收ス、(七)各縣田地房產ノ牙紀ハ、應サニ「官中」ト改名スベシ、其繳捐領帖納稅等ノ手續ハ悉ク牙帖例ニ照ラシテ辦理ス、(八)各項帖費捐年稅ハ應サニ專欸存儲シ、中央ニ解濟スベシ。該通告ノ下ニ、ソレゾレ改定ヲ加ヘタルモノニ就キ二三ノ例ヲ示セバ左ノゴトシ。

# 一、京 兆 (北京)

## (一) 帖費 (登錄稅)

|          |           |       |
|----------|-----------|-------|
| (イ) 長期整商 | (甲) 二千元   | 千五百元  |
|          | (乙) 千二百元  | 八百元   |
| (ロ) 同 散商 | (丙) 六百元   | 四百元   |
| (ハ) 短期整商 | (甲) 六百元   | 四百五十元 |
|          | (乙) 三百六十元 | 二百四十元 |
| (ニ) 同 散商 | (丙) 一百八十元 | 百二十元  |

## (二) 稅率 (當年稅)

(一) 同 散商 整商十分ノ一

## (三) 時效

長期二十年  
短期五年

## (四) 標準

整商 散商 公司

## 二、直隸省

- (一) 帖費 三百元——八十元
- (二) 稅率 百六十元——二十元
- (三) 時效 五年

## 三、奉天

- (一) 帖費 

|    |      |    |     |
|----|------|----|-----|
| 牙店 | 八十元  | —— | 四十元 |
| 牙紀 | 二十四元 | —— | 十二元 |
| 官秤 | 十四元  |    |     |
- (二) 稅率(帖稅) 帖費十分ノ一
- (三) 時效 一年
- (四) 標準 

|    |             |    |       |
|----|-------------|----|-------|
| 牙店 | 資本五百元以上     | —— | 五百元以下 |
| 牙紀 | 賣買貨物ノ貴重及ヒ普通 |    |       |

## 四、吉林

- (一) 帖費 三百元——八十元  
(牙行・牙店・官中・牙紀ノ區別ヲ設ク)
- (二) 稅率 二百元——四十元
- (三) 時效 五年

## 五、黑龍江

研究及調査 驅僱牙僧及ヒ牙行ニ就テ



(一) 帖費 { 牙店帖 三百元—八十元  
牙紀帖 五元(外手數料三角) }

(二) 稅率 百分ノ三

(三) 時效 { 牙店帖 五年  
牙紀帖 六個月 }

## 六、江 蘇

(一) 帖費 { 登錄稅 } { 甲 長期繁盛者 七百五十元—七十五元  
乙 同 偏僻者 三百元—七十元  
丙 短期 四十元—十元 }

(二) 稅率 (營業稅) 二十五元—二元五角

(三) 時效 { 長期 二十年  
短期 一年 }

(四) 標準

## 七、湖 北

(一) 帖費 一千串—一百串

(二) 稅率 十六元—四元

(三) 時效 三十年

(四) 標準 一帖一行

(以下各省ノ分略ス)

歷年牙稅收入豫算表

(民國財政史ニヨル)

| 省別  | 前清宣統四年<br>豫算數 | 民國二年度預<br>算數 | 民國三年度豫算數 |     | 民國五年度豫算表 |     |
|-----|---------------|--------------|----------|-----|----------|-----|
|     |               |              | 經常數      | 臨時數 | 經常數      | 臨時數 |
| 京兆  |               |              | 三、〇一九    |     | 四、〇〇〇    |     |
| 直隸  |               | 一五九、八六七      | 一五四、七九九  |     | 三五五、六五四  |     |
| 奉天  |               | 一〇、一八九       | 五四、八二八   |     | 五四、六二七   |     |
| 吉林  |               |              | 七八       |     | 二四、八〇〇   |     |
| 黑龍江 |               |              |          |     | 一三〇、〇〇〇  |     |
| 山東  |               | 一〇一、二二九      | 一六五、七四四  |     | 一六五、七四四  |     |
| 河南  |               | 一一、五二三       | 一一、五二三   |     | 一一、五二三   |     |
| 山西  |               | 一〇、七三三       | 一五、二一〇   |     | 一五、二一〇   |     |
| 江蘇  |               | 一八二、一三六      | 一九一、二五七  |     | 一九一、二五七  |     |
| 安徽  |               | 二、〇三三        | 一三、四三三   |     | 四八、〇〇〇   |     |
| 江西  |               |              | 四九、八九六   |     | 四九、八九六   |     |
| 福建  |               | 五、四三四        | 二〇、〇〇〇   |     | 二〇、〇〇〇   |     |
| 浙江  |               | 七、三九八        | 四六、〇三六   |     | 六〇、〇〇〇   |     |

|    |         |         |         |           |           |
|----|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 湖北 |         | 四、三七五   | 三六、〇七四  | 三八、六九四    |           |
| 湖南 |         |         | 四、〇〇〇   | 五五、九〇     |           |
| 陝西 |         | 四、一四〇   | 八、五五五   | 一〇、〇〇〇    |           |
| 甘肅 |         | 六、六九二   |         | 九、九三二     |           |
| 新疆 |         | 二四二     | 一四四     | 三、〇〇〇     |           |
| 四川 |         | 三、三六六   | 六、六三八   | 三、一〇二     |           |
| 廣東 |         |         |         |           |           |
| 廣西 |         |         |         |           |           |
| 雲南 |         | 二八七     |         | 七〇五       |           |
| 貴州 |         | 三八七     |         | 三、〇八七     |           |
| 熱河 |         |         |         |           | 二、三三〇     |
|    | 九五七、二二八 | 六二二、〇〇三 | 九四六、〇三九 | 九、六〇三九    | 一、六八五、四八五 |
|    |         |         |         | 一、六八五、四八五 |           |

右表ニヨレバ、牙稅總額ハ、中央收入百六七十萬内外デアリ、ソレスラ正確ノ收入トイフヲ得ナイ、而モソレノ殆ド全部ハ地方政府ノ所得ニ歸スルカラ、國家財政トシテハ、大ナル問題トイフヲ得ナイケレドモ、翻テ之ヲ地方政府ニ視ルニ、牙稅ハ、歳入ノ重要地位ヲ示スモノトイハナケレバ



ナラナイ。今日マデ、地方政府ノ唯一財源ハ田賦厘金デアリ、間々契稅ノゴトキ新稅目ガ生ジタカラ特別財源ヲナシタガ、重ナル雜稅ハ、牙稅デアツタ。タゞ時代ノ推移ト、モニ、從來牙行ニ獨占セラレタモノガ分化シテ、特別稅目ヲナシタモノモ少クハナイ。

革命以來ノ内亂ニツレテ、牙稅ノ整理ガ、十分デナイトイフコトモ明白デアル、牙行ノ私設モカナリニ發展シテ居ルラシイ。本年四月中、上海ノ知事ハ、令ヲ發シテ「蘇省ノ契稅及牙行登錄稅ハ、前廳長以來雷ニ三令五申ノミナラザルニ、脫稅ヤ私開牙行ガ、頻々デアル」トイツテ居ルコトニ徴シテモ、略ボ實情ヲ窺知サレルコト、思フ。

## 十七、餘說　龍斷ニ就キテ

支那社會ガ、自發的ニ創生シタ機能ヲ取り上ゲテ、之ヲ政權ノ爪牙ニ委シタコトモ、今ヤ久シイモノトイハネバナラヌ、駟儻ノ名ガ牙儻ニ變ハツタコトデスラ、既ニ權力者ノ色彩濃厚ナルヲ認メ得ベク、機能ノ作用ガ、早ヤ自然ノ手カラ遠カツタモノデアルトイフコトモ首肯サレル、況ンヤ、之レヲ稱シテ牙行トイヒ牙人トナスニ於テヲヤ、ソノ字面ヲ望ムコトデスラ、一種ノ接觸ヲ人々ニ附與セズニハ居ラレナイ。

駟儻機能ガ、政權ニ奪取サレタコトハ、前陳ノ次第デアルケレドモ、政權ハ、ソノ私心ヲ緣飭ス

ベタ、巧妙ナル辭令ヲ陳ネテ居ルノデアル。ソレハ、牙行ノ設定ナルモノハ、商事取締ノタメニナサルル、即チ辦物平價、以テ貿易ヲ通スベク、私設牙行ヲ禁止シテ、ソレヨリ受クル煩累ヲ免レシムルトイフノデアル。コノ宣言ハ、政府ガ歴代遵奉スル儒家法家ナドノ抑商主義ヲ背景トナスモノデアルカラ、頗ル通りノヨイ辭令デアリ、若シコノ趣旨ガ、幾分デモ時弊ニ適合スルナラバ、相應存在ノ意義ヲ示スモノトイツテヨイノデアル。サレドモ、事實ハ之ニ反シ、私設牙行ノ開設ハ、地方官吏ノ手ニヨリテ隨處ニ容認サレ、官吏ハ牙行ト勾串シテ、商民ヲ壓迫スルヲ能事トナスコト、前出福惠全書ニ指摘サレタ一事デモ明白デアル、畢竟商人取締リナル宣言ハ、僞商人ヲ造爲シ、商事ヲ惡化スルモノトシカ解釋セラレヌ。如上ノ見解ヨリシテ、支那ハ牙行ヲ全廢スベキデアロウ。牙行ノ手ヨリ解放サル、自由取引ノ、支那商情ノ發達ヲ促ガスコトハ必然デアル。カノ防穀令ノ支持ノ如キ、亦タ牙行ガ、ソノ私慾ヲ満足スベク努力シツ、アルノガ一因デハアルマイカ。

廣東貿易ニ現ハレタ牙行即チ Co-Hong ハ阿片戰爭ニヨリテ、纔カニ生命ヲ喪ツタ、カ、ル歴史ヨリスレバ、外國ノ經濟的侵入ハ、ヤガテ全支那ノ牙行ヲ掃除スル機會モアルデアロウ。シカシ、ソレノ政治上ノ諸問題ト密接スベキモノデアルコトハ、牙行成立ノ緣由ニ觀テ、容易ニ知ルベキデアル。(完)

(附言)

前號本欄ニ於テ、駟僮ノ發生ガ、戰國時代ニ在ルコトヲ述ベタガ、後、内藤博士ヨリ、孟子ノ「龍斷」ニ就テ更ラニ考察ヲ要スベキモノデアルトノ指教ヲ得タ、孟子ノ右ニ關スル本文ハ左ノ如シ

古之爲市也、以其所有易其所無者、有司者治之耳、有賤丈夫焉、必求龍斷而登之、以左右望而罔市利、人皆以爲賤、故從而征之、征商自此賤丈夫始矣。(公孫丑下)

趙註ニハ「龍斷」ハ塚斷而高者也トイヒ、孫夷ノ疏ニハ「丘龍塚斷之高者」トシテ、龍ハ丘壟デアルトイツテ居ルガ、說文ニハ「孟子曰登龍斷而罔市利」トイヒ、明カニ前人ノ所註ヲ證スベキモノガアル。タゞ前掲ノ前節ニ

人亦孰不欲富貴、而獨於富貴之中、有私龍斷焉。

トアルカラ、「龍斷」トイフ一種ノ術語ハ、早ク齊・魯ニ行ハレテ居ツタニ違ヒナイ、モシソウトスレバ、河汾ノ間ニハ「駟僮」ノ名デ、仲買ガ發生シ、齊・魯ハ之ヲ「龍斷」トイツタモノトモ思ハレル。

「龍斷」ニツイテ孫疏ニハ丘龍ノ塚斷シテ高キモノナリトノ解説ガアル。吾人ノ想像スルコトデハ、支那古代ノ市ハ、野外ノ空地ニ於テナサレタ、唐ノ柳宗元ノ「童區寄傳」ノ一節ニ



童寄者、柳州蕘牧兒也、行牧且蕘、二豪賊劫持反接、布囊其口、去逾四十里、之虛所賣之。トアル、沈德潜ハ虛所ヲ「野市曰虛」ト解シテ居ルガ、コノ虛所ハ即チ野外ノ空地デアツタ、「蕘斷」ハ蓋シ野市中ノ高地デアリ、ソレニ登ツテ市面ヲ左右シタモノニ違ヒナイ。清ノ高崧ノ「墟市論」ニ洪隆興ノ「職方乘」ニ

嶺南村落市謂之墟。

トアルヲ引テ、「墟」ハ「以其不常會、多虛日也」ト説明シテ居ルノハ、蓋シ望文ノ誤會カト思ハレル。「墟」ハ柳文ノ「虛所」デアリ野市ヲ行ツタ古代ノ原語ノ尙ホ存續スルモノト解釋スル方ガ至當デアル。「郊」トイフ名稱ガアル、ソレハ福建臺灣ニ行ハレテ、主ニ商團ヲ指スノデアルガ、「郊」ノ由來亦タ「虛」ニ同ジク、郊 Hsiao ハ虛 Hsi ノ轉音デアルカト思ハレル。ツマリ一地方人ガ共同的ニ虛所ヲ經營シタルモノガ、ヤガテ、固定的ノモノトナリ、後來商團ソノモノ、名稱トナルニ至ツタ。コノ點ニツキテハ、他日ヲ期シテ詳説シタイト思フ。

### 參考書概要

(1)元典章(2)元史(3)粵海關志(4)大明會典(5)明律(6)海鹽縣圖經(7)圖書集成(8)

大清會典(9)清國行政法(10)雍正上諭(11)福惠全書(12)民國財政史(13)新聞報(15)孟子

(16)說文解字(17)柳文(18)皇朝經世文續編等。

# 中華民國ノ標準語問題

石 山 福 治

## 一 支那國語統一ノ經過（上）

支那ニ於ケル國語統一ノ問題ニ關シテハ、余ハ以前カラ其ノ成行ニ注意ヲ怠ラナカツタ一人デ、曾テ數年前本誌ニモ一兩度其レニ就キテノ斷片的記述ヲ試ミタコトガアツタガ、此ノ問題ハ今ヤ順序正シク進行シテ、日ニ月ニ相當ノ成績ヲ表ハシ、將來ノ成果モ亦タ期待セラル、ノデアルカラ、茲ニ其ノ經過一斑ヲ記述シテ見ヤウト思フ。

按スルニ、支那デ國語統一ノ必要ガ切實ニ論議セラル、ニ至ツタノハ前清朝ノ末年デ、其ノ由來ハ國運ノ不振カラ、周圍列國ノ情勢ヲ顧ミタニ基キ、教育ノ普及ヲ前提トシテ考ヘラレタノデアルカラ、之レガ根抵ハ決シテ薄弱ナモノデハナイ。曾テ李登、周彥倫、沈約等が韻書ヲ製シテ漢字音ノ整理ヲ試ミタコトヤ、陸法言等ガ切韻ヲ著シテ後世官韻ノ統一的基础ヲ定メタコトヤ、更ニ平水ノ劉淵ガ稍々切實ニ字韻ノ分合ヲ行フタコトナド、見ヤウニ依リテハ是レ亦タ廣義ノ言語統一ト名ケラレヌデハナイガ、其實彼等ノ研究ナリ作業ナリハ、唯ダ極メテ少數ナル讀書人階級

ニ一個ノ衝動ト影響トヲ與ヘタニ過ギナイデ、一般時代人ノ實生活トハ何等ノ交渉ヲ有シテ居ナカッタ。蓋シ彼等ノ研究作業シタ音韻ノ整理ハ、當時マデ幾千年ノ間ニ、彼等ノ知ルコトヲ得タ支那各地方ノ音韻ヲ適宜ニ取捨按排シタトイフ丈ケノコトデ、譬ヘバ記紀萬葉ノ時代カラ有リ又ハ存シタトイフ音韻ヤ、薩摩音モ青森弘前ノ方音ヲモ手ノ届ク限り當時ノ京都語、鎌倉言葉、江戸言葉ナドト搗キ交ゼテ分類シタヤウナモノデアツタカラデアル。

隋唐ノ世カラ今日迄一千餘年ノ間、支那音韻學ノ權威ト傳唱サレテ居タ『廣韻』(陸法言等ノ切韻カラ唐韻トナリ更ニ改メラレタモノ)ノ一書ハ、近來韻學家ノ攷究シタ結果ニヨレバ其内容ガ

一、國音字典(統一汎行ノ目的ヲ有スルガ故ニ)

二、聲音學(開合等音韻學ノ稱呼アルガ故ニ)

三、古今聲韻變遷考(又古今韻分部ヲ以テスル者アリ)

四、南北方音調查錄(陸法言ノ自序中ニ言明セリ)

五、文學用音字典(孫愐ノ序言中ニ之レヲ言ヘリ)

カラ成立ツタモノデアルトイフコトハ實ニ前述ノ消息ヲ語ルモノデ、其後歷代ノ間ニ形ヲ改メテ續出シタ集韻デモ禮部韻デモ、乃至ハ韻會、康熙字典ノ韻書ノ類ニシテモ、孰レモ皆『廣韻』ヲ宗トシタモノデアルカラ、古今南北ノ音韻ヲ雜揉シタコトハ相變ラズデ、科學ニ應ゼントスル讀



書子等ガ其ノ受験準備用トシテ、若クバ閑人ノ型ニ囚ハレタ詩ヲ作ル爲メニ必要デアツタトイフノ外、他ニハ何等ノ用途モナイモノデアツタノデアル。

只ダ、元ノ周德清ガ編ンダ『中原音韻』ト、其ノひんとカラ明ノ洪武ノ史官ニ輯メ成サレタ『洪武正韻』ノ二書ハ時ノ口語音韻ヲ率直ニ表ハシタトイフノ一點ニ於テ前來曾テ類例ヲ見ナイ企テデアツタガ、前者ハ主タル目的ガ當時盛行サレタ所謂元曲ノ作者ノ爲ニシタモノデアリ、後者ハ由ツテ以テ中原ノ音韻ヲ統一スベキ希望ガアツタノデアラウケレ共、科舉的頭腦ニ囚ハレタ洪武ノ史官等ハ餘リニ骨ヲ折り過ギタ爲ニ、結局鶴的韻書ノ弊病ヲ蟬脫スルコトガ出來ナイデ、大膽ニ時代ノ口語音韻ヲ整理スルノ大目的ヲ達成スルコトガ出來ナカツタ。

明末カラ清朝ニ入ツテ若干ノ口語音研究者ガアリ、孰レモ其ノ得タ所ヲ發表シテハ居ルガ、多クバ一局部ノ音韻ニ偏シタモノデナケレバ則チ雜揉ノ弊ヲ避クルコトガ出來ナカツタト同時ニ、近代のナル國語國音ノ統一ノ如キハ未ダ彼等ノ夢想ニダモ上ラナカツタ、彼ノ北部支那ニ盛行シタ『五方元音』ノ如キハ實ニ是レガ代表的產物デアル。

## 二 支那國語統一ノ經過（中）

清ノ光緒二十六年（明治三十三年）直隸寧河ノ王照（字小航）トイフ人ガ日本ノ片假名ハ便利ナ

モノデ、國民ノ初等教育ヲ進ムルニハ支那モ此風ニ倣ハネバナラヌトイフ見地カラ簡字五十箇ヲ作り、京津ノ間ニ官話字母義塾ヲ設ケテ教エテ居ル内、同二十八年保定ノ碩學吳摯甫(汝綸)ガ日本ノ教育制度ヲ視察シテ歸國シタノデ、相諮ツテ其ノ簡字ノ採用方ヲ時ノ管學大臣ニ建議シタケレ共、竟ニ之レガ目的ヲ達セナカツタ、當時吳摯甫氏ハ、國家ノ富強ヲ圖ルニハ、何ヨリモ先ヅ教育ノ普及ガ急務デアルトノ考ヘカラ日本ノ學制ヲ視ニ來タノデアツタガ、滯在中故伊澤修二氏等トノ問答ニ於テ痛切ニ國語統一ノ更ニ急務ナルヲ感ジタモノト見エテ、其ノ東遊叢錄ニ左ノ一節ヲ收メテアル。

又曰欲養成國民愛國心。須有以統一之。統一維何。語言是也。語言之不一。公同之不便。團體之多碍。種種爲害。不可悉數。察貴國今日之時勢統一語言。尤其亟亟者。

答統一語言。誠哉其急。然學堂中科目已嫌其多。復增一科。其如之何。

伊澤氏曰。竊棄他科而增國語。前世紀人。猶不知國語之爲重。知其爲重者。猶今世紀之新發明。爲其足以助團體之凝結。增長愛國心也。就歐羅巴各國而論。今日愛國心之最强者。莫德意志者。然德意志本分多少小國。語言自不相同。斯時也。彼自彼。我自我。團體之不結。國勢之零落。歷史中猶歷歷如繪也。既而德王維廉起。知欲振國勢。非統一聯邦。則不足以躋於盛壯。欲統一聯邦。非先一語言。則不足以鼓其同氣。方針既定。語言一致。國勢亦日臻強盛。歐羅巴各國中。

愛國心之薄弱。殆莫如奧大利匈牙利之共同國。全國國種不一。自然語言不齊。莫知改良之方。政治風俗。在在見參互錯綜之狀。甚至陸軍不受政府之駕馭。騷亂之舉。曷其有極。傍觀者時切杞憂。謂奧匈之恐不國也。此皆語言不統一之國。一則由不統一以致統一。其強盛有如德國。一則本不統一而不知改爲統一。其紊亂有如奧匈合國。成績攸分。似足爲貴邦前車之鑒矣。

答語言之急宜統一。誠深切著明矣。敵國知之者少。尙視爲不急之務。尤恐習之者。大費時日也。伊澤氏曰。苟使朝廷剴切誥誡。以示語言統一之急。著爲法令。誰不遵從。尊意大費時日一節。不正必慮。卽如僕信州人。此阿多君（時席上有此人）薩摩人。三十年前對面不能通姓名。殆如貴國福建廣東人之見北京人也。然今日僕與阿多君語言已無少差異。敵國語言之最相懸殊者。推薩摩。初建師範學校時。募薩摩人入學。俾其歸而改良語言。今年春僕曾遊薩摩。見學生之設立普通語研究會者。到處皆是。

所謂普通語者。卽東京語也。故現在薩摩人。殆無不曉東京語者。以本國人而學本國語。究不十分爲難。況乎今日學理之發明。啞者尙能教之以操語言。況非啞者乎。惟不試行之爲患耳。苟其行之。假以歲月。其效顯著於齊魯閩粵之間。可操券決也。

吳氏ガ王小航ノ官話字母ヲ擴メタイト運動シタノハ實ニ此ノ動機カラシタノデアツタガ、惜イコトニハ其ノ字母ノ組織ガ不完全デアツタノト、時ノ北京政府デハ尙ホ蒙昧ナ連中ガ樞機ヲ握ツ



テ居タ爲ニ何等ノ反響スラ得ラレナカツタノデアアル。

我ガ貴族院議員伊澤修二氏ハ少時米國デ視話法ノ創案者タルベ氏ニ就イテ音韻學ヲ修メタ人デ、殊ニ其ノ女婿吳振麟氏ガ支那人デアアル所カラ支那語ノ音韻ニ特種ノ興味ヲ抱イテ其ノ研究ニ從事シタ結果、明治三十八年一種ノ音符文字ヲ創案シテ之レヲ發表シ、爾後數年前世ヲ去ラル、迄熱心ニ之レガ普及ニ努力シテ居ラレタガ、外國人ノ創製シタ字母ヲ其儘支那人ニ採用サセヤウトスルコトハ支那ノ民族性カラ視テ多クノ可能性ガアルマイトハ余ノ曾テ氏ニ述ベタ所デアツタ通り、果シテ餘リニ支那人ノ注意ヲ惹クニ到ラナカツタ。

次イデ清ノ光緒三十四年(明治四十四年)勞乃宣氏ハ王照氏ノ官話字母ニ基イテ別ニ寧音、吳音、閩廣音ヲ加ヘ、合計清濁百十六音、二十韻カラ成立スル簡字譜ヲ創製シテ上奏シタ後、又タ宣統元年ニ籌備立憲清單ノ中ニ簡易識字學塾ニ簡字ノ一科ヲ附設シ、此簡字ヲ修得シタル者ニ對シテハ特ニ公民權ヲ附與セラレムコトヲ奏請シタ。此ノ奏摺ハ前ノ奏文ト同ジク學部ノ議奏ニ附シタ儘トナツテ居タノデ、勞氏ハ更ニ再ビ上書シテ速カニ之レヲ處置セラレムコトヲ奏請シタガ學部デハ此簡字ガ漢字ヲ妨ゲ且ツ語言分裂ノ端ヲ啓カムコトヲ狐疑シテ遂ニ處置セズニ了ツタ。ソコデ勞氏ハ趙炳麟、汪榮寶等ト簡字研究會ヲ北京ニ起シ、時人ノ入會スルモノ一時ノ盛ンヲ極ムル内、適ニ唐景崇ガ學部ヲ掌ルヤウニナツタノデ、勞氏ハ復タ唐氏ニ書ヲ寄セテ、簡字採用ノ實行ヲ促シ

『夫文化之演而彌進也。其幾既動。則不可遏。今天下紛紛造作。其幾之動已久矣。他日中國於漢字之外。別用一種主音簡易之字。以爲輔助。可信其必有此事。特風氣之開。提倡自上者其效速。傳衍自下者其效緩。而其成功則一也』ト述ベテ居タガ、此ノ年資政院ガ成立シタ爲、簡字ノ問題ハ遂ニ國語ノ議案トナルニ至ツタ。

是ヨリ先キ、時ノ清朝政府部内デモ内外各方面ノ刺激カラ、國語問題ノ忽ニ出來スコトヲ覺ツテ、宣統元年閏二月二十八日發表シタ分年籌備事宜清單ノ中ニ連年實行スベキ豫定ヲ定メテ

宣統二年。編訂官話課本。編輯各種辭典。行各省學司。所有省城師範學堂及中小學堂兼學官話。

宣統三年。頒布官話課本。京師設立官話傳習所。行各省設立官話傳習所。

宣統四年。行各省推廣官話傳習所。

宣統五年。行各省學司所有府直隸州廳初級師範學堂及中小學堂兼學官話。

宣統八年。行各省學司所有廳州縣中小學堂兼學官話。是年檢定教員章程内。加入考問官話一條。初級師範學堂中學堂高等小學堂各項考試。均加官話一科。

ト發表シタガ、是レ眞ニ豫定ダケニ止マツテ、一事ノ實行ヲ見ルコトガナカツタノデ、時ノ資政院議員江謙、方還、籍忠寅、羅傑、易宗夔、陸宗輿等三十二人ノ連署デ、之レガ成行ヲ質問シ且ツ其ノ實現ヲ希望シタコトガアツタ。

是レ宣統二年ノ事デ、引續キ江寧ノ程先甲等四十五名ガ連署シテ、前ニ學部發表ノ豫定表ヲ變通シ簡字ヲ採用シテ官話ヲ教授セラレムコトヲ請ヒ、同時ニ又々直隸全省官話拼音教育會々員韓德銘等一百八十七人、四川ノ劉照藜等二人、北京ノ韓印符等八人、滿洲官話拼音義塾教員慶福等一百十一人カラモ略ボ同ジャウナ請願ガ資政院ニ出テ來タ。

ソコデ、資政院ハ特任股員長嚴復氏ニ命ジテ、之レ等ノ請願ヲ一括審査セシメタノデ、同年十一月二十六日股員會ハ審議ヲ悉クシテ左ノ如ク決定シ、嚴復氏カラ報告シタ。

一、名ヲ正スコト(簡字ノ稱ヲ改メテ音標ト呼ブコト)

二、試辦ト稱スルコト

三、審査ノ標準ヲ定ムルコト

四、音標字ノ用法ヲ規定スルコト

ソシテ、此ノ報告ハ同年十二月十日資政院ノ討議ニ附セラレ、多數ノ賛成ヲ以テ同院ヲ通過シタガ、學部カラ尙ホ此ノ議決ノ結果ヲ會奏セナイ内、翌宣統三年トナツテ學部ニ中央教育會ガ設ケラレテ、此ノ議案ハ再ビ會議ニ討議セラル、ニ至ツタ。

中央教育會議ハ宣統三年六月ニ開カレ、會員合計百九十六人、張謇之レニ會長トナリ、張元濟傳增湘副會長トナツテ審議討論ヲ悉クシタ後、



一、調査 國語調査總會ヲ北京ニ設ケ各省提學使ノ手ヨリ其分會ヲ該省ニ設クルコト

一、選擇及編纂 調査完了ノ後中央ニ於テ語詞語法音韻ノ選擇及ビ標準書ノ編纂ヲ行フコト

一、標準語ヲ定メテ其ノ正則ヲ樹ツルコト

一、音標ヲ定ムルコト 其要五項アリ、一音韻ハ準據アルベク 二、綴方ハ一般的ナルベク

三、字畫ハ簡單ナルベク 四、形式醜クカラザルベク 五、筆寫ニ便ナルベシ。

一、傳習普及ノ順序 ヲ決定シタノデアアルガ、間モナク革命ノ騒ギガ起ツテ遂ニ全部ガ沙汰止

ミトナツテ仕舞ツタ。

民國元年十二月、教育部ハ官制第八條第七項ニ據リ、國語統一ノ進行方法ヲ籌議シテ特ニ讀音統一會ヲ開キ、

(一) 教育部ノ囑託員(定員ナシ)

(二) 各省代表員每省二名(行政長官ヨリ選拔シテ任命ス)

(三) 蒙藏各一名(在北京ノ蒙藏各機關ヨリ選拔任命ス)

(四) 外國在留支那人代表者一名

ノ割合ヲ以テ人選シ、其資格ハ

(一) 音韻ニ精通セルモノ

(二) 深ク小學ニ通スルモノ

(三) 一種又ハ二種以上ノ外國語ニ通スルモノ

(四) 各地方ノ方言ニ通スルモノ

ノ一ヲ具備スルモノトシ、民國二年二月十五日ヨリ三ヶ月間教育部ニ會議ヲ續ケタル結果、支那全國現在ノ標準音トシテ合計四百四十八音ヲ決定シ、之レヲ寫スニ用フル注音字母三十九字ヲ新製シタル上、中等初等ノ普通教育ニ應用スベキ漢字約八千ヲ選ミ、各字ニ標準音ヲ註シテ會議ヲ終ツタ。會ニ參シタ全國ノ代表委員實ニ七十九名デアル。

### 三 支那國語統一ノ經過 (下)

從來國語統一ノ先決問題トシテ一部識者ノ頭ヲ悩マシツ、アツタ標準音ノ協定ト、寫音文字ノ制定トハ茲ニ始メテ正式手續ヲ踏ンダ上ニ現出シタノデアアルガ、比年一日ノ寧處ヲ得ザル國內ノ時事ハ、其ノ實行ヲ碍ゲテ容易ニ之レガ實功ヲ見ルコトガ出來ナイ。ソコデ、民國四年一月ニナツテ讀音統一會ノ直隸代表デアツタ王璞、陳恩榮、回族代表デアツタ張德純、雲南代表夏瑞庚、湖南代表周明珂、舒之鑑、河南代表李元勳、陳雲路、蒙古代表汪海清、西藏代表王錫恩、廣東代表鄭藻裳、江西代表高鯤南、陝西代表李良材、高樹基、山西代表杜曜箕、山東代表張重光、黑龍

江代表趙仲仁、劉澍田、教育部囑託員デアツタ蔡璋、王鶴、王修德、邢島、羅贊勳、陳遂意、劉繼善ノ諸氏ハ教育部へ上書シテ速カニ注音字母ヲ公表セラレムコトヲ請ヒ、同年十一月王璞氏等ハ復ビ上書シテ又タ公表頒布ヲ請ヒ、並ビニ有志寄附ヲ以テ北京ニ注音字母傳習所ヲ創立スベキコトヲ呈報シタ。

於是、時ノ教育總長張一鶚氏ハ大ニ王璞氏等ノ熱心ヲ贊シ一面注音字母傳習所經費トシテ毎月俸給中ヨリ二百圓ツ、ヲ寄附シ一面切々ノ辭ヲ聯ネテ大總統ニ呈書シ、因ツテ之レガ立案ヲ請ヒ、先ヅ京師貧民子弟ノ未ダ學ニ就カザル者ヲ傳習所ニ集メテ字母教育ヲ試ミタ所ガ、成績漸次著明ナルニ至ツタ爲、別ニ注音字母書報社ヲ傳習所内ニ附設シテ簡易ノ出版物ヲ刊行頒布スルノ方策ヲ立テタ。

翌民國五年、現北京大學長クル蔡元培氏等ハ同志ヲ聚メテ中華民國國語研究會ヲ北京ニ設ケムガ爲、教育部ニ呈報シテ其ノ立案ヲ請ヒ、國語統一ノ機運ハ漸ヲ遂フテ成熟ニ近ヅキ來ツタノデ同六年北京ニ開カレタ第三次全國教育會聯合會ハ教育部ニ請フテ國語ノ標準ヲ定ムルコト、並ニ注音字母ヲ推行シテ語言ノ統一ヲ期スベキコトヲ議決シタ。

此議案ハ江蘇、湖南教育會代表カラ提議シタ諸案ト合併シタモノデアツタガ、湖南教育會代表ノ提議ニハ注音字母ノ普及ト併セテ國文ト國語トヲ接近セシムベキ言文一致體ヲ初等教育ニ應用



スベキコトヲモ建議シテアル。又タ江蘇省教育會デ議決シタ各學校國語教育案ニヨレバ

一、師範學校ハ注音字母及ビ國語ヲ教授スベシ

二、各學校教員ハ注音字母及ビ國語ヲ練習スベシ

三、小學校ノ國文教授ニ際シテハ國定音ヲ用フベシ

四、小學校ニ語法ヲ教授スルニハ土語ヲ以テ國語ヲ譯シテ練習セシムベシ

トアリ、細カニ之レガ實施方法ヲ定メテアル。翌民國七年五月ニハ教育部カラ北京、武昌、瀋陽(奉天)、南京、廣東、成都ノ六高等師範學校ニ國語講習科ヲ特設シテ注音字母及ビ國語ノ教員ヲ養成スベキコトヲ訓令シ、同年十一月ニハ改メテ正式ニ注音字母ノ全部ヲ國字トシテ用フル旨ヲ公布スルニ至リ、續イテ同十二月國語統一籌備會(我邦ノ國語調查委員會ニ當ルモノ)規定ヲ公布スルノ運ビトナツタ。

次イデ民國八年四月十六日ニハ注音字母三十九字ノ序列ヲ定メテ公布發表シ、並ビニ教育部讀音統一會編纂ノ名ヲ以テ國音字典ヲ公刊シタガ、此ノ字典ニ蒐メタ漢字ノ數ハ曩キニ統一會ガ公決シタ標準字音ノ二倍ニ近キニ及ンダ爲、一部ノ反對非難ヲ惹キ起シ、之レ國音ノ名ヲ冒セル部音字典、又ハ會音字典デアル。極言スレバ、此字典ノ増加文字ハ前統一會々長吳稚暉ガ勝手ニ取捨編纂シタルモノデアアルカラ毫モ價值ナキモノデアルト迄痛罵スル者ガアツタ。依ツテ教育部ハ是

等世間ノ物議ニ顧ミテ昨九年十二月改メテ國音新字典一部ヲ編ンデ公表シタ。

#### 四 文那ノ標準國語

此ノ三四年來、注音字毎ノ公布ト共ニ國音問題ハ一時南北識者間ノ一大話題トナリ、一大議題トナツテ居タガ、其後若干ノ改善ヲ施コシ將來尙ホ研究改良スルヲ得ベキノ餘地ヲ存シツ、先ヅ一段落ヲ告ゲタルモノト視做スコトガ出來ルヤウニナリ、頃ロ梁任公（啓超）ガ『清代學術概論』ヲ書イタ中ニスラ

音韻學又小學之附庸也。而清代特盛。自顧炎武始著音論。古音表。唐韻正。而江永有音學辨微。古韻標準。戴震有聲韻考。聲類表。段玉裁有六書音韻表。姚文田有說文聲原。苗夔有說文聲讀表。嚴可均有說文聲類。陳澧有切韻考。而章炳麟國故論衡中論音韻諸篇。皆精絕此學也。其動機本起於考證古音。而愈推愈密。遂能窮極人類發音官能之構造。推出聲音變化之公例。劉獻廷著新韻譜。創字母。其書不傳。近世治此學者。積多新人之討論折衷。遂有注音字母之頒定。

ト言フテ居ルヤウニナツタ、而シテ一方上海ヲ中心トスル支那全國ノ出版界ハ靡然トシテ國音國語ニ關スル出版物ニ注意ヲ傾ケ、並ニ新聞雜誌ノ言文一致體採用ハ急轉直下ノ勢ヲ以テ全國ニ及ビ、古書ノ口語譯ハ今ヤ一世ノ流行トナリ。國文教科書ニ代ルベキ國語教科書ハ所在ノ初等教

育ニ課用セラル、ニ至ツタ。ソノ結果、今各教育者ノ間ニ論議セラレテ居ルノハ標準語ノ問題デ言葉ヲ換フレバ、全國何地ノ方言ヲ以テ統一國語ノ標準ト定ムベキ乎トイフコトデアル。

原來、標準語ノ決定ハ夫ノ國音制定ノ當時ニ在ツテ、自然問題トナルベキモノデ、讀音統一會ノ討議中ニモ屢々論議セラレタ所デアルガ、當時ハ先ヅ漢タル標準ヲ南北官話ニ用フル音韻トイフニ止メ彼此混和シテ協定シタモノデ、注音字母モ亦タ是レニ準ジテ三十九個ト定メ、將來各地ノ方言音ヲ表ハスノ必要アル場合ニハ特種ノ符號ヲ字母ニ施コシテ其ノ閏音ヲ寫スコト、シ、現ニ昨年北方音ノ〇韻ヲ寫スベキ一種ノ符號ヲ特定シタヤウナ例サヘアルノデアルカラ、各地多少ノ不滿不平ノ聲ガアツテモ未ダ大問題トハナラナカッタガ、將來實現セラルベキ標準語ノ確立ニ當ツテハ、語彙ヤ語法ノ方面ニ於テモ多大ノ關係ガアル爲ニ相當議論アルコトヲ免レヌノハ亦タ當然ノ次第デアラウ。

曾テ標準音問題ノ喧シカツタ時ニ比較的多數ノ意見ハ矢張り各外國ノ例ニヨリ、北京音ハ首都ノ音デ且ツ廣キ範圍ニ行ハレテ居ルカライフ理由デ、京音ヲ標準トシナケレバナラヌトイフコトニナリ、現ニ注音字母ノ制定ニ際シテモ數箇ノ北京音ダケニ必要ナ特定ノモノヲ拵ラヘテ居ルノデアルガ、章炳麟氏一派ノ論者ハ湖北音ヲ標準トスベキコトヲ主張シ「金元以來。朔虜侵入。中原之音。移於江漢」ト言フテ居ルガ、現代湖北音ノ通行セラレテ居ル範圍ハ北京音ヨリモ遙カ



ニ廣カラユトイフ理由カラ其說ハ多數ノ顧ミル所トナラナカツタ。標準語ノ問題デモ亦タ其ノ通リデ、單ニ言語ノ實質ガ學術的或ハ歴史的ニ優レテ居ルカラトイフ丈ケデハ、以テ標準語ト定ムル理由ニハナルマイ。

支那ノ國音ガ、北京音ヲ中心トシテ之ニ江南附近語ノ音韻、乃チ漠然タル中部支那音トデモ名クベキモノノ一部分ヲ附ケ加ヘテ組織サレテアル如ク教育部ヤ國語統一籌備會ナドノ意見デハ矢張り將來標準語ノ制定ニ當ツテハ北京官話ノ少シ範圍ヲ擴ゲタ北方官話トデモ名クベキ言語ヲ國語ノ中心トシ、更ニ江南語所謂南方官話ト稱スルモノ、若干ヲ加味セムト試ミテ居ルヲシク思ハル。然ルニ之レニ對シテ反對ノ論者ハ、斯カル鶴的ナ南ニモアラズ北ニモアラヌ言語ヲ制定シテ標準トスルコトハ甚ダ不都合デアルカラ、宜シク現在通用ノ純北京官話ヲ其儘採用シタ方ガイ、ト論ジテ居ル。此議論ハ相當ニ有力ナモノデ、北京教育部ノ黎劭西氏ガ前者ノ說ヲ執ツテ居ルニ對シ、南京高師ノ國語科主任周銘三氏ガ後者ノ說ヲ代表シテ居ル、ソシテ周氏ハ現ニ南京高等師範學校、金陵大學、暨南學校、江蘇省立第一工業學校、江蘇教育廳六十縣國語講習科、江蘇省立第一中學校、南京高師暑期學校等ニ教科書トシテ居タモノヲ輯メテ公刊シ、又別ニ最近標準國語文法ノ一本ヲモ公刊サレタトテ余ニモ各一本ヲ贈ラレタガ、内容ハ從來我邦ナドデ北京官話ト稱シテ居タモノト同ジャウナモノデアル所カラ觀ルト、氏ノ意見デハ今ノ北京官話トイフ者ヲ

全然無條件ヲ採用セムトスルモノデアラウ。之レヲ北京ノ王蘊山氏ガ主宰シテ居ル、注音字母報ナドノ内容ニ對照スルト餘程ノ相異點ヲ發見サル、一例ヲ舉グレバ王氏ノ方面デ那裏、這裏ナドイフ語ハ周氏ノ方面デハ全然北京語ノ那兒、這兒デ表ハシテ居ルヤウナモノデアル。

斯カル多クノ相異點ハ孰レヲ是トシ孰レヲ非トスベキハ實際容易ナラヌ問題デアツテ、我邦ナドデモ専門學者ノ意見ニヨレバ此ノ標準語ノ問題ハ餘程重大ナモノデ、假令バ

小學校の教授要目には「普通の言語」といふことで、其標準を表示して居るけれども、この普通の言語とは如何なるものかといふことが一定しない。少くとも具體的に明瞭に之を説明することが困難である。口語としては現在のいはゆる東京語を標準とすることになつて居るけれども、この東京語といふのは、抑如何なるものかと云ふことが、随分六かしい問題である。具體的に之を説明することは恐らく何人も困難であらうと思ふ、例へば代名詞について見ても現今東京の各社會に通じて行はれてゐるものが随分多いが、然しながら、是等のものをすべて小學校において教授することが、勿論出来ないし、又教授すべきものでもない。(保科氏國語學精義)

トイフ通り、支那語ニ在リテモ單ニ北京語ト謂ヒ北京官話トイフテモ、其内容ノ如何ナル點迄ガ、爾カク名ケラル、モノデアルカト謂ヘバ、是レ中々ニ容易ナラヌ問題デ、前ニ示シタ那兒那裏ニシテモ曾テ北京官話ノ基準デアルカノ如ク見ラル、雍正帝ノ聖諭廣訓衍ナドデハ、明ラカニ裏ヲ

用ヒテ兒ヲ用ヒテナイ所カラ觀ルト當時ノ北京官話デハ那裏、這裏デ通用シテ居タデアラウト  
セラルルノデアルガ、ソレガ何時ノ間ニカ那兒、這兒ト變ツテ、然カモ今日デハ此レガ相當ニ廣  
イ範圍ニ通行シテ居ルトナレバ、縱令兒ガ北京特有ノ土話カラ混入シタモノニモセヨ、未ダ卒カ  
ニ其價值ヲ輕重スルノ是非ガ判ゼラレヌノデアル。ソコデ北京官話ヲ標準語ニ採用スルノ論者ハ  
前提トシテ必ラズ「北京人ノ教育アル人ノ言語ヲ標準トスル」コトヲ言フノデアツテ、恰カモ我  
邦ノ國語ヲ定ムルニ

さて標準語として東京語を選定するとしても、決して無條件では出来ない、何となれば、東京  
語といつても、甚だ茫漠たるもので、之を具體的に説明することが困難であるのは、先きに述  
べた通であるが、現在の東京においても、山の手に行はれる言語と、下町に行はれる言語とは  
多少の相違があるし、おなじく山の手下町といつても種々の社會によつて又區々である。それ  
で現在の國定教科書においては、東京語を其標準に採用して居るけれども、東京語といつても  
専ら中等社會に行はれるものに遵據して居るので、上流社會或は下等社會におけるものは、之  
を採らるのである。(同 上)

ト謂フモノト相髣髴シテ居ル、ガ若シ極端ナル穿鑿的態度カラ之レヲ論ズレバ「教育アル北京人」  
ト「東京の中等社會」トイフノガ、又々甚シク漠然タルモノデ、從ツテ其用フル言語ニ在リテモ



截然タル區別ヲ此間ニ求ムルコトハ頗ル困難ナ事情ガアル。

殊ニ今日北京ノ方面ニ行ハル、言語ハ前清時代姑息的ニモ社會ガ安定ヲ得テ居タ時トハ異ナリ南方語ノ侵入程度ガ北京語ノ輸出程度ヨリモ寧ロ其量ガ多イ位デアルノニ、外國語就中我國ノ普通語デ相當支那化シタモノナドモ、今ヤ日常普通語トシテ慣用セラル、ノデアルカラ、其ノ標準語ノ樹立ニ際シテハ少ナカラヌ困難ガ伴フデアラウト察セラル。

## 五 支那文明ノ一轉機

國務院參議ニシテ注音字母傳習總所ノ名譽所長タル曾叔度氏ガ曾テ余ニ語ツテ「今日我等ガ注音字母ノ普及ト其應用範圍ノ擴張トニ努ムルコトハ是レ實ニ政治經濟凡百ノ問題ニ超越シタ根本の大事業デ何ヲ云フニモ國民全體ニ教育ヲ普及シテ智識ヲ吸收サセナイコトニハ其他ノ問題ハ語ルモ更ニ益ノナイコトデアル」ト云フタコトハ端のニ余輩多年ノ主張ト合致スル所デアツテ、支那ガ國家的ニモ民族的ニモ前途ノ運命ヲ開拓シヤウトスルニハ、第一ニ先ヅ全體人民ヲシテ普通一般ノ智識ヲ得セシメ、自國ニ於ケル自己ノ立場ト、世界ニ於ケル自己ノ職分トヲ自覺セシメネバナラヌノデアツテ、其關門ヲ啓ク爲ニハ出來得ル限り全國ノ言語ヲ普遍的ニシ、口カラデモ文字ノ上カラデモ南人北人容易ニ思想ヲ交換シ得ルヤウニセシメネバナラヌノデアルカラ、今多ク

ノ識者ガ舉ツテ眼ヲ此方面ニ注ギツ、懸命ニ先ヅ音字ノ普及、國語ノ統一、言文一致ノ擴充ニ努カセラル、コトハ是レ取リモ直サズ支那文明ノ一轉機デアツテ、同ジク東亞民族ノ一員タル余輩ガ衷心ノ欣慰ニ堪ヘザル所デアル。

然カモ笑フベキコトハ、支那ノ一部ニ斯カル新現象ニ對シテ不平ヲ唱ル頑迷者流ノ存スルハ尙已ムヲ得ザルコトデハアルガ、我邦ノ一部ニスラ時ニ隣邦民族ノ斯カル新文明ノ採用ニ對シテ愚ニモツカヌ守舊論ヲ吐ク者等ノアルコトデ、此徒ハ人類共通ノ幸福ヲ咒フテ一部ノ横着ヲ働カムコトヲ夢ムル偏狹ナル愚人デアルト共ニ、今ノ支那ニ清朝ノ復辟ヲ謳歌スルヤウナ陋心事ト相一致スルモノデアル。我等切實ナル支那研究者ハ徒ラニ舊式ナル放漫的態度ヲ學ブコトナク、常ニ微細ナ點カラ出發シテ相互ノ共通幸福ヲ企圖スベキコトヲ凡テノ基本トセナケレバナラヌ。彼ノ口頭只ダ國家ノ親善ヲ高唱シテ窈カニ一部者ノ利ヲ網セムト焦ルガ如キ不心得者ハ日支兩民族ノ那レニモ將タ如何ナル時代ニモ到底其跡ヲ絶ツモノデナイカラ、余輩ハ更ニ高處ニ着眼シテ其ノ研究ハ必ラズ民族同情ノ大精神カラ歩ヲ進ムベキモノデアルト信ズル。(二〇、六、八)

ツギニ平穩ナレド隱滅ノ最モ行ハレタラシイ弘治十五年ノ戸ヲ調ブレバ口ガ八十七萬五百六十二ノ増加ヲトモカクナセル洪武二十六年カラ弘治十五年マデノソノ百九年間ニ、却ツテ九十六萬一千二百四十一ノ減少ヲ來シタノハナホ他ニ理由アルヤモ知レナイガ、何レニセヨ戶籍ノ回避ニ基スル所少ナクナイト斷ゼネバナルマイ。モシコノ說ヲ危マル、ナラバ明代マザ少ナカツタ戶口ガ清代カラ急ニ殖エタ謂レヲ考ヘテ貫ヒタイト思フ。

惡政ニヨル放浪——天子ニナリタテノ天子ハ民間カラ起ツタセイカ、禁中ノ買物ニモ時價二十錢ヲ加ヘテ厚ク民ヲ賑ハサシメタモノダガ、後ニナルト建築ニ民ノ木ヲ横領シテモ顧ミナクナルマタ初メ身ヲ持スルコトモ頗ル儉素デ、太祖ハ香米ヤ人參ヤ葡萄酒ノ上貢ヲモ民ノ勞ト却ケタ程ダノニ、ソレモ後ニナルト珍味ヲアツメ年々ノ肉料ダケデモ英宗ハ三萬憲宗ハ十萬トマデノボツタ。從ツテ官吏ヤ村吏ノ横暴モマス、甚シクナル決シテ偶然トイヘナイ。官吏ハ、家族制度デ凝リ黨派根性デ固ツテル支那デハ致シ方ナイトスルモ、廻避制度——生レタ地方ノ役人ニナレナイ——デアルダケニ、旅ビモノ、心デ儲ケラレル限り儲ケヤウトスル。マシテソノ制度ガ明代ニナツテ最モ發達シタト評セラル、ノダカラ其弊モマタ推シ量ラレヤウ。ツギニ村吏ニナル連中ノ頻リニ懷ヲ肥ヤスコトハ、日本ノヤウナ面目ニカケテ村人ノタメヲ謀ルヨリ面子メンツニカケテ私利ヲ計ルコトカラモ思ヒ至ルベキダ、況ンヤ租税ハ調査ノ行キ届カヌ人ヤ戶ヤ田ニアテ、取り立テラレナイ故モアラウカナレド、村毎ニアテ、請負——天下郡國利病書卷ノ二十一ニ米ノ數ハ升以下八位モ銀ノ數ハ釐以下九位モアルケレド米ハ合デ銀ハ釐デ止ムベキモノダラウトイフテ居ルガ、



吾等ハカ、ル實川デナイ桁數ノ發生ヲカ、ル村毎ノ請負ニ歸セシメタイト思フ——ノヤウニ取り立テルノダカラ村吏ノ加減ガイクラデモ乗除サレル餘地ガアラウ。コウナツテハ町人モ人モ家ヲ棄テ、生ヲ全ウセネバナラヌ。

兼併ニヨル放浪——治安ノ保證サレナイ時代ニ不動産ハ唯一ノ安定ナ財産デ、動産ハ等シク財産デモ不安定ナモノデアル。何故カナラ盜賊横行ノ衝ニ當ツテノ動産ハ根底カラ持チ去ラレル虞アルケレド、不動産ナラバヨシヤ荒ラサレテモソノ時限リデマタソノ地ヲ耕セバ收入ヲ取り得ルカラ。ソコデ國民ノ殆ド凡テハ欲望ヲコノ不動産ニ集注スルモ決シテ不思議デナイ。コ、ニ餘裕アルモノガ兼併ヲ行ヒマタ餘裕ナクトモ餘力アラバソノ腕力デ兼併ヲ恣ニシヤウトスル。サレバ大明律ノ戸律ニモ、官民ノ田地ヲ侵占スレバ笞ヲ加ヘ、官民ノ山場ヲ強占スレバ杖一自ノ上ニ流三千里ト注サレ居ルガ、コレモ兼併ノ豫防ニ外ナラナカラウ。ケレドモ豫防ガヤ、モスレバ事實ノ肯定ニ終ルノガ古ノ常ダ。即チ洪武二十六年ニ八百五十萬七千六百二十三頃モ數ヘタ田地ガ、百九年後ノ弘治十五年ニ四百二十二萬八千五十八頃トマデ成リ下ツテ居ルノハ、豪族ノカ、ル兼併カラ徵稅ノ基ナル帳簿ヨリ消シ去ラレタモノニ相違ナカラウ。ソレナレバコンソレカラ七十六年後ノ萬曆六年ニ罷居正ガ嚴重ナ調査ヲシタラバ、天下ノ田地モ七百一萬三千九百七十六頃トマデ成リ上ツタノダ。然ラバ他人ニ土地ヲトラレ年貢モトリタテラレル百姓ハ安ンジテ生ヲ故郷ニ送ルカ、ソレトモマタ呪ノコノ地ヲ離レテ、知レザル永遠ノ放浪ニ走ルカ、ソレトモ心ニ聞クヨリ外ナイノデアル。

ニ過ギズ、此ノ如クニシテ、茶ハ漸ク漢民族ノ間ニ認めラレタルモ、周代ニ於テハ未ダ世人日常ノ飲料ニ供セラル、ニ至ラザリキ。

茶ハ春秋時代ニ至リテハ、單ニ珍品トシテ喪祭ニ用ヒラレタルノミナラズ、上流社會ニ於ケル日常ノ飲料トシテ使用セラル、ニ至レリ。晏子ガ齊ノ景公ノ相タリシ時、其食膳ニハ粟ヲ混ジタル飯、燒肉三個、卵五個、野菜、並ニ茗アリキ、即チ「晏子春秋」ニハ『嬰相ニ齊景公ニ時食ニ脫粟之飯ニ炙ニ三才五卵茗菜ニ而已』ト、所謂茗トハ茶ニシテ、茶ハ漸ク其產額ヲ増加シ、飲料トシテノ效能ヲ認識セラレ、上流社會ニ使用セラル、ニ至リタルモ、未ダ一般ノ使用ニ充テラル、ニ至ラザリキ。

### 第三章 漢代茶業史論

前漢宣帝時代ノ學者王褒ハ、僮約ニ『炮レ鼈烹レ茶』トカ、『武陽買レ茶』トカ言ヘリ。宋ノ章樵ハ、前ノ茶ヲ苦菜ト解シ、後ノ茶ヲ茶ト註セリ。武陽ハ王褒ノ故鄉ナル四川省眉州彭山縣ニシテ、四川ハ晉ノ孫楚ノ詩ニモ詠述セルガ如ク、支那最初ノ茶產地ナレバ、章樵ノ註解ハ必ズシモ無稽ナリト謂フ能ハズ。漢ノ司馬相如、楊雄ガ茶ヲ飲ミタルハ、著明ナル事迹ニシテ、晉ノ張孟陽ノ「登二成都樓一詩」ニハ、楊雄ノ豪奢ヲ敍シ、茶ヲ飲ミシコトヲ詠ジテ曰ヘリ。

『借問楊子舍』

想見長卿廬

程卓累千金

驕奢擬五侯

門有連騎客

翠帶腰吳鉤

鼎食隨時進

百和妙且殊

披林採秋橘

臨江釣春魚

黑子過龍醢

果饌踰

蟹螯芳茶冠

六情

溢味播九區

人生苟安樂

茲士聊可娛

楊雄ハ「方言」ニ『蜀西南人謂茶曰葭』ト言ヒ、司馬相如ハ「凡將篇」ニ

『烏喙、桔梗、芫華、款冬、具母、木蘂、萋芩、芍藥、桂漏蘆、蜚廉、藿菌、葍託、白欽、白

芷、菖蒲、芒硝、莞椒、茱萸』

ト言ヒ、晉ノ郭僕ノ「爾雅註」ニハ、葍ハ茗ノ別名ナリトセリ。「趙后遺事」ナル小説ニハ、前漢成帝ノ崩後、趙飛燕ハ夢ニ成帝ヲ見、ソノ命ニ從テ茶ヲ進メトセシニ、左右ノモノハ趙飛燕ハ平素皇帝ニ對シテ不謹慎ナレバ、彼ノ進ムル茶ヲ飲マル、ハ不可ナリト奏上セシヲ以テ、夢中ニ悲鳴ヲ舉ゲ、侍者ニ呼ビ起サレタリトノ記事アリ。清ノ劉繼莊ハ「廣陽雜記」卷三ニ、之ヲ證據トシテ、飲茶ノ習慣ハ、業ニ前漢ヨリ始レリト陳ベタリ。

依此觀之、茶ハ尙ホ高價ナル嗜好品トシテ、上流社會ノ豪奢ナル生活ニ使用セラレタルニ過ギザルナリ。

## 第四章 六朝茶業史論



外族ハ江北ニ侵入シ、漢民族ハ江南ニ遷移シ、一時江北ニ於テハ、飲茶ノ風跡ヲ絶チタルモ、江南ニ遷移シテ良好ナル茶產地ニ接シタル漢民族ノ間ニ於テハ、飲茶ノ風ハ大ニ發達セリ。即チ良好ナル茶ノ產出ニ乏シキ江北ニ居住セル時代ニハ、漢民族間ニ於ケル飲茶ノ風ハ、漸ク上流社會ニ傳播シ、茶ハ贅澤品視セラレタルモ、良好ナル茶ノ產出ニ富ム江南ニ遷居スルヤ、漢民族間ニ於ケル飲茶ノ風ハ、漸ク上流社會ニヨリ廣ク一般社會ニ傳播シ、茶ハ贅澤品視セラレザルニ至リ、且ツ茶ニ關スル嗜好ハ大ニ向上セリ。「洛陽伽藍記(卷二景寧寺)」ニハ、北魏ノ中大夫楊元愼ガ、梁ノ使節陳慶之ニ對シ、『吳人之鬼、住ニ居建康、菰稗爲<sub>レ</sub>飢、茗飲爲<sub>レ</sub>漿』ノ辭ヲ以テセルガ如キ、南朝ニ於テ茶ヲ飲用スルコト北朝ニ於テ酪漿ヲ飲用スルガ如キヲ言ヘルモノナリ。虞世南ノ「北堂書鈔」(卷一百四十四、酒食部茶編八)ニ、斐淵ノ「南海記」ヲ援キテ、『西平出<sub>ニ</sub>罽廬<sub>ニ</sub>茗之別名、南人以爲<sub>レ</sub>飲』ト云ヒ、又「荊州土地記」ヲ引キテ、『武陵七縣通出<sub>レ</sub>茶最好』ト云ヘルガ如キ、將又、南齊ノ王肅ガ、北魏ニ奔リタル當初、茗汁(茶)ヲ飲ミ、而モ一飲ニ一斗ヲ飲ミ京師士子ヨリ『漏卮』ノ綽號ヲ得タルガ如キ、南人ノ茶ヲ飲ミ、武陵七縣盡ク茶ヲ產シ、南支那ニ飲茶ノ風ノ、漸ク盛ナルヲ知ルニ足ル。虞世南ノ如キ、浙江省紹興府餘姚縣ノ人ナレバ、其南人飲茶ノ風ニ關スル言ハ信憑スルニ足ルモノト謂フベシ。

唐卷子本、新脩本草、茗苦徐ノ註ニハ、『案爾雅釋木云、檟苦徐、春秋採<sub>レ</sub>之、榛音一名<sub>知</sub>、出<sub>ニ</sub>

山南金州梁州漢中山谷』トアリ、江北ニ於テハ下等ナガラ茶ノ產出アリタルモ、江北ニ移遷シタル外族ハ、依然トシテ羊肉酪漿ヲ用ヒ、未ダ茶ヲ使用スルニ至ラザリキ。然シ江南ノ漢民族ト交通漸ク進ムヤ、外族ハ漢民族ノ飲茶ノ風ニ漸次浸染シ、中ニハ茗飲ニ沈溺スルモノアリ、又朝貴ノ議會ニハ、茗飲ノ設ケアルニ至レリ。「洛陽伽藍記」ニハ、北魏ノ彭城王勰ガ、南齊ヨリ奔リ來レル王肅ノ風ニ感染シテ茗飲ニ沈溺セル劉鎬ヲ、「蒼頭ノ水厄ヲ好ムハ逐臭ノ夫學顰ノ婦ノ類ナリ」ト嘲笑セリト記セリ。

是ノ如ク茗飲ノ風ハ、漸ク江北ノ外族ニ傳播セルガ、北朝ニ於テハ茗飲ノ風ノ江北ニ普及スルコトヲ憂ヒ排茶政策ヲ採レリ。是レ北朝ハ南朝ヨリ茶ヲ輸入スレバ、ソレ丈ケ財費ヲ糜シ、且ツ民族經濟ノ獨立ヲ破壞セラレ、塞外ニ退キタル後モ、永ク漢民族ヨリ物資ノ供給ヲ仰グノ必要ヲ生ズルヲ以テ、之ヲ防止セントスル趣旨ニ出ヅルモノナリ。北魏ノ孝文帝ノ如キ、南朝ノ漢人ヲ信任セルモ、彼等ガ齎セル茗飲ノ風ノミハ、之ヲ排斥センコトニ努メタリ。

南齊ヨリ北魏ニ奔リ、孝文帝ニ信任セラレタル王肅ハ、有名ナル茶飲ニシテ、彼ニ關シテ「洛陽伽藍記卷三報德寺」ハ、次ノ如ク謂ヘリ。

『肅初入國、不食羊肉及酪漿等、常飲鯽魚羹、渴飲茗汁、京師士子見肅一飲一斗、號爲漏卮、經數年己後、肅與高祖殿會、食羊肉酪粥甚多、高祖怪之謂肅曰、即中國之味也、

羊肉何如、魚羹何如、茗飲酪漿何如、肅對曰、羊者是陸產之最、魚者是水族之長、所好不同、並各稱珍、以味言之、是有優劣、羊比齊魯大邦、魚比邾呂小國、唯茗不中與酪作奴、高祖大笑、因舉酒曰、三三橫兩兩縱、誰能辨之、賜金鐘、御史中丞李彪曰、沽酒老嫗甕注、屠兒割肉與稱同、尙書右丞甄琛曰、吳水浮水、自云工妓兒擲繩、在虛空、彭城王勰曰、臣始解此、是習字、高祖卽以塗鐘賜彪、朝廷服彪聰明有知、甄琛和之亦速、彭城王謂肅曰、卿不重齊魯大邦而愛邾呂小國、肅對曰、鄉曲所美、不得不好、彭城王重謂曰、卿明日顧我、爲卿設邾莒之食、亦有酪奴、因此復號茗飲爲酪奴、時給事中劉鎬、慕肅之風、專習茗飲、彭城王謂鎬曰、卿不慕王侯八珍、好蒼頭水厄、海上有逐臭之夫、里內有學鑿之婦、以卿言之卽是也。其彭城王家有吳奴、以此言戲之、自是朝貴燕會雖設茗飲、皆耻不復食、唯表殘民遠來降者飲焉、

然ラバ飲茶ノ風ハ此後久シク外族ニ傳播セザリシヤトイフニ決シテ然ラズ。北魏ニ於テハ、洛陽ニ都セシ以來、南人ノ歸化ヲ獎勵シ、洛南伊洛二水ノ畔ノ歸正里ニ、吳人坊ト稱スル南人ノ居留地ヲ設定シ、水產物ノ取引ハ此ニ於テ行ハレタリ。之ニ關シテ、「洛陽伽藍記卷二景寧寺」ヲ觀ルニ、

『城南歸正里、民間號爲吳人坊、南來投化者多居其內、近伊洛二水、任其習、御里三千餘家、



自立ニ巷市、所賣口味多是水族、時人謂爲「魚鱉市」也』

ト。是ノ如クナリシヲ以テ、羊肉酪漿ヲ主食トシテ植物性食品ニ乏シキ外族ハ、是等ノ歸化南人ノ飲茶ノ風ニ接スルヤ、到底飲茶ノ風ト隔絶スル能ハズ。一タビ之ニ浸染スルヤ、容易ニコノ風習ヨリ離脱スル能ハザルモノアリ。想フニ、孝文帝及ビ彭城王等ノ排茶政策モ、到底外族ノ飲茶ヲ斷絶セシムルコト能ハザリシナラン。

當代ニ於ケル著名ナル茶ノ產地ハ、江蘇、安徽、湖北、四川等ノ揚子江流域ニシテ、金州梁州即陝西省興安漢中二府ノ產茶ハ、品質粗劣ニシテ、到底南方茶ノ優良ナルニ及バザリキ。「桐君採藥錄」「證類本草苦菜ノ陶弘景註」「太平御覽」等ニ據レバ、西陽（湖北省黃州府黃縣東）、武昌、廬江

（安徽省廬州府）、晉陵（江蘇省常州府武進縣）、巴東ハ、當代ニ於ケル著名ナル茶ノ產地ナリキ。

當代ニ於テ茶ハ漸ク一般ノ嗜好スルトコロトナリタルモ、最モ多ク茶ヲ消費スルハ僧侶道士及ビ上流社會ニシテ、僧侶道士ニ茶ヲ嗜好スルモノ多カリシハ、彼等ガ山間僻地ニ住ミ、茶亦山谷ニ生ジ、兩者茲ニ相識ノ中トナレルニ由ル。當代ニ至リテハ、茶ハ上流社會ニ於テハ、珍客ヲ饗應スル必要品トシテ、絶賞セラレタリ。「晋中興書」ニ、戶部尙書陸納ガ吳興ノ太守タリシ時、衛將軍謝安ヲ接待スルニ當リ、常ニ茶果ヲ出セリ。然ルニ或時ソノ姪叔父ノ心ヲ知ラズ、陰ニ盛饌ヲ具ヘタルニ、謝安ノ歸リタル後、陸納ハンノ姪ヲ杖ツコト四十、曰ク、『汝既ニ叔父ヲ光益

スルコト能ハズ、奈何 吾ガ素業ヲ穢ス』ト。「晉書桓溫傳」ニハ、『溫性儉每讌惟下ニ七奠、拌ニ茶酥一二升而已』トアリ。マタ「採茶錄」ニハ、晉ノ王濛ハ茶ヲ好ミ、訪問客ヲ應酬スルニハ、必ズ茶ヲ出セシモ、士大夫ハ皆之ヲ苦トシ、王濛ヲ訪フコトヲ、『今日有ニ水厄』ト言ヘリト云フ。是ク六朝時代ニ於テハ、茶ハ上流社會ニ於テ交際上ニ使用セラレタルモ、ソノ趣味ヲ解スルモノハ、僅ニ一局部ニ限ラレ、多クハ未ダ茶ノ眞價ヲ解セザリシモノ、如シ。「杜育ノ荈賦」ヲ觀ルニ、

『靈山ハ奇産ノ鐘ルトコロナリ、薺ヲ生ズ、谷ニ彌リ岡ヲ被ヒ、豐穰ノ潤ヲ受ケ、甘霖ノ霽ヲ受ク、之ヲ取テ陶器ニ移シ、清泉ヲ汲ンデ、徐ロニ煮ナバ、始メテ泡ヲ起シ、沈ンデ華トナリ、浮ンデ雪ノ如ク、美ナルコト春敷ノ如シ』

トアリ。依此觀之、當時ノ文人亦其靈筆ニ玉乳花ノ美味ヲ描寫スルコトナク、惟ダソノ美形ヲ稱讃セルガ、是レ未ダ茶ノ美味ヲ解スルニ至ラザリシ證左ナリ。

## 第五章 唐代茶業史論

### 第一節 消費論

唐代ニ於テハ太平ノ世打續キ、且ツ文學旺盛ナリシカバ、世人ハ單純ナル生活ニ飽キ、主食物

副食物共ニ向上シ、延テハ茶ノ趣味ニ傾キ、學者文人先ヅ之ガ品隲ヲ試ミ、賞玩ノ餘リ流麗ナル詩文ヲ發表シテ、茶効ヲ吹聴セルモノ、ソノ數鮮少ニアラザルナリ。

〔註一〕(イ)柳宗元劉禹錫ノ武中丞ニ代ツテ新茶ヲ賜スル文、(ロ)品溫ノ三月三日茶宴ノ序、(ハ)皮白休ノ茶中雜詠ノ序、(ニ)顧況ノ茶賦、(ホ)中孚上人ヨリ茶ヲ贈ラル、ニ答フルノ序、(ヘ)韋應物ノ園中ニ茶ノ生ズルヲ喜ブノ記、(ト)白居易ノ睡後ニ茶ヲ煮テ楊同州ヲ憶フノ文、(チ)溫庭筠ノ西嶺道士ノ茶歌、(リ)錢起ノ積富ト茶宴ノ詩

是等ノ名文大作燦然トシテ光ヲ放チタル外、尙ホ指ヲ屈スベキモノ枚舉ニ遑ナク、一般人民ノ茶ニ對スル嗜好心ハ、之ガタメニ痛ク刺戟誘發セラレタリ。陸羽ノ「茶經三篇」ヲ上梓セルニ引續キ、皮白休ノ「茶塢」、陸龜蒙ノ「茶塢」ノ著述アリテ以來、茶ト嗜好者トノ關係、茶ノ製法若クハ茶器トノ關係、茶ノ煮沸法等ヲ韻致的ニ理解シ、飲茶ノ風歛然トシテ天下ヲ風靡セリ。唐代ノ飲茶ニ就キテ吾人ノ看過スベカラザルハ陸羽其人ナリトス。「唐書陸羽傳」ニ、『著「茶經三篇」言「茶之原之法之具」尤論、天下蓋知「飲茶」矣』ト云ヒ、マタ『有「常伯熊者」因「羽論」、復廣著「茶之功」、陸羽更著「毀茶論」其後尙「茶成」風』ト云ヘリ。唐ノ封演ノ著述ニ係ル「封氏聞見記」ニモ『楚人陸鴻漸爲「茶」之論、說「茶」之功効並煎茶灸茶之法、造「茶」具二十四事、以「都統」籠「貯」之、遠近傾慕、好事者家藏一副、有「常伯熊者」又因「鴻漸」之論「廣潤」色之、於「是」茶道大行、王公朝士無「不」欲者』トアリ。廬同モ亦「茶歌」ヲ作リテ茶ノ流布普及ニ努メシカバ、陸羽、常伯熊及ビ廬同以前ニ於テ旺盛トナレル飲茶ノ風ハ、是等三人ノ茶ノ名人ニ依リ一層盛大ニ赴ケリ。



陸羽、廬同ハ共ニ茶ノ宗師ナルニ由リ、後世茶ノ湯ノ宗匠ヲ「廬陸」ト謂ヒ、茶道ヲ「廬陸之道」ト曰フニ至レリ、就中最モ尊敬セラレタルハ陸羽ニシテ、「陸羽傳」ニモ、『時鬻茶者至下陶羽形置煬突間祀爲茶神』トアリ、李肇ノ唐國史補陸羽姓氏ニモ、『羽茶術尤著、鞏縣陶者多爲甕偶人號陸鴻漸、買茶器得一鴻漸市人估茶不利輒灌注之』ト云ヒ、甌陽修ノ「集古錄」ニ據ルニ、賣茶肆店ガ甕偶人ヲ竈側ニ置テ陸鴻漸ト號シ、飲茶ノ客稀ナル時ニハ茶ヲ此偶人ニ沃ギテ其利市ヲ祝スルノ風習ヲ生ジ、之ハ宋代迄繼續セルヲ知り得ベシ。依此觀之、陸羽ハ唐代ニ於テ飲茶ノ風ヲ普及スルニ與ツテ力アリ、茶神トシテ尊崇セラレタルヲ想像スルニ難カラス。

唐代ニ於テ飲茶ノ風ヲ普及スルニ與ツテ力アリシモノニ、尙ホ泰山ノ降魔師アリ、今之ニ關シ「封氏聞見記」ヲ按ズルニ、『南人飲好茶、北人初不多飲、開元中泰山露巖寺有降魔師、大興禪教學師、務於不寐又不ニ夕食、皆許其飲茶、人自懷挾、到處煮飲、從此轉相倣、倣遂成風俗、自鄒、齊、滄、棣漸至京邑、城市多開店舖煎茶賣之、不問道俗投錢取飲、其茶自江淮而來、舟車相繼、所在山積、色額甚多』トアリ。泰山降魔師ノ威勢、斯ク絶大ナリシカハ、頗ル疑問ナルモ、陸羽以前即チ唐ノ玄宗ノ開元天寶ノ頃、既ニ飲茶ノ習慣ノ北支那ニ普及セラル知ルベシ。

〔註〕 鄒——山東省兗州府、齊——山東省青州府、滄——直隸省天津府、棣——山東省武定府、

前ニ降魔師アリ、後ニ陸羽、廬同、常伯熊アリ、加フルニ學者文人アリテ、流麗ナル詩文ヲ以テ茶ノ効用ヲ吹聴スルヤ、天下歛然トシテ飲茶ノ風纏蔓シ、茶ハ宮中府中ハ素ヨリ、上流社會ノ必要品ト化シ、茶ヲ嗜マザルモノハ殆ンド俗物視セラル、ノ風潮ヲ生ズルニ至レリ。故ニコノ時代ヨリシテ上ノ好ムトコロハ下亦之ヲ好ミ、茶ハ唯ニ上流及ビ文人學者ノ社會ニ需要セラル、ニ止ラズ、遍ク世間ニ流行シ、飲茶ノ風ハ各地方各階級ニ益々廣ク且ツ深ク普及浸潤シ、遂ニ茶ハ唐代人民一般ノ飲料トナリタリ。殊ニ南方ハ過飲ノ弊ニ陥リ、伯熊ハ之ヲ患ヒタル程ニテ、以テ唐代ニ至リ茶ヲ賞用スルコト如何ニ旺盛ナリシカヲ知ルベシ。

## 第二節 生産論

唐代ニ於ケル茶ノ流行需要叙上ノ如クナレバ、茶ノ製造モ大ニ進ミ、產地廣ク產額大ナリシモノアルニ至レリ。陸羽ノ「茶經」ニ據ルニ、唐代ニ於ケル茶ノ生産領域ハ、湖北、湖南、河南、浙江、江蘇、江西、福建、廣東、安徽、陝西、四川、貴州ニ亘リ、既ニ唐代ニ於テ茶ノ產地ハ支那全地ニ普及シ、現代ニ於ケルト大差ナシ、今右各省ニ於ケル主要ナル產地ヲ觀ルニ次ノ如シ。

湖北省 宜昌(峽州)、武昌(鄂州)、荊州、襄陽(荊州)、黃州府鄂州の西北(鄆門)(鄆州、黃州)

湖南省 衡州、岳州(澧湖)

河南省 汝寧(申州、義陽郡)、光州(光州黃山縣)

安徽省 安慶府潛山縣(舒州)、鳳陽(壽州)、歙州、寧國、徽州、

浙江省 嚴州(睦州)、寧波、金華(婺州)、臺州、湖州(湖州府烏程縣)、紹興(越州)

江蘇省 常州、鎮江(潤江)、蘇州

江西省 袁州、吉安(吉州)、南昌府南昌縣(洪州)

福建省 福州、建甯(建州)

廣東省 韶州

陝西省 興安(金州)

四川省 緜州、功州、雅州(州昌)、瀘州、眉州、成都府(安慶州)、成都府彭縣(彭州)、漢州(蜀州)、夔州

貴州省 思南(思州、貴州)、石阡(夷州)、遵義(播州)

叙上諸産地中茶質ノ最モ良好ナルハ、湖北省ノ宜昌、河南省ノ光州、浙江省ノ湖州及ビ紹興、

四川省ノ成都府彭縣等ニシテ、何レモ著名ナル産地ナリ。産額多ク最モ當世ニ普通ナリシ茶ヲ産スルハ、江西省浮梁縣ニシテ、唐代ニ於テハ大ナル茶商ハ浮梁ニアリテ、「浮梁ノ商」ト謂ヘリ。

唐代ニ於テハ茶ノ種別未ダ多カラズ、僅ニ宮中ニ於テ德宗ガ同昌公主ニ與ヘタル茶ノ綠花ノ號

アリタルノミト説ク者アルモ、「唐國史補」ニ按ズルニ、『風俗貴茶、茶之名品益衆』トアリテ、



寧ロ茶ノ品目既ニ數十種ノ多キニ及ビ、支那人ノ茶ニ對スル嗜好ノ漸ク進展セルニ驚カズンバアラズ、勿論產地ニ依リ茶ノ製法ニ多少ノ差異アリ、性狀ノ相違ナキニアラザルモ、是ノ如ク品目ノ繁多ヲ加ヘタルハ、寧ロ產地ニ依リ唯ダ名稱ヲ異ニセルニ因ルモノト言フベク、今著名ナル產地ト名稱トラ對照列示スレバ次ノ如シ。

劍南 蒙頂石花(號シテ天下第一トセラル)、小方、散牙

湖州 顧渚之紫笋(明ノ羅廬ノ茶解ニハ、明代ニ著名ナル茶名ニシテ唐代ニ未ダ出現セザリシモノヲ列舉シ、其中ニ、顧渚ヲモ加ヘタリ)

東川 神泉、小團、昌明、獸目

峽州 碧澗、明月、芳蕊、茱萸、

福州 方山之露牙(生牙)

夔州 香山(香雨)

江陵 南木

岳州 澠湖之含膏

常州 義興之紫笋(紫筍)

婺州 東白

睦州 鳩坑(鳩坑)

洪州 西山之白露

壽州 霍山之黃牙

鄱州 鄱門團黃(團月)

是ノ如ク、到ル處名茶ノ產出ヲ見ルニ至レルハ、到ル處茶ノ需要ノ増加進展セル證左ナラズン  
 バアラズ。唐代ニ於ケル茶ノ製法ハ、後世ニ於ケルガ如ク炒製ヲ以テスルモノニアラズシテ、蒸  
 焙ヲ以テスルモノニシテ、其製造時期モ今日ノ如ク春夏ノ季ニアラズシテ、冬中ナリシガ如シ。  
 終ニ蒞ンデ、唐代ニ於ケル茶ノ產額ヲ檢スルニ、全國ノ產額ヲ知ルノ文献ヲ見出スヲ得ザルモ  
 浮梁縣及ビ湖州ノ年產額ハ、之ヲ知ルコトヲ得。「元和郡縣志」ニ曰ク、

『浮梁縣、武德五年(西紀六二二)、折鄱陽東界、置新平縣、尋廢、開元四年(西紀七一七)、刺史韋玲  
 再置、改三名新昌、天寶元年(西紀七四二)、改三名浮梁、多歲出茶七百萬駄、稅十五餘萬貫』  
 ト。マタ宋ノ錢易ノ「南都新書」ニハ、

『唐制、湖州造茶最多、謂之顧渚、貢焙歲造一萬八千四百八斤』  
 ト謂ヘリ。

### 第三節 交易論

唐代ノ產茶地ハ、多クハ揚子江ノ本流及ビ支流ニ接近セル地方ニ在リタリ、換言スレバ、唐代ノ茶ハ、凡テ水運ノ便多キ地方ヨリ產出セリ。即チ唐代ノ茶ハ、船舶ノ往來ノ最モ頻繁ナル地方ヨリ產出セルヲ以テ、茶ノ需給ハ容易ニ適合セラレ、需要ノ増加ハ供給ノ増加ヲ促進スルヲ得タリ。

然ラバ唐代ノ船舶、就中揚子江ノ船舶ハ、如何ナルモノナリシカ。今宋ノ陸務觀ノ「入蜀記」ヲ觀ルニ、

『十四日、曉過雨、一小石山、自<sub>レ</sub>頂直削去半、與<sub>ニ</sub>餘姚江濱之蜀山絕<sub>ニ</sub>相類、拋<sub>ニ</sub>大江、遇<sub>ニ</sub>一木  
棧、廣十餘丈、長五十餘丈、上有<sub>ニ</sub>三四十家、妻子鷄犬、臼碓皆具、中爲<sub>ニ</sub>阡陌、相往來、亦有<sub>ニ</sub>  
神祠、素所<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>觀也、舟人云、尙此小者耳、大者、於<sub>ニ</sub>棧上、鋪<sub>レ</sub>土、作<sub>ニ</sub>蔬圃、咸作<sub>ニ</sub>酒肆、皆  
不<sub>ニ</sub>復能<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>夾、但行<sub>ニ</sub>大江<sub>ニ</sub>而已』

ト謂ヘリ。此ハ宋代ノ事實ナルモ、唐代ニ於テモ、是等木棧ニ劣ラザル大舶ガ、揚子江ヲ上下セ  
シモノト推察セラル、今ソノ一例トシテ、宋ノ王讜ノ「唐語林」ヲ觀ルニ、

『揚子錢塘二江則乘<sub>ニ</sub>兩潮<sub>ニ</sub>發<sub>レ</sub>棹、船舶之盛、盡<sub>ニ</sub>于江西、編蒲爲<sub>レ</sub>帆、大者八十餘幡、自<sub>ニ</sub>白沙<sub>ニ</sub>  
沂流而上、常得<sub>ニ</sub>東北風<sub>ニ</sub>、謂<sub>ニ</sub>之信風<sub>ニ</sub>、七月八月有<sub>ニ</sub>上信<sub>ニ</sub>、三月有<sub>ニ</sub>鳥信<sub>ニ</sub>、五月麥信、暴風之候有<sub>ニ</sub>  
拋車雲、舟人必察<sub>ニ</sub>婆官<sub>ニ</sub>、而事<sub>ニ</sub>僧伽<sub>ニ</sub>、江湖曰、水不<sub>レ</sub>載<sub>レ</sub>萬、言大船不<sub>レ</sub>過<sub>ニ</sub>八九千石<sub>ニ</sub>、大歷貞元



間、有<sub>二</sub>兪大娘船<sub>一</sub>、最大、居者養<sub>レ</sub>生送<sub>レ</sub>死、婚嫁悉在其間、開<sub>レ</sub>巷爲<sub>レ</sub>圃、操駕之工數百、南至<sub>二</sub>江西<sub>一</sub>、北至<sub>二</sub>淮南<sub>一</sub>、歲一往來、其利甚大、此不<sub>二</sub>啻載<sub>二</sub>萬<sub>一</sub>、洪鄂水居頗多、與<sub>二</sub>一屋<sub>一</sub>殆相半、大船爲<sub>二</sub>富商所有<sub>一</sub>、奏<sub>二</sub>聲樂<sub>一</sub>、役<sub>二</sub>奴婢<sub>一</sub>、以據<sub>二</sub>舵樓之下<sub>一</sub>、

ト。マタ當時、南北ノ運漕ハ、多ク通濟渠ヲ經テ黃河ニ入レルモノ、如ク、同ジク「唐語林」ニ『凡東南郡邑無<sub>レ</sub>不通<sub>レ</sub>水、故天下貨利舟楫居<sub>レ</sub>多、轉運使、歲運<sub>二</sub>米二百萬石<sub>一</sub>、以輸<sub>二</sub>關中<sub>一</sub>、皆自<sub>二</sub>通濟渠<sub>一</sub>入<sub>レ</sub>河也、淮南篙工不能<sub>レ</sub>入<sub>二</sub>黃河<sub>一</sub>也』

ト謂ヘリ。「元和郡縣志」ニハ、

『隋煬帝大業元年、更令<sub>二</sub>開導<sub>一</sub>、名<sub>二</sub>通濟渠<sub>一</sub>、自<sub>二</sub>洛陽西苑<sub>一</sub>、引<sub>二</sub>穀洛水<sub>一</sub>、達<sub>二</sub>于河<sub>一</sub>、自<sub>二</sub>板渚<sub>一</sub>引<sub>レ</sub>河入<sub>二</sub>汴口<sub>一</sub>、又從<sub>二</sub>大梁之東<sub>一</sub>、引<sub>二</sub>汴水<sub>一</sub>入<sub>二</sub>于泗<sub>一</sub>、達<sub>二</sub>于淮<sub>一</sub>、自<sub>二</sub>江都宮<sub>一</sub>入<sub>二</sub>于海<sub>一</sub>、亦謂<sub>二</sub>之御河<sub>一</sub>、河畔築<sub>二</sub>御道<sub>一</sub>、樹<sub>レ</sub>之以<sub>レ</sub>柳、煬帝巡幸、乘<sub>二</sub>龍舟<sub>一</sub>、而往<sub>二</sub>江都<sub>一</sub>、自<sub>二</sub>揚益湖南<sub>一</sub>、至<sub>二</sub>交廣閩中貴州<sub>一</sub>、公家運漕、私行商旅、舳艫相繼、隋民作<sub>レ</sub>之雖<sub>レ</sub>勞、後代實受<sub>二</sub>其利<sub>一</sub>焉』

ト謂ヘリ。依此觀之、唐代ニ於テハ、南北兩地間ニ於ケル舟楫ノ便大ニ發達シ、北部ニ於ケル茶ノ需要増加ニ伴ヒ、南部ニ於ケル茶ハ、自由ニ北運セラレ、此間ニ處シテ茶商ハ、一大勢力ヲ得鹽商ト相對峙スルニ至レルヲ知ル。今白樂天ノ「琵琶行」ニ依ルニ、白樂天ガ船中ニ於テ、琵琶ヲ聽キ、「江州司馬青衫濕」トテ、大ニ感涙ニ咽ビタルガ、ソノ琵琶ヲ彈ゼシハ、即チ是<sub>レ</sub>茶商

ノ老婦ナリ。マタ白樂天ノ詩ニ、

老大嫁作商人婦、商人重利輕別離、前月浮梁買茶去、去來江口守空船、

トアリ。是レ白樂天ガ、當時支那殊ニ南支那ニ於テ大ニ盛ナリシ茶商ノ婦ヲ借リテ、遷謫ノ情ヲ歌ヒタルモノナルベシ。是ノ如ク盛ナリシ茶商ハ、當時「飛錢」ナル爲替制度ノ發達ヲ促進セルガ、ツツ理由ハ次ノ如シ。

一、當時茶商ハ日ヲ逐フテ盛大ニ赴キ、殆ド他ノ商業ヲ壓倒セントスル勢アリシコト

二、當時茶ノ販路ガ遠ク產茶地以外ニ擴マレルコト

三、當時ノ通貨タル銅錢及ビ絹布ノ類ガ携帯ニ不便ナリシコト

四、當時私鑄盛ニ行ハレ、惡錢橫行シ好錢缺乏セルヲ以テ、中央地方共ニ境外ニ現錢ノ流出ヲ

### 禁止セルコト

是ノ如ク茶ノ國內取引ノ發達ト共ニ、茶ハ外國貿易品トシテ重視セラル、ノ端緒ヲ示セリ。卽チ「七修類藁」ヲ觀ルニ、

『西茶、易馬考、洪武四年正月（西紀一三七〇）詔、陝西漢中府產茶地方、每三十株、官取一株、無主者、令守城軍士、薈種採取、每十分、官取八分、然後以百斤作爲二包、爲引以解、有司收貯、候西番易馬、後又令四川保寧等府、亦照陝西取納、二十三年（西紀一三九〇）、因私茶

之弊、更定其法、而于甘肅洮河西寧、各設茶馬司、以川陝軍人、歲運一百萬斤、至彼收貯、謂之官茶、私茶出境者斬、關隘不覺察者、處以極刑、民間所蓄不過一月之用、多皆官買、私易者籍其園、仍製金牌、牌額篆文曰皇帝聖旨、其下左曰公當差發、右曰不失信者死、番族各給一面、一面收貯內府、三年一交、着大臣、賚牌前去、調聚各番、比對字號、收納馬匹、共一萬四千五十一匹、自是洮河西寧一帶、諸以茶馬羈禁(中略)、則祖宗百年之間、甘肅西顧之憂無矣、予則曰、制服西戎之術、執有過于茶馬之法、何也、自唐回紇入貢、以馬易茶、至宋熙寧間、有茶易番馬之制、所謂摘山之利、而易充廐之良』ト謂ヘリ。マタ「封氏見聞記」ヲ檢スルニ、

按レ古、此古人亦飲茶耳、但不如今人溺之甚、窮日盡夜、殆幾風俗、始自中地、流於塞外、經年回紇入朝、大驅名馬、市茶而歸、亦足怪焉』ト謂ヘリ。

#### 第四節 茶政論

是ノ如ク支那ニ於ケル飲茶ノ風ハ、晉魏以來漸ク旺盛トナリ、唐代ニ入り盧陸出デ、ヨリ天下歛然トシテ靡キ、飲茶ノ風ハ單ニ南人ニ侵染セルノミナラズ、北漸シテ北人ニ普及シ、且ツ南北上下ニ使用セラレ、茶ハ茲ニ重要ナル國內内商品トナルヤ、從來國家ノ注意ヲ惹カザリシ茶モ、



遂ニ課稅物件トナリ、財政上ノ一大財源タルニ至レリ。而シテ支那ニ於ケル茶法ハ唐代ニ濫觴シ唐代ニ於ケル茶法ハ建元ニ初リ、貢茶、稅茶、及ビ權茶ノ三種アリ。

### 第一款 貢茶制度

唐代ニ於ケル茶法ノ第一步ハ、貢茶ヲ以テ始レリ。貢茶トハ、人民ヲシテ茶ヲ貢獻セシムルノ制度ニシテ、此種ノ制度ハ德宗ニ起リ、憲宗、穆宗ヲ經テ文宗ニ及ベリ。

德宗ノ世、韓滉ハ、奉天ノ難ニ遭ヒ、人民ヲシテ茶ヲ朝廷ニ獻納セシメタリトハ、「唐國史補」ニ見エタリ。憲宗ガ元和一二年（西紀八一七）ニ、內庫ノ茶三十萬斤ヲ出シテ、戶部ニ付シ、其代金ヲ進メシメタルコトハ、「冊府元龜」ニ見エタリ。穆宗即位ノ初、申州ノ歲貢茶ヲ停メシハ、元和一五年（西紀八二〇）ニシテ、是レ當時ニ歲貢トシテ茶ノ擇定セラレ居リシコトヲ證明スルモノニシテ、「舊唐書穆宗本紀」ニ見エタリ。

文宗ガ、英蜀ノ冬中ニ、新茶ヲ製造シ貢納シタル例ヲ釐革シ、物性ニ順ヒ、立春後ニ製造セシムベシ、トノ詔ヲ下シタルハ、太和七年（西紀八三三）ニシテ、「舊唐書文宗本紀」ニ見エタリ。是レ當時茶ノ歲貢ト、茶ノ冬中製造ノ風ノアリシコト、ヲ證明スルモノナリ。然ラバ土貢トシテ、茶ヲ貢納セシメシハ、如何ナル地方ナリシヤニ關シ、「新唐書地理志」ヲ檢スルニ、次ノ諸地方ナルコトヲ知ル。

(一) 山南道

峽州夷陵郡(湖北省宜昌府)、歸州巴東郡(同上)、夔州雲安郡(四川省夔府)、金州溪陰郡(陝西省興安府)、梁州、

與元府漢中郡(陝西省漢中府)

(二) 淮南道

壽州壽春郡(安徽省鳳陽府)、盧江郡(安徽省廬州府)、鄆州鄆春郡(湖北省黃北府)、申州陽郡(河南省甯府)

(三) 江南東道

常州晉陵郡(江蘇省常州府)、福州長樂郡(福建省福州府)、黔中溪州靈溪郡(湖南省永順府)

(四) 劍南道

雅州盧山郡(四川省雅州府)

第二款 稅茶制度

唐代茶法ノ第二步ハ、茶稅ヲ以テ開始サレタルガ、是レ茶法ノ進歩ニシテ、土貢トシテノ茶ハ、租稅トシテ茶稅ニ推移セリ。

唐代ニ於ケル茶稅ノ嚆矢ハ、德宗ノ建中三年(唐書德宗本紀ニ據ル、舊唐書食貨志ニハ建中四年(西紀七八二)トアリ、文獻通考ニハ建中元年トナリ居レリ) 戶部侍郎趙贊ノ意見ニ依リ、常平ノ資金ニ充ツル名義ニテ、漆竹木ト共ニ茶ニ從價一〇%ノ稅ヲ賦課シタルニアリ。斯クテ茶ハ、始メテ課稅物件トナリタルモ、ソノ目的ハ勿論財政ノ窘迫ヲ緩和スルニアリシナリ。蓋シ當時ハ、軍費頗ル巨額ニ上リ、常賦ヲ以テシテハ、到底收支相償ハザルニ依リ、何レニカ新稅源ヲ求メントシテ、講究シツ、アリシニ、偶々茶ハ當時ノ社會ニ普及シ、好個ノ稅源ナリシカバ、之ヲ以テ課稅物件ニ擇定シ、尙ホ漆竹木ニモ同時ニ課稅セルモノナリ。新稅ノ制定ハ、能ク當時ノ財政難ヲ拯ヒ得タリヤト云フニ、

決シテ然ラズ。當時是等四種ノ租税ノ徵收額、果シテ幾何ナリシヤハ考證ノ道ナキモ、新税ノ創始ナルト、茶ノ需要既ニ旺盛ナリト雖、未ダ後世ノ如クニアラザリシ等ノ事情ニ鑑レバ、徵税額ハ餘リ多カラザリシモノト推定シ得ベシ。新税ノ徵税額はノ如ク少キニ拘ラズ、支出頗ル多額ニ上リシヲ以テ、新税ヲ以テシテハ到底財政ノ窘迫ヲ拯フニ足ラズ。況ンヤ新税ノ創始ニ對シ、人民ノ不滿ヲ抱キ、怨聲ヲ發スルモノ少カラザルヲヤ。四圍ノ事情ノ如クナルヲ以テ、興元元年（西紀七八四）、新税廢止ノ詔ヲ下シタリ。

軍費ノ支出多キコト依然タル外、水旱ノ爲メ、民田ノ賦税ヲ徵收スル能ハザルコト多ク、政府亦災民ヲ救濟スル目的ヲ以テ、減税ヲ行フニ於テハ、國用ハ自ラ空虚ナラザルヲ得ズ。是ヲ以テ興元元年、一旦廢止セル茶税ヲ、再ビ貞元九年（西紀七九三）ニ至リテ復興セリ。然レドモ、曩ニ茶税ヲ軍費ニ充當シテ失敗シタル政府ハ、後ニハ水旱ノ爲メ民田ノ賦税ヲ辨ズル能ハザル場合ニ於テ、國用ニ充當スルノ名義ヲ取レリ。曩ニハ武制の專制のニ出デ、後ニハ眞意ハ兎モ角、民主的社會政策のニ出デタリ。諸道鹽鐵使張滂ノ奏言ニ鑑ルトキハ、復興セラレタル茶税ノ性質明ナリ。『去歲水災詔令減税、今之國用須<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>供儲<sub>一</sub>、伏請於<sub>二</sub>出茶州縣及茶山外<sub>一</sub>、商人要路委<sub>二</sub>由定三等<sub>一</sub>、時估每十税一、充<sub>二</sub>所<sub>一</sub>放兩税<sub>二</sub>其明年已後所<sub>一</sub>得稅錢外貯、若遭<sub>二</sub>水旱<sub>一</sub>、賦税不<sub>レ</sub>辨以<sub>レ</sub>此代<sub>レ</sub>之詔可』



仍チ張滂ニ委任シ、具サニ條目ヲ處置シ、徵稅セシメタルガ、徵收歲額ハ「新唐書」ニ據ルニ、四十萬緡ナリ（齊治通鑑も同じ、舊唐書食貨志は五十萬貫、文獻通考は四十萬貫なり）。當時茶稅ノ稅率一〇％ナリシカバ、當時年四百萬緡ノ茶賣實行ハレシコトヲ推定シ得ベシ。然シ此ハ正式ニ茶稅ヲ納入シタル茶ノ賣買ニシテ、此外脫稅茶ノ密貿易多カリシヲ知ラザルベカラズ。今當時普通ノ三等商品トシテ、最モ需要多カリシ浮梁茶ニ就テ觀ルニ、元和郡縣志ニ據ラン乎、毎年七百萬駄ノ茶ヲ產セシニ、茶稅ノ收入ハ僅ニ十五萬貫ニ過ギザルナリ。浮梁ノ茶ハ出荷最モ大ナリトイヘ、僅ニ一縣ナリ、支那各省ニ於テ茶ノ貿易ノ盛ニシテ、密貿易モ亦盛ナリシヲ想像スルニ難カラズ。水旱ニ遭フコトナク、茶稅ノ全額ヲ流用シ得ル歲ニ於テモ、茶稅ヲ以テ財政ノ窘迫ヲ拯フニ足ラザリシト云フ。即チ『然稅無<sub>下</sub>虛歲遭<sub>ニ</sub>水旱<sub>一</sub>處<sub>上</sub>、亦未<sub>下</sub>嘗以<sub>ニ</sub>稅茶錢<sub>一</sub>極贍<sub>上</sub>』ト。依此觀之、水旱ニ依ル減稅ヲ補充スル名義ヲ以テ復興セル茶稅ヲ、平年ニ於ケル國用ノ不足ニ流用セシコトヲ推定スルニ難カラズ。

穆宗即位スルヤ、鹽鐵使王播ハ茶稅ノ改革ヲ建議シ、長慶元年（西紀八二二）、天下ノ茶稅ヲ増加シ、舊額百文ニ對シ五十文ヲ加徵スルコトトシ、江淮、浙東西、嶺南、福建、荊襄ノ茶ハ、播目ラ之ヲ領シ、東西兩川（四川省）ノ茶稅ハ、戶部ニ於テ之ヲ領セリ、茶稅五〇％ノ増徵トナルヤ、人民ハ此負擔ヲ免カル、タメニ、毎斤ノ目方ヲ増シテ二十兩トセルガ、王ハ復タ之ニ追隨シテ増徵ヲ奏請セリ。（新唐書食貨志）

文宗ノ世、王涯相判二使トナリ、榷茶制度ヲ實施セントシテ失脚スルヤ、其後ヲ受ケタル諸道、鹽鐵使兼榷茶使狐楚ハ、榷茶法ヲ廢シ、從價一〇%ノ茶稅ヲ復興シ、此茶稅ハ鹽鐵使ノ手ヲ經ズ州縣ニ委任シテ徵收セシメ、戶部ニ收納センコトヲ奏請シ、其許可サレタルハ、太和九年十二月(西紀八三五)ニシテ、「舊唐書食貨志」ニ此事ヲ叙シテ、「人々悅焉」ト謂ヘリ。太和ノ末、李石宰相トナリ、開成元年(西紀八三六)ニ諸道ノ藥物、口味、茶菓以外ノ他物ヲ進獻スルヲ禁ジ(舊唐書李石傳)、茶稅ヲ貞元ノ舊制ニ復シ、鹽鐵使ノ管掌ニ歸セリ(新舊唐書食貨志)。

武宗卽位スルヤ、鹽鐵運使、崔洪、復タ江淮ノ茶稅ヲ增徴シ(新唐書食貨志)、當時諸道ノ觀察節度使ハ、茶商ノ通過スル州縣ノ要處ニ、店(舊唐書食貨志)邸(新唐書食貨志)等ヲ置キ、茶商ヲ抑留シテ、正稅ノ外ニ榻地錢ナル通過稅ヲ賦課シ、頗ル苛重ナルモノアリタリ。其課稅ハ頗ル苛重ナリシカバ、紛擾繁クシテ茶商ノ舟車ハ掠奪サレ、茶ハ雨中ニ露積サレ、正稅茶ノ貿遷ハ甚シク阻害サレ密貿易ハ隆盛トナリ、正稅ヲ納ムル茶商ハ、大ニ其利益ヲ奪ハレ、其數モ隨ツテ減少スルニ至レリ。是ヲ以テ、大中ノ初ニ至リ、鹽鐵轉運使裴休ハ、橫稅ヲ釐革シテ舟船ヲ通ゼンコトヲ請ヘリ。其結果トシテ、苛重ナル通過稅ハ廢セラレ、密貿易者ノ取締ヲ嚴重ニシタルヲ以テ、商旅漸ク不安ヲ免ル、ト共ニ、課利モ亦自ラ増加セリ。然レドモ、尙ホ正稅ノ茶商ハ、私販ノ茶商ノタメニ其利ヲ侵奪サル、コト多キヲ以テ、更ニ密貿易監督卽チ把捉ヲ出茶地及ビ廬州、壽州、淮南ノ界

内ニ布羅說諭セシムルト共ニ、尙ホ收量ヲ検査シテ半稅ヲ課シ、陳首帖子ヲ給シ、此印證ヲ携帯スル茶商ハ、所在ノ公行ニ於テ更ニ苛奪セラル、コトナカラシメ、若シ此印證ヲ有セズシテ、茶ヲ私販スル者ハ、私犯ト認メテ處刑スルコト、セリ。是レ一ニ窮困ヲ招懷シ、姦欺ヲ下絶シ、私販者ヲシテ犯法ノ憂ヲ免レシメ、正稅者ヲシテ失利ノ欺ナカラシメムコトヲ冀フニ在リ。帝即チ裴休ノ此奏議ヲ嘉納シ、之ヲ實施セシメタリ。裴休ハ此制度ヲ實施スルニ當リ、罰則ヲ制定セリ。之ニ依レバ、私鬻三犯ハ三百斤ニ及ベバ死ニ論ジ、長行郡旅ハ茶少シト雖亦死ニ論ジ、顧載三犯五百斤ニ至レバ居舍、儉保四犯千斤ニ至レバ皆死ナリ。園戶私鬻百斤以上ハ杖脊、三犯ハ徭役ヲ加重シ、園ヲ伐チ業ヲ失フモノハ、刺史縣令ニ於テ私鹽ヲ以テ論ゼリ。盧州、壽州、淮南ニ於テハ、皆半稅ヲ加ヘ、茶商ニハ自首ノ帖ヲ給シタルヲ以テ、茶稅收入ヲ増加スルコト 得タリ。

### 第三款 權茶制度

唐代ニ於テハ、唯計畫ノミニテ、未ダ實施スルニ至ラズシテ失敗ニ歸シタル一種ノ茶制アリ、是レ權茶ノ法ナリトス。

文宗ガ鄭注ニ富人ノ術ヲ問フヤ、鄭注ハ權茶ノ法ヲ以テ對ヘタリ(新舊唐書鄭注傳)。權茶ハ、實ニ鄭注ノ建策ナリト雖、「新唐書王涯傳」ノ如ク、權茶ハ王涯ノ本意ニアラズト斷定スル能ハズ、唯兩者ノ懷抱セル方法ニ多少ノ差異アルノミニテ、權茶ノ方策ハ共ニ有シタルナリ。即チ「舊唐書文



宗本紀」ニハ、『太和九年王涯獻ニ榷茶之利、乃以涯爲ニ榷茶使、茶之有稅自涯始也』ト云ヒ、  
「新唐書令狐楚傳」ニハ、『鄭注奏<sup>レ</sup>建<sup>ニ</sup>茶糸使、王涯又議<sup>ニ</sup>官自治<sup>レ</sup>園植<sup>ニ</sup>茶、人不<sup>レ</sup>使』ト謂ヘリ。  
今榷茶制度ノ内容ヲ探究センニ、王涯ノ意見ニ據ランカ、民間ノ茶樹ヲ官場即チ官營茶園ニ移植  
セシメ、民間ニ於テ茶ヲ栽エ又ハ茶ヲ製スルコトヲ禁ジ、官ニ於テ茶園ヲ經營シ、茶ヲ製造シ、  
商人ニ之ヲ糶與シテ貿遷セシメ、之ヲ官茶ト云ヒ、官茶ニアラザレバ一切賣買ヲ禁止シ、官茶ノ  
證據ナキ民間製造ノ茶即チ私茶ハ盡ク燒棄スルモノナリ。次ニ鄭注ノ意見ニ據ランカ、價ヲ給シ  
テ人民ノ茶園ヲ官ニ借入レ、茶官ヲ置キ人民ノ茶園ニ就テ製造セシムルモノナリ。文宗ノ時、王  
涯相判ニ使タルヤ、榷茶制度ヲ實施シ、民ヲシテ茶樹ヲ官場ニ移植セシメ、其貯積セル茶ニ課稅  
セントシ、大ニ天下ノ怨ヲ受ケタリ、王涯ハ、偶々宦官ヲ誅セントシテ敗レタル李訓ノ事ニ座シ  
宦官九士良等ノ兵ニ長安永昌里ノ茶肆ニ於テ逮捕セラレタルガ、豫テ榷茶問題ニ就テ天下ノ怨ヲ  
買ヘルコトナレバ、彼ハ市民ニ圍繞サレテ誰罵セラレ、石礮ヲ投ゲツケラレタリト云フ(舊唐書王涯  
傳)。太和九年十月(西紀八三五)、王涯ハ榷茶使トナリタルモ、同年十一月ニハ誅殺セラレ、彼ニ代  
リテ狐楚ハ諸道鹽鐵轉運使トナリ、榷茶使ヲ兼タルモ、榷茶法ヲ廢シテ、舊ノ如ク茶稅ヲ賦課ス  
ルコト、シタルヲ以テ、榷茶制度ハ遂ニ唐代ニ於テハ實施セラレズシテ終リタリ。

## 第六章 宋代茶業史論

### 第一節 生業論

#### 第一款 產地及產額

川峽即チ今ノ四川省ハ、古クヨリ茶ノ產地トシテ指ヲ屈セラルル地方ニシテ、太平御覽<sup>卷八</sup>ニ引用セラルル雲南記ニモ、『蒙山在ニ雅州、凡蜀茶盡出ニ於此』トアリテ、雅州即チ今ノ四川省雅安縣ハ、蜀茶(四川茶)ノ中心地ナルコト、今モ古ト異ラザルナリ。蜀茶ノ產額ハ、之ヲ江淮地方ト比較スレバ、甚ダ僅少ニシテ、宋史ノ呂陶傳ニハ『川蜀產茶、視ニ東南、十不レ及レ一』ト謂ヘリ。產茶ヲ以テ知ラレタル地方ニハ、福建、浙江ヲ尤トシ、四川、江南、荆湖ノ諸地方、即チ今ノ福建、浙江、江蘇、安徽、江西、湖北、湖南ノ諸省アリ。更ニ產地ヲ精査スルニ次ノ如シ。

山南 峽州(遠安、宜都、夷陵)、襄州、荊州、衡州、金州、梁州

淮南 芝州、義陽郡、舒州、壽州、鄆州、黃州、

浙西 湖州(長興縣)、常州、宜州、杭州、睦州、歙州、潤州、蘇州

劍南 彭州、綿州、蜀州、卯州、雅州、瀘州、眉州、漢州

浙東 越州、明州、婺州、臺州

黔中 恩州、播州、貴州、夷州

江南 鄂州、袁州、吉州

嶺南 福州、建州、韶州、象州

政府ハ右ノ區域ニ於ケル產茶年額ヲ定メタルガ次ノ如シ。

| 地 方 | 江 南                     | 兩 浙                    | 荆 湖                    | 福 建                  | 合 計                     |
|-----|-------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|
| 產 額 | 一〇、二七〇、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 一、二七九、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 二、四七〇、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 三九三、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 一四、四一二、〇〇〇 <sub>斤</sub> |

此ノ年產額ヲ比較スルト、江南即チ今ノ江蘇、安徽、江西ノ三省ガ、最モ多額ノ茶ヲ產シタルコトヲ知ルニ足ル。併シ他ノ三地方ニ比シ、此地方ニ於ケル茶ノ產額ノ多大ナリシハ、勿論產茶地域ノ廣大ナリシニ因ルベシト雖、亦此地方ニ於ケル人口ノ稠密ニシテ、茶業ノ盛大ナリシニ因ルモノト謂ハザルベカラズ。

## 第二款 種別、名稱及製法

宋代ニ於テハ茶ヲ大別シテ片茶及ビ散茶ノ二種トナスコトヲ得。

片茶トハ、青茶ヲ蒸シテ之ヲ軟カクシ、竹ニテ編ミタル模格ニ串キ、捲縮セシメテ焙室中ニ置クモノナリ。コノ片茶ニハ、著名ナルモノトシテ、龍鳳(團片)、石乳、頭乳(以上狹片)、京乳、



白乳、頭金、蠟面、頭骨、次骨、末骨、麤骨、小挺（以上潤片）等アリ。ソノ中ノ蠟茶ニ就テ觀ルニ、「事物紀原」ニハ「楊文公談苑」ヲ引用シテ、「蠟茶出建州、江右近日、有蠟面之號」ト言ヘリ、「宋史食貨志」ニハ、建州臘茶又ハ建寧臘茶ノ名ヲ記シ、且ツ「建寧臘茶、北苑爲第一、以供玉食」備賜予「ト云ヒ、宋ノ熊蕃ノ「宣和北苑貢茶錄」ニハ、「臘面乃產于福……南唐歲率諸縣民采茶北苑初造研膏、繼造臘面、太平興國初、北苑造團茶、以別庶飲」ト云ヘリ。依此觀之、蠟茶ハ一ニ蠟面トモ云ヒ、福建ノ建州ノ產ナリ、建州ハ唐代ノ名稱ニシテ、宋代ニハ建寧府ト云ヒ、最近マデモ建寧府ノ名稱ヲ存シ、現今ハ建甌府トナレリ。建州卽チ建寧ニハ、北苑ト稱スル著名ナル製茶場アリ、ソノ茶ハ優良品トシテ宋代ニ聞エ、帝室ノ御用品トナレリ、ソノ產茶（一ニ建茶）ヲ蠟茶ト云ヘルハ、蠟面ノ意味ニシテ、色澤蠟ノ如ク黃ヲ帶ビタルモノナルベク、マダ蠟ノ字ヲ臘ニ作ルハ誤ナラズヤト思惟セラル。

ソノ他片茶ニハ、種々アリテ、今ソノ產地及名稱ヲ列示スレバ次ノ如シ。

# 產地 名稱

餘州 進寶、雙勝、寶山、兩府

興國軍 仙芝、嫩蕊、福合、祿合、運合、慶合、指合

饒州 泥片

池州

泥片

虔州

綠英、金片、

袁州

玉津

臨江軍

靈川、福川、先春、早春、華英、夾泉、勝金

歙州

獨行、靈草、綠芽、片金、金茗

潭州

大拓枕

江陵

大巴陵、小巴陵、開勝、開捲、小捲、生菁、翎毛

岳州

雙上、綠芽、大方、小方、東首、淺山、薄側

辰州

東首、淺山、薄側

澧州

同上

光州

二十六名あり

兩浙宣州、江州、鼎州、止州ニ於テハ、上中下或ハ第一乃至第五ヲ以テ號トナセリト云フ。  
散茶トハ捲莖粗大ニシテ品格遙ニ片茶ニ及バザルモノヲ云ヒ、之ニハ次ノ如キ種類アリ。

產地

名稱

太湖

龍溪、次號、末號

淮南

草子、楊樹、雨前、雨後

荊湖

清口

歸州

茗子

江南

十一名アリ

江湖

上中下或ハ第一乃至第五ヲ以テ號トナス。

ソノ他、朝廷ニ上貢スル茶即チ貢茶ニハ、次ノ如キ種々ノ名稱アリ。

貢新鈐、試新貢、白茶、龍團勝雪、承平雅玩、龍鳳英華、玉除清賞、啓沃承恩、御苑玉榮、萬壽龍榮、上林第一、乙夜清供、雪英、雪葉、蜀葵、金錢、玉華、寸金、無比壽芽、萬春銀葉、宜年寶玉、玉清慶雲、無彊壽龍、玉葉長春、瑞雲翔龍、長壽玉圭、興國巖鈐、香口焙鈐、上品棟芽、新收棟芽、太平嘉瑞、龍苑新春、南山應瑞、興國巖棟芽、興國巖小龍、興國巖小鳳（以上細形）

棟芽、小龍、小鳳、大龍、大鳳（以上大形）

敍上ノ名稱ニ觀ルガ如ク、龍鳳ノ字多キハ、當時宮中ニ貢スルモノニハ團片アリテ、ソノ上面ニ金箔ヲ以テ龍鳳ノ形ヲ模寫セルニ由レリ、而シテ後世茶ノ名稱ニ龍乃至鳳字ノ名稱アルハ、宋代ノ遺習ナリ。



〔註〕 宋代ニ於ケル製茶ニ關スル詳細ハ宋蔡襄ノ茶錄ヲ參照スベシ。

## 第二節 消費論

唐末既ニ下流社會ニ普及シタル飲茶ノ習慣ハ、宋代ニ至ツテモ依然トシテ保持セラレタルヲ以テ、人口ノ増加ト共ニ、大ニ茶ノ需要量ヲ増加シ、從ツテ茶ノ產出量ヲ増加シタリ。斯クテ宋代ニ於テハ、茶ノ需要者及ビ需要量ヲ増加シタルノミナラズ、茶ニ對スル嗜好モ益々深クナレリ。宋ガ支那ヲ統一シタル後、國內ノ靜謐ノ保持セラル、ヤ、純粹ノ支那文化ハ爛熟シ、茶道モ一種ノ娛樂トシテ大ニ流行スルニ至レリ、茶器ノ精巧ヲ誇リ、茶味ノ鑑賞法ヲ究研シ、乙ノ立テ方ノ巧拙ヲ評論シ、茶道ハ大ニ發達セリ。唐代ニ於ケル茶ノ飲ミ方ハ、主トシテ煎茶法ヲ用ヒタルモ、宋代ニ至リテハ、上流社會ニ於テハ、主トシテ抹茶法行ハレ、從ツテ宋代ニ於ケル茶ニ關スル研究ハ、唐代ニ比シ精密トナレリ。宋ノ徽宗皇帝ノ如キ斯道ノ通人ニシテ、ソノ著大觀茶論ノ如キ、宋代茶道ニ關スル大著述ナリ。茶ハ是ノ如ク飲用ノ必需品ナルニ止ラズ、之ヲ以テ上流社會ノ贈答品ニ供セラレ、ソノタメニ各階級ノ連絡ヲ謀リ、異宗旨間ノ緩和ヲ收メタル效果アリタリキ。梅堯臣ノ建州沈屯田ガ新茶ヲ寄スルニ答フル文、王仲儀ガ鬪茶ヲ寄スルニ答フル文、張耒簿ガ雅山ノ茶ヲ贈ルト同時ニ其韻ニ次セル詩、李仲求ガ建溪ノ茶ヲ寄スルニ答フル文、歐陽修ノ新茶ヲ嘗メテ聖俞ニ呈スル文、龍茶ヲ送テ許道人ニ與フルノ書、黃庭堅ノ雙井茶ヲ蘇子瞻ニ送ルノ詩、

雙井茶ヲ孔韋父ニ送ル文、劉景文ガ團茶ヲ送ルヲ謝スル文、蘇軾ノ安靜上人ニ茶ヲ贈ルノ書、王安石ノ茶ヲ和甫ニ與フル詩等ヲ見テモ、如何ニ茶ヲ贈答用ニ供セシコトノ多キカヲ知ルニ足ラン。茶ハ是ノ如ク宋代ニ於テハ、藝術的研究ノ一對象トナリタルヲ以テ、宋代ノ文化ト茶趣味トハ、密接ノ關係ヲ有シ、宋代ノ文學、繪畫、宗教ニ於テ、茶趣味ノ影響ヲ度外視スルコト能ハザルモノアリ。

### 第三節 交易論

宋代ニ於テハ、初メ茶ノ輸出ハ民間ノ自由ニシテ、『文獻通考』ニハ、『商賈轉』致於西北、以敢散於夷狄、其利特厚』ト謂ヘリ。然ルニ熙寧七年(西紀一〇七四)ヨリ、茶ノ塞外輸出ハ政府ノ獨占スルトコロトナリ、茶馬司ヲ陝西省ノ秦州、鳳州、燕河ニ置キ、蕃馬ノ輸入ト宋茶ノ輸出ヲ管掌セシムルニ至リタリ。

熙寧七年(西紀一〇七四)ニハ、番馬ヲ輸入スルニ銀、帛、及ビ度牒ヲ以テセルガ、元豐六年(西紀一〇八三)ヨリ茶ヲ以テスルコト、ナレリ。茶輸出ノ初ニハ、上馬一匹ハ茶一駄ヲ以テ輸入スルコトヲ得タルモ、淳熙四年(西紀一一七七)ニハ、馬價ハ十倍以上ノ暴騰ヲナシ、四尺四寸ノ下馬ガ十駄ノ茶ニ値スルニ至レリ。上馬ニ至リテハ、到底茶ヲ以テ輸入スルコト能ハズ、銀帛ヲ以テセザルベカラザルニ至レリ。是ノ如キ茶價ノ下落、馬價上騰ノ原因ヲ考察スルニ、邊境ニ於ケル茶馬貿易

ノ禁制弛ミ、上等茶ノ輸出行ハレ、下等茶ハ蕃族ニ於テモ愛好スルコト衰ヘタルニ由ルモノト謂フベシ。從來蕃族ニ輸出スル茶ハ、蜀茶中ノ粗茶ナリシガ、乾道末年(西紀一一七三)ニ至ルヤ、始メテ細茶ヲ輸出スルニ至レリ。斯クテ一タビ細茶ノ雅味ヲ知ルヤ、蕃族ガ從來ノ粗茶ヲ賤シミ、細茶ヲ貴ブニ至ルハ當然ナリ。而シテ茶價下落スレバ馬ノ輸入減少シ、若クハ茶ノ輸出増加スルニ至ル不利アリ。故ニ馬價ノ上騰及茶價ノ下落ヲ防止シ、茶馬貿易ノ弊害ヲ除去スルニハ、細茶ノ輸出ヲ禁止シ、密輸出ヲ嚴禁シ、茶價ヲ釣上ゲ馬價ヲ引下グルニアルコト、吏部郎閻蒼ト其說ヲ同ジウスルモノナリ。

番馬ノ輸入額ハ建炎二年(西紀一一二八)ニハ、二萬匹ニ達シタルモ、乾道初年(西紀一一六五)ニハ九千匹ニ減ジ、淳熙初年ニハ一萬二千九百九十四匹ト定メタルモ、到底之ニ達スル能ハザリキ、斯クテ馬ノ輸入額ノ減少スルト共ニ、馬質モ低下シ、茶ノ輸出ハ比較的增加シ、茶質モ向上セルガ、今蕃馬輸入減少ノ原因ヲ査スルニ次ノ如キモノアリ。

一、茶價下落シ馬價上騰シタルユト

二、金ガ宋茶ノ輸入ヲ阻止シタルコト

三、邊境ニ於テ私茶ノ横行セシコト

## 第七章 金代茶業史論(略)

## 第八章 元代茶業史論(略)



## 第九章 明代茶業史論

### 第一節 生産論

#### 第一款 產地及産額

明代ニ於ケル茶ノ產地ハ、陝西省及ビ四川省ニシテ、湖南、湖北、江西、安徽、江蘇、浙江、福建ノ諸省ヨリモ、茶ヲ産シタリ。

(一)陝西省 陝西省ニ於テハ、漢中府ノ金州、紫陽、石泉、漢陰、西鄉、平利ノ六縣最モ盛ニシテ、洪武四年(西紀一三七二)頃、茶園面積四十五頃七十二畝、茶樹株數八十六萬四千五十八株ニ達セリ。

(二)四川省 四川省ニ於テハ、保寧府、夔州府、成都府ヲ主トシ、重慶府、嘉定州、瀘州、雅州之ニ次ギ、巴州、通江、廣元、南江、建昌、東鄉、利江、天全、永寧、長寧、建始、烏蒙、鎮雄、碶門、筠連ノ諸縣何レモ茶ヲ産セリ。洪武五年(西紀一三七三)頃、四川省ニ於ケル產地ハ、四百七十七箇處ニ達シ、茶樹株數二百三十八萬六千九百四十三株、茶戸三百十五戸ヲ算シタリ。

(三)其他諸省 其他諸省ニ於ケル茶ノ產地ハ次ノ如シ。

安徽省 常州府、廬州府、池州府、徽州府

江西省 南州府、饒州府、南康府、九江府、吉安府

湖南省 長沙府、寶慶府

湖北省 荊州府、武昌府

江蘇省 蘇州府、鎮江府、應天府

浙江省 湖州府、嚴州府、衢州府、紹州府

福建省 建寧府

## 第二款 種別及性狀

明代ニ於ケル茶ヲ、各種ノ標準ニ依リテ種別ヲ設クルニ、ソノ主ナルモノ次ノ如シ。

### (一) 茶法上ノ種別

(a) 官茶 引由ニ依リテ公ニ取引セルモノ

(b) 私茶 引由ニ依ラズシテ私ニ取引セラル、モノ

### (二) 品質及製法上ノ種別

(a) 葉茶

(1) 芽茶

(イ) 探春、(ロ) 先春、(ハ) 次春、(ニ) 紫筍

芽茶ニハ右ノ如キ種別アリテ、之ハ中央政府、寧王府、鎮守太監ニ年々進貢セラル、モノニシテ、中央政府ニ對シテハ僅ニ二十斤ニ過ギザリシモ、鎮守太監ニ對シテハ千餘斤ニ達セシコトアリ。芽茶製造ヲ強制セラレタル地方ノ人民ハ、之ガタメニ種々ノ損失ヲ招クニ至リタリ。今曹琥ノ說ニ據レバ、次ノ如キ弊害アリ(曹琥著請革芽茶錄)。

(一)方春ノ季ハ恰モ農耕養蠶ノ繁忙ナル時季ニシテ、男女芽茶ノ採収ニ忙殺セラレ、本葉ヲ等閑ニ附セザルヲ得ズ。

(二)麥未ダ登ラズ、人民ハ食糧ニ窮スルヲ以テ、芽茶ノ採収ニ忙殺サレテハ、人民ハ生活ニ安ンズル能ハズ。

(三)官ニ上納スル場合ニハ、検査嚴密ニシテ、合格セザルモノ多シ。故ニ射利ノ人ハ期ニ先チテ芽茶ヲ採収シ置キ、上納額ニ不足ヲ生ジタルモノニ、高價ニ之ヲ賣付クルニ至ル。

(四)採収ノ過多ナルトキハ、不合格品ヲ補充スルノ方法ナク、從テ此ノ場合ニハ財物ヲ科斂サル。

(2)粗茶

(b)團茶

(1)大龍團



## (2) 小龍團

### (三) 產地上ノ種別

- (a) 漢茶 陝西省ニ産スル茶ニシテ、品質好ク、價格高キモ、産額少シ。味甘クシテ色薄シ。
- (b) 川茶 甲川省ニ産スル茶ニシテ、品質好ク、價格高キモ、産額少シ。
- (c) 湖茶 湖南省ニ産スル茶ニシテ、品質惡シク、價格低キモ、産額多シ。味苦クシテ、酥酪ニ使用スルニ便利ナルヲ以テ、多ク蕃人ニ使用セラル。

### 第三款 生産政策

明代ニ於ケル茶ノ生産政策ハ、(一)生産ノ増加、(二)種類ノ制限、(三)茶課ノ徵收ノ三方面ヨリ、之ヲ攷察スルコトヲ得。

(一)生産ノ増加 茶ノ生産ヲ増加スルタメニ、茶戸ニ對シテハ徭役ヲ免シタルコトアリ(洪武一四年ト西紀一三九一)。マタ無主ノ茶園ハ空シク之ヲ荒廢ニ委スルコトナク、軍隊ヲシテ之ガ栽培及採收ヲナサシメ、官八〇%、軍二〇%ノ割合ニ分配セシコトアリ(洪武四年ト西紀一三七一)。是ノ如ク、明代ニ於テ、茶ノ生産増加ニ對スル政策ハ施石サレタリト雖、全ク一時的ニシテ永續的ニアラザリシナリ。

(二)種類ノ制限 洪武二四年(西紀一三九一)ニハ、建寧府ニ對シテ、大小龍團ノ製造ヲ禁止シ、芽茶

ノ製造ノミヲ許可セリ。即チ大政紀ヲ觀ルニ、『二十四年九月庚子詔、建寧歲貢ニ上供茶、罷<sub>レ</sub>造<sub>ニ</sub>龍團、聽<sub>下</sub>茶戶惟採<sub>ニ</sub>茶芽<sub>一</sub>以進<sub>中</sub>有司<sub>上</sub>』トアリ。是ノ如キ唯一地方ニ對スル政策ナルト共ニ、種類ノ制限モ唯政府ノ必要ニ出<sub>テ</sub>タルモノニシテ、決シテ全國ニ亘リ經濟上又ハ政治上ノ必要ヨリ出<sub>シ</sub>タル政策ニアラザルナリ。

(三)茶課ノ徵收 明代ニ於ケル茶課ハ、茶戶ニ對シテ株數ヲ標準トシテ賦課シ、製茶ヲ以テ納入セシムルヲ原則トナセリ。而シテソノ稅率ハ、十株ニ付二兩ニシテ、コハ十株ノ茶樹ヨリ採收セラル茶ノ一〇%ニ當レリ。是レ有主ノ茶園ニ對スル茶課ナルガ、無主ノ茶園ニ對シテハ稅率更ニ苛重ニシテ、收穫ノ八〇%ハ之ヲ官ニ納入セシメタリ。是レ無主ノ茶園ハ軍隊ヲシテ栽培採收セシメタルニ由ル。明會典ヲ檢スルニ、『洪武四年奏准、陝西漢中府金州、石泉、漢陰、平利、西鄉縣茶園、每<sub>ニ</sub>十株<sub>一</sub>官取<sub>ニ</sub>一分<sub>一</sub>……無<sub>レ</sub>主者令<sub>ニ</sub>守城軍士<sub>一</sub>薄培及<sub>レ</sub>時採<sub>上</sub>取、以<sub>ニ</sub>十分<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>率、官八分軍二分』ト云ヒ、マタ『洪武五年令<sub>ニ</sub>四川產茶地方<sub>一</sub>、照<sub>レ</sub>例每<sub>ニ</sub>十株<sub>一</sub>官取<sub>ニ</sub>一分<sub>一</sub>、徵<sub>ニ</sub>茶二兩<sub>一</sub>、其無<sub>レ</sub>主者令<sub>ニ</sub>人薄種<sub>一</sub>、以<sub>ニ</sub>十分<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>率、官取<sub>ニ</sub>八分<sub>一</sub>』ト云ヘルハ、叙上ノ論斷ヲ證明スルニ足レリ。

叙上ノ稅率ハ明代ヲ通ジ各地方ニ亘リテ一定不變ナリシガ、茶課ヲ製茶ヲ以テ納入セシムルコトハ、地方ニ依リ將又年ニ依リ廢止セラレ、銀又ハ綿ヲ以テ代納スルコトヲ認メタルコトアリ。然シ是レ原則ニアラズシテ例外ナリ、是レ常態ニアラズシテ變態ナリ。茶課ノ茶納ヲ『本色』ト

稱シ、ソノ錢納又ハ帛納ヲ『折色』ト謂ヘリ。是ノ如キ茶課ノ銀帛代納ハ、茶ノ凶作ノ年及ビ地方ニ於テ認メタルトコロニシテ、明會典ハ之ニ關シテ、『成化五年（西紀一四六九）令陝西布政司、將金州等處茶課自<sub>ニ</sub>成化<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>始、仍收<sub>ニ</sub>本色<sub>一</sub>、其原折<sub>ニ</sub>收銀帛<sub>一</sub>、候<sub>ニ</sub>豐年<sub>一</sub>、收<sub>ニ</sub>買茶斤<sub>一</sub>、送<sub>ニ</sub>各茶馬司<sub>一</sub>、收貯以備<sub>ニ</sub>易馬<sub>一</sub>』ト謂ヘリ。是ノ如キハ、官民兩者ニ於テ、共ニ利益トスルトコロナリシナルベシ。蓋シ茶ノ凶作ナル時ハ、銀帛ハ茶ニ比シテ、低廉ナルヲ以テ、政府ハ比較的多量ノ銀帛ヲ收納シ得ベク、又茶ノ豐作ナル時ハ、銀帛ハ茶ニ比シテ、不廉ナルヲ以テ、曩ニ收納シタル銀帛ヲ以テ、政府ハ比較的多量ノ茶ヲ買收シ得ベケレバナリ。

## 第二節 消費論

茶ハ明代ニ於テ、官民間ニ於テハ一般ノ飲用ニ供セラレタルハ勿論、官府ニ於テハ、番馬輸入ノ對價及ビ官府ノ經費トシテ使用セラレタリ。番馬輸入ノ對價トシテ、茶ノ利用セラレタルコトハ、第三節貿易狀態ニ於テ敘述スルコト、シ、茲ニハ官府ノ經費トシテ茶ノ利用セラレタルコトニ就テ記述スベシ。

洪武五年（西紀一三七二）四川省碶門、永寧、筠連等ニ於テハ、ソノ地方ニ產スル粗葉ヲ檢査シ、ソノ一部ヲ徵發シテ、紅纓、氈衫、米、布、椒、蠟ヲ購入シ、以テ官用ニ供シタリ。洪熙元年（西紀一四二五）四川省保寧府等ニ於テハ、官倉ニ收蓄セル芽茶ヲ、ソノ地ノ時價ニ依リテ、官吏ノ俸給



ニ支給セリ、正統六年(西紀一四四一)ニハ、甘肅倉ニ於テ收蓄セル茶ノ中、宣德及ビ正統元年以前ノモノハ、毎月之ヲ陝西行都司及ビ甘州左等衛所官員ノ俸給トシテ支給セリ。マタ正統八年(西紀一四四三)ニハ陝西及ビ甘肅ノ官倉ニ收蓄セル茶ヲ軍隊及ビ官吏ノ俸給トシテ支給セリ。景泰二年(西紀一四五二)及ビ同五年(西紀一四五三)ニハ、四川省ニ於テ積茶ヲ官吏軍隊ノ俸糧トシテ支給セリ。

是ノ如ク積茶ヲ官府ノ經費ニ利用セルハ、財政ノ窘迫ニモ因ルベシト雖、復タ積茶ノ腐蝕ヲ防止スルト共ニ、官軍ノ俸給トシテ遠地ヨリ特ニ米、帛、絹等ヲ運搬スルノ煩勞ヲ避ケンガタメナリシナリ。

### 第三節 交易論

明代ニ於テモ茶馬ノ交易ハ、國家ノ獨占ニシテ、之ガタメニ邊境ニ茶馬司ナル官衙ヲ設置セリ。當初ニハ、陝西省ニ六箇所ノ茶馬司ヲ置キタリ。

鞏昌府……駱駝巷、稍子堡、高橋、火鑽峪

臨洮府……伏恙、寧遠

繼デ次ノ如キ茶馬司ヲ設置セリ。

洮州……洪武七年(西紀一三七四)

甘州……同 三〇年(同 一三八七)

西寧 永樂九年(同 一四二二)

河州 嘉靖一四年(同 一五三五)

碶門 同 四二年(同 一五六三)

其他莊州、浪州、漢中ニモ茶馬司アリタルガ如ク、是等ノ茶馬司ニ於ケル茶馬交易ニハ、一定ノ時期即チ六、七兩月ヲ以テ開中期即チ茶馬交易期トシタルモ、尙ホ臨時ニ之ヲ行ヒタルコトアリ。番馬ハ苟ノモ騎征ニ堪ユルモノハ、ソノ輸入ヲ許可シタルガ如ク、隆慶五年(西紀一五七一)甘州茶馬司ニ通告シタルトコロヲ觀ルニ、『不拘ニ兒驪扇馬ニ堪ニ以騎征ニ者方許ニ中納』ト謂ヘリ。茶馬ノ交易價格ハ、時代、場所、馬質ニ依リテ差異變動アルコト勿論ナリ。今茶馬價格ノ變動ヲ觀ルニ次ノ次シ。

| 年  | 代  | 價 格 |   | 上   | 中  | 下  | 一   | 般   | 場        | 所 |
|----|----|-----|---|-----|----|----|-----|-----|----------|---|
|    |    | 號   | 西 |     |    |    |     |     |          |   |
| 明  | 初  | 年   | 年 | 馬   | 馬  | 馬  | 斤   | 斤   |          |   |
| 洪武 | 一七 |     |   | 一〇〇 | 七〇 | 五〇 | 二〇  | 一〇〇 | 河州茶馬司    |   |
| 同  | 二一 |     | 同 | 四〇  | 三〇 |    |     |     | 烏撒烏家東川芒部 |   |
| 同  | 二二 |     |   | 一二〇 | 七〇 | 五〇 | 一〇〇 |     | 碶門茶馬司    |   |
| 同  | 三二 |     |   | 一二〇 | 七〇 | 五〇 |     |     |          |   |
| 同  | 三一 |     |   | 一二〇 | 七〇 | 五〇 |     |     |          |   |
| 弘治 | 三三 |     |   | 一〇〇 | 八〇 |    |     | 一〇〇 | 蕃城       |   |

依此觀之、洪武一七年ニ茶價ノ上騰セル外、茶價ハ漸落シ、馬價ハ漸騰セルヲ知ル。而シテ馬價ノ中、上馬ノ價格ハ最モ上騰セリ。

各茶馬司ニ於テ年々幾何ノ茶馬貿易行ハレタリヤニ關シテハ、明確ナル數字ヲ得ル能ハザルモ次ノ如キハ記錄ニ明ナルトコロナリ。

| 司名    | 年代                 |                    |                    |                     |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
|       | 洮                  | 西                  | 河                  | 合                   |
| 一三六八年 | 三、〇五〇 <sub>四</sub> | 三、〇五〇 <sub>四</sub> | 七、〇七五 <sub>四</sub> | 一三、八〇五 <sub>四</sub> |
| 一六〇一年 |                    |                    |                    | 一、五〇〇               |
| 一六二一年 |                    |                    |                    | 一三、九〇〇              |

故ニ何レモ中馬トシ、中馬ノ價格ヲ茶七十斤トスレバ、茶ノ輸出額ハ次ノ如シ。

一三六八年 九六六、三五〇斤

一六〇一年 八〇五、〇〇〇

一六二一年 九七三、〇〇〇

而シテ一三六八年番馬ノ輸入代價決濟ノタメ、四川省ニ於テ一百万斤ノ茶ヲ徵收シテ、各茶馬司ニ輸送セルト對照シ、右ノ如キ輸出茶ノ推定額ハ大差ナキモノト謂フヲ得ベシ。



マタ、弘治三年（西紀一四九〇）ニハ、西寧、河州、洮州、ノ三茶馬司ヨリ茶一百万斤ヲ輸出シタルガ、各茶馬司ノ茶輸出額ハ次ノ如シ。

| 地名  | 西寧                   | 河州                   | 洮州      | 合計                     |
|-----|----------------------|----------------------|---------|------------------------|
| 輸出額 | 四〇〇、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 四〇〇、〇〇〇 <sub>斤</sub> | 二〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 <sub>斤</sub> |

而シテ、同年ニハ上馬一匹百斤中馬一匹八十斤ナリシヲ以テ、馬一匹平均九十斤トシテ同年ニ於ケル馬ノ輸入額ヲ推算スレバ、一萬一千一百餘匹ニ達シタルベシ。依此觀之、茶馬ノ輸出入額ハ年々略一定シ、茶ノ輸出一百萬斤内外、馬ノ輸入一萬二、三千匹内外ニシテ、大ナル増減ナカリシヲ認知スルモノナリ。是レ茶ヲ濫リニ輸出スレバ茶價ヲ下落シ馬價ヲ上騰シ、マタ茶ノ輸出ヲ濫リニ減少スレバ馬ノ輸入ヲ減少シ、増減何レニシテモ、明朝ニトリテハ不利ナリシガタメナルベシ。

是ノ如ク茶馬貿易ハ、國家ノ獨占ニ歸シタルモ、茶ノ輸出ハ利益頗ル大ナルモノアリシヲ以テ蕃僧及ビ奸商ノ茶ヲ密輸出スルモノ多ク、之ガ取締ノタメニ種々ノ施設ヲナサルヲ得ザリキ。

## 論說

## 樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ

稻葉 岩吉

本篇ハ、予が大正九年八月申、永井樺太長官ノ囑托ヲ受ケテ、彼地ニ於ケル史料蒐集ニ着手セル際、親シク矚目セル感想ノ一端デアアル。樺太史料ニツイテハ別ニ發表スル機會ガアルカラコ、ニハ省ク。

本文ニ附録セル川上鑛業所ヨリ得タ貴重ノ資料ニツイテハ、深ク當事者ニ感謝ノ意ヲ表明スルモノデアアル。

歐洲大戰ノ經驗ニヨリテ、我國民ハ幾多新タナル教訓ヲ獲タ、就中、國家ノ地位昂上スルニ伴ヒ、我國ノ擁有スル富力、換言スレバ、資源上ニ甚シキ缺陷ガアルコトヲ覺ツタ、固ヨリ領土狹窄ニシテ人口ノ年々過多ヲ告ゲルコトモ重視サル、ニ違ヒナイケレドモ、主ナル問題ハ、資源ノ貧弱ナルコトノタメニ、一旦緩急ノ場合、國家ハ、兵力ヨリモ、先ヅ經濟方面ニ疑懼ヲ生ズルヲ免ガレナイ、コレヲ深憂ハ、今ヤ國民上下ニ痛切ニ諒解セラレタワケデアアル。

然ルニ、幸ニモ我國ニ於テハ、地理上ノ天恵ヲ、ソノ接壤地方ニ發見スルコトガ出來得ルノデ

アル。ソレハ外デハナイ、滿蒙及ビ西比利—極東三州ガ、ソレデアル。幅輻ノ廣大ハイフマデモ  
ナク、地味沃衍、資源豊富、眞ニ天賦ノ國土ト稱シテモヨイ、若シ幸ニシテ、該地方ニ我國力  
ヲ扶殖シ得ルナラバ、國民ノ前途ハ、サマデ悲觀スルニハ當ラヌノミナラズ、カク思考スルコト  
ハ、決シテ架空デハナイノデアル。蓋シ我が民族ハ、滿蒙及ビ黑龍江一帯ヲ經營スルニ於テ、前  
述ノ地理的便宜ガアルガ上ニ、種々ノ利益ガアツタ。第一ハ、黑龍江方面ノ露西亞領ハ、遠ク本  
國政府ト隔絶シテ居ルカラ、露人ノ該地方ニ對スル施設ナリ經營ナリハ、近カク日本人ノ協力ニ  
待タケレバナラナイ。第二ハ、支那ノ邊疆デアル。第三ハ、日清日露兩戰役ニヨリテ、我國ハ卓越  
シタ武力ヲ耀カシ、ソレガタメ住民ノ多クハ、既ニ我國力ニ對シテ相當ノ諒解ヲ有スルコト、遠  
ク南支ヤ南洋地方ノ比デハナイノデアル。我國上下ノ耳目ガ、過去十數年ニ亘リテ、格段ニ、該  
方面ニ向ケラレルノモ、當然ノ推移デアリ、就中三十七八年戰役ノ結果トシテ獲得シタ南滿鐵道  
ハ、既ニ相應ノ使命ヲ果シツ、アルモノトイハネバナラス。滿鐵ハ、商社會社デアル、而カモ政  
府持株ノ多大ナルト、ソノ組織ノ複雑サトヨリ見レバ、彼レヘすちんぐやくらいウガ創設シタ往  
年ノ東印度會社ヲ想像セラレルコト、思フ。少ナクトモ創立當時ノ關係者ニハ、コウシタ意氣込  
ハアツタ筈デアル。タゞ創立十年ノ久シキ、ソノ尤大ナル經營ニ、今ヤ多大ノ行腦ミヲ生ジテ居ル  
ラシイガ、而モ現ニ滿蒙ノ經營ハ、滿鐵ノ馬首ヲ視テ向背ヲ決シツ、アルニ徴シ、コノ組織ト力  
量ノ重要視サル、コトハ、蓋シ當然デアル。

然ルニコ、ニ一種ノ不可解ノ現象ガアルノデアル。吾人ノ考フルトコロデハ、我國民ガ、滿蒙・



西比利ヲ開拓シ、ソレニ勢力ヲ扶植セントスルニハ、南滿洲方面ヨリノ一方デアツテハナラナイ、必ズヤ南北二方面ヨリ着手サルベキデアツタ。換言スレバ、南方ニ於テハ、南滿方面及ビ北部朝鮮ヲ起點トスベキデアルガ、更ラニ北方ニ於テ重要視スベキ地歩ガアル、ソレハ吾人ガ本論ニ於テ聊カ批判セントスルトコロノ樺太方面デアラネバナラヌガ、我ガ國家ハ、從來（大戰前）殆ンドコレラ方面ノ施設ニ關シテ無關心デアツタ。或モノハ、ソレハ時勢ノ到來ガナカツタカラ已ムヲ得ナイトイフケレドモ、吾人ハ必ズシモ首肯スルコトハ出來ナイノデアル。多クノ場合、政府ハ、樺太ヲバ、北海道ノ一屬地位ニシカ考ヘテハ居ナカツタ、恰カモ徳川時代ニ於テ、琉球ガ薩摩ノ配下ニ置カレタ昔ノ如ク、左程ニ重視セナカツタ。カクノ如キハ、餘リニ固陋短見デアル。吾人ノ毎々考フルトコロデハ、帝國ニシテ滿蒙西比利亞方面ニ勢力ヲ扶植セントスル場合ニハ、必ズヤ南北二方面ヨリ下手スルトコロナケレバナラナイ。ソレノ理由ハ、極メテ簡單デアル。西比利ノ極東三州ハ、滿洲ノ一部デアルカラデアリ、樺太又タ之ニ毗連シテ、密接ナル地理的關係ノ下ニ立チツ、アル。樺太ト滿洲トハ、切裁スベキモノデハナイ。カ、ル大自然ノ作用ノ前ニハ、區々國家的色彩ノ異同ハ、何等權威ヲ値スベキモノデハナイ。大戰以來、政府ハ必要上、樺太ノ開發ヲ志念シタラシイガ、目下ノ行政組織ハ、尙ホ樺太ノ使命ヲ遂行スルニ十分ナリトハ決シテ思惟セラレナイ、吾人ハ、我ガ國民ガ、尙ホ樺太ニ關スル理會ガ完全デアルトハ思ハレナイノデアル。

軍事上ヨリ見テモ、昨今ハにこらいふすく事件ニ激發サレ、北樺太方面ノ駐屯隊スラ編制サレタ

ケレドモ、實ハ手遅レノ甚シキモノデ、當局ガ、平素イカニ樺太方面ニ對シテ、等閑デアツタカバワカル。海軍方面ニツイテ指摘スルナラバ、間宮海峽ノ測量スラ當時十分デナカツタトイフデハナイカ。陸軍デモ同斷デアルト思フ。帝國軍隊ハ平素溫帶區域ニ孕育セラル、コトノタメニ、大陸コトニ北方極寒地方ノ智識ガ甚シク缺ケテ居ル、苟クモ平素ヨリ樺太方面ノ軍事的價值ニ理解ヲ有スルナラバ、今少シク大陸的智識ヲ練磨シテ置クベキデハナカツタ乎。トモカクモ、所謂尼港事件ノ發生ノタメニ、國民ノ視聽ガ、著ク激發サレ、始メテソコニ樺太方面ノ注視サル、ニ至ツタコトハ、悲哀ノ中ニモ、亦タ幾分慰ムベキ事實デアル。帝國官民ハ、コノ機會ヲ逸スルコトナシニ、樺太ノ有スル使命ヲ遂行センコトニ努力セナクテハナラヌ。

我ガ樺太ノ滿洲ト、モニ、大陸ニ於ケル地位ハ、前述ノ如シトシテ、之ヲ經營シ開發スル上ニ於テモ、幾多南滿洲ノ經驗ヲ參考セナクテハナラナイ。

樺太ガ南滿洲ト相異ル點ハ、前者ハ帝國ノ領土デアリ、後者ハ租借地デアルケレドモ、尙ホ主ナル問題ハ、後者ガ、ソノ周圍ニ於テ、豐富ナル勞力ヲ擁有スルコトノソレデアルトイハネバナラス。コノ問題ハ直ニ樺太ノ前途ニ吃緊ノ關係ヲ有スルモノデアル。コレモ歐洲大戰ノ結果シタモノデアルガ、勞資關係ハ、諸種ノ點ニ於テ複雑ニナツテ來タ。樺太拓殖ニ對シ、今日最モ進歩シタ意見ハ、樺太ノ土地ガ擁有スルコロノ資源（封鎖炭田ノゴトキ）ヲ開放シテ、之ヲ資本家ノ經營ニ任ズルコトデ、同時、港灣鐵道、乃至無電等、諸般ノ文明的設備ハ、之ト相待チテ整備セラレナケレバナラナイトイフ。若シコノ意見ガ、豫期ノ如ク實現サレルナラバ、遲蒔ナガラ、

樺太開拓ノ大本ハ、確立サレルワケデアルガ、但ダ吾人ノ憂フルトコロハ、資本家ノ投資ハ目下ノ行詰ツタ財界ガ、再ビ平靜ニ恢復スルナラバ、サシタ艱難デハナイコト、諒解サル、ノデアルケレドモ、肝腎ナル問題ハ、コレダケデハ解決ガ出來ナイ、即チ資本ニ對シテノ勞力提供ハ、如何ニシテ解釋サル、ノデアロウ。コレガ我が樺太ニ於テ最重要ノ問題トイハネバナラス。樺太當局ノ資本家勸誘ハ、從來耳ニセヌデモナカツタ。資本家ノコトデアルカラ、隨分、我儘ナ點モナイデハナイガ、ソレハ、樺太ノ如キ地方ノ開發手段トシテハ已ムヲ得ストシテ、默過サル、デモアロウガ、當面シタ勞力需給ニ就テ、我が官民ニハ如何ノ成案ガアルカ、樺太廳ニハ何様權威アルノ調査ガアルカ。コノ點ハ、吾人ノ切ニ示教ヲ仰ガント欲スルトコロデアル。

翻テ之ヲ滿洲開發ノ經驗ニ見ルニ、吾人ハ相當豫期ニ反シタコトノ多イノヲ知悉スルノデアル。滿洲開發ハ、帝國ガ三十七八年戰役ノ結果、之ヲ露國ヨリ承繼シ、同時、帝國ハ過剩人口ヲ該地ニ移植セントスル希望ノ下ニ、經營ノ歩武ヲ進メタコトハ、當時ノ外相小村侯ノ、議會デ説明シタ各節ニヨリテモ、首肯セラレルノデアル。詳說スレバ、當時帝國ノ對米外交ハ好マシクナイ、南洋方面又タ意ノ如キヲ得ナカツタ。外相ハコ、ニ於テカ、已ムナク抵抗力ノ最モ脆弱ナル滿蒙方面ヲ窺ヒ、ソノ地ヲ以テ帝國ノ急ニ應ゼンコトヲ希ツタ。滿鐵經營ガ一種東印度商社ニ酷肖シ、牙籌ノ傍ラ政教ヲ管掌シタコトノ消息ハ、コ、ニナクテハナラナイ。外相ノ企圖ハ、言フマデモナク、當時臺灣ヨリ始テ滿鐵總裁ノ任ニ就イタ後嶮男ノ意氣込ミノ、イカニ大ナリシヤハ、今ニ人口ニ喩炙スルトコロデアルガ、十年後ノ今日ニナリテ、滿鐵ノ推移ヲ顧ミルニ、該會社ガ相當



ノ使命ヲ遂行シ、滿蒙開發ニ著大ノ効果ヲ舉ケタコトハ勿論デアリ、吾人ハ決シテ稱揚ノ辭ヲ客  
ムモノデハナイ、然シソレハ外相小村氏ノ幾ント豫期シ得ザル方面ニ於テ發展シタノデアツタ。  
換言スレバ、滿鐵ハ、我ガ殖民鐵道デアリ、多クノ日本人ヲ該地ニ吸收スベキ使命ヲ帶ビテ居タ筈  
ノモノナルニ、事實ハ幾ンド之ニ反シテ居ル。即チ我三十七八年戰役ニ於テハ、戰病死者約八萬ヲ  
計上シタガ、數年前マデ、滿洲移住者ノ數ハ、コノ八萬ヲ界限トナスニ過ギズ、爾來大戰ノ影響  
ヲ受ケテ、二三萬ノ増加ハアツタモノ、戰後ハ再ビ減少セントシツ、アルコトハ、統計ノ語ル  
トコロデアル。十年間ニ八萬ヤ十萬ノ殖民ヲ行ヒ、而モンノ大部分ガ、官吏ヤ鐵道従業員、併ニ  
ソノ家族デアルトイツタ始末ニシテ、何ノ成功ヲカ稱揚スベキ。カクノ如キヤ、明瞭ニ小村外相ノ  
企圖ト聲明トヲ裏切ツタモノデ、滿鐵ノ使命即チ我ガ殖民鐵道トシテノ當初ノ目的ニ一致セナカ  
ツタコトヲ證明シテ餘リアルモノト思フ。サレバトイツテ、滿鐵ノ事業ガ、不成績デアルトイフ  
ノデハナイ、ソレハ別問題デアル、滿鐵附屬地ガ、既ニ非常ノ發展ト股賑ヲ續ケテ居ルコトハ勿  
論、大連ハ、現ニ上海ニ次グホドノ一大貿易港トナツタ。

コノ間ノ消息ヲ、卒直ニ説明スレバ、下ノ事實ヲ指摘シ得ベキコト、思フ。我ガ滿洲經營ハ、邦  
人ノ文明的施設ヲ核子トシタモノデアルケレドモ、コノ核子ヲ培養シ、之ヲ育成シタモノハ日本  
人デハナイ、ソレハ支那人デアツタ、支那人ハ最も多クノ鐵道利川者デアリ、支那本部ヨリノ傳  
統的移住者ヲ便宜ナラシメタルハ勿論、滿蒙開拓ハ、コノ鐵道ニヨリテ、著大ノ成果ヲ收メタ、  
滿鐵ハ支那人アツテノ鐵道デアリ、支那人ナケレバ鐵道ハ、運轉ヲ休止セナケレバナラナイコト

ニナル。外相小村氏ハ、滿鐵ヲ經營シテ我ガ殖民鐵道トナサントシタガ、事實ハ之ニ反對ニ支那人ニトリテノ殖民鐵道トナリ、之ニ關連シテ、幾多利潤ヲ、我レニ收ムルコト、ナツタ。我ガ滿洲經營ニツイテハ、第一ニコノ點ノ諒解ガナクテハナラヌ。

更ニ明瞭ニ説明サル、モノハ、撫順炭鑛以下、諸鑛山採掘ニ關シテノ勞力ノ提供デアラネバナラス。滿洲ノ實際ヲ知ラス人々ニ在リテハ、邦人ハ既ニ幾億カノ巨資ヲ滿蒙ノ野ニ提供シテ居ル、優秀ナル多クノ技師ヲ雇入レテ居ル、滿洲ノ開發ハ、主ニ此等ノ資本ト智識トニヨリテ行ハル、モノト解釋シテ、毫モソノ他ヲ顧慮セナイケレドモ、ソレハ、大早計デアル。撫順以下ノ諸鑛山ヲ見ヨ、現ニソノ大部分ノ勞力ハ、支那人ニ待チ、支那人ナケレバタゞノ一塊ノ石炭デモ、市場ニハ持來サル、モノデハナイ。支那人ノ勞力ヲ利用セズシテ、何ノ資源開發ヲカ實現シ得ベキ、我ガ滿鐵ハ、決シテ資本家デアルトイフコトヲ以テ、満足シ得ベカラザルハ勿論、當事者ニ在リテハ、亦タ右ノ勞力問題ニ對シテ、相當努力ヲ拂ツテ居ルコト、記憶スル。

コノ事實ヲトリテ、樺太ノ將來ヲ推論スルコトハ、必シモ不當デハナカロウト思フ。吾人ノ想像スルトコロライパシムレバ、樺太ノ經營ハ、資源開放ヲ以テ急務トハスルモノ、同時勞力ノ供給ニツキテ、甚深ノ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌ、而モ之ヲ解決スルノ關鍵ハ、日本人ニノミヲ期待スルコトハ不可能デアル。カリニ、内地ノ不景氣ガ續行シテ、勞資關係ニ幾分餘裕ガ生ジタ場合ニハ、何程カ樺太方面ニモ有利ノ形勢ヲ呈スルトシテモ、ソレハ輕微デアル、北海道ノ勞力吸收作用ガ、若シ此等ノ上ニ働キ出スベキカヲ顧慮スレバ、本島ノ勞力問題ハ決シテ樂觀ヲ許サナ

イコトニナルデアロウカラ、結局ハ南滿洲ノ經營ニ鑑ミテ、勞力供給ヲ接壤地方面ノ支那人ヤ、鮮人ニ待タナケレハナラズ、又タ斯クスルコトガ、最モ賢明ナ政策デアルト斷定シ得ル。

人或ハイハン、樺太ノ開發ニ對スル勞力問題ハサルコトナガラ、カ、ル極北ノ地方ニ支那人ヤ鮮人ヲ招徠スルコトハ、決シテ可能性ヲ有スルモノデナイ、タトヘ南滿洲ニ於テハ之ヲ行ヒ得ルトシテモ、之ヲ樺太ニ適用センコトハ思ハザルノ甚ダシキモノデアルト。吾人ハ、コノ種ノ質問ニ對シテハ、下ノ如ク答ヘタイノデアル。質疑者ハ、支那ト樺太トノ歴史ヲ諒解シテノコトナル乎、質疑者ハ、又タ北滿極東三州ニ於ケル支那人ヤ鮮人ノ生活ヲ知ツテ居ル乎、吾人ハ思フ、苟モコノ間ニ相當理解ガアルナラバ、這般疑問ハ、容易ニ氷釋シ得ベキモノデアルト。

吾人ハ前節ニ於テ南北樺太ト極東三州トハ、一氣貫通シタル大自然デアリ、コノ大自然ノ前ニハ、區々タル國家的的色彩ハ、何等權威ヲ及ボスモノデナイコトヲイツタガ、コノ見解ヲ最モヨク證明スルモノハ、近代支那人ガ、コノ一大自然ノ利用ニ於テ、顯著ナル成績ヲ舉ゲテ居ルコトデアラネバナラス。支那本部ト滿洲、滿洲ト黑龍江、及ビ樺太トノ歷史的沿革ハ之ヲ他日ニ述ブルノ機會ガアルトシテモ、現ニ千六百年代ノ遺物ハ、浦港ニ存置セラレ(註一)、我ガ西海岸ナルなよろニハ北京政府ノ附與シタ當事ノ文書ノ儼存ヲ見ルニ考ヘテ(註二)、支那民族ノ勢力ノ、根底的ナルニハ自ラ驚嘆ヲ發スベキ事實アルコトヲ知ラナケレバナライ。支那人ノ極北移住ハ近代ニ始マツタノデハナイノデアル。ソノ移住ニツイテハ、又タ諸種ノ複雑シタ事實ガアルケレドモ、要スルニ、支那本部ニ於ケル生活難ハ、彼等ヲ驅ツテ邊地ニ脚尖ヲ運ハシメ、始メヨリ官憲ノ保



護ヤ獎勵ノ下ニ依頼シタモノデハナカツタ。支那人ヲ樺太ニ招徠スルコトハ、ソノ方法ト手段トニ最善ヲ悉クスナラバ、決シテ難事デハナイ。

大戰後強國ノ武力的設備ハ益々擴張セラルモノ、他面民族互助ノ精神ハ、經濟的文化的要求ノ下ニ、漸次發達ノ傾向ヲ示シテ居ルコトハ疑ハレナイ、我樺太ガ、コノ新氣運ヲ逸スルコトナシニ、接壤地ノ民族間ニ、相當諒解ヲ有スルコトハ、前ノ勞力供給問題ト相待チテ、永遠ニ又タ切實ナル措置トイハネバナラヌ。

就中急務ナリト思惟セラル、ノハ、我樺太ガ極東三州ヤ北滿ニ於ケル鮮人問題ニ對シテ如何ニ策應スベキカデアロウ。朝鮮問題ガ、巴里會議ニ於ケルウゑるそん氏ノ民族自決提倡ニ刺激セラレ、爾來獨立運動ハ、慢性的傾向ヲ示スニ至ツタコトハ、已ムヲ得ナイトシテモ、而モソノ今日ニ立チ到ツタ原因ハ、遠ク我民族ト鮮人ノ生存競争ニ基因スベク、優力ナル民族ハ、比較的低級ノ民族ヲ、ソノ本地ヨリ驅逐スルコトハ、寧ロ自然ノ成行デアル。朝鮮總督府ノ昨今ハ、相當文化政治ニ基調ヲ置カント欲シ、鮮人ノ生活ニ改善ヲ求メテ居ルカニ見ヘルケレドモ、舊生活ニ捉ハレタ鮮人ニ、急速ノ影響アリヤハ容易ニ期待シガタク、大勢ハ、年々彼等ヲバ、悲觀的生活ノ一方ニ赴カシメ、遂ニ之ヲ北滿ヤ西比利亞方面ニ驅リ出サントスルコトハ、決シテ否認サレ得ベキデハナイノデアル。何レニセヨ、鮮人ハ一千七百萬人ノ多數ニ達シ、ソノ國外ニ逸出セル數十萬人ハ、祖國恢復ノ運動ガ前記ノ生活難ニ結びツイテ、所謂不逞鮮人團ヲ組織スルノ不幸ヲ免レナイ。朝鮮合併ハ、或ル意味ニ於テ、英ノ愛蘭問題ニ比シテ更ニ惡化スル傾向ガアル。

コノ内亂ヲ彈壓スル方法トシテ、軍隊ヤ警察力ハ、相應効果ガアル。然シソレハ朝鮮領土内ニ於ケル事件ニ限り、國外一步ヲ出ルコトハ出來ナイ。此等不逞團ノ根絶期シ難ケレバ、半島ハ、終始影響ヲ受ケザルヲ得ナイノデアル。朝鮮官憲ハコノ點ニ相當ノ理解ヲ有シテ居リ、ソノ最善手段トシテ、支那官憲及ビ露國委員ニ交渉シ、ソレゾレノ好意ノ下ニ、不逞ノ取締ヲ企圖シテ居ルノデアル。タゞ露國ノ現状カレガゴトク、ソノ官憲ノ好意トイツテモ頼ムニハ足ラナイトシテ、奉天督軍ノ威力ハ、決シテ不逞取締ニ缺クモノデナイケレドモ、日支國交ノ昨今ニ鑑ムレバ、張氏ガ眞面目ニコノ交渉ニ應ジテクレルヤ否ヤハ、疑問デアル、反對ニ不逞ナラザル鮮人ヲ壓迫スルノ傾向ガナイデモナイ。吾人ハコレヲ諸點ニ鑑ミテ、接壤地官憲力ノ、必シモ絶對ニ依頼スベカラザルヲ承認シテ置クノ要ガアルト思フ。

我ガ樺太ノ經營ハ、這般ノ問題ニ接觸スルコトアラザル乎、吾人ハ、コノ點ニ就テ、宜シク慎重考慮ヲ拂フベキコト、思惟セザルヲ得ナイ。樺太ノ勞力缺陷ハ、既ニ事實デアリ、之ヲ補救スル唯一ノ手段ノ、鮮人ヤ支那人ヲ招徠スルニ在ルコトハ、前述ノ次第デアルカラ、我ガ樺太ガ愈々資本家ニヨリテ開發サル、ノ機會ガ到着シタナラバ、相當設備ノ下、ニ先ヅ鮮人ヲ招徠シテ、之ニ職業ヲ附與スベク、ソレヲ良民ニ依頼シテ、不逞鮮人ノ思想ヲ緩和スルノ手段ニ出デナケレバナラナイ、樺太ガ、鮮人問題ニ交渉ナイトイフガ如キハ固陋ノ見デアル。コノ點ヨリ見レバ、川上炭鑛ノ鮮人使役ノ成績ハ、興味アルコト、イハネバナラヌ（註三）樺太官民ガ、此等ノ問題ニ注意セラル、ナラバ、帝國當面ノ時局ニ對シテ、寄與スルノ大ナルモノトイハネバナラヌ。樺

太廳ハ宜シク、黒龍江ヤ沿海州方面ノ鮮人部落、及ビ多數支那人部落ヲ精査シテ、ソレノ實狀ト沿革トヲ知會シ、機宜ノ手段ヲ採ラナケレバナラナイ、併セテ、南滿洲鐵道ノ經驗ヲ十分ニ理解スルノ道ヲ講セナケレバナラナイ。

蓋シ互助的精神ヲ發揮シテ、我文化ヲ光被スルコトハ、接壤地方ノ民族生活ヲ研究スルコトニヨリテ、目的ガ遂行セラレルノデアアル。(大正一〇ノ六完)

(註一) ぬるかん永寧寺明碑

(註二) 楊忠貞文書

(註三) 川上炭鑛ニ於ケル鮮人生活 三件

甲、朝鮮募集入退對照表

| 募集年次  | 採用月日    | 採用人員 | 退出人員 | 現在人員 | 摘要 |
|-------|---------|------|------|------|----|
| 第一回募集 | 六 九 一一  | 一〇二  | 九五   | 七    |    |
| 第二回   | 七 五 一三  | 四一   | 三五   | 六    |    |
| 第三回   | 七 六 一二  | 六〇   | 五三   | 七    |    |
| 第四回   | 七 九 二   | 六五   | 五七   | 八    |    |
| 第五回   | 七 一一 二二 | 三九   | 三五   | 四    |    |
| 第六回   | 八 七 五   | 六〇   | 四七   | 一三   |    |
| 第七回   | 八 八 一〇  | 五七   | 四七   | 一〇   |    |
| 第八回   | 九 六 七   | 一一五  | 三二   | 八三   |    |
| 計     |         | 五三九  | 四〇一  | 一三八  |    |



乙、島内募集及志願者入退對照表 (朝鮮人)

| 種 別                  | 採 用 人 員          | 退 出 人 員         | 現 在 人 員       | 摘 要               |
|----------------------|------------------|-----------------|---------------|-------------------|
| 島内募集紹介募集<br>志願者<br>計 | 七一<br>一一八<br>一八九 | 六七<br>九四<br>一六四 | 四<br>二一<br>二五 | 内朝鮮人女一名<br>支那人男一名 |

丙、樺太ニ於ケル鮮人勞役者渡航後ノ狀況

(七年十二月調)

一、募集許可以降渡航人員

二六三名(男子ノミ) 内二名渡航途中逃亡

二、同上歸國人員

歸國セルモノ又ハ歸國セシメタル者ナシ

三、逃走又ハ他ヘ轉職人員

逃亡八〇名 解雇三名 他ニ轉職者ナシ

四、傷痍及死亡者

職務ニ起因セル傷痍 一名

職務ニ起因セザル 五名

病死者 五名

五、現在人員、一七三名

六、貯金總額及一人當最高及最低金額

貯金 總額 五二五圓

一人當 最高 一五〇圓

一人當 最低 一〇圓

七、郷里送金總額及一人當最高及最低金額

送金 總額 三一五圓

一人當 最高 六〇圓

一人當 最低 一〇圓

八、就業狀況

(イ) 勞働能率殊ニ内地人トノ比較

一般ノ鮮人着山二三ヶ月ハ一ヶ月ノ稼働日數平均二十六七ニシテ一日ノ勞働能力日人ニ比シ三分ノ一ヨリ七分位ヲ普通トシ漸次業務ニ熟練スルニ從ヒ日人ニ遜色ナキニ至ル從テ一ヶ月ノ稼賃金七八十圓ノ多キニ至ルモノアリ

(ロ) 業務熟否ノ狀況

鮮人ト雖モ業務ニ熱心勉勵スル者ハ其熟達敢テ日人ニ讓ラズト雖概シテ放怠遊逸ノ徒多ク其ノ熟達遲々トシテ振ハズ

(ハ) 業務上特ニ著シキ長所又ハ短所

長所トシテ特筆スベキ事項ナシト雖強テ列記スレバ鮮人ハ日人ニ比シ能ク寒暑ニ堪ヘ不潔ヲ意トセズ勞働ニ從事スルヲ長所ト言ハンカ、短所ハ勞働ヲ嫌忌スルノ風アルト業務ニ放慢ニシテ取締リナク從テ熱心事ニ當ルコトヲ希望スルハ絶體不可能ナリ然リト雖稀ニハ日本人ヲ凌駕スルノ坑夫モナキニアラズ

九、内地人ト同化ノ狀況

(イ) 同化促進ノ程度

第一回募集ノ鮮人ハ今ヤ全ク日人ト同化シタルモノ、如ク風俗ハ勿論言語モ片語交リニ邦語ヲ繰リ總テ日人ノ風ヲ馴致セントナシ居ル如キ狀況ニテ坑夫社會ニ於ケル日人トノ交際ヲモナシ益々接近ノ徵ヲ呈セリ

(ロ) 同化ヲ實證スベキ事例

冠婚ハ知ラズ葬祭ノ如キハ從來朝鮮流ノ行々敷行列ヲ以テ行ハレ多大ノ費用ヲ投ジ貴重ノ日子ヲ費シタルモノモ今日ニテハ日人同様ノ葬儀ヲ執行スルニ至レリ其他風俗ノ如キモ前陳ノ如ク日人ト何等異ル處ナキニ至レリ

(ハ) 同化ニ支障ヲ生ズル事情

因襲ノ久シキ容易ニ國土ノ風俗人情ヲ改ムルニ至ラザルヨリ兎角意志ノ疏通圓滿ナラズ幾分ノ猜忌心ヨリ否自尊的心理狀態ヨリ同化ノ遅々タルモノアルヲ見ル



(ニ) 言語風俗等相違ノ爲メ内地人トノ間ニ疎隔ヲ生ジタル事例

飲酒ノ上二三回言語ノ不通ヨリ意思ノ疎隔ヲ來シタル事ナキニアラザルモ記スベキ程ノ事柄ニアラズ

一〇、渡航後ノ結婚者數、當該事項ナシ

一一、食事衛生娛樂等待遇上特ニ施設シタル事項

鮮人各自ノ希望ヲ陳述セシメ共同飯場ヲ設ケ本人等ノ嗜好ニ任セ食事ヲ執ラシメ居レリ、衛生ハ各室ニ監督者(鮮人)ヲ配置シ一般ノ衛生事項ヲ掌ラシメ其他各般ノ指導監督ヲ爲サシメタリ加之日人監督者ハ毎日巡回視察シ衛生其他各般ノ事項ニ付キ懇篤指導セリ、娛樂ノ設ノ如キモ未ダ其ノ緒ニ就カザルモ時ニ芝居寄席等ヲ開催シ觀覽セシメ居レリ尙追々是等ノ設備モ考慮中ナリ

一二、勞働者ノ出身地別ニヨル適否

平安南北兩道ノ出身ハ粗曝ノ嫌アルモ業務ニハ熱心ニシテ精勤ノ風アリ京城附近ノモハ狡猾ノ性質ヲ帶ビ業務ニ勵精セズ

一三、監督及使役ニ關シ特ニ困難ヲ認メタル事項及之ニ關シ採リタル格別ノ施設

一般ノ鮮人勞働中監督ノ及バザル時ヲ好機トシテ安逸ヲ貪ルト言フ狀態ニシテ殆ンド困難ヲ感ジタルヨリ老練ナル坑夫ヲシテ之レガ監督ヲ爲サシメ傍ラ指導ニ任シタルヨリ漸次勞働能率ヲ増進シ同時ニ賃金ヲ増加セルヨリ益々善良ノ結果ヲ齎ラスニ至レリ然レドモ彼等

ハ勞働セザルニモ不拘多額ノ賃錢ヲ得ントシテ種々不穩ノ言動ヲ敢テシ脅喝的ニ出ヅル事アリシモ近來ニ至リテ絶滅ニ歸スルニ至レリ

一四、朝鮮ヨリ募集渡航シタル鮮人勞働者ト内地ニ於テ傭入レタル鮮人勞働者トノ成績ノ比較北海道ヨリ募集シタル鮮人坑夫ハ各自炭鑛其他ノ鑛山ニテ勞働ノ經驗アルモノナルヲ以テ稼働能率ハ固ヨリ比較ニナラズト雖是等鮮人ハ亦内地ノ惠惡風ニ感染セルノ傾アリテ巧ニ人ヲ欺罔シ(鮮人仲間)酒食ヲ貪リ食フ弊アリ

一五、一般ノ上ヨリ觀察シタル鮮人勞働者需要ノ得失

先ヅ氣永ニ同化セシメ使役シタランニハ或ハ好結果ヲ得ルヤモ難計モ概シテ遊怠放逸、日人一人ニ對シ二人以上ノ能力ニアラザレバ匹敵セザル狀態ニアルヲ以テ今日ノ如ク勞働者ノ欠缺ヲ訴フル時季ニアラザルヨリハ固ヨリ望ナシ

一六、現在ノ取締方法ニ關シテ募集者ニ於テ著シク不便若ハ困難ヲ感ズル點  
差向不便又ハ困難ヲ感ズル點ナシ

一七、參考事項

募集後多數ノ逃走者アリタルヨリ當山ニ於テハ夫々官廳ニ對シ之レガ取押及保護方ヲ出願シ官廳ノ盡力ヲ以テ搜索ヲ行ヒ歸山セシメタル者數名アリ又他ニ逃走ノ結果具ニ苦楚ヲ嘗メ後悔ノ餘リ歸山セルモノ數名アリ今ヤ逐次善良ノ風俗ニ化サレ成績ノ見ルベキモノアルニ至ル

# 大正九年四月分鑛夫一工當調

| 摘 要      |      | 一 工 當 所 得 |      |      | 備 考 |
|----------|------|-----------|------|------|-----|
|          |      | 最 高       | 最 低  | 平 均  |     |
| 13 柿     | 夫(日) | 6874      | 407  | 3570 |     |
| 12 //    | (女)  | 4595      | 405  | 3141 |     |
| //       | (鮮)  | 3591      | 1435 | 2722 |     |
| 11 //    | 夫(日) | 3529      | 1444 | 2764 |     |
| 10 運 輸 職 | 工(日) | 2131      | 2077 | 2365 |     |
| 9 //     | (女)  | 2710      | 2360 | 2803 |     |
| 8 //     | (鮮)  | 4721      | 669  | 1782 |     |
| 7 內 外 雜  | 夫(日) | 2095      | 513  | 1518 |     |
| 6 諸 職    | 工(日) | 1500      | 1137 | 1355 |     |
| 5 //     | (鮮)  | 2466      | 242  | 1154 |     |
| 4 馬      | 丁(日) | 2035      | 1363 | 1881 |     |
| 3 //     | (鮮)  | 1972      | 1215 | 1588 |     |
| 2 運 搬    | 夫(日) | 1680      | — 6  | 1371 |     |
| //       | (鮮)  | 1217      | 1092 | 1178 |     |
| 1 採 炭    | 夫(日) | 7562      | 1731 | 3936 |     |
|          |      | 7562      | 342  | 2572 |     |

論 說

樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ

## 鮮人出役歩合及所得調

大正九年六月

| 職 別   | 月末現在人員 | 稼働人員 | 一ヶ月間出役歩合 | 一人一日平均所得 | 一 工 當 リ 所 得 |      |      | 備 考 |
|-------|--------|------|----------|----------|-------------|------|------|-----|
|       |        |      |          |          | 最 高         | 最 低  | 平 均  |     |
| 採 炭 夫 | 113    | 2082 | 86       | 2083     | 5186        | 882  | 2095 |     |
| 運 搬 夫 | 22     | 379  | 64       | 3008     | 3965        | 1505 | 2889 |     |
| 馬 丁   | 2      | 43   | 80       | 3343     | 4414        | 2785 | 3304 |     |
| 坑 內 雜 | 50     | 920  | 68       | 1730     | 2309        | 1140 | 1512 |     |
| 坑 外 役 | 10     | 151  | 50       | 1463     | 1400        | 1200 | 1312 |     |
|       |        |      |          |          |             |      |      |     |
|       |        |      |          |          |             |      |      |     |
|       |        |      |          |          |             |      |      |     |
|       |        |      |          |          |             |      |      |     |
| 計     |        | 3575 | 67       | 2080     |             |      | 993  |     |

(四七六)

一四八



# 調査

## 支那ノ蠶業及機織業

中田 豊衛

### 目次

第一篇 支那ノ養蠶業

第一章 緒論

第一節 養蠶業ノ起源及沿革

第二節 養蠶業ノ現状

第二章 生産狀況

第一節 桑樹ノ栽培

第二節 經營及設備

## 第一篇 支那ノ養蠶業

### 第一章 緒論

第一節 支那養蠶業ノ起源及ビ沿革

起源 支那ニ於ケル養蠶ノ起源ハ、漠トシテソノ真相ヲ知ル能ハズト雖、學者ノ研究ニ據レバ遠

調査 支那ノ蠶業及機織業

(四七七)

一四九

ク秦滿王ノ孤舶ニヨリ東日本ニ渡來シ、或ハ雲水ノ竹杖ニ秘メラレテ遠ク羅馬ニ移サレ、或ハ美姫ノ筐底ニ藏セラレテ西亞細亞ニマデ及ブニ至レリ。此時將ニ西曆五百五十年ナリ。泰西ノ好古學者バリセ氏ハ彼レ獨特ノ研究ヨリシテ、養蠶ノ搖籃地ヲ支那東南部北緯二十五度乃至三十度東經百二十五度ノ地帶、即チ長江流域ナリトセリ。斯ノ如キ古キ歴史ヲ有スル支那養蠶業ノ現狀ヲ見ル時ハ、支那斯業ノ發達ガ如何ニ遲々タリシカヲ窺フニ足ラン。

**沿革** 支那ノ養蠶業ハ既ニ五千年ノ昔ヨリ存在セシモノ、如ク、伏羲氏琴瑟ヲ作り始メテ絹糸ヲ使用セリト云フガ如ク、今ヲ去ル四千六百十七年前黃帝元妃氏ヲシテ育蠶術ヲ學バシメ、以テソノ子孫ニ利用スベキコトヲ命ゼリト云フガ如キ、禮記等ノ古書ニ見ユ。養蠶ノ業ハ各國悉ク皇室ヲ中心トシテ發達シ、漸次民間ニ普及セシコトハ、製品タル絹ノ色澤優美ニシテ輕暖ナレバ、當時王者ノ袞龍ノ衣ヲ作ルニ恰好ナリシト、比較的技術ト考案トヲ有シ居タリシトニ依ルベク、支那ニ於ケル斯業ノ發達モ亦コノ例ニ洩レザルナリ。

ソノ後歷代ノ帝王、時ニ或ハ保護獎勵ノ策ヲ取リ、皇后ノ貴身ヲ以テ或ハ自ラ宮中ニ蠶ヲ飼育シ或ハ勤勵ノ途ヲ講ゼラレタリ、即チ尙書大傳ニ『天子諸侯必有公桑蠶室』トアリ、又禮記月令ニハ『是月也。命野虞母伐桑拓。戴勝降子桑。具曲植籩筐。后妃齋戒親東鄉躬桑。禁歸女母觀。省婦使以勸蠶事。既登分繭稱糸。』トアリ、又晉揚泉蠶賦ニハ三官ハ大罕ナル禮ヲ以テ產繭ヲ寢廟ニ捧ゲ、後后妃ヲ始メ夫人世歸ヲシテ繰糸ヲ爲サシムト、又前漢文帝景帝共ニ皇后ヲシテ親蠶セシメタリト。降ツテ晉ノ武帝ハ宮中ニ蠶宮ヲ設ケテ育蠶製糸機織ヲナシ、民間一般ニ蠶業ヲ獎勵

シ、古來ヨリノ遺業ヲ繼承シテソノ發達ニ努メタリ。斯ク蠶業ハ次第ニ發達セルガ、既ニ周末ニ到リテハ、一般民業ト化シ、孟子ハ『五畝之宅樹之以桑。五十者可以衣帛矣。』ト謂ヘリ。

養蠶業ガ斯ク一般農家ノ産業トナルニ至ルヤ、諸侯ハ調物トシテ絹ヲ徵セリ。魏ノ時代「每人給二十畝面桑使植五十」ト、隋ノ文帝開皇年間、「年初定課調。絹布綿麻之制。按隋書文帝本紀不載。按食貨志高祖受禪頒新令遵後齊之制。課丁男一牀桑土調以絹。絹麻土調以布。絹絹以匹。加綿三兩布以端加麻三斤。單丁及僕隸各半之。」トアルヲ見ル。次デ唐代ニ於ケル祖庸調ノ制度ニモ每丁每歲絹又ハ綾絁共ニ二丈、綿三兩ヲ納メシメタルガ如キコレナリ。

斯クシテ支那ニ於ケル養蠶ノ業ハ既ニ晋代ノ頃ヨリ民間一般ニ行ハレタルニ拘ラズ、ソノ海外ニ移植サレシハ遙カニ後世ノコトニ屬シ、此ノ間數百千年ニ互リ獨リ中國民ノ間ニノミ行ハレシハ、蓋シ各代帝王ノ取リシ政策トシテ顯著ナル蠶種ノ輸出禁止ニ基クモノナルベシ。

支那產生糸及ビ絹布ノ海外市場ニ紹介サレシハ、西曆紀元前後ナリ、自給自足ノ自然經濟而モ農本主義ノ時代ニ於ケル養蠶業ハ、國、個何レノ經濟ヨリ見ルモ、農家ノ副業トシテ最モ適當ナル産業ナリト云ハザルベカラズ、諸葛孔明ノ『桑八百株。薄田十五畝、子孫衣食自有餘饒』ト云ヘルガ如キ、或ハ宋ノ肝江ガ「平原沃上。桑拓甚盛。蠶女勤苦、罔畏飢渴。急菜疾食。如避盜賊。繭箔山立。繰車之聲。連甕相聞」ト云ヘルガ如キ、當時ニアリテモ蠶業ヲ以テ富國策トナシ大ニ獎勵セシガ如シ。降ツテ明清兩朝亦大ニ努ム。元來養蠶ノ業ハソノ起源ヨリシテ家族の工業ナリシモ、ソノ眞價ノ開發ハ支那ノ國民性ニ合致セズ、而カモ國內ハ治亂興亡常ナク、斯業ニ限



ラズ如何ナル産業ト雖、毫モ職業的特化ナク、泰西ニ於ケル産業革命ノ波及モ、コノ天與ノ富源區域ニハ微動ダニ與フベクモアラズ。家庭的ニ發達スベキ養蠶業ハ依然トシテ舊態ヲ脱セズ、幼稚ナル育蠶法ヲ固守シテ大規模ノ蠶室ヲ設クルモノナシ。今日ノ如ク斯事業ノ萎微振ハズ却テ斯業ニ於ケル後進國ニ凌駕セラレツ、アルハ、支那國民性ノ與ツテ力アルトコロナリ。

## 第一節 養蠶業ノ現狀

### 一、產地

元來支那ハ地積ノ尨大ナル上ニ、蠶業ノ起源最モ古ク、而モ養蠶ノ業タルヤ農家ノ副業トシテ最モ適切ナルヲ以テ、殊ニ支那ノ如キ農本國ニ在リテハ、全國到ル處養蠶栽桑ノ業行ハレザルナシト雖、現今最モ盛ニ行ハル、ハ江浙ノ地ニシテ、之ニヨリテ生計ヲ營ムモノ頗ル多數ニ上リ、政府モ亦之ニヨリ一ケ年百萬元ニ近キ繭稅ヲ收メ得ルニ至レリ。

支那ノ養蠶地ヲ大別シテ南部、中部、北部ノ三トナスコトヲ得、而シテコレ等ニ屬スル各省ヲ示セバ、

南部支那——廣東、廣西。

中部支那——江蘇、浙江、安徽、江西、湖南、湖北、四川。

北部支那——河南、山東。

ニシテ、南部支那ハ廣東、廣西兩省ナルモ、前者ヲ以テ主トナス、ソノ範圍ハ中部支那ヨリ遙ニ狹小ナルヲ以テ、產額モ亦到底日ヲ同ジウシテ語ルベカラズト雖、コノ地ハ一ケ年七回ノ收繭アリ、

地域ノ狹小ナルニ拘ラズ多額ノ生産アルヲ見ル。中部支那ハ江、浙兩省ヲ以テ最トシ、安徽、四川之ニ亞ギ、ソノ範圍前者ニ比シ數倍セルヲ以テ產額モ亦全國ニ冠タリ。北部支那ハ前二者ニ對シ殆ンド云フニ足ラズ。

更ニ南方ヨリ順次各省ニ於ケル重要繭產地ニ付キ詳述スベシ。

一、廣東省——順德、南海、新會、三水、香山、番禺、東莞、鶴山。

即チ本省ニ於ケル養蠶地ハ、三角州、西江沿岸、北江沿岸、東江沿岸ノ諸地方ニシテ、殊ニ三角州ハ地味最モ肥ヘ、總面積ノ三分ノ二ハ悉ク栽桑養蠶ノ地タリ。元來コノ地方ハ毎年數回ニ互リ西江ノ氾濫スルアリテ、洪水ノ被害甚シク、從ツテ米ノ供給ニ不足ヲ感ゼザルヲ得ズ。之ニ反シテ養蠶業ニハ斯ノ如キ被害ヲ見ザルト共ニ、年六回ノ收繭アリテ、之ヲ米ノ二毛作ニ比シ利多キノミナラズ、順德縣ノ婦女ニハ獨身者或ハ離縁サレテ實家ニ歸ルモノ多ク、彼等ハ殆ンド悉ク養蠶ニ従事スルガ故ニ、是等諸種ノ事情錯綜シテコノ地ノ蠶業ヲシテ盛ンナラシメタルモノナリ。

二、廣西省——蒼梧、藤、平南、丹竹、大烏、容、楊梅、平樂、南潯。

此ノ地方ハ一般ニ地味瘠セテ飼育ニ適セズ、從ツテ產額モ亦語ルニ足ラズ。

三、浙江省——杭、安吉、餘姚、昌化、富陽、嘉善、武康、上虞、嘉興、長興、蕭山、新城、海寧、海鹽、諸暨、餘杭、崇德、德清、桐廬、於潛、吳興、紹興、分水、素豐、平湖、湖州、硤石、泰化、南潯鎮、桐鄉、三界、嵊、新昌。

浙江省ハ由來蠶業ノ盛ナル地ニシテ、繭ハ實ニ同省ノ重要物產タリ、而シテ省内ニ於テ最モ熾盛ヲ極ムルハ杭州府下及嵊縣ノ一帶ニシテ、蕭山、嘉興之ニ亞グ。

四、江蘇省——江陰、靖江、宜興、溧陽、金壇、楊子、楊中、丹徒、丹陽、寶應、句容、嘉定、太倉、吳縣、江都、江寧、

常熟、吳江、松江、泰賢、上海、金山、秦興、如皋、南通、無錫、武進、海門ノ諸地方。

江蘇省ハ古來隣省浙江ト共ニ、蠶業地トシテ知ラレ、繭ハ全省ヲ通ジテノ主要物産ニシテ、ソノ産額ハ中部支那諸省ニ冠絶ス。

尙ホ前記各縣中無錫、武進ノ兩縣下及ビソノ附近ハ、養蠶最モ盛ニシテ、全省産額ノ約四割ヲ占ム。

五、安徽省——天長縣境內、龍崗鎮、閔家橋。當塗縣境內、小冊陽、貴地縣境內、芽垣鎮、青陽縣境內、城外及木竹潭、廣

德縣境內、城內、即溪縣境內、城內、涇縣境內、城外、宣城縣境內、孫家埠、水東鎮、三里店、朗溪縣下。

安徽省ノ養蠶地域ハ必シモ狭小ナラザレドモ、ソノ程度ハ江、浙兩省ニハ比スベクモアラズ、今ソノ産地ノ分布ヲ大別センニ

(一) 蕪湖ヨリ南方南陵縣、涇縣ヨリ三溪鋪、涇德、績溪ニ至リ、浙江省ニ隣接セル地方、

(二) 大通青陽地方。

(三) 六安州ノ英山即チ北河南ノ境地ニ近キ地方。

ニシテ、(二)及ビ(三)ノ兩地方ハ只ダ坐繰生糸ノ原料ニ供セラルベキ劣等ノ繭ヲ産スルニ過ギズシテ未ダ嘗テ繭商人ノ入込ミシコト殆ンドナク、只蕪湖方面ノミハ世ニ知ラル。

六、湖北省——沔陽、天門、漢川、沙市、河澨、安陸、江口、松滋、宜都、宜昌、襄陽、樊城、老虎口、羅田、麻城、圻水

黃州、當陽、荊州、鄖陽、德安。

湖北省ニアリテハ到ル處多少ノ養蠶ヲ見ザルハナシト雖、未ダ他省ニ移出スベキ餘力ナク、只ダ



省内ノ需要ヲ滿スニ過ギズ。

七、湖南省——洞庭湖ノ北西方揚子江トノ中間

即チ津市、桃源地方。

八、四川省——嘉定、潼州、綿州、成都、保寧、順慶、叙州、雅州、資州、重慶、眉州、寧遠、夔州、綏定、忠州。

四川省ハ古來生糸、絹織物ノ名產地トシテ知ラル、ダケニ、ソノ養蠶區域モ亦相當廣ク、省内ニ産スル繭ハ、ソノ大部分ハ多數住民ノ衣類用生糸ノ原料ニ供セラル。

九、山東省——青州、益都、臨朐、周村、張店、淄川、博山、大崑崙、泰安、萊蕪、新臺、蒙陰。

山東省ハ支那有數ノ柞蠶產地ナリト雖、養蠶亦各地ニ行ハル、ソノ主ナル產地ハ山東鐵路ノ沿線就中青州ヲ中心トセル益都縣、臨朐縣、周村ヲ中心トセル長山縣、張店ヲ中心トセル淄川縣、萊蕪縣其他日照、新泰、安泰、蒙陰、沂水、沂州、滕縣等ニシテ、就中臨朐縣ノ五井野園、益都長山、日照ノ四縣産額最モ多シ。

## 二、産 額

支那ノ養蠶業タルヤ生糸ノ世界的需要ノ増加ニ依リテ、漸次發展ノ趨勢ヲ示シ來リタリト雖、之ヲ日本及ビ伊太利ノ斯業ニ比スレバ遙ニ遜色アルヲ免レズ。支那ハ世界ニ於ケル最古ノ蠶業國タルニモ拘ラズ、時代ノ推移ト人文ノ發達トニ伴フ各種ノ研究改良ヲ等閑ニ附シ、常ニ古代ノ因襲ヲ固守シ産額ニ於テハ世界ニ有力ナル地位ヲ保ツト雖、養蠶法及ビ製糸法ニ至リテハ、後進國ニ及バザルコト數等、海外市場ニ於ケル地位モ亦常ニ日本生糸ニ支配セラル、ノ止ムナキ狀態ニ

アリ、尙ホ世界生糸市場ト支那糸ノ地位ニ關シテハ、後日支那ノ製糸業ナル題下ニ詳述スベキヲ以テ茲ニ之ヲ論述スルコトヲ省ケリ。

元來支那ニ關スル各種調査上、最モ困難ヲ感ズルハ信賴ニ値スル統計ノ皆無ナルコト是レナリ、即チ繭ノ產額ノ如キモ、果シテ幾何ニ達スルヤ、精確ナル數字ヲ得ルニ途ナク、結局他ノ生糸關係若クハ輸出入貿易關係ノ諸統計ヲ綜合シテ、略ボ實際ニ近キ數字ヲ推定スルノ外ナシ、蓋シ昨夏余ノ中部及ビ南部兩支那視察ニ當リ、只管コノ點ニ留意シ、之ガ真相ヲ握ラントセシモ、ソノ克ク能ハザリシハ誠ニ遺憾トスルコトコナリ。

今各般ノ調査ニ依リ、又ハ輸出入統計、集散數量ニ基キ、繭ノ產額ヲ推算セムトス。

一、廣東省 產繭額ハ約七六八、三〇〇擔ト見ルベク、推定ノ基礎左ノ如シ。

a. 本省ハ養蠶地域廣カニズト雖、規模廣大ナルト、一年七回牧繭シ得ルコト、ニヨリ產額比較的多キコト。

b. 養蠶ノ地域狹小ナルト、河川ノ便多キトニ依リ繭ハ多ク市場ニ持出サレ器械生絲ノ原料トナル、コレヲ總產額ノ約七割ト認ムルコト。

c. 最近廣東、江門、三水ヨリ輸出セル器械生絲ノ數量ハ三六、四五四ニシテ器械生絲ハ殆ンド全部輸出サル、ヲ以テ、之レヲ產額ト看做シ、生絲一斤ニ付キ乾繭五斤ヲ要スルモノトシテ、ソノ三倍ヲ以テハ繭量トセバ、五四六、八一〇トナル、コノ内廣西省ヨリ移入スルモノ、九、〇〇〇擔ヲ差引クトキハ、五三七、八一〇トナリ、器械製絲ノ原料トナル數即チコレナリ、コレガ總產額ノ七割ニ該當スルモノトシテ計算セバ七六八、三〇〇トナル。

二、廣西省 本省產繭額ハ約一二、〇〇〇擔ニシテ、推定ノ基礎左ノ如シ

a. 官邊、實業家ノ說ヲ綜合スルニ、省内產繭額ハ約一、二〇〇、〇〇〇斤ニシテ、内約七割ハ仲買ノ手ニ依リテ廣東省大耳、容奇地方ニ移出セラル、モノ、如シ

b. 梧州釐金局ニ於テ取調ベタルコロニ依レバ、同局ヲ通過スル繭數量ハ約三〇〇、〇〇〇斤ナルヲ以テコレヲ總產額ノ七割トシテ生繭量ニ換算スルトキハ一、八五九トナル、右ノ二項ニヨリ一、〇〇〇ト看做ス。

### 三、浙江省ニ於ケル繭ノ產額ハ八七六、七六六擔ト見ルベク、推定ノ基礎左ノ如シ。

a. 器械製糸原料 一七八、三二九擔、最近器械製絲原料トシテ省内繭行ニ於テ買收サレタル乾繭量ハ、五九、四四三ニシテ、之レガ三倍ヲ以テ生繭量ト認ム。

b. 再繰白絲原料 二〇八、七七一、省内產出ノ白色再繰絲ハ殆ドソノ大部分ヲ蘇州、杭州二港ヨリ輸出ス、ソノ額一三、九六一ニ、再繰中ノ減耗量一割五分ヲ加ヘ、生絲一斤ニ付生繭十三斤ヲ要スルモノトシテ算出ス。

c. 輸出白絲原料 三一、〇一八、蘇州及ビ杭州ヨリノ輸出額二、三八六ヲ生絲一斤ニ付生繭十三斤ヲ要スルモノト看做ス。

d. 地方消費白絲原料 三五八、七〇二、省内產出白絲ノ過半ハ内地ニ於テ消費セラル、ガ如キヲ以テ、白絲ノ儲若クハ再繰ノ工程ヲ經テ輸出セラル、モノヲ總產額ノ四割ト看做ス。

### 四、江蘇省 二六六、七四五擔

最近器械製絲原料トシテ省内繭行ニ買收サレタル乾繭量ハ七一、一三二擔ニシテ、コレヲ總產額ノ八割ト看テ算出ス。

### 五、安徽省 三〇、〇〇〇擔

器械製絲原料トシテ購入サレタル乾繭量ハ大約五、〇〇〇ニシテ、コレヲ總產額ノ五割ト看テ計算ス。

### 六、湖北省 本省產繭額ハ大約一〇〇、〇〇〇擔ニシテ、推定ノ基礎左ノ如シ。

a. 漢水上流三、〇〇〇、〇〇〇及ビ下流地方三、〇〇〇、〇〇〇斤、其他三、〇〇〇、〇〇〇斤、合計一〇、〇〇〇、〇〇〇斤ノ產繭アリトナス。

b. 大正四年頃田二河、仙桃鎮、彭家場等ノ地方ニ於テ購買セラル、乾繭ノ量ハ約一、五〇〇外内ニシテ、コレヲ地方產額ノ約一割ト看做サントスルモノアリ。コノ說ニ從ヘバ主要養蠶地ニ於ケル產繭額ハ約四五、〇〇〇トナル。

c. 田二河、仙桃鎮、彭家場等ニ集散スル生絲ノ量ハ約七、〇〇〇擔ニ達スルヲ以テ、生絲一斤ニ付生繭十斤ヲ要スルモ



ノトセバ、生繭量約七〇、〇〇〇トナル。

d. 最近各地二十箇所ノ繭購入場ニ於テ本邦人及ビ支那人ノ購入シタル數量ハ生繭一、二六七、三〇七斤ニシテ、同年ハ土地ノ價格好調ナリシガ爲メ出廻量一般ニ少カリシヲ以テ、コレヲ總產額ノ一割ト看做サバ、產繭額ハ一二六、七三〇トナル。

e. 最近漢口、沙市、宜昌ヨリ輸出シタル生絲ノ數量ハ七、三五八ナルヲ以テ、生絲一斤ニ付生繭十斤ヲ要スルモノトセバ生繭量ハ七三、五八〇ニ當ル。

f. 最近漢口、沙市、宜昌ヨリ輸出シタル屑物量ハ屑絲(但シ熨斗生皮等ノ外再繰中ノ屑絲ヲモ含ム)六、〇七三、屑繭(揚繭、蠅蠟ニシテ繭ヲ含ム)一四、四四九、合計二〇、五二二ナリ。而シテ屑物ハ殆ンド全部輸出スルモノト看做シ得ベキヲ以テ、コレ等ヲ生繭量ノ二割ト看做セバ、内地製絲原料トシテ消費サレタル生繭量ハ一〇二、六一〇トナル。以上ヲ綜合シテ本省ニ於ケル產繭額ヲ一〇〇、〇〇〇ト推定セムトス。

## 七、湖南省 一六、〇〇〇擔

上海日本人實業協會ノ推定ニ據ル。

## 八、四川省 產繭額ハ約六四〇、〇〇〇擔内外ニシテ推定ノ基礎左ノ如シ。

a. 最近在重慶帝國領事ノ報告書ニ據レバ、產繭額ヲ一、九八〇、〇〇〇基瓦、即チ約三三、〇〇〇トナスモ過少ニ失スルノ嫌ヒナキニアラズ。

b. 最近重慶ヨリノ生絲輸出額ハ八、七〇八擔ニシテ、生絲一斤ニ付生繭十六斤ヲ要ストセバ、原料繭一三九、三二八ニ當ル。

c. 一九〇二、三年頃ニ於テ英國總領事ホーシー(Horsie)氏ノ調査セシトコロニ據レバ、同省ノ生絲產額ヲ四〇、〇〇〇トナセリ。實業家亦略之ヲ是認シ、且又近年產額ノ増加ハ著シカラザルガ如キヲ以テ、先ヅコレニ據リ、生絲一斤ニ付繭十六斤ヲ要スルモノトセバ、ソノ額六四〇、〇〇〇トナル。

## 九、山東省 七〇、〇〇〇擔

省内主要養蠶地方ニ於ケル繭產額ヲ推定積算セルモノナリ。

十、河南省其他 二一四、〇〇〇擔

以此觀之、現今支那全國ヲ通ジテ二、九九三、八一一擔即チ大約三百萬擔内外ノ繭產額アルモノト看ルヲ妥當トスベシ、一九一六年ニ於ケル本邦產繭額ハ五、七〇八、四六三石ニシテ、コレヲ一石十貫匁トシテ採算スルトキハ約三、五六七、七八九擔トナリ、結局支那繭產額ハ約我ガ八割三分九厘ニ相當ス。昨今外人ニシテ支那蠶業ノ開發ニ志スモノ漸ク多キヲ加ヘ、殊ニ米國ノ如キ絹糸布類ノ世界的大消費國ニアリテハ、從來此ノ種製品ヲ一手ニ引受ケ、殆ンド獨占的供給國ノ觀アル本邦ニ對シ、一ツハ原產地ノ支配權ヲ彼ノ手ニ收メ、最モ有利ニ輸入セント思惟スルト、他ハ有力ナル競爭者ヲ擁立シテ我ガ勢力ヲ牽制セン目的ヲ以テ、盛ニ支那斯業ノ開發ニ腐心シツ、アリ。事態漸ク斯クノ如クナルヲ以テ、繭產額ノ倍加モ亦近キ將來ニ在リト謂フベシ。

### 三、輸 出

前項詳述セルガ如ク、支那ハ廣大ナル桑園ヲ擁スルト、一部養蠶家ノ覺醒トニヨリ、繭ノ產額ハ年々數百萬擔ニ上ルト雖、一面ニ於テ各國絹業者ノ要求ニ促サレタル支那製糸業ノ勃興ハ、漸ク支那產繭ヲシテ海外輸出ノ餘裕ナカラシメントシツ、アリ。

コレ固ヨリ支那ニ取リテ最モ慶賀スベキコトニシテ、是レ亦彼ノ從來切望シテ已マザリシトコロナラン。蓋シ支那ニシテ養蠶製糸ノ方法改良サレ、ソノ製品亦海外市場ニ歡迎サル、ノ秋、何ヲ忍ンデコノ華客ヲムザムザ他國ノ手ニ委スベキノ理アラシヤ。コ、ニ想到スルニ及ンデ、吾人ハ本邦斯界ノ現狀ト相照シテ、聊カ冷汗ヲ催スノ感ナクンバアラズ。眠レル嬰兒ハ手ヲ觸レザル

ニ如カズトナスカ、將又緊繃一番彼ヲシテ斯業ノ開發ニ誘導シ、世界ニ於ケル生糸輸出國タル己ガ地位ヲ、彼ニ得セシメントスル乎。今ヤ本邦斯業ニ携ハルモノ、熟慮ヲ要スベキ秋ナリト謂フベシ。

斯クノ如ク近時支那内地ニ在リテ製糸業ニ從事スルモノ漸ク多キヲ加フルニ及ンデ、繭ノ輸出ハソノ産額ト正比例セズ、反ツテ今後次第ニ減少スルノ傾向アラントス。

今左ニ過去數箇年間ニ於テ、支那各港ヨリ輸出サレタル繭ノ數最及價格ヲ仕向地別ニ表示シ以テ支那繭輸出ノ趨勢ヲ窺知スルノ資トナサントス。

(イ) 支那繭輸出額

| 年次   | 項目                      | 繭         | 屑                       | 繭        |
|------|-------------------------|-----------|-------------------------|----------|
| 一九一〇 | 一八、〇五〇 <small>據</small> | 一、九二〇、八二五 | 三七、八四一 <small>據</small> | 九七三、一四〇  |
| 一九一一 | 二〇、九二五                  | 二、四五九、五二九 | 三八、二四〇                  | 九〇六、五九〇  |
| 一九一二 | 二二、八九七                  | 二、三二八、四六九 | 二六、〇四九                  | 六四五、七八一  |
| 一九一三 | 二五、四六九                  |           | 一二、六二一                  |          |
| 一九一四 | 二三、六七九                  |           | 四一、九六一                  |          |
| 一九一五 | 三四、一七七                  |           | 四二、九六三                  | 九七九、六二八  |
| 一九一六 | 三〇、三三三                  | 二、六〇二、一四〇 | 二七、八〇七                  | 六七五、〇三九  |
| 一九一七 | 三三、六二三                  | 一、八五七、五〇一 | 四三、一四五                  | 一一〇三、四九九 |
| 一九一八 | 三二、七四〇                  | 二、六六〇、四二四 | 三〇、四〇〇                  | 七六五、七一四  |
| 一九一九 | 三四、七二六                  | 二、六六〇、八六一 |                         |          |



(口) 支那繭輸出國別表

| 仕<br>向<br>先 | 年<br>次 | 香<br>港                | 英<br>國                | 佛<br>國 | 伊<br>太<br>利 | 日<br>本  | 米<br>國  |
|-------------|--------|-----------------------|-----------------------|--------|-------------|---------|---------|
| 一九          | 一七     | 三、四四五 <sup>據</sup>    | 二五〇、七一八 <sup>海關</sup> | 一、一九二  | 一〇、三八八      | 三、〇三〇   | 一四、一一八  |
| 一九          | 一八     | 三、〇二一 <sup>據</sup>    | 二五四、〇一九 <sup>海關</sup> | 七七、三一  | 五五九、〇四八     | 一五九、九三三 | 七二一、三〇八 |
| 一九          | 一九     | 二、七四三 <sup>據</sup>    | 二五〇、四五〇 <sup>海關</sup> | 二八七    | 四四〇、二三八     | 二五〇     | 二四、九九五  |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五〇 <sup>海關</sup> | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |
| 一九          | 一九     | 二五〇、四五一               | 二五〇、四五一               | 一、一三九  | 三二四、二九八     | 一六、一三九  | 一〇八、二九二 |

(ハ) 支那屑繭輸出國別表

| 仕<br>向<br>先 | 年<br>次 | 英<br>國               | 佛<br>國  | 伊<br>太<br>利 | 日<br>本  | 米<br>國  |
|-------------|--------|----------------------|---------|-------------|---------|---------|
| 一九          | 一七     | 一、二五二 <sup>海關</sup>  | 四一九、五五三 | 一七七、八七八     | 七六、三五六  | 一       |
| 一九          | 一八     | 二六、三四一 <sup>據</sup>  | 六七一、三九九 | 一〇四、三七四     | 一四九、〇九〇 | 一七八、六三六 |
| 一九          | 一九     | 五〇八 <sup>據</sup>     | 一六、七一   | 四、一三五       | 九、〇四六   | 二一九、七一九 |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |
| 一九          | 一九     | 一二、五八七 <sup>海關</sup> | 四三〇、二九〇 | 一〇三、一一八     | 二一九、七一九 | 一       |

(ニ) 繭各港別輸出對照表 (單位擔)

調査

支那ノ蠶業及機械業

(四八九)

一六一

| 港名 | 年次      | 一九一五   | 一九一六   | 一九一七   | 一九一八    | 一九一九 |
|----|---------|--------|--------|--------|---------|------|
| 安東 | 一六八、六五七 | 三九、二八五 | 四六、八〇二 | 九六、三八九 | 四三、八〇九  |      |
| 大連 | 一五三     |        |        |        |         |      |
| 大東 | 七五、六八〇  | 三〇、六一七 | 八二、〇四〇 | 九一、四三八 | 一〇〇、七六九 |      |
| 天津 |         | 二、〇四九  |        |        | 一       |      |
| 煙臺 |         | 一〇     | 二五     |        | 六       |      |
| 重慶 | 三四二     | 三〇八    | 二四八    | 二七八    | 三       |      |
| 沙市 |         | 九九     | 二七三    | 三四     | 九八五     |      |
| 長沙 | 二       | 三〇二    | 四四八    | 四九八    | 四       |      |
| 漢口 | 四五二     |        |        |        | 一四六     |      |
| 九江 |         | 二、七四六  | 二、九四三  | 二、三四六  | 二、三六四   |      |
| 蕪湖 | 一、九六八   | 一三     |        |        | 三       |      |
| 南京 | 九六四     | 三、九五〇  | 五、六七九  | 六、八四五  | 四、八七八   |      |
| 鎮江 | 二八六     | 七二四    | 七三五    | 四九一    | 三八八     |      |
| 上海 | 二〇、四〇七  | 三三三    | 一六六    | 三三三    | 一〇七     |      |
| 蘇州 | 六〇〇     | 一二、七〇八 | 二〇、三六三 | 一九、八二三 | 二二、二一六  |      |
| 杭州 | 一、九一三   | 五三四    | 五一     | 七四一    | 六二一     |      |
| 寧波 |         | 三、一五四  | 五二五    | 九九四    | 八三六     |      |
| 廣東 | 三、〇三五   | 三〇八    | 五四七    | 二六四    | 九五五     |      |
| 龍東 |         | 五、〇一一  | 三、四四三  | 五、七五三  | 三、四四六   |      |
|    |         | 一〇〇    |        |        | 六四七     |      |

| 三 江 水 | 江 門 | 梧 州     | 合 計     |
|-------|-----|---------|---------|
| 三 八   | 二   | 一三四     | 一六四、八八四 |
| 一七    | 七   | 二二六、一〇二 | 二七四、九六一 |
| 一八九   | 一七  | 五〇二     | 二七四、九六一 |

(ホ) 蘭各港別輸出對照表 (單位海關兩)

| 港 名 | 年 次 | 一 九 一 五   | 一 九 一 六 | 一 九 一 七   | 一 九 一 八   | 一 九 一 九   |
|-----|-----|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 安 東 | 東   | 一、五二八、五八二 | 七三九、一七七 | 九〇一、二〇六   | 一、四五〇、一〇四 | 九〇三、五八四   |
| 大 連 | 連   | 一、三三六     | 六三〇、一三九 | 一、〇四六、三五二 | 一、五八五、一九七 | 一、六三八、九三九 |
| 大 津 | 津   | 七五六、八〇〇   | 一四九、七〇九 | 一、〇四六、三五二 | 一、五八五、一九七 | 一、六三八、九三九 |
| 煙 臺 | 臺   |           | 一九二     | 二、三三一     | 三九〇       | 三〇五       |
| 膠 州 | 州   |           | 一〇、一六四  | 九、四三九     | 八二        | 七九、七八五    |
| 重 慶 | 慶   | 二七、〇八四    | 五、九五六   | 一五、四七五    | 一九、八七二    | 七九、七八五    |
| 沙 市 | 市   |           | 六、〇四〇   | 一三、四四〇    | 二、二五四     | 二三八       |
| 長 沙 | 沙   | 一四一       |         |           | 二五、六四八    | 四、六七二     |
| 漢 口 | 口   | 一五、九六九    | 一〇九、八四〇 | 一二一、三一〇   | 一〇九、八九七   | 一一七、七二七   |
| 九 江 | 江   |           | 八八一     |           |           | 一三四       |
| 燕 湖 | 湖   | 一四四、〇二五   | 五〇九、五三七 | 四八三、一六九   | 六一一、九四三   | 四三六、〇九三   |
| 南 京 | 京   | 九六、四一〇    | 八五、四六七  | 九九、二八八    | 五八、九二〇    | 四六、五六〇    |
| 鎮 江 | 江   | 二〇、四二〇    | 四五、一九四  | 二〇、八九一    | 三九、六三一    | 二三、三六八    |

調 査

支那ノ蠶業及機織業

(四九一)

一六三



| 上 海       | 蘇 州    | 杭 州     | 寧 波     | 廣 東     | 九 龍    | 三 門   | 江 蘇    | 裕 州       | 合 計 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|-------|--------|-----------|-----|
| 一、六五一、四〇五 | 三八、五二三 | 二二五、〇二五 | 二五七、四一五 |         |        |       | 三四、一四六 | 四、七九七、二八一 |     |
| 一、〇八七、一九七 | 四三、五二五 | 三四五、一三五 | 一二、三〇八  | 五一八、四四四 | 一四、二一七 | 五、四一二 | 四四、四〇五 | 四、三六三、〇八八 |     |
| 一、〇六〇、九〇三 | 三八、〇六四 | 四一、八五六  | 四一、〇二五  | 二五〇、五九八 |        |       | 一〇、六九四 | 四、一五六、一七一 |     |
| 一、七〇一、五四一 | 五九、一六九 | 七二、〇九〇  | 四四、一九   | 五六二、〇八〇 |        |       | 五六〇    | 六、三四三、六一一 |     |
| 一、七四七、二七二 | 四〇、七七四 | 四八、九九四  | 九三七六一   | 三〇五、三一二 | 五〇、四九二 |       | 一、一七三  | 五、五三九、三六四 |     |

(一) 屑繭各港別輸出額照表 (單位擔)

| 安 東   | 大 連   | 牛 莊   | 秦 皇 島 | 天 津  | 煙 臺  | 膠 州 | 重 慶    | 萬 縣 |
|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|--------|-----|
| 一九一五  | 一九一六  | 一九一七  | 一九一八  | 一九一八 | 一九一九 |     |        |     |
| 九九七   | 一六一   | 九四九   | 二     | 四四八  | 七〇   | 五   | 三七七    | 三六五 |
| 一、五一五 | 一、一九八 | 一、二七四 | 一二一   | 四四八  | 七〇   | 五   | 一五、二八九 | 三六五 |
| 四八四   | 三     | 二     | 二〇五   | 二〇五  | 一二〇  | 三九  | 二二、六五〇 | 五七二 |
| 四七七   | 三、三四一 | 三九八   | 二〇五   | 二〇五  | 一二〇  | 三九  | 二二、六五〇 | 五七二 |
|       | 二一三   | 三、三四一 | 三九八   | 二〇五  | 一二〇  | 三九  | 二二、六五〇 | 五七二 |
|       | 三、〇九六 | 四、三五九 | 一、二七九 | 二七八  | 七五   |     | 一九、二四〇 | 六四一 |

| 宜   | 沙   | 長   | 岳      | 漢  | 九     | 燕     | 南   | 鎮      | 上   | 蘇   | 杭   | 寧  | 福      | 梧      | 合 |
|-----|-----|-----|--------|----|-------|-------|-----|--------|-----|-----|-----|----|--------|--------|---|
| 昌   | 市   | 沙   | 州      | 口  | 江     | 湖     | 京   | 江      | 海   | 州   | 州   | 波  | 州      | 州      | 計 |
| 三〇五 | 一六一 | 一二  | 〇,八一八  | 二七 | 三六五   | 四六五   | 六五八 | 七,七九九  | 二二六 | 三七八 | 一   | 八  | 四〇,九一三 |        |   |
| 六八七 | 一八三 | 一五九 | 一三,五七九 | 四〇 | 一,一三七 | 一,一八二 | 四八七 | 一〇,五六三 | 一三  | 五九六 | 一八  | 三〇 | 五〇,八三三 |        |   |
| 三三  |     |     | 一一,〇七四 | 八一 | 六五九   | 二七四   | 八九  | 四,九六九  | 七九  | 三九六 | 一六九 | 一〇 | 一一     | 三六,五四七 |   |
| 一六  | 四三  | 九二  | 一三,〇二八 | 五四 | 三一〇   | 四五    | 一四七 | 四,五七九  | 二〇一 | 四三一 |     | 一  | 四七,八九一 |        |   |
| 七七  |     |     | 一一,七三四 | 六八 | 三     | 二,八六一 | 一〇四 | 六,三五七  | 六   | 九六  | 一   | 五九 | 五〇,四三一 |        |   |

(ト) 屑蘭各港別輸出對照表 (單位海關兩)

| 安      | 大     | 牛       |
|--------|-------|---------|
| 東      | 連     | 莊       |
| 次      | 年     | 名       |
| 一九一五   | 一九一六  | 一九一七    |
| 一九一八   | 一九一九  |         |
| 七,九八一  | 二,三七〇 | 六八      |
| 四〇,二五七 | 九,四九〇 | 八,三八六   |
| 二五,六九〇 | 五五    | 一一四,一四五 |
|        |       | 一二五二    |
|        |       | 二六,九二八  |
|        |       | 二二,五〇八  |
|        |       | 四八,一九〇  |
|        |       | 三三,九一〇  |
|        |       | 八一,九六一  |

調查 支那ノ蠶業及機織業

(四九三) 一六五

| 秦皇島   | 天津    | 煙臺  | 膠州     | 重慶      | 萬縣     | 宜昌     | 沙市    | 長沙    | 岳州    | 漢口      | 九江    | 蕪湖     | 南京     | 鎮江     | 上海      | 蘇州    | 杭州     | 寧波    | 福州  | 梧州    | 合計        |
|-------|-------|-----|--------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|-------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|-------|-----|-------|-----------|
| 八、〇八六 |       |     | 八、二三六  | 四四四、三一三 |        | 八、六二六  | 三、九九三 | 三三+   |       | 二四九、四七三 | 六七一   | 八、三七九  | 一三、九四三 | 一七、七六二 | 一〇六、八七三 | 五、一二三 | 一三、二三〇 | 五七    |     | 一六五   | 九六六、一九五   |
| 七、六〇〇 |       | 五〇一 | 一八、八六九 | 五五一、九四九 |        | 一九、四〇八 | 四、九四七 | 三、五九三 |       | 三一四、四五八 | 一、一三一 | 一六、二〇四 | 三三、七二四 | 一三、〇三〇 | 一四九、一三八 | 三七六   | 一九、〇七二 | 八九四   |     | 一四〇   | 一、一六六、九四九 |
| 二、〇四八 | 一、六一〇 | 八五  | 七、〇一九  | 四二九、六三三 | 九、一〇九  | 九二九    |       |       | 一五    | 二七四、四四三 | 二、三三〇 | 二四、二四〇 | 七、七七七  | 二、四一八  | 六五、二〇九  | 一、七九〇 | 一〇、二九六 | 八、四二七 | 一五〇 | 二五三   | 二九七〇、三八〇  |
| 三、四七四 | 二、〇三六 |     | 八七五    | 六五八、七〇〇 | 一四、二七五 | 四〇七    | 九七〇   |       | 二、二六四 | 三二四、六五七 | 一、六一二 | 七、八五九  | 一三、二〇九 | 四、一六二  | 八九、八五二  | 四、五四九 | 一三、三六一 |       | 二八  |       | 一、一九二、九八一 |
| 四、七一二 | 一、二六八 |     | 六八三    | 五四一、七三七 | 一六、〇五二 | 一八〇九   |       |       | 八二    | 二九二、九一三 | 一、九四七 | 一〇六    | 六六、九〇四 | 二、九〇六  | 一四〇、〇三五 | 一九〇   | 一、九六八  | 一九    |     | 一、五三四 | 一、二三七、九二六 |

(備考)

但シ右表中、安東、大連、牛莊、秦皇島ヨリノ輸出ハ主トシテ柞蠶絲ナリト知ル可シ

## 第二章 生産狀況

### 第一節 桑葉ノ栽培

#### 一、氣溫及土質

前章ニ於テ述ベタルガ如ク、支那ハ大體ニ於テ氣候土質トモニ養蠶ニ適スルヲ以テ江蘇、浙江ヲ始メトシ、西ハ安徽、湖北、湖南ヲ經テ四川ニ至リ、南ハ廣東、廣西二省ニ跨リ、北ハ河南、山東ヨリ滿洲ニ及ブ。コノ間到ル處殆ンド栽桑養蠶ノ業行ハレザルハナシ。

然リト雖今一步進ンデ些細ニコレヲ觀察センカ、ソノ區域ノ廣大ナル丈ケ、一面ニ於テマタ自ラ氣候及土質ノ點ニ於テ、制限ヲ受クルモノアルヲ見ル。

世ニ凡ソ桑樹發育ニ適當ナル地方ハ、北緯三十八度ヨリ同三十五度ニ至ル間ヲ以テ最モ良シトナシ、江浙ノ地ニ桑樹發育ノ良好ナルハ、一ツニ繫ツテコノ圈内ニ在ルニ由ルモノニシテ、我國ハ北緯三十五度以北ニ在リテ、氣候溫暖養蠶ニ適スト雖、支那ニ比スレバ、ソノ飼育甚ダ困難ニシテ、從ツテ品質亦江、浙地方ノソレニ比スレバ、稍々遜色アルヲ免ズトナスモノアリ。勿論コハ事實ニシテ、何等疑念ノ餘地ヲ存セズト雖、而カモ吾人ハコレガ適否ヲ考察スルニ當リ、ソノ地方ニ於ケル土質ノ如何モ亦慮外スル能ハズトナスモノナリ。即チ江蘇、浙江、廣東ノ各省ハ氣候何レモ溫暖ニシテ、桑樹枝葉ノ伸長、繁茂ニ好適ナルノ外、尙ホ該地方ハ河川運河ニ富ムヲ以テ、土質ノ多クハ沖積土ナルカ、マタハ年々氾濫ノタメ肥土ヲ置カル、ノ地方ニシテ、土地概



ネ肥沃ナルヲ常トス。之ニ反シテ一度足ヲ内地ニ踏ミ入レンカ、土地必シモ肥饒ナラザルノ故ヲ以テ、氣溫ニ變化ナキニ拘ラズ、桑樹常ニ鬱蒼タラザルノ事實アルヲ見ル。カクテ養蠶ノ業ハ氣候、土質ノ兩者相俟ツテ、始メテ熾盛ノ基礎ヲナスモノト云フベシ。

## 二、桑園ノ分布狀態

廣東省三角州ハ地味頗ル肥へ、ソノ總面積ノ約三分ノ一ハ栽桑地ニシテ、ソレヨリ上流ノ西江沿岸ハ概ネ山地ナルモ、平地ノ存スルトコロ、ソノ大小廣狹ヲ問ハズ、悉ク桑園ナルヲ見ル。北江沿岸ノ平地ハ瘦地ナルニ拘ハラズ、廣東農林試驗場ノ如キ全ク施肥ニ依リテ良好ナル成績ヲ示シツ、アリ。次イデ中部支那江蘇省ニ於テハ、桑園ノ大部分ハ上海、南京間ノ鐵路ヲ中心トシテ南北ニ開展ス、即チ南部ハ蘇州ヲ起點トシテ太湖ニ沿ヒ、震澤、平望等ヲ經テ浙江省ノ南潯、嘉興ニ連ルモノト、常州ヲ起點トシテ南西ニ擴ガリ、金壇ヲ經テ宜興、溧陽、溧水等ニ到ルモノトノ二方面ニ分タレ、北部ハ無錫ヲ起點トシテ北方常熟、江陰地方ニ擴ガリ、更ニ揚子江ヲ起エテ江北地方ニ於ケル海門、通州、靖江等ニ及ブモノアリ。コレ等中心地ト目スベキ地方ニ於テハ、全部純然タル桑園ニシテ、麥、豆等ヲ間作スルモノ殆ンドナシ。南京無錫間鐵路ノ沿線ハ、南京ヨリ常州ニ到ル迄ハ、殆ンド桑園ヲ見ズ、常州ヨリハ鐵路ノ左右ニ散點シ、無錫ニ近ヅクニ從ツテソノ多キヲ見ル。無錫ノ地方無錫縣及常熟縣ノ狀況ヲ見ルニ、無錫黃新移間ハ縱横ニ馳走セル運河ノ西岸ニ最も多ク、全部桑園ノミナリト稱スルモ不可ナキ有様ナリ。サレド桑園ノ廣サハ運河ノ岸ヨリ二三町ニ過ギザル奥行ニテ只ダ運河ニ沿フテ帶狀ニ走ルモノニシテ、ソレヨリ奥ハ多ク水

田又ハ麥畑ナリ、無錫ヨリ常熟縣施家橋、同縣羊光地方ニ到ル間ノ桑園ハ、均シク運河兩岸ニ沿ヒテ發達シ、無錫黃新橋間ニ比スレバ稍々劣ル。又無錫ヨリ西南方無錫雲堰橋ニ到ル間ハ全ク桑園連レリ。

浙江省ニ於ケル桑園モ亦江蘇省ノ如ク運河ノ兩岸ニ限定スルコトナク平地ヨリ山地ニ及ビ、村落ヲ中心トシテ發達シ、コレヲ大體三區域ニ分チ、一ツハ娥江流域ニ於ケル桑園地ニシテ、江ヲ遡ルニ從ヒ熾盛トナリ、三界縣ヨリ嵊縣ニ到リテ最モ盛ナリ。二ハ錢塘江ノ流域ニシテ、江口ナル海寧府、杭州府、蕭山地ルヨリ漸次上流ノ分流タル浦陽江ノ上方諸暨縣地方、杭州ノ西南十五支里ナル餘杭臨安地方一帶ニ盛ナリ。三ハ太湖附近ニシテ彼ノ七里絲ノ產地タル湖州、南潯地方、ヲ中心トスルモノニシテ、西方太湖ヲ廻リテ、江蘇省宜興、溧陽地方ト相連リ、東方ハ嘉興地方平湖、金山地方マデ延長ス。安徽省ニ於テハ純然タル桑園ヲ見受ケズ、農家ハ寧口副業トシテ柏油ノ原料タル柏ノ栽植ニ重キヲ置キ、未ダ栽桑ヲ重ンゼザルガ如シ。

湖北省ニ於ケル桑園モ、亦大體三地方ニ分ツコトヲ得ベシ。ソノ第一ハ、漢水ノ下流地方ニシテ仙桃鎮ヲ中心トスル沔陽縣、天門縣、漢川等ノ地方コレナリ。該地方ハ本省ニ於テ桑樹ノ最モ多キ地方ニシテ、ソノ產繭額ハ本省ノ大半ヲ占ムト稱セラル。第二ハ、揚子江ノ沿岸河溶司及當陽ヲ中心トシ、江口、建陽、荊門、遠安、宜昌ヲ外壁トスル地方即チコレナリ。第三ハ、同様長江ノ下流ニ於テ合スル巴河ノ上流地方ニシテ、羅田、平湖、勝家堡、英山ヲソノ主要地トシ、遠ク河南、安徽ニ接續スル區域コレナリトス。

次ニ四川省ニ於ケル桑園ノ分布ハ、西部未開ノ山地ニアリテハ桑樹ヲ栽植スルモノ稀ナリト雖、ソノ他ノ地方ハ一般ニ桑樹ヲ見ル、就中成都平原嘉陵江一圓ノ順德、潼川、縣保寧及ビ岷江一圓ノ嘉定、眉州等最モ盛ナリ。

山東省ニ於ケル桑樹ノ栽植ハ、山東鐵道ヲ中心トシテ、ソノ左右沿線ヲ以テ熾盛地トナシ、就中周村青州張店等ノ附近最モ盛ナリトス。

次ニ滿洲ハ全土ヲ通ジテ殆ンド到ル處桑樹ノ栽植ニ適セザルナク、自然桑ノ繁茂ヲサヘ見ル。サレバ良好ナル桑種ヲ栽植シ且ツ諸種ノ改良ヲ施ストキハ、前途頗ル有望ナルモノアルヲ以テ、コ、ニソノ分布ノ大要ヲ記サンニ、關東州ヲ中心トシテ、滿鐵沿線ハ熊岳城附近マデ多少ノ桑樹ヲ見ル。近來關東廳ノ獎勵ニヨリ赤木、高助、市平、魯桑等ノ實生ヲ見ツ、アリ。熊岳城以北ハ氣候寒冷ニシテ桑樹ノ發育ニ適セズト雖、尙ホ一種野桑ノ繁茂セルヲ見ル。

### 三、桑樹ノ種類

桑樹ノ種類ハ地方ニ依リ一樣ナラズ、從ツテソノ數亦少カラザルガ如シト雖、ソノ主要ナルモノヲ列舉セバ則チ次ノ如シ。

魯桑ハ一名湖桑トモ稱セラレ、浙江江蘇湖北ノ三省ニ於テ廣ク栽植セラル、モノニシテ、其他山東、四川等ニ於テモ多ク見ルコトアリ、ソノ形質ニ於テ本邦產ノモノニ類スルモ、中ニ葉形稍細長キモノアリ、浙江省立杭州甲種蠶業學校ニ於テ聞クトコロニ依レバ、同魯桑ハ即チ湖桑ニシテ、全ク同一種ノモノナリト云フ、即チ白、紅、青、黃等ノ皮色ヲ有スルモノ之ナリ。

火桑ハ浙江省ニ於テ最モ多ク栽培セラレ、葉形稍薄小ナリト雖、發芽比較的早キヲ以テ、普通稚蠶用ニ供セラル。

嘉定桑ハ四川省嘉定ノ原産ニシテ、省内到ル處ニ栽植セラル。コノ種ハ總テ實生桑ニシテ、葉質佳良ナラザレドモ、樹質強健ニシテ水田ノ畦畔等ニ植エラレ、能ク濕氣ニ堪ユルヲ特質トス。

麻幹桑ハ四川省巴縣地方ニ栽植セラル、野桑ノ一種ニシテ、樹形椿ニ類ス、葉ハ大形ナレドモ粗硬ナリ。發芽早キヲ以テ稚蠶用トシテ用ヒラル。

葦桑ハ山東省大崑崙地方ニ在リ、樹形高クシテ枝條簇生シ、葉ハ小形ナレドモ良ク密生シ、遠望セバ全ク桑樹タルヲ認ムルニ苦シム程ナリ。コレマタ發芽早キヲ以テ稚蠶ノ飼料ニ用ヒラレ、壯蠶ニ與フレバ却ツテ有害ナリト稱セラル。

荆桑ハ廣東、廣西ノ兩省ニ於テ廣ク栽植セラレ、葉薄クシテ質亦佳良ナラザレドモ、樹質嘉定桑ニ似テ頗ル強健ナリト聞ク。

桑樹ノ種類ハ大要右六種ナルガ、此ノ外ニ尙ホ柘ト稱シ、桑樹ニハアラザルモ、蠶兒ノ飼料トシテ一般ニ使用セラル、モノアリ。即チ四川省ニ最モ多ク使用サレ、路傍畦畔等ニ栽植サル、モノ、外、恰モ麥畑ノ如ク集團シテ栽植サル、モノアリ、ソノ老木ニハ周圍三尺ニシテ、高サ二丈餘ニ及ブモノ亦稀ナラズト稱セラル。尙ホ本省ニハ草桑ヲ栽植シ、之ニハ油桑、桐桑、花桑ノ三種アリ、俗ニ鷄冠桑ト稱セラル、モノ之ナリ。

#### 四、桑 苗



(一)、產地 桑苗ハ多ク、專業的ニ造成セラレ、産苗ヲ以テ有名ナル地方少カラズ、即チ浙江省ニ於ケル桐鄉、石門、海寧等、四川省ニ於ケル嘉定、廣東省ニ於ケル大洞、吉老ノ如キコレナリ。

(二)、採苗法 桑苗ノ採挿法ニハ實播、接木、取木、挿木、種々アレドモ、地方ニ依リテソノ方法ヲ異ニシ、浙江省及湖北省ニ於テハ接木苗ヲ産出シ、廣東四川ノ兩省ニアリテハ殆ンド實播法ニ依リ、接木、挿木法ノ如キモ稀ニ見ルコトアリ。山東省ニアリテハ實播法ノ外取木法ヲ行フモノモアリ。

(三)、價格 桑苗ノ價格ハ地方ニヨリ一樣ナラズ、浙江省海寧ニ於テハ百本ニ付三尺物二元、四尺物二元四十仙、五尺物二元六十仙等ニシテ、尙ホ同省杭州ニ於テハ百本ニ付實生苗一元五十仙乃至三元、接木苗三元乃至十元、更ニ廣東省ニ於テハ實生苗千本ニ付七十仙乃至一元五十仙ナリト云フ。

(四)、賣買法 浙江省ニ於ケル桑苗ノ集散地ハ、海寧縣長安鎮ソノ中心地ニシテ、産苗地タル桐鄉石門海寧等ヨリ三里餘ノ距離ニ存シ、鐵道ニ沿ヒ便利頗ル良シ。同地ニハ桑行ト稱シ、桑苗仲買商多數アリテ、顧客ヨリ桑苗ノ注文ヲ受ケ、コレガ買集發送ノ任ニ當ル。ソノ荷造法ハ二百本ヲ以テ一梱トナシ、ソノ上ヲ蒲包トナス。荷造費ハ仲買ニ、運賃ハ買主ニ、夫々負擔ノ習慣アレドモ、雲南陝西ノ如キ遠隔ノ地方ニ發送スル場合ニ於テハ、尙ホ箱詰トナシテ乾涸ヲ防ギ、ソノ費用一元ハ買主コレヲ負擔ス。又廣東省ニアリテハ十二月ヨリ翌年二月迄、毎旬三ノ日ニコレガ主産地タル古勞ニ於テ桑苗市ヲ開キ、各地ノ桑苗仲買人ハ、コノ地ニ來集シテ桑苗ノ買入ヲナス

ヲ慣例トス。

## 五、桑樹ノ栽培及仕立法

支那桑樹ノ栽培ハ全國ヲ通ジ、十數省ノ廣キニ及ブヲ以テ、ソノ栽植仕立ノ方法亦自ラ區々タルヲ免レズ。今コレ等桑樹栽植ノ盛ナル地方ニ就テコレガ大要ヲ記サン、

1 南部支那 廣東廣西ノ兩省ニ於テハ凡テ根刈仕立ニシテ、極端ナル密植ヲ行フ、即チ畦間ハ二尺乃至二尺五寸ニシテ、株間ハ一尺乃至二尺ノ割合ニ栽植シ、一株二本植トナスモノ稀ナラズ。桑苗ノ栽植法ハ多ク坪植ニ依リ、苗木ノ大ナルモノニアリテハ、植付ノ際高刈ヲ行ヒ、直ニ幹部ヲ形成スルヲ普通トス。

2 中部支那 浙江省ニ於テハ、殆ンド總ベテ高刈仕立ニシテ、拳式トナスモノト然ラザルモノトノ二種アリ。前者ハ枝幹ノ形狀必シモ整然タラズ、分岐ノ條數、拳部ノ位置等亦一定セズ、株間ハ大抵五、六尺以上ヲ保チ、麥、蕁、蠶豆等ヲ間作シ、又更ニ粗植セラル、モノニアリテハ、ソノ遠望恰モ麥畑ニ桑樹ノ間作セラレタルガ如キモノアリ。同江蘇省ニアリテハ高刈、中刈ノ二法アリテ、無錫地方ニ於ケルモノハ概ネ後者ニ屬ス。又拳式トナスモノアリ、無拳式トナスモノアリ。畦間ハ五尺内外、株間ハ三尺乃至五尺トナシ、時ニ幅六七尺ノ低キ畦ヲ造リ、二列ニ栽植スルモノヲモ見ル。同湖北省ニアリテハ凡テ立通トナシ、剪定ヲ加ヘズ、故ニ桑樹ハ頗ル喬木トナリ、摘桑ニハ長キ梯子ヲ使用セザルベカラズト云フ。同四川省ニ於テモ同様立通ナルモ、近來中刈或ハ高刈ヲ行フモノ多ク、主トシテ路傍畦畔ニ栽植セラル。

3 北支那山東省ニ於テハ稀ニ刈桑ヲ見ルコトアレドモ多クハ立通トナシ、巨大ノ老木ト雖、剪枝ヲナサルガ爲メ收葉量割合ニ少キガ如シ。滿洲關東州ニ於テハ、昨今關東廳ノ熱心ナル獎勵並ニ改良ニ依リ、從來野生ナリシ桑樹ヲ人工ニ依リ培養スルモノ漸ク多ク、桑園ノ經營サル、モ近キ將來ニアリト云フベシ。今關東廳農事試驗場ニ於ケル桑樹栽植ノ成績ニ徴センニ、種類ニ依リテハ少シク寒氣ノ傷害ニ罹ルモノアレドモ、一般ニ發育良好ナリ、即チ一九一三年度ニ於ケル試驗ノ成績ヲ示セバ大要次ノ如シ。

| 品 種     | 發 芽 期 | 刈 取 期 | 收 穫 總 量              | 一反步當リ葉量              | 幹 長               | 摘 要  |
|---------|-------|-------|----------------------|----------------------|-------------------|------|
| 九 紋 龍   | 五月八日  | 六月四日  | 四〇一、四〇〇 <sup>實</sup> | 一六八、五八八 <sup>實</sup> | 四、六〇 <sup>尺</sup> | 栽植七年 |
| 十 文 字   | 五月十日  | 同     | 三四七、九四〇              | 一六四、九四〇              | 五、六〇              | 同    |
| 節 曲     | 五月三日  | 同     | 四三四、一六〇              | 一九一、〇〇〇              | 四、二〇              | 同    |
| 市 平     | 同     | 同     | 四四一、九〇〇              | 一〇〇、〇一七              | 五、七〇              | 同    |
| 赤 木     | 五月八日  | 六月五日  | 四九七、七〇〇              | 二三一、九二八              | 五、二〇              | 同    |
| 山 中 高 助 | 五月七日  | 同     | 五四〇、〇〇〇              | 二三一、六六〇              | 五、三〇              | 同    |
| 魯 桑     | 五月五日  | 同     | 三〇九、六〇〇              | 一三九、三二〇              | 五、二〇              | 同    |
| 鶴 田     | 五月六日  | 同     | 四二七、六八〇              | 一九九、七二七              | 五、〇〇              | 栽種四年 |
| 青 木     | 同     | 同     | 四三九、二〇〇              | 一七三、九二三              | 五、四〇              | 同    |
| 群 馬 赤 木 | 同     | 六月二日  | 四九七、五五二              | 二〇三、〇〇一              | 六、二〇              | 同    |

各種共一反步四百貫以上ノ收量アリテ、ソノ幹長五尺以上ニ達セリ、就中山中高助、群馬赤木、市平、青木等生育良好ナルガ如シ。

## 六、耕耘及施肥

耕耘ノ回數及方法ハ各地方ニ依リ一定セザルモ、コレ全ク間作物ノ關係ニ依ルモノ、如シ。但シ江浙ノ地方ニアリテハ、冬季必ズ深耕ヲ行フ。次ニ施肥ハ一年二、三回コレヲ行フ、尙ホ施肥ニ注意スル者ニアリテハ、四回乃至五回行フ。肥料ノ種類ニハ人糞畜糞、蠶沙ヲ始メ、大豆粕菜種粕等亦廣ク用ヒラル。殊ニ河川及池沼ノ泥土ハ施肥ノ效果頗ル大ナリトシ、到ル處ニ於テ歡迎セラルト云フ。又四川省ニ於テハ犬糞ヲ桑園ノ肥料トシテ普ク使用シツ、アリ、同省ニアリテハ土匪ノ出沒頻繁ナルニ依リ、各戸共數頭乃至數十頭ノ番犬ヲ飼養シ、専ラ之ガ警備ノ任ニ當ラシメ貧民ハコノ糞ヲ採集シテ一斤二、三文ヲ以テ賣歩クト云フ、此ノ外地方ニ依リ、石膏智利硝石等斬新ナル施肥ヲ行フ者アレドモ、未ダ一般ニ普及セルヲ見ズ。

施肥ノ量ハ概シテ多カラズ、唯廣東、廣西ニ於テノミ可ナリ多量ヲ施與スルモノ、如ク、廣西省長州ニ於テハ一畝ニ付大豆粕六百斤ヲ用フル者アリト聽ク、コハ年數回ノ收穫ヲナス特殊ノ事情ニ基クモノナリ。

## 七、桑葉收穫ノ方法及數量

廣東省ニ於ケル桑葉ノ收穫法ハ、十月ヨリ十二月ノ間ニ於テ枝條ヲ根際ヨリ伐切シ、翌春發育セル新條ヨリ順次摘葉シテ、年數回ノ飼育ヲ行フモノニシテ、第三回作若クハ第四回作ノ頃マデ



ニハ梢端マデ摘上ゲ、殆ンド綠葉ヲ見ズ。此頃ニ至レバ腋芽漸ク發育シテ新梢ヲ形成スルモノニシテ、更ニコレヨリ摘葉ヲ行ヒ、四五回作以下蠶兒ノ飼料ニ供ス。次ニ桑葉ノ收穫量ハ一年數回摘葉アルヲ以テ、ソノ量多ク、容奇ニ於ケル一養蠶家ノ言ニ依レバ、上畑一畝ニ付最盛一期約八、九百斤、一年ヲ通ジテ三四千斤近クノ收穫アリト。

江、浙兩省ニ於テハ、本邦ノソレト大差ナク、稚蠶期ニ於テ細枝ヲ間引キ、次イデ枝條ヨリ順次摘葉シ壯蠶期ニ至レバ新梢ヲ搔落シテ給與ス、コノ際枝條ト共ニ收穫スルモノアリ。又新梢ヲ摘去リタル後、枝條ヲ剪去スルモノアリ。枝條ノ剪去ニハ一般ニ鋏ヲ用フ。支那剪鋏ハ西洋ノソレニ比シ頗ル優良ナルヲ特長トス。收穫ノ方法ハ一般ニ悠長、叮嚀ニ行ハル、山東縣ニ於テハ一老農手鋏ヲ以テ細枝ヲ間引キ、路傍ニ坐シテ之ヨリ摘葉シ、更ニ枝葉ハ一々一尺餘ノ長サニ切揃ヘテ束ネツ、アルヲ往々ニシテ見ル。又無錫ニ於ケル夏蠶期收穫ノ狀況ヲ見ルニ、先ヅ細枝ヲ間引キ枝葉ヨリ摘葉ヲナスモノニシテ、コノ際葉柄ヲ殘スモノト否ラザルモノトアリ。摘葉ノ程度ハ一般廣東省ニ於ケルガ如ク苛酷ナラズ、枝條ノ半以上ニ於テ摘葉ヲナスハ甚ダ稀ナリトス。本省ニ於ケル桑葉ノ收穫量ハ嵯縣及海寧ニ於テハ一畝ノ收穫量上地一千斤、下地五百斤ヲ以テ普通トシ稀ニ二千斤ヲ超ユルモノアリト聽ク、又之レヲ一株ニ就テ見レバ、高刈三四十斤、中刈七、八斤内外ナルガ如シ。又杭州原蠶種製造所ノ高刈桑ハ一株ヨリ春季百二十斤ノ收穫アリタリト云フ。湖北、四川、湖南ノ各省ニ付テ見ルニ、一般江、浙地方ニ類スルモノアル外、尙ホ特殊ノ方法ヲ行フモノモノアリ、即チ宜昌ニ於テハ根際ヨリ二本若クハ三本ノ枝條ヲ發育セシメ、之ヨリ發條セ

ル横枝ヲ翌年、四五尺ノ長サニ伐切シ、各枝ヨリ生ゼル十本内外ノ新梢ヨリ摘葉スルモノアリ、或ハ湖南省長沙ノ如キハ、高刈桑ヲ春蠶期ニ伐條シ、之ヨリ發育セル新條ニ付夏蠶期ニ於テ摘葉シ、其ノ際一々梢端ヲ折取ルモノアリト云フ。尙ホ之等各省ノ栽桑ハ悉ク立通桑ニシテ、ソノ收葉量ヲ測定スルニ困難ナリト雖、四川省璧山縣蠶務局長李氏ノ談ニ據レバ、中刈一株ニ付、十斤内外、喬木ニ於テハ百斤内外ノ收葉アリト。

#### 八、桑園ノ地價、地租及小作料

桑園ノ賣買サル、コトハ甚ダ稀ナルヲ以テ、畑地一畝ノ價格明瞭ナラザルモ、浙江省杭州ニ於テハ四十元乃至百二十元、普通八、九十元、嵯縣ニ於テハ四十五元乃至百二十元、江蘇省蘇州ニ於テハ五十五元乃至百十元、湖南省長沙ニアリテハ二百二、三十吊文乃至三百四、五十吊文、四川省璧山縣ニ於テハ二十兩乃至五十五兩、廣東省容奇ニ於テハ七十兩乃至百二十兩、廣西省長州ニ於テハ百元内外ナリト云フ。

地租亦地方ニ依リ一定セズ、嵯縣ニ於テハ一畝ニ付二元乃至七元、杭州ニ於テハ五十仙乃至一元五十仙ナリト雖、廣東ニ於テハ一層大ナル懸隔アリテ、安キモノハ一畝十五、六仙ヨリ高キモノニ至リテハ十數兩ヲ要シ、廣西省ニ於テハ大約二、三元ヲ上下スルヲ普通トス。

地價略ボ斯クノ如シト雖、土地ノ多クハ資産家ノ兼併スルトコロトナリ、普通農家ニシテ土地ヲ有スルモノ少ク、嵯縣ノ如キ農家ノ約五割ハ全然土地ヲ有セズト云フ。

小作ハ一戸大抵十五畝ノ割合ニテ、三十元乃至五十元ヲ納ム。年限等ノ契約アルヲ見ズ。コノ

外杭州ニ於テハ三元乃至七元(地價ノ六分見當)、蘇州ニ於テハ五元内外ヲ普通小作料トナス。廣東省ニアリテハ小作スルモノ多キモ、地主ハ紛擾ノ慮ヲ除カンガ爲メ同姓以外ノモノニハ小作ヲ許サルノ習慣アリ。小作料ハ一畝ニ付キ六、七兩ヨリ十兩内外、又四川省ニ於テハ、米ヲ以テ小作料ニ代納シ、一畝五十兩内外ノ土地ナレバ、納米一俵(五斗餘)ヲ以テ通例トス。

## 九、桑葉ノ賣買及相場

前述ノ如ク土地ハ概ネ地方資産家ニ依リ兼併セラレ、且ツ地主ノ權力大ニシテ、桑樹ノ如キ永年作物ヲ小作スルニ安カラザル事情アルヲ以テ、養蠶家中自ラ桑葉ノ供給ヲ缺クモノ多ク、或ハ之ヲ地主ニ仰ギ、或ハ之ヲ市場ニ求メツ、アリ。現ニ某地主ハ自家ノ桑葉ヲ賣ル目的ヲ以テ、特ニ繭行ヲ開キ、繭ノ販賣ヲ容易ナラシメント圖ル者サヘアル有様ナリ。又桑葉市場ハ各地ニ開設セラレ取引頗ル殷盛ニシテ、就中廣東省ニ於ケル市場ノ如キ最モ注目ニ値スト謂フベシ、即チ同地桑葉市場ハ繭市場ノ一部ヲ使用シ、又ハ繭取引終了後ニ於テ開市スルモノニシテ、繭市場ハ何レモ河畔ニ建設セラレ居ルヲ以テ、三十斤内外ノ桑籠ヲ滿載セル小艇ノ輻輳シテ、賣買ヲ行フ狀實ニ壯觀ヲ極ムルモノアリ。市場ハ此際口錢トシテ賣買者相方ヨリ桑葉百斤ニ付一仙宛ヲ徵ス、四川省壁山ニ於テハ秤錢ト稱シ、一斤ニ付一文(約六毛)宛ヲ徵ス。

桑葉ヲ豫メ約定ニヨリテ賣買スルモノアリ、例ヘバ四眠期ニ於テ一擔幾何ト契約シ、或ハ桑樹ノ收葉量ヲ凡ソ何程ト推定シ、コレガ價格ヲ協定スルモノアリ。而シテ契約ハ大抵一月頃行ハレ前金ヲ以テ爲ストキハ割安ニ協定ヲナスコトヲ得、殊ニ十二月中ニ於テ行フトキハ更ニ低廉ナリ

ト云フ。

次ニ桑葉ノ取引相場ハ年ニヨリ又ハ地方ニ依リテ甚シク高低アリト雖、一般ニ桑價ハ繭價ニ比シテ常ニ高率ヲ保チツ、アルハ蔽フベカラザル事實ナリトス。

今左ニ各地ニ於ケル桑葉一擔ニ對スル相場ヲ示サンニ、

| 地名   | 最<br>高 | 最<br>低 | 平<br>均 | 繭<br>價<br>平<br>均 |
|------|--------|--------|--------|------------------|
| 蘇北縣鄉 | 六、〇〇元  | 二、〇〇元  | 三、五〇元  | 五四、〇〇元           |
| 同東鄉  | 六、五〇   | 一、二〇   | 五、五〇   | 六〇、〇〇            |
| 同西鄉  | 四、〇〇   | 三、〇〇   | 三、五〇   | 五一、六〇            |
| 浙新昌縣 | 六、〇〇   | 五、〇〇   | 五、五〇   | 六〇、〇〇            |
| 同黃澤  | 五、五〇   | 一、二〇   | 五、五〇   | 六〇、〇〇            |
| 諸暨縣  | 三、五〇   | 三、〇〇   | 三、〇〇   | 四七、六〇            |
| 同三城  | 四、〇〇   | 三、〇〇   | 三、〇〇   | 四七、七〇            |
| 同牌頭  | 五、〇〇   | 四、二〇   | 四、二〇   | 四六、〇〇            |
| 蕭山縣  | 八、〇〇   | 二、五〇   | 三、〇〇   | 五一、〇〇            |
| 江蘇無錫 |        |        |        |                  |

尙ホ其他ノ地方ニ就テハ正確ナル統計ヲ得ザルモ、山東省ニ於テハ一斤三仙乃至七仙（一貫約十八錢乃至四十錢）、廣東省ニ於テハ一擔二元内外（一貫約十二三錢）ナルヲ普通トス。然レドモ時ニ甚シキ暴騰ヲ來シ、一九一六年ノ如キ杭州ニ於テハ一擔（八十斤）九元ニ上リ、湖北省漢水沿岸



ニ於テハ百斤十五吊文マデ昂騰セルコトアリ。尙ホ近來江浙地方ニ於テハ、桑葉ノ價格漸昂ノ趨勢ヲ示シ、コレガタメ蘇州ニ於テハ養蠶ヲ廢シテ、桑賣ニ轉ジタルモノ少カラズト云フト聞ク。

### 一〇、殘葉及枝條ノ利用

支那ニ於テ桑樹殘骸ノ利用ニ付、相當意ヲ用ヒツ、アルハ眞ニ稱揚ニ値ス、今左ニソノ概況ヲ舉ゲントス

殘葉 夏秋季ニ於テ蠶兒ノ飼育ヲ行ハザルガタメ、晩秋ニ至リテ多量ノ桑葉ヲ樹枝ニ殘存ス、農家ハコレヲ採取シテ家畜、主トシテ羊豚ノ飼料ニ供シツ、アリ、而シテコレヲ生葉ノ儘家畜ニ與フルモノアレドモ、多クハ風乾貯藏シテ冬季ノ飼料トナス、四川省巴縣界石ニ於テハ、乾葉ヲ甘藷、蠶豆ノ莖葉ト共ニ剉切シテ給與スト云フ、蓋シ秋葉ノ利用ハ歐洲ニ於テ夙ニ行ハル、トコロニシテ、伊太利ニ於テハ生葉ノ儘、佛蘭西ニ於テハ葉トシテ賣買セラレ、ソノ價格ハ春季ニ於ケル約半額ナリト云フ。又桑葉ヲ埋藏シテ乳牛ノ飼料ヲ得ル方法モアリト云フ。

枝葉 山東省青城縣ニ於テハ、數里四方ニ互リテ根刈桑園ノ經營ヲナスモノアリ、ソノ目的トスルトコロハ全ク枝條ノ利用ニアリテ桑葉ハ隨時摘採ニ任セツ、アリ、而シテ枝條ノ皮部ハ製紙ノ原料ニ供セラル、又材部ハ籠其他ノ製作ニ用ヒラル、桑枝ハ柳枝ノ如ク柔軟ナラズ、從ツテソノ製品亦粗硬ヲ免レズト雖モ、頗ル頑丈ナルヲ以テ籠籠又ハ落花生油等ノ容器トシテ可ナリ廣ク應用セラルト聞ク、且ツ線絲ノ際使用スル繭杓子ノ如キニ至ルマデ桑枝ヲ以テ製作セラルト云フ。

尙ホコノ種桑樹ノ利用法ハ歐洲養蠶地ニ於テモ盛ンニ研究サレツ、アリ、今ソノ一例ヲ舉ゲン

ニ、一九一七年十一月一日發刊サレタル佛國絹業雜誌(Bulletin des Soies et des Soieries)ニ據ンバ、同國人 J. Boulton ナル一青年化學者ハ、コレヲ廢木ヨリ次ギノモノヲ製出スルコトヲ發見シタリト。

一、綿ニ酷似スル織物用纖維

二、填塞泥トシテ用フベキ紙泥

三、織物及ビ紙ノ糊附及仕上ゲニ用フベキ護膜

四、木醋酸

五、一種ノ染料

六、苛性トナリ得ベキ炭酸鹽ノ形ヲ有スル加里

七、肥料トナシ得ベキ灰

## 第二節 經營及設備

### 一、經營ノ狀態

支那ニ於ケル養蠶業ハ廣東、廣西兩省ヲ除クノ他ハ悉ク農家ノ副業トシテ經營セラレ、從ツテ規模一般ニ小ナルヲ免レズ。而シテソノ飼育量ニ至リテハ蠶種一定セザルヲ以テ、精確ナルヲ得難キヲ以テ、各地養蠶家ノ收繭量ヲ舉ゲテソノ大體ヲ窺ハントス。

即チ浙江省嵊縣ニ於テハ養蠶家ト稱スルモノ約三十斤ヲ産シ、少キハ五斤多キモ尙ホ二、三百斤ヲ出デズ。四川省璧山ニアリテハ、一戸ノ平均收繭額約二十斤、同紅爐場ニ於テハ四、五十斤

ニ當リ、又山東省ニ於テハ大崑崙及周村ニ於テ、何レモ平均三十斤内外ヲ産ス。仍テ試ニ在壁山又新絲廠繭買入場ニ持來リタル養蠶家ノ繭百口ニ付、各別ニ數量ヲ調査シタルモノヲ示セバ左ノ如シ。

| 數    | 量  | 口  | 數    | 數  | 量 | 口    | 數  | 數 | 量 | 口 | 數 |
|------|----|----|------|----|---|------|----|---|---|---|---|
| 五斤   | 未滿 | 四六 | 二十斤  | 未滿 | 六 | 四十五斤 | 未滿 | 二 |   |   |   |
| 十五斤  | 未滿 | 一五 | 二十五斤 | 未滿 | 二 | 四十五斤 | 未滿 | 〇 |   |   |   |
| 十五斤  | 未滿 | 一〇 | 三十斤  | 未滿 | 五 | 五十斤  | 未滿 | 二 |   |   |   |
| 十五斤  | 未滿 | 一〇 | 三十五斤 | 未滿 | 五 | 五十斤  | 未滿 | 二 |   |   |   |
| 二十五斤 | 未滿 | 八  | 四十斤  | 未滿 | 三 | 六十斤  | 以上 | 一 |   |   |   |

注 六十斤以上ノ一口ハ六十六斤ナリ。

右表ヲ以テ見ルモ、同地方ニ於ケル養蠶ガ如何ニ規模ノ小ナルモノナルカラ察スルニ難カラザルベシ。之ニ反シ廣東廣西ノ兩省ニ於テハ、一年數回ノ飼育ヲ行ヒ得ラル、ヲ以テ專業の大規模ノ經營ヲナスモノ多ク、即チ順德縣大良ニ於テハ普通養蠶家ノ掃立枚數ハ一期二、三枚（一枚ハ雌蛾六十枚ナリ）ニシテ、殺蛹繭百五十斤乃至二百斤ヲ收穫シ、中ニ八十枚以上ノ掃立ヲサヘナスモノアリト聞ク。

中部及北部支那ニ於ケル養蠶ノ規模既ニ斯クノ如クナルヲ以テ、蠶兒ノ飼育ニハ専ラ婦女子コ

レニ當リ、雇人ヲナスコト甚ダ稀ナリト雖、兩支那ニ於テハ養蠶ノ規模大ナルガタメ、蠶兒飼育ノ如キモ専ラ男子コレニ當リ、且ツ雇人ヲナスモノ尠カラズ。而シテ養蠶人夫ノ賃銀ニ至リテハ地方ニ依リ甚シキ差異アリト雖、今二三ノ地方ニ就テコレヲ掲グレバ、浙江省杭州及嵊縣ニ於テハ男子一日四十五仙内外ニシテ、食事ハ被傭人持トシ、又主家ニ宿泊スルガ如キ場合ニ於テハ一日十仙内外ヲ食費トシテ提供シ、雇主ヨリ賄ヲ受クルコトアリ。江蘇省蘇州ニ在リテハ、特ニ養蠶人夫ニ就テハ之ヲ聞カザルモ、普通農事ノ雇人ハ食費自辨ニテ一日三十仙、繁忙時期ニ於テ三十五仙内外ナリ、又年雇ハ食事付ニテ三十元乃至四十五元ヲ通例トス。近年勞銀著シク騰貴ノ趨勢ヲ示シ、今ヨリ十年前ニ比シ約一・八倍ノ割合トナレリ。四川省ニ於テハ物資一般ニ低廉ナルヲ以テ、勞銀亦至廉ニシテ、紅爐場裕蜀蠶桑社ニテ雇傭シタルモノヲ聞クニ、食費雇主持ニテ養蠶ニ經驗アルモノ一日百文(約六錢)經驗ナキモノ六十文(約四錢)ナリト。之ニ反シテ廣東省ニ於テハ生計費前者ニ比シ遙カニ高ク、且ツ規模大ニシテ雇人ヲ要スルコト多キガタメ、男子ハ食事自辨ニテ一日五、六十仙乃至八、九十仙、女子ト雖モ三、四十仙ノ支給ヲ受ケツ、アルガ如シ。

抑々支那ニ於ケル養蠶業タルヤ、南方廣東省ヲ除キソノ他ノ地方ニ於テハ、純然タル農家ノ副業トシテ經營セラレ、從ツテコガ收入ノ如キモ農家經濟上何等重要ノ地位ヲ占ムルニ至ラズ。コレガタメ勢ヒ斯業ニ對スル熱誠ヲ缺キ、コレガ豐凶ノ如キ一ツニ天候ノ如何ニ歸シ、敢テ飼育上改良ヲ施スガ如キコトナシ。事情既ニ斯クノ如クナルヲ以テ、經營ノ上ニ於テモ何等確タル方針ナク、動モスレバ投機的ニ流レ、從ツテ蠶業ノ基礎不安ナルヲ免レズ。殊ニ桑葉ノ賣買盛行



ハレ、買桑ニ依リテ養蠶ヲ行フモノ多キヲ以テ、斯業ノ伸縮比較的容易ニシテ、繭價昂騰セバ即チ掃立ヲ増加シ、低下バ忽チコレヲ廢スルガ如キ、亦珍シカラザル状態ナリ。今之ガ一、二ノ實例ヲ舉ゲンカ、一九一五年ニ井物産ニ於テ湖北省漢水沿岸ニ購繭ヲ試ミノ成績良好ナリシヲ以テ翌年片倉組其他日支兩國ノ購繭者多數入込ミ、夫々購繭ノ準備ニ着手シタルガタメ、地方ノ人氣大ニ緊張シ、養蠶家ハ相競ヒテ掃立量ヲ増加シ、前年ニ比シ約三倍スルノ盛況ヲ呈セリ。然ルニ壯蠶期ニ入り果シテ桑葉ノ缺乏ヲ來シ、桑價一擔十元ヲ唱フルニ至リ、農家ハ頗ル苦境ニ沈淪セリト雖、尙ホ繭ノ高値ヲ見越シ辛ジテ飼育ヲ繼續シタリ。然ルニ繭價ハ一時高調ヲ呈セシモ購繭者ノ手控ニヨリ忽ニシテ下落シ、結局養蠶家ハ多大ノ損害ヲ蒙リタルガタメ、翌一九一七年ニ於ケル掃立數ハ著シキ減退ヲ示セリ。又同年浙江杭州地方ニ於テモ前年ノ繭價高調ニ勵マサレ著シク掃立量ヲ増加シタル結果、同ジク桑葉不足ヲ告ゲ桑價暴騰ヲ來シテ、一擔(八十斤)九元ヲ超ヘタルガ爲メ蠶兒ノ投棄ヲ敢テセシモノアリ、一九一七年ニ於テモ同様掃立量ノ減少ヲ見タリ。

## 二、設備

蠶室 南部支那廣東省ニ於テハ養蠶ヲ專業トナスモノアルヲ以テ、特ニ蠶室ヲ設クルモノアリ、今コレヲ同省大良ニ就キテ見ニ家屋ハ煉瓦造ニシテ、間口一間半、奥行三間、高さ二間餘アリ而シテ一方ニ狹キ出入口アリ、窓ハ極メテ少ク、且ツ形ナリ、入口ニハ麻布ヲ垂レ窓口ニモ同様コレヲ張り蛆蠅ノ進入ヲ防グ、斯クシテ造ラレタル蠶室内ニ於テハ、六兩蠶種(雌蛾六十枚ヲ以テ産卵セシメタルモノ)

一枚ヲ飼育シ得ト稱ス。

中北部地方ニ於テハ概シテ農家ノ副業トシテ經營サル、ヲ以テ、蠶室ヲ特設スルモノ甚ダ稀ニシテ、總テ居宅ノ一部ヲコレニ充當シツ、アリ。唯本邦ニ留學セルモノ等ニ、往々突飛ナル大規模ノ養蠶ヲ企畫スルモノアリ、四川省裕蜀蠶桑社ノ如キソノ一例ニシテ、蠶室ハ約二千兩ヲ費シ長サ二十五間、幅四間ノ煉瓦造二階建トナシ、各室ハ間口二間半、奥行三間アリ、天井ノ中央ニ三尺四方ノ氣窓ヲ設ク、而シテ床ハ總ベテ「たたき」トナシ、別ニ刈桑場及地下貯桑ヲ備ヘ、氣拔ノ構造其他ニ於テ本邦ノ夫レヲ模倣スルトコロ多キヲ見ル。

元來支那ノ家屋タルヤ、四面土壁ヲ以テ塗上ゲ、床ハ凡テ土間若クハ石敷トナシ、本邦ノ如ク揚床ヲ設ケズ、天井マデノ距離高キヲ以テ、蠶兒ノ飼育ニ適スルガ如キモ、亦下級農家ノ住屋ニ至リテハ狹隘ヲ極メ、寢臺上ニ於テ飼育ヲナスガ如キモノ珍シカラズ、亦物置ニ類スル箇所ニ三脚棚ヲ建テ、稚蠶期ハ葭簀ヲ以テコレヲ圍繞スルガ如キモノモアリ。尙ホ注目ニ値スルハ蠶室トシテ廟社ヲ利用スルコトコレナリ。支那ニ於テハ古來偉人ヲ崇メ同族ヲ祠ルガタメ、宏大ナル廟社ヲ建築スルノ風習アリ、即チ養蠶家ハコレヲ利用シ、殊ニ上簇ノ如キ往々此所ニ於テ行ヒツ、アルヲ見ル。

蠶具　蠶架ハ本邦ニ於ケルガ如ク壁ニ沿ヒテ竹棚ヲ設ケタルモノアリ、又三個ノ直柱ノ間ニ丁字形ノ横段數個ヲ設ケ丁字形交叉部ニ於テ折疊ミトナスモノアリ、前者ニハ角籠、丸籠共ニコレヲ使用スルモ、後者ニハ總ベテ丸籠ヲ用ヒ室ノ一隅ニ据置クモノトス、三脚蠶架ハ五・六段ヲ有スル

モノニシテ價格約一元五十仙位ナリ、又天井ヨリ綱ヲ以テ數段ノ蠶籠ヲ垂下ゲ、以テ蠶棚ニ代ユルモノアリ。

蠶籠ハ浙江省ニ於テハ多ク丸籠ヲ用ヒ大サ直徑二尺五寸ヨリ四尺五寸位マデノモノ各種アリ、稚蠶期ニハ小籠ヲ用ヒ敷紙ヲ行フ、徑四尺ノモノ價四十仙、四尺五寸ノモノ五十仙内外ナリ。湖北省ニ於テハ角籠ハ長サ四尺、幅三尺内外ノモノヲ多ク使用シ、割竹ヲ以テ編ミタルモノ、又蔑ヲ押潰シ數本ヲ列ベテ網代形ニ編ミタルモノヲ用フ、三尺ニ四尺ノモノ價六仙、四尺ニ六尺ノモノ十仙内外ナリ。山東省ニ於テハ、長サ六尺、幅四尺位ノ蔑簀ニ竹ヲ渡シテ用ユ。以上ハ養蠶用トシテ特ニ準備シタルモノナリト雖モ各種ノ家具例ヘバ木盆、木蓋、竹箒等ノ類ヲ使用シ、甚シキニ至リテハ寢臺ヲ以テ直ニ蠶座ニ充ツルモノサヘアリト。

廣布省ニ於テ使用スル上簇籠ハ長方形ニシテ大小各種アリ、小形ナルハ長サ三尺幅二尺、中形ハ長サ三尺五寸幅二尺、大形ハ長サ四尺五寸幅二尺五寸位ニシテ、籠ノ全面ニハ細キ割竹ヲ以テ造レル小環ヲ尖出セシメ營繭ノ場所トナス、大籠ナレバ一枚ヨリ繭千五百顆ヲ得ベク、一枚ノ價格ハ一元二十仙内外ナリ。

次ギニ特殊ノ蠶具トシテハ、三脚棚ト同形ニシテ低キ給桑臺アリ、價格五十仙、又長サ四、五寸ノ臺ヲ圓盤狀ニ堅ク結束シタル給桑臺アリ、包丁ノ磨損スルノ慮ナク至便ナリト云フ、尙ホコノ他貯桑籠、桑摘籠、箕等ヲモ使用スル地方アリ。

滿州殊ニ關東州ニ於テハ在來ノ材料中廉價ニシテ適當ナルモノヲ得ンコトニ努メツ、アルガ、

近時蠶箔ノ如キハ剝皮セザル杞柳(普通ノ柳皮モ亦可ナリ)ヲ編ミ、縁ハ竹ノ代用トシテ桑幹ヲ利用シテ製作セルモノアリ。簇モ亦稻藁ニ乏シキヲ以テ、折簇(即チ島田簇)ノ如キハコレヲ使用セズ全部螟蚣簇ヲ使用シ、コレガ材料トシテハ藁ノミヲ使用セズシテ尙ホ他ニ粟稈、麥稈及雜草等ヲ以テ製作スルニ營繭及取扱上毫モ支障ナシト、或ハ高粱穗ヲ簇ノ代用トスルモ不可ナカラン。

## 江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ

瀬川 政雄

### 目次

|   |       |    |                |
|---|-------|----|----------------|
| 一 | 概論    | 七  | 川途             |
| 二 | 氣候及地勢 | 八  | 栽培法            |
| 三 | 土質    | 九  | 生産ニ影響ヲ及ボス特別ノ原因 |
| 四 | 米產地   | 一〇 | 農家經濟           |
| 五 | 種類    | 一一 | 結論             |
| 六 | 品質    |    |                |

### 一 概論

■産米地トシテノ江蘇、浙江ハ古來有名ナリ。品質ノ優良ナルト産額ノ多キト、相俟テ、支那ニ於ケル重要ナル穀庫トナリ居レリ。今統計月刊ニ依リシ江蘇省ニ於ケル農家戸數耕地面積等ヲ掲グ



レバ左ノ如シ。

| 農 家 戸 數<br>田 畑 面 積 | 一九一四                    | 一九一五                     |
|--------------------|-------------------------|--------------------------|
|                    | 四、八六五、〇九七<br>八五、八二四、五五七 | 四、五九三、一二〇<br>一四一、〇四二、二一四 |

江蘇省實業公司ノ調査ニ據レバ、全省ノ耕地面積ヲ四〇、七三九、七七六畝ト推算セリ。耕地面積中何割ガ稻作面積ニ相當スルヤハ、明カナラザレドモ、或人ハ約四割、或人ハ約二割五分ト推算セルヲ以テ、我ガ國ニ於ケル割合約五割ナルニ比スレバ、大體ニ於テ劣レルヲ知り得ベシ。

江蘇省ニ於ケル稻作ハ、従前米ノ移出自由ナリシ時代ニアリテハ、甚ダ重要ナル地位ニアリシモ、ソノ省外移出ノ禁止セラレシ以來、農民ハ自家消費ノ外ニ多額ノ生産ヲ爲スヲ好マズ、寧ロ近年ハ外國輸出ノ自由ナル棉花、大豆類ノ栽培ヲ爲シ、殊ニ上海通州附近ニ於テハ、米作ヲ廢シテ棉花ヲ栽培スルモノ益増加スルノ有様ナリ、然レドモ絶對生産額ヨリ見レバ、稻作尙大ナルモノアリ。茲ニ注意スベキハ、支那人ハ日本人ノ如ク米食人種ニ非ズシテ。ソノ利害ヨリ打算シテ食料ヲ變改スル事ヲ毫モ苦痛トセザル事ナリ。從テ米作ノ變動ハ我國ヨリモ大ニシテ、他作物ノ價格騰貴米價ノ騰落等ニ依リテ耕作面積ノ年ニ依リ變動スル事、我國ニ於ケルヨリモ甚シ。

今參考ノ爲メニ近年上海ニ於ケル米價暴騰ノ原因ヲ舉ゲテ稻作ノ現在ニ於ケル狀態及趨勢ヲ知ラントス。

(一) 農學ノ研究進マズ、土地生産力漸次衰退シ、施肥モ少ク、技術モ進歩セザルニ依リ、米産額次第ニ減ズル傾向ニアリ。

(二) 人口ノ増殖劇シクシテ、米産額ノ増加ト平衡ヲ保タズ、從テ次第ニ米ノ不足ヲ感ズル事多シ。

(三) 人口ノ繁殖甚シキ半面死亡率モ亦多ク。墳塚ハ日ニ熟田ヲ埋メ、加フルニ蟲害烈シクシテ、開墾事業進メルモ之ヲ補フニ足ラズ。

(四) 兵禍連年權勢日ニ兵ヲ募リ、農夫ハ忽チ變ジテ兵ト化シ、敗ルレバ散ジテ匪賊トナリ、地方ヲ擾亂シ、ソノ結果良民ヲシテ業ニ安セシメズ、農事以テ弛廢シ産額次第ニ減少ス。

(五) 東南ノ域人口稠密ニシテ失業ノ人多ク、西北ノ地方ハ人口稀薄ニシテ荒田多ク、人地ノ配交通ノ便共ニ備ラズ。此レガ爲ニ人口稠密ノ地方一度食料缺乏スレバ價格ノ暴騰ヲ來スナリ。

(六) 奸商巧ニ運動シテ護照ヲ領請シ、名ヲ軍糧ニ籍リテ輸出ヲナシ、ソノ量次第ニ増シテ底止スル所ヲ知ラザル位ナリ。

(七) 沿海ノ密輸出ハ行ヒ易ク、而カモ稽查行届カザルニ依リ、密輸出盛ニ行ハル。

(八) 棉花騰貴セル爲メ各省棉作地多ク、棉稻輪作ノ舊慣ヲ棄テテ棉花ヲ連作スル傾向大トナリ、ソノ結果米ノ生産額ニ影響ヲ來セルナリ。

(九) 米ノ輸出ハ利益多キヲ以テ奸商其ノ資ヲ傾ケテ囤積ヲ謀リ米價因テ昂騰ス。

(十) 米問題起ルヤ資力アル者ハ慌テテ先ヲ爭ヒ、多ク米ヲ買込儲蓄スル爲メ益々米價上騰ス。

又近因トシテハ、旱災、水災等ニ依ル減收ノ爲ニ米價ノ昂騰ヲ致セル事ハ言フヲ俟タザル所ナリ。

由來支那ニ於テハ米穀輸出禁止ヲ斷行シ來リ。省ニ依リテハ省外移出サヘモ禁ゼル所アリ。江蘇省ニ於テハ移輸出共ニ禁止シ居リ、只豐年ノ時ノミ特別ニ省外移出ノミ許可スル事アリ、江蘇省ニ於ケル稻作否！支那ニ於ケル農業ノ發達ニ對シテ、此ノ米穀ノ輸出禁止ハ、頗ル影響ノ大ナルモノアリ。之ニ關シテハ屢々先進諸賢ノ高論アレバ、今尙若輩ノ呶々ヲ要セザルベキガ故ニ、茲ニハ只防穀令ノ存スル理由ト思ハルモノ二三列記スルニ止メント欲ス

一、支那ニ於テハ古來農本主義ヲ以テ政治ノ根本觀念トナシ來レルヲ以テ、今ニ至リテモ依然固陋ナル農本主義ニ捉ハレ、自給自足ノ經濟ヲ夢ミテ、世界ノ大勢ヲ知ラズ、一般未ダ經濟的知識ニ缺乏シ、農事ノ發達進歩ニ専心ナラズ。

二、支那人ノ一般生活程度低クシテ、凶作等ノ場合、外國ヨリ穀物ノ輸入ヲ圖リ、之ヲ購置スルダケノ餘裕ナク、從テ凶作ノ場合ハソノ政治組織ノ不完全ヨリシテ飢民暴動ヲ惹起シ易ク、更ニ化シテ有力ナル團體トナリ、遂ニハ政治的革命的ニ移ル事少カラザルヲ以テ、官憲ニ取リテハ一大脅威タルナリ。此ノ故ニ官憲ニシテ輸出解禁ノ利ヲ知ル者アルモ、到底輿論ニ反對シテマデモ解禁シ得ザルナリ。

三、防穀令ヲ解ケバソノ間盛ニ奸商輩ノ跋扈スルモノアリテ、米價ヲ吊リ上ゲ、程度ヲ超ヘテ輸出シ、内地ノ米價ヲ暴騰セシメ、以テ一般人民ノ生活ヲ脅カス事トナル。

四、防穀令ヲ解ケバ穀價騰貴スル故、無爲徒食ノ讀書人階級ハ、之ニ極力反對スル者多ク、輿論ヲ喚起シテ一般ノ反對ヲ惹起スルニ至ル。日本ニモ保守的自給自足主義者アリテ支那ノ防穀令解禁ヲ喜バズ、此レガ廢止ニ關シテハ努力セザル者多キガ如ク思ハル。

五、昔ヨリ民ヲ富マスヲ以テ本トシ、常平倉其他ノ機關ヲ以テ凶作ニ備ヘ、米穀ノ他地方ヘ出ヅル事ヲ禁ジタリシガ、現在ニ至リテモ尙古キ因習ニ捉ハルル事多シ。

六、排日的氣分ノ濃厚ナル一部政治家其他ノ階級ニハ、感情上ヨリシテ米穀輸出解禁ニ極力反對スル者アリ。

七、近來米ノ收穫ノ増加少ク、往々ニシテ不足スル事有ルヲ以テ、益々解禁後ノ騰貴缺乏ヲ恐ルルニ至レリ。

八、米問題ヲ政爭ノ具ニ供シ、自己ノ利益ノ爲メニ解禁ニ反對スル者アリ。

九、解禁ノ利ハ貪吏奸商ノ利トナルモ、一般農民ヤ其他ニハ裨益スル所少シト云ヒテ反對スル者アリ。

十、解禁後ノ利益ハ中央政府ニ依リテ皆軍隊用トセラレ、人民ニ於テハ秋毫モ利ナシトテ反對スルモノアリ。

十一、督軍ノ軍隊維持ト解禁トノ間ニ多少關係モアルラシク思惟セラルレド、此ハ予ノ一家見ニ過ギザルベキカ。



## 二 氣候及ビ地勢

本省ノ地勢氣候ハ略三地帶ニ分カル。第一ハ北方地帶ニシテ、舊黃河ノ流域ヲ指シ、江北ト云フ。第二ハ南方地帶ニシテ揚子江ノ南ニ在リ。水路縱横ニ通ジ、灌溉ノ便ニ富ミ、農耕上人爲的設備發達シ、米穀、蠶桑ノ生産ニ富ム。第三ハ中央地帶ニシテ揚子江ノ北淮安府以南ヲ指ス。水路通ジ米ノ産又多ケレド、南方地帶ニハ及バズ。北部ノ徐州附近ハ米ヲ殆ンド産セズ、南方ハ土壤膏腴ナル上氣候溫和ニシテ、一年三回ノ農産ヲ得ル所アリ。江蘇省ハ一望千里ノ平野ニシテ僅ニ北部ナル山東省ニ近キ地ト西南ノ大湖南京ニ小山ノ有スルニ過ギズ。

雨量ハ南京觀測所ニテ測定セルモノヲ舉グレバ左ノ如シ。

一九一五年

一四九九・八耗

一九一六年

一二六六・一耗

南京附近ニ於テハ十一月頃ヨリ三月頃マデハ雨量少ク、四月頃ヨリ十月頃マデハ雨量多シ。支那諸省中ニ於テモ雨量ハ潤澤ノ方ナリ。氣候モ溫暖ナレバ稻作ニハ最モ適セル地方ト謂フヲ得ベシ。

## 三 土 質

江蘇省ノ大部分ハ沖積層ニ係リ、北部ハ舊黃河及ビ淮河ノ沖積ヨリ成リ、ソノ間往々黃土ヲ交

へ、以テ南方揚子江ニ及ブ。江南モ亦沖積層ノ地大部分ヲ占ムルモ、少シク山邱アリ、山岡ハ土トシテ砂岩、石灰岩、圓礫岩等ニヨリテ組織セラレ、南京附近ニハ又火山岩ノ散在セルアリ。東方濱海ノ地ニハ沖積層益々發達シテ新土壤形成セラレ、土人之ニ移住シテ開墾シツツアリ。南通縣農事試驗場ノ調査ニ據レバ、同地方ハ第四紀新層河成沖積粘質壤土ナリト云フ。揚子江一帯ノ沖積層ハ沃野ヲナセリ。

#### 四 米產地

上海ヲ中心トスル江南一帯ノ地域ハ、硬米即チ丸粒米ヲ産シ、江北地方ハ秈米即チ長粒米ヲ産スル事多シ。江陰、無錫、漂陽方面ニハ多少秈米ヲ産ス。今主ナル米產地ヲ示セバ左ノ如シ。

蘇州府

蘇州、崑山、黎里、同里、盧墟、金澤、平望、辻塔、常熟、眞義、唯亭、車坊、八付、陳墓

常州府

無錫

大倉府

南翔

江寧府

南京附近

松江府

松江、朱家角、上海附近、七寶、泗涇、張澤、張堰、松隱、後岡、亭林、葉榭呂港、廊下

鎮江府

鎮江附近

青浦縣

重固、安亭、白鶴港、趙屯港、歇馬橋、茜墩、米街角、章練塘

## 五種類

早稻、黃尖、硬米、紅米、求米等ニ區別セラル。詳細ハ東亞經濟研究第三卷第四號柏田氏ノ「支那米輸出解禁問題ノ將來」ヲ參考セラレタシ

支那產米ハ普通米及秈米ニ區別セラル。前者ハ日本米ト同種米ニシテ丸粒米ナリ。秈米トハ低濕ノ地ニ生ジ尖狀赤皮ノモノ、即チ日本ニテ「トウボミ」又ハ南京米ト稱スルモノナリ。秈米ハ普通米ニ比シ品質味共ニ劣レリ。而シテソノ產額ノ比ハ、秈米三、普通米二ノ割合トモ謂ヒ、或ハ相半バストモ稱セラル。陸田水田ノ產ニヨリテ早稻、水稻ニモ區別セラル。

地名ニ依リテ南幫米（角里地方米）、常幫米（常熟地方米）、蘇同米（蘇州同里米）、松江米（松江產米）、周莊米（周莊產米）等ノ名稱アリ。

新舊ニヨリテ新米、老米（陳米）ニ分チ、又種類ニ依リテ粳米、糯米ニ分ツ。精白ノ度ニヨリテ上白米、二白米、粳米、糙米（玄米）等ト稱ス。

今一九一五年農商部ヨリ全國優良米トシテ各省長官ヘ照會セルモノノ内、江蘇省ノモノヲ舉示スレバ左ノ如シ。

早粳有芒種 早黃稻（上海）

中粳無芒種 大紅稻（吳縣）、大鮮馨黃（常熟）、高白青（松江）、鐵梗青（同）、早白梗（同）、細莖粳稻（同）蘆梗青（同）、綠種（青

浦、無芒梗（漂陽）、

中稈有芒種

傍岸稻(上海)、大禾稻(吳縣)

晚粳無芒種

荻種(松江)、鐵梗黑(同)、搖矮子(同)、老來紅(同)、眞短種(同)

晚粳有芒種

晚寧黃(青浦)、芒晚稻(丹陽)、濃旺(松江)、徐家青(同)矮人樹(同)

晚稻無芒種

狗牙糯(丹陽)

早糯有芒種

早稻(青浦)

## 六 品 質

晚稻ノ品質優良ニシテ、就中松江米ノ秋稻ハ、内地ノ二等米ニ匹敵ス、松江米ハソノ質堅クシテ貯藏ニ堪ヘ粘氣強キモ、支那人ハ一般之ヲ賞味セズ、江南ノ地殊ニ江蘇ハ河沼、運河ノ爲支配セラレテ濕氣非常ニ多シ。其結果、如何ニ乾燥シタリトスルモ、江蘇米ハ尙ホ多少ノ濕氣ヲ免レザルガ故ニ、梅季ノ保存法ソノ宜シキヲ得ザレバ、腐敗又ハ黴ヲ生ズル恐アリ。支那米ノ雨季ヲ過セバ惡臭ヲ發スト謂フハ是ガ爲ナリ。

近藤農學士ノ報告ニ據レバ、支那米ハ外國トノ中間ニ位スト云フ。蛋白質ニ富ム米ハ堅クシテ粘着性ヲ有シ、品位上等ニ屬シ、脂肪、エーテル、浸出物分、及灰分ニ富ムモノハ、鬆弱ニシテ粘着性ニ乏シク、下等ナルモノトス。今江蘇米ヲ分析セシ成分率ヲ示セバ左ノ如シ。

| 蘇州米 | 水分     |        | 灰分     |       | エトテル浸出物 |       | 蛋白質    |        | 粗纖維   |        | 可溶無窒素物 |  |
|-----|--------|--------|--------|-------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--|
|     | 上      | 中      | 下      |       |         |       |        |        |       |        |        |  |
|     | 一七・四八四 | 一六・九八二 | 一七・八七〇 | 一・三一〇 | 一九五八    | 二・〇六〇 | 二・〇二八  | 七・四二三  | 一・四六九 | 七・〇三五六 |        |  |
|     |        |        |        | 一九九〇  | 二・〇六一   | 七・六一一 | 一・八〇〇  | 六九・五五七 |       |        |        |  |
|     |        |        |        | 一二九〇  | 七・四二二   | 一・一八七 | 七・〇二〇二 |        |       |        |        |  |

調査

江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ

(五二二)

一九五



南京米

| 上      | 中      | 下      |
|--------|--------|--------|
| 一六・二七二 | 一五・九七四 | 一八・六九一 |
| 一・五五七  | 一・六一四  | 一・七四六  |
| 二・三一二  | 二・一四二  | 一・五五九  |
| 七・六二九  | 七・三四八  | 八・〇一九  |
| 一・五二〇  | 一・五三二  | 一・五四〇  |
| 七〇・七〇九 | 七一・三九〇 | 六八・四四五 |

日本米

|      |     |     |     |     |      |
|------|-----|-----|-----|-----|------|
| 一四・五 | 〇・五 | 〇・四 | 七・七 | 二・二 | 七五・二 |
|------|-----|-----|-----|-----|------|

搗減リノ方面ヨリ觀察スルニ、支那米ハ一割乃至一割五分内外ニシテ、支那米中ノ主ナルモノヲ對照スレバ左ノ如シ

蘇州米

杭州米

湖南米

| 上米     | 中米     | 下米       |
|--------|--------|----------|
| 七・八歩   | 一割一    | 一割六      |
| 五歩     | 二歩     | 七歩八・九歩   |
| 五歩——一割 | 一割——二割 | 一・五割——二割 |

我國普通玄米ニ就キ、重量及ビ容量ノ搗減歩合ヲ調査セルモノヲ見ルニ次ノ如シ。

重量百分ニ對スル減量歩合

平均八分 最低六分 最高一割

容積百分ニ對スル減量歩合

平均一割四分 最低一割 最高一割七分

此ノ精白歩合ハ種々ノ事情ニヨリテ異ルモノニシテ、就中米質ノ優劣、乾燥ノ良否、死米、枯米等混入ノ多少、精米機ノ構造混砂ノ有無等ハ重大ノ關係ヲ有スルモノナリトス。

早稻ハ品質堅ク、粒形圓ク色澤潤ニシテ飯ニスレバ多クシテ稍硬シ、晚稻ハ品質稍鬆ニシテ形扁大ニ色澤美シク飯ニスレバ煮減スルガ如ク且軟ナリ。秈米ハ堅質長形ニシテ細キモノアリ。細

クシテ短カキモアリ、尖形ニシテ飯ニスレバ頗ル多シ、糯米ハ形細クシテ其實概ネ軟カナリ。又陸稻ヲ植ユル所アレド品質ハ惡シト云フ。水稻ニテモ降雨ヲ僥倖トシテ植付クル地方ニテハ若シ降雨ノ不順ナル時ハ殆ンド陸稻ト同ジク、品質モ極メテ粗惡トナリ、粘質ナノ到底需要ヲ充シ能ハズシテ只貧困ナル農家ノ食用トナルノミナリトス。

一九一〇年南京ニ於テ開催セラレタル博覽會ノ調查報告ニ據ルニ、出品物中米ハ次第ニ良種ノ圓形種ヲ増加セリト云ヒ、日本ヨリ種子ヲ取リテ栽培セルモノモ増加ノ傾向ナリト記シ。且ツ濕氣害虫ノ爲ニ著シク品質ヲ損ジタルモノ少カラズ、赤米ノ混ズル事モ多シト云フ。

## 七 用 途

支那ニテハ常食ノ外黏糕(餅)ヲ作り、之ニ玫瑰花(薔薇ノ一種)ヲ混ジ、香味ヲ附シテ之ヲ食ス。其他米ニテ種々ノ菓子ヲ作りテ販賣ス。而シテ支那ノ陸稻ハ我國ノモノノ如ク粘質少ク、從テ煮ヘ難シ。香稻米ト稱スルモノハ、粥ヲ作ルニ尤モ適シ、紅白ノ二種ニ分レタリ。冬春米即老米ハ、北京人最モ之ヲ好ムト云フ。硬米ハ釀造用ニ供シ、秈米ハ稜子米トモ云ヒテ、尤モ品質劣リ南支地方殊ニ浙江省ノ紹興府ニ産スル老酒ハ、皆此米ヨリ釀造セラルルモノニシテ、一般支那人ノ好ンデ飲用スルモノナリ。

## 八 栽培法

江蘇ハ多ク一毛作ニシテ、上海附近ニ於ケル米作ハ、ソノ時期本邦ト相似タリ。

舊曆三月下旬乃至四月下旬ニ於テ、本田一畝(約我ニ百坪)當リ三四升ノ割ニテ播種ス、播種後三週間乃至一箇月ヲ經過シ、稻苗四五寸ヨリ七八寸トナルニ及ビ、之ヲ本田ニ移植ス。本田ハ常熟地方ハ米ト麥又ハ野菜ヲ輪作シ、松江附近ニテハ米又ハ棉ト麥又ハ野菜ヲ輪作ス。上海附近ノ耕作式ハ自由式多キモ、米田ハ多ク麥ヲ植ウル故、麥ヲ刈取リテ後水ヲ灌ギ、牛犂ヲ用ヒテ耕耨シ、平トシテ後插秧ス。株間ハ三四寸ニ過ギズシテ、稍狭キニ過グルノ感ナキ能ハズ(南通縣)。本田ニ移植後ハ三週間毎ニ一回除草スルヲ普通トスレドモ、除草僅ニ一回ニ留マルモノ少カラズ、施肥ハ成長期ヲ通ジテ二三回ヲ普通トス。肥料ハ土地ニヨリテ異レドモ通常ハ豆粕、菜種油粕、胡麻油粕、堆草、河泥等ノ植物肥料多ク、人糞尿、家畜等ノ如キ動物性肥料之ニ次グ。礦物性肥料ハ頗ル稀ニシテ、漢口附近ニ於テハ骨粉ヲ多少使用スルガ如シ。

植付ノ前後ニ於テ用ヒラルル肥料ハ、各方面ヨリ之ヲ集ムルモノニシテ、施肥ニ一定ノ時期ナク、常ニ之ヲ行フ。即チ市街地村邑ノ糞便及ビ路傍到ル處ニ在ル原始的便所ノ溜物ハ悉ク之ヲ貯藏シテ使セラル。而シテ此ノ糞便ハ之ニ水ヲ加ヘ、朝夕常ニ柄杓ヲ以テ桶ヨリ植物ニ灌グ。其他河、溝用たんくノ泥ヲ集メ、或ハ道路ノ塵芥、理髮屋ノ毛髮又ハ紙屑等ヲ集メテ肥料トナスモノニシテ、實ニ廢物ヲ利用スルニ巧ナリト謂フベシ。

除草施肥、耕作ニハ、水牛、馬、騾等ヲ用ヒ、人力ニ依ル事少ク、農具ニハ灌水機、犁耙、翻爬、鎌刀、掃帚、釘爬、鋤頭、又楊等ヲ用フ。

收穫期ハ早稻六月中旬、中稻八月中旬、晚稻十月ノ初ナリ。一畝ニ對スル植付收穫等ノ人夫數ハ、播下一人、移植一人、整地一人、刈取二人位ニシテ、稻田ニ出ヅルモノハ皆男子ナルガ、是レ婦人ハ纏足セルヲ以テ、稻田ニ入ル能ハザルニ因ル。今一畝ノ收量ヲ舉グレバ左ノ如シ。

一畝ヨリノ粃收穫量

一畝ヨリノ米收穫量

我一反歩ニ換算收量

支那石

同

日本石

| 蘇州地方 |      |      |      | 南京地方 |      |      |      | 鎮江地方 |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 上    | 中    | 下    | 平    | 上    | 中    | 下    | 平    | 上    | 中    | 下    | 平    |
| 田    | 田    | 田    | 均    | 田    | 田    | 田    | 均    | 田    | 田    | 田    | 均    |
| 五・八〇 | 四・二〇 | 二・〇〇 | 四・〇〇 | 三・〇〇 | 二・五〇 | 二・〇〇 | 二・八〇 | 四・〇〇 | 三・〇〇 | 二・〇〇 | 三・〇〇 |
| 三・〇〇 | 二・〇〇 | 一・七〇 | 二・〇〇 | 一・五〇 | 一・二〇 | 一・〇〇 | 一・二三 | 二・〇〇 | 一・五〇 | 一・〇〇 | 一・五〇 |
| 二・五〇 | 一・七〇 | 〇・八五 | 一・七五 | 一・二〇 | 一・〇〇 | 〇・八〇 | 一・〇〇 | 一・七〇 | 一・二〇 | 〇・八〇 | 一・二三 |

南通縣ニ於ケル一畝收穫量左ノ如シ。

稻ノ種類

收穫期

上 田

中 田

下 田

秈

稻

白

露

支那石

二・五

一・〇一—一・五

秈

稻

秋

分

四・〇

同

同

糯

稻

同

三・五

同

同

調査

江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ

(五二七)

一九九



又江蘇省下各地ニ於ケル上田一畝收穫量左ノ如シ

寶山縣

二・支那石

(我國一反歩換算)

一・七日本石

海門縣

同

(同)

同

秦縣

一・五〇

(同)

一・二同

由徒縣

同

(同)

同

之ヲ通覽スルニ、江蘇省下ニ於ケル、米收穫量ハ、我一段歩ニ付平均一石以上ナルガ如シ。

稻作ニ對スル勞力、費用ニ就テ、「支那經濟全書」ニ記載セルモノヲ參照スレバ左ノ如シ。

蘇州地方ニアリテハ、男二人ニテ牛一頭ヲ使用スルトキハ、凡ソ三十畝ヲ耕作シ得ベシ、雇人ノ賃銀ハ一ヶ年十五弗乃至二十弗ナリトス。雇人ノ食料ハ日本ニ行ハルルト同ジク雇主ノ支辨ニ屬ス。一畝ニ使用サルル肥料ハ一ト二弗ニシテ地租ハ米納一斗及銀一錢ヲ兩期ニ納ム。

一畝ニ對スル總生産費ハ畜力ヲ使用スルト否トヲ平均シテ、勞力費五百文、肥料代一弗、計一千四百文ヲ以テ足ルベシ。此ノ外ニ納租六百五十文ナルガ故ニ一畝ノ生産費ハ二千文以上トナルベシ。

農商公報(一九一五年十一月)ニ據ルニ、左ノ如シ。

每畝所需之耕種費 三元餘

每畝合金之收成 每畝出產金二十元

每英畝耕耘所需人工 每畝耕種人工四十八個

## 九 生産ニ影響ヲ及ボス特別ノ原因

支那ニ於テ耕作技術ノ外ニ、生産ニ影響ヲ及ボス特別ノ原因略三アリ。(一)旱魃(二)水災(三)

蟲害即チ是レナリ。此ノ三原因ノ米ノ豊凶ニ影響ヲ及ボスコト頗ル大ニシテ、人爲的施設ノ發達セザル所ニアリテハ、殊ニ然ルヲ見ル。荒地面積ニ就テハ、一九一四年ノ調査ニヨレバ、全省面積ノ一・四七％ニ當リ、支那全體ノ平均五・二九％ニ比スレバ、遙ニ少キヲ知ル。

又、同年調査ノ農田災歎面積ヲ見レバ左ノ如シ。

| 風雨ノ被害面積   |         | 計           |      |
|-----------|---------|-------------|------|
| 農田面積      | 園圃面積    | 農田面積        | 園圃面積 |
| 一、四二八、二二〇 | 一六五、六四七 | 一、五九三、八六七   |      |
| 被水面積      | 七〇一、八四七 | 五、五〇八、九六五   |      |
| 被旱面積      | 二七三、三六六 | 四九一、三八一、〇九八 |      |
| 被雹面積      | 七〇      | 四一一、六二〇     |      |
| 被蟲害面積     | 一六二、八五〇 | 二、七八七、〇六四   |      |
| 被病害面積     | 六八、六八〇  | 四六九、七九一     |      |
| 其他ノ被害面積   |         |             |      |
| 無         |         |             |      |

此ニ依リテ觀レバ、旱害最モ大ニシテ、水害之ニ次ギ、蟲害風雨ノ害トナル順序ナリ。旱害ハ江南地方ハ水路ノ便多キヲ以テ、比較的少キガ如シト雖、江北地方ハ農耕發達セズ、旱害ヲ受ク

ル事江南ヨリ又多シト云フ。虫害ト云フハ、主トシテ蝗害ニシテ、其害甚シク、古來法ヲ設ケテソノ驅除ニ勞セルモ、亦偶然ニアラザルナリ。

## 一〇 農家經濟

南通縣ニ於ケル農家經濟ノ狀態ヲ觀ルニ次ノ如シ。

### (甲) 生活費及ビ收支計算

該縣ノ農民ヲ分チテ大體上、中、下ノ三種トス。上戸ハ約一割ヲ占メ、中戸ハ二割、小戸ハ約七割ヲ占ム。上戸ノ田ハ二三三百畝ヨリ千餘畝ニ至リ、中戸ハ三四十畝ヨリ百餘畝ヲ有シ、下戸ハ二三畝ヨリ二十畝ニ至ル。上戸ノ生活費ハ定マリナシト雖、中戸ニテ一家六人ノ家族ニテ年約四十畝ノ地ヲ耕スルモノハ、生活費相償ヒ、下戸ニテ六人ノ家族有ルモノハ、年約十六畝ノ地ヲ耕シテ、生活費收支相抵ル。

今假リニ六人ノ家族アル下戸アリトシ、其中三人ノ壯丁アリ、老人一人子供二人トシテ、共ニ十六畝ノ地ヲ耕セバ、其一年間ノ生活費、收支計算即チ次ノ如シ。

### 收入ノ部

(一) 種麥及稻時 二百二十元八角

(二) 種麥及大豆時 二百二十八元八角

(三) 種麥及玉蜀黍時 二百十七元六角

(四) 種麥及棉花時 二百五十一元一角

前記ノ數ハ假リニ、麥ハ每畝八斗ヲ收メ每斗六角トシ、稻ハ每畝收米一石トシ値九元五角、玉蜀黍每畝一石六斗ヲ收メ每石値五元五角、棉ハ每畝百實棉斤ヲ收メ値十一元トシテ計算セルモノナリ。此レハ價格高低アルモノヲ中ノ價值ヲ採レルモノナリ。

支出ノ部

(一)米及麥屑 九十元 (二)其他食物三十六元 (三)衣服費 十八元 (四)雜費 十二元(五)

租稅及小作料 十八元 (六)農業資本 六十四元 合計 二百二百二十七元

右記スル數ハ即チ毎年麥屑十三石ヲ費シ一石五元トシ、下米三石ヲ費シ、每石八元三角トシ其他油鹽、蔬菜等毎日一角ヲ費シ、農業資本ハ每畝肥料二元、工人二元ト作シ又全體地稅共二元トナス。小作料ハ四十八元トナシテ計算セルモノナリ。但シ此ノ中伸縮スベキモノアリ。即チ農家ニテ能ク勤作シ得ルモノハ雇人ニ對スル支出ヲ減ジ得ベク、若シ大豆ヲ種ユル時ハ、肥料代ヲ節約シ得ベク、又若シ土地ガ自己ノ所有ノモノナレバ小作料ヲ免レ得ベシ。此外農民ニハ尙副產物收入有リ、農閑ノ時ハ手工ヲ兼ネ行フ故、以テ收支相抵ルベキナリ。茲ニ記セル生活費、米及麥屑共十六石ナルモノハ、即チ六人毎日粥二餐ヲ喰ベ、飯一餐ヲ吃シ、平均每人毎日七合五勺ヲ費スノ量ナリ。(但此ノ斗ハ每斗重サ十四斤ナリ)

(乙) 小作人(佃戶)

農家ニシテ土地ヲ有セズ借リテ以テ耕作スル者ヲ佃戶ト云フ。該縣佃戶又少カラズ。



其ノ地主トノ間ニ於ケル農産物ノ分配ヲ觀ルニ、普通地主四分佃戸六分、或ハ各半分宛ナリ。地代ヲ金錢ニテ納ムルモノハ田ノ上下ニヨリテ差アリ、每畝三元ヨリ四五元ニ至ル。通常佃戸ハ先ヅ訂首ヲ地主ニ納メザルベカラズ、訂首トハ田地ヲ小作スルニ當リ、先ヅ銀訂ヲ以テ之レヲ定ムルノ意ニシテ、商人ガ店ヲ借ル時ニ納ムル押租(敷金)ニ似タリ。訂首ハ小作期滿ツル時ハ、之ヲ小作人ニ返還スルモノトス。

(丙) 農業労働者ノ狀況

農民ハ家族ノミニテ勞力ニ不足ヲ生ズル時ハ、他人ヲ傭ヒ又ハ労働者ヲ雇使シテ、ソノ不足ヲ補フヲ常トス、同縣ニ於ケル此種労働者ヲ分チテ長工、臨時工及ビ包工ノ三種トス

一、常工——傭主ノ家ニ住居シテ合力操作シ、家人ト異ル所ナシ。飯食ハ傭主之ヲ給ス。工賃ハ年十八元乃至二十四元ニシテ、女工ハ更ニ少シ。

二、臨時工——食事ヲ加ヘテ日給銅貨二十枚ニ過ギズ。麥刈時ノ如キ農忙時ニハ増シテ二十五六枚ニ至ル事アリ。

三、包工——仕事ノ多少ニ依リテ兩方合意ニ約定ス。

臨時工ニハ常ニ女工ヲ用フ、是レ處郷間ニハ女子ノ纏足スルモノ少キト、賃銀比較的安ク日給銅貨十三四枚ニ過ギザルトニヨルナリ。

労働者ノ毎日操作時間ハ夏日ハ午前七時ヨリ十一時ニ至リテ止ミ、午後ハ十二時半ヨリ六時ニ至リテ止ム。人力ノ外畜力黃牛、水牛及牛等ノ畜力ヲモ用ヒ、之ガタメニ日給銅貨八十枚乃至百

枚ノ勞働者一名ヲ僦用スルモノアリ。

(丁) 農地價格

同縣ノ農地價格ハ十餘年前ハ每畝上地二十餘元、中地十餘元、下地約十元ニ過ギザリシガ、今ヤ三分ノ一ノ上騰ヲ示シ、甚シキハ倍加セルモノサヘアリ。是レ該縣ニ於テハ近年棉花ノ需要増加シ、ソノ栽培ハ他作物ヲ種ユルヨリモ、利益大ナル故ナリ、例ヘバ今同縣ニ於テ田一畝ニ稻ヲ種ユレバ年約米一石餘ヲ得ベク、價值九元其中肥料代二元ヲ控除スレバ、七八圓ヲ得ルニ過ギズ、大豆ヲ種ユレバ約一石ヲ得、價九元五角即チ肥料ヲ下サズシテ收益十元ニ過ギズ。今棉花ヲ種ユレバ仔棉百十、二十斤ヲ得、平均百斤十一元ナレバ、假リニ其内肥料代二元ヲ差引クモ、收益十一、二圓ニ及ブ。故ユ今マデ稻、豆、胡麻、玉蜀黍等ヲ種ヘタルモノモ、今日ハ多ク棉花ヲ植ユルニ至レルヲ以テ、農地ノ價格ハ自ラ騰貴ヲ來セルナリ。

崑山地方ニ於ケル農家事情ノ一斑ヲ記スレバ左ノ如シ。

(甲) 一般風習

此地ハ上海、蘇州ニモ近キガ故ニ、都會ニ於ケル奢侈ノ風浸潤シ來リ、嫖、賭、鴉片、迷信等ノ弊風盛ニシテ、元來富裕ナラザル農家ノ資産ハ之ガタメニ益々害セラルル傾向アリ。小作人ニハ夫婦者多ク、借地ノ最多ナルハ三十畝位ニシテ、マタ牛ヲ使役セリ。コノ地方ノ小作人ハ純粹ノ小作人ニ非ズシテ、多少ハ皆自田ヲ有ス。是レ長髮賊ノ亂後、荒廢セル土地ヲ耕シテ自己ノ所有トセルモノ多キガ故ナリ。コノ地方ハ迷信盛ニシテ、疾病ト雖モ醫藥ニ依ラズシテ、巫子ヲ呼

ビ旗ヲ立テ、大鼓ヲ敲キ鶏、豚等ヲ屠リテ神ニ供フルガ故ニ、費用一回少クモ五六十元ヨリ七八十元ヲ要スト云フ。斯ル有様ナルガ故ニ、一回ノ病氣ニテ一畝二、三十元ニ過ギザル田地ハ直ニ之ヲ失フ事稀ナラズ。田地ヲ賣却スニモ體面ノ關係、地價騰貴ノ見越等ニヨリ、直チニ賣却スルコトナク、抵當トシテ金ヲ借入スルコト多シ。十元ヲ借リルニ八斗ノ利息ヲ納メザルベカラズ、之ヲ十元八斗ト謂フ。又コノ地方ノ田賦ハ受負制ニシテ、積弊甚シク、コノタメニ自作農ハ驚クベキ害毒ヲ被リツツアリ。尙コノ上農民ノ負擔ヲ重カラシムルハ、婚姻ニ關スル惡習ナリトス。此レハ體面上ヨリ高利ノ金ヲ借リテマデモ、多クノ費用ヲカケテ行フモノニシテ、此ノ爲三、四十元ノ金ヲ費消スルヲ普通トス。

## (乙) 小作料

従前ハ小作人ガ田地ヲ借入ルルニ、保證金ヲ要セザリシガ、今ハ然ラズ。コノ保證金ヲ田面費ト稱ス。近來租稅重ク且ツ肥料其他ノ費用増加セルヲ以テ農家ハ餘裕アル收入ヲ得ル能ハズ、小作地次第ニ増加シ、從テ田面費ナル制度ノ發生ヲ見ルニ至レルナリ。小作料ハ一定セズ、田地ノ良否ト作柄ノ如何ニ依リテ一畝ニ付最少七斗ヨリ最多一石ニ至ル。地主ハ小作料ヲ取立ツル約一月以前ニ租稅納付期日ヲ縣署ニ豫報スルモノニシテ、若シ納稅ノ期日ニ遅ルレバ收稅官吏ハ村ニ出張シ先ヅ小作料ヲ納メザル小作人ヲ捕フ。カクナレバ釋放セラルルマデニ小作料ハ勿論其他世話人ヘノ謝禮收稅官吏ヘノ草鞋錢ナドニテ少カラザル金ヲ要ス。

古來凶年ニハ田賦ノ免除サルルコト多ク、コノ場合ハ小作人ハ小作料ヲ納メズシテ可ナリ。小

作人ノ最モ困難スルハ、凶作ニ至ラザル不作ニシテ、小作料ハ例年ノ如ク徵收セラレ、若シ之ニ應ゼザレバ、一點ノ慈悲モナク訴ヘラレテ獄舎ニ呻吟スルノ悲運ニ陷ルナリ。

### (丙) 自作農

比較的小康ナルハ十畝乃至三十畝ノ田地ヲ有スル自作農ナリ。彼等ハ家人ノミニテ勞力ニ不足ヲ來ス時ハ、農繁期ニ散工或ハ長工ヲ雇入ル。又便利ナルハ盤工ト稱スル自作農同志ノ勞力交換ナリ。之ト他家ノ爲ニ幾日カラ手傳ヒ次ギニハ他家ヨリ人來リテ幾日カラ手傳フ制度ニシテ、勞力ハ之ニヨリテ都合ヨク按配セラル。

## 一一 結 論

寒風膚ヲ劈ク嚴冬ノ晨モ、炙熱灼クガ如キ三伏ノ晝モ、終日野良ニ出デテ孜々トシテ働キ、一飯一菜ノ粗末ナル食事ニモ満足シツツ生活スル農民ヲ考フル時、他面無爲徒食ノ地主、官吏ノ豪奢ナル生活ト對照シテ、聊カ感慨熱キ能ハズ。支那ノ農民ハ地主、官吏、商人等ヲシテ豪奢ナル生活ヲ營マシムル爲ニ自己ヲ犠牲ニ供シツツアリト云ツテ過言ニハ非ラズ。何故ニ彼等ハ貧困ナリヤ。何故ニ支那ノ農業ハ不振ナリヤ左ニ聊カソノ原因ヲ探究セント欲ス、

(一) 農ハ古來國家ニ重セラレタルト共ニ、國家財源ノ根本タリシヲ以テ、歷代頗ル苛重ナル負擔ヲ課セラレ、爲ニ漸ク經濟的苦痛ヲ感ズルニ至リ、一方官途ニ就クノ途開ケタルヲ幸ニ、材幹アルモノハ農村ヲ去リテ士ニ入り、商ニ走り、從テ農村ニハ材ニ乏シク、發達進歩ノ力ヲ失



ヘリ。

(二) 古來兵亂多ク、又土匪其他流賊ナドニ依リテ農村ヲ荒サレ、農民ハソノ業ニ安ンジテ働クヲ得ザリキ。現今ニ至ルモ依然トシテ然リ。

(三) 旱魃、水災、蝗害等ノ害甚シクシテ、屢大凶作トナリテ饑餓ニ瀕スル事少カラズ。而シテ之ニ對スル豫防設備充分ナラズ。

(四) 鐵道普及セズ、道路不完全ニシテ、農產物ノ搬出其他ニ不便多シ。

(五) 農民ハ尤モ保守的ニシテ、只祖先傳來ノ法ヲ傳ヘテ耕作スルノミ。從テ品種、栽培法、施肥其他一般技術上ノ缺陷頗ル多シ。

(六) 農民ニハ無學文盲ナルモノ多ク、科學的改良發達ノ方法ヲ注入スルニ不便多シ。是レ農村ニ於ケル學校設備ノ不完全ナルト、農民ニ餘裕ナキ爲、子弟ヲシテ通學セシムルニ至ラザルニ由ル。

(七) 官吏奸曲ヲ事トシ苛斂誅求多クシテ、農民ハ之ニ苦シメラルル事多シ。

(八) 地主ノ壓迫甚シク、給料ノ前渡し、小作人ニ對スル保證金ノ搾取、其他奸策多ク行ハレテ無智ノ農民ヲ壓迫ス。而シテ最モ厭フベキハ、官權ト結托シテ小作人ヲ壓迫スル事ナリ。支那ノ地主ニテ第一ニ擧グベキ特色ハ、田地ヲ所有シ農村ニ住メド只貸付地ヨリ生ズル小作料ニテ豪奢ナル生活ヲナシ、毫モ農事ニ貢獻シ農民ノ爲ニ利スル事無キ事はナリ。

(九) 商人團結シテソノ經濟的勢力ヲ以テ農民ニ臨ミ、農產物ノ利益ヲ壟斷シ農民ハ之ニ對抗ス

ルニ足ル團結力ト資力無キガタメ、常ニ商人ノタメニ利益ノ大半ヲ奪ハレ勝ナリ。

(一〇) 防穀令省外移出禁止等ノ法アリテ、農產物ノ價格騰貴ヲ妨ゲ、又輸出税ハ輸出農產物ノ價格ヲ不廉ナラシメ、マタ官吏ノ中飽アリテ、結局農民ノ收益減少ヲ來シ、ソノ結果農事ノ改良發達ヲ妨グル事甚シ。

(一一) 農事獎勵機關不備ニシテ農業ノ研究遅々タリ。又農會アレドモ未ダ成績ヲアグルニ至ラズ。政府ノ力薄弱ナルト行政機關ノ不備ナル事モ農業ノ不振ニ影響スルトコロ多シ。前述ノ如ク農村ノ指導者タル地主階級ノ無爲モ甚シク農業ヲ不振ナラシム。農業學校、農事試驗場等ノ不足モ、亦農業ノ發達ニ影響スル事多シ。

(一二) 農民間ニ迷信多クシテ徒ニ無益ノ費用ヲ之ガタメニ費ス事多シ。又冠婚葬祭ヲ重ンズル結果此レ等不生產的方面ニ注入スル費用モ大ナル負擔トナリ居レリ。

(一三) 支那ニ於テハ衆子分配制度行ハルガ故ニ、下級農民ニアリテハ土地其他ノ農業資本ノ分割ヲ來シ、漸次資本ノ減少甚シクナル傾向アリ。衆子分配制度ハ一子相續制ニ比シテ優レル點モアレドモ農民ニアリテハ餘リニ貧困ナル小農ヲ多クシ農業ノ進歩發達ニ對シテ好影響アルモノトハ思惟サレズ。

以上種々ノ方面ヨリ、江蘇省ニ於ケル稻作ニ就キテ考案スルニ、稻作將來ノ盛衰ニ關シテ最も重大ナル關係ヲ有スルハ、防穀令ナリトス。若シ徒ニ米穀ノ輸出禁止ヲ實行シテ、ソノ價格ヲ低ク維持セントセバ、農民ハ次第ニ他ノ有利ナル作物ノ栽培ニ趨ルヲ以テ、米產額ノ減少ヲ來シ、却

テ不利ナル結果ヲ招致スベシ。然レドモ防穀令ノ存在ニハ又相當ノ理由ノ存スルアリテ、今之ガ撤廢ヲ直ニ實行スベシトモ思ハレズ。果シテ何時ノ日ニ於テカ此レガ撤廢ヲ見得ル事ナルヤ。吾人江蘇省否支那農業ノ發展上此ノ惡制ノ一日モ速ニ撤廢サレン事ヲ切望シテ止マザルナリ。

## 雜 錄

### 支那人まほめつと傳 (一)

菱 川 精 一

「支那人まほめつと傳」(a Chinese Life of Mohammed) は、あいざつく、めーそん氏 (Isaac Mason) が千九百十九年四月二十九日王立亞細亞研究會 (Royal Asiatic Society) ニテ講述シ、次で同會定期雜誌 (Journal) ニ掲載セルモノヲ茲ニ譯出スルノデアル。

我研究會ハ六十有餘年ノ歴史ヲ有シ、其雜誌ハ夙ニ五十餘ノ卷數ヲ重ヌルニ至ツタガ、未ダ、支那ニ於ケル回々教徒ヲ論ズル稿ヲ見ナイノデアル。尤モ、回々教徒ガ久シキ以前ヨリ支那人口ノ可成ノ部分ヲ占メキルハ徧ク熟知サレタル所デアル、而シテ其數ニ於テハ甚ダ意見ヲ異ニシ、茲ニ逐一論ズルノ要ナキモ、現今概略八百萬即チ支那現住民ノ五分ノ一ハ回々教「預言者」(以下括弧ヲ附スル預言者)ノ信徒ト推定シテ差岡ナイ(ハまほめつとノ意デアル)

ノデアル。回々教歴史家ニ依レバ、まほめつと存命中既ニ布教ノ目的ヲ以テ若干ノ宣傳使ガ支那ニ派遣サレ、海路ヲ經テ廣東ニ至リ、最初ノ寺院ヲ建立シタノデアル。他ノ傳説ニヨレバ紀元後七世期ニ回々教ノ宣傳使ガ陸路ヲ經テ西安府ニ至リ教ヲ扶植シ、併モ爾後數千ノ回々教軍人ガ支那ニ定住シテ支那人ヲ妾妻ニ娶リテヨリ教ハ一層急激ニ擴ツタノデアル、支那ニ於テ今日見ルガ如キ回々教徒ノ多クハ蓋シココニ原因スルノデアル。此等ノ論據ハ歴史的二正確ナリヤ否ヤ、其他支那ニ於ケル回々教ノ興味アル諸點、詳細ノ事ハ他日紙上ニ論ズルコトトシテ、今回ハ支那回々教徒ニ映ジタル回々教ノ中心人物即チまほめつと及ビ其教ノ起原ヲ述ベヤウトスルノデアル。

回々教ノ搖籃地ヲ離レタル此遠キ土地ニ於テ而モ教ノ出生地ト著シク異リタル環境ニアリテ教ノ活力ヲ千有餘年間保持セシメシニ止マラズ而モ大ニ發展膨脹シテ現今ノ擴張ヲ見ルニ至リシハ、まほめつとノ言行ガ深キ印象ヲ信徒ノ心



裡ニ與ヘタルニ起因セナケレバナラナイ。彼ノねすとりあすノ教理ノ如キハ砂ニ吸込マル、水ノ如ク消エ失セテ、國中該説ヲ奉ズルモノ無キニ至リ更ニ往時猶太教團體モコレト同様ノ轍ヲ踏ンダノデアル。回々教ノ儀典ハ支那ニ於テ充分ニ之ヲ遵守スルガ如キハ難ク、且ツ殆ンド宗教ノ積極的宣傳モナク、單ニ少數ノ支那人回々教徒ガあらびや語ヲ解セルニ過ギズ、更ニ信徒ニシテ聖地及神殿ヲ巡訪ナシ得タルモノハ尙一層少キ有様デアル、然ラバ斯クノ如キ環境ノ支配ヲ強ク拒ミ教ノ他ヨリ優秀ナルヲ主張シ以テ自ラ誇リ、又他ノ宗教ヲ輕侮スルニ至ラシメタルハ果シテ此宗教ニ如何ナル原動力ガアル爲デアラウカ、コレ確ニ屈セズ撓マズ、固ク唯一ノ眞神ヲ奉ジ來リシコトニヨルベク、又其發祥地ヲ遠ク離レタル此諸方ニ於テ尙、カクモ其信徒ノ心ニ深く映ジ、歸依セル所ノ彼ノ聖者ノ人格ニヨツテ、力強ク繋ギトメタルモノナリト信ズルノデアル。故ニ支那回々教徒ガまほめつとニ對シ有セシ智識、信仰ヲ探研スルハ興味アルコト

デ、コノ探究タルヤ支那ニ於ケル諸宗教ヲ學ブモノニトリ、且又回々教ヲ奉ズル彼等ヲ理解シ、理解アル交際ヲナサント欲スルモノノ、必須缺クベカラザルモノデアル。

時ニハ支那回々教徒ハ國民中他ノ者ヨリモ無學ナリト稱ヘラレテ居ルモ、ソハ之ガ一層ノ證明ニヨツテ初メテ事實ナリトスルヲ得ルノデアル。主トシテ文理體(Wendigkeit)ニテ書カレタル今尙ホ存スル許多ノ書類、文書ニヨレバ賢明ナル學者ガ可成リアツタコトハ確實デアル。此等著者ノ多クハあらびや語ニ精通シ、多クノあらびや語ニテ書カレ或ハあらびや言ニ關スル書又或モノハ二國語ニテ書カレ、勿論支那語ノミニテ書カレタル書籍モ支那ニ現存シテ居ルノデアル。依テ支那回々教徒ニシテ同信奉者ノ爲メ或ハ教徒外ノ者ノ爲メニ支那語ヲ以テ彼「預言者」ノ驚クベキ物語ヲ書ケル者ハ自由ニあらびや語ノまほめつと傳等ヲ材料ニ用ヒルコトガ出來タノデアル。コレ等ノ書ノ多クガ歐洲ノ諸國語ニ翻譯サレ以テ吾等ガ既ニ知り得タルモノト

相類似シテ居ルノハ材源ガ同一デアルカラデア  
アル、然シ支那人ノトリシ見地及ビ時ニ與ヘラ  
レタル注解ヲ學ブノハ特種ノ興味アル事柄デア  
ル、故ニ彼等支那人ガ一般ニ特ニ注意ヲ拂ヒタ  
ル諸項並ニ著名ナル英書をほめつと傳ニ看過サ  
レ或ハ輕視サレタル所ヲ譯出スルハ價值アルコ  
トデアル。上述著者中、恐ラク南京ノ劉智(Tin  
Chik) ホド名高ク或ハ多クノ書ヲ書イタ者ハ他  
ニ無ク、彼ハ多年準備ノ後、今ヨリ二百年前  
「天方至聖實錄」(“The True Annals of the  
Prophet of Arafia”)ヲ著シ其後二十卷ノ小冊  
子トシテ出版サレタ。察スルニ之レハ支那語ニ  
テ書カレタル標準的なほめつと傳デアル、余ハ  
他ニ斯ル書ノ有ルヲ知ラナイ、勿論、劉智ノ  
「實錄」ニ根據ヲ置ケリト見ユル簡單ナル事蹟  
ヲ書ケルモノハ少クナイ。劉智ハ回々教ノ諸方  
面ヲ論ゼル書ヲ他ニ多ク著シタノデアアル、即チ  
「教儀、禮典」「應報律」(Meritorious Acts)、  
「哲理及ビ信仰」等デアアル、今此等ニ就キ篤ト述  
ブルコトハ出來ナイガ實ハ上述ノ實錄ノミニテ

モ一回ノ講述デハ十分ヲ期スル事ガ出來ナイ。  
劉智ヲ崇敬スル輩ニヨリテ書カレタル「實錄」  
ノ序文、讃詞ガ有ルガ、余ハ單ニ著者自ラ書ケ  
ル序言ノ梗概及ビ彼ガ該著作ヲ企テタル經路ヲ  
述ベントスルノデアアル。劉智ガ著述セントシテ  
久シク螢雪ノ功ヲ積ミタルヲ語ル所ニヨレバ、  
彼ハ十五歳ニ及ンデ八ヶ年孔子ノ書ヲ學ビ、次  
デ六ヶ年あらびや語ヲ學ビ、三ヶ年佛教書類、一  
ヶ年老子ノ書ヲ繙ヒタ、次イデ彼ハ百三十七種  
ノ洋書ニ心醉シ、其後あらびや書ノ研究ニ全精  
力ヲ傾注シタ。彼ハ數百ノ原稿ヲ作り其約十分  
ノ一ヲ印刷シ、主トシテ教儀、禮典ノ聖規、哲理  
等ノ方面ニ關スルモノデアアル、次デ彼ハ既述ノ  
まほめつとノ生涯及ビ其時代ノ實錄ヲ書キ以テ  
彼ノ全著述ノ缺點ヲ補ヒ、斯クシテ彼ノ全企劃  
ハ完成ヲ告ゲタノデアアル。此處ニ至ル迄ニハ如  
何ニ彼ガ幾多ノ困難ニ遭ヒ失望ニ陥ツテ而モ之  
ニ打チ勝テタルヤヲ彼ハ語ツテ居ルノデアアル。  
近親、朋友スラ彼ガ斯クモ讀書狂トナリ、日々  
ノ常習ヲスラ顧ミナイノヲ嫌厭スルニ至ツタ。

然モ彼ハ轉々ト所ヲ更ヘ、諸々ノ著名ノ土地ヲ  
歴訪シ、以テ出來得ル限リ材料ヲ蒐集シ、旅行  
車ノ塵埃中又ハ馬上ニ於テスラ讀書ヲ怠ラナカ  
ツタノデアル。

最初ノ稿本ガ完成シタル時ニ批評ト助言トヲ  
友ニ求メタケレドモ、單ニ祝辭ヲ受ケタルノミ  
デ彼ノ意ニ添フベクモナカツタノデアル。遂ニ  
彼ハつえんりゆうノ某徐ノ圖書アルヲ聞キ付ケ  
其所ニ至リ、ソノ書ハあらびや語ニテ書カレ聖  
者ノ經歷ヲ載セタルモノデ、今迄ニ發見シタル

書ヨリモ一層精細デアツタノデ、之ヲ見出スニ  
至リシハ正シク神ノ恩寵ノ表示ナラント喜ビ、  
コ、ニ全原稿ヲ改メテ書キ始メタノデアツタ。  
時シモつえんりゆうニ飢饉、疫病勃發セシ爲メ

三山(泰山、衡山、華山)ニ至リ、事業ニ傾倒ス  
ル事一年ニシテ後諸所ニ轉ジ、遂ニ河陽ニ至リ、  
三ヶ月滯留シ、ソノ稿ヲ完成シタノデアル、コ  
レ千七百二十四年デアル、事業ニ没頭スルコト  
三ヶ年、轉住スルコト十度、此期間ニ足跡ヲ印  
スルコト實ニ數千里デアツタ、全原稿ヲ書換ヘ

ル事三度ニ及ンダノデアル。彼ハ様々ノ困難ニ  
遭遇セルヲ述ベ、更ニ、其書ノ杜撰ヲ謝シテ讀者  
ノ忍耐ヲ望ミ、此書ヲ一層價值アルモノナリセ  
バト只管啣ツテ居ルノデアル。資金ノ缺乏ヨリ  
シテ、原稿ハ五十年間餘モ上梓セラレズ、遂ニ  
某ゆあんくいつうハコレガ出版ノ爲メ金ヲ募リ  
千七百七十九年ニ遂ニ出版サレタノデアル。以  
上ハ余ノ語ラムトスル前置デアルガ、是ヨリ  
「實錄」其物ノ内容ニ及ビまほめつと及ビ其時  
代ヲ觀察シテ見ヤウ。

天地間ニ於テ凡テ造ラレタル物ノ中、人間ハ  
最モ高貴ナルモノデアル。其内聖徒、預言者ハ  
最モ崇高ナルモノデアル、而シテまほめつとハ  
ソノ預言者中最高位ヲ占ムルモノデアル。此  
「預言者」ノ最モ優越セル證據ハ多々アル、今  
少シク列舉シヤウ。彼ノ實質及ビ素質ハ天使ス  
ラ達シ得ルヤ否ヤヲ疑ハル、最モ神聖ナル第九  
ノ天上ナル最高天上界ニ既ニ先在シテ居タノデ  
アル。彼ガ地上ニ來リシ時ハあらびやニ現ハレ  
タ。あらびやハ世界七大陸中最モ光輝アル所デ



アル。あらびやノ最モ聖ナル都市ハめつかトめ  
ぢなデアルガ、まほめつとハ其一方ニ於テ生レ  
他ノ一方ニ於テ歿シタ。あらびやハ最初ニ人間  
ノ創造サレタ國デ、めつかハ全世界ノ中心點デ  
アル、故ニ彼ノ「預言者」ガ其所ニ生レタト云  
フ事ハ彼ガ優越セル尙ホ一ツノ證據デアル。加  
フルニまほめつとハあらびやノ最モ高貴ナル種  
族ノ子孫デアッタ、彼ノ降誕ノ頃ハ又特別デ、  
ソノ時代ホド、學問、宗教ガ斯クモ大ナル力ヲ  
モツテキタ時代ハ無ク、人間ノ才能モ當時極致  
ニ達シタノデアル。

まほめつとガ他ノ預言者ト異ナルハ此點デア  
ル、即チ他ノ預言者達ハ各自一時代一地方ニ制  
限サレ、從テ或ハ破棄サレ或ハ逐斥サレタガ、ま  
ほめつとニ至ツテハ、コレ等凡テニ超越シタノ  
デアル、蓋シ他ノ預言者等ノ教ヲ凡テ抱擁シテ  
彼ノ教理、感化力ハ普遍的デ、且永劫的ナレバ  
決シテ彼等ノ如ク破棄逐斥サル、コトハ出來ナ  
カツタノデアル。彼ノ祖先ニ付テモ、我「預言  
者」ハ依然卓越シ、彼ノ系統上ニアル者ハ假令

あだひニマデモ邇ルトモ皆立派ナル人物、預言  
者、王者等デアッタ、其等ノ人々ハ決シテ偶像  
ヲ拜シタモノナク、汚醜ナル人物ハ一人トシテ  
ナカツタ。カクテ、ソレヲノ功德ガ蓄積サレ遂  
ニ「預言者」ニ於テ最高點ニ達シ、以テ彼ハ他  
ノ凡テノ者ニ優越シタノデアル。他ノ預言者及  
ビ立派ナル人物ヲ星辰ニ比スレバ、まほめつと  
ハ太陽ニ準ヘルコトガ出來ル。神ハ基督ニ萬物  
ハ悉クまほめつとノ爲メニ造ラレタト言ツタノ  
デアル。コ、ニ於テまほめつとノ生涯コソ正シ  
ク特種ノ生涯デアッタ事ヲ決シテ疑フ事ガ出來  
ナイ。天ノ屋根ニハ彼ノ名ガ記シテアリ、天ノ  
門ニモ彼ノ名ガ彫リ付ケテアッタ、太古ノ書モ  
彼ノ名ヲ載セ、又天使モ惡魔モ彼ノ名ヲ讃メ稱  
ヘタ。「預言者」自ラノ身體ニハ彼ノ名ガ描カ  
レ、彼ノ天賦、天才、渴仰ハ凡テ最モ高貴ナル  
モノデアッタ、彼ノ關スルモノニシテ一物トシ  
テ秀デザルモノハナカツタ、コレ即チ彼ガ至聖  
ノ預言者タル所以デアル。天上、天下、誰力、  
何者ガ此「預言者」ニ勝ルモノガ有ラウ。流ル



ル水ガ海ニ歸スルガ如クニ有ユル物ハ彼ニ歸依スルノデアル。然ラバ何者ガ此「預言者」ニ對比サルベキデアラウカ。太陽ノ如ク光輝アリ、珍奇ナル寶玉ノ如キまほめつとノ尊貴ナル後光ハあだむヨリ次々ニ子孫ヘト傳ヘラレテ來タ、直系ナル各自男子ノ額ニハ後光ガ輝キ、後光ハ次ノ嗣子ガ生レル前ニ母ノ胸腹ヲ通ジテ、次ノ代迄ハソノ生レタ子ノ額ニ宿ツタ、斯クテまほめつとハあだむヨリ六千百三十年後ニ生レタ、あだむヨリ二十二代目ノいしまへるニ至テ系統ガ分岐シ、「預言者」ノ曾祖父はしむニ達スル迄ハ普通ニ知ラザル名ヲ見ルノデアル。はしむハ稀有ノ情深キ有徳ノ人デ、近キモ遠キモ等シク凡テノ人々ニ益ヲ與ヘタト言ハレテ居ル。

多クノ求婚中、羅馬皇帝ヨリ娘トノ求婚モアツタガ、はしむハ其娘ガ羅馬教ノ信徒デアツタ爲メニ辭退シタ。彼ハさるまゝト婚ヲ結ブ様特ニ命ヲ受ケタ、さるまゝ身分低キ生レデハ有ツタガ貞節デ善良デアツタ、此結婚ニヨリテ生レタルノガあぶどあるまたりぶ即チ「預言者」ノ祖父

デアアル。此人ハこらいしゆ族ノ族長ニ承認サル様ニナリ、又彼ハかあび殿堂ノ守護者デモアツタ。彼ハめつかヘ行ク、何レノ巡禮者ニモ甚ダ名高イぜむせむノ井戸ノ再發見ヲナシタト傳ヘラレ、此井戸ハはがるノ渴ヲ癒シタル泉デアルト言ハレテ居ル。

あぶどあるまたりぶニハ六人ノ妻ト十人ノ男兒ガアツタ、而シテ神聖ナル後光ハ末子あぶだらニ傳ヘラレタ。他ノ傳説ニヨレバ七人ノ男兒ガアリ、あぶだらハ末子ヨリ二番目ニテ末子ハはむゞデアツタト言フノデアル。あぶだらガ生レタ夜しりヤノ方デハ人々ハ或ハ先キノ預言者ノ與ヘシ啓示ニ依テあぶだらノ生レタ事ヲ知ツタト言ハレテ居ル。猶太人及ビ基督教徒ハ驚キテあぶだらヲ殺サントシタ、コハ彼等ハあぶだらガ「預言者」ノ父トナリ、又彼等ニトツテ害アルコトヲ知ツタカラデアアル。コ、ニ一ツ注目スベキハ實錄ヲ通ジテ猶太人及ビ基督教徒ガまほめつとニ反對シテ立ち常ニ彼ヲ害セント企テタト記サレテアル事デアアル、我ガ歴史家(劉智)

ハ猶太人ト基督教徒トノ區別ヲ認メズ、又猶太人ト基督教徒ガ此新シキ宗教ニ對スル嫌怨甚シクシテ之ヲ壓倒セント熱望スルノ極猶太人ト基督教徒ノ區別ヲモ忘レシメタノト想像シテ居ルノデアル。

めつかノ上流社會ガあぶだらガ來ルベキ「預言者」ノ父トナルコトヲ窺知シタ時ニソノ娘ノ爲メニ婚ヲ申込シタ。彼ハ彼等ノ娘ノ一人ヲモ受ケズ、わしブノ娘あみなヲ妻ニ選ンダ、めつかノ二百人餘ノ娘ハあぶだらニ嫁グコトガ出來ナカツタタメ獨身デ通スト誓ツタトあばすが語テ居ル。

まほめつとノ父モ母モ結婚シタノハ二十五才ノ時デ五年後ニ「預言者」ヲ孕ミ、後光ハ繼承サレタ。森羅萬象ソノ懷胎ヲ告ゲテ互ニ今ヤ最も大ナル預言者ハ生レントス、今後ハ天下何レノ地ニモ平和ト靜穩來リテ全世界ハ光明ニ輝クベシ」ト語ツタノデアル。水中ノ魚族モ天ニ向ツテ頭ヲ擡ゲテ感恩ノ様ヲ表シ言ツタ、「時來ル世界ハ今ヤ燈火ヲ得タリ」ト。此記念スベキ日

ニハ諸方ノ皇帝及國王ノ玉座ヨリハ一條ノ光ガ放タレ、ソノ光ハ各玉座ヨリめつかヘ向ツテ弧ヲ畫イタ。コレハスベテノ統治者ハソノ奉仕者トシテ皇帝ノ首府ニ向ツテ遙拜ヲシテ居ル事ヲ示スモノデアル。

あみなハ人間及ビ精靈中ノ第二位ヲ占メ、又預言者及ビ皇帝中最モ顯要ナル地位ヲ占ムル者ノ母タルノ幸福ヲ夢ニ告ゲラレタ。まほめつとト云フ名ハ夢ニ授カツタモノデ、超自然的ナ聲ハ此ガ彼ノ名タルベキコトヲ指示シタノデア

ル。  
あぶどあるまたりぶハ「萬年」棗椰子ト稱セラレテ居ル所ノめでなニ生ズル驚クベキ棗椰子ニ付イテ彼ノ息子あぶだらニ告ゲタ、其棗椰子ハ凡テノ疾病及苦痛ヲ癒スコトガ出來タ、此棗椰子ノ大キサハ乾燥シタル時ハ卵大デアツタ。來ラントスル幸福ナル出來事ヲ前ニ控ヘテ其棗椰子ヲ得テ母親ト子供ノ用ニアツルハ甚ダ幸デアル。ソコデあぶだらハめでなヘ向ツテ旅立ツタ、併シ途中ニシテ遂ニ逝ツテシマツタ、故ニ

まほめつとハ父ノ死後ニ生ジタ子ナノデアアル。  
祖父ハ月滿チテ驚クベキ子ヲ生ンダ、寡婦ヲ  
鄭重ニ持成シタ、生ル、時ニハ妖精ガ力ヲ貸シ  
青年ノ形ヲナセル七千ノ天使ハ惡靈ヲ防グ爲メ  
ニ家ヲ取圍ンダ、天使ハ各自、金ノ花瓶ヲ手ニ  
シ、悉ク「預言者」ノ德ヲ頌メ歌ツタ。次イデ  
貴キ軟膏ト香料トヲ充シタ金ノ花瓶ヲ持テル三  
團ノ天使ハ現レ、其等ヲ以テ彼ヲ浴サセ、綠色  
ノ刺繡ヲセル衣服ヲ被セタ、其儀式終リテ白雲  
ハ室ヲ浮遊しまほめつとヲ取卷キ天ヘ連レ去ラ  
レタ、彼ガ低キ天ヲ通過スル時ニ昔ノ預言者、  
功勞者ニ會ヒ互ニ祝詞ヲ取交シタ、第九天ヘト  
上ヘ眞直グニ登リ行キ、其處デ深キ秘密ヲ教ヘ  
ラレ、有ユル種類ノ最上ノ知識ハ與ヘラレタ。  
其中ニあぶどあるまたりぶハかあばニ行キ母子  
ノ祝福ヲ祈ツタ、其處デ或ル僧ニ遇フタガ、僧  
ハ大ニ驚キ預言スルノニハ全世界ハ此ノ嬰兒ノ  
支配スル所トナリ、僧侶達ノ宗教ハ破壊サル、  
ト。歸ヘリニあぶどあるまたりぶハめつかノ近  
クノ二ツノ小山ガ地カラ數尺上ツテキルノヲ見

タ、而シテ空ニ一聲聞エテ言フニハ全地ノ富メ  
ル者モ貴キ者モ彼ニ歸服スルデアラウト。彼ノ  
室ニ入ルヤ祖父ガ子ヲ抱カントスルトコロデア  
ツタ、併シ不思議ナル聲ハ諸靈ガ來ツテ禮讃ス  
ル迄ハ抱クナト告ゲタ。ソコニ九ツノ天及ビ七  
ツノ地ノ諸靈ガ集リ「預言者」ニ敬意ヲ表シタ。  
母ト祖父トハ子供ヲかあばヘ連レ行キ「預言  
者」ノ生レタルコトヲ神ニ感謝シタ、全市ハ祝  
意ヲ表シテ大ナル酒筵ガ開カレタ。まほめつと  
ト云フ名ハ未ダ嘗テナカツタノデ大イニ驚カレ  
猶太人モ基督教徒モ此ガ最後ノ「預言者」ノ名  
トシテ備ヘテアツタコトヲ知ツテ驚愕シタ、コ  
レ等ノ輩ハ凡テノ象徴ハ之ガ待チニ待タル者デ  
アルコトヲ認メタケレドモ、之ヲ明言スルコト  
ヲ欲ジナカツタ。

しりやデハ王ノ或ル大臣等ハ一ツノ奇異ナル  
星ヲ見テ、最終ノ「預言者」ガ今ヤ生レルト云  
フ事ヲ占ヒ、同ジクあびしにやニ於テモ王ハ使  
節ヲ遣シテ祝意ヲ表シ、貴キ贈物ヲ献上シタ。  
べるしやノ拜火宗ノ者等ハまほめつとノ生レタ



日ニ火ノ燃エナカツタノニ驚イタ、彼等ハ預言者ノ光ガ彼等ノ光ヲ見エナクシ、消シタ事ヲ知ラナカツタノデアル。

まほめつとノ生レタル年ハ象ノ年ト稱セラレテ居ル、コレハ其年ニめつかヲ敵ガ攻撃スル時ニ象ヲ用ヒタカラデアル。攻撃軍ハまほめつとノ生レタル日ニ敗レタ、蓋シ態ト敵ヲ敗ル爲メニ其日ニ彼ガ生レタノデアル。吾著者ハ象ノ年ト梁代ノ中大同ノ丙寅年ト一致サレテ居ル。コレハ西曆紀元後五百六十四年ニ當ルダラウ。多分正シキ年代ハ五百七十年デアラウト思フ。年代ノコトハ。著者ノ力ヲ入ル、所デハナイ、併シ彼ガ出會ヒ自分モ亦後ニ恐ラク述ベントスルモノデアアルガ種々ナル年代計算法ヲ斟酌シテ定ムルコトノ如何ニ困難デアアルカハ充分認メラルノデアル。

まほめつとハ此世界ヘ無事ニ現レテ後ニ彼ノ若イ叔父はむざヲ以前育テタ女奴隸ニ一時養育サレタ。併シ彼ハ間モナクばにさあど種族ノはりまト稱セラル、田舎女ノ手ニ渡サレタ、はり

まハ當時めつかノ富豪ノ子供ガ習慣的ニサレテキタ様ニ彼ヲ市ヨリ他所ニツレテ行ツタ。

まほめつと及ビ其乳母ノ經驗シタル驚クベキ話ガ傳ハツテ居ル。はりまノ家庭、其全種族及ビ家畜サヘモ驚クベキ子ガソコニ居ツタタメニ大イニ榮エタノデアル。序ニ言ツテ置ケバト思フ事ハまほめつとガ生レタ同ジ年ニ生レタ子供ハ凡テ男デアツテ、老人ハ再ビ若返ヘリ白髪モ黒クナツタ等ト眞面目ニ云ハレテ居リ、更ニ斯様ナ不思議ナ事ハ未ダ嘗テ無カツタト附言シテキルノデアル。

一ツノ白光ハまほめつとヲ常ニ守護シ一條ノ白雲ハ常ニ彼ノ頭上ヲ浮遊シタ、ソコデ彼ノ姿ヲ見失フテモ何時デモ容易ニ彼ノ後ヲ追フ事ガ出來タノデアル。嬰兒ノまほめつとハ泣イタリ氣短ニ成ツタリスル事ハ無カツタ、彼ハ左ノ手デ物ヲ取ル事ハシナカツタ。彼ガ飲食スル時ハ何時デモ『たすみや』即チ憐深キ神ノ名ニ依ツテ』ト稱ヘ、時ニハ彼ハ睡ツテ居ル時モ此ノ言葉ヲ繰リ返ヘシタ。彼ハ他ノ子供ト何時モ遊



バナカツタガ、羊ヲ飼ウ爲メニハ一緒ニ出掛ケ  
タ、ソレデはりまが彼ニ此ノ事ヲ答ガムレバ彼  
ハ既ニ人ヲ飼ハントスル考ヘガアツタノデ如何  
ニ羊ヲ飼フカヲ學ビ度イノダト答ヘタ。

二才ノ時ニ彼ハ母ノ所ヘツレラレテ歸ヘツタ  
母ハまほめつとノ容貌風姿ヲ大ニ喜ビ尙ホ暫ク  
彼ヲツレテ行カムコトヲ願ツタノデ再ビ伴レテ  
行カレタ。カクシテ或日まほめつとガ凡ソ三才  
ノ時驚クベキ事ヲ經驗シタ、其ノ事ニツキ彼ガ  
云フニ白衣ヲ着タル二人ノ人ガ雪水ノ充チタ金  
ノ皿ヲ持ツテ天ヨリ降ツテ來タ、地ノ上ニまほ  
めつとヲ据エテまほめつとノ身體ヲ切り開キ臟  
腑ヲ清メ、ソシテ其處カラ黒キ血塊ヲ除キ去リ  
而シテ後其人達ハ天ヘ昇ツテ歸ツタ。はりまハ  
まほめつとガ惡鬼ニツカレテ何カ病氣ガ起リハ  
シナイカト心配シテ先ヅ醫者ニ彼ヲ伴レ行キ、  
其後占師ノ所ニモ行ツタ、占師ハ彼ガ偶像ノ大  
反對者ニ成ルノヲ知ツテ其兒ハ殺サナケレバナ  
ラヌ、斯クスレバ亞刺比亞ニ面倒ハ起ラナイト  
叫ンダ。はりまハまほめつとヲ拉シテ出來得ル

限り早ク危險ナル處カラ伴レ出シタ。はりまト  
其夫ハ恐レテ彼ノ母ニ子供ヲ返ヘサウト決心シ  
テはりまハソノタメニ出發スルコトニナツタ。  
所ガめつとカノ近クノ一休憩所デまほめつとガ不  
意ニ見エナクナツタ、彼女ハ大イニ困却シ、他  
ノ人々モ其心配ニ同情シテ或者ハ近クノ寺ノ僧  
侶ノ頭ニ行ツテ助ケヲ願ヘバイ、ダラウト勸メ  
タ。劉智ハ此ノ者ヲふをふ卽活佛ト稱シテキル  
ケレドモ此ハまほめつと教ノ廣ク傳ハル前ニめ  
つかニアツタ宗教ノ僧侶ニ對スル誤稱デアル、  
此ハ一種ノ偶像教デ佛教或ハ喇嘛教デモ無カッ  
タ。劉智ハ西藏ニ用ヒラレタルふをふト云フ名  
稱ヲ知ツテキタ爲メニ支那人ノ讀者ニハ誤解ノ  
恐れハアツタケレドモ既存ノコノ言葉ヲ採用シ  
タノデアアル。此僧侶ガ訪問ヲ受ケタ時ニ非常ニ  
心騒ヲシテ言フニハコノ子ハ終ニ僧侶ノ宗教ヲ  
破壊スルデアラウ。然シ彼ハ子供ガ無事ニ探シ  
出サレルコトヲ告ゲタ。まほめつとノ祖父ガ孫  
ノ行衛失明ニナツタ事ヲ告ゲラレテ懸賞デ共ニ  
人々ニ搜索サセタ。カクテまほめつとハ或ル葡

荷樹ノ下デ發見サレタ、ソシテあぶどあるまたりふハ感謝ノ献物トシテ貧民ニ千匹ノ駱駝ト純金千オンヌヲ與へ、又はりまニハ充分報酬ヲ與ヘテ家ヘ無事ニ歸ラセタ。コレヨリ嚮ニめつかノ附近ニ饑饉ガ起リ窮乏ニ瀕シテキタガ、まほめつとガ歸ヘルヤ五穀ハ豐穰ニ家畜マデ繁殖シタシカシ人ハ何故カ知ラナカツタ、或者ハまほめつとヲ恐レ彼ヲ殺サント企テタ、然シ祖父ハまほめつとヲ彼等ノ目ヨリ隱クシタ。まほめつとガ六才ノ時ニ母あみなハ彼ヲ伴レテ數ヶ月間めでなノ親族ヲ歴訪シタ。歸途病氣ヲ得遂ニあぶあデ死ンダ、忠實ナル乳母あむあいまんハ無事ニ子供ヲめつかニ伴レテ歸ツタ。彼ヲ溺愛シタ祖父ハ以前ヨリ一層ソレヨリ注意シテ保護シタ。

まほめつとハ七才デアツタガ或日彼ト祖父トハ頼マレテ旱魃ノ爲ニ雨乞ノ祈禱ヲ司ツタ、雨ハ祈ガ終ルヤ降り出シタ。此年ニさいふ王ハあびしにあノ位ニ昇タノデ、附近ノ諸侯ハ祝意ヲ表スル爲ニ行キ、あぶどあるまたりふモ亦行ツ

タ、而シテ王ハ彼ト親戚柄デアル事ヲ主張シテ惜氣モナク贅ヲ盡シテ彼ヲ款待シタ、ソシテ王ハ密カニ彼ノ家庭ノ事柄ヤまほめつとノ事ニツキ尋ネ彼ノ降誕ニ關シテ何カ異常ノ事ガ視ラレナカツタカ質シタノデアツタ。不思議ナ事ノ數々ヲ聞イテ、王ハまほめつとガ偶像及形像ヲ廢棄シ拜火宗徒ヲモ亡ス最後ノ豫言者タルモノデアル事ヲ悟ツタ。王ガあぶどあるまたりふ及ビ彼ト共ニ居ツタ者ニ與ヘラレタト傳ハツテ居ル溢ルルバカリノ贈物ニ付イテハ述ブル價值ガアルノデアアル。其輩ノ各々ニ二十人ノ若者ト二十人ノ處女ト純金ノ四十オンス、銀ノ八十オンス香物一箱、駱駝百匹ガ與ヘラレタ、あぶどあるまたりふハコレ等ノ者ノ十倍ヲ受ケタノデア

ル。めつかニ彼ガ歸ツテ間モナクあぶどあるまたりふハ病ヲ得、彼ノ終リガ近ヅイタ事ヲ知リ命ジテ彼ノ子息等ヲ呼ビ寄セまほめつとヲヨク守護スベキ事ヲ諭シタ。まほめつとノ希望ニ依タノデモアルガあぶだりふハソノ擁護者ニ命ゼラ

レタ。あぶどあるまたりぶハ八十才ニシテ死ンダ、其時まほめつとハ八才デアッタガ彼ハ大人ト同様ニ一人前ノ忌中ノ儀式ヲ守ツタ。

あぶだりぶハ博愛、智慧、勇敢ノ人デアッタ彼ハまほめつとヲ好ムコト甚シク、まほめつとヲ眼カラ離スニ堪ヘナカッタ、家庭ノ者モ特ナ別ル注意ヲまほめつとノ爲ニ怠ラナカッタ、他ノ子供達ハ此惠マレタル子供ニ許サレタル特權ヲ通シテ御利益ヲ受クル爲ニ彼ニ近ヅク事ヲ好ンダ、或日たりぶトまほめつとトガ外ヲ歩イテ居タ時ニ非常ニ渴ヲ感ジタガ水ガ無カッタ、ソコデまほめつとガ土地ニ彼ノ足ヲ踏ミツケルヤ急ニ清ラカナ泉ガ迸リ出タノデ、彼等ハソレヲ飲ンダ。まほめつとハ他ノ者ト共ニ土地ノ偶像ヲ拜ミニ行ク事ヲ拒ンデ走り去リ隠レタト云ハレテ居ル、彼ガ彼ノ伯父達又ハ他ノ親戚、其他多クノ人ガ偶像ノ祭ニ加ハツテ居ルノヲ見テ彼ハ「僞ノ惡魔ノ宗教ガ斯クモ甚シク榮エルコトヨ我ハ誓ツテコレヲ根絶セン」ト叫ンダ、十才ノ時ニ彼ノ心臟及内臓ハ彼ノ大事業ノ準備トシ

テ再ビ清メラレタ。あぶだりぶハぼすらへ商用ノ旅行ヲスルノガ常デアッタ、ソシテ彼ガまほめつとヲ殘シテ置クノヲ好マナカッタノデマダ小供ノ時ニ多分一度伴レテ行ツタ、まほめつとガ二十一才ノ時ニハ又旅行ヲシヤウトシタガ、まほめつとモ今ヤ自ラ身ヲ守ル事ガ出來ルノデ殘シテ置カウト思ツタ、然シまほめつとハ再ビ行クヤウニ乞フタノデ許シテ、ソノ時丁度十八才ニナルあぶべかト一緒ニツレテ行クコトニシタ。ぼすらニ近ヅイタ頃、まほめつとハ木ノ蔭ニ休ミあぼべかハ菓子ヲ買ヒニ行ツタ、行ク道デ基督教ノ僧侶ナルばひらニ會ツタ。ばひらハ木ノ下ニ坐セル若者ニツイテ彼ト語ツタ。其僧侶ハ此ノ木ハ耶蘇ニ依テ植エラレタモノデ彼ガコノ木ノ下ニ坐ツテ彼ノ福音ヲ説クノガ常デアツタ、ソシテ耶蘇ハ最終ノ豫言者ガ來ル迄ハ誰モコ、ニ坐ラナイト宣言シタノデアル、六百年間其木ノ下ニ坐ル者ガナカッタガ今ソコニ坐ツテ居ル人コン期待サレテ居タ預言者ニチガイナイト言ツタ、ばひらハ彼ヲ充分ニ注意シテヤ



ラネバナラヌ事ヲ諭シ又贈物トシテ或ル貴重品ヲモ與ヘタ。あぶべかガ此等ノ事ヲ聞クヤ、急イデ歸ヘツテ話シタ、スルト「預言者」ハあぶべかハ實ニ最初ノ信者ダト言ツタ。此時分ハまほめつとハ彼ヲ恥カシメ、恥辱ヲ加ヘル事ヲ喜ンダ朋友親族ニハ評判ガヨクナカツタ。彼ノ伯父ノすべやハ數名ノ先輩ニ近ヅイテ、集會ヲ開

キ色々ト相談シテ、遂ニ將來ノ調和ト互ノ敬意ノ爲メニ誓ヲ交シタノデアル。則チ彼ト朋友、親族間ニ斯クノ如クシテ不穩ナル關係ノ起ツタノハ人間同志ノ關係ヲ破壞シ、孝行ソノ他ノ正シキ行ヲ亂シタ僧侶ニ其責ガアルトシタノデアル。人民ハ斯クテ僧侶ニ魅惑サレテ彼等ヲ喜バサントスルノアマリ、自ラノ親族ヲ攻撃シ、又放逸ナル行ヲ成スニ至ツタ。まほめつとガ二十三才ニナルニ及ンデ屢々靈ガ彼ニ語ルノヲ夢ミタ、彼ハ此ヲ伯父ノあぶたりブニ告ゲタ。伯父ハ「十字架ノ教」ノ使徒ナル名高キ占者ニ彼ヲ伴レテ行タ。占者ハ暫ク彼ヲ診察シテ居タガ遂ニまほめつとノ背ニ肉ノ印ヲ見、此天ノ印ガ

有ル以上、コレハ常人デナク、神ヨリ遣サレタ者ナル事ハ疑ハナイト明言シタ。占者ハ此事ガ秘密ニサレル様ニ諭シタ。然ラザレバ猶太人ガ之ヲ聞イテ「預言者」ヲ殺害セントスルカラデアル。

(未完)

## 最近支那財政ノ收入支出實況

此ノ一篇ハ最近アル方面ヨリ接手セシ情報ナレバ茲ニ掲載シテ大方ノ一燦ニ供ス

井 上 翠

### 一、田 賦

七年度ノ實收入ハ八千三百四十餘萬元ナリ。  
八年度各省ノ收入額ノ報告ハ未ダ纏マラズ  
(豫算ニヨレバ約八千六百八十八萬九千三百餘元ナリ)

田賦ノ收入ハ毎年約合計八千四百餘萬元ナリ  
昔日ハ田賦ヲ以テ唯一ノ財源トナセリ、而シテ現今ニ於テモ亦主ナル收入トナスト雖モ其實財政部ヘ貢納スルコトナシ皆地方ニテ自由ニ收支シ且ツ之レガ冊錄ヲモ財政部ヘ送附セズ即チ財



政部ハ中央ノ直接收入ニ對シテモ自由ニ處分スルコト能ハザル情況ナリ。

# 一、鹽稅

七年度ノ實際收入ハ八千零二十餘萬元

八年度合計收入ハ八千二百餘萬元(但豫算ハ九千八百八十萬餘元)

九年度ハ豫算無シ。

鹽稅ハ中央政府ノ主ナル收入ニシテ總テノ支出ハ悉クコレヲ以テ財源トナスサレドモ近年ニ至リ政局混亂ノ爲メ往々地方ニシテ自由ニ流用サレ現ニ八年度ノ如キ其ノ實收入ハ八千萬元ニモ達セザルノ有様ナリ本年度ノ收入(九年度下半年期)ハ既ニ使消擔保或ハ特種債券ニ提供サレ殘額ナシ故ニ鹽稅ハ之ヲ收入トシテ見ル能ハズ。

# 一、關稅

## 甲、海關

海關ノ收入ハ既ニ海關貿易簿ニ詳載サル八年度ノ豫算ハ七千三百四十五萬餘元ノ多キニ達スト雖今之ヲ兩ニテ示セバ(海關ハ兩本位)民國以來約五千萬元乃至六千餘萬元ニシテ決シテ七千數

百萬ノ多キニ達セズ最近海關ハ外債ノ支拂ヒニ充當サルヲ以テ殆ンド其ノ用ヲ爲サズ。

## 乙、常關稅

七年度ノ實收入ハ六百九十餘萬元

八年度ノ實收入ハ七百餘萬元(但豫算一千二百零九萬餘元)

右收入ハ財政部ノ一財源ト雖モ政局混亂ノ爲メ各省ニテ流用サル、モノ多ク實際政府ノ收入額ハ約五百萬乃至六百萬ナリ、故ニ假ニ漏ナク政府ニ貢納サルトモ尙毎月六十餘萬元ニ過ギズシテ軍費ノ支辨ダニモ足ラザル有様ナリ。

## 一、貨物稅(釐金稅ヲ含ム)

七年度實收入三千四百餘萬元

八年度ノ報告ハ未ダ纏ラズ(但豫算ハ三千九百二十二萬餘元)

九年度同上

右ノ收入ハ北京以外ニ於ケル行政費ノ主ナル財源ナリ蓋シ田賦内ノ地丁、漕糖、租課、雜賦等ハ皆定期收入ナリ貨物釐金各稅ニモ淡月(納付額少キ)ト旺月(納付額多キ)トノ區別アレドモ共ニ毎月確定セル收入ナリトス故ニ之ヲ政費及ビ軍備費ニ支出スルコトヲ得而シテ此謂ユル貨物稅ナルモ

ノ、中ニハ產銷、落地、統稅、統捐等ノ諸稅ヲ含ミ居ルモノニシテ且其稅率ノ輕重徵收手續、課稅範圍ハ地方ニヨリ異ルモノナリ此等ハ臨時財政部ニテ徵收支出スル外一般ニ中央國庫ノ收入トナラズ從テ財政部ノ直接收入トハ言ヒ難シ

### 一、中央直接收入

七年度實收入二千一百餘萬元

八年度ハ未ダ報告ナシ(但シ豫算ハ四千七百零七萬餘元)

九年度同上

右ノ收入ハ專款、印花稅、煙酒專賣、官產收入ノ四種ニ分ツコトヲ得、而シテ專款ハ更ニ之ヲ分チテ菸酒牌照稅、煙酒稅、煙酒釐金、礦山稅、契稅增收入、牙稅增收入、ノ六ニ分ツコトヲ得(契ハ牙兩稅ハ本雜稅ノ内ニアリ增收入ノ爲メ專款ニ列ス)此等ノ收入ハ煙酒各稅ノ如ク全國煙酒事務署ニテ取扱フ但シ礦稅ハ農商部ニテ取扱フモノトス而シテ右ノ內財政部ニヨリテ流用シ得ベキモノハ唯一部分ニ過ギズ即チ豫算ニハ四千餘萬元アレドモ財政部ノ收入ハ僅ニ其半ニ過ギズ。

### 一、正雜各稅

七年度合計一千九百餘萬元報告未ダナシ  
八年度合計一千七百餘萬元報告未ダナシ  
九年度豫算二千九百十餘萬元

### 一、正雜各捐

### 一、官業收入

### 一、雜收入

右三者ハ何レモ確實ナル計算アリ毎年ノ實收ハ約一千四百餘萬元ナリ但シ八年ノ豫算ハ一千六百五十餘萬元ナリ。

右ノ諸稅捐ノ收入、其雜稅、雜捐ノ徵收實權ハ各省ニアリテ唯冊錄ヲ造リ報告ヲナスノミニテ財政部ニ貢納セズ其他官業ノ收入中ニモ中央ニ屬スルモノアリ各省ニ屬スルモノアリ一樣ナラズ故ニ實際ハ區別シテ計算セザルベカラズ。  
雜收入ノ一項ハ頗ル複雜ニシテ財政部ノ實收入ハ毎年七百萬元ニ上ラズ尙官業ノ資本及ビ官ニテ定メタル契紙、牙照、當帖等ノ印刷費ハ之ヲ支拂ハザル可カラザルヲ以テ從ツテ自由ニ使用シ得ル額ハ小數ナリ。

### 一、中央各機關雜收入

八年度豫算六百六十一萬餘元

九年度同上

右ノ收入ハ國家歲入ニ列スレドモ實際ニ各部及ビ各局部ニテ管理シ(交通部ノ郵電路航特別會計ハ此中ニ含マレズ)財政部ニ貢納サルコトナキヲ以テ毎年實收入ハ調ヘ難シ(例ヘバ司法部ノ訟罰金、教育部ノ學費、農商部ノ礦山許可證ノ手数料等ハ財政部ノ管理ニ屬セズ)右各種ノ收入中鹽稅年約八千餘萬元、常關稅年約六百餘萬元、中央直接收入年約二千餘萬元、財政雜收入年約一百五十餘萬元合計一億一百餘萬元等ヲ差除ケバコレ即チ財政部ノ純粹ナル收入ナリ其他尙三倍ノ收入アレドモ(豫算ノ全國歲入總數合計四萬九千餘萬元特別會計ハ其中ニ入ラズ)概ネ各省自由ニ出納シ財政部ハ唯其數目ヲ調査スル權利アルノミ直接收入トシテ之ヲ操縱スルコト能ハズ例ヘバ本年ノ鹽稅ノ如キ既ニ前年ニ於テ殘ラズ流用サレタリコレ誠ニ財政ノ困難ナル所以ニシテ又吾人ノ深ク遺憾トスル所ナリ。

# 一、國債

七八年兩度ノ國債ハ賠償金ノ延期及ビ金價ノ下落ニ因リ實際ノ支出數目ハ比較的少ナリ茲ニ

之ヲ兩項ニ分ツ。

外債ハ合計六千九百七十八萬元内債ハ合計四千四百九十三萬餘元外債及ビ内債合計一億一千四百餘萬元九年度ノ上半期ハ金價漸次騰貴ヲ來セシト下半年期以來金價突然騰高ノ爲メ外債丈ニテ五年度ノ議定數ハ合計一億二千八百二十九萬七千八百十四元ニシテ八年度ノ議定數ハ合計八千九百零五萬六千四百九十六元ナリ(實支出ト比較スレバ約一千餘萬元)八年度ハ五年度ト比較スレバ三千餘萬元少ナシト雖モ財政上ニハ負擔ヲ輕減スルコトヲ得タリ但シ目下ノ情況ヲ以テ之ヲ概算スレバ外債ハ八年度ノ豫算ノ數ト比較シテ一千餘萬元増加シ居ルガ故ニ七八兩年度ハ内債ト共ニ合計支出約一億一千餘萬元ナリ而シテ本年ノ外債モ約一億一千餘萬元ナリ茲ニ表ヲ以テ示セバ左ノ如シ。

交付ス可キ外債ノ元利預算表

元金ヲ還付スベキ者ハ元利合算シ元金ヲ還付セザルモノハ唯利息ノミ計算ス。

前清英獨借款

八百五十餘萬元



同英獨續借款 七百四十餘萬元(前清ノ借款ハ洋款ト名ク)

同露、佛借款 六百九十餘萬元

中國政府クリスプ借款 二百二十餘萬元

同善後大借款 一千一百餘萬元

同中法實業銀行借款 一百六十五萬餘元

同中央公司借款 十九萬餘元

同中法銀行欽榆鐵道借款前貸 二百三十餘萬元

同興亞公司借款 二十七萬餘元

同米國シカゴ銀行借款 五十三萬餘元

同日本電信借款 一百零六萬餘元

同日本吉會借款(鐵道ノ前貸金) 六十二萬餘元

同日本礦林借款 二百餘萬元

同滿蒙鐵道借款前貸 七十二萬餘元

同濟順高徐鐵道借款前貸 七十二萬餘元

同第二次善後借款前貸 一百五十餘萬元

西班牙國賠款 九千一百餘元

和蘭國賠款 六萬餘元

瑞典國賠款 四萬餘元

露國賠款(現在已ニ停止ス) 六百十餘萬元

賠款雜費 一億一千餘元

海軍部ノ阿姆斯特朗廠船舶銃砲代借款 七十八萬餘元

同日本川崎造船廠船舶銃砲代借款 二十二萬餘元

陸軍部ノ泰平公司銃艇代借款 五十二萬餘元

同三井洋行軍械代借款 七十三萬餘元

同道勝銀行龍華廠借款 五十八萬餘元

外交部ノ興隆公司借款 五十三萬餘元

教育部ノ道勝銀行借款 拾五萬餘元

同中法實業銀行借款 九萬餘元

同華比銀行英金借款前貸 拾八萬餘元

同正金銀行借款 九萬餘元

農商部ノ中法實業銀行借款 拾五萬餘元

教育部ノ三菱銀行借款 八萬二千餘元

財政部ノ三井銀行前南京政府借款 一百零四萬元

同米孚公司借款 三十一萬餘元

同華比銀行借款 六十九萬餘元

同中日實業公司借款 一百零八十四萬餘元

同利益堅順公司借款 一百零九萬餘元

農商部ノサミール公司借款 四萬餘元

財政部ノ道勝銀行借款 三十二萬餘元

同日本興業銀行等借款 四百五十六萬餘元

同三井洋行借款 七萬餘元

同匯業銀行借款 四十六萬餘元

財政部七銀行團借款 四十二萬餘元

同四銀行團借款 九十三萬餘元

同中法實業銀行(但シ欽榆鐵道延期借款) 二百五十餘萬元

同中法實業銀行欽榆前貸延期借款 二十九萬餘元

同中法實業銀行欽榆前貸延期借款 五十九萬餘元

同利息延期 二十三萬餘元



同中法銀行浦口借款利息金等 三十三萬餘元

同中法銀行保商借款商貸等 八十二萬餘元

同大倉洋行(同上) 七十一萬餘元

同道勝銀行(同上) 四十五萬餘元

同滙銀行借款 九十五萬餘元

教育部ノ滙業銀行借款 三十二萬餘元

海軍部ノ安些度船廠代借款 二十六萬五千餘元

以上合計約八千餘萬元ニシテ昨年金價稍騰貴ノ際時價ニ依リテ計算シタルモノナリ現今ニ於テハ増加スルコトアルモ減少スルコトナシ其ノ一部既ニ返還シタルコトアルモ未ダ數年ノ間其儘返還セザルモノアリ而シテ金價騰貴ノ爲メ計約九千萬元トス

### 還附スベキ内債元利預算表

財政部ノ交通銀行隴海鐵道借款 二十二萬五千元

前大清銀行貯存ノ株券 九萬一千四百餘元

陸海軍部及ビ公府或ハ財政部

直接發行ノ國庫證券等 一百四十萬元

鹽 券 五百餘萬元

特券 津浦鐵道及ビ崇文門稅關

八厘軍需公債利率金 六百萬元

愛國公債利息金 一百九十七萬餘元  
三十七萬九千餘元

元年公債利息金 (實際發行數ハ一億二千萬元)

七百二十萬元 (四割ノ計算トセハ約二百八十八萬元)

三年公債利息金 四百零二萬六千餘元

四年公債利息金 九百十九萬六千餘元

五年公債利息金 五百五十四萬二千餘元

七年短期公債元利 一千六百八十四萬餘元

七年長期公債利息金 二百七十餘萬元

八年公債 總額ハ五千六百萬元實  
際發行數二千五百萬元

百五十餘萬元

金融公債

二百餘萬元

以上約五千餘萬元元債ヲ四割トセバ約五千五百餘萬元總計約五千九百餘萬元但シ各部署ニ支拂フベキ經費及ビ内外ノ軍費ハ其ノ中ニ含マズ後ニ内外債合計約一億三千餘萬元ノ巨額ニ達ス財政部毎年ノ收入ハ一億零八百餘萬元ニシテ尙ホ二千餘萬元ノ不足ナリ然ルニ毎年支拂フベキ政費約四千萬元以内ニシテ(每年三百餘萬元)軍費約二億一千餘萬元ナルヲ以テ毫モ歸着スル所ナシ(八年度ノ預算數ニシテ實際ハ一方ノ改正ニ因リ)債款ト共ニ不足ノ二千餘萬元ヲ合スレバ總計二億七千餘萬元ノ不足ナリ以上ヲ以テ之ヲ見レバ財政ノ危機實ニ吾人ノ意外トスル所ナリ。

# 一 政 費

九年度ハ豫算ナカリシ爲メ國會ニテ決議シタル八年度ノ豫算ニ依リテ辦理シタリ其ノ内容ハ「中央」「各省」ニ分ツ中央ト各省トヲ區別スレバ中央支出ノ國家行政費ハ七千九百餘萬元各省ヨリ支出ス可キ國家行政費ハ六千八百餘萬元兩方合計一億四千七百餘萬元ニシテ現狀ヲ維持スル爲メノ欠ク可カラザル數ナリ八年度ノ議決豫算案ハ中央及ビ各省ノ經常費ノ共ニ合計二億七千一百二十八萬九千二百零七元又臨時費合計二億二千四百四十七萬三千六百八十一元此合計四億九千五百七十六萬二千八百八十元但シ臨時費ノ中ニ債款經費一億二千八百萬元弱アリ又陸海軍々費合計二億一千七百二十萬元ニシテ政費丈ケニテ一億四千七百餘萬元ヲ要シ毎年ノ實際支出額ハ約一億四千萬元ナリ故ニ嚴格ニ節約スルトモ年少クモ一億三千萬元ヲ要ス。茲ニ表ヲ舉グレバ左ノ如シ。

中央政費歲出額豫算表  
公府經費 三百三十八萬餘元

約自九九年七月  
至十年六月

國務院經費 一百三十四萬餘元  
優待經費 一千三百五十八萬餘元  
外交經費 三百七十五萬餘元

內務部經費 八百二十八萬餘元

財政部經費 三千一百五十萬餘元

司法部經費 一百六十二萬餘元

教育部經費 二百七十六萬餘元

農商部經費 一百四十六萬餘元

交通部經費 一百十二萬餘元

蒙藏經費 一百零八萬餘元

在北京ノ各機關經費 九十六萬餘元

以上列スルモノハ經常費ニシテ合計七千零八

十八萬九千五百餘元ナリ(以上萬以下ノ數ハ各省各)

國務經費 九萬三千餘元

皇室、旗人手當、蒙古王等各國公使署及ビ各直轄ノ交涉公署費ハ海關收入ヨリ支拂フモノニシテ財政部勘定トス

國會歩軍統領警察及ビ各直轄各機關

直轄及ビ附屬各機關鹽務收入經費直接ノ費一切

各直轄機關及ビ大理院

直轄各機關及ビ留學費補助費

助費

全國水利局及ビ各機關

唯ダ本部及ビ教育經費ノ

兩項ニシテ其他ハ特別會計トス

蒙藏院及ビ直轄各機關ノ

經費

外交經費 二百萬六千餘元

近時參加列國各種會議費  
及ビ交際費等

內務經費 八十三萬一千餘元

財政經費 四百四十四萬八千餘元

主トシテ直接徵收及ビ鹽  
務費トス

教育經費 三十八萬二千餘元

司法經費 六千餘元

交通經費 十萬三千餘元

蒙藏經費 五萬元

左京京機關經費 四千餘元

以上ハ臨時費トシ合計八百二十六萬三千餘元

以上政費ハ中央ヲ指スモノニシテ各省政費ハ

合計六千八百四十萬ナリ之ヲ左ノ如ク分ツ。

外交經費 七十九萬八千九百三十二元

內務經費 四千二百四十七萬七千二百十七元

財政經費 一千一百二十八萬八千二百十三元

司法經費 八百二十七萬一千一百零二元

教育經費 二百七十五萬五千九百零一元

實業經費 二百五十一萬九千零六十八元

交通經費 四十二萬七千二百元

以上總計ハ國債及ビ政費ノ兩項ニシテ己ニ二

億五千餘萬元ヲ要シタリ(此レ政費ヲ節減シタル計算ナリ蓋シ國債ヲ減少スルコトハ不可能ナ

リ)而シテ財政部ノ收入ハ僅ニ一億零八百餘萬元ナルヲ以テ差引尙ホ一億四千餘萬ノ差アリ是レ實ニ政費ノ困難ヲ極ムル所以ニシテ陸海軍費丈ヲ以テシテモ二億一千七百餘萬元ノ多數ヲ要シ更ニ他ニ支出スルモノ等ヲ以テセバ毎月之ガ支拂ノ方法ナリ實ニ財政ノ危險甚ダシト言フベシ。

## 一、軍 費

現在支拂フ可キ軍費ハ民國三年ニ比較シ實ニ三分ノ二ノ増加ヲ見清國時代ト比較スルトキハ殆ンド一倍半ノ超過ヲナシ居ルヲ以テ目下ノ財政ノ實力ヲ論ズル時ハ實ニ其ノ負擔困難ナリ民國九年ノ調査ニ依レバ合計陸軍四十二師、混成旅八十、步軍旅十五、騎兵旅參、混成團七步兵團十九 騎兵團七、其他陸防各軍及ビ步騎砲工兵等四百八十餘營アリ此ノ外附屬輸送隊等約九萬二千一百八十餘名アリ以上ハ中央ノ認定シタル案ニ依リテ計算シタルモノニシテ其ノ他各省自身ニテ募集シタル各軍ノ統計ハ困難ナルヲ以テ此ノ内ニ含マズ以上各種軍隊ノ每年經常



費約二億一千餘元ヲ要ス (但シ臨時經費特別經費及ビ

別費等其ノ内ニ含マズ此ノ外海軍々費ハ年約七

百十五萬元民國三四年ノ時ハ僅ニ支出六百萬元) 故ニ陸海

軍兩方面ノ軍費丈ケニテ合計約二億二千萬元要

ス例バ全國ノ最大收入タル田賦、鹽稅、釐金、

海關稅ハ對外關係アル爲メ以上三項ヲ以テ悉ク

軍費ニ分配シテモ尙ホ年ニ一千餘萬元ノ不足ア

ルヲ以テ日々財政整理ヲ唱フルト雖モ整理ノ見

込尙前途遠遠ナルハ其原因實ニ茲ニアリ。

陸軍々人ノ數及ビ俸給ヲ列舉スレバ左ノ如シ

全國現在ノ軍隊人員及ビ俸給額一覽表、

本一覽表ハ民國九年分即チ八年度ノ調査ニシテ最近ノ  
數ナリ西南各省ハ前數ニ依リ記入ス。

| 區別  | 軍隊人員    | 俸給弗額       |
|-----|---------|------------|
| 中央  | 五四一、三四四 | 九〇、三五九、二四五 |
| 直隸  | 三五、五二八  | 四、九四四、五〇五  |
| 奉天  | 五九、八二〇  | 一二、二四一、九五九 |
| 吉林  | 四六、〇五七  | 七、六四〇、五五八  |
| 黑龍江 | 一七、一一二  | 二、八一〇、四七六  |
| 山東  | 七六、二九二  | 一、六一八、九六八  |
| 河南  | 二八、九七六  | 五、〇三七、八三三  |
| 江蘇  | 三一、八七六  | 五、三九七、一〇八  |

|       |        |           |
|-------|--------|-----------|
| 安徽    | 二二、五二八 | 三、八四七、二九五 |
| 江西    | 一九、一一二 | 三、三四一、九七六 |
| 湖北    | 二〇、〇二八 | 三、二〇〇、六三四 |
| 湖南    | 二三、五二八 | 三、九二二、一四四 |
| 福建    | 三五、五三八 | 四、一二九、五八二 |
| 浙江    | 二三、五〇八 | 三、九八八、六六六 |
| 廣東    | 四九、七三二 | 八、一二〇、八二四 |
| 廣西    | 三五、四四三 | 五、〇九五、三九九 |
| 山西    | 二八、九七六 | 五、〇五七、五三三 |
| 陝西    | 三九、二七六 | 七、三〇一、二九一 |
| 四川    | 三五、六六二 | 六、一四六、一〇四 |
| 雲南    | 四八、四八八 | 六、六八三、四七八 |
| 貴州    | 二三、八四一 | 三、六〇六、八一五 |
| 甘肅    | 一七、五一四 | 三、一六五、九七六 |
| 新疆    | 二〇、三二〇 | 三五九七、七八一  |
| 熱河    | 六、一九八  | 一、〇〇〇、〇一四 |
| 川邊    | 一二、七七七 | 一、二〇〇、〇〇〇 |
| 綏遠    | 五、六九八  | 九〇五、三一二   |
| 察哈爾   | 二、二五〇  | 二〇六、八七一   |
| 阿爾太   | 一、七七四  | 二九九、九八一   |
| 庫倫    | 一二、三二六 | 一、二一二、五一〇 |
| 塔爾巴哈臺 | 八二二    | 一二六、〇六二   |

一、中央軍隊ノ俸給ハ陸軍部及ビ軍事機關ヨリ

附記



財政部ニ請求ス。

一、各省區ハ例ヘバ綏遠混成一團ノ如キハ年銀三拾六萬三千九百二十四弗ヲ支給シ寧夏護軍使ガ新ニ步騎兵六營ヲ募集シタル時ハ年拾六萬參千四百六拾四元ヲ支給シ察哈爾新編成ノ第二混成旅團及ビ巡防隊ニハ年一百拾四萬一千三百三十二弗ヲ支給シ在庫、鳥、科各署ノ衛隊ニハ年拾九萬六千四百七拾六弗ヲ支給シタルガ以上ハ陸軍部ヨリ直接各軍隊ニ支拂ヒタルモノナリ。其ノ人數及ビ俸給額ハ「中央」欄内ニ記入ス。

一、各省ニ於テハ例バ奉天ノ二十九師ノ内騎兵旅ノ俸給四拾二萬一千二百八十四元ト湖北ノ拾八師ノ内臨時編成第二團ノ俸給二拾六萬四千元ト福建ノ臨時編成第二師ノ内第拾四混成旅俸給八十八萬參千二百零參元ノ如キハ「中央」欄ニ編入ス而シテ人員ハ各該省ニ列シタリ。

一、各省ニ於テ例バ奉天ノ臨時編成第一師、混成五旅、騎兵一團ノ俸給及ビ雜費ハ毎年合計四百四拾萬九千六百八拾弗ニシテ又直隸、吉林、黑龍江、各省ノ臨時編成各師旅ニ對シテハ中央

政府ヨリ二分ノ一或ハ三分ノ二合計三百餘萬元ヲ負擔シ又福建兩師團内補充各營及ビ補充營ノ經費ハ年二百三十三萬ヲ元支給シ又綏遠ノ新編成騎兵一團及ビ附屬各營ノ經費ハ年參拾萬一千五百餘弗ヲ支給シタル以上ハ何レモ中央ヨリ承認ヲ經テ支給シタリト雖モ往々支拂ハザル場合アルヲ以テ悉ク其金額ヲ記入セズ其ノ人員ハ各省欄内ニ記入シ俸給ハ中央政府ノ認可アルモノハ既ニ記入シアレド然ラザルモノハ追テ記入ス

一、各省區軍隊ノ經費ハ未拂額ヲ除キ中央政府ヨリ支拂濟以外ノ分ハ全部各省區内ノ國家及ビ地方收入ヲ以テ之ヲ支拂フ。

一、表内ニ記載ノ人員及ビ俸給額ハ皆軍隊ヲ指スモノニシテ其ノ軍事各機關及學校局所兵工廠ノ經費ハ其ノ内ニ含マズ。

一、表内ニ列スル將卒數ニシテ曾テ報告アルモノハ原報告ニ依リ記入シ報告ナキモノハ俸給額ニ依リ規定ニ基キ記入ス。

一、廣京、廣西、雲南、貴州、四川省等ノ將卒人員俸給額ハ國民六年ノ増加數ニ依リ記入シ以

後ノ増加數ハ未ダ記入セズ。

## 湖南省ノ硝子工業

田 中 忠 夫

### 第一、概説

長沙ニハ屋根硝子及ビ洋燈火屋等簡單ナル硝子器ヲ製造スル支那人及ビ日本人ノ工場アルモ、最近年ニ至ルマデ板硝子ノ製造ナク、板硝子ハ歐洲戰爭以來全ク本邦品ノ獨占ニ歸シタリ我ガ旭硝子會社ハ長沙三菱出張所ヲ代理店トシテ、既ニ確實ナル販路ヲ有シ居リ、當地一箇年ノ販賣高ハ數千箱乃至一萬箱位アリ。一國ノ相場ハ墨銀十八元乃至二十元ニ販賣シ居レリボイコツト以來寸那商人ハ三菱出張所ヨリ貨物ヲ買ヒ入ル、能ハザルヲ以テ、當地支那商在荷ハ頗ル拂底トナリ、相場暴騰セリ。然シ國貨會學生團等ノ監視アルタメ、貨物ヲ仕入ル、能ハズ同業者ハボイコツト氣勢緩和ト共ニ、第一番ニ仕入ヲナサント用意シ居ルモ、同業者間ニハ秘密

ニ邦商ヨリ仕入ヲナシテ、技掛ケ利得ヲ得ルモノアルヲ恐レ、互ニ監視シテ取引ヲ困難ナラシメタリト云フ。

當地ハ豐富ニシテ良好ナル硝子原料アリ、硝子工場經營ニハ適當ナル地ナルモ、板硝子ノ製造ハ容易ナラザルモノトセラレ、之ヲ試ムルモノナカリシガ、約十年前當地ニ小規模ノ硝子工場ヲ設立シタル邦人苦心ノ末、大正七年ヨリ板硝子工場ノ設置ニ着手シ、八年初メテ一箇爐ヲ完成シテ、一時相當良好ナル板硝子ヲ製出スルニ至リタルガ、ソノ後爐ニ故障ヲ生ジ、休業中ナリシガ、日本ニ於テ百萬圓ノ株式組織ヲ組織スベク歸國シ、ソノ後中日實業株式會社、臺灣銀行ニ於テ、株式ノ大部分ヲ引受クルコトナリ、茲ニ改組シ新ニ發展スルコト、ナレリ、若シ該工場成功ノ上ハ旭硝子ノ當地ニ於ケル販路ハ著シク影響ヲ受クベシト思考セラル。

白耳義板硝子ノ捲土重來再ビ支那市場ニ侵入シ來ル時期アリトスルモ、マタ本邦硝子及ビ當地邦人工場ノ製品ハ、ソノ競爭ニ對シ充分優勢

ノ地位ヲ維持スルヲ得ベシト思考セラル、モ、  
當業者ノ深キ注意ヲ要スルヤ明ナリ。

硝子製ノモノハ支那人ノ尤モ好ムトコロニシ  
テ、花瓶、菓子器、灰落等相當ノ賣行アリ、同  
値トスレバ瀬戸物ハ競争困難ニシテ、色合ハ赤  
綿等ヲ好ム。懷中電燈ハ一時内亂ノタメ他省兵  
士多數入城シ土地不案内ノタメ夜間使用者多キ  
ニ依リ特ニ賣行良好ナリシコトアリ。

長沙ニハ支那人經營ノ麓山玻璃廠、通益玻璃  
廠、合益玻璃廠及ビ邦人經營ノ三合玻璃廠アリ  
今是等各工場ニ就テ述ブベシ。

## 第二、麓山玻璃廠

長沙南門外河街ニアリ、一九一二年頃ノ開業  
ニシテ、火屋、臺洋燈、石鹼入、屋根硝子等ヲ  
製造シツ、アリ。廠主職工共ニ廣東入ニシテ、  
資本金ハ十萬兩ニシテ、出資額五萬兩ナリト云  
フ。原料ハ醴陵附近ニ産スル硅石ヲ用ヒ、曹達  
ハ英商ト内門月印ヲ使ヒ、ソノ他ノ原料ハ日本  
ヨリ輸入ス窯ハ支那舊式ニシテ、火床及ビ灰溜  
ハ地下ヨリ掘リ下ゲテ作ルモノナルコト、日本

爐同ジ。一室ノ容量百五十坩ニ過ギズ。現ニ營業  
成績良好ナラズ、缺損ヲ續ケ、資本ヲ喰込ミツ  
、アリト云フ。

## 第三、通益玻璃廠

長沙南門内ニアリ、屋根硝子ヲ製造シツ、ア  
リシモ、目下休業シ、何時開業スベキ不明ナリ。

## 第四、三合玻璃廠

三合玻璃廠ハ一九一四年十月ノ創立ニシテ、  
西山氏ノ個人經營ナリシガ、一九一九年百萬圓  
ノ株式會社(一株五十圓、四分拂込、二萬株)ニ改組セル。

原料ハ湘潭ノ上流二十支里(長沙ヨリ七十八支里)ノ花石口  
ニ産スル硅砂ヲ使用スソノ價格長沙渡一擔三十  
五錢ナリ。硅石ハ醴陵附近ニ産スルモ、運搬並  
ニ粉碎ニ費用ヲ多ク要スルヲ以テ硅砂ヲ使用ス  
ルモノナリ花石口ノ、硅砂ハ豊富ニシテ、無盡  
藏ト稱セラレ、山ハ支那人ノ所有ニ係レリ。ソ  
ノ硅砂ハ熔解シ難キモ品質良ク、着色ノ恐ナ  
リ。光澤ナシ。石灰ハ湘潭ノ上流陸口(長沙ヨリ百二十支里)  
ニ産シ、担七十錢ナリ。是等原料ノ長沙移入ニ  
ハ税金ヲ要スルコトナシ。曹達ハ英國九内門ノ



月印ヲ使用シ、擔七元見當ナリ、米國品ハ英國品ニ比シ値段安キモ多量ヲ要スルヲ以テ不利ナリ。藥、品ハ日本ヨリ輸入ス。石炭ハ硝子製造上適不適アリ本廠ニ於テハ永州炭ヲ使用セルガ、屑九元ナリ。然シ從前火屋製造ニハ多ク屑硝子ヲ使用セリ。

火屋工場ハ南門外陶公祠ニアリテ、敷地三百方(一方ハ五坪)工場二棟アリ。一九一九年三月ヨリ別ニ板硝子工場トシテ南門外書院坪(銅元局裏手)ニ六百方(一方時價五十元)ノ地トナシ、工場二棟ノ外、別ニ住宅、倉庫原料置場等六棟ヲ建築セリ。板硝子工場ニアル瓦斯發生用罐ハ大小併セテ四個、熔爐ハ一めんす式ニシテ十二萬斤ノ容量アリ、一日ノ抽出量一萬二千斤ニシテ、產出高ハ八千斤内外ノ豫定ナリ。熔爐ハ當初一個ナリシガ、破損ニ備フルタメ改組ト共ニ八千貫ノ容量ヲ有スル二個ノ熔爐ヲ築造スト云フ。

職工ニハ日支人ヲ使用シ、八年初マデハ火屋工場ニ日本人六名支那人三名ヲ使用セシガ、板硝子工場ヲ開始スルト共ニ、之ニ日本人七十一

名支那人三十名ヲ使用スルコト、ナレリ。日本人職工ノ所屬ハ、吹部三十六名、延部九名、火夫(兩部ヲ合セ)九名、窯付二十名ナルモ、改組ト共ニ百名以上ニ増加スペシト云フ。勞働時間ハ八時間交代ニシテ、賃金ハ日支トモ日給ナレドモ、別ニ利益分配アリ、マタ箇一個ニ付階級ニ應ジ十二三錢ノ獎勵金ヲ支拂フ。日本人ノ賃金ハ一元二十錢乃至一元七、八十仙ニシテ、支那人ノ賃金ハ雜役三十錢(食費トモ)見習十五錢乃至二十錢(同上)宿舍ニ收容シ通勤スルモノナシ。硝子切ハ必ズ日本人タルヲ要スルモ、ソノ他ノ作業ハ支那人ニモ可能ニシテ、漸次支那人ヲ訓練シテ之ニ當ツベシト云フ。支那人職工ニハ田舎モノ多ク、湖南人ハ漢口人ニ比シ服從心少シ。一般ニ支那人職工ハ意志疏通セザルタメ使役ニ不便ニシテ、且ツ技術的ノ訓練ハ湖南人ニハ不向ナリト云フ。日本人職工ハ吹部ニ甲、乙、丙ノ三組延部ニ甲、乙ノ二組ニ區分セリ。

火屋ハ從前一日十五打ヲ製出セルモ、目下一日三百打ヲ製造シ、ソノ賣價一打三十錢ナリ洋



燈ハ簡單ナルモノヲ一日五十打製出ス。火屋ハ  
 花火屋及ビ美孚洋行(すたんだーど石油會社)  
 製ノ洋燈ニ對スル火屋ハ、ソノ賣行好ク、竹火  
 屋ハ賣行少シ。支那ニ於テハ漸次洋燈普及シ、  
 火屋ノ賣行ハ増加スル趨勢ニアリ。長沙ノ如キ  
 大都市ニ於テモ 電燈ハ未ダ普及充分ナラズ、中  
 流以下ノ家庭ニ於テハ洋燈ヲ使用シツ、アリ。  
 板硝子ニハ、三糶ノモノ、八糶以上ノモノ  
 (原、色硝子(窓ノ下部) 裝飾品)アリ、一日百五十箱(二箱七  
 十斤)ヲ製出スト云フ。(拙著「支那ノ産業ト金融」第  
 十篇支那硝子工業參照)

◎硝子板寸法表

|                           |                             |                              |                              |                             |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| ●九枚入<br>1 三三九寸三分<br>尺     | ●拾壹枚入<br>2 三三三寸五寸<br>二尺六寸七分 | ●拾參枚入<br>3 三三三寸四分<br>二尺三寸四分  | ●角拾七枚入<br>4 二尺六寸七分<br>二尺一寸七分 | ●拾七枚入<br>5 三三<br>尺          |
| ●拾九枚入<br>6 二二六寸七分<br>尺    | ●長貳拾枚入<br>7 三三三寸四分<br>二尺五寸  | ●角貳拾枚入<br>8 二二二寸四分<br>二尺一寸七分 | ●貳拾枚入<br>9 二二二寸<br>五寸        | ●貳拾壹枚入<br>10 二二二寸七分<br>尺    |
| ●貳拾參枚入<br>11 二二二寸七分<br>尺  | ●貳拾四枚入<br>12 二二二寸五寸<br>六寸七分 | ●貳拾六枚入<br>13 二二二寸四分<br>六寸七分  | ●貳拾七枚入<br>14 二二二寸五寸<br>五寸    | ●貳拾八枚入<br>15 二二二寸七分<br>六寸七分 |
| ●長參拾枚入<br>16 二二五寸<br>三寸四分 | ●參拾壹枚入<br>17 二二六寸五寸<br>尺    | ●參拾壹枚入<br>18 二二二寸七分<br>五寸    | ●參拾貳枚入<br>19 二二三寸四分<br>三寸四分  | ●參拾參枚入<br>20 二二五寸<br>尺      |

|                              |                             |                      |                             |                             |
|------------------------------|-----------------------------|----------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| ● 九拾枚入<br>46 尺三寸四分<br>八寸四分   | ● 九拾貳枚入<br>47 尺〇八分          | ● 百枚入<br>48 一尺角      | ● 百〇參枚入<br>49 尺一寸七分<br>八寸四分 | ● 百貳拾枚入<br>50 一尺八寸四分        |
| ● 六拾六枚入<br>41 一尺五寸           | ● 六拾九枚入<br>42 尺三寸四分<br>〇八分  | ● 七拾五枚入<br>43 一尺三寸四分 | ● 八拾枚入<br>44 一尺二寸五分         | ● 八拾六枚入<br>45 一尺一寸七分        |
| ● 角五拾六枚入<br>36 尺三寸四分         | ● 五拾七枚入<br>37 尺一寸七分         | ● 六拾枚入<br>38 尺二寸五分   | ● 六拾貳枚入<br>39 尺〇八寸          | ● 六拾四枚入<br>40 尺一寸七分         |
| ● 長五拾枚入<br>31 二尺             | ● 五拾枚入<br>32 尺三寸四分          | ● 五拾壹枚入<br>33 尺一寸七分  | ● 五拾參枚入<br>34 尺二寸五分         | ● 五拾五枚入<br>35 尺三寸四分         |
| ● 四拾枚入<br>26 二尺二寸五分          | ● 四拾壹枚入<br>27 尺八寸四分<br>三寸四分 | ● 四拾參枚入<br>28 二尺三寸四分 | ● 四拾四枚入<br>29 尺五寸角          | ● 四拾五枚入<br>30 尺六寸七分<br>三寸四分 |
| ● 參拾五枚入<br>21 二尺一寸七分<br>三寸四分 | ● 參拾六枚入<br>22 尺八寸四分<br>五寸   | ● 參拾八枚入<br>23 二尺三寸四分 | ● 角四拾枚入<br>24 尺六寸七分<br>五寸   | ● 一四拾枚入<br>25 二尺一寸七分        |

【備考】

表中ノアラビヤ數字ハ註文番號ヲ示ス。

第五、結 言

予ハ曩ニ、我が對支硝子業政策ヲ論ジ。

- 1、内地製品ハ粗ヨリ精ニ移ルベキコト
- 2、支那人ノ嗜好ヲ研究スルコト

### 3、支那ニ投資シテ粗製硝子工場ヲ設立スル

コト

ノ必ナルヲ論ジタリ(拙著「支那ノ産業ト金融」)。而シテ今湖南ニ於テ邦人ノ板硝子並ニ諸硝子器ノ製造ヲ觀ルハ、上海ノ寶山玻璃廠ノ巧硝子器工場ト共ニ、予ノ大ニ欣快トスルトコロナリ。支那ニ於テハ、粗製品ハ支那人トノ競争アリテ、日本内地ニ於テ之ヲ製造スルハ不利ナレドモ、支那ニ於テ之ヲ製造スレバ、是ノ如キ不利ヲ減殺シ得ルト云フ。今長沙ニ於ケル事實ニ徹スルモ、湖南人ノ如キ支那人中殊ニ個人性發達シ、共同出資シテ事業ヲ經營スルハ、頗ル困難トスルトコロニシテ、上海人ノ機敏ナルニ及バザルコト遠ク、從テ湖南ニ於テハ火屋ノ如キ粗製品ノ製造ニ於テモ、支那人ト雖ド競争的地位ニ立ツコトナシ。長沙ニ於ケル邦人ノ製品ノ如キ、土產品トシテ待遇サレ居ルニハアラザルモ、南北爭亂ノタメ厘金ノ徵收ハ頗ル寛大ニシテ、決シテ強制的ニ徵收セラル、コトナク、頗ル有利ナリト云フ。

予ハ、我が資本家が、支那ノ資源ヲ熱心ニ探查シテ、支那人トノ合辦ニヨリ又ハ單獨ニテ、支那内地ニ着々斯業ヲ經營センコトヲ希望スル

モノナリ。(一九二一、五、二七)

### 會告

●庶務委員後任、曩ニ前庶務委員只兄徹氏病氣退職セラレシヲ以テ其ノ後任トシテ水田淳亮氏ヲ庶務委員ニ囑託セリ。

●支那經濟時報發刊、支那貿易科ニテハ同科生徒ノ研究事項發表機關トシテ「支那經濟時報」ト題シ月三回小冊子ヲ發行シ關係官廳並ニ主ナル會社商店ニ配布スルコト、ナリ既ニ二號ヲ發刊セリ。我が東亞經濟研究ノ姉妹雜誌トシテ其ノ發展ヲ希望ス其ノ内容ノ主ナルモノ左ノ如シ、

- 初號重要記事
    - 山西棉花ト其輸出概要
    - 山西綿業逐年進行計畫
    - 山西省ノ縣當棉種
    - 山西省九年度綿作辦法
    - 山西省羊種改良計畫ノ失敗
    - 山西省ノ煙草
  - 第二號重要記事
    - 新内閣ニツイテ
    - 「ユーロ」提出ノ露交通商案
    - 特殊支拂債券發行ニ關シ交通部ヨリ大總統ニ奉呈セル文書及其規則
    - 支那製鹽保證問題
    - 十七萬元短期借款ノ成立
    - 山東間復線鐵道借款條件
    - 直隸炭礦ノ近況
    - 英米煙草會社ノ納稅條件
    - 蒙古鐵業優待規則
    - 「タングステン」鐵の商標官銷辦法
- 右冊子配布希望者ハ本會ニ照會セラレタシ

## 會員諸彦ニ告グ

本會々費ハ從來壹圓六拾錢ノ規定ナリシモカ  
クテハ、紙價印刷費ノミニテ遙ニ定價ヲ越エ經  
營上ノ困難ヲ訴ヘ來リシ爲メ十年度ヨリ會費增  
額ノ止ムヲ得サルニ至リ會則第八條ヲ左ノ如ク  
改定セリ希クハ諒察セラレタシ

第八條 會員ハ會費トシテ當分一ケ年金二圓ヲ納ムルモノト  
ス

但シ校内生徒ニ限り金壹圓八拾錢トス金四拾圓以上ノ研究  
費ヲ寄附セラレタルモノヨリハ會費ヲ徴收セズ

大正十年七月七日印刷  
大正十年七月十日發行

山口縣吉敷郡小鯖村大字下小鯖  
第七百五十三番地

定價一冊金五拾錢  
郵稅四錢  
一年分郵稅共  
貳圓拾六錢

編輯兼  
發行者

大田 一穂

印刷者

東京市本郷區駒込吉祥寺町廿九番地  
加 藤 保

印刷所

東京市神田區三崎町三丁目一番地  
文明社印刷所

電九段二三六二番

發行所

山口高等商業學校內

東亞經濟研究會

振替口座福岡一〇一〇七

東京市神田區南神保町六番地

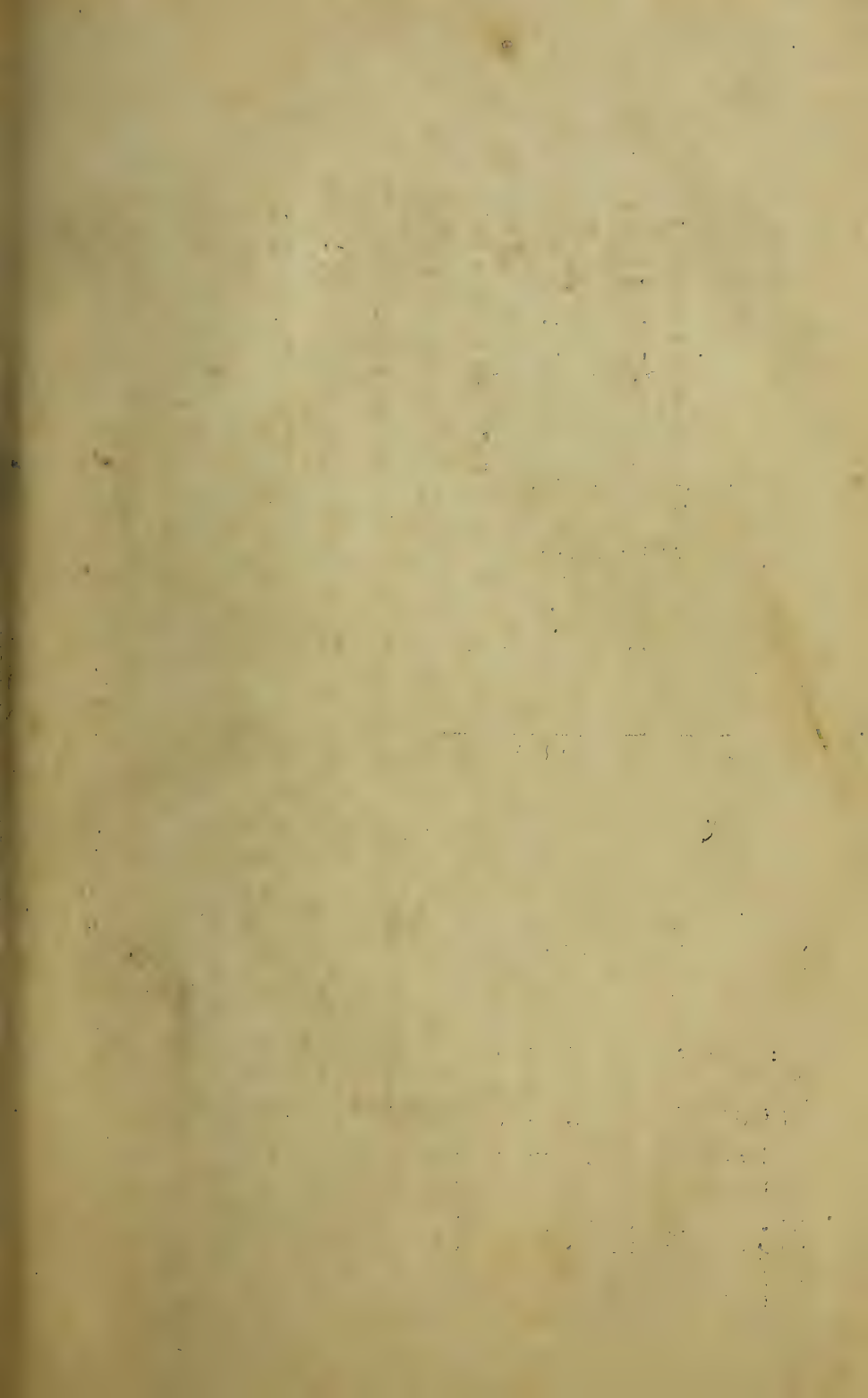
發賣所

有斐閣雜誌店

電話九段一七二〇

振替口座東京五四〇六





# 山口高等商業學校 東亞經濟研究

第五卷 第四號

## 研究

漢代貨幣史論……………講師 田中忠夫

支那ノ銀幣ニ就テ……………谷 喬 木

葡萄牙人支那渡來顛末(三)……………文學博士 矢野 仁 一

## 論 說

我邦外國貿易ノ將來ト支那……………講 師 木村増太郎

支那治外法權撤廢反駁論……………法學士 西川 喜 一

資本主義ト支那問題……………教 授 作 田 莊 一

## 調 査

露國ト其正金ノ運命……………法學士 柏 田 忠 一

## 雜 錄

支那人まほめつと傳(二)……………教 授 菱 川 精 一

評議員

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

[illegible]

評議員

同 同 同 同 同 同

|    |    |    |    |    |     |    |
|----|----|----|----|----|-----|----|
| 教授 | 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 教授  | 教授 |
| 菱川 | 水田 | 北島 | 木村 | 雜賀 | 齋藤  | 作田 |
| 精一 | 淳亮 | 常晴 | 増太 | 忠義 | 源四郎 | 莊一 |

會計委員

庶務委員

調查委員

同

同

同

編纂委員

同

同

司

同

同

同

同

同

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 教授 | 教授 |
| 水田 | 作田 | 田中 | 田中 | 蒲生 | 鷺尾 | 德重 | 井上 | 稻葉 | 水田 | 作田 | 田中 | 井上 | 水田 | 蒲生 |
| 淳亮 | 莊一 | 忠夫 | 保平 | 保健 | 伍治 |    | 岩翠 | 淳吉 | 淳亮 | 莊一 | 忠夫 |    | 淳亮 | 保鄉 |

# 東亞經濟研究

第五卷第四號 大正十年十月發行

## 研究

### 漢代貨幣史論

田 中 忠 夫

#### 第一章 西漢貨幣史論

##### 第一節 緒 言

漢代四百二十四年間(自西紀前二〇二至西紀二四二)ノ貨幣史ヲ通觀スルニ、西漢ノ末王莽ガ、復古的幣制ヲ樹立シタル時ヲ除ケバ、漢代ニ於ケル通貨ハ、銅錢、銀錫、皮幣ノ三種ニシテ、就中銅錢最モ重要ナリキ、其他穀帛ノ如キ物品貨幣モ、一部ニ於テハ使用セラレ、マタ時ニハ銅錢ヲ廢シテ穀帛ヲ通貨トスベシトノ論議ヲ觀タリ。而シテ銅錢ノ量目ハ、一銖、三銖、四銖、五銖、八銖ト絶ヘズ變動シ、武帝ノ建元五年ニ至リ、五銖錢始メテ制定セラレタルモ、依然トシテ量目ノ變動ヲ繼續セリ。



是ノ如ク幣制ヲ絶ヘズ變改シ、不安定ナラシムルハ、經濟界ヲ攪亂スルモノニシテ、貨幣ノ量目ヲ決定スルガ如キハ、審議ノ結果ナラザルベカラズ。然ルニ一旦過重ナリトシテ、廢止シタル八銖錢ヲ復興シ、一旦過輕ナリトシテ、廢止シタル一銖錢ヲ復興スルガ如キ、朝令暮改ノ貨幣政策ヲ採リタルハ、幣制ヲ確立スル上ニ於テ、遺憾トスルトコロナリ。

漢代ニ於テハ、太祖以來地方ノ權力強大ニシテ、中央集權充分ニ行ハレズ。或時ハ地方ノ豪族ヲ關中ニ徙シテ、ソノ勢力ヲ殺ギタルモ、決シテ中央ノ威力ハ能ク地方ヲ壓スルニ足ラザリキ。斯クテ貨幣ノ鑄造モ、中央政府ニ集中スルコトナク、郡國及ビ王侯ニ之ヲ認メタルヲ以テ、是レ亦幣制ヲ確立スル所以ニアラズ、甚シキニ至リテハ、文帝ハ之ヲ民間ノ自由ニ委セントシテ、盜鑄錢令ヲ除キタルコトアリ。加之民間ニ於テハ、盜鑄盛ニ行ハレテ、劣貨橫行シ、幣價下落シ、物價上騰シ、幣制ヲ紊亂シ、經濟界ヲ攪亂セリ。武帝之ニ慨シテ、地方ノ鑄造ヲ禁止シテ、上林三官ニ鑄造ヲ集中シタルモ、永續スルコトナク、造幣權ノ確立ヲ見ザリキ。之ガタメニ、漢代ニ於テハ種々ノ幣害ヲ生ゼルヲ觀ル。即チ

### 1、經濟的弊害

a、劣貨ノ橫行セルコト

b、物價ノ暴騰セルコト

c. 稼穡ヲ捨テ、鑄錢ニ趨ケルコト

## 2、政治的弊害

a. 諸侯巨富ヲ擁シテ統治困難ナルコト

b. 人心動搖セルコト

等是レナリトス。

## 第二節 太祖時代論

「前漢書食貨志」ヲ觀ルニ、

『秦天下ヲ兼ネ、幣二等ヲ爲レリ、黃金ハ鎰ヲ以テ名ヅケ、上幣トナセリ、銅錢ハ質周錢ノ如ク、錢文ハ半兩ト曰フ、重サハ其ノ文ノ如シ、而シテ珠玉龜貝銀錫ノ屬ハ、器飾寶藏トナシ、幣トサズ、然レドモ各時ニ隨ヒテ輕重常ナシ』

ト。高祖ハ初メ、張良ニ金百鎰（一鎰ハ二十兩ヲ云フ）ヲ賜フナド、秦ノ幣制ニ從ヒシガ、秦錢ハ過重ニシテ、便ナラザルヲ以テ、人民ヲシテ自由ニ英錢ヲ鑄造セシムルコト、セリ。

『漢興リ以テ秦錢重クシテ用ヒ難シトナシ、更ニ民ヲシテ英錢黃金一斤ヲ鑄ラシム』（前漢書食貨志）  
英錢ハ一ニ「榆莢錢」トモ云フ、蓋シソノ形狀榆莢ニ類スルヲ以テナリ。マタ「五分錢」トモ云フ、

是レ半徑五分ナレバナリ。ソノ錢文ハ「漢興」ニシテ、重量ハ一銖ナリ。

是ノ如ク民間ノ自由鑄造ヲ認ムルヤ、奸民ハ貨物ヲ貯藏シテ、市價ノ上騰ヲ待チ、經濟界ヲ攪亂スルニ至レリ。即チ「前漢書食貨志」ハ之ニ關シテ曰ク、

『不軌逐利ノ民ハ贏餘ヲ蓄積シ、以テ市物ヲ稽シ、痛ク騰躍セシム、米石萬錢ニ至リ馬匹百金ニ至ル』

ト。之ニ就テ晉灼ハ解釋ヲ試ミテ曰ク、

『市物ノ賤シキヲ計リ、豫メ之ヲ益蓄シ、物貴クシテ出賣ス、故ニ物ヲシテ甚ダ騰躍セシムルナリ。』

ト。然レドモ顏師古ハ晉灼ノ註釋ヲ駁シテ、

『執ラズ、軌度ニ循ハザルヲ謂フナリ、言ハ、ソノ贏餘ノ財ヲ以テ群貨ヲ蓄積シ、物ヲシテ稽滯セシムルニアルノミ。故ニ、市價甚シク騰貴ス』

ト言ヘリ。

### 第三節 惠帝時代論

『榆莢錢ヲ鑄造シタルモ、輕キニ失セシヲ以テ、高后二年七月(西紀前二八六)復タ八銖錢ヲ鑄造シ、同六年(西紀前一八二)ニハ再ビ榆莢錢ノ流通ヲ認メタリ』(通志、卷六二)(西漢會要卷五三)

### 第四節 文帝時代論

文帝五年(西紀前一七五)更ニ四銖錢ヲ鑄造セルガ、ソノ文ハ「半兩」ト云フ。是レ『錢益々多クシテ輕キガタメ』(通志卷六二)ナリ。同年文帝ハ盜鑄錢令ヲ廢止シ、民間ニ於ケル自由鑄造ヲ認メタリ。

『盜鑄錢令ヲ除キ民ヲシテ放鑄セシム』(前漢書食貨志)。是レ國家ガ造幣主權ヲ放擲スルモノニシテ、

之ニハ種々ノ弊害ヲ伴ヒ、弊制上決シテ許スベキモノニアラズ。即チ賈誼ハ之ヲ諫止シテ曰ク、

『逋者竊ニ聞ク、吏錢ヲ鑄ルモノヲ復シ、民人罪ニ抵ルモノ多キハ、一縣ニ百數、少キハ十數家屬、知識及吏ノ疑フトコロ、繫囚榜笞シ及ビ犇走スルモノ類甚ダ少カラズ、僕未ダ之ヲ驗然スルコトヲ得ズ。ソノ刑必然、禍罪ニ抵ルモノハ固乃チ始ルノミ、此ニ息時無ク、事甚ダ少カラズ。上ニ於テ大ニ便ナラズ。願クバ陛下幸ニ法ヲ忽ニシ、天下ヲシテ公ニ顧租シテ錢ヲ鑄ラシムルコトナカレ。鑄錢ノ情ハ、鉛鉄及ビ石ヲ鍛ジ銅ヲ雜ユルニアラザレバ、贏ヲ得ベカラズ。而シシテ之ヲ鍛ズルコト甚ダ微ニシテ、マタ爲リ易キコト、鹽麩ノ易キト異ルコトナク、而シテソノ利厚シ。法ヲ張リ公ニ鑄テ金ヲ賜フテ鑄ルモノト雖、情必ズ奸僞ナリ。名ヅケテ顧租ト曰フ。公鑄ハ法ニシテ實ハ皆ナ黥罪ナリ。法アリテ此ノ若クンバ上將タ何ヲカ頼マン焉。夫レ事禍ヲ召スコト有ツテ法奸ヲ起スコトアリ。今細民ヲシテ造幣ノ權ヲ操ラシメバ、各々其家ニ隱屏シテ公ニ鑄作ス。因テソノ大利微奸ヲ禁ゼント欲シ、黥罪日ニ報ユト雖、ソノ勢止マズ、此レ理ノ然ルナリ。夫レ日ニ法ニ着テ以テ之ヲ請ヘバ則チ吏隨テ之ヲ掄ヘ、民ノタメニ阱ヲ設ク。



孰レカ是ニ積マン。上蚤ニ之ヲ圖ルニアラザレバ、民力且ニ盡ン矣。曩ニ錢ヲ鑄ルコトヲ禁ジ死罪下ニ積メリ。今公ニ錢ヲ鑄テ黥罪下ニ積メリ。少シク異ルト雖未ダ甚シカラズ。民方ニ隋溺シテ上且ニ救ハザランヤ。且世民錢ヲ用ヒ縣異ニシテ郡同ジカラズ、或ハ輕錢ヲ用ヒ、百ニ若干ヲ加ヘ、輕小行ヲ異ニシ、或ハ重錢ヲ用ヒ、稱ヲ平ニシテハ受ケズ、法錢立タズ、將ニ天下ヲシテ權族ニ操ラシム。而シテ吏急ニシテ之ヲ一ニセンカ、則チ大ニ煩苛ニシテ民任ヘズ、且ツ力能ハズシテ勢施スベカラズ。縱ニシテ苛セザランカ、則チ郡縣異ニシテ市肆同ジカラズ、小大用ヲ異ニシ、錢文大ニ亂ル。夫レ苟モソノ術ニアラザレバ則チ何ニ嚮テ可ナラン哉。夫レ農事爲サズシテ銅ヲ采ルモノ蕃シ、ソノ未耨ヲ釋テ、冶鑄鑪炭シ、奸錢日ニ繁ク正錢日ニ亡ブ。善人怵ツテ奸邪ヲナシ、愚民陷ツテ刑僇ニ之キ、黥罪繁積シ、吏民且ツ日ニ鬪フ矣。益今ニ少シ。將タ甚ダ詳ナラズ。奈何カ忽ニセン。國此ヲ患ルヲ知り、吏必ズ議シテ曰ク、之ヲ禁ゼヨト。之ヲ禁ズルニソノ術ヲ得ザレバ、ソノ傷必ズ大ナラン。何ヲ以テカ之ヲ圖ラン。令シテ錢ヲ鑄ルヲ禁ズレバ錢必ズ重キニ還リ、四銖ノ粟ハ二錢ニ還ルノミ。重ケレバ則チ錢ヲ盜鑄スルコト雲ノ如ク、起レバ則チ棄市ノ罪マタ以テ禁ズルニ足ラズ矣。姦勝ヘズシテ禁法數々潰レ言ヒ難シ、已ニ大事ナリ。久シク亂レテ蚤ニ振ハザレバ、恐ラクハ陛下ニ稱ヘズ。凡ソ治ハ天地星辰ニ應ズルヲ得ズシテ動クコトアレバ、小故ニアラズ。或ハ主德ニ累ス。陛下以テ怠ルベ

カラズ。今ニ方リ始テ伏シテ望ムラクハ善ク圖ルベシ』(賈誼新書卷四)

ト。更ニ賈誼ハ造幣權ヲ集中シ、錢貨ヲ官鑄スルノ利益七項ヲ説キ、陛下ヲ戒メテ曰ク、

『今博禍除クベクシテ、七福致スベキナリ。何ヲカ福ト謂フ。上銅ヲ收メテ布カシムルコトナケレバ則チ民錢ヲ鑄ラズ黥罪積マザル一ナリ矣。僞錢蕃カラズ民疑ハザル二ナリ矣。銅ヲ采リ鑄作スルモノハ耕田ニ反ス三ナリ矣。銅畢メ上ニ歸シ上銅積ヲ挾ンデ以テ輕重ヲ御シ、錢輕ケレバ則チ術ヲ以テ之ヲ歛メ、重ケレバ則チ術ヲ以テ之ヲ散ジ、貨物必ズ平ナル四ナリ矣。以テ兵器ヲ作り、以テ貴臣ニ假シ、多少制アリ、用ツテ貴賤ヲ別ツ五ナリ矣。以テ萬貨ニ臨ミ、以テ盈虛ヲ調ヘ、以テ寄羨(過剩ノモノ)ヲ收ムレバ、則チ官富貴ニシテ末民困ル六ナリ矣。吾ガ棄財ヲ制シ、以テ匈奴ニ與ヘ、ソノ民ヲ逐爭スレバ、則チ敵必ズ懷ルモノナリ。故ニ善ク天下ヲナスモノハ、禍ニ因リテ福トナシ、敗ヲ轉ジテ功トナス、今ハ乃チ七福ヲ退ケテ博禍ヲ行フ、臣誠ニ之ヲ傷ム』

ト。是レ實ニ經濟ノ道ニ通ジ、命世王佐ノ才タルヲ失ハザルヲ證スルモノナリ。誠ニ黃寶ガ「賈誼新書」ニ序シテ、

『乃チ知ル、太傳ノ生、漢室初造炎獄氣完ノ時ニ値リ、天人精微ノ蘊ニ通ジ、歷代治亂ノ故ヲ窮メ、萬物榮悴ノ情ニ洞ク、禮樂刑政ノ端ヲ究メ、仁義道德ノ原ニ貫通ス。故ニ正言竝議卓々乎

トシテ其ノ奇偉、悠々乎トシテ其ノ深長、鑿々乎トシテ其ノ援據アルコト、江河ノ盪滴トシテ其ノ涯ヲ測ル莫キガ如ク、風霆變化シテ其ノ迹ヲ見ル莫キガ如ク、雲霞卷舒出沒シ旆靄千態萬狀ニシテ名ヅケ言フベキ莫キガ如シ。世ノ近古ト稱スルモノ亦是ニ在リ矣』

ト激賞セル故ナキニアラズ。マタ「賈山傳」ヲ觀ルニ、

『錢ハ之用ノ器ニシテ以テ富貴ヲ易クスベシ、富貴ハ人主ノ操柄ナリ、民ヲシテ之ヲナサシム、是レ人主ト操柄ヲ共ニシ、長ズベカラサルナリ。』

ト。是ノ如ク自由鑄造ノ弊害ヲ痛論シテ諫止スルモノアリト雖、文帝ハ之ヲ聽カズ(前漢書食貨志)自由鑄造ヲ認メシヲ以テ、諸侯大夫ニシテ盛ニ鑄錢ヲナスモノアリ、即チ

『是時吳ハ諸侯ヲ以テ山ニ即キ錢ヲ鑄、富天子ニ等シク、後チ卒ニ叛逆セリ。鄧通ハ大夫ナリ、鑄錢ヲ以テ財王者ヲ過グ、故ニ吳鑄錢ハ天下ニ布ケリ』(前漢書食貨志)

ト。斯テ自由鑄造ノ弊生ズルヤ、文帝『復タ錢鑄ヲ禁ゼリ』(賈山傳)、是レ當然ノ歸結ト謂フベシ。

## 第五節 景帝時代論

景帝六年十二月、鑄錢棄市律ヲ定メ(漢書景帝紀)タルガ、依此觀之、文帝ガ自由鑄造ヲ禁止セルモ、

ソノ後竊ニ盜鑄ヲナスモノアリ、景帝ハ更ニ嚴刑ヲ以テ之ヲ禁遏スルニ努メタルヲ知ルベキナリ。然レドモ鄧通依然私鑄シ、之ヲ禁止スルコト能ハサリキ(本傳)。



## 第六節 武帝時代論

### 第一款 銅 錢

#### 第一項 鑄 造

建元元年二月

(西紀前  
一四〇)

四銖錢ヲ廢シテ三銖錢ヲ行ヘリ(漢書武  
帝本紀)。

顏師古ハ之ニ託シテ曰ク、『新ニ四

銖ヲ壞シテ此錢ヲ造レルナリ、重サハ其文ノ如シ』ト。然レドモ三銖錢ハ輕キニ失シテ姦詐ヲナシ

易シトノ理由ノ下ニ

(前漢書  
食貨志)

、同五年春、

(西紀前  
一三六)

三銖錢ヲ罷メテ半兩錢

(鄭樵曰ク  
四銖錢)

ヲ行ヘリ

(漢書武  
帝本紀)。

顏師古復タ之ニ註シテ曰ク、『又新ニ鑄作セルナリ』ト。

「前漢書食貨志」ヲ觀ルニ、元狩ノ初、山東ニ於テ水災アリテ、人民饑乏セルヲ以テ、武帝ハ使者ヲ羅災地ニ派遣シ、郡國ノ倉廩ヲ開イテ、貧民ノ救濟ヲナセルモ、猶ホ足ラズ、故ニ富豪ヲシテ之ヲ救濟セシメタルモ、尙ホ充分ナラズ。乃チ饑民ヲ關以西及ビ朔方以南ニ徙セルガ、ソノ數七十餘萬人ニ達シ、此ガ衣食ハ縣官ニ於テ支給スルコト、セルヲ以テ、經費巨額ニ昇レリ。公主列侯亦國邑アリト雖、餘財ナク皆ナ首ヲ垂レテ、富商大賈ノ援助ヲ求ムルノ窮狀ナリ。而モ商賈ハ平然トシテ、貨物ヲ買占メ、貧民ヲ使役シ、冶鑄鬻鹽是レ事トシ、奇利ヲ貪リ巨富ヲ擁シ、秋毫モ邦家ノ危急、黎民ノ重困ヲ救援スルモノナシ。加之武帝ハ征討ニ國帑ヲ費シ、財政頗ル窮ヲ告ゲタリ。是ヲ以テ武帝ハ公卿ト協議シ、浮淫並兼ノ徒ヲ摧クト共ニ、白鹿皮幣、銀錫ノ外、新



ニ三銖錢ヲ鑄造シテ、財政ノ窮乏ヲ救済スルコト、セリ。

『縣官ニ令シテ半兩錢ヲ銷シテ更ニ三銖錢ヲ鑄ラシム、重サソノ文ノ如シ』(前漢書食貨志)

是レ元狩四年(西紀前一八)ノコトナレドモ、後間モナク同五年(西紀前一七)ニ至ルヤ

『有司言ヘリ、三銖錢ハ輕シ、輕錢ハ姦詐ヲナシ易シ、迺チ更ニ請フ、郡國ヲシテ五銖錢ヲ鑄、

周郭其質ハ摩シテ鎔ヲ取ルヲ得ザラシメラレンコトヲ』(前漢書食貨志)

トノ奏請アリ。是ニ於テカ三銖錢ヲ廢シテ五銖錢ヲ鑄造セルガ、明ノ邱濬ハ、五銖錢ヲ評シテ曰ク

『秦ノ八銖ハ重キニ失シ、漢初ノ榆莢錢ハ輕キニ失ス、武帝ノ五銖錢ヲ鑄レルハ、最モ輕重ノ宜

ヲ得タルモノナリ』(大學講義補)

ト謂ヘリ。眞ニヤ五銖錢ハ遂ニ漢代ヲ通ジテソノ流通ヲ認メラレ、尙ホ宋ニ至ルモ廢セラル、コ

トナカリキ。

翌六年(西紀前一六)ニ至ルヤ、『公卿ハ京師ヲシテ官赤仄一當五ヲ鑄ラシメ、賦官ノ用ハ赤仄ニアラザ

レバ行フヲ得ザルコトヲ請ヘリ』(前漢書食貨志)。是レ郡國ニ於テ鑄錢シ人民亦多ク盜鑄シ、錢貨過剩ト

ナリ幣價下落セルヲ以テナリ。然レドモソノ後二年ニシテ、赤仄錢ノ價值亦下落シ、人民ハ之ガ

使用ヲ不便トシ、遂ニ廢止セラレタリ。

『ソノ後二歲、赤仄錢賤シク、民法ヲ巧ニシ、之ヲ用ヒテ便セラズ、マタ廢ス』(前漢書食貨志)

## 第二項 流 通

當代ニ於テハ、銅錢ノ鑄造ハ、地方政府即チ「郡國」ニ於テ之ヲナスヲ許可シタルモ、民間ニ於ケル私鑄ハ之ヲ禁止セリ。然レドモ民間ニ於ケル私鑄盛ニシテ、嚴刑ヲ以テスルモ、容易ニ之ヲ禁遏スルコト能ハザリキ。

『諸金錢ヲ盜鑄スルモノハ、罪皆ナ死、而シテ吏民ノ犯スモノ數フニ勝スベカラズ』(前漢書食貨志)

『孝文更ニ四銖錢ヲ造リテヨリ是歲ニ至ル四十餘年、建元ヨリ以來用少ク、縣官往々銅多キ山ニ即テ錢ヲ鑄リ、民亦盜鑄數フルニ勝スベカラズ』(同上)

『白金五銖錢ヲ造リテヨリ後五歲ニシテ、吏民ノ金錢ヲ盜鑄スルニ坐セルモノヲ赦セリ。死者數十萬人、ソノ發覺セズシテ相殺セルモノ計ルニ勝ユベカラズ。赦サレテ自ラ出デシ者百餘萬人、然レドモ半バ自ラ出ツル能ハズ。天下大抵慮ナク皆金錢ヲ鑄レリ矣。法ヲ犯スルモノ衆ク、吏盡ク誅スル能ハズ。是ニ於テ博士諸大徐偃等ヲ遣シ、郡國ニ分行シ、併兼ノ徒、守相ノ利ヲナセルモノヲ舉ゲシメタリ』(同上)

『元狩六年各十月、使ヲ遣シ郡國ノ緡錢ヲ治サム、夏四月、博士ヲ遣シ、郡國ヲ循行シ兼併及ビ吏ノ罪アルモノヲ舉グ』(通鑑綱目)

『是ニ於テ悉ク郡國ニ禁シテ錢ヲ鑄ルナシ、專ラ上林三官ヲシテ錢ヲ鑄ラシム。既ニ多クシテ天

下ニ命ジ三官錢ニアラザレバ行フヲ得ズ。諸郡國前ニ鑄ルトコロノ錢ハ皆廢シ、之ヲ銷シテソノ銅ヲ三官ニ輸入シ、而シテ民ノ鑄錢益々少クシ、ソノ費ヲ計ルニ、相當スル能ハズ』(前漢書食貨志) 敍上ニ依リテ攷フルニ、如何ニ當代ニ於テ私鑄ノ盛ナリシカラ知ルニ足ルベシ。而シテ復々、之ガ防止策トシテ執リタル政策ヲ觀ルニ、

1、私鑄者ヲ死刑ニ處セルコト

2、郡國ニ於ケル鑄錢ヲ禁止セルコト

3、上林三官ニ鑄錢ヲ集中セルコト

4、三官錢ノ外ハソノ流通ヲ禁止セルコト

5、三官錢ノ外ハ之ヲ銷鎔シテ輸官セシメタルコト

ノ五項ニ歸ス。而シテ禁遏策ハ漸嚴セルモ、尙ホ『真工大姦ハ盜ンデ之ヲ爲レリ』(前漢書食貨志) ト云フ。

當代ニ於テハ、單ニ私鑄ノ盛ナリシノミナラズ、錢貨ヲ摩擦シテソノ銅屑ヲ竊取スルガ如キ奸計行ハレタリ。『姦或ハ盜ンデ錢質ヲ摩シテ鎔ヲ取ル』(前漢書食貨志) ト云ヘルハ、是ナリ。是レ一ニハ警

察權ノ薄弱、道義心ノ缺乏ニヨルト雖、亦

1、生活費ノ低廉ナリシコト

2、鑄造法ノ粗雜ナリシコト

3、各種通貨流通シ其比價ニ高低アリシコト  
ノ三因ニ依ラズンバアラズ。

### 第三項 價 值

當代ニ於テハ造幣權集中セラレズ、私鑄盛ニ行ハレタルヲ以テ、幣價ハ下落シ、物價ノ上騰セ  
ルヲ常態トセリ。

『錢益々多クシテ輕ク、物益々少クシテ貴シ』（前漢書食貨志）

是ノ如クナルヲ以テ、携帶ニハ不便ナリシガ如ク、「前漢書食貨志」ニハ『錢益々輕薄ニシテ物貴  
ケレバ、則チ遠方ニ幣ヲ用ヒテ、煩費省カレズ』ト謂ヘリ。

### 第二款 銀 錫

財政窮乏ヲ舌ゲタルモ、速ニ財源ヲ求ムル能ハズ、而モ富豪ノ之ヲ救援スルモノナク、マタ幣  
價下落シテソノ輸送不便ナルヲ以テ、銀錫ノ合金ヲ以テ、元狩四年（西紀前一八）次ノ白金三品ヲ鑄造セ  
リ。（前漢書食貨志）

| 錢 | 文 | 形 | 狀  | 量   | 目   | 價 | 值   | 備     | 考           |
|---|---|---|----|-----|-----|---|-----|-------|-------------|
| 龍 | 馬 | 龜 | 圓形 | 方圓形 | 橢圓形 | 兩 | 八   | 三、〇〇〇 | 白撰トモ云フ、天ニ擬ス |
|   |   |   |    |     |     | 六 | 五〇〇 | 地ニ擬ス  |             |
|   |   |   |    |     |     | 四 | 三〇〇 | 人ニ擬ス  |             |



然レドモ『白金稍鮮クシテ民實用セズ、縣官令ヲ以テ是ヲ禁ズルモ益ナク、歲餘ニシテ終ニ廢シテ行ハレズ』(通志)ナレリ。

### 第三款 皮 幣

銀錫ト同一ノ理由ヲ以テ白鹿ノ皮幣ヲ以テ皮幣ヲ作レリ。

『白鹿ノ皮方尺、綠スルニ績(刺繡)ヲ以テシ、皮幣ヲ爲レリ、四十萬ニ直ス、王侯宗室、朝觀聘享

ニハ必ズ皮幣ヲ以テ璧ヲ薦メ、然ル後行フヲ得タリ』(前漢書食貨志)

漢ノ皮幣ハ、周ノ傳別、唐ノ飛錢ト共ニ、支那ニ於ケル紙幣ノ先驅トセラル。武帝ハ張湯ト謀リテ白鹿皮幣ヲ造リ、顏異ニ問ヘルニ、異ハ曰ク、

『今王侯朝スルニ蒼璧直數千ヲ以テシテソノ皮薦ムルハ四十萬ニ反シ、本末相稱セズ』

ト武帝之ヲ悅バザリシガ、廉直ナル顏異ノ言コソ、至當ニシテ一時權威ヲ以テ之ヲ行ヒ得ルモ、決シテ流通圖滑ニシテ永續スベキ貨幣ニアラザリシナリ。

### 第七節 元帝時代論

元帝ノ世、貢禹ハ「言ニ錢幣ニ書」ト題シ、貨幣廢止、穀帛使用ヲ建策シテ曰ク、

『古ハ金錢ヲ以テ幣ヲ爲ラズ。専ラ農ヲ意トセリ。故ニ一夫耕サザレバ必ズソノ飢ヲ受クルモノアリ。今漢家錢ヲ鑄リ、及ビ諸々ノ鐵官ハ、皆吏卒ノ徒ヲ置キ、山ヲ攻メテ銅鐵ヲ取ル、一歲

ノ功十萬人已上ナリ、農食七人ニ中ル、是レ七十萬人常ニソノ飢ヲ受クルナリ。地ヲ鑿ツコト  
數百丈、陰氣ノ精ヲ銷シ、地空虛ヲ藏ス、能ク氣ヲ含ンデ雲ヲ出ス能ハズ、林木ヲ斬伐シ、亡  
クシテ時ニ禁アリ、水旱ノ災未ダ必ズシモ此ニ繇ラザルナリ。五銖錢起リテヨリ已來、七十餘年、  
民ノ盜鑄錢ニ坐シテ刑ヲ被ルモノ衆シ。富室積錢室ニ滿チテ猶ホ厭キ足ルコトナク、民心動搖  
ス。商賈利ヲ求メ、東西南北、各々智巧ヲ用ヒ、好衣美食シ、歲二十二ノ利アリテ租稅ヲ出サ  
ズ。農夫父子、中野ニ暴露シ、寒暑ヲ避ケズ、山ヲ摔キ土ヲ把キ手足胼胝ス。已ニ穀租ヲ奉ジ、  
又鹽稅ヲ出ス。鄉部私ニ求メ、供ニ勝フベカラズ。故ニ民ハ本ヲ棄テ、末ヲ逐フ。耕スモノハ  
半ナル能ハズ。貧民ハ之ニ田ヲ賜フト雖、猶ホ賤賣シテ以テ賣ス。窮スレバ則チ起ツテ盜賊ト  
ナル。何トナレバ末利深クシテ錢ニ惑フナリ。是ヲ以テ姦邪禁ズベカラズ、ソノ原ハ皆錢ニ起  
ルナリ。ソノ末ヲ疾ムモノハソノ本ヲ絶ツ、宜シク採珠玉金銀鑄錢ノ官ヲ罷メ、復タ以テ幣ヲ  
爲ル亡ク、市井販賣スルヲ得ル勿シ。ソノ租錢ノ律ヲ除キ、租稅祿賜皆布帛及ビ穀ヲ以テシ、百  
姓ヲシテ壹ラ農ニ歸セシメバ、古道ヲ復スルニ便ナリ」

（古文淵鑒）  
卷一四

之ニ對シ論議盛ニ起レルガ、結局『交易ハ錢ヲ待ツモ、布帛ハ尺寸分裂スベカラズ』

（通志）

トイフ

ニ一致シ、貢禹ノ議ハ實施セラレズシテ寢ミタリ。斯ク貢禹ガ貨幣ヲ廢止シ穀帛ヲ使用スベキコ  
トヲ主張スルニ至リタルハ、武帝ガ自由鑄造ヲ禁止シ、造幣權ヲ集中セントシタルモ、ソノ實效

ヲ收ムルコト能ハズ、幣制紊亂シテ收拾ノ道ナキニ鑑ミタルニ由ルト雖、單ニ貨幣ヲ廢止シ、穀帛ヲ使用スル時ハ、新ニ貨幣廢止ノ不利ト穀帛使用ノ不便トニ苦シミ、財政經濟ヲ攪亂セザルヲ得ザルナリ。是レ角ヲ矯メントシテ牛ヲ殺シ、小害ヲ除カントシテ大害ヲ招クモノニ外ナラズ。吾人ハ貨幣ヲ廢止シ、穀帛ヲ使用センヨリハ、寧ロ自由鑄造ヲ禁止シ、造幣權ヲ集中シ、一方僞錢ヲ回收シテ幣制ヲ統一スルト共ニ、他方適量ナル良貨ヲ供給スルニ努ムベキナリ。

### 第八節 平帝時代論

元狩五年<sup>(西紀前一〇七)</sup>武帝ガ五錢錢ヲ鑄造シテヨリ、平帝ノ元始中<sup>(西紀一五)</sup>ニ至ル間ニ、鑄造發行セラレタル額ハ實ニ二百八十億萬餘ニ達セリト云フ。

王莽ハ平帝ノ攝政ヲ務メタルガ、自ラ周公ニ擬シ、漢制ヲ變ジテ周制ヲ以テシ、幣制上ニ於テモ、周錢ノ子母相權<sup>(大錢ト小錢ト並行ハル、ヨト)</sup>アルヲ採リ、攝政トナリテヨリ二年五月ニシテ、大錢、契刀、錯刀ナル三種ノ新錢ヲ鑄造流布シ、五銖錢ト並行セシメタリ。然レドモ、民間ニハ盜鑄者多ク、幣制ヲ紊亂セリ。

| 種別 | 大     | サ | 量  | 目    | 錢文    | 價値                   | 形 | 狀        |
|----|-------|---|----|------|-------|----------------------|---|----------|
| 大錢 | 徑一寸二分 | 一 | 二錢 | 大錢五十 | 五〇    | 環ハ大錢ノ如ク身形ハ刀ノ如ク長サ二寸内外 |   | 張曼<br>ノ説 |
| 契刀 | 長二〇   | 一 | 一  | 契刀   | 五〇〇   | 金ヲ以テ文字ヲ填ム            |   |          |
| 錯刀 | 一     | 一 | 一  | 一刀五千 | 五、〇〇〇 |                      |   |          |

(張晏ノ說)

斯ク周公ニ擬シ、恭儉ヲ装ヒ、新政ヲ布キ、人心ヲ收攬スルヤ、幼弱ナル平帝ヲ毒殺シテ自ラ  
 帝位ニ即キ、國ヲ「新」ト號セリ、是レ紀元前八年ナリトス。

## 第二章 新代貨幣史論

王莽愈々帝位ニ即クヤ、益々周公ノ聲ニ倣ヒ、法令雨下、苛稅ヲ強徵シ、叛亂四方ニ起リ、榮  
 華ノ夢ハ永カラズ、僅ニ十有五年ニシテ滅亡セリ。ソノ間ニ於ケル幣制ハ、頗ル復古的ニシテ、  
 寶貨二十八品ヲ定メタルガ、此中ニハ龜寶五品、貝貨五品、布貨十品アリ、是レ經濟界ノ發展ニ  
 伴ハズシテ將ニ滅ビントスル舊幣ヲ復興セントスルモノニシテ、時代ノ習慣ヲ無視シ、一舉ニシ  
 テ周制ヲ再施セントスルモノ、如何デカ効果ヲ收メ得ベキ。新ノ末年、民心ハ既ニ王莽ヲ離レテ  
 漢室ノ復辟ヲ翹望シ、蜀ノ童謠ニ曰ク、『黃牛日腹、五銖當復』ト。

王莽ハ初始二年(西紀八)、契刀錯刀及五銖錢ヲ廢シ、次ノ如キ寶貨二十八品ヲ行ヘリ。

### 一、錢貨六品

|     |   |     |     |     |
|-----|---|-----|-----|-----|
| イ、小 | 錢 | 徑六分 | 重二銖 | 直一  |
| ロ、五 | 錢 | 徑七分 | 重三銖 | 直十  |
| ハ、幼 | 錢 | 徑八分 | 重五銖 | 直二十 |
| ニ、中 | 錢 | 徑九分 | 重七銖 | 直三十 |
| ホ、壯 | 錢 | 徑一寸 | 重九銖 | 直四十 |



ヘ、大 錢

徑一寸二分

重十二銖

錢五十枚ニ值ス

## 二、銀貨二品

イ、朱提銀

ロ、它 銀

重八兩ヲ一流トシ、錢一千五百八十枚ニ值ス  
直一千

## 三、金貨一品

イ、黃 金

重一斤錢一萬枚ニ值ス

## 四、龜寶四品

イ、元 龜

ロ、公 龜

ハ、侯 龜

ニ、子 龜

龜甲ノ直徑一尺二寸ナルモノ、直二千六百六十大貝十朋(註)  
徑九寸、直五百、壯貝十朋  
徑七寸以上、錢三百枚ニ值ス 小貝十朋  
徑五寸以上、錢百枚ニ值ス 小貝十朋

## 五、具貨五品

イ、大 貝

ロ、壯 貝

ハ、並 貝

ニ、小 貝

ホ、——

四寸八分以上、一朋錢二百十六枚ニ值ス  
三寸六分以上、一朋錢五十枚ニ值ス  
二寸四分以上、一朋錢三十枚ニ值ス  
一寸二分以上、一朋錢十枚ニ值ス  
一寸二分以下、一朋錢三枚ニ值ス

## 六、布貨十品

イ、大 布

長二寸四分、重一兩、錢一千枚ニ值ス

|     |   |                     |
|-----|---|---------------------|
| 口、次 | 布 | 長二寸三分、重二十三銖、錢九百枚ニ值ス |
| ハ、弟 | 布 | 長二寸二分、重二十二銖、錢八百枚ニ值ス |
| ニ、壯 | 布 | 長二寸一分、重二十一銖、錢七百枚ニ值ス |
| ホ、中 | 布 | 長二寸、重二十銖、錢六百枚ニ值ス    |
| ヘ、差 | 布 | 長一寸九分、重十九銖、錢五百枚ニ值ス  |
| ト、厚 | 布 | 長一寸八分、重十八銖、錢四百枚ニ值ス  |
| チ、幼 | 布 | 長一寸七分、重十七銖、錢三百枚ニ值ス  |
| リ、玄 | 布 | 長一寸六分、重十六銖、錢二百枚ニ值ス  |
| ヌ、小 | 布 | 長一寸五分、重十五銖、錢一百枚ニ值ス  |

(註) 一朋トハ具ニ個ヲ云フ。

今「前漢書食貨志」ニ據ルニ、錢布ハ皆ナ銅ヲ主トシ、之ニ鋋(許慎ニ據レバ錫ノ一種ナリ)ヲ混融シテ鑄造セル

モノニシテ、ソノ文質周郭ハ漢ノ五銖錢ニ摸セリ。ソノ金銀貨ハ他物ヲ混融シテ純良ナラズ。

龜甲ハ五寸ニ盈タズ、貝貨ハ六分ニ盈タザレバ、何レモ寶貨タル能ハズ、殊ニ元龜ハ蔡ト稱シ、

四民ノ容易ニ得ル能ハザルトコロニシテ、富者ノミ大メヲ入レテ之ヲ得ルナリ。蔡ト稱スルハ、

蔡國ニ善良ナル大龜ヲ産スルヲ以テナリ。(顏師古ノ説)

然レドモ是ノ如キ時代錯誤ノ幣制ハ、民間ニ於テ容易ニ行ハル、モノニアラズ、即チ『百姓潰

亂シテソノ貨行ハレズ、民私ニ五銖錢ヲ以テ市買ス』(前漢書食貨志)ル狀態ナリ。王莽之ヲ患ヒ、新幣制

ヲ勵行セント欲シ、五銖錢ヲ挾帶スルモノヲバ「惑衆」ト稱シ、之ヲ四裔即チ國外ニ放逐スルコト

トセリ。是ニ於テカ農商業ヲ失ヒ、食貨俱ニ廢シ、民市道ニ涕泣シ、座シテ田宅奴婢ヲ賣買シ、錢ヲ鑄テ罪ニ抵ルモノ、公卿大夫ヨリ庶人ニ至ルマデ、數フルニ稱ユベカラザリキ。民愁是ノ如ク深大ナルヲ以テ、王莽モ新制ノ非ナルヲ悟リ、直一小錢、直五十大錢、五銖錢ノ三品ヲ流通セシメ、他ノ龜貝布等ハ之ヲ廢罷セリ。ソノ後國師公劉歆ノ言ヲ容レテ、賒貸、五均、幹等ノ社會政策的施設ヲナシ、民心ノ離叛ヲ緩和セルガ、初始七年即チ天鳳五年<sup>(西紀一四)</sup>、五銖錢及ビ直一小錢ヲ廢シ、貨布貨泉ノ二種ヲ制定シ、大錢ノ流通ハ六年後ニ禁止スルコト、セリ。

貨布 長二寸五分、首長八分餘、廣一寸、圓ノ直徑二分半、足枝長八分、間廣二分、重二十六銖、直貨泉二十五

貨泉 徑一寸、重五銖、直一

是ノ如ク大錢ノ流通ヲ六年後ニ猶豫セルハ『大錢ノ行ハル、コト久シク、之ヲ罷ムルモ、民挾ンデ止メザルヲ恐ル、ヲ以テナリ』<sup>(前漢書食貨志)</sup>。是ノ如キ新制ヲ施行センガタメ、王莽ハ錢ヲ私鑄シ寶貨ヲ非沮スルモノハ、何レモ之ヲ四裔ニ投ズルコト、セルモ、法ヲ犯スモノ多ク、悉ク處罰スルニ勝ヘザルモノアリ。是ヲ以テ初始一三年即チ地皇元年<sup>(西紀二〇)</sup>刑罰ヲ輕クシ、泉布ヲ私鑄スルモノハ、妻子ト與ニ官府ノ奴隸トナシ、官吏及ビ比伍知リテ之ヲ舉告セザルモノ亦、私鑄者ト同罪ニ論ジ、マタ寶貨ヲ非沮スルモノハ、一年ノ刑ニ處シ、官吏ハ免職セシメ、犯人五人ニ及ベバ、

皆檻車ニ乗セ鐵鎖ヲ加ヘテ、長安ノ鐘官(造幣官)ニ傳送シ、造幣局ニ於テ服役セシメタリ。(前漢書食貨志)

當時、公孫述ハ蜀ニ於テ獨立シ、銅錢ヲ廢シテ鐵錢ヲ行ヒタルガ、民間ニ於テハ流通セザリキ

(通志食貨略)

## 第三章 東漢貨幣史論

### 第一節 緒言

東漢九十五年ノ貨幣史ヲ通觀スルニ、光武帝漢室ヲ復興シテ天下ヲ統一スルヤ、時代錯誤ノ王莽ノ幣制ヲ撤廢シ、時代ノ習慣、人民ノ期望ニ從ヒ、西漢ノ幣制ヲ復興シ、五銖錢ヲ復興シ、ソノ圓滑ナル流通ヲ觀タリ。光武帝以後ハ。宦官ノ跋扈、歲費ノ膨脹ニ伴ヒ、濫鑄濫發ヲ是レ事トシ、幣價ハ暴落シ、物價ハ物資ノ缺乏、幣價ノ暴落ニ伴フテ暴騰シ、貨幣ノ改鑄ヲ計劃スル等、之ガ收拾整理ニ腐心セルモ、遂ニソノ策ヲ得ザリキ。

### 第二節 光武帝時代論

王莽ノ亂後ハ、貨幣トシテ布帛金粟等雜然トシテ流通セルヲ以テ、建武ノ初(西紀二五)、隴西ニアリシ馬援ハ、舊ノ如ク五銖錢ヲ鑄造流布セシムベキコトヲ奏請セリ。光武帝ハ之ヲ三府ニ謀リシニ三府ハ時期尙早ナルコトヲ伏奏セルヲ以テ、馬援ノ奏請ハ却下セラレタリ。然ルニ馬援ガ京師



ニ還ルヤ、前奏ニ就テ公府ハ十餘條ノ缺陷ヲ指摘セリ、是ニ於テカ、馬援ハ逐條之ガ解釋ヲナスト共ニ、別ニ五銖錢ヲ採用スベキコトニ就テ上奏セルニ、光武帝モ之ニ賛同シ、遂ニ建武一六年(西紀四〇)五銖錢ヲ行フコト、ナリタルガ、杲セル哉馬援ノ主張セルガ如ク天下ノ信認ヲ得、人民ニ利便ヲ與ヘタリ(光武紀馬援傳)

### 第三節 章帝時代論

「通志食貨略」ヲ觀ルニ、

『章帝ノ時ニ及ビ、穀價貴ク縣官ノ經用足ラズ、朝廷之ヲ憂フ』

トアリ。是ニ於テカ、尙書張林ハ、納稅賣買ニハ、悉ク布帛ヲ使用シ、銅錢ヲ發行スベカラザルコトヲ論ジテ曰ク、

『今ハ但ニ穀貴キニアラズ、百物皆ナ貴シ、此レ錢賤シキガ故ノミ、宜シク天下ヲシテ悉ク布帛ヲ以テ租トナシ、市買皆ナ之ヲ用ヒシメ、錢ヲ封ジテ出スコトナカレ。此ノ如クンバ則チ百物皆ナ賤シ矣』(通志食貨略)

ト。是ニ於テ章帝ハ、之ヲ尙書ニ通議セシメタルニ、尙書朱暉ハ張林ノ建策ノ施行スベカラザルヲ上奏シ、事遂ニ寢ミタリシガ、後ニ張林ノ建策ノ寔ニ便ナルヲ建議スルモノアリ、章帝亦之ニ賛同シテ、施行シタルニ、朱暉ハ依然トシテ前議ヲ固執シテ曰ク、

『王天下ヲ制シテ有無ヲ言ハズ、諸侯多少ヲ言ハズ、祿ヲ食ムモノハ百姓ト利ヲ爭ハズ、均輸ノ法ハ賈販ト異ルコトナシ。布帛ヲ以テ租トナセバ則チ吏姦多シ。官自ラ鹽ヲ賣ルハ、下ト利ヲ爭フナリ。明主ノ宜シク行フベキトコロニアラズ』

ト。章帝ハ張林ノ言ヲ以テ是トナセルヲ以テ、朱暉ガ徒ラニ前議ヲ固執スルヲ怒リ、之ヲ獄ニ投ズルト共ニ、張林ノ建築ヲ實施セルモ、問モナク之ヲ廢止セリト云フ。(通志食貨略)

#### 第四節 和帝時代論

當時物資缺乏シ、幣價暴落シ、人民ハ困窮セルヲ以テ、上書シテ大錢ヲ鑄造センコトヲ請ヘルモノアリ。曰ク、

『人貨輕ク錢薄キヲ以テ、故ニ貧困ヲ致ス、宜シク改メテ大錢ヲ鑄ルベシ』(晉書食貨略)  
ト。是ニ於テ、和帝ハ之ヲ四府羣僚及ビ太學能言ノ士ニ謀リタルニ、孝廉劉陶ハ幣價ノ暴落ヨリモ物資ノ缺乏コソ、當時ノ社會的疾患ナルコトヲ痛論シ、タメニソノ計劃ハ中止セラレタリ。即チ彼曰ク、

『聖王天ヲ承ケテ物ヲ制シ、人ト與ニ行止セラル。功ヲ建ツレバ則チ衆ソノ事ヲ悅ビ、戎ヲ興シテ師ソノ旅ヲ樂シム。是ノ故ニ靈臺子來ノ人アリ、武旅鳧藻ノ士アリ。皆ナ舉テ時宜ニ合シ、動テ人道ニ順フナリ。臣伏シテ鑄錢ノ詔、平輕重ノ議ヲ讀ムニ、幽微ヲ訪覃シテ窮賤ヲ遺サズ、

是ヲ以テ藿食ノ人ニ謬テ逮反セリ。蓋シ以爲ラク、當今ノ憂ハ貨ニ在ラズ民飢ニ在リ。夫レ生養ノ道ハ食ヲ先ニシ民ヲ後ニス。是ヲ以テ先王、觀象育物、敬シテ人ニ時ヲ授ケ、男ヲシテ畝ヲ連レズ、女ヲシテ機ヲ下ラザラシム。故ニ君臣ノ道行ハレ王路ノ教通ズ。是ニ由テ之ヲ言ヘバ、食ハ乃チ有國ノ寶トスルトコロ、生民ノ至貴ナリ。竊ニ見ルニ、比年已來、良苗蝗螟ノ口ニ盡キ、杼柚公私ノ求ニ空シク、急トスルトコロハ朝夕ノ餐、患フルトコロハ鹽靡ノ事ナリ。豈ニ錢貨ノ厚薄銖兩ノ輕重ヲ謂ハン哉、就テ當今沙磧ヲ化シテ南金トナシ、瓦石變ジテ和玉トナシ、百姓ヲシテ渴シテ飲ムトコロナク、飢エテ食フトコロナカラジメバ、皇羲ノ純德、唐虞ノ文明ト雖、猶ホ以テ蕭牆ノ内ヲ保ツ能ハザルナリ。蓋シ民百年貨ナキモ一朝飢アルベカラズ。故ニ食ハ至急トナスナリ。議スルモノ農殖ノ本ニ達セズ、多ク鑄冶ノ便ヲ言フ。或ハ緣ニ因リ詐ヲ行ヒ、以テ國利ヲ賈ラント欲シ、國利將ニ盡ントス。取ルモノ爭ヒ競フ。造鑄ノ端是ニ於テ乎生ズ。蓋シ萬人之ヲ鑄テ一人之ヲ奪ヘバ、猶ホ給スル能ハズ。況ンヤ今一人之ヲ鑄テ則チ萬人之ヲ奪ハン乎、陰陽ヲ以テ炭トナシ、萬物銅トナシ、不食ノ民ヲ役シ、不飢ノ士ヲ使フト雖、猶ホ無厭ノ求ヲ足ス能ハザルナリ。夫レ民殷ニシテ財阜ナランヲ欲ス、要ハ役ヲ止メ奪ヲ禁ズルニ在リ、則チ百姓勞セズシテ足ル。陛下聖德ニシテ、海内ノ憂戚ヲ惑ミ、天下ノ艱難ヲ傷ミ、錢ヲ鑄テ貨ヲ齊シクシ、以テソノ弊ヲ救ハント欲ス。是レ猶ホ魚ヲ沸鼎ノ中ニ養ヒ、鳥

ヲ烈火ノ上ニ棲マシムルガゴトシ。水木ハ本ト魚鳥ノ生ズルトコロナリ、之ヲ用ヒテ時ナラザレバ、必ズ焦爛ニ至ル。願クバ陛下鏗薄ノ禁ヲ寬メ、冶鑄ノ議ヲ後ニシ、民庶ノ謠ヲ聽キ、路叟ノ憂フルトコロヲ問ヒ、三光ノ文耀ヲ瞰、山河ノ分流ヲ視、天下ノ心、國家大事、燦然トシテ皆ナ見テ惑ヲ遺スコトアルナシ矣。臣嘗テ詩ヲ誦シテ鴻鴈干野ノ勞哀勤百堵ノ事ニ至リ、毎ニ喟爾トシテ長ク懷キ、中篇ニシテ歎ズ。近ク征夫飢勞ノ聲ヲ聽クニ、斯歌ヨリモ甚シ。是ヲ以テ追悟ス、匹婦吟魯ノ憂ハ此ニ始ル乎。白駒ノ意ヲ見テ、屏營傍徨シテ監寐スル能ハズ。伏シテ念フニ、當今地廣ケレドモ耕スルヲ得ズ、民衆クシテ食スルトコロナシ。羣小競ヒ起リ、進ンデ國ノ位ヲ秉リ、天下ニ鷹揚ス、鳥鈔飽ヲ求メフ肌ヲ吞ミ骨ニ及ビ、並ナ噬フテ厭クコトナシ。誠ニ恐ル、卒ニ役夫窮匠アリテ、板築ノ間ヨリ起リ、斤ヲ投シ臂ヲ攘チ、高キニ登リ遠ク呼ビ、愁怨ノ民ヲシテ、嚮應雲合シ、八方分崩シ、中夏魚潰センコトヲ。方尺ノ錢ト雖、何ゾ能クソノ危ヲ救フコトアラン。猶ホ函牛ノ鼎ヲ舉ゲ、織枯ノ末ヲ絰グルガゴトシ。詩人眷然トシテ之ヲ顧ミ、潜然トシテ涕ヲ出ス所以ノモノナリ。臣東野ノ狂闇ニシテ、大義ニ達セズ、廣及ノ時ニ緣テ、對フルコト問フトコロニ過ギタリ。知ル必ズ身鼎鑊ニ脂シテ天下ノタメニ笑ハレンコトヲ』

（後漢書  
劉陶傳）

## 第五節 靈帝時代論



中平三年二月(西紀一八六)、靈帝ハ四出文錢ナル五銖錢ヲ鑄造セルガ、「後漢書宦者張讓傳」ヲ觀ルニ、『錢皆ナ四道、識者竊ニ言フ、侈虐已ニ甚シク、形象兆見ユ、此錢成レバ必ズ四道ニシテ去ラント。京師大ニ亂ル、ニ及ビ、果シテ四海ニ流布セリ』

ト。

## 第六節 獻帝時代論

董卓叛逆ヲ企テ、獻帝長安ニ蒙塵スルヤ、彼ハ五銖錢ヲ銷鎔シ、更ニ長安及ビ洛陽ノ銅人、鍾虞、飛簾、銅馬ヲ破壞シテ、小錢ヲ鑄造セリ、是レ初平元年(西紀一九〇)ナリ。ソノ錢ハ輪郭文章ナク、使用ニ不便ナリキ。當時ノ人之ヲ評シテ曰ク、

『秦始皇ハ長人ヲ臨洮ニ見テ、乃チ銅人ヲ鑄レリ。卓ハ臨洮ノ人ナリ。興毀同ジカラザルモ、凶訛相類ス』

ト。斯クテ戰亂ノ巷ト化セル洛陽ハ、建安元年(西紀一九六)、獻帝東歸ノ時ニ於テモ、幣價暴落シ物價暴騰シ、「通志食貨略」ハ

『貨輕クシテ物貴ク、穀一斛ハ錢數百萬ニ至ル』

ト謂ヘリ。是ヲ以テ曹操相トナリ、董卓ノ小錢ヲ廢止シ、五銖錢ヲ復興セリ。

# 支那ノ銀幣ニ就テ

谷 喬 木

支那ノ銀幣ハ日清戰爭コノ方邦人ニオ馴染ニナツテキルアノ馬蹄銀及ビ銀貨デアアル。從來此ノ兩種通貨ノ近狀ニ就テ説イタ内外人ノ著書ハ尠クナイガ、其ノ多クハ過簡不得要、折角是等著書ニ倚ツテ研究シテモ支那ニ參ツテ實際ニ通貨事務ニブツツカツテ見ルト、何ガ何ンダカ、サツバリ見當ガ着カナイ、爲メニ行ク先々デ在留同邦人ノ指導ヲ享ケ、僥メテ用ヲ辨ズル始末デアアル。シカモ永年支那ニ在留セル邦人ト雖モ、多クハ局地的智識ヲ有スルニ止マリ、汎ク支那ノ通貨事情ニ通曉セル人ハ極メテ稀デアアル。素ヨリ比較的密ニ精シク説カレタ、而シテ眞ニ敬意ヲ拂フベキ書籍ハアル、アルガ元來通貨其ノモノ、狀態ガ何トモ名狀シ難イホド錯綜セルガ爲メニ、縱令研究シタイ志ガ切デアツテモ、獨習ハ頗ル困難デ、多クノ人ハ半途デ屁タ垂レテ投ゲ出シテシモウ、實ハ吾輩モ亦其ノ一人デアツタガ、幸ニ今日ハ宛モ煙中仄カニ物ヲ觀ル如ク、ポーツト分ツタヤウニ思フ。近頃偶々邦人ノ著書ニ就テ對支爲替ノ説明ナドヲ看ルト、聊カ怪シイ點ガアルヤウダカラ、誠ニ古臭イ問題デアリ、尙且右申ス如キポーツト分リデ、貴イ本誌ヲ穢ス虞レハアル

ガ、一ハ初步ノ人ノ爲メニ、マタ一ハ吾輩自己ノ研究ノ爲メニ、繁説簡解ノ眞ン中ドコロヲ睨ツテ、誌上三四回ニ亘ツテ記述ヲ試ミルコト、シタ。

## 第一 銀 貨

### 第一節 總 說

貨面價格ヨリノ銀貨ノ種類 貨面價格トハ銀貨面ニ鑄出セル價格ダガ、支那ノ銀貨ハ全然法制上ノ威力ガ伴ツテキナイ爲メニ無論貨面價格通り通用シナイ、シカモ商品同様需給關係ニ左右サレ、時々其ノ相場ヲ變動シテキルノデアル。而シテ此ノ事實ハ支那通貨ノ研究上、マタ之ヲ取扱フ上ニ於テ、第一ニ觀念ニ容レテカ、ラナケレバナランコトデアル。貨面價格ニ因ツテ支那銀貨ヲ種別スルト五種ニナル、一元(一圓)、中元(五角)、二角(二毛)、一角(一毛)、五分(半毛)ガソレデ、本邦ノ銀貨ヨリ二種多イ、中元ハ我が舊五十錢、二角ハ我が舊二十錢、一角ハ我が舊十錢ト略同形ノモノデ、括弧内ハ別稱ヲ示シタノデアル。而シテ現時ハ是等五種ノ範圍内デ、鑄發地ヲ異ニスル十餘種ノ内外國銀貨ガ雜然トシテ混通シ、シカモ土地ガ代リ、種類ガ代ルニ從ウテ相場ヲ異ニシ、相場其ノモノモ日ニヨツテ差ツテキルカラ、一々見分ケテ使ハナケレバナラントイフ不便ヲ醸シテキル、併シ各地ドノ種類ノ銀貨モ悉ク流通シテキル理デナク、地方毎ニ通用ノ種

類ガ自然ニ限定セラレ、一般取引ニハアマリ相互ノ換算率ヲ更ヘナイカラ、實際ハ想フホド混雜シテキナイ。

各種銀貨ノ支那文語 銀貨ハ文語デ銀元又ハ銀圓ト言フ、銀圓ハ新語ダ、民國三年公布ノ國幣

條例ナドニハ銀圓ノ文字ヲ用キ、單位ヲ圓ト定メ、マタ壹圓ト鑄出シテアル銀貨ガアル。次ニ一圓銀貨ノ文語ハ大銀元又ハ大元、小銀貨ハ小銀元又ハ銀角、五十錢銀貨ハ五角、二十錢銀貨ハ二角、十錢銀貨ハ一角、五錢銀貨ハ五分デアアル。

各種銀貨ノ支那俗語 銀貨ノ俗語ハ洋錢又ハ洋銀デ一圓銀貨ヲ大洋又ハ大銀圓。小銀貨ヲ小洋又ハ洋角又ハ角子又ハ毛子、五十錢銀貨ヲ五角又ハ五毛又ハ中元、二十錢銀貨ヲ兩毛又ハ兩角、十錢銀貨ヲ一毛又ハ一角、五錢銀貨ヲ半毛ト言ツテキル。就中大洋、小洋ハ汎ク使ハレル俗稱デアアル。

廣東福建地方デハ一圓銀貨ヲ大元又ハ大成、小銀貨ヲ毫子又ハ毫洋、二十錢銀貨ヲ双毫、十錢銀貨ヲ單毫、五錢銀貨ヲ半毫ト言ヒ、同ジク双毫、單毫デモ鑄發地ヲ異ニスルニ從ウテ輕毫、重毫ノ區分ヲタテ、キル。

以上各種銀貨ノ文俗兩語ノ一纏メニ書ケバ、

文語

俗語

南支俗語

銀貨 銀元、銀圓

洋錢、洋銀



|       |        |             |           |
|-------|--------|-------------|-----------|
| 小銀貨   | 小銀元、銀角 | 小洋、洋角、角子、毛子 | 毫子、毫洋     |
| 一圓銀貨  | 大銀元、大元 | 大洋、大銀圓      | 大元、大成     |
| 五十錢銀貨 | 五角     | 五角、中元、五毛    | 双毫(重毫、輕毫) |
| 二十錢銀貨 | 二角     | 兩毛、兩角       | 單毫(重毫、輕毫) |
| 十錢銀貨  | 一角     | 一毛、一角       | 半毫        |
| 五錢銀貨  | 五分     | 五分、半毛       |           |

尙文俗兩語ハサホド嚴格ニ區別シテ使用サレテキナイ、俗語ニハ詮索スレバマダ異ツタ語ヲ用キテキル地方ガアラウ。

マタ香港弗ノ Dollar, Cont ノ譯字デアル弗、仙ガ、外人ニ依リ總テノ銀貨ニ適用サレテキル。上海、漢口、天津ノ如キ大互市場ノ外人ニ接シテキル支那人ニハ弗、仙<sup>カライセント</sup>デ通ズルカラ支那語ニ慣レナイ邦人中ニモ之ヲ使ツテキル。横書ニスレバ例ヘバ *伍拾參元零五分* ハ貳拾參元零五分デ、支那字デ書クヨリモ遙ニ便利デアル、縦書ニスレバ貳拾參弗五仙デ、尙少シク便利ダガ餘リ用キラレナイ。

銀貨ヲ以テスル價格ノ言ヒ方 價格ノ言ヒ方ハ馬蹄銀、銀貨、銅貨、一文錢ニ由ツテ夫々異ツ

テキルガ、コ、ニハ銀貨デノ言ヒ方ヲ説明スルノデアル。サキニ申シタ俗語ハ、直ニ以テ價格ノ呼ビ方ニ使ハレソウニ思ヘルガ、實ハソウデナクテ、多少異ツタ點ガアル、ソレガ爲タニ慣レナイ人ハ、兩塊半ト言フベキヲ二元五角ナド言ツテ、赤面スルコトガアル。ツマリ銀貨ノ俗語ハ銀貨個々ノ固有俗語デアツテ、價格ノ言ヒ方ハ別ニアルト考ヘタ方ガ諒解シ易イ、價格ノ言ヒ方ヲ

早分リスルヤウニ例ヲ上ゲテ示スト、

二角五分ハ兩毛五、兩角五、兩毛半、兩角半二ナツノマ、二ト言ハナイ必ズ兩ト言フ

五角ハ半塊、半塊錢、五毛、五角

一元ハ一塊、一塊錢、一個大洋ナドトハ言ハナイ

二元二角ハ兩塊兩毛、兩塊兩角兩塊錢兩毛トハ言ハヌ

一元五角ハ一塊半

二元五角四分ハ兩塊五毛四、兩塊五角四角ヨリモ毛ノ方ガ普通多ク使ハレル

三元五角五分ハ三塊五毛半、三塊五毛五三塊半五、三塊半半、三塊五五ナドデハ通ジナイ

四元零六分ハ四塊零六四塊六ト言ヘバ四元六角ト解シ違フ

百元一角ハ一百塊一毛

百十元零七分ハ一百一十塊零七

ト言フ言ヒ方デ、支那ニ行カレル人ハ充分言ヒ慣レ、聽キ慣レナケレバ、取引上トシテモナイ

齟ヲ生ズルカラ注意スベキコトデアル。氣車上ノボーイハ大概弗、仙タライセントデ通ズルカラ下手ナ支那語ヲ

使フヨリモ此ノ方ガ優シデアル。

大洋ト小洋 大洋、小洋ハ前述ノ如ク一圓銀貨、小銀貨ノ俗稱デアルガ、同時ニ大洋單位ノ價

格、小洋單位ノ價格ヲ意味スルノデアル。コレハ一圓銀貨ト小銀貨トノ間ニ何等ノ連繫モナク、一圓銀貨ノ相場ハ幾ラ、小銀貨ノ相場ハ幾ラト言フヤウニ、相場ガ建チ、貨面價格通りニ通用シナイカラ、九角九分九釐以下ノ計算ニ於テ、元單位即チ大洋單位ナルト、角單位即チ小洋單位ナルトニヨリ、銀貨ノ實際數額ガ異ツテ來ル、而シテカ、ル事情ガアル爲メニ、右申スヤウニ大洋小洋夫々ニ異ツタ單位價格ヲ意味セシムルニ至ツタノデアル。

元來小洋十角、即チ二角銀貨五枚若クハ一角銀貨十枚ヲ以テ、大洋一枚ト同價ニ通用サセル積リデ鑄造シタノデアルガ、古來通貨ノ實價ト其需給ニ由テ相場ヲ建テ來ツタ支那人ハ、自然吾人ノ想像以上ニ通貨ノ取扱ニ鋭敏ニナツテ、大洋小洋夫々ニ實價ヲ基準トシ、時ノ需給ニ由テ相場ヲ建テ、イル。邦人中ニハ日常手ニシテキル、大小銀貨ノ品位及ビ其ノ純分ノ割合ガ、同ジデアルカ、異ツテキルカサヘ識ラヌ人ガ多イガ、支那人ハ苦力小僧ニ至ルマデ品位ノ大小ヲ辨ヘ、殊ニ吾人デ到底聽キ別ケノデキナイ、微小ナ音響ノ差ニ由テ、銀貨相互ノ良否ヲ鑑別スル能力ヲ具ヘテキル。カクテ小洋ノ實價ハ驚ク勿レ、普通其ノ十一角餘、即チ一角銀貨十一枚四分ノ一位ガ、實價大洋一元一元銀貨モ亦正シク實價一元ヲ持ツテ非ナイカラ、實價ノ二字ヲ冠シタ實價大洋一元實價大洋一元ハ正シク實價一元アル一圓銀貨ト思ヘバヨイニ當ルカラ、此ノ十一角餘ガ一元ニ對スル小洋ノ相場ノ基準トナリ、更ニ大都市ニハ、錢業者連ノ通貨取引所ガアツテ、本邦ノ商品取引所同様、日々其地方ノ各種通貨夫々ニ就テノ市場需給ノ振合ヲ計リ値段ヲ上下シテ賣買

シテキル。而シテ此ノ取引所ノ賣買相場ガ所謂公定相場トナツテ、一般市場ニ使ハレルノデ、大洋小洋相互ノ換算相場モ之ニ由テ定マルノデアル。今假リニ大洋モ小洋モ鑄發地ニ由ル差別ヲ立テズ、一造幣廠カラ發行サレタルモノト看做シ、兩者ノ換算相場ガ大洋一枚ニ對シ小洋十一角ナリトセバ、小洋單位ノ計算ナレバ、無論貨面價格通りノ小洋ト分位ノ端數ニ對シ小洋ト銅貨トノ換算相場ニ相當スル銅貨ヲ添ヘレバヨイノデアルガ、大洋單位ノ計算トスルト、是ニ割増ヲセナケレバナランコトニナル。例ヘバ五角ノ授受ニ於テ、小洋單位ナレバ一角銀貨五枚カ、二角銀貨二枚ト一角銀貨一枚カ、兎ニ角貨面價格通りデヨイガ、大洋單位ナレバ、貨面價格デ小洋五角五分トナリ、小洋五角ニ、小洋ニ對スル銅貨ノ換算相場ニ從ヒ、小洋五分ニ相當スル銅貨ヲ添ヘナケレバナランノデアル。大洋小洋兩種單位ノ計算ハ、九角九分九釐以下ニ限り生ズルノデ、一元以上ノ計算ナレバ、無論大洋計算ニ限ラレル。試ミニ以上ノ説明ヲ例示スレバ、

墨西哥弗ノ相場一元、安南弗ノ相場大洋九角八分、小洋ノ大洋一元ニ對スル換算相場十一角、銅貨ノ大洋一元ニ對スル換算相場百五十枚、小洋一角ニ對スル相場十二枚トセバ

一元ノ授受ニハ

墨西哥弗一枚、或ハ安南弗一枚ト銅貨三枚、或ハ小洋十一角、或ハ銅貨百五十枚、或ハ小洋五角ト銅貨七十二枚、或ハ小洋十角ト銅貨十二枚等

マタ一元三角五分ノ授受ニハ

墨西哥弗一枚ト小洋三角ト銅貨十七枚（半枚損）、或ハ墨西哥弗一枚ト小洋四角ト銅貨五枚、或ハ安南弗一枚ト小洋四角ト銅貨八枚、或ハ小洋十六枚ト銅貨十一枚、或ハ銅貨二百三枚等



マタ六角七分ノ授受ニ

大洋計算ナレバ、小洋八角ト銅貨五枚、或ハ銅貨百一枚等

小洋計算ナレバ、小洋六角ト銅貨九枚、或ハ銅貨八十一枚等

讀者ハ右ノ計算ニ依ツテ次ノ事項ニ着意スルデアラウ。

一、小銀貨ガ計算上非常ニ煩ハシイ原因ヲナシテキル。

二、屢々相場ノ變動スル、ソウシテ實價ノ相異ナル同一貨面價格ノ銀貨ヲ以テスル計算ニ、大洋單位ト小洋單位ノ兩種計算ガアツテハ、取引ノ敏活ヲ欠グコト夥シイデアラウ。

實際其ノ通りデ、小銀貨ハ計算ニ不便ダシ、マタ品位ガ一圓銀貨ニ劣ルカラ、特別ノ理由ヲ持ツ一部地方ヲ除クノ外、流通額ガ少ク、全ク流通ヲ見ナイ地方モアル。サレバ尙コノ上小銀貨マデニ、其ノ鑄發地ニ由ツテ實價ノ差ヲ設ケテハ、到底急グ計算ニ間ニ會ハナイカラ、多クノ地方デハ同一價格ニ通用サセ、著シク實價ノ低イモノ及ビ使イ慣レヌモノハ排斥シテキル。廣東ノ如キ小銀貨ヲ主要通貨トシテキル所デモ輕、重ノ二區別ヲ施スニ止メテキル。先キニ重毫、輕毫ノ名稱ヲ舉ゲタノハ即チ是レデアル

猶ホ大洋小洋兩單位ノ計算ニ於テモ幾分取引上ノ面倒ヲ醫スル爲メニ、嚴格ニ公定相場ニ從ウテ換算ヲ行ツテキルノハ、錢業者トノ兩替其他ノ取引ニ限ラレ、一般取引デハ、著シク換算相場ガ變動シナイ限り、略換算率ヲ一定シ格段ニ相場ノ低イ銀貨ハ、市場カラ排斥サレテキル。マタ

大都市ノ商店デハ多ク大洋單位デ取引スルコトニ定メテキルカラ、慣レ、バサホドノ混雜モナイ。

**銀貨ニ對スル愛憎** 支那人ハ新ニ發行シタ銀貨ガ、實價形式等ニ於テ、從來流通シテキル銀貨ニ優ツテキテモ、收受ヲ嫌フ癖ヲ持ツテキル。故ニ新貨ノ相場ハ使用シ慣レルマデ、需要ノ少イ爲メニ、實價以下ナルヲ常トスル。コレハ舊ヲ愛シ、新ヲ嫌フ保守的國民性ノ働ク結果デ、通貨ニ對スル敏感性ヲ持ツテキル國民ニ似合ハナイ習慣デアル。

甲地デ盛ニ流通シテキル銀貨ガ、乙地デハ全く通用シナカツタリ、甲地デ一番相場ノ高イ主要通貨ガ、乙地デハ割引ヲシナケレバ通用シナイ、ト言フ現象ヲ生ジテキルノモ、蓋シ此ノ舊貨ヲ好ミ、新貨ヲ嫌フ愛憎心ガ、與ツテ大ナル原因ヲナシキルノデ、必ズシモ計算ノ不便ヲ避ケンタメノミデナカラウト思フ。果シテ吾輩ノ此ノ推定ニシテ謬チガナイトスレバ、問題ノ支那幣制改革上ニ於テ大ニ考慮セナケレバナランコト、思フ。

**銀貨トグレシアムノ法則** 無制限ニ外國銀貨ヲ通用セシメ、國貨ニ法定制度ガ行ハレテキナイ

支那ノ流通銀貨ニグレシアムノ法則ガ作用スルコトハナイ筈デアル、然ルニ、ナイ筈ノグレシアムノ法則ガ鋭敏ニ働クカラ妙デアル。而シテ其ノ動機ハ前段デ説明シタ新貨ニ對スル相場ガ實價ヨリモ下落シ、新舊銀貨ノ相場ノ差ガ、兩者實價ノ比較ニ對シテ著シク均衡ヲ失シタ際ニ生ズルノデ、ツマリ法定價格ノ代リニ、民定價格ガ出來ルカラ、此法則ガ適用セラレル理デアル。シカ

モ此ノ場合ニハ支那人中デモ、特ニ敏感ナ錢業者ニ依ツテ、活用サレルカラ、舊貨ニ較ベテ著シク優良ナ新貨ヲ市場ニ出スト、先ヅ相場ヲ叩キツケテ置イテ、忽チ行衛不明トナツテシマフ、サレバトテ、舊貨ニ較ベテ實價ノ劣ツタ新貨ヲ發行シテモ、ソレハ無論初メカラ失敗ダ。往年米國ガ米支貿易ニ供スル目的デ、實價ノ高イモノヲ輸入シ、支那人ノ嗜好ニ投ゼントシタコトガアル、實價が高イカラ素ヨリ歡迎ヲセラレタ、歡迎ハシタケレドモ實價ト相場ノ開キガ大キカツタカラ、尋デ忽チノ内ニ行衛ヲ暗マシテ、手ヲ焼イタ米國ハ爾後策スルトコロナシデアル。是ヨリ先キ、英國モ香港ニ造幣廠ヲ設ケ、銀貨ヲ鑄造シタコトガアルガ、同様ノ運命ニ遇ウテ僅カ二年デ鑄造ヲ停メ、其ノ後更ニ方針ヲ改メテ、代ツタ銀貨ヲ印度デ鑄造シテキル。サレバ米支銀貨ノ輸入ハ有利ナ事業ニ相異ナイガ輕々ニ企圖スル理ニ參ラヌ。

**Chop Dollar ト銀貨ノ計量通用** 外國銀貨ヲ最モ早ク輸入通用シタ南支廣東福建等ノ地方ニハ、銀貨取扱上ニ頗ル惡イ癖ガアル、往年旺ンニ此地方ニ流入シタ墨西哥弗ニ、贋造偽造貨ガ多カツタ爲メニ、金融業者ガ馬蹄銀ニ對スル習慣ヲ適用シテ、良質貨ノ貨面ニ自家ノ家號ヲ打印シテ鑑定證明ナリ取引保證トシタガ、一金融業者ガ一度打印シタ者ハ、他ハ之レヲ信用シテ再ビ打印ヲシナイト言フノデナク、各金融業者ガ自家出入ノ銀貨ニ悉ク打印スル風習ヲ生ジ、爲メニ終ニ貨面ガ窪ンデ皿ノ如ク變形シタルモノガアル。カ、ル變形銀貨ヲ、英語デChop Dollarト言ヒ、支那



語デハ土地ニ依リ爛洋、爛板、打洋、花洋、花片、花邊等ノ名稱ノ内、何レカヲ用キテキル。カク原形ヲ失ツテキル爛洋ハ、打印ニ由ツテ幾分磨損シテキルカラ、無傷ノ同種貨ニ對シテ價格ヲ割引サレテキルコトハ素ヨリデアル。習慣ノ隋性ト云フモノハ妙ナモノデ、初メハ墨西哥弗ノ打印ニ限ラレテキタガ、終ニハ贋造偽造ノナイ墨西哥弗以外ノ銀貨ニマデ、態々打印シテ市場ノ信用ヲ求メルヤウニシタ時代サヘアル。而シテ是等爛洋ハ概ネ南支地方ヲ限ツテ流通シ、其ノ上海ニ流レ込ンダモノハ、同地デ馬蹄銀ニ改鑄サレテキル。唯湖南地方デ嫌ハレナガラ通用シテキルノハ奇妙ナ現象デアル。廣東ト取引ノ多イ漢口ナドデハ、爛洋ハ素ヨリ完全ナ墨西哥弗サヘ一般ニ通用シナイ

マタ南支地方ニハ大取引ニ銀貨ヲ計量シテ用ヒテキル所ガアル、爛洋ナレバ計量スル理由ハアルガ無傷ノ銀貨ヲモ計量シテキルノヲ見ルト、強チ磨損銀貨ガ多イ爲メニ此習慣ガ生ジタトモ思ヘナイ、尤モ旅行者ノ話ニ依ルト、此ノ地方デハ錢屋デ銀貨ヲ麻袋ニ入レ、店員二名デ之ヲ振蕩シテ銀粉製造ヲヤツテキルソウダカラ、或ハ一見無傷ニ見ヘル銀貨モ、尙磨損減量シテキテ、カク計量スルノ習慣ヲ生ズルニ至ツタノカモ知レナイ。併シ若シ此ノ銀貨計量取引ガ磨損ニ依ツテ生ジタ習慣デナイトスレバ、全ク馬蹄銀ヲ秤量スル古來ノ習慣ニ由ツテ銀貨モ秤量シテキルト觀ルノ外ハナイ、併シコレハ理由ガ甚ダ薄弱デアル



## 貯蓄ト銀貨

支那ニ於テ貯蓄銀行ガ發達セズ、普通銀行ノ定期預金ガ殆ド有名無實ノ狀デアリ、其ノ當座預金ニ在テモ殆ド貸越希望者ニ利用サル、ノ狀ニアル現象ヲ見、尙又郵便貯金制度ガ設ケラレテアリナガラ、毫モ之ヲ顧ミル者ノナイノヲ觀テハ、支那人ニハ全ク貯蓄心ガナイヤウニ察セラル、ガ、ソハ住ム家サヘナキ苦力共ノ事デ、實際ハ一般非常ニ貯蓄心ニ富ンデキル、併シコレハ吾輩一家ノ觀察デアル。勿論支那ニハ圖拔ケタ富家ハ少ナイ、圖拔ケタ富家ハ少ナイガ小富家ハ多イノデアル、マタアノ政治ノ狀態デ、アノ産業ノ狀態デ、ドウシテ圖拔ケタ成金ガ出來ヤウカ、出來ナイ事ハ定マリキツタ事デハナイカ、尤モ阿片喫ト賭博ノ二癖ハ、著シク富ノ蓄積ヲ妨ゲテキルヤウデアルガ、併シソレハ貯蓄心ガナイト言フ反證ニハナラン、支那人ガ貯蓄心ニ富ンデキルノハ近イ話デ、海外出稼民ノ狀態ヲ觀レバ、スグ首肯シ得ルデハナイカ。昔カラ少々間拔ケデモ、金サヘアレバ官吏トナレル、タトヒ科擧ノ制ガアツテモ、金サヘアレバ代ヘ玉ガ使ヘル、マタ官吏タラズトモ、金サヘアレバ官吏ト結託シテ甘い仕事ガ出來ル、殊ニ近年ノ如ク相踵イデ動亂ガ勃發シテハ、眞ニ我が身命ヲ保護シテ呉レルモノハ金デ、政府ノスル保護ナドハ何ノ當ニモナラン、金サヘアレバ外人居留地ニ避難シテ悠々寛々太平ヲ唱フコトガ出來ル、金サヘアレバドンナ禿ゲ頭デモ、白晝自動車ニ藝者ト相乗シテ、街上ヲ練リ廻シテモ、何等社會的制裁ナク、却ツテ無上ノ光榮トシテ人カラ羨マレルノデアル。實ニ今日ノ支那ハ、金サヘアレバ身命

ノ保護ハ大丈夫デ、進ンデ權力ヲ贏チ得ベク、ドンナ豪奢ナ成金振ヲ世間ニ見セツケテモ一向差觸リガナイノデアル。故ニ上下押シナベテ猛烈ナ金錢慾ヲ抱イテ利己主義ニ傾キ、アノ連年ノ内亂モ、根ハ此金錢慾ニアルノデ、表面權力爭ヒヲシテキルヤウニ見ユルノハ、其ノ實權力ニ伴フ金力ヲ獲得センガ爲メデアル、アノ既ニ權力ヲ得、タラフク富ヲ作ツテキル者ガ猶ホ汲々トシテ權力ノ維持擴張ニ努メテキルノハ、慾ニ果テシノナイ結果デ、中ニハ金錢慾ニアイテ更ニ權力慾ニ轉ジテキルノデアル。アノヨク國事ニ悲憤慷慨シテ、指ヲ咬ミ切ツタリスル者ノアルノハ、名ヲ獲テ、地位ヲ得ント欲スルノデ、地位ハ富ヲ得ルノ階梯デアリ、手段デアル、決シテ金持チノ息子ノヤル藝當デナイ。マタ時ニ身ヲ海河ニ投ジテ憤死スル者ノアルノハ、慾ト煽テニ乗ツタ青年ノ脱線ダ、相當歳トツタ者ノ決シテヤル事デナイ。日貨排斥モ之ヲ金儲ケノ手段トシテ利用シテキルカラ、アノ通根強ク繼續サレテキルノダ。併シカヤウナ惡口ヲ申スト、支那人カラ、オ前ノ國ハドウダ、近頃ノ自國ノ態ヲ顧ミタラ左様ナ事ハ申サレマイト言ハル、デアラウ。成ル程、ソウ言ハレルト、赤面ノ至リデ、俺ノ國モ文化生活ハ物質的ニ於テコソ著シイ進歩ヲ遂ゲテキル、シカシ精神の方面ニ於テハ、カラ駄目デ、歳ト共ニダンダン退歩シタ、殊ニ近年ハ若イ者ガ半カジリノ西洋ノ生思想ニ心酔シテ、著シイ退歩ヲ促シテキル。マタ近頃頻リニ横領、收賄、背信ナドノ事件ガ持チ上ガツテキルガ、國民全體ノ上カラ觀ルト、カ、ル惡事ヲスル者ハ、僅カニ一部ノ

者ダケデ、決シテオ前ノ國ノヤウニ上下殆ド然リト云フ有様デハナイ。

閑説休題右述ブル如ク支那人ハ頗ル金錢慾ガタクマシイ、金錢慾ノタクマシイ支那人ニ貯蓄心ノ薄イ道理ハナイ、支那人ガ銀行、郵便局等ノ公設貯蓄機關ヲ利用シナイノハ、從來苦イ經驗ヲ嘗メサ、レテキルカラダ、危險ヲ慮ルカラダ、カクテ一般支那人ハドンナ貯蓄法ヲ採ツテキルデアラウカ、ソレハ殆ンド總テガ自家死藏ダ。吾輩曾テ支那奥地ニ在勤中、使用支那店員ニ年末賞與ヲ分配シ、郵便貯金ニスルコトラ勸メタコトガアル、トコロガ在支日本ノ郵便局ガ貯金事務ヲ取扱ツテキル事ヲ識ツテキル店員等ガ、眞力偽力、舉ツテ自國郵便局ニ貯金制ガナイト曰フ、シカモ中ニハ外人タル吾輩ニ預金ヲ懇請スル者ガアツタ、マタ中ニハ指輪ヲ求メ、時計ヲ購ヒ、毛裏ノ被服ヲ買ツテ、之ガ一番安全ナ貯蓄法ダト説明シタ者ガアツタニハ、一驚ヲ喫セシメラレタ、併シ彼等ニ貯蓄思想ガ乏シクテ、カヤウニ吾輩ニ預ケタリ、品物ヲ買ツタノデナイ、彼等ハ終始出張勝ノ身柄デ、現銀ヲ貯藏スルノ便宜ヲ缺イデキタ爲メデアル、サレバ料理人ノ如キ常ニ店内ニ居タ者ハ、寢臺ノ下ニ嚴重ニ鎖シタ箱ノ中ニ貯藏シテキルノデ、時々其ノ蓄積模様ナドヲ樂ミニシテ吾輩ニ談ツテキタ、事實商人、農夫乃至藝者、淫賣ノ如キ水商賣ノ者マデモ、多クハ右ノ料理人ト同様ノ方法デ貯藏シテキルノデ、コレハ支那家庭ノ内情ニ通ジタ人カラ度々聽イタコトデアル、而シテ彼等ノ貯藏貨幣ハ決シテ紙幣デハナク、昔ハ一文錢ヤ、馬蹄銀デアツタガ、今日



ハ殆ンド銀貨デアルラシイ、仍チ支那人ハ貯蓄心ニ富ンデキテ、現時ハ銀貨ヲ以テ貯藏シツ、アルト言フコトガ、此ノ項ニ於テ述ベント欲シタ眼目デアル。現下支那全國ニ亘ツテ幾何ノ銀貨ヲ死藏セラレアリヤ、コレハ研究ニ値スル問題デアルガ、推算ノ資料ガ不充分ダカラ、答解ガ困難デアラウト思フ、但ダ先年吾輩ガ河南省ニ滞在シタ當時、棉花、胡麻、落花生、豆等ノ農産品。牛皮、山羊皮等ノ畜産品ノ莫大ナ量ガ同省カラ買出サレ、巨額ノ銀貨ガ支拂ハレタニ拘ハラズ、省民ノ大半ヲ占メテキル農民ノ生活程度ハ依然昔ノマ、デ、近イ話ガ今日尙カンテラ時代デ洋燈時代ニ達シテキナイ有様デアツタ、然ルニ終始支那銀行ニ現銀ガ缺乏シ、市中モ田舎モ、マコトニ貧乏氣ニ觀ヘテキタトコロヨリ察スルト、彼等死藏ノ通貨量ハ、蓋シ大ナル額ニ達シテキルデアラウト思ツタ。貧乏氣ニ觀ヘテ、金ヲ持ツテキルダラウトハ、矛盾シタ觀察ノヤウデアルガ、コレハ我邦デモ同ジコト、大金持ハ別トシテ、小金持以下ニ於テハ、實際貧乏氣ニ見ヘル者ガ金持チデ、金持チ氣ニ見ヘル者ニ金ノアル例ハナイノデアル、而シテ右河南省ノ現狀ヲ以テ支那全省ニ推シ擴メル理ニ行カナイガ、概シテ此ノ傾向ニアルト見テ差支アルマイト思フ。

### 銀貨流通ノ來歴

以上說イタトコロニ由ツテ、讀者ハ略支那銀貨ノ現狀ニ就テ梗概ヲ諒セラレタト思フ、併シ之ニ就テ初メテ研究サレル方ハ、一體支那銀貨ナルモノハ何處カラ輸入シテキルカ、支那自カラハ何時カラ鑄造シテキルノデアラウカ、支那ニハドンナ制度ヲ設ケテキルノデア



ラウカ、ナドノ疑問ヲ挾マレテキルノデアラウ。サレバ茲ニ本節ヲ結ブニ方ツテ、銀流流通ノ來歴ヲ述ベテ、是等讀者ノ惑ヲ解カウ。

支那銀貨ハ其ノ初メ外國カラ輸入シ、後チ支那デ自鑄スルニ至ツタノデアルガ、外國輸入ハ今猶其ノ跡ヲ絶タズ、銀塊ト共ニ盛ニ輸入サレテキル。元來葡萄牙人が始メテ支那ニ來タノハ、一五一一年即チ明武宗ノ正徳年間デ、西班牙人ノ來始メタノハ、其レヨリ六十餘年後ノ一五七五年デアル。和蘭人、英國人が來タノハ、更ニ其ノ後ノ事デアルガ、西班牙ガ墨國ヲ領有シ、一七七三年ニ始メテ同地デ銀貨ヲ鑄造シ、之ヲ支那貿易ニ用キ出スマデハ、各國人皆銀塊ヲ携エテ來テ、支那ノ特產品ヲ購ツテ行ツタモノデアル。西班牙ガ墨國デ鑄造シタ銀貨ハ、所謂西班牙弗デアツテ、之ガ支那ニ於ケル銀貨通用ノ嚆矢デアル。而シテ時ハ恰モ乾隆ノ末期ダ。其ノ後、墨國ガ獨立シテカラハ、西班牙弗ニ代ツテ墨西哥弗ガ旺ンニ輸入サル、コト、ナリ、更ニ是ヨリ後チ、英ノ香港弗、佛ノ安南弗、米ノ貿易銀、本邦ノ圓銀ガ相踵イデ流入シ、宛モ周圍八方カラ、鰐デ鯛釣ルノ狀ヲ呈シタ、此ノ他、尙外國銀貨トシテ海峽殖民地、比律賓、蘭類印度等ノ弗貨ガ通用シテキルノハ、支那海外出稼者ニ依ツテ持チ込マレタノデアル。次ニ支那自鑄ノ銀貨ハ、西班牙弗ガ始メテ輸入セラレテカラ、凡ソ百餘年ヲ經ツタ、一八八九年ニ時ノ廣東總督張之洞ノ盡力ニ由ツテ鑄造シタノガ始マリデ、其ノ後南京、福州、杭州、安慶、成都、奉天、天津、吉林等、十餘

箇所デ鑄造スルコト、ナツタ、シカモソレガ國家ノ貨幣ヲ造ルト言フヤウナ立派ナ考カラデナク、  
自省ノ利益ヲ計ランガ爲メニ鑄造シタノダカラ、素ヨリ重量成分ニ於テ統一ヲ缺イデキタ、加之  
清末ノ混亂ニ乗ジテ、著シク輕量ノ惡貨ヲ鑄造シ、爾來尙未ダ統一ノ功ヲ舉ゲナイノデアルカラ、  
愈々實價ヲ異ニシタ多種ノ銀貨ガ、雜然トシテ混通シテキル理デ、吾人外人カラ見ルト、使用上  
誠ニ不便極マル次第アル。

然ルニ、銀貨流通以前ノ支那ニハ、硬貨トシテ單位低キニ過ギル一文錢ト、單位高キニ過ギル  
馬蹄銀ノ二種ガアツタノミデ、大ソウ不自由ヲ感ジテキタトコロヘ、外國カラ一定ノ精巧ナ形式、  
一定ノ重量、一定ノ成分ヲ有シ、且ツ價格ノ單位ニ於テ、一文錢ト馬蹄銀トノ中間ニ位スル至極  
便利ナ銀貨ヲ持チ込マレタカラ、如何ニ頑固保守ナ支那人モ、之ガ收受ヲ競フコト、ナツテ、忽  
チ急激ナ需要ヲ喚起シ、實價ニ對シテ三割四割ノ打歩ヲ附シテ取引サル、ニ至ツタ。カクノ如ク  
ナツテハ、モト支那物産ノ買入ノミニ使ハレテキタ銀貨ガ、更ニ馬蹄銀買入ニ供セラル、コト、  
ナリ、馬蹄銀ガ盛ニ外國ニ流出スルヤウニナツタ。而シテ此ノ現象ヲ見ルニ至ツタハ、道光ノ初  
期デ、爾後政府ハ、屢次令ヲ下シテ外國銀貨ノ通用ヲ禁止シタガ、勿論コンナ、ヘマナヤリ方デ  
効果ノ上ガル筈ナク、其ノ後、ヤツト氣ガ着イテ、自鑄外貨ノ抵制ヲ叫ブニ至ツタケレドモ、微  
力實行ニ由ナクシテ虛シク日ヲ過ゴシ、終ニ張之洞ニ由ツテ鑄造ノ端諸ヲ拓カル、コト、ナツタ

ノデアル、支那ガ自鑄ヲ始メテカラハ、無論外國銀貨流入ノ勢ヲ制シタケレドモ、外交問題ヲ惹起スルヲ怖レタ理カ、將タ借款ノ顧客先ノ御機嫌ヲ損ズルノヲ憚ツタ爲メカ、マダ一度モ外國銀貨ノ輸入ヲ禁止シタコトガナイカラ、依然年々多額ノ銀貨ガ輸入サレテキル。カクテ吾人ノ眼ニ見ユル不都合千萬ナ銀貨モ、現時銅貨ト共ニ從來ノ馬蹄銀、一文錢ヲ壓倒風靡シテ、既ニ兩者流通ノ跡ヲ絶ツテキル地方ガ多イ

然ルニ、此ノ舊通貨廢絶ノ現象ガ、上海ノ如キ大市場ニ於テ著シク表ハレズニ、却テ第二流以下ノ都市ニ現ハレテキルノハ、マコトニ奇異ナ事ニ思ハレル、併シコレニハ理由ガアル、即チ一文錢ノ大都市ニ廢ラナイノハ、生活程度ノ低イ奥地同様ニ、苦力ノ如キ下層社會ノ者ガ多ク住ツテキル關係カラデアル、マタ馬蹄銀ノ廢ラナイノハ、稍々複雑ナ原因ガアル、大都市ニハ、日々銀貨ノ相場ガ、其ノ一元ニ對シ、馬蹄銀ノ價格單位ナル兩建デ定メラレテキルガ、此ノ相場ハ市場ニ銀貨ガ充實スルト安クナリ、市場ニ銀貨ガ欠乏スルト高クナル、シカモ輸出品ハ、主トシテ農產品デアルカラ、出廻期ト否ラザルトニ依リテ、著シク銀貨需給ノ差ヲ生ジ、爲メニ其ノ相場ノ變動ヲ頻繁且ツ多大ナラシメテキル、是ニ於テ、商人殊ニ銀行業者ハ、銀元ガ下落スルト、馬蹄銀ヲ以テ銀元ヲ買入レ、銀元ガ騰貴スルト、銀元ヲ以テ馬蹄銀ヲ買入レテ、良イ儲ケヲシテキル、其ノ他銀塊ヲ以テ馬蹄銀ヲ鑄造スルト、之レニモカナリノ利益ヲ生ズルカラ、上海ノ如キハ、

多額ノ銀塊ヲ外國カラ輸入スルノミナラズ、他地通用ノ馬蹄銀、南支地方ノ爛洋等ガ、此ノ地通用ノ馬蹄銀鑄造材料トシテ流入シテキル、在上海ノ外國銀行中ニハ外國爲替ノ賣買ニ次イデ、此ノ商賣ニ重キヲ置イテキルモノガアル、カ、ル次第デアルカラ、最モ商取引ガ發達シ、一番先キニ馬蹄銀、一文錢ヲ廢シナケレバナラン大都市ニ於テ、却ツテ猶盛ニ用キラレテキル奇現象ガアルノデアル、併シ日常ノ取引ニハ、無論總テ銀貨銅貨ヲ用キルノデ、馬蹄銀、一文錢ガ著シク衰頹ノ傾向ヲ表シテキルコトハ、爭ハレナイコトデアロ。



## 葡萄牙人支那渡來顛末 (三)

矢 野 仁 一

### 第四章 たまん占據時代ノ葡萄牙人ト支那人トノ

#### 關係ニ就テ

#### 七 ども・ぴれすノ入京ト其使命ノ失敗ニ就テ (續)

火者亞三ノ跪禮ヲ行ハズ、朝見ニ諸夷ノ上ニ位センコトヲ望ンダト云フ支那史籍ノ記事ハ、葡萄牙王ノ使節ハ諸夷ノ朝貢使臣ト比スベキモノニ非ズ、獨立國ノ使節デアル、彼等ノ行フベキ屈辱的ナ儀禮ハ行フコトガ出來ナイト頗張ツタ意味デアル。然ルニ葡萄牙ノ史料ニハサウ云フ意味ハ見ハレテ居ナイ。葡萄牙捕虜<sup>(1)</sup>ノ書簡ニ、北京ノ宮中ニ於テ、葡萄牙王ノ書簡ガ開封サレ、其文辭倨傲不遜ニシテ、曩キニ廣東ニ於テ通事等ノ認メシ書簡ノ文辭ト、全然違ツテ居ルコトガ發見サレ、葡萄牙人ハ支那ノ國土ヲ探偵シ、他日ノ侵略ニ資スル爲メ、詐リ欺イテ入國シタルモノデアル、葡萄牙王ノ書簡ノ文辭ガ他ト違ツテ居ルコトガ何ヨリノ證據デアルト信ゼラル、様ニナリ、葡萄牙人ハ向後行禮ノ爲メ入京ハ相成ラヌト云フ命令ハ發セラレ、兵役護衛者ガ葡萄牙王ノ使節

1) Ferguson, Ibid, p.104.

ニ附セラル、ニ至ツタ次第ヲ述べ、外國ノ使節ハ、毎月十五日ニ、彼等ノ居館ト定メラル、牆壁  
 内ノ房屋ヨリ出デテ、宮中ニ進ミ、其中ノ一屏障ノ前面ニ於テ、五回平身伏地ノ禮ヲナスコトハ  
 例ニナツテ居ルガ、葡萄牙人ノ行フコトヲ禁ゼラレタ禮ハ、此禮デアルト言ヒ、通事等ハ葡萄牙  
 王ノ書簡ノ文辭ト一致セザル書簡ヲ認メシ理由ヲ詰問サレ、支那ノ習慣ニ從ヒタルノミ、他意ア  
 ルニ非ラズ、葡萄牙王ノ書簡ハ密封セラレ、葡萄牙王ノ使節ヨリ親シク國王(明帝)ノ前ニ捧呈スベ  
 キコトニナツテ居ルカラ、其内容ヲ知ルコトガ出來ナイ、葡萄牙ハ支那ヲ距ルコト極遠ナレバ、  
 葡萄牙王ガ支那ノ習慣ヲ知ルニ及バズ、其書簡ノ文辭ガ彼等ノ書簡ノ文辭ト違ツテ居ルト怪シ  
 ムベキニ非ズ、又彼等ガ支那ノ習慣ニ從ツテ書簡ノ文辭ヲ修メシトテ非難セラルベキニ非ズト、  
 百方辯解シタルモ、終ニ支那官憲ノ疑ヒヲ解クコト能ハズ、彼等ハ一々何ト云フ國カラ來タカト  
 言ツテ嚴詰サレシコトヲ述ベテアル。葡萄牙捕虜ノ書簡ノ文體ハ、葡萄牙王ノ使節等ガ、葡萄牙  
 ノ書簡ノ開封サレナカツタ前ニハ、入宮跪拜ノ禮ヲ行ツテ居タコトヲ想像セシムル文體デアル。<sup>(2)</sup>ば  
 るろすニモ、此跪拜ノ禮ニ關スル詳細ノ記事アルコトハ、ふあーがそんノ註釋ニ依ツテ明カデア  
 ルガ、じゆんぐすてつとニ、ばるろすハとめ・びれすが北京ニ於テ、跪拜ノ禮ヲ目撃シタノミデ、  
 觀見ヲ許サレナカツタコトヲ言ツテ居ルト云フ様ナ記事ガアリ、じわーんニモ、ばるろすニ據ッ  
 タモノ、如ク、とめ・びれすノ一行ガ北京ニ到着シタ後、只ダ敵國ノ間牒カモ知レヌト云フ疑念ヲ

2) Ferguson, Ibid. P. 104, footnote 32.  
 3) Yjungstedt, Ibid. P. 92.  
 4) Jane, Ibid. bP. 229, 230.

以テ眺メラレ、信用セラル、ニ至ラズ、終ニ覲見ヲ許サレザリシノミナラズ、毎月十五日ニ、他ノ外國使節ニ許サル、様ナ恩惠、即チ夷人ガ汚レタ目デ、直接ニ天子ヲ見ルコトガ出來ナイ様ニト設ケラレタ宮中ノ一墀障ニ對シテ、跪拜ノ禮ヲ行フコトヲモ、許サレナカッタ様ニ言ツテアルコトカラ考ヘテモ、ばるろすノ跪拜ノ禮ニ關スル記事ハ、葡萄牙捕虜ノ書簡ノ記事ノ範圍ヲ、多ク出デナイモノデアルコトハ想像セラレル。若シ跪拜ノ禮ニ關スル詳細ノ記事ガアルトスレバ、ソレハ跪拜ノ禮其物ノ詳細ナ説明ヲ意味スルモノニ過ギナイデアラウ。ばるろすガ葡萄牙捕虜ノ書簡ヲ見テ居ルト云フコトハ<sup>(5)</sup>じるーんノ記事ニ見エテ居ル所デアル。

此ノ如ク葡萄牙ノ史料ニハ、葡萄牙王ノ使節ガ跪拜ノ禮ヲ行フコトヲ肯ンジナカッタト云フ證據ハ見ハレテ居ナイ。然シ支那ノ史籍ニ、葡萄牙人ハ跪拜ノ禮ヲ行ツタ様ニ言ツテアリ、葡萄牙ノ史料ニ、葡萄牙人ハ之ヲ行ハナカッタ様ニ言ツテアルナラバ、ソレハ支那ノ史籍ノ記事ヲ信ジテハナラヌ、葡萄牙ノ史料ノ記事ヲ信ジナケレバナラヌガ、支那ノ史籍ニ、葡萄牙人ハ跪拜ノ禮ヲ行ハナカッタ様ニ言ツテアリ、葡萄牙ノ史料ニハ却ツテ彼等ハ之ヲ行ツタ様ニ言ツテアルノダカラ、葡萄牙ノ史料ノ記事ヲ信ジテ、支那ノ史籍ノ記事ヲ信ジナイト云フ譯ニハ往カナイノデアル。葡萄牙ノ史料ノ記事ハ、却ツテ跪拜ノ禮ノ屈辱的儀禮デ、葡萄牙王ノ使節ハ獨立國ノ使節トシテ、斷ジテ此ノ如キ禮ヲ行フベキモノデナイト云フコトサヘ辨ヘナイ記事ト評サナケレバナラ



ス。随ツテソレハ此等ノ記事ノ筆者ガ、葡萄牙使節ノ宮中ニ於ケル行動ニ就テ、精確ナ知識ヲ有セズ、或ハ跪拜ノ禮ノ觀見ニ先チテ、必ズ爭點トナルベク、又既ニ爭點トナツテ居タコトヲ知ラナカツタ證據ト考ヘテモヨイノデアル。

支那ニ於テ外國使節ノ觀見ノ場合ニ、跪拜ノ禮ガ第一ニ問題トナルコトハ、一六二〇年（明ノ

泰昌元年）ニ北京ニ來タ露西亞帝みはゐる。ふねおごろぐいちノ使節いぐあん・べとりんハ貢使ト

シテ是非携ヘナケレバナラヌ貢物ヲ携ヘナカツタ爲メ、跪禮ノ問題ニ及バズシテ、北京カラ追返

サレタノデ、明代ニハ例ヲ求メ難イガ、清朝ニナツテ、一六五六年（順治十三年）北京ニ來タ和蘭

東印度會社ノ使節<sup>(7)</sup>いゐる及ビかいせるノ一行ガ、國書親呈、立禮謁見ヲ固執シ、跪禮ヲ行フコ

トヲ肯ンジナカツタ爲メニ、追返サレタ事實、一七九三年（乾隆五十八年）北京ニ來タ英吉利ノ使

節<sup>(8)</sup>まかーとはい卿ガ跪禮ヲ行フニ非レバ、觀見ヲ許サレザルコトヲ告ゲラレ、已ムヲ得ズ自分ト

對等ノ官位ヲ有スル清國官吏ヲシテ自分ノ携帶シテ居ル英吉利皇帝ノ肖像畫ニ對シテ、同様ニ跪

禮ヲ行ハシムルコトヲ條件トシテ、之ヲ承諾シ、後ニ乾隆帝ノ特旨ニ依テ、西洋ノ立禮ニ依ルコ

トヲ許サレタルガ爲メ、纔カニ之ヲ行フコトヲ免レタル事實、又一八一六年（嘉慶二十一年）北京

ニ來タ英吉利ノ使節あめーあすと卿（梁廷枏蘭倫寓說卷三、囉咄啊嘆吐噏、魏源海國圖志英吉利

國廣述、羅爾美）ガ天津カラ北京ニ到着スルマデ、絶エズ跪禮ノ問題ニ苦シメラレ、終ニ病氣ヲ

6) Ivan petlin.

7) Goyer. 8) Keyzer.

9) 藝文大正四年十月號、拙稿北京ノ露國公使館參考、  
10) 陳康祺ノ郎潛紀聞ニハ覺エズ俯伏シタ様ニ言ツテアル。



名トシテ覲見ヲ辭シ北京カラ追返サル、ニ至ツタ事實ナドカラ考ヘテモ明カデアル。とめ・びすれノ場合デモ、跪禮ヲ行ハザレバ他ノ原因ガナクトモ覲見ヲ許サレザルコトハ明カデアル。尤モ武宗ハ北京還幸ノ途次、通州ニ駐輦シ、一五二一年二月還京勿々病氣ニ罹ツテ居ルカラ、縱令葡萄牙王ノ使節ガ、跪拜ノ禮ヲ行ツテモ、覲見ガ出來ナカツタコトハ想像サレルガ、兎モ角跪拜ノ禮ハ必ズ覲見ニ先チテ、爭點トナルベキモノデアルコトハ明カデアル。葡萄牙捕虜ノ書簡或ハソレニ據ツタばるゝす以外、葡萄牙ノ史料ニサウ云フ形跡ハ見出スコトガ出來ナイノハ、とめ・びすれ等一行ハ、廣東ニ於テ監禁中ニ死シ、或ハ死刑ニ處セラレタ爲メ、彼等ノ北京ニ於ケル遭遇ニ就テハ一切分ラナクナツタ爲メデアラウガ、葡萄牙捕虜ノ書簡或ハばるゝすナドニ、跪拜ノ禮ハ、爭點タルヨリモ、却ツテ支那國王ノ恩惠ノ様ニナツテ居リ、葡萄牙王ノ書簡ガ開封サレタ後、此恩惠ハ撤回サレタ様ニ記サレテ居ルノハ、とめ・びすれ自ラ跪拜ノ禮ガ實際ニ爭點トナツテ居タコトヲ知ラナカツタ證據トモ考ヘラル。

前述ノ如ク火者亞三ハ既ニ朝貢國タルまらつかノ使ト稱シテ入京ヲ許サレタ關係ガアルカラ、跪拜ノ禮ハ、之ヲ問題トシテ明カニ爭ヒ難キ事情ガアル。換言スレバ、獨立國タル葡萄牙ハ即チ佛郎機ノ使デアルト云フ理由ニ依ツテ、跪拜ノ禮ヲ行ハナイトハ主張シ難キ事情ガアルカラ、火者亞三ハ、コレハ何處マデモ、自分ノ個人問題トシテ、天子トノ特別關係ヲ理由トシテ、解決シ様

トシタ爲メ、とめ・びれすハ少クモ火者亞三ノ仲介ニ依ツテ居タ間、跪拜ノ禮ガ觀見問題ニ於テ爭點トナツテ居タコトヲ知ラナカツタモノト想像シテモヨイ譯デアル。

葡萄牙捕虜ノ書簡ニ述ベテアル様ニ、葡萄牙王ノ書簡ガ開封サレタ爲メニ、葡萄牙王ノ使節ガ跪拜ノ禮ヲ行フコトガ出來ナクナツタト云フコトハ信ゼラレナイガ、葡萄牙王ノ書簡ガ北京ニ於テ開封セラレタト云フコトハ信ジナケレバナラス。葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、通事等ハ此葡萄牙王ノ書簡ハ、葡萄牙王ノ使節ヨリ親シク支那國王ノ手ニ捧呈スベキモノデアルト説明シタ様ニ書イテアルノニ拘ラズ、何故ニ觀見ニ先ダチ或ハ觀見ヲ許サレザルノニ、之ヲ支那國王ノ手ニ捧呈セズ、北京官憲ノ手ニ提示シタカ、とめ・びれすハ火者亞三ノ仲介ニ依ツテ居ル間ニ、其苦心慘憺タル畫策ヲ根本ヨリ覆ヘスベキ此書簡ヲ提示スルトハ、ドウシテモ考ヘラレナイ。コレハ火者亞三ガ、まらつかノ使ト詐稱シタ事實ガ發覺シ、コレマデ支那官憲ノ交渉ハ、凡テ火者亞三ノ仲介ニ依ツテ居タとめ・びれすハ、直接ニ北京官憲ト交渉シナケレバナラスコトニナツタ後ノコト、考ヘル外ガナイ様デアル。サウシテ支那帝ニ親呈スベキ此書簡ヲ支那帝ニ親呈セズシテ、北京官憲ニ提示シタト云フコトハ、とめ・びれすガ北京官憲ト交渉スルニ當リ、獨立國ノ使節タル自分ノ地位ヲ明カニスル必要ナドカラ、廣東デ體式ニ合セズトシテ受理サレナカツタ、此書簡ヲ提示シタモノトデモ考ヘナケレバ、説明ガ出來ナイト云フコトハ、既ニ前ニ述ベタ通りデアル。是ニ於テとめ・び

れす自ラ跪拜ノ禮ガ爭點ニナツテ居ルト云フコトヲ知ルベキ機會ニ達シタ譯デアルガ、此時ハ既ニ彼モ亦罪ヲ免レザル形勢トナツテ居リ、覲見ナドノ話デナクナツタ爲メ、終ニ跪拜ノ禮ノ爭點トナツテ居ルコトヲ知ルニ及バズ、廣東ニ檻送サル、コトニナツタ彼ハ、此書簡ヲ提示シタ爲メニ、入宮ガ出來ズ、即チ跪拜ノ禮ガ許サレナイ様ニナツタト考ヘタカモ知レヌ。

火者亞三ガまらつかノ使ト詐稱シタ事實ノ發覺シタノハ、一五二〇年まらつか王ノ乞援使ガ支那ニ來テ摘發シタ葡萄牙、即テ佛郎機ノまらつかヲ侵奪シタ事實、葡萄牙王ノ使節ノ詐僞入國シタ事實、しまん・ご・あんごら―で等葡萄牙人ノたまんニ於ケル暴行ガ、北京ニ報告サル、コトニナツタ結果デアルコトハ疑ハレナイ。葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、支那國王ハ一五二一年一月、北京城ヲ距ル二リ―グノサル町ニ駐リ、一叛王ヲ處罰シタル時、北京ノ二大臣、廣東官憲及ビまらい人カラ、三通ノ葡萄牙人非難ノ書簡ヲ受ケシコトヲ述べ、其まらい人ノ書簡ハ、葡萄牙王ノ使節ガ支那ヲ欺ク爲メ、詐テ入國シタモノデアアルコト、葡萄牙人ハ支那ノ國土ヲ探偵スル爲メニ來タコト、彼等ハ間モナク、支那ニ來襲スベク、既ニ陸上ニ於テ壘(石柵)ヲ設ケ、家ヲ造リタレバ其支那ヲ征服スルニ至ルノ日ヲ期シテ待ツベク、彼等ハ此ノ如クシテ、既ニまらつか及ビ他ノ諸邦土ヲ侵略シタルコト、彼等ハ實ニ賊盜ニ他ナラヌコトヲ陳奏シタモノデアルト説明シテアル。又此葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、支那國王ガ廣東官憲ニ命ジ、佛郎機ニ諭シテ、其まらつかノ侵地ヲ歸還

11) Ferguson, *Ipid*- PP, 105, 106.12) Ferguson, *lbid* pp. 113, 114, 115, 116.



セシメントシタ論文ヲ譯載シテ居ルガ、ソレニ據ルト、まらつかノ佛郎機ニ滅ボサレシ時、支那國王ニ書ヲ送ツテ、國難ヲ訴ヘテ居ルガ、其後まらつか王ハどうあん・まほめつとヲ使トシテ、國破レテ民虜トナリ、王ハ支那國王勅賜ノ封印ヲ抱イテ、べんたんニ難ヲ避ケ、王族宗室ハ諸方ニ流離スルノ慘狀ヲ陳ベ、葡萄牙王ノ使節ノ支那ニアルモノ、虚偽信ズベカラズ、支那ヲ欺クガ爲メニ來リタルモノニ過ギナイコトヲ訴ヘ、支那國王ノ援助ニ依ツテ、國家興復ノ望ヲ達センコトヲ萬一ニ希望シテ居ルノデアル。ぶれつとしゆないでるニモ、一五二一年一月とめ・びれすノ北京ニ到着シタ頃ニ、まらつか王ノ一臣下ノ運動ノ結果、葡萄牙人ハ名ヲ商人ニ托シタ敵國間牒デアルト云フ、葡萄牙人ニ取ツテ極メテ不利益ナ報告ガ、廣東カラ北京ニ傳ヘラレタコトガ述ベテアル。<sup>(15)</sup>じゆんぐすてつとニモ、まらつか前廢王ノ使臣ガ、とめ・びれすノ入京シタ頃ニ、葡萄牙人ノ目的ハ凡テ外國ノ船舶ヲ破滅シテ、全世界ノ輸出入業ヲ獨占セントスルニアルコトヲ述ベテ、葡萄牙人ヲ中傷シタ讒言ハ、支那人ニ信用セラル、コトニナツタト云フコトガ記シテアル。皇明實錄及ビ明史ニ引用シテアル御史邱道隆ノ上奏ニ、滿刺加朝貢詔封之國、而佛郎機併之、且暗我以利、邀求封償提義不可聽、請却其貢獻、明示順逆、遂使歸還滿刺加疆土之後、方許朝貢、脫或執迷不悛、雖外夷不煩兵力、亦必檄召諸夷、聲罪致討、庶幾大義以明ト云フ記事ガアリ、東西洋考及ビ天下郡國利病書ニ、邱道隆何熬前後皆言、其殘逆稱雄、逐其國主、先年潛遣火者亞三、假充滿

13) Tuan Mafame, Tuan Healie, Tuan Alemancet, Tuan Mefamet, Tuan Mafamet.  
 14) Brets chueider, Ibid. P. 318.  
 15) Yjungotet, Ibid, P. 92.



刺加使臣、風飄到澳、往來窺伺、熟我道塗、略買小兒、烹而食之、近日滿刺加國王奏其奪國襲殺等情、屠掠之禍、漸不可長、宜即驅逐、所造房屋城寨盡行析毀、詔從之ト云フ記事ガアリ、皇明實錄<sup>(16)</sup>ニ、海外佛郎機、前此未通中國、近歲吞併滿刺加、逐其國王、遣使進貢、因請封、詔許來京、其留侯懷遠驛者、遂略人口、蓋房立寨、爲久居、滿刺加亦嘗具奏求救、朝廷來有處也、會監察御史邱道隆云々ト云フ記事ガアリ、葡萄牙ノまらつかヲ侵奪シ、葡萄牙人ノまらつかノ使臣ニ假充シテ、入國シタ事實ナドガ、北京ニ報告サレタノハ、一五二一年一月中ノコトデ、ソレモ邱道隆、何贅等ノ上奏以前ノコトデアルト考ヘナケレバナラヌ、邱道隆、何贅等ハまらつかノ使ガ支那ニ來テ、ソレカラ葡萄牙人ノまらつかヲ侵奪シタ事實ナドラ聞知シ、カウ云フ上奏ヲスルニ至ツタモノデアアルコトハ明カデアアル。

邱道隆、何贅ノ上奏シタノハ何時ノコトデアルカ、皇明實錄正德十五年十二月己丑ノ條ニ、此上奏ガ載セテアリ、明史佛郎機傳ハ之ニ據ツタモノ、如ク、正德十五年中ノ上奏トシテ居ル。然ルニ東西洋考ニハ、邱道隆、何贅前後具奏云々トアリ、二人ガ揃ツテ正德十五年十二月己丑ノ同一日ニ上奏シタルモノハ考ヘラレズ、又皇明實錄ノ記事ハ必ズシモ盡ク正確ナ記録デナク、後ノ追記編纂ニ成ル部分モアルコトハ、皇明實錄ニ據ルト、正德十五年十二月朔ハ己亥トナツテ居ルガ、サウスルト、己丑ハ十二月中ニアルベカラザルコト、ナル不都合ガアルノデモ分カルノデアアル。

ソレニ皇明實錄ヤ、明史ニ引用シテアル何贅ノ上奏ニハ、在都者桀驁爭長トアリ、彼等ノ上奏ハ火者亞三ガ北京ニ於テ、諸夷ノ貢使ト同様ナ待遇ヲ受クルコトニ反對シ、會同館提督主事ノ梁焯ナド、長ク爭ツタ後ノコトデアルコトハ、想像サレルカラ、とめ・びれすノ入京後僅カニ數日内ノコト、ハ思ハレナイ。とめ・びれすノ入京シタノハ、一五二一年一月、即チ正德十五年十一月二十四日カラ、十二月二十四日マデノ間デアル。暫ラク十二月己丑ヲ三正綜覽ニ從ツテ、十二月トスレバ、とめ・びれすガ一五二一年一月一日ニ入京シタトシテモ、僅ニ十日内外ニ過ギナイ。東西洋考及ビ天下郡國利病書ニ引用シテアル彼等ノ上奏ニハ、火者亞三ノまらつかノ使ニ假充シテ來タ年ヲ先年ト言ツテアル。サウスルト、正德十六年正月以後、即チ一五二二年二月五六日以後ノコトデナケレバナラナイ様ニナル。然ルニ葡萄牙捕虜ノ書簡ニ述ベテアル武宗ガ、一五二二年一月、北京ヲ距ル二リীগノ駐在所ニ於テ受ケタト云フ三通ノ書簡中ノ二通ハ、北京ノ二大臣及ビ廣東ノ官憲ヨリ來リシモノデ、前者ハ葡萄牙人ガ貿易島、即チたまんニ於テ、廣東官憲ノ約束ニ應ゼズ、關稅ヲ輸サズ、城柵ヲ設ケタルコト、まらつかヲ侵奪シ、多數ノまらつか人ヲ殺戮シタル風聞アルコトナドヲ述べ、其朝貢ヲ斥ケ、觀地ヲ許スベカラザルコトナドヲ陳奏シタモノ、後者ハ矢張り葡萄牙人ノ關稅ヲ納メズ、肆マ、ニ石造瓦葺ノ城柵ヲ設ケ、繞ラスニ銃砲ヲ以テシ、中ニ兵器ヲ藏シテ居ルト云フコト、狗ヲ盜ミ之ヲ烹テ食フト云フコト、暴力廣東ニ進行シ、彈藥

ヲ運輸シ、河川ヲ測量シ、廣東城ノ前面及ビ他ノ禁制地ニ於テ濫リニ銃砲ヲ放ツト云フコトナド  
ヲ陳奏シタモノデ、東西洋考及ビ天下郡國利病書ニ引用セル邱道隆、何鰲二人ノ上奏ニ酷似シテ  
居テ、別ノモノトハ考ヘラレナイ様デアル。然ラバ火者亞三ノまらつかノ使ニ假充シテ來タ同年  
トナリ、先年ト言ツテアルノハ間違ヒデ、正徳十五年十二月五日ノ事デハナイトシテモ、十二月  
中ノ事ト考ヘナケレバナラヌコト、ナル譯デアル。邱道隆、何鰲ノ上奏ニ、近日滿刺加國王奏其  
奪國讐殺等情ノ文アリ、まらつかノ陳奏ニ依ツテ、火者亞三ノまらつかノ使ト詐稱シタ事實ガ發  
覺シ、とめ・びれすガ自ラ支那官憲ト交渉ノ任ニ當ラナケレバナラヌコトニナツタ時ト、邱道隆、  
何鰲ノ上奏ニ依ツテ、火者亞三、とめ・びれす等ガ罪名ヲ得ルコトニナツタ時トハ、僅カニ數日或  
ハ十數日ヲ隔ツルニ過ギナイ様デアル。殊域周咨錄ニ、邱道隆、何鰲言、其悖逆稱雄、逐其國主、  
掠食小兒、殘暴慘虐、遺禍廣人、漸不可長、宜即驅逐出境、所造垣屋、盡行析毀、重加究治、工  
匠及買賣人等、坐以私通外夷之罪、悉從之、誅其首惡火者亞三ト云フ記事ガアル。葡萄牙即チ佛  
郎機ノ貢獻ガ明カニ拒絶サレ、葡萄牙人ノ使役ニ應ジタル工匠商人等マデ、私通外夷ノ罪ヲ以テ  
論ゼラレ、火者亞三ガ首惡トシテ誅殺サル、コトニナツタノハ、邱道隆、何鰲等ガ葡萄牙人ノま  
らつかヲ侵奪シタ事實、しまん・とめ・あんごらで等葡萄牙人ノたまんニ於ケル暴行ヲ聞知シ、之  
ヲ上奏シタ結果ト考ヘナケレバナラヌ。葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、支那國王ハ北京近傍ノ駐在所ニ於



テ受ケタ三通ノ書簡ニ對シテ、佛郎機人ノコレマデノ不都合ハ、支那ノ習慣ニ嫻ハザルノ致ス所  
デアル、今後ハ之ニ嫻フ様ニナルデアラウ、書簡ニ對スル答書ハ北京還幸ノ後ニ下スベシト言ヒ  
渡シ、回鑾セラレタガ、北京ノ大臣等ハ之ニ満足シナカッタノデ、廣東官憲ニ論ジテ、葡萄牙人  
ノ設ケシ城柵ヲ毀チ、全市街ヲ夷ケシメ、凡テ外國トノ貿易ヲ禁ジ、禁ヲ犯シテ貿易スルモノハ  
直チニ驅逐出境セシメ、とめ・びれす等モ直チニ廣東ニ押送セシムル勅諭ガ發セラル、ニ至リシコ  
トヲ述べ、支那國王ハ北京還幸ノ當日病ヲ得タルガ故ニ、北京城ノ駐在所ニ於テ約束シタル答書  
モ終ニ之ヲ下スニ及バズ、其後三月ニシテ崩ズルニ至リシコトヲ註記シテ居ル。

ぶれつとしゆないでるニ武宗ノ崩後、世宗ノ嗣立スルニ及ビ、北京ノ大臣等ハ、とめ・びれす等  
ヲ死ニ處センコトヲ請ヒタレドモ、世宗ハ之ヲ許サズ、命ジテ貢物ト共ニ廣東ニ護送監禁セシメ  
復命ヲ待タシメシコトヲ述ベテアリ、じゆんぐすてつと及ビじいさすニモ、世宗ハとめ・びれす等  
葡萄牙人ヲ廣東ニ護送監禁セシメ、葡萄牙人ハ詔命ニ從ツテ、まらつかヲ歸還セバ、彼等ヲ釋放  
歸國セシムベク、從ハザレバ法ノ如ク議處スベキヲ命ジタ様ニ記シテアル。

邱道隆、何鰲ノ上表ハ正徳十五年十二月中ノコト、シテモ、ソレガ實行サレ、火者亞三ガ誅殺  
サレ、とめ・びれす等ガ廣東ニ護送監禁サル、ニ至ツタノハ、正徳十六年三月、即チ一五二一年五  
月武宗ノ崩後、世宗ノ嗣立シテカラノ事デアル。明史佛郎機傳ニ。明年（正徳十六年）武宗崩、亞

18) Yjungstedt, Ibid, P. 93.

19) Iesus, Ibid, PP. 7, 8.



三下吏、自言本華人、爲番人所使、乃伏法、絕其朝貢トアリ、殊域周咨錄ニモ、武宗晏駕、皇太后懿旨、誅江彬（中略）於是御史邱道隆、何鰲上奏、詔悉從之、誅其首惡火者亞三等トアリ。籌海圖編ニ引用セル刑部尙書顧應祥ノ言ニ、今上登極、以其不恭、將通事、明正典刑、其人押回廣東、驅之出境去訖、其人在廣久、好續佛書云々トアリ。葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、五人ノ通事<sup>(21)</sup>中、通事長ハ病死シ、殘リノ四人ハ、國禁ヲ犯シテ海外ニ出デ、葡萄牙人ヲ誘引シタル罪ニ依ツテ、處斬セラル、其從僕等ハ叛虐者ニ奉仕シタル廉ヲ以テ、沒シテ奴トナシ、大臣等ニ賜ハリタルコトガ見エテ居ル。

殊域周咨錄ニ、適回回人寫亦虎仙亦以貢獻事、誣陷甘肅文武大臣、亞三與虎仙、皆恃江彬勢、或馳馬於市、或享大官之饌於刑部、或從乘輿而餽珍膳、享於會同館、或同僕臣臥起、而大臣被誣者、皆以桎梏幽囚、意頗輕侮朝官、梁焯每以法繩約之、二夷人相謂曰、天顏可即、主事乃顧不可即耶、彬聞之謂、焯凌虐駕下人員、將奏治、適武宗晏駕、皇太后懿旨誅彬ト云フ記事ガアル。火者亞三ガまらつかノ使ト詐稱シタ事實ハ、武宗ノ崩御カラ數箇月前ニ、既ニ分ツタ筈デアルカラ、武宗ノ崩御マデ、北京ニ於テ駕下人ト稱シテ、天子トノ特別關係ヲ振舞ハシ、又江彬ノ權勢ニ倚ツテ、驕傲ナ態度ヲ持シ、會同館提督主事梁焯ヲ手古摺ラセタト云フコトハ疑ハシイガ、兎ニ角武宗ノ生前中ニ於テハ、火者亞三等ノ罪狀ガ發覺シテモ、之ヲ處罰スルコトニ就テ、武宗ノ勅許ヲ得ル

20) Tergusor, Ibid, PP. 117, 118.

21) Turibasso.

コトガ出來ズ、とめ・びれす等葡萄牙人一行ニ對シテモ、放逐命令ヲ發スルコトガ出來ナカツタ様デアル。

八 支那ニ派遣サレシ最初ノ使節とめ・びれす一行ノ運命ニ就テ

とめ・びれすノ一行ハ、武宗ノ崩後、世宗ノ嗣立スルニ及ビ、廣東ニ檻送サレタノデアルガ、葡萄牙捕虜ノ書簡ニ據ルト、彼等ハ一五二一年五月二十二日北京ヲ發シ、九月二十二日廣東ニ着シテ居ル。廣東ニ着シテカラ十一箇月程ハ、獄舎ニ投ゼラレ、嚴重ナル監視ノ下ニ立チ、時ニ官憲ノ面前ニ引出サレ、跪坐四小時ニ及ビ、葡萄牙王ニまらつかノ侵地ヲ還スベキ勅命ヲ傳ヘンコトヲ命ゼラレタ様ナコトハアルモ、とめ・びれすハソレハ自分ノ能クセザル所デ、自分ハ自分ノ使命ノ外、他事ハ知ル所ニ非ズト言ツテ、獄舎ニ還サレ、獄舎ト言ヒナガラモ、普通罪囚ノ獄舎トハ異ツテ居リ、自由人トシテ待遇サレタノデアル、其所持品モ未ダ沒收サル、ニ至ラズ、猶ホとめ・びれすノ權内ニ屬シタルガ、一五二二年八月以來ハ、普通ノ罪囚ト同様ニ、重キ鎖錠ヲ以テ、手足ヲ戒メラレ、大黃二十「キンタル」、絹一千五六百疋、南京手帕ト稱スル絹ハンケチ四千個、其他扇子、麝香、金、銀、布帛、及ビ葡萄牙產支那產ノ各種貴重品ヨリ、香、鼈甲、胡椒等ニ至ルマデ、アラユル所持品、葡萄牙王ヨリ支那帝ヘノ寄贈品マデモ、盡ク沒收セラレ、一五二四年五月とめ・びれすノ獄中ニ病死スルニ至ツテ、一行中生存セルモノハ、僅カニ此書簡ノ筆者くりすどぶ

あん・ういねーら及ビうあすこ・かるぞお二人ニ過ギナイ様ニナツタト云フコトデアル。此書簡ニ據ルト、廣東カラとめ・びれすノ隨行員トシテ行ヲ同ウシタルモノハ、都合十三人デ、其中五人ハ通事デアツタ様ダカラ、葡萄牙人ハ八人デ、中一人ハ北京ニ至ル途中デ病死シ、一人ハ北京ヨリ廣東ニ押回サル、途中デ病死シタカラ、廣東ニ於テ監禁セラレタモノハ六人デアツテ、二人ハ病死シタト云フコトデアル。

然ルニふあーがそんハ此葡萄牙捕虜ノ書簡ニ據リ、廣東官憲ハ、一五二二年十月一日按察司ヲ經テ、葡萄牙王、印度總督及ビまらつか知事ニ宛テタル三通ノ書簡ヲ、まらつか前廢王ノ使節ニ托シ、齎シ往カシメントシタルガ、此使節ハ敵地ニ入ルノ危険ヲ慮リテ、之ヲ難シタルガ故ニ、ソレヲ止メ其代リニ一五二三年五月三十一日ニ至リ、支那人及ビまらい人ヲシテ、廣東カラ一隻ノジャンク船ヲ艤裝シテ、まらつか前廢王宛ノ書ヲ齎シ、ばたるニ航行セシムルコトニナリ、まらつか王ノ返書ハ同年九月五日廣東ニ着シタト云フコトヲ述べ、二十三人ノ葡萄牙監禁者ハ、九月二十三日、廣東或ハ廣東近傍ニ於テ、凌遲ノ刑ニ處セラル、ニ至リシハ明カニ其結果デアルト言ツテ居ル。當時とめ・びれす一行ノ殘存者ハ、二十三人ノ處刑後ニ、猶ホとめ・びれす始メ數人ノ生存者アル程ニ多數デアツタ筈ガナイ。ソレハふあーがそんノ誤解ニシテ、此時處刑セラレシ二十三人ハ、めるろ・くーてによ艦隊ノ所屬船員デ、支那艦隊ノ襲撃ヲ受ケテ捕虜トナリ、廣東ニ

2) Christvao Vieira.

3) Vasco Calvo.



監禁サレテ居タモノデアルコトハ明カデアル。

とめ・びれす等ガ廣東ニ押回ハサレテモ、籌海圖編所載刑部尙書顧應祥ノ言ノ如ク、驅逐出境セシメラル、ト云フコトモナク、長イ間廣東ニ於テ監禁サレ、現ニくりすとふあん・ういねーらヤウあすこ・かるぞおノ如キ、一五三六年頃マデモ監禁ノ儘、歸國ヲ許サレズ、廣東ニ留メラレテ居タト云フコトハ、ドウ云フ譯デアルカ、コレ恐ラク葡萄牙ヲシテ、まらつかノ侵地ヲ歸還セシムルマデノ人質トスル様ナ考ヘニ出デタモノデアラウ。葡萄牙捕虜ノ書簡ニ譯載シテ居ル支那國王ノ廣東官憲ニ命ジ、佛郎機ニまらつかノ侵地歸還ヲ促サシメタル諭文ニ據ルト、まらつか前廢王ノ使節ガ齎シタル乞援書ニ對シテ、禮部ガ佛郎機ハ未ダ曾テ中國ニ通ゼズ、盖シ海濱ノ小夷ナルベク、まらつかハ之ニ反シテ朝貢詔封ノ國デアルト云フ議覆ヲナシタノデ、支那國王ハ廣東官憲ニ諭シ、再ビ葡萄牙王ノ使節ノ入國ヲ許スベカラザルコトヲ命ジ、既ニ北京ニ於テ葡萄牙王ノ書簡ヲ燒棄シ、葡萄牙王ノ使節及ビ其一行ニ對シテ、まらつか侵奪ノ理由ヲ詰問シタルコトヲ告ゲ、彼等ヲシテ歸國セシムルコトナク、葡萄牙王ニ書ヲ與ヘテ、王及ビ其大臣ヲシテ、明カニ之ヲ知ラシメ、まらつかノ土地人民ヲ放棄シ、之ヲまらつか王ニ歸還セシムルコト、猶ホ彼等ガまらつか王ヨリ之ヲ奪ヒタルガ如ク、又まらつか王ガ之ヲ放棄シタルガ如クスベキヲ命ゼシメタト云フコトデアル。彼等ヲシテ歸國セシメナイト云フコトハ、即チ佛郎機王ヲシテまらつかノ侵地ヲ歸



還セシムルタメノ人質ノ意デアルコトハ明カデアル。

猶ホ此葡萄牙捕虜ノ書簡<sup>(4)</sup>ニ據ルト、廣東官憲等ハ此勅諭ヲ受ケ、まらつか王ノ使節ヲ召喚シテ、佛郎機ノまらつかヲ侵奪シタル事實ヲ確カメタル後、會議ヲ開キ、葡萄牙王ノ使節ニ命ジ、葡萄牙王宛ノ書ヲ認メシメ、まらつか王ノ使節ヲシテ、之ヲまらつかマデ持行キ、まらつかヨリ葡萄牙王ニ傳遞セシメ、葡萄牙王ノまらつか王ヨリ侵奪シタル土地人民ヲ放棄セシメ、若シ葡萄牙王ガ命ニ遵ツテ、之ヲまらつか王ニ歸還シ、まらつか王ヨリ其事ヲ支那國王ニ奏報スルニ至ラバ、輒チ葡萄牙王ノ使節ヲシテ釋放歸國セシムベク、若シ然ラズシテ、葡萄牙王ガ、まらつかノ土地人民ヲ放棄スルヲ肯ゼズ、隨ツテまらつか王ノ奏報モ亦來ナイト云フコトナレバ、支那ニ於テモ、葡萄牙王ノ使節ノ歸國ヲ許サルベク、更ニ會議ヲ開イテ、善後策ヲ議スベキコトヲ決議シタト云フコトデアル。此時とめ・ぴれすが自ラ葡萄牙王宛ノ書簡ヲ認メテ、まらつかノ還附ヲ促ガス様ナコトノ出來ナカツタコトハ明カデアル。葡萄牙捕虜ノ書簡ニハ、當時監獄ニアリシガ故ニ廣東官憲ハ其漢文デ認メタル書ヲ與ヘテ、之ヲ葡萄牙文ニ翻譯セシムルコト、ナリ、之ヲ葡萄牙王ト印度總督トまらつか知事トノ三人ニ宛テタル三通ノ書ニ認メシメタ様ニ言ツテ居ル。然ルニまらつか王ノ使節ハ之ヲまらつかニ帶往スルコトヲ難ンジタ爲メ、翌一五二三年五月三十一日、支那人まらい人等ヲシテ一隻ノ小ジャンク船ヲ以テばたるニ赴カシムルコトニナツタガ、此時ニ此

4) Fergusbn, Ibid, pp. 114. 115.

等ノ三通ノ書ヲ携帶セシメタカドウカト云フコトハ葡萄牙捕虜ノ書簡ニハ明カニナツテ居ナイ。  
 ふあーがそんハ此時帶往シタル書簡ハ、まらつか前廢王宛ノモノデアルト考ヘテ居ル。兎モ角ま  
 らつか王ノ返書ハ九月五日ニ廣東ニ着シテ居ルガ、ソレハ日夜支那國王ノ救援ヲ望ンデ已マザル  
 コト、若シソレガ望マレナケレバ、支那藩封ノ諸屬夷ヲ檄召シ、救災恤鄰ノ義ヲ諭シテ、援兵ヲ  
 出サシムルコトヲ哀請シタモノニ過ギナイ。然ルニ葡萄牙ハ終ニまらつかヲ歸還セズ、まらつか  
 王ノ使節モ、一五二四年中ニ廣東ヲ退去スルコトニナツタノデアルカラ、葡萄牙王ノ使節一行ノ  
 歸國ヲ許サル、望ミモ亦絶エタノデアラウ。然ルニふれつとしゆあい<sup>(5)</sup>でるニ、武宗ノ崩後、其報  
 知ガ廣東ニ達シ、太玉(たまん)嶋ノ葡萄牙人ハ、其船ト共ニ悉ク退去スベシトノ支那官憲ノ命令  
 ヲ受ケタケレドモ、從ハナカツタ爲メ、一五二〇年(恐ラク一五二一年)六月支那艦隊ニ攻撃サレ  
 非常ナ損害ヲ受ケテ驅逐サレタ時ニ、丁度どめ・びれす及ビ其隨員ハ廣東ニ着シ、直チニ投獄セラ  
 ル、ニ至ツタコトヲ述べ、ばるろすノ歴史ハ一五三九年ニ終ツテ居ルガ、葡萄牙人ノ支那交通ニ  
 關スル記事ハ、之ニ止マリ、支那ニ派遣サレタ葡萄牙最初ノ使節どめ・びれすノ其後ノ運命ニ關シ  
 テハ、何等記述スル所ガナイ、然ルニ此事件ヨリ殆ンド二十年後ニ、支那ニ居ツタ葡萄牙ノ有名  
 ナ冒險旅行家ふねるなんめんと<sup>(6)</sup>です・ぴんと<sup>(6)</sup>ノ記事ニ樣ルト、どめ・びらすハ管刑ノ後十二人ノ隨  
 員ト共ニ北支那ニ追放サレ、終ニ其地ニ於テ支那人ノ一女子ト結婚シ、之ヲ基督教ニ改宗セシメ

5) Bretschneider, *Ibid.* PP. 318, 319  
 6) Ternaõ Mendes Paito. *Pergrinaçom*. Lisboa, 1614. Fignier's *Fuench Traus*. 1628,  
 Henry Cogau's *Eag. Traus*, 1653.

長ラク居住シタ後死シタコトニナツテ居ル、ぴんどーハ既ニ一五四三年ニ其地ニ於テ、とめ・ぴれすノ娘ニ遇ツテ居ルノデアル。然レドモ他ノ史料ニ據ルト、一五二三年ニ彼ハ死刑ニ處セラレタ様ニナツテ居ルト言ツテアル。どれつとしゆないでるハ葡萄牙捕虜ノ書簡ヲ知ラナカッタ様デアル。

## 第五章 しまん・ご・あんごらーでの暴行ト

### 葡萄牙人ノ廣東驅逐

#### 一 しまん・ご・あんごらーでノ暴行ニ就テ

東西洋考ヤ天下郡國利病書ニ引用シテアル御史邱道隆、何鰲ノ上奏ニ佛郎機ノ殘逆ヲ述ベ、先年潛遣火者亞三假充滿刺加使臣、風飄到澳、往來窺伺、熟我道塗、略買小兒、烹而食之、近日滿刺加國王奏其奪國讐殺等情、屠掠之禍漸不可長、宜即驅逐、所造房屋城寨、盡行析毀ト言ツテアル。火者亞三等ノ詐ツテまらつかノ使ト稱シ、密カニ支那ノ國事ヲ探偵シテ居ル事實、しまん・ご・あんごらーでノたまんニ於テ小兒ヲ略買シ、烹テ之ヲ食フト云フ様ナ殘忍非道ナ行爲ヲ肆マ、ニシテ居ル事實、まらつかノ乞援使ノ齎シタル葡萄牙ノまらつかヲ侵奪シタ情報ヲ舉ゲテ、葡萄牙人ヲ驅逐シ、しまん・ご・あんごらーでノたまんニ於テ築造シタ房屋ヤ、城寨即チ柵ヲ毀壞センコ



トヲ奏請シタモノデアルコトハ明カデアル。武宗ノ崩後、世宗ノ即位シテカラ、彼等ノ上奏ガ裁可サレ、葡萄牙人ハ貿易ヲ禁ゼラレ、凡テ廣東カラ驅逐サル、コトニナツタ次第ハ、既ニ前章ニ於テ述ベタ所デアル。殊域周咨錄ニ詔悉從之トアリ、皇明實錄ニ禮部議覆、以後嚴加禁約、夷人留驛者不許往來私通貿易、番舶非當貢年、驅逐之遠去、詔悉如議行之トアリ、名山藏ニ御史邱道隆、何鰲ノ相繼デ佛郎機ヲ驅絶シ、留ムベカラザルヲ疏言シタルコトヲ述べ、詔從之ト言ツテアルノハ、即チ此時ノ事實ヲ説明シタモノデアル。而シテ邱道隆、何鰲ノ葡萄牙人驅逐ヲ主張シタ一ツノ主要ノ理由ハ、しまん・ご・あんごらーでノたまんニ於ケル暴行デアル。ふあーがそん<sup>(1)</sup>ニ據ルト、一五一九年初ニ、ふねるなん・べれす・ご・あんごらでガ貴重ナ船貨ヲ積ンデ、こちんニ歸着シタ時、あんごにお・こるれあ<sup>(2)</sup>ハまらつか及ビ支那ニ航海スルコトヲ命ゼラレテ居タノデアツタガしまん・ご・あんごらーでハ其兄弟ふねるなん・べれす・ご・あんごらーでノ歸航後、支那ニ往航スベキ葡萄牙王ノ勅許狀ヲ携帶シテ居ツテ、之ヲ總督でいおご・ろべす・ご・せけいらニ提示シタノデ、こるれあハ更メテまらつかニ、しまん・ご・あんごらーでハ支那ニ派遣サル、コトニナリ、しまん・ご・あんごらーでハ一五一九年四月こちんヲ出帆シ、まらつかヨリ三隻ノジャンク船ヲ隨ヘ、一五一九年八月たまんニ到着シタト云フコトデアル。ばるろすニハ、しまん・ご・あんごらーでノ印度ヲ出帆シタノハ一五一八年四月トナツテ、ふあーがそんノ記事トハ一年違ツテ居ル。ふねるな

1) Fergusson. Ibid, PP. 13, 14, 15, 17.

2) Antonio Corea.



ん・ペれすノ印度ニ歸着シタノモ、ふあーがそんハ一五一九年初デアル様ニ考へ、一五一八年ニ歸ツタ様ニ記シテ居ル、こるれあノ記事ヲ不可能ノ事トシテ、一概ニ斥ケテ居ル。然シ必ズシモソレハ不可能デナイノミナラズ、ふゐるなん・ペれすが一年數箇月モ支那ニ滯留スルト云フコトコソ、却ツテ信ズベカラザルコトデアルカラ、ばるろすしまん・ごらーでノ印度出帆ヲ一五一八年四月ト書イテ居ル以上ハ、ソレニ據ル方ガ正當ト言ハナケレバナラス。サウスレバ、しまんノたまんニ入港シタノハ、一五一八年八月デ、ぶれつとしゆないでるノ記シテ居ル所ハ、矢張り正當トナルノデアル。

しまんハたまんニ到着ノ初ヨリ其性質ガ粗暴ニシテ、温厚ナ彼ノ兄弟ふゐるなん・ペれすトハ非常ナ違ヒデアルコトヲ支那人ニ示シ、支那人ノ船舶デモ、たまんノ港ニ於テ、海賊ノ攻撃ニ對シテ防禦ガ出來ナイ状態ニアルコトヲ理由トシテ、海ニ臨デ木石ヨリ成ル城柵ヲ築キ、殊ニ附近ノ一小嶼ニ絞首臺ヲ設ケ、アル犯罪行爲ヲナシタル一船員ニ對シ、葡萄牙内地ニ於ケルト同様ナ正式ナ處刑ヲ施シ、甚ダシク支那人ノ自尊心ヲ傷ケ、感情ヲ害シタルノミナラズ、支那人トノ貿易ニ於テ、暹羅、柬埔寨、ぱたに等ノ諸船舶ニ對シテ、優越權ヲ主張シタト云フコトハ、ふあーがそんノ記事ニ見エテ居ル。しまんノまらつかニ向ツテ解纜歸航シタ後、彼ガ廣東人民ノ其債權者ニ人質トシテ與ヘテ居タ多數ノ子女ヲ誘拐シ、奴隸トスル爲メニ帶往シタト云フコトガ發見セラル、

ニ及ンデ、廣東人民ノ葡萄牙人ニ對スル憤激ノ情ハ頂天ニ達シタト云フコトハ、矢張ふあゝがそ  
んノ記ス所デ、ばるろすハ支那人ノ間ニ、葡萄牙人ハ兒童ヲ誘拐シテ、之ヲ燒イテ食フト云フ様  
ナ評判ガアツタコトヲ記シテ居ルト云フコトモ、其脚註ニ見エテ居ル。しまんガ兒童ヲ誘拐シタ  
ト云フコトモ、ぶれつとしゆないでるノ言ツテ居ル様ニ、しまんガ殘逆無道ナ行爲ヲ肆マ、ニシ  
タ爲メ、事實デナイコトマデモ、非難セラル、ニ至ツタモノトモ考ヘラル、ガ、じゆんぐすてつ  
どニ、往時まかおノ商人ガ奴隸ヲ支那日本及ビ其他ノ各地ニ於テ誘拐シ、若クハ購買シテ、盛ニ  
奴隸貿易ヲ營ンダコトヲ書イテ居ルコトカラ考ヘルト、しまんガ兒童ヲ燒イテ食ツタト云フコト  
ハ、固ヨリ有リ得ベカラザルコトデアルケレドモ、之ヲ誘拐シ、若クハ誘拐セシメタト云フコト  
ハ、必ズシモ評判バカリデナカツタカトモ考ヘラレル。

ソレハ何レニシテモ、彼ガ支那ノ主權ヲ無視シ、柵ヲ樹テ、刑罰ノ權ヲ握リ、たまんヲ以テ恰  
カモ葡萄牙ノ領土ノ如ク見做シ、專横ノ行爲ヲ肆マ、ニシタコトハ明カデアル。(5) じいさすハ猶ホ  
ばるろすニ據テ、彼ガたまんニ於テ、貿易及ビ海運ノ權ヲ自分ノ手ニ收メテ、支那ニ關稅ヲ納ム  
ルコトヲ肯ンゼズ、一人ノ稅關員ヲ打擲虐待シタコトヲ述べ、がすぱーだくるすが彼ノ數艘  
ノ船ヲ失ツテ、無慘ノ退去ヲナスノ已ムナキニ至ツタ原因ト言ツテ居ル、支那大吏ノ打擲事件モ、  
彼ガ下手人タルハ明カデ、たまんニ於ケル彼ノ僭越專横ナ行爲ニ對シテハ、支那官憲ノ忍ブベカラ

3) Britschneider, Ibid. P. 318  
4) Yjungstedt, Ibid. P. 29.  
5) Jesus, Ibid. P. 5.  
6) Gaspar da Cruz.

ザル壓制モ、海賊ノ跳梁跋扈シテ居ル事實モ、又此ノ如ク危險ニシテ、而カモ外國人ヲ歡迎セザル支那ノ沿海地ニ於テハ、葡萄牙人モ自衛ノ爲メ城寨ヲ設ケルコトハ、已ムヲ得ナイト云フ事情モ、以テ辯解ノ辭トスルニ足ラナイト云フコトヲ論ジテ居ル。

御史邱道隆、何鰲ノ上奏ニ、掠買小兒、烹而食之ト言ツテアルノハ、しまん・ご・あんごら一でノたまんニ於ケル行爲ヲ非難シタモノデアルコトハ前ニ述ベタ通りデアルガ、當時支那ニ於テ、しまんノ行爲ヲ非難スル聲ノ盛デアツタコトハ、邱道隆、何鰲ノ上奏ニ基ヅイタノデアルカ、或ハ之ニ附和シタモノデアルカハ明カデナイガ、種々ノ記錄ニ其反響ガ見ハレテ居ルノデ想像サレル。皇明實錄ニ其留侯懷遠驛者、遂略買人口、蓋房立寨、爲久居ト云フ記事、名山藏ニ使者留不去、劫奪行旅、掠食小兒、廣人苦之、會滿刺加來訴、御史邱道隆、何鰲相繼疏言ト云フ記事、明史佛郎機傳ニ、其人久留不去、剽劫行旅、至掠小兒爲食（中略）其留懷遠驛者、益掠買良民、築室立寨、爲久居計ト云フ様ナ記事ガ見エテ居ル。又天下郡國利病書（卷一百二十、海外諸番入貢互市、全卷一百十九、海外諸番）ニモ殘掠甚至炙食小兒ト云フ記事ガ見エ、又之ニ引用シテアル月山叢談ニハ、嘉靖初佛郎機國遣使來貢、其人好食小兒云、在其國惟國王得食之、臣僚以下皆不能得也、至是潛市十餘歲小兒食之、每一兒市金錢百文、廣之惡少掠小兒、競趨途、所食無算、其法以巨鑊煎滾々湯、以鐵籠盛小兒、置之鑊上蒸之、出汗盡乃取出、用鐵刷刷去苦皮、其兒猶活、乃殺而剖



其腹、去腸胃蒸食之、居二三年、兒被掠益衆、遠近患之ノ記事ガ見エテ居ル。又澳門紀略(官守篇)ニ引用シテアル明ノ給事中王希文ノ嘉靖初年ノ重邊方以甦民命疏ニモ、正德間佛郎機匿名混進、突至省城、擅違則例、不服抽分、烹食嬰兒擄掠、設柵自固、火銃橫行、犬羊之勢莫當、虎狼之心叵測ト言ツテアル。東西洋考ニモ佛郎機ノ廣州澳口ヨリ退去シテ、東莞南頭ニ碇泊シタコトヲ述べ、蓋房樹柵、恃火銃自固ト記シテ居ル。此等ノ記事ハ多ク、しまんト廣東懷遠驛ニ居留シタとめ・びれす等トヲ混同シ、又針小棒大ニナツテ居ルガ、しまんノたまんニ於ケル行爲ヲ非難シ、若クハ所爲ニ關スル支那人ノ評判ヲ記シタモノデアルコトハ疑ハレナイ。

## 二 葡萄牙人ノ廣東驅逐ニ就テ

前ニ述ベタ東西洋考ヤ、天下郡國利病書ニ引用シテアル邱道隆、何鰲ノ上奏ニハ、宜郎驅逐、所造房屋城寨、盡行拆毀トアリ、此外天下郡國利病書ニ引用シテアルモノニハ、重加究治、工匠及買賣人等、坐以私通外夷之罪トアリ、殘城周咨錄ニ引用シテアルモノモ同様デアル。猶ホ皇明實錄ヤ、明史ニ引用シテアル何鰲ノ上奏ニハ、乞復查舊例、悉驅在澳番舶及夷人潛住者、禁私通嚴守備トアリ、しまんノたまんニ於テ築造シタ房屋城寨ヲ毀チ、たまんナドノ廣東ノ港澳ニ碇泊シ潛住シテ居ル葡萄牙船及ビ葡萄牙人ヲ驅逐シ、支那人ノ之ト私通貿易シ、之ガ使役ニ供應スルコトヲ禁ゼントシタモノデアル。



ぶれつとしゆないでるハ、武宗ノ崩後、其報知ガ廣東ニ達シ、たまん嶋ノ葡萄牙人ハ、其船ト共ニ悉ク退去スベシトノ支那官憲ノ命令ヲ受ケタガ、從ハナカッタ爲メ、支那ノ艦隊ニ攻撃サレ、非常ナ損傷ヲ受ケテ、驅逐サレタコトヲ記シ、ばるろすニ據ルト、此事件ハ一五二〇年六月ノ事ニナツテ居ルガ、一五二一年ノ誤リデアラウト考ヘテ居ル。ソレハ當然ノ考ヘデ、ふあーがそんニ、一五二一年四五月ニ葡萄牙ノ一船隊ガ、たまんニ來リ、たまんト廣東ニ於テ貿易ニ從事シツツアリシ時、支那國王崩御ノ報ガ廣東ニ達シタ爲メ、支那ニ居ル外國人ハ悉ク退去ヲ命ゼラレ、從ハザルモノハ、死ヲ以テ罰セラル、<sup>(8)</sup>コド、ナリシガ、葡萄牙艦隊ヲ指揮シタでいおご。かるうお等ハ、未ダ船貨ノ積卸ガ終ツテ居ナイノヲ理由トシテ、之ニ從ハナカッタノデ、廣東ニアリシ葡萄牙人ハ先ヅ捕縛監禁セラレ、葡萄牙ヤ、暹羅ノ船隻、ジャンク船ハ攻撃捕獲サレシノミナラズ、殺サレ或ハ擒ニサレシ葡萄牙人船員モ多ク、たまんニ碇泊セルでいおご。かるうおノ坐乗船モ、七八隻ノ葡萄牙ジャンク船モ、危ク攻圍セラレントシタト云フコト、同年六月ニどうあるど。こねり<sup>(9)</sup>よノ率キタ二隻ノジャンク船ガ加ルニ及ビ、五艘カラ成ル葡萄牙船隊ハ、五十隻バカリノ支那ジャンク船隊ニ圍攻セラレシモ、多大ノ損害ヲ與ヘテ之ヲ撃退シタト云フコト、又ソレカラ四十日ノ後ニ、あむぶろじお。ご。れご等ノ率キタ二艘ノ船ガまらつかヨリ來リ加ツタノデ、凡テノジャンク船ヲ放棄シ、其乗組船員ヲ三艘ノ葡萄牙船ニ收容シ、九月七日ノ夜ニ乗ジ、支那艦隊ノ圍ヲ

7) Ferguson, Ibid, PP. 17, 18.

8) Diogo Calvo

9) Duarte Coelho.

10) Ambrosio Do Rego.

衝キ、脱出ヲ計リシニ、八日ノ黎明、支那艦隊ニ發見攻撃サレ、衆寡ノ勢敵セズ、既ニ降服ノ外ナシト見エタル時、暴カニ北方ノ烈シキ風吹き起リ、支那ジャンク船が見ル見ル恐慌ヲ起シタル隙ニ乗ジテ、纔カニ遁グ延ビルコトガ出来テ、一五二一年十月無事まらつかニ歸航シタト云フコトガ書イテアル。ふあーがそんハ又提督まるていむ・あふおんそ・ごめるろ・くーていによガ、葡萄牙王カラ支那國王ト和約ヲ結ビ、たまんニ城柵ヲ設クルコトノ許可ヲ得ル様ニ努力シ、此地ニ留リテ帶同セル葡萄牙官吏ヲ監督スベキ訓命ヲ帶ビテ、其二人ノ兄弟うあすこ・ふねるなんです・くーていによ、でいおご・ごめるろ及ビべごろ・はーめんと共ニ、四艘カラ成ル船隊ヲ率キテ、ちんヲ出帆シ、七月まらつかニ着シテ、始メテ葡萄牙ト支那トノ關係ガ既ニ惡化シテ、舊ノ如クデナイコトヲ知ツタケレドモ、豫定ノ航海ヲ續行スルニ決シ、嫌ガツタごうあると・こわりよ、あむぶろじお・ごれごニ無理ニ同行ヲ求メ、四艘ノ船ト一隻ノジャンク船トデ、一五二二年七月十日まらつかヲ出帆シ、八月たまんニ着シタコトヲ叙シ、忽チ支那艦隊ニ發見砲撃セラレシモ、毫モ損害ヲ受ケズ、まるていむ・あふおんそハ亦部下ヲ戒飭シテ、輕舉應戰ヲ避ケ、入港投錨後、直チニ陸上ノ支那官憲ニ其意舊ノ如ク平和ト貿易ヲ望ム外、地意ナキコトヲ告ゲシメタルモ、毫モ省セラレズ、水ヲ求ムル爲メニ上陸セシメタル船員ハ散々ナ虐待ヲ受ケテ、辛ク生命ヲ全ウシテ遁グ歸リタル有様ナリシカバ、今ハコレマデナリトシ、此時獨リ港外ニアリテ入港セザリシごあ

11) Martim Affonso de meelo Coutinho.  
 12) Vasco Ternaudes Coutinho.  
 13) Diogo de mello.  
 14) Pedro Homen.

ると。こゝろよノ勸メニ從ヒ、でいおご。ご。めるろノ船トペご。ほーめんノ船ハ、他ノ二艘ヨリ船體小ナレバ、之レヲ先頭ニ立テ、港外ニ出デントシタルニ、此時遅シ、支那艦隊ニ邀撃セラレ、でいおご。ご。めるろノ船ハ先ヅ爆沈シ、船員モ多ク船ト運命ヲ共ニシ、ペご。ほーめんハ其船員ヲ分チ、一救助艇ヲ出シ、纔カニ身ヲ以テ遁レテ海中ニ漂ヘル生存者ヲ救助シ、若シヤ其中ニでいおご。ご。めるろヲ發見スルコトナキヤト搜索ニ力ヲ盡サシメ、自ラ其船員ノ數ガ減ジテ防禦ノ手薄トナツタ虚ヲ見スマシテ、乘リ移ツテ來タ所ノ支那兵ト奮戰苦闘ノ末、凡テノ船員ト共ニ、或ハ戰死シ、或ハ擒ニ就キタノデ、まるていむ。あふおんそハ其夜會議ヲ開キ、復讐戰ヲ試ミノコトヲ主張シタルモ、之ヲ不利トスル衆論ニ、已ムナク歸國後彼ノ責任ヲ讐議シナイト云フ約束ヲ得テ讓歩シ、二艘ノ殘存船ト、一ジャンク船ヲ率キ、短ク而カモ多事ナリシたまん二週間ノ滞在ノ後、まらつかニ向ツテ歸航シ、一五二二年十月歸着シタト云フコトヲ記シテ居ル。又じいさす<sup>(15)</sup>ニ葡萄牙王ガとめ。びれすノ使命ノ失敗ニ歸セルヲ知ラズ、支那ト修好條約ヲ結バシメントシテ支那ニ派遣シタ第二回ノ使節めるろ。く。て。によガ、たまん或ハたまんヨリ一層支那ニ於テ葡萄牙人ヲ保護スルニ適當ナ場所ニ柵ヲ樹テ、之ヲ守備スベキ訓命ヲ受ケテ六艘ノ艦隊ヲ率キ、たまん沖ニ滯留シテ居タごうあると。こゝろよト共ニ、たまんニ到着シタコトヲ記シ、彼ハとめ。びれすト北京政府トノ協定ニ依ツテ、既ニ準備ガ出來テ居ルモノ、様ニ考ヘテ、少シノ疑念モ抱



カズ、之ニ入港シタルモ、幾モナク、支那人ノ葡萄牙人ニ對シテ敵意アルコトガ分カリ、急遽出帆セントシタルニ、優勢ナル支那艦隊ニ襲撃セラレタト云フ事、又此時ニ支那人ノ擒トナツタ葡萄牙ノ船員ハ、多ク飢餓ノ爲メ、或ハ呵責ノ爲メニ死シ、甚シキハ賊盜トシテ凌遲ノ刑ニ處セラレタト云クコトヲ述ベテ居ル。じゅんぐすてつとニモ、めるろくいてによガ、支那帝ニ親好ノ意ヲ致スベキ、葡萄牙王ノ訓命ヲ受ケ、六艘ノ船ト共ニ、たまんニ到着シタコトヲ述べ、恰カモ廣東政府ハ葡萄牙人ト交通スルコトヲ禁ジ、支那兵船ニ命ヲ下シ、葡萄牙船ヲ見付ケ次第、之ヲ撃破セシメントシテ居タ時デアルカラ、一五二二年たまんニ向ツテ入港セント、航走シツ、アツタ葡萄牙船隊ハ、支那船隊ニ襲撃セラレ、利ヲ失フニ至ツタコト、又支那人ノ此時ニ獲タ戰利品ノ莫大デアツタコト、葡萄牙人中戰死者ノ多ク、又捕虜トシテ廣東ニ送ラレシモノモ多ク、中ニハ飢餓ノ爲メ死スル者モアリ、又世宗ノ命ニ依ツテ間牒及ビ海賊トシテ、極刑ニ處セラレシモノ二十三人ニ及ビシコト、此時まらつかヨリ來リシジャンク船モ攻撃ヲ受ケ、船貨共ニ沒收サレ、人ハ投獄サレタコトヲ記シテ居ル。

葡萄牙捕虜ノ書簡ニ、<sup>(17)</sup>でいおご・かるうお、でいおご・ご・めるろ及ビべごろ・ほーめんノ船員デ、戰死シタモノヤ、支那船隊ノ爲メニ捕虜トナツタルモノ、數奇悲慘ノ運命ニ關スル詳細ナ記事ガアル。

16) Yjungtedt, Ibid, PP. 6, 7.

17) Ferguson, Ibid, PP. 109, 111, 112, 113.



殊域周咨錄、御史邱道隆、何鯨言（中略）詔悉從之、誅其首惡火者亞三等、命撫接撥備倭官軍、逐餘黨醜類歸去、海道憲帥汪鉉率兵至、猶據險逆戰、以銃擊敗我軍、或獻計、使善泅者鑿沈其舟、乃悉擒之ト云フ記事ガ見エ、東西洋考（卷五呂宋）ニモ廣東通志ニ據リ、海道副使汪鉉帥兵至、猶據險逆戰、商人鑿舟用策、乃悉掠之、餘皆逐去ト云フ記事ヲ載セテ居ル。天下郡國利病書（卷一百十九海外諸番）ニ引用シテアル月山叢談ニモ、海道汪鉉以兵逐之、不肯去、反用銃擊敗我兵、由是人望而畏之、不敢近、或獻計、使善水者入水鑿沈其舟、盡擒之ト云フ記事ガ見エ、澳門紀略ニ引用シテアル給事中王希文ノ上奏ニモ、賴有海道副使汪鉉、併力驅逐、肆我皇上臨御、威振絕域、邊疆輯寧、風俘獲敵酋悉正極典、民間稽顙稱慶ト云フ文辭ガアル。廣東通志（卷二百四十八、官績錄）志道隆傳ニ、郭棐ノ粵大記ヲ引用シ、邱道隆ガ御史ニ遷任シ、佛郎機ハ素ト通貢ノ國ニ非ズ、今廣ニ入テ、將ニ變ヲ爲サントスト上疏シタ結果、海道副使汪鉉ガ命ヲ受ケテ、之ヲ擊逐シタコトヲ述ベテ居ル。汪鉉ガ兵ヲ率キテ至リ、佛郎機ヲ逐ハントシタ時、佛郎機ガ險ニ據リ、銃ヲ用ヒ反擊シタリト云フコトハ、しまんガたまんノ柵ニ據ツテ抵抗シタ事實ヲ指スモノデハアルマイカ、殊域周咨錄（卷九、佛郎機）ニ、東莞縣白沙ノ巡檢何儒ガ、抽分ノ爲メ佛郎機船ニ至リ、船員ニ元支那人デ久シク彼國ニ住シ、造船造兵及ビ火藥ノ製造法ニ通ジテ居ル揚之戴明ト云フ者ニ遇ツテ、重ク賞賚ヲ加ヘテ、之ヲ向化セシメ、夜ニ乗ジ小船ヲ出シテ、接引上陸セシメタコトヲ記シ、

汪鉉ガ佛郎機ヲ驅逐シ、捷ヲ取ルコトヲ得タノハ、彼等ヲシテ佛郎機ノ式ニ從ツテ製造セシメタ  
銃、即チ佛郎機銃ヲ用キタ爲メデアルト言ツテ居ル。皇明實錄嘉靖二年三月ノ條ニ、佛郎機國人  
別都盧ガ、初メ其巨銃利兵ヲ恃ミ、まらつか諸國ヲ劫掠シ、海外ニ橫行シ、終ニ其屬疎世利等ヲ  
率キ、千餘人ト共ニ、五艘ノ船ニ駕シ、新會縣西草灣ヲ侵寇スルニ至ツタコトヲ記シ、備倭指揮  
柯榮、百戶王應恩等ガ、之ヲ防戰シ、轉戰シテ稍州ニ至リ、向化ノ人番丁苟（明史佛郎機傳潘丁  
苟）ヲ先陣トシテ奮戰シ、別都盧、疏世利等四十二人ヲ生擒シ、三十五人ヲ斬殺シ、二艘ノ船ヲ捕  
獲シ、又三艘ノ船ヲ以テ接戰シタル餘賊末兒丁甫思多滅兒等ヲ敗テ走ラシ、王應恩ハ戰死シタコ  
ト、巡撫都御史張嶺、巡接御史涂敬ガ之ヲ奏聞シ、都察院ノ覆奏ニ依ツテ、別都盧等ヲ其地ニ就  
テ誅戮梟示スベキ旨ノ上諭ガ發セラレタコトヲ述ベテ居ル、明史佛郎機傳ハ之ニ據ツテ、新會縣  
西草灣ノ海戰ヲ、嘉靖二年ノ出來事ノ様ニ記シテ居ルガ、張嶺等ノ奏聞ガ北京ニ達シ、都察院ノ  
覆奏ヲ經テ、別都盧等誅戮梟示ノ上諭ガ發ラレタノハ、嘉靖二年三月ノ事デアルカラ、新會縣西  
草灣ノ海戰ハ、必ズシモ嘉靖二年ノ出來事デアルトハ限ラナイ。サウスルト、矢張り一五二二年  
即チ嘉靖元年ニ、支那艦隊ノめるろ・くーていによヲたまん嶋近海ニ攻撃シタ時ノ事件ニ關スルモ  
ノデ、別都盧ハべとろーほーめんヲ指スモノデ、末兒丁甫思多滅兒ハめるろ・くーていによ即チあ  
るろふおんを・まるていん・ご・めるろ・くーていによヲ指スルモノデアルコトハ、殆ンド疑ヒガナ

イ。名山藏ニ、世宗即位、佛郎機復以接濟使臣以糧、爲名、請以齋番物、如例抽分、詔復絕之、率其屬疎世利等千餘人、破巴西國、入寇新會縣西草灣、指揮柯榮、百戶王應恩截海禦之、生擒別都盧、疎世利等四十二人、斬首三十五級、餘賊復來接戰、應恩死之、海道副使汪鉉遂得其銃以獻、名佛郎機銃トアリ、新會縣西草灣ノ海戰ハ、佛郎機ガ番物ヲ齋シテ抽分貿易ヲ請ヒ、拒絕サレシ後チ、直チニ起リシ様ニ書イテアル。明史藝、明史ナドハ皆嘉靖二年トシテ居ル。名山藏ノ記事ニアル巴西ハ、蘇門答臘島東北岸ノぼせ王國デアラウ。サウスルト、此國ハ一五二一年即チ正德十六年ニ葡萄牙ニ征服セラレテ居ル。前ニ引用シタ王希文ノ上奏ニ、海道副使汪鉉ガ佛郎機ヲ驅逐シタルコトヲ述べ、皇上ノ臨御ニ及ンデ、俘獲ノ敵酋ハ悉ク極典ヲ正シタト言ツテアル。敵酋ヲ俘獲シタト云フコトハ、矢張りめるろ・くーていによノ艦隊ヲ、たまん島近海ニ攻撃シタ時ノ事ヲ指スモノ、様デアル。サウスルト此時ノ戰功者柯榮、王應恩モ汪鉉ノ節制ノ下ニ立ツタモノデハアルマイカ。明史佛郎機傳ニ、武宗崩御ク年ノ七月、佛郎機ガ朝使ヲ接濟スルヲ名トシテ、土物ヲ携ヘテ互市ヲ求メシ時ニ、廣東守臣ガ故事ノ如ク抽分ノ上之ヲ許サンコトヲ奏請シタガ、拒絕ノ詔ガ發セラレシコトが見エテ居ル。朝使ハどめ・ぴれすヲ指スルモノデアラウカラ、之ヲ接濟スルヲ名トシテ、土物ヲ携ヘテ互市ヲ求メタト云フ佛郎機ハ、めるろ・くーていによヲ指スモノデハアルマイカ、何レニシテモ、葡萄牙人ノ驅逐ハ、廣東ノ守臣ノ命令ニ依ツテ行ハレタルモノデハナク、北京政府ノ命令ニ依テ行ハレタモノデアアルコトハ明カデアル。



## 我邦外國貿易ノ將來ト支那

木村 増太郎

### 一 我邦貿易ノ趨勢

我邦ノ對外貿易ハ、諸外國トノ通商開始以來、固ヨリ急速ノ發展ヲ遂ゲ、已ニ大正二年ニ於テ、明治元年ニ比シ約五十倍ノ激増ヲ告ゲタガ、是レ一面ニ於テ久シク阻止セラレテ居タ海外交通ガ、遽ニ自由トナツタ結果ニ外ナラヌノデ、元來我邦ハ其領域内ニ開發スベキ資源ヲ藏スルコトガ乏シク、加フルニ未ダ徹底のニ産業革命ヲ完成セシムルコトガ出來ズ、從テ大正二年ノ貿易額十一億八千萬圓ヲ以テシテハ、歐米列強ノ貿易額ニ及バザルコト未ダ頗ル遠キ情態デアツタガ、彼ノ歐州戰爭勃發以來ハ實ニ躍進的發展ヲ遂ゲ、遂ニ昨大正九年ニハ一躍四十二億八千萬圓ノ巨額ニ達及スルニ至リ、過去七年間ニ三倍半、五十二年間ニ實ニ百六十三倍ノ激増ヲ告ゲタ、其結果而カモ一舉三十億有餘ノ國富ヲ殖シ、國民ガ多年切望セシ所謂富國強兵ノ實ヲ全ウシ、今ヤ名實共



ニ五大列強ノ一ニ伍スルヲ得ルニ至ツタトノ自負心ガ、不知不識一般國民ノ胸裡ニ印セララル、ニ至ツタ。併シ飜テ如上ノ近年ノ貿易發展ノ經路ヲ顧ルニ、戰爭ニ伴フ一時的偶然ノ結果タリシヲ免レナイト共ニ、而カモ其間我邦ノ一般物價モ亦タ三倍以上ノ暴騰ヲ告ゲ、各種貿易品ノ價格モ夫々異常ノ上騰ヲ示シタノデアルカラ、單ニ叙上ノ如キ貿易價格ノ増進ノミヲ以テシテハ、未ダ必ズシモ誇ルニ足ラナイノミナラズ、斯ノ如クニシテ目醒シキ發展ノ形式ヲ示シタ我貿易ハ、本年ニ入ルト共ニ急轉直下ノ悲境ニ陥リ、延テ戰爭ノ唯一ノ賜デアツタ我經濟界ノ殷賑モ、今ヤ僅花一朝ノ夢ト化セントスル傾向スラ示スニ至ツタ、勿論現下ノ貿易不振ハ、各國共通ノ現象タルヲ失ハナイガ、元來我邦ノ貿易額ガ、四十億ヲ突破シタトハ言ヘ、英米ノ貿易額二百數十億圓ニ迫ルベクモアラヌノミカ、戰後甚シク疫弊セル佛國ノ百五十億圓、伊國ノ八十六億圓ニスラ距ルコト遠キ情態デアルト共ニ、本年上半季ノ成績ニ於テモ、獨リ我邦ノ減少率ノ著シキヲ見ルノデアル。即チ輸出貿易ニ就テ觀テモ、英ノ四割二分、米ノ四割ニ對シ、我邦ハ四割九分ノ高率ヲ示シテ居ル。

此ノ如ク我邦貿易界ノ現狀ハ、何等吾人ノ意ヲ強ウスルニ足ルモノガナイガ、殊ニ其前途ニ至テハ大ニ吾人ヲシテ危惧ノ念ヲ懷カシムルモノガ存在スルノデアル、蓋シ我邦ノ貿易ハ、今尙輸出ニ於テ四割、輸入ニ於テ五割ハ、歐米ヲ相手トスルモノデ、當然我邦ノ經濟圈内ニ包擁スベキ、

關係ノ極メテ密邇ナル亞細亞市場ニ對シテハ、未ダ貿易上ノ實權ヲ把握スルニ至ラザルハ勿論、比較的貿易關係薄弱ナルノ感アルヲ免レナイノデアル、而ルニ我邦ノ貿易上ノ發展ヲ歐米ノ經濟界ニ向テ委スルコトハ、戰後ノ歐米經濟界ノ趨向ニ照シテ、最モ至難トスルノデアル、加之亞細亞ノ市場ニ對シテスラモ、今後漫然從來同様ノ活躍ヲ所期スルコトハ、恐ラク難事タルヲ免レナイデアラウ、即チ我邦對外貿易ノ前途ニハ幾多ノ障礙ガ横ハレルモノナルヲ記セネバナラス。

## 二 輸出貿易ノ前途

歐洲戰ノ終熄ヲ告ゲタ當時ニ於テ、吾人ハ我邦海外貿易ノ前途ニ對シ尠ナカラズ危惧ノ念ヲ懷キ、下ノ如キ豫想ヲ下シタノデアル、即チ戰後ノ國際經濟界ノ大勢ハ、遽ニ逆睹スルヲ得ナイガ、四年ト三箇月ニ亘ツタ曠古ノ歐洲大戰ニ依テ、各國ノ被ツタ大創痕ヲ可及的迅速ニ醫センガ爲メニ、各國ハ何レモ戰時ニ劣ラナイ必死ノ劃策ト努力トヲ試ムベキノ一點ニ至ツテハ、殆ド疑ヲ容レナイ、而シテ其結果恐ラク何レノ國ニ於テモ、一面關稅政策ニ依テ可及的外國品ノ輸入抵制ヲ策スルト共ニ、他面極力自國內ノ產業ヲ保護獎勵シテ、以テ銳意製品ノ輸出ヲ國際市場ニ試ムルニ相違ナカラウ、蓋シ斯ル積極ノ方法、即チ對外的ノ活躍ニ俟タナイ以上ハ、到底這次ノ如キ大ナル不生產の消費破壞ヲ行ツタ戰後ノ各國ニ於ケル經濟狀態ヲ回復スルコトガ容易デナイ、果

シテ然ランニハ、サナキダニ將來其發展ニ多大ノ囑望ヲ期待シ難イ我邦ノ對歐米貿易ハ、今後益々之ガ増進ヲ難事トスルニ至ルベキト共ニ、戰時中ニ發展シタ我邦ノ産業狀態ヲ維持シテ行クガ爲メニハ、多大ノ努力ヲ要スルコトヲ覺悟セネバナラヌト。

果セル哉、戰後各國ノ經濟政策ハ、何レモ關稅制度ニ重キヲ措クニ至リ、已ニ夫々關稅ノ引上ゲヲ敢行シ、殊ニ我邦ノ貿易上關係ノ最モ深甚ナル米國ノ如キハ、今ヤ關稅ノ大增徴ヲ企劃スルコト、ナリ、多年自由貿易主義ヲ標榜シテ其大ヲ誇ツテ來タ英國ニ於テスラ、近年漸次保護ノ色彩ヲ加ヘントスルノ傾向ヲ示スニ至ツタ、斯ル情勢ニ照シ顧タナラバ、他方歐洲各國ノ戰後ノ疲弊豫想外ニ甚シキト相俟テ、依然我輸出貿易ノ四割ヲモ歐米ノ市場ニ委スルコトハ、今後恐ラク非常ノ難事タルヲ免レナイデアラウ。

尙加フルニ我貿易ノ前途ニ横ハレル一大難關ハ、彼ノ英國ト其殖民地間ノ特惠關稅問題デアル、元來本問題タルヤ、其由來スル所久シク、多年英國自治殖民地ノ齊シク要望セル所デアツテ、一八八五年加奈陀ノ之ヲ提議セシヲ濫觴トシテ、爾來屢次殖民地會議ノ議ニモ上リ、既ニ今日迄ニ於テ一方の特惠關稅ヲ設定セルモノモ少ナカラズ現ハル、ニ至リ、現ニ加奈陀ノ如キハ英本國ヨリノ輸入品ニ對シ特ニ二割五分ノ稅額ノ割引ヲ實行シツ、アル狀態デ、頃來我邦ト緊密ナル貿易關係ヲ有スル印度ニ於テスラ、本問題ノ實現ヲ視ントスル氣運ヲ示スニ至ツタノデアアル、抑モ本問



題ガ近年ニ至ツテ旺ニ論議セラル、ニ至ツタノハ、蓋シ歐洲大戰ガ一朝勃發スルヤ、英國殖民地ハ舉ツテ母國ノ危急ヲ救フ可ク蹶起シ、正シク英帝國ノ國防ヲ分擔スルコト、ナツタガ爲メ、イツ迄モ殖民地ノ要望ヲ無視スルコトガ出來ナクナリ、寧ロ此機會ニ於テ殖民地ニ對スル關係ヲ根本的ニ改造シテ、經濟上將タ政治上大英帝國ノ實アラシムルヲ得策トストノ聲ガ、勃然トシテ英國内ニ起ルニ至ツタガ爲メニ外ナラナイ、今後果シテ本件ガ凡テノ領域ニ對シテ實現セラル、ヤ否ヤハ、未ダ遽ニ逆賄シ難イガ、英國ガ今日迄ニ投ジタル莫大ナル戰時戰後ノ國帑ヲ償ヒ、更ニ今後ノ國力發展ヲ圖ランガ爲メニハ、其廣大ナル殖民地ノ富ヲ利用セナクテハ、克ク其目的ヲ達スルコトガ出來ナイカラ、或ハ急速ニ本問題ノ實現ヲ促進セシムルニ至ラナイトモ限ラナイ。

若シ他ノ殖民地同様一方の片務的ナリトモ、印度ノ如キニ迄特惠關稅制度ガ實施セラル、ニ至ツタナラバ、我海外貿易ハ更ニ多大ノ脅威ヲ受クル次第デ、一億九千萬圓ニ上レル我對印輸出貿易ノ如キハ、其輸出品ガ主シテ英本國品ト競争ノ地位ニ在ル關係上、著大ノ打撃ヲ受クルニ相違ナイ、若シ我邦ガ一朝印度市場ヲ失フガ如キコトアランカ、我對亞細亞輸出貿易ハ、僅ニ八億ヲ殘スニ過ギナイ。

### 三 輸入貿易ノ前途



我輸出貿易ノ前途ニ多大ノ障礙ノ存スルハ以上叙ブル如クデアルガ、輸入貿易上ニ於テモ亦タ多少同様ノ感ナキヲ得ナイ、蓋シ歐米各國ガ、保護政策ニ依テ極力國勢ノ回復ニ銳意スル以上、本國內ノ資源ハ勿論、可及的其全領域内ノ經濟資源ヲモ開發シテ、以テ自國產業ノ發展ニ資センコトヲカムベキハ、疑ナキ所デアル、戰時中各國ガ可及的其經濟ヲ自給的タラシメンコトニ必營シタ情力ヨリシテモ、成ル可ク國內ノ資源ノ利用ヲ劃策スルニ至ル可キハ、自然ノ勢デアル、尙米國ハ歐洲ノ大戰ニ依テ一躍國際經濟社會ヲモ左右セントスル地位ニ達及シ、戰前ニハ歐洲ニ對シ約百二十億圓ノ債務ヲ有シタニ拘ラズ、戰時利得ニ依テ如上ノ債務ヲ全濟シタノミナラズ、今ヤ却テ歐洲ニ對シ約二百四十億圓ノ債權ヲ有スルニ至ツタガ、今後歐洲各國ハ以上ノ債務償却ニ充當センガ爲メ、可及的對米輸出ヲ促進セシム可ク努力セナクテハナラヌガ、併シ疲弊セル歐洲ノ經濟力ヲ以テシテハ、容易ニ米國ノ需ムル商品ヲ多額ニ供給スルコトハ困難ナルヲ免レナイ、於是乎或ハ歐洲諸國ハ之ニ代ユルニ其殖民地ノ天產原料品ヲ以テ補充ス可クカムルニ至ルヤモ計リ難イ、又米國ノ立場ヨリスルモ、戰時中ニ發展セシ各種產業ヲ維持センガ爲メニハ、歐洲ノ衰退セシ經濟力ノ培養ニ盡シ、彼レガ經濟界ノ恢復ヲ助成セシムルコトガ刻下ノ要務デアル、而シテ之ガ爲メニハ歐洲ノ必要トセル工業原料ノ如キハ、可及的之ガ供給ニ盡サネバナラヌ、現ニ今春米國ニ開催セラレタル貿易會議ノ如キハ、特ニ其緊要ナル所以ヲ力說シテ居ル、斯ク諸般ノ方

面ヨリ觀シ來ランニハ、我邦ノ所要原料品ノ如キモ、從來ノ如ク自由ニ歐米ノ供給ニ委ネ得ルヤニ就テハ、多少ノ疑ナキヲ得ナイ、サナクトモ我邦重要工業原料ノ供給ヲイツ迄モ歐米ニ依頼セラルハ、決シテ策ノ得タモノデハナイ。

凡ソ我邦ノ輸入貿易ハ、大正八年ノ實蹟ニ徴スルニ、原料品ガ十億九千三百萬圓ヲ占メ、全輸入額ノ五割三厘ニ該當シ、半製品ガ四億五千百萬圓デ二割八厘、食糧品ガ三億五千百萬圓デ一割六分一厘、全製品ガ二億六千百萬圓デ一割二分ニ當リ、略文明國共通ノ情勢ヲ示シテ居ルガ(英國原料品三割九分六厘、食糧品四割三分七厘、全製造品一割六分三厘、米國ハ原料品四割四厘、食糧品二割六分九厘、半製品一割九分五厘、全製品一割二分七厘)、併シ輸入品ノ内容ヲ查究センカ、英米等ト異ナリ、工業ノ基礎タルモノ若クハ國民生活上ノ必要品ヲ何レモ海外ノ供給ニ俟チツ、

アルノ狀態デアル、即チ大正八九年ノ貿易統計ニ據ランカ、輸入工業原料中首位ヲ占ムルハ、纖維原料ノ七億八千萬圓乃至八億九千萬圓デ、鐵其他ノ金屬ノ三億二三千萬圓、化學工業原料ノ一億二千萬圓乃至一億四千萬圓、油脂類ノ五六千萬圓及皮革類ノ四千萬圓内外ガ之ニ亞ク現情デアル。

元來纖維工業ハ、我國ノ代表的工業ト稱セラル、ニ拘ラズ、其原料ハ生糸以外凡テ海外ノ供給ニ俟タザルヲ得ナイ有様デ、就中國民生活上ノ必須品タル棉花ノ如キ、殆ド内地ニ於テ生産ノ望ミナク、唯纔ニ朝鮮ノ慶尙、全羅、江原及京畿ノ諸道ニ於テノミ產出セラル、モ、政府ノ熱心ナル保護獎勵ニ依テ漸ク一億斤ニ充タヌ產額ニ上レルノミデ、到底自給ノ見込ナク、大正九年ノ如

キ八億萬斤、七億二千萬斤ノ巨額ヲ、印度米國埃及及支那ヨリ輸入シテ居ルノデアル、其他棉花ニ亞キ需要ノ激増セル羊毛ノ如キモ、我邦ニテハ畜產業ノ發達殆ド望ミ難ク、今ヤ五千五百萬斤、一億二千萬圓(大正九年)ノ輸入ヲ濠洲及南阿ニ仰イテ居ル、凡ソ諸工業ノ基礎タル可キモノハ、言ハズモ鐵及石炭デアルガ、鐵ノ如キハ近年製鐵業發達ノ結果、漸次其生産額ノ増進ヲ示シツ、アルモ、而カモ原料鐵礦ニ至ツテハ、我國ノ産額殆ド言フニ足ラズ、其埋藏量スラ約七千萬噸ト稱セラレ、我邦所要ノ鐵材ニ對シ十數年ヲ支フルニ足ルニ過ギナイ、從テ鐵礦トシテ支那ヨリ、鐵材トシテ戰前ニテハ主トシテ英國ヨリ、戰爭以來ハ米英及支那等ヨリ、二億八千萬圓内外ノ供給ヲ受ケテ居ル、石炭ニ至テハ幸ニシテ當面自給シ得テ尙多少ノ輸出ヲ爲シツ、アルモ、我邦ノ炭量ハ、未知數タル樺太ヲ除キ現領域内ノ推定量ハ、或ハ七十億噸ト云ヒ、或ハ四十億噸ト稱セラルガ、何レニセヨ採掘可能量ヲ以テシテハ、數十年ヲ支持シ得ルニ過ギナイコトハ、疑ナキ事實デアル、然ラザルモ元來我國ニハ粘結性ニ富ム石炭ノ産出ニ乏シキ爲メ、製鐵業ナドノ發達ニ伴ヒ、益々此種石炭ノ供給ヲ海外ニ仰ガネバナラス、現ニ其爲メニ今日ニ於テモ、支那及佛領印度ヨリ八十萬噸内外、一千數百萬圓ノ石炭ノ輸入ヲ餘義ナクサレテ居ル、今後或ハ鐵石炭ニ代リ石油及護謨ノ時代出現ス可シトノ說ヲ爲ス者ガアルガ、若シ斯ル時期ノ實現セラル、ニ於テモ、我邦ニハ此種資源ニハ缺グル所ガアルカラ、依然海外ノ供給ニ俟タネバナラス。



斯ノ如ク我邦ガ重要原料ノ多クヲ國外ノ供給ニ俟タザルヲ得ナイコトハ、實ニ我邦經濟上ノ一大缺陷タルヲ免レナイ、併シ經濟資源ニ乏シキ我邦トシテハ、化學工業ノ極端ナル發展ヲ見ナイ以上ハ、殆ド永久ニ亘ル缺陷デアツテ、已ムヲ得ザル所デアルガ、而カモ其化學工業ナルモノモ進步極メテ遅々タル情況デ、且ツ所要原料ハ其基本タルモノスラ、上述ノ如ク凡テ輸入ニ俟タザルヲ得ナイ有様デアル、從テ我邦トシテハ國民ノ生存權ヲ盾トシテ迄モ、天然資源ノ開放、共通利用ヲ各國ニ迫ラネバナラヌガ、併シ叙上ノ如キ主要原料ノ多クヲ、主トシテ歐米若クハ歐米ノ殖民地ノ供給ニ委シツ、アルハ、是レ畢竟我邦工業ノ基本、換言セハ國民生活ノ基礎ヲ歐米ニ掌握セラル、モノデ、國家ノ安定ヲ保ツ所以デハナイ、爰ヲ以テ我邦トシテハ、寧ロ支那ヲ中心トスル東亞ノ豐富ナル富源ノ開發利用ニ依テ、原料供給ノ途ヲ圖ル可ク劃策スルコトガ急務デアル、殊ニ上ニモ叙ヘシ如ク原料ノ輸入ガ從來ノ如ク自由ナラザルニ至ル虞アルニ於テハ、一層我邦タルモノハ東亞ノ經濟圏内ニ於テ自給策ヲ講ズ可クカムル所ガナクテハナラヌ。

#### 四 日支貿易ノ將來

上來叙フル如ク、今ヤ各國ガ戰後ノ財政ヲ維持スル必要上、若クハ物價平準ノ高キ爲メ入超トナリ正貨ノ流出スルヲ防ガンガ爲メ、將タ戰時中ニ勃興シタ有要ノ新事業ヲ保護スルノ手段トシテ、



何レモ關稅ノ増徴ヲ企劃スルニ至ツタニ就テハ、我邦タルモノ今後一層支那ヲ中心トセル亞細亞市場ニ向テ、更ニ商品ノ銷路ヲ進ムベク大ニ努力スル所ガナクテハナラヌ、而シテ又原料ノ輸入ニ於テモ、動モスレバ各國ガ各其資源ヲ獨占セントスルノ虞アルト共ニ、英國ノ如キスラ其世界的大領土ヲ從來ノ如ク開放シテ諸外國ニ之ヲ利用セシムルコトヲ制限セントスル氣運ガ現ハレ、此迄ニ於テモ屢次印度ノ棉花ヤ濠洲ノ羊毛ニ輸出稅ヲ課ス可シトノ議ガ起ツタコトデアルカラ、今後我邦トシテハ豊富ナル支那ノ天然資源ノ開發利用ニ一段ノ積極的劃策ヲ施スコトガ必要デアル、勿論各國ガ全然經濟上ノ鎖國主義ヲ採ルト云フガ如キコトハ、經濟ノ進歩ニ逆行スルモノデアツテ、徹底的ニ實行シ得ルモノデモナク、結局ハ却テ自國ノ不利トモナルモノデアルガ、元來サナクトモ日支兩國ハ、其立國ノ基本ヲ同一ニシ、全ク共存ノ關係ニ立脚シテ居ルモノデ、殊ニ叙上ノ歐米經濟界ノ趨向ニ照シテ、此際一層日支兩國ノ經濟關係ヲ接近セシムルコトノ緊要ナルコトヲ感ズルノデアロ。

抑モ支那ノ對外貿易ハ、阿片戰爭ノ結果從來ノ鎖國主義ヲ放擲シテ門戶開放ノ餘義ナキニ至ツタ一八四二年ノ英支南京條約ニ其端ヲ發シ、一八五四年外人ノ海關管理制採用ノ確定ニ依テ、愈通商交通ノ基礎確立シ、爾來駸々トシテ増進ノ一途ヲ辿ツテ居ルノデアル、試ミニ貿易統計發表以來ノ過去五十七年間ノ趨勢ヲ一瞥スルニ左ノ如キ數字ヲ示シテ居ル。(單位海關兩)

年次

輸入

輸出

合計

|      |             |             |               |
|------|-------------|-------------|---------------|
| 一八六四 | 五一、二三九、五七八  | 五四、〇〇六、五〇九  | 一〇五、三〇〇、〇八七   |
| 一八八〇 | 七八、二九三、四五二  | 七七、八八三、五八七  | 一五七、一七七、〇三九   |
| 一八九〇 | 一二七、〇九三、四八一 | 八七、一四三、四八〇  | 二一四、三三七、九六一   |
| 一九〇〇 | 二二一、〇七〇、四二二 | 一五八、九九六、七五二 | 三七〇、〇六七、一七四   |
| 一九〇五 | 四四七、一〇一、七九一 | 二二七、八八七、一九七 | 六七四、九八八、九八八   |
| 一九一一 | 四七一、五〇三、九四三 | 三七〇、三三八、一六六 | 八四八、八四二、一〇九   |
| 一九一三 | 五七〇、一六二、五五七 | 四〇三、三〇五、五四六 | 九七三、四六八、一〇三   |
| 一九一七 | 五四七、五一八、七七四 | 四二六、九三一、六三〇 | 一、〇一二、四五〇、四〇四 |
| 一九二〇 | 七六二、二五〇、二二〇 | 五四一、六三一、三〇〇 | 一、三〇三、八八一、五三〇 |

右表ニ據テ觀ルニ、支那ノ對外貿易ハ年次少ナカラヌ増進ヲ示シ、殊ニ近年ニ於テ著シク長足ノ進歩ヲ告ゲテ居ル、勿論斯ル増進ハ何等異トスルニ足ラザルノミカ、我邦其他各國ノ例ニ照サシカ、寧ロ牛歩ノ遅々タルニ等シトモ言フ可キデアルガ、併シ半面ニ於テ支那ノ經濟組織ヲ始メ種々ノ社會制度ガ、著シク貿易ノ發展ヲ阻却セルモノガアルニ加ヘ、國內ニ於テハ不斷ノ紛爭ヲ繰返シ、常ニ國民ノ平和的事業ヲ脅カシテ居ルト共ニ、銀相場ノ甚シキ騰落ハ絶エズ爲替關係ニ激變ヲ惹起シ、輸出入ヲ阻碍シツ、アルニ顧ミタナラバ、如上ノ支那貿易ノ發展ハ、或ハ異數ト言フニ足ルカモ知レナイ、遮莫少クモ如上ノ貿易ノ發達ヲ阻害セル諸事由ヲ全然除却シ得タナラバ、支那ノ貿易ハ必ラズヤ更ニ目醒シキ一大發展ヲ遂グ可キハ、疑ナキ所デアル。

併シ斯ル支那貿易界ノ現情ニ於テモ尙、輸入額ノ如キ上表示ス如ク今ヤ七億六千萬兩ニ達シ、同年ノ平均率(一海關兩ハ邦貨二圓三十八錢)ヲ以テ換算センカ、邦貨ノ十八億一千萬圓ニ該當スル、斯ル巨額ノ購買力ヲ有スル支那市場ニ於テ、我邦ノ貿易ハ漸ク戰時以來首位ヲ占ムルニ至ツタトハ言ヘ、尙二億二千九百萬兩餘ニシテ、纔ニ三割強ニ當ルニ過ギナイ、英國ノ貿易ハ其本國ノミニ於テハ、一割七分餘ヲ占ムルニ止マルモ、屬領ノ貿易額ヲモ、加算センカ、依然四割六分以上ノ優位ヲ保持セルヲ見ル、米國ノ如キモ今ヤ二割弱ノ地位ニ達シタノミナラズ、其進歩ノ程度ニ至ツテハ、眞ニ驚ク可キモノガアル、世界ヲ震撼セル歐洲大戰ノ終熄シテヨリ僅ニ二箇年有餘ニシテ、已ニ斯ノ如シトセバ、其前途タルヤ寔ニ寒心ニ堪エナイ、我邦が近隣ニ斯ル支那ノ大販路ヲ中心トシテ北ニ西比利亞、南ニ佛領印度邏羅並ニ英領馬來、更ニ海ヲ距テ、蘭領東印度等ノ接續セル此龐大ナル大市場ヲ控エナガラ、今日ニ於テ尙之ヲ歐米ノ活躍ニ委シツ、アルハ、洵ニ遺憾タラザルヲ得ナイ。

殊ニ原料品並ニ食糧品ノ輸入ニ至テハ、支那ハ我邦ノ所要スル殆ド凡テノ資源ヲ秘藏セルヲ以テ、之ガ利用ヲ圖ルハ、我貿易ノ根源ヲ培養スル基デアツテ、最モ要務トスル所デアル、現ニ支那ノ輸出額十二億八千九百萬圓ハ殆ド大半食糧品並ニ原料品デアルガ、我邦ノ輸入利用セルハ、僅ニ三割餘ニ過ギナイデ、殘餘ハ多ク米英佛其他ノ利用ニ係ル有様デアル。



勿論支那ノ農産額ハ現下ノ極メテ粗笨ナル農法ノ下ニ於テスラ、年額少クモ六十億ヲ下ラズト稱セラレ、其生産力ニ至テハ殆ド無限トモ言フベキデ、棉花ノ如キモ十億斤内外ト呼ハレ、羊毛ノ如キニシテモ四川甘肅山西直隸地方ヨリ蒙古一帯ニ亘リ生産セラル、所、一億斤ヲ下ラズト稱セラル、ガ、品質上概シテ上等品ノ原料タルニ適シナイト云フ缺點ハアルガ、併シ之ガ改良ハ技術ノ上ニ於テハ左迄難事ハデナイ、唯ダ之ガ實施上國民ノ智識進マズ、政府ノ力足ラザルヲ憾ミトスルノミデアアル、殊ニ支那ノ地下ニ藏スル資源ニ至テハ、頗ル豊富デアツテ、鐵ノ如キ現ニ嫁行セラル、大冶、桃冲山、本溪湖、鞍山站及金嶺鎮等ノ如キハ言フ迄モナク、彼ノ河南山西ニ亘ル大鐵鑛ノ如キ、世界有數ノモノタルハ疑ナキ所デアアル、石炭ノ如キモ上記山西河南ノ鐵鑛ニ沿フ大炭脉ノ如キハ、曾テ獨人技師リひとほーへん氏實地ヲ踏査シ、全世界ノ需要ヲ充シテ百年ヲ支持スルニ足ルノ炭量ヲ藏スト稱シタ位デ、英人どれー氏ノ如キモ支那ノ推定炭量ヲ九千九百六十六億噸ト計上シテ居ル程デアツテ、其豊富ナルノ一事ニ至テハ全ク疑ヲ容レナイ、我邦ノ現ニ輸入セル食料品中米砂糖等ヲ除イテハ、大半支那ヨリノ供給デアアルガ、領域ノ狹小ニシテ人口増殖力ノ大ナル我邦トシテハ、今後益々支那ノ無限ノ供給力ニ俟タネバナラヌデ、此點ニ於テハ後ニモ叙フル如ク日支兩國民ノ生活ノ基調ヲ共通のナラシメテ、一層支那ノ物資ノ増殖利用ヲ策セネバナラヌ、米砂糖ノ如キ今日支那ハ其供給ヲ以テ需要ヲ充タスニ足ラナイガ、之ヲ轉ジテ輸



出國タラシムルコトハ強チ不可能デハナイ、殊ニ米ノ如キハ現ニ二億萬石内外ノ推定產額ヲ有スルガ、一朝彼ノ防穀令ヲ徹廢センカ、其生產額ガ驚ク可キ増進ヲ示ス可キハ、他ヲ農產物ノ實例ニ徴シ、且ツ適作地ノ廣大ナルニ照シ、疑ナキ所デアル。從テ我邦ガ支那ノ物資ノ利用ヲ圖ルハ、支那ヲ富マシムル所以デアツテ、我製品ノ銷路ヲ進展セシムル捷徑タルヲ失ハナイ、我邦ノ生産ニ對シテ支那ヲ最要ノ得意タラシムルト同時ニ、支那ノ生産ニ對シテハ我邦自身ガ最大ノ顧客タル可ク努力スルコトニ由テ、初メテ我邦ハ東亞經濟ノ支配タル地位ニ發展シ得ルノデアル。

元來日支貿易ノ特色ハ、天產品其他加工程度ノ小ナル物資ヲ彼ヨリ輸入シテ、加工程度ノ大ナル貨物就中高級生産品ヲ我ヨリ輸出スルニ在ル、可及的經濟ヲ商工化セシムルヲ要スル我邦ニトツテハ、本貿易ハ特ニ重大ナル意義ヲ有スルノデアルガ、殊ニ歐洲戰後ノ叙上ノ世界ノ趨勢ニ照シテ、今ヤ更ニ一層重要ノ度ヲ加フル次第デ、我經濟ノ進歩ハ一日支貿易ノ發展如何ニ係ハレリト言フモ敢テ必ズシモ過言デナイ、併シ本貿易ノ前途ニモ幾多ノ障礙ガ横ハツテ居ルノデ、就中解決ヲ要ス可キ案件ハ、支那ノ排日思想ト産業革命トデアル。

## 五 支那ノ排日思想

凡ソ支那ノ排日思想ナルモノハ、從來屢次時ニ隨ツテ具体化セラレタガ、其根底ニハ矢張一貫

シタ源泉ガ流レテ居ルノデ、其根源タルヤ古クヨリ自國ガ獨リ文明ノ中心デアツテ、他國ハ所謂  
東夷、南蠻、西戎、北狄デアルト自負セシ一種ノ排他的思想ニ萌芽由來セルニ外ナラヌ、勿論支  
那ノ悠々四千載ノ長イ經歷ヲ有チ來ツテ居ル炳乎タルソノ文化ニ至ツテハ、世界ニ誇ルニ足ルモ  
ノガアル、凡ソ同一民族デアツテ、四千載ノ久シイ歴史ト文化トヲ持續シタ民族ハ、殆ンド世界  
ヲ通ジテ類例ヲ見ナイ、持久力アル文明ハ、支那ノ誇ル可キ長所デアツテ、確ニ支那民族ノ他國  
民ニ矜持スルニ足ル所デアアル、而ルニ我國運ガ晩近旭日ノ勢ヲ以テ發展シ、一躍世界ノ強國ニ列  
シタノミナラズ、殊ニ近年支那ニ於ケル我邦ノ地位ハ益々優越トナリ、世界ノ列強モ之ヲ認定セ  
ザルヲ得ナイコトニ成ツタニ對シ、他面支那ガ之ニ反シテ漸々崩落衰退ノ兆候ヲ呈シ來ツタト相  
俟ツテ、爰ニ支那ノ上下ニ一種ノ已ミ難キ日本ニ對スル反抗心ガ自ツト醸成セラレタノデアアル、  
勿論其間我對支政策ガ宜シキヲ得ズシテ、多少之ヲ助長セシメタ傾ノアルコトハ否ミ難キ所デア  
ル、是ガ抑々支那ガ事毎ニ日本ヲ排斥シ、時ニ臨ンデ熱狂的態度ヲモ示スニ至ル根基デアルガ、  
尙近年ニ至ツテハ、更ニ自國ノ工業保護國產獎勵ヲモ之ニ結付クルニ至ツタ、蓋シ近來支那ニ於  
テハ低級工業ガ漸次勃興シツ、アルガ、外國品ノ競争、就中同ジ低級品ノ輸入ヲ主トスル日本ノ  
競争ニ對抗スルコトハ容易デナク、去リトテ支那ハ列國共同ノ條約ニ由テ稅權ヲ束縛セラレテ居  
ルガ爲メ、後進國ノ工業保護ノ良方法ト認メラル、關稅保護ヲ實行シ得ナイト云フ苦境ニ在ルヨ

リシテ、遂ニ外國品非賣同盟運動ヲ以テ此目的ヲ達成セシムルノ捷徑ナルコトニ想到シ、彼ノ大正四年ノ日支交換事件ヲ機トシ、爾來常ニ日貨抵制ト國貨提唱トヲ連結シテ、旺ニ利用スルニ至ツタノデアル、元來支那ノ日貨排斥運動ナルモノハ、結局支那國民ノ生活ヲ壓迫スルコト、ナリ、支那自身ニ少ナカラヌ苦痛ヲ與ヘルモノデアツテ、國民ノ敵愾心ニ訴ヘ或ル程度マデ實行シ得テモ、到底持久シ得ナイ性質ノモノデアルガ、併シ斯ノ如ク國內工業ノ保護ト云フ經濟上ノ痛切ナル要求ヲ基礎トシ、國產獎勵ノ目的ニ利用スルニ至ツテハ、自ヅト持久的繼續的トナル虞ガアル、斯クテハ今後支那ノ工業熱ガ熾烈トナリ、國產獎勵ノ要求ガ熱烈トナルニ從ヒ、最モ多ク競争關係ニ立ツ我邦ノ貨物ニ對シテ、屢次排斥運動ガ起ルモノト想ハネバナラス。

近年ノ如ク支那人間ニ排日思想ガ彌漫シテハ、ソレガ假令支那ノ有識者ヤ國民ノ全部ニ普及シテ居ナイニセヨ、我邦ノ對支發展上著大ノ障礙タルヲ免レナイガ、殊ニ近年屢次勃發セラル、排貨運動ニ至テハ、漸次持久ノ性質ヲ帶ビ來ツタダケ、我邦ノ對支貿易ニ及ボズ影響ノ極メテ深甚デアルノミナラズ、其結果タルヤ延テ我邦ノ所謂南洋貿易ニマデ多大ノ打撃ヲ與フルノデアル、蓋シ通俗ニ南洋ト稱セラル、比律賓群島、蘭領東印度、馬來半島、暹羅及佛領印度ノ諸地方ハ、現ニ輸入約十億圓内外、輸出約十四五億圓ノ貿易額ヲ有シ、戰時中我邦ガ同地方ニ對シテモ異常ノ發展ヲ遂ゲタトハ言ヘ、尙全貿易額ノ一割餘ヲ占穫セシニ過ギナイ情態デアツテ、上ニモ叙ベ



タ如ク今後我邦ノ對外貿易上、支那ニ亞グ重要ナ地方デアルガ、此經濟圈内ニ於テ如上ノ巨額ノ貿易品ガ、何レノ國人ニ依テ集散セラル、カ、即チ換言セバ輸出品ヲ市場ニ集メ、輸入品ヲ地方ニ分布スル實權ガ、何レノ國人ニ掌握セラレツ、アルヤト云フニ、領土主權ヲ有スル歐米人デナク、固ヨリ土着ノ馬來民族デモナク、概言セバ一ニ全ク支那商人ニ外ナラナイ、即チ彼等支那商ハ南洋一帶ニ於ケル商權ヲ占握セルモノデ、全ク經濟ノ主人公ト言ツテ差支ナイ、在南支那人ノ總數約三百萬ト稱セラル、ガ、彼等ノ商業上根蒂ハ各地方到ル所ニ隈ナク扶殖セラレ居ルト言ツテモ敢テ過言デナイ、從テ一タビ彼等ガ進ンデ衷心ヨリ日本品ヲ排斥スルガ如キコトアランカ、我在留輸入商ハ手ヲ拱ネテ、其成行ヲ傍觀セザルヲ得ナイコトハ、已ニ大正四年及同九年ノ兩回ノ排貨事件ニ於テ痛切ニ經驗シタ所デアル、斯ノ如ク支那ノ排日思想ナルモノハ、我邦ノ支那貿易ノミナラス南洋貿易ニマデ、著大ノ障礙ト成レルモノデアロ。

## 六 支那ノ産業革命

元來支那ハ太古カラ極端ナル重農主義ヲ唯一ノ政策トシテ固執シ來ツタノデアルガ、二十七八年戰役以來外力ノ侵入滔々トシテ底止スル所ヲ知ラナイ有様トナツタ結果、茲ニ光緒二十九年前後ヨリ一面利權回收産業振興ノ聲、支那全土ニ沸然湧起シテ、各所ニ新式工業ノ勃興ヲ見ルニ至



ツタト共ニ、他面政府ニ於テモ其歷史的妄想ヲ根底カラ放擲シテ、積極的ニ國利民福ノ計ヲ立ツルコト、ナツタ、然シ爾來内亂相次デ起リ、政治ノ統一成ラズ、隨テ進ンデ十分ナル政府ノ保護獎勵ヲ見ルヲ得ナカツタト共ニ、其後ノ實蹟ニ徴シテ多クノ支那人ノ企業ハ失敗ニ了ツタ姿デ、唯外人ノ企業ノミガ益々支那ノ各地ニ興隆シタノデアル、而ルニ歐洲戰爭勃發以來ハ、一面其刺戟ヲ受ケ實業的ニ覺醒シ來ツテ只管經濟上ノ實力ヲ涵養セントノ念ヲ懷クニ至ツタト共ニ、他面漸次企業經營ノ修練ヲモ經ルニ至ツタ爲メ、今ヤ支那人ノ事業ハ各所ニ勃興シ、而カモ相當實蹟ヲ示スコト、ナリ、其結果將サニ支那ニ産業革命ノ氣運ガ大ニ熟セントスル傾向ヲ現ハスニ至ツタ。

勿論支那ガ産業革命ヲ遂行センガ爲メニハ、其處ニ幾多ノ困難ガ存在スル、第一ニ支那ガ進ンデ國內産業ノ保護發達ヲ講ゼントシテモ、其對外關係ニ於テ自由ヲ異常ニ拘束セラレテ居ルガ爲メ、他國ノ如クニ隨時適當ナル關稅作用ニ依ル保護政策ヲ採ルコトヲ制限セラレテ居リ、單ニ對内關係ニ於テノミ其自由ヲ有セルニ過ギナイガ、是レ亦タ財政上ノ關係ヨリ容易ニ實行スルコトノ出來ナイ悲境ニ在ルノミナラズ、殊ニ從來ノ如ク政治ノ統一ナク國內ノ秩序紊亂セルニ於テハ、假令支那ノ内亂ガ漫性的ナルダケ、國民ハ比較的之ヲ念トセズ、殊ニ營利ニ敏ナル支那ノ實業家ハ、國內ノ擾亂ヲ餘所ニシテ孜々トシテ業ヲ營ムノ風ガアルトハ言ヘ、斯クテハ幾多ノ支那ノ經濟組織ノ上ニ於ケル缺陷ヲ改善スルコトガ出來ナイノミカ、到底十分ナル産業上ノ發展ヲ期スル

コトノ出來ナイノハ言フ俟タナイ、縱シ又此等産業ノ發展ヲ阻碍セル各般ノ事由ガ除却セラレテモ、支那人自身ニ果シテ其能力アリヤ否ヤガ疑ハシイ、即チ支那人ハ概シテ資金ニ乏シク、技術ノ進歩ガ頗ル幼稚デアルノミナラズ、元來ノ素質ニ於テ産業革命ノ遂行上不適任ナル性格ヲ多ク有シテ居ル、從來支那人企業ノ多ク失敗ニ終ツタ原因ノ根本ハ、主トシテ彼等ノ性格上ノ缺陷ニ在ルト言ツテヨイ、以上ノ諸點ヲ綜合シ推究シタナラバ、支那ノ自力ヲ以テシテハ先進國ガ成シ遂ゲタ如キ産業革命ヲ遂行スルコトハ決シテ容易デハナカラウ。

併シ支那ノ現狀ニ於テ全然工業ノ發達ニ望ミヲ囑スルコトガ出來ナイ譯デハナク、現ニ外人ノ企業ハ年次興隆シツ、アルト共ニ、又支那人ト云ヘドモ、從來日本ガ支那ニ輸出シツ、アルガ如キ低級工業品ノ生産業ヲモ興スニ足ラヌ程ノ無能力者デハ勿論ナイ、一般ニ低級工業品ノ生産ニハ多大ノ資本ヲ固定シテ複雑ナル生産設備ヲ爲スノ必要ナク、主トシテ婦女幼年者ト雖モ容易ニ練達シ得ルガ如キ簡易ノ勞働ニ依頼スルモノデアル、從テ之ヲ經營スルニハ支那ニ於ケルガ如ク至廉ノ勞働ノ豊富ニ存在スルコトガ最モ有利デアル、近年支那ニ工業ノ勃興シタノモ全ク其ガ爲メニ外ナラヌ、吾人ハ多年邦人ノ在支企業ヲ推獎シ、紡績業ノ如キハ恐ラク太糸ノ支那輸出ガ不能トナリ、却テ支那ヨリノ輸入ヲ利益トスルノ日ノ遠カラザルヲ提唱シ來ツタガ、果セル哉歐洲戰前僅ニ百萬鎊ヲ算スルニ過ギナカツタ支那ノ紡績業ハ、其後異常ノ發展ヲ遂ゲ今ヤ企劃中ノモ

ノヲ加ヘ二百六七十萬鎊ノ多キニ達シ、而カモ製品ノ如キモ漸次太糸ヨリ細番手ニ進マントスルノ傾向ヲ示スニ至ツタ、其結果頃來我邦ノ綿糸貿易ハ漸次減退ノ勢ヲ呈スルニ至ツタノデア  
ル、其他綿巾、石鹼、燐寸、浴巾、硝子、メリヤス、麥粉、油脂、紙等ノ如キ何レモ如上ノ趨勢ヲ辿リ來ツテ居ル、從テ今後多大ノ資本ヲ固定スル必要ナク、優秀ナル技術ヲ要セナイ低級生産業ハ益々支那ニ勃興シ、此種ノ事業ナラバ支那人ノ企業ニ於テモ必ラズヤ熾盛ヲ來タスデアラウ、斯ノ如クニシテ或ハ遲々タリトハ言ヘ、漸次支那ノ産業革命ガ不知不識遂行セラル、ヤモ計リ難イ、加之、元來支那ノ産業組織ノ中堅ヲ爲スモノハ、組合制度デアツテ、或ル意味ニ於テ現時支那ノ如ク組合制度ノ發達セル國ハ他ニ類例ヲ見ナイ、而シテ此組合ナルモノガ依然歐洲中古ノギルドト同ジク一種ノ特權ヲ有シテ居ツテ、著シク支那ノ産業ノ發達ヲ阻止シテ居ルノデアルガ、是ハ一面政府ノ組合ニ對スル指導宜シキヲ得ナイト云フ罪ニモ由ルガ、他面組合ノ實權ヲ握レル首腦者ガ、何レモ世界ノ大勢ニ暗キ頑冥固陋ノ徒デアルガ爲メモアル、隨テ將來政府ノ指導宜シキヲ得、且ツ組合員ナルモノガ大ニ覺醒スルニ至ツタナラバ、或ハ却テ此制度ニ依リ組合ナルモノガ中心トナツテ支那ノ産業革命ガ比較的容易ニ助成セラル、ヤモ計リ難イ(本誌第一卷第一號拙稿在支企業論參照)。  
之ヲ要スルニ、支那ノ産業革命ナルモノハ、支那自ラノ力ヲ以テシテハ容易ニ完成セラル、コトガナイニシテモ、近年ノ如ク各國ガ支那ノ産業ニ目注スルニ至ツテハ、或ハ各國人ノ手ニ依テ



助成セラル、コトニナルカモ知レナイト共ニ、何レニシテモ徐ロニ其域ニ進ミツ、アルコトハ、  
蔽フ可ラザル事實デアル、而シテ其結果タルヤ、已ニ我邦ノ對支輸出品ノ太宗タリシ綿糸ガ、漸  
次支那製品ノ爲メニ驅逐セラレントシテ居ルガ、現ニ其他ノ商品ニ於テモ斯ル傾向ノ下ニ在ルモ  
ノガ少ナクナイト共ニ、今後益々我對支輸出品ハ同運命ノ支配ヲ受クルニ至ルデアラウ、加之斯  
ノ如クニシテ支那ガ漸次我製品ヲ必要トセザルニ至ツタナラバ、我邦貿易上ニ受クル打撃ハ、管  
ニ支那貿易ノミニ止マラズ、延テ南洋貿易ハ勿論、更ニ進ンデハ我邦ノ對歐米貿易ニマデモ至大  
ノ影響ヲ及ボスニ至ルデアラウ、盖シ我邦ノ南洋輸出品ハ、支那輸出品ト同種ノモノガ多クヲ占  
メ居ルヲ以テ、支那ノ生産品ガ我商品ヲ抵制スルニ足ルマデニ進歩シタナラバ、南洋一帯ニ於ケ  
ル商權ガ支那人ニ依テ占握セラレ居ル關係上、我邦ノ對南貿易ニ於テ彼トノ拮抗ハ恐ラク容易デ  
ハナクナルダラウ、而シテ又我邦ノ歐米ニ對スル固有ノ輸出品ハ、主トシテ生糸及茶デアルガ、  
此兩品ハ共ニ寧ロ支那ガ本場デアツテ、種々ノ事由カラシテ現在ニ於テコソ甚シク不振凋落ノ態  
デアルガ、一朝斯業ノ革新ヲ見ルニ至ツタナラバ、土地廣ク人口多キ支那ニ於テハ發達ノ可能性  
頗ル大ナルダケ、到底我邦ノ如キハ其敵デハナイ、而シテ今後支那ノ工業ガ益々隆盛ノ域ニ進ン  
ダナラバ、斯ル運命ニ陷ルハ唯ニ生糸及茶ニ止マラナイデアラウ、從テ支那ノ産業革命ハ實ニ我  
邦ノ貿易、延テハ我邦ノ産業ニ死活的影響ヲ及ボスモノデ、我邦タルモノガ今ニ於テ之ガ對策



ヲ講ズルナク、漫然此趨勢ヲ看却シテ居タナラバ、必ラズヤ噬臍ノ悔ヲ貽スニ相違ナカラウ。

## 七 我邦ノ對應策

我邦ノ支那貿易ガ今ヤ益々重要トナツタガ、其前途ニハ支那ノ排日思想並ニ産業革命ナル大障礙ガ横ハリ居レル旨ハ、上來叙ベタ如クデアル、凡ソ之ガ對應策トシテハ吾人ノ見ヲ以テスルニ、曾テ本誌第一卷第一號ニモ述ベタ如ク、第一ニ邦人自ラ支那ニ於テ旺ニ有利ナル事業ヲ興シ、直接支那ノ産業開發ニ當ルノミナラズ、天產原料品ハ勿論半製品ノ如キモ可及的我邦ニテ之ガ利用ヲ圖リ、以テ一面進ンデ我邦ノ力ニ依テ支那ノ産業革命ヲ助成シ、支那ノ産業上ニ拔ク可ラザル實力ヲ扶植スルト共ニ、他面之ニ依テ日支兩國國民相互ノ利害關係ヲ益々錯綜セシメテ、分離ス可ラザルモノト爲シ、尙第二ニハ之ト共ニ我邦ノ一般産業ヲ高級生産ニ進メ、我邦經濟ヲ一層商工業化セシメ、殊ニ固有産業ニ一大革命ヲ加ヘ、何レモ日支共通ノ需要ヲ目的タラシメ、進ンデハ日支兩國國民ノ經濟ヲ全ク共通的ナラシムル可ク努力スルヲ得策ト信ズル。

凡ソ支那ニ低級工業ノ漸次興隆スルハ避ク可ラザル趨勢デアルト共ニ、諸般ノ方面ヨリ觀テ邦人ノ進ンデ支那ニ於テ企業ヲ爲スノ有利ナルハ、曾テ吾人ノ本誌上ニテ詳論セシ所デアルカラ、爰ニ敢テ贅スルヲ避クルガ、苟クモ支那ニ於テ有利ニ起シ得ル工業ガ有レバ、寧ロ盡ク之ヲ日本

人ノ手ニ由リ又ハ日支合辦ニ由テ經營スルヲ得策トスル、從テ上ニ述ベタ生糸及茶ノ如キモ、元來其供給力ニ於テハ到底我邦ハ支那ニ匹敵シ得ベキデナク、支那ノ斯業ハ衰ヘタリトハ言ヘ、今尙生糸ニ於テ家蠶繭一億數千萬斤、野蠶繭約三四千萬斤ノ產額ヲ有シ、茶ニ於テモ少クモ五億斤ノ生産ニ上リ、何レモ我邦ニ數倍セルノミナラズ、普通勞働ヲ多ク要スル所ノ此種ノ産業ニ付テハ益々支那ニ比シテ不利ノ地位ニ陷ル可キハ免レ難イ所デアルガ、殊ニ近來ノ如ク米國人ノ進ンデ支那ノ生糸業ノ改善ニ協力セントスルニ至ツテハ、寧ロ我邦ノ手ニ由テ之ガ改善利用ヲ圖ルヲ利益トスル、即チ或ハ生産過程中ノ高級ニ屬スル製糸製織ノ工業ヲ我邦ニ多ク發展セシメテ、支那繭ノ輸入利用ヲ圖ルガ如キ、何レニセヨ此等ノ主要支那物産ニ對スル貿易上、延テハ凡テノ經濟上ニ於ケル實權ヲ邦人ノ掌裡ニ收メ、兩國原料ノ各特質ニ應ジテ適宜優良ナル製品ヲ生産シ、永ク世界ノ市場ヲ左右スベク策スルコトガ必要デアル、元來生糸ハ勿論茶ノ如キニシテモ我邦ノ歐米ニ對スル重要輸出品デアツテ、製造工業ノ進歩シタ彼地市場ニ對シテハ、更ニ生産功程ヲ進メ精製品ノ輸出ニ努力スル必要ハアルガ、兎ニ角今後ニ於テモ此種商品以外ニ主要ノ輸出品ヲ見出シ難イ、而ルニ支那ニ於ケル斯業ガ、殊ニ歐米人ノ手ニ由テ旺盛トナルニ至テハ、我邦ノ受クル打撃タルヤ寔ニ寒心スベキモノガアル、加之歐洲ノ各國ガ經濟上偉大ナル發展ヲ遂ゲ得タ所以ハ、何レノ國ニ於テモ世界到ル所ヨリ各種ノ物資ヲ輸入シ利用シタカラデアツテ、我邦ノ如キモ

一輩帶水ノ地ニ在ル彼ノ豊富ナル物資ヲ如何ニシテ國民ノ生活ニ利用スベキヤヲ講究スルコトガ最モ必要デアルニ拘ラズ、今日迄餘リ此方面ニ努力ヲ向ケナカツタコトハ、我國民ガ兎角國外ノ事情ニ疎イノミナラズ、徒ラニ眼前ノ事相ニノミ捉ハレ、徹底シタ根本的策畧ヲ樹立スルノ雄圖ニ乏シイカラデアル、今後ハ銳意此方面ニ努力シ、進ンデ支那ノ産業開拓ニ着手スルコトが必要デアル、斯ノ如クニシテ支那ノ外國貿易ハ勿論、内地貿易ニ迄モ邦人ガ關與シ、自ヅト實權ヲ扶殖スルコトニナレバ、爰ニ支那ノ經濟上ニ確固タル根蒂ガ樹立セラレ、且ツ相互ノ國民間ニ離ル可ラザル利害上ノ密接ナル關係ガ結付ケラル、コト、ナルノデアル、斯ル上ハ如何ニ日本ヲ排セント欲シテモ排スル能ハザルコト、ナル、凡ソ支那ノ排日思想ヲ根本的ニ除去スルコトハ容易デナイガ、之ヲ具体化セシメザランガ爲メニハ、相互ノ國民ノ利害關係ヲ錯綜セシムルヨリ外ニ途ガナイ。

而シテ斯ノ如クニシテ我邦ガ支那ノ産業ヲ開拓スルニシテモ、目前ノ收益ニ多ク拘泥セザルガ如キ大資本ノ投資固定ハ、兎角支那並ニ諸外國ノ疑惑ヲ抱クコト、ナルト共ニ、我邦ニハ不適當デアルカラ、寧ロ日用品ノ生産ヲ目的トスル所ノ低級ナル工業又ハ比較的小資本ヲ以テ足ル所ノ商工業ヲ、支那到ル所ニ經營スルヲ得策トスル、而シテ他方我國内ノ工業ハ、益々之ヲ高級生産ニ進化セシメテ、從來多クノ商品ニ於テ見タル如ク、常ニ支那ノ生産品トノ間ニ一定ノ距離ヲ保



タシム可クカムルコトが必要デアル、固ヨリ支那ニ於テ最モ多ク需要セラル、モノハ低級品デア  
ルガ、高級品ノ需要ト云ヘドモ決シテ少ナクナイ、現ニ歐米ヨリ輸入セラル、商品ハ主トシテ此  
種ニ屬スルモノデアルト共ニ、支那ノ文化ノ進ムニ從ヒ益々此種高級品ノ需要ノ増加スベキハ言  
ヲ俟タナイ、殊ニ我邦ノ力ニ賴テ旺ニ支那ノ資源ノ開發セラル、ニ至ツタナラバ、更ニ如上ノ傾  
向ヲ促進セシムルコト、ナルデアラウ、尙南洋一帯ノ地方ハ、動モスレバ粗製品ノ市場デアルカ  
ノ如ク邦人ニ依テ誤認セラレテ居ル嫌アルガ、其實際ニ需要スル所ハ到底支那ノ比デハナイ、近  
年遽ニ我邦ノ民度向上シテ各種ノ高級生産品ヲ需用スルニ至ツタガ、單ニ國內ノ需用ヲ充スノミ  
デハ、未ダ大量生産ヲ爲スニ足ラズ、爲メニ依然外國ノ輸入ヲ仰ギツ、アル商品モ少ナクナイガ、  
今後斯ノ如クニシテ市場ガ擴大サレタナラバ、自然生産ノ可能ガ認めラル、コト、ナル次第デア  
ル、一体我邦ノ工業タルヤ、假令支那ニ競争業ガ起ルコトガナイニシテモ、何時迄モ僅少ナル工  
資ヲ得ルニ過ギナイ、低級品ノ生産ノミニ從事スルヲ以テ満足スルガ如キ情態デハ、是レ決シテ  
我國勢ノ伸張ヲ策スル所以デハナイ。

固ト日支兩國ハ其文化ノ根源ヲ同ジクスルヨリ、今日ニ於テモ日常生活上需用スル必要品ニ於  
テ、東亞特有ノ共通品ニ乏シクナイ、而カモ此種ノ支那傳來ノ生産業ハ、我邦ニテハ今日ニ到ル  
モ來ダ現代化スルコトナク、依然トシテ小規模ナル家内工業組織ニ依テ經營セラレテ居ル、蓋シ



是レ此種ノ生産業ハ概シテ固有ノ産業デアルダケニ、之ヲ工場工業化セシムルニ足ル技術ノ未ダ發達セナイト云フ點ニモ原因シテ居ルガ、一面ニハ其販路ガ國內ノミニ限定セラレ居ルガ爲メニ、事業不振ノ場合ニ臨ンデ忽チ生産ヲ縮少シテ損失ヲ轉嫁セシムルノ途ガナイト云フコトノ爲メデモアル、元來我邦ノ貿易上ニ於ケル一大欠陥ハ、其輸出品ガ國內市場ト共通デナイモノガ少ナクナイコトデアル、是ヲ以テ今後此種ノ生産業ニ對シテハ、日支兩國ノ市場ヲ目的トシテ産業革命ヲ行ヒ、可及的兩國民ノ生活ヲ共通のナラシム可ク劃策努力スルコトガ必要デアル、即チ我邦タルモノハ何時迄モ歐米國ノ模造ノミニ没頭セズ、更ニ進ンデ東亞特有ノ産業ノ開拓ニ任セネバラヌ、斯クテコソ初メテ東亞ノ先覺者トシテ平和保證ノ任務ヲ全ウシ得ルノデ、如上ノ地位ニ到達セバ支那ノ排日思想ノ如キハ自ヅト滅失スルニ至ルデアラウ。(大正一〇、八、三一稿)

# 支那治外法權撤廢反駁論

西 川 喜 一

領事裁判制度ヲ存續スル論據ニ就テハ文明ノ種類異ナル爲メナリトスルモノト、文明ノ程度低キ爲メナリトスルモノトガアル。然レドモ今日ノ國際法上漠然文明ノ種類異ナル事ヲ以テ領事裁判繼續ノ根抵トナスベカラザルハ贅言ヲ要セザル所デアル。蓋中世法ノ屬人主義勢力ヲ有セシ時代ニ於テ諸國ニ行ハレシ如ク、互ニ領事ヲ派遣シテ、自國人ノ裁判ヲ爲サシメタル所謂雙務的制度ヲ根抵トシテ論ズル場合ハ、此說或ハ其當ヲ得ベケンモ、今日支那其他ニ行ハル、如キ、片務的制度ヲ以テシテハ、全ク其論據ヲ失フカラデアル。

茲ニ於テ余輩ハ領事裁判制度存續ノ論據ハ文明ノ低キガ爲ナリトスル後說ヲ採ルモノデアル。即チ領事裁判權存續ノ理由ハ其國ノ法律不備ナルガ爲メニ或ハ裁判官ノ無能、腐敗セルガ爲メニ、外國人ノ身體、生命、財産ヲ保護スルコト能ハザルニ起因スルモノトスルノデアル。故ニ法律整ヒ且裁判ノ公正ヲ維持シ得ベキ國ニ對シテハ、一國ノ主權ヲ拘束シ、其威信ヲ傷クル事多キ、領事裁判權ヲ速カニ撤廢セザル可カラザルハ、論議ヲ俟タズシテ明カデアル。

然ルニ支那ガ領事裁判權撤廢ノ根據タルベキ裁判制度、構成ノ完備、國力ノ充實トヲ計ルコトヲ忘レテ、國際法ト人道ノ大義トニ證據ヲ措キ、此片務的裁判權ノ國辱ヲ除去セント絶叫スルモ、之レガ實現ヲ見ルハ前途尙遼遠ナリト云ハネバナラヌ。

以上ノ見地ヨリシテ余輩ハ各國ガ支那ニ對シテ、今尙領事裁判權ノ撤廢ヲ肯ンゼザルハ、合理的要求ニシテ自衛上洵ニ止ムヲ得ザルモノト認ムルモノデアル。支那ニシテ眞ニ此制度ノ撤廢ヲ希フナラバ、須ラク人種ヲ同ジクシ、文ヲ等フスル日本ガ各國ノ領事裁判權ヲ撤回セシメタル跡ヲ覈ヘ、眼先ヲ遠大ニシテ領事裁判權ノ由ツテ來ル所以ヲ究メ、徒ラニ他力ニ倚賴セズ、自奮ニ出ズルノ外ハナイノデアル。然ルニ頃者我國ノ朝野識者ノ間ニ此特權撤回ノ聲アルヲ耳ニスルガ故ニ以下聊カ此點ニ論及シ其反駁ヲ試ミントス。

本年二月在支十五ノ日本商業會議所ガ上海ニ於テ第一回聯合大會ヲ開キ、對支貿易發展策ニ關スル重要事項ニツキ協議ヲ擬ラシタ。其提案中ニ治外法權撤廢ニ關スル一案アリテ、遂ニ該案ヲ可決スルニ到ツタ。但之ガ宣言ハ適當ノ時期ニ讓ル事トシテ、一先ヅ該決議案ハ之ヲ保留スルコト、ナツタガ、斯クシテ初メテ天下嘲笑ノ的トナルコトヲ免カレタモノデ、余輩竊カニ聯合會ノ爲メニ喜ブ所デアル。蓋シ此提案者ガ足跡未ダ支那内地ニ印セザル所謂机上ノ政客若クハ商人等ノ單ニ主義ト同情トニ依リテ其主張ヲ敢テスルナランニハ、余輩又何ヲカ言ハン。然レドモ其身



親シク支那ニアリテ日夜百般ノ事物ニ觸接シ、所謂支那通ヲ以テ任ズル輩ノ議決タルニ於テ、余輩ノ看過ヲ許サル所ニシテ、其大膽ニシテ無謀ナルト、無識ニシテ無責任ナルトニ甚シク喫驚セシメタノデアル。先年顧維鈞公使ガ巴里ニ於テ多數國ヨリ治外法權撤廢ノ贊同ヲ得タリトテ、政府ノ決心ヲ促セリトノ報ニ接スルヤ、漢口在留英國人ハ憤然トシテ、立所ニ大衆連署ノ上強烈ナル抗議ノ請願書ヲ本國ニ送致スルト同時ニ新聞社其他各團體ニシテ、苟モ社會ニ多少ノ勢力ヲ有スル機關ニ對シテ、猛烈ナル反對運動ヲ試ムルニ到ツタ事ガアル。支那ノ現狀ニ觸接シテ、其真相ヲ知悉スルモノ、斯クアル可キハ當然ノ處置ト云ハネバナラス。

吾人ハ日支兩國ノ同存同興ガ兩國永遠ノ國是タラザルベカラザルヲ信ズルモノデアル。故ニ支那ノ榮譽ヲ喜ビ、支那ノ隆昌ヲ希フノ念ニ於テ固ヨリ支那國人ニ讓ラナイ。然レドモ支那ノ現狀ヲ以テシテ、治外法權ヲ撤去スルノ一事ニ至ツテハ遺憾ナガラ之ニ贊同スル能ハザルモノデアル。惟フニ治外法權存立ノ由來ハ聽テ又治外法權存續ノ理由デナクテハナラス。隨テ支那治外法權撤廢ノ可否ハ支那ノ實力ガヨク、在留外人ノ生命、身體、財産等ヲ完全ニ保護シ得ルヤ否ヤニ依ツテ決定サルベキ問題デアル。然ルニ現狀如何。在留外人ハ其本國ノ法律、本國ノ權力ノ支配下ニ屬スルコトニヨリテ始メテ其安定ヲ保障セラル、ノデアル。

想フニ支那ニ於テハ新編民法、商法、民事訴訟法ハ尙草案ニ屬シ、主タル法律ハ清律其物デア



ル。刑法ニ到リテハ其草案ダニ未ダ成ラザルノミナラズ、行政官タル縣知事ヲシテ、民刑事事件ノ司法事務ヲ處辨セシメ、傳統的弊制依然トシテ改マルナク、今尙復讐主義ノ刑罰ヲ科シテ毫モ怪マズ、賄賂公行、其厚薄ニヨリテ訴訟ノ勝敗ヲ決スルノ現狀ヲ親睹スルニ於テ、治外法權撤去ノ如キハ、余輩外國人ノ自衛上ヨリスルモ將又支那ノ爲メニ計ルモ、寧ロ百害アリテ寸効ナキコトヲ斷言シテ憚ラナイノデアル。

現下ノ支那ニ於テ必要トスルモノハ鐵道ノ開通、釐金ノ撤廢、幣制ノ統一、鑛山ノ開掘、法典ノ編纂等數ヘ來レバ盡クル所ヲ知ラナイノデアル。然レドモ眞ニ支那ノ要求スルモノヲ探究スレバ公正、清廉、勤直ノ裁判官ヲ得ル事ニアリト斷言シテ憚ラナイノデアル。第一革命戰以來十年、全國ノ擾亂ハ盡ク之レ私利ヲ營マン爲メノ苦肉策ニシテ、文武大官ノ權力爭奪史ニ外ラナイノデアル。而シテ司直ノ任ニアル者ノ殆ンド悉クガ賄賂ニヨリテ、罪人ヲ私放シ、無辜ヲ殺害シ、斯クシテ得タル財寶ヲ以テ一家ヲ支持スルノ有様ニシテ、眞ニ國家民衆ニ思ヒヲ煩スノ一人格者ヲモ見ル能ハザル現況ニ想到スルトキ、吾人ハ轉タ同情ト悲痛トノ感ニ堪ヘナイノデアル。

嚮ニ支那政府ハ治外法權ノ撤回ニ腐心シ、顧問しむぶそれ氏ヲ英米佛諸國ニ派シテ、或ハ國際聯盟理事會ト交渉ヲ爲サシメ、近クハ太平洋會議ニ提案シテ人道ト正義ノ名ノ下ニ論議シ、各國ノ同情ヲ得ンモノト、治外法權撤廢ニ關シテ劃策到ラザルナク、頻リニ暗中飛躍ヲ試ミツ、アリ。

而シテ外國人側ニ於テモ、顧公使、施公使ノ如ク上海居留地ニ於テ生長シ、居留地ノ外國人學校ヲ卒業シ、後米國學生トナリテ歸來シ、自國ノ實狀ヲ知ラザル徒ノ人道ノ大義ニ根據セル説明ニ聽キ、説明ト事實トノ間ニ大ナル溝渠アルヲ知ラズシテ、漫然其主義ニ共鳴シ、此特權ノ撤回ニ傾向セルモノ尠ナカラズ。我内地ニ於テモ、此特權撤回ニ賛同シ、其運動ヲ助成スルノ義務アルガ如ク唱フル一派アルコトヲ聞クニ及ンデ、余輩ハ其煽動者ノ眞面目ナリヤ否ヤヲ疑フモノデア  
ル。内地某大新聞ノ如キスラ

覺醒セル支那ハ法治國トシテ決シテ、露國、ばるかん諸國及南米諸邦ヨリ劣レリト謂フベカラズ、治外法權撤去サル、トモ、支那ニ住スル外國人ノ生命財産ガ危險ナリトハ想像スベカラズ、日本ガ支那ニ援助ヲ與へ、治外法權撤去ノ目的ヲ達セシムルコト、支那ノ爲メナリ、抑亦正義人道ノ爲メナリ云々

ト説ケルヲ見テ支那ノ現狀ヲ正解セザルモノ、我邦朝野ニ洽キニ一驚ヲ喫スルノデアアル。茲ニ最モ奇ナル對照ハ右新聞到著シテ、未ダ旬日ナラザルニ、宜昌ニ於テ第二回ノ兵匪暴動ノ舉アリ、掠奪放火阿鼻叫喚ノ一大修羅場ヲ現出セシメ、内外人ノ被害算ナク、遂ニ宜昌商民八萬ハ絶望ノ極一齊ニ立チテ左ノ宣言ヲナシタコトデアアル。曰ク

政府ハ吾民ニ對シ、假リニ保護ノ誠意ナキニ非ズトセバ即チ責ヲ負フノ能力ナキモノナリ、吾

等ハ但ダ死ヲ免ル、ヲ求メ、國ヲ知ラズ、駐京公使團ニ請求シ、速カニ宜昌ヲ割シテ居留地トナシ、以テ政府ガ再ビ軍隊ヲ駐ムルコトヲ拒否セントス、此ニ由リテ論ズレバ萬劫復ラザル亡國奴隷トナルト雖モ、同人ハ亦惜マザル所ナリ云々

ト政府ノ恃ムベカラザルヲ痛感スルト共ニ絶望ハ憤怒トナリ、自棄トナリ遂ニ外國ノ奴隷トナルトモ、其保護ノ下ニ生命財産ノ安固ヲ計ラント猛呼シツ、悽絶、慘絶ノ悲劇ヲ演出シタルハ、前ノ治外法權撤去唱道ニ對スル一種ノ皮肉ヲ物語ルモノデハアルマイカ。革命以來十年寧日ナク、全國ハ無政府狀態ニ陥リ、恰モ群虎ノ棲スル叢林中ニ居住スルノ思ヒニテ、武器ヲ携ヘテ吃飯セザルベカラザルノ實狀ニアル内外人ハ如何ニシテ其危難ヲ避クベキカハ日夜共ニ焦慮スル所ニシテ、漢口ノ外人ハ正ニ列國共同防衛ノ方法ヲ講究シツ、アル。斯クノ如キ現狀ヲ以テシテ、尙且治外法權撤去ヲ叫ブハ愚ニアラザレバ狂デアル。

余輩固ヨリ支那ノ短所ヲ曝露剔抉シテ徒ラニ快哉ヲ叫ブモノニアラズ、誹毀シテ敢テ喜ブモノニアラザルモ、我朝野ノ支那ノ現狀ニ對スル智識ヲ補ハンガ爲メニ二三ノ事實ヲ提供シ、之レニヨリテ百般ノ事物ヲ類推スルノ資ニ供シ、併セテ其撤去ガ如何ナル成果ヲ齎スカニ就テ一言セントスルモノデアル。

抑支那ニ於ケル官府ノ紊亂ハ殆ンド收拾スベカラザル狀態ニシテ、權利保護ノ如キハ全ク行ハ



ルモノニ非ラズト云フモ過言デナイ、這般漢口日本租界擴張區域内ニ地面ノ爭訟ガアツタ。交通部ヨリ數名ノ官吏ヲ派シ來リ、我總領事館ニ於テ旬日ニ亘リテ商議スル所アリタルモ竟ニ其解決ヲ見ルニ到ラズ。以來懸案トナツテ居ル。而シテ事件ノ内容ハ次ノ如クデアル。該地域内ニ偉興公司ナル會社ノ所有セル一筆ノ地面ガアル。租界設置ノ爲メ、日本政府ハ之ヲ買收セント欲セシニ料ラズモ、京漢鐵道局ヨリ該地面ハ鐵道所有地ニシテ交通部ニ屬スルモノナレバ妄リニ之ニ手ヲ觸ルベカラズト抗議シ來ツタノデアル。然ルニ偉興公司モ法律的形式ヲ具備セル地券ヲ所持セルガ爲メニ茲ニ雙方鉢合セノ醜態ヲ演出シタノデアル。支那ノ地方官ハ賄賂ニ依リテ、地主ヲシテ數人ニ對シテ抵當權ヲ設定セシメ、或ハ地主ニアラザルモノ、爲メニ數枚ノ地券ヲ製作シテ、發給スルガ如キハ稀有ノ出來事デハナイ。古來支那ニ有名ナル諺ガアル。「智者ハ決シテ訴訟セズ」ト蓋支那裁判官ハ訴訟ノ結局スル前ニ於テ原被兩造ヨリ取り得ル限リヲ貪リ、其訴訟終ル日ハ勝者、敗者均シク赤貧トナルカラデアル。一體裁判ハ正義ノ實行デアアルベキデアル、而カモ斯クノ如シトセバ他ハ推シテ識ルベシデアル。

前清時代ノ官吏ノ年俸ヲ繹ヌルニ軍機大臣ノ如キ至高ノ顯官ニシテ僅カニ一百兩、米二百石デアル。然ルニ彼等ノ冬季身ニ纏フ所ノ美裘ハ悉ク一領千兩ヲ踰ヘテ居ル。以テ其生計ノ一般ヲ窺フニ難カラズデアル。而シテ斯ノ如キ豪奢ノ生活ノ資料ガ何所ヨリ生ズルカハ問ハズシテ明カデ



アル。共和制トナリタル今日ノ月俸國務大臣ニシテ一千五百元、各部總長一千元、簡任官最高七百元、薦任官五百元デアル。然ルニ果シテ彼等ハ此銀額ヲ以テ生活シツ、アルカ。高官夜々ノ賭博ハ常ニ數千元ヲ輸贏シ、誕辰ノ賀筵ニ數萬元ヲ費消スルノデアル。督軍ノ月俸亦一千元デアル。然レドモ彼等ノ貯金ハ數年ニシテ動モスレバ數千萬元ニ至ルハ公然ノ秘密デアル。是等ノ財寶ハ罪惡ノ結晶ニアラズシテ何ンゾ。支那ニ於ケル訴訟ノ勝敗ハ法理上ノ適不適ハ問フ所ニアラズシテ賄賂ノ多少ニヨリテ決スルモノデアル。外國人ヲシテ斯クノ如キ收賄的裁判ヲ受ケシムルハ罪惡ニアラズシテ何ンゾ。余輩敢テ問フ之ヲシモ正義ニ適フモノト云ヒ得ルヤ否ヤト。

試ミニ治外法權撤去後ノ在支露國人ニ對スル悲慘ナル虐待ヲ見ヨ。之ヲごつくれー少佐ノ目撃談ニ聞ケ、蓋思ヒ半ニ過グルモノアラン。庫倫ニ於ケル露國紳士ハ毫モ訴訟法ニ由ルコトナク、審問ニ由ルコトナクシテ、獄中ニ投ゼラレ、陳毅ノ五千ノ兵ハ露國人、蒙古人ヲ虐殺シ、華商ヲ強奪シ、婦女ヲ姦スルヲ以テ常事トナセリト。再思セヨ、一昨年ヨリ昨年ニ至ルマデ日貨排斥ニ於テ、日貨ハ公衆ノ面前ニ於テ燒棄セラレタルヲ、此等ハ悉ク支那商人ノ所有物デアツタガ、當時若シ日本人ニシテ今日ノ在支露人ノ如ク治外法權、軍隊、軍艦等一切ノ後援ナカラシメバ、燒棄セラレタルモノハ、日本商人ノ所有物タリシヤ炳乎トシテ明カデアル。日本人大津某湖南湘潭ニテ慘殺セラレ、亦宜昌ニテ掠奪放火セラレタル邦人ノ被害ニ對シテ、其加害者ノ一人スラ未ダ

處刑セラレタルヲ聞カナイ、否寧ロ其張本人タル十八師長ハ榮進シタノデアル。國內常ニ擾亂ノ巷トナリテ、居住生業其安定ヲ見ル能ハズ、湖南省岳州長沙等ノ避難民年數度ハ必ズ陸續漢口ニ向テ流レ込ミ、支那街ノ避難民ハ居留地ニ向ツテ家財ヲ搬入スルモノ潮ノ如シデアル。一年數度對岸武昌官吏ノ妻子ガ居留地ノ家屋ヲ借りテ住セザルベカラザルノ慘況ハ余輩ノ日々親睹セル事實ニシテ、是レ中央及地方政府ノ力能ク人民ノ生命財産ノ保護ニ堪ヘザル事ヲ雄辯ニ語ルモノニ外ナラナイノデアル。然ルニ此禍ヨリ免ル可キ唯一ノ特權ヲ自ラ求メテ拋棄シ、肉彈ヲ以テ彼等ノ劍戟ニ對セントスル外國人ハ所謂暴虎馮河ノ勇者ト云ハネバナラス。名ハ或ハ正義人道ノ爲メナリトモ云ヒ得ンモ、正義ノ何タルヲ解セザル官民ヲシテ惡政ト掠奪ト虐殺トヲ恣行セシメントスルノ忍耐ハ寧ロ罪惡デハアルマイカ。

治外法權ノ撤去ハ全國ノ完全ナル統一ヲ見、司法ト行政ノ力ヨク内外人ノ身體、生命、財産ヲ保障スルノ實力ヲ具備シ、中央及地方政府ノ威令全國ニ行ハル、ノ日ニ於テ始メテ實現セラルベキデアル。吾人ハ支那ノ爲メニ其時機ノ到來センコトヲ希フノ至情ニ於テハ敢テ人後ニ落チザルモ、支那ノ現狀ニ通曉セザル我朝野人士ガ宣傳空想ノ犧牲トナリテ國家民人ヲ誤ルナキヲ忠告スルモノデアル。

## 資本主義ト支那問題

作 田 莊 一

### 一

最近ノ世界大戰ガ所有ヲ爭フ國民的衝動心ノ發現デアツタコトハ今ハ何人モ疑ハナイ。教養アル箇人ハ衝動ヲ抑ヘ同胞ノ情念ヲ以テ互ニ相親ミ得ルモ、其ガ集團トナリ殊ニ國ト云フ御題目ヲ唱ヘ出ストキハ、不思議ニモ人類固有ノ衝動心ガ大河ヲ決スルガ如ク溢レ出デ、利害モ德義モ其前ニハ平素ノ力ヲ失フノデアル。此ノ戰爭ノ素因タル人類ノ爭鬭的衝動心ハ消滅ハ愚カ、短イ年月ノ間ニ著シク弱ムルコトサヘモ不可能デアル。若シ戰爭ノ起因タル富ノ所有ガ各國民ノ間ニ公平ニ配當セラレズ、又其ノ見込ガ付カナイ限りハ世界ハ決シテ永キ平和ヲ樂ミ得ナイ。爭フ所ノ所有ノ目的ガ國民ノ生存如何ニ關スル場合ニハ殊ニ然ウデアル。此ノ大戰ニ於テ交戦ノ正面ニ立ツタ歐羅巴諸國ハ、孰レモ物心兩面ニ甚大ナル創痍ヲ蒙リ平和ヲ求ムルノ念切實ナルモノガアルガ、其ハ戰フコトノ暗愚ト不正トヲ悟ツタカラト言フヨリモ寧ロ過勞ノ後ノ休息ヲ希求スルニ過



ギナイ。戰後ニ於ケル國民間ノ警戒及ビ憎惡ノ念尙ホ旺盛ナルコト、國際聯盟ニ對スル各國ノ不熱心ナル態度トニ其ガ現示セラレテ居ル。更ニ交戰ノ側面ニ立ツタ日米兩國ハ戰爭ニ由ツテ打擊ヨリモ寧ロ刺激ヲ受ケテ意氣昂リ且ツ著シク世界的地位ヲ高メ來ツタノデ、大戰前ニモ増シテ所有ヲ爭フ國民的爭鬭ノ危險ガ加ツテ來タ。日米ガ衝突スルガ如ク見エテ衝突シナイデ居ル最大ノ原因ハ爭鬭的衝動心ノ強イ米國ガ所有ニ於テ豐カデアリ、所有ニ於テ貧シイ日本ガ爭鬭的衝動心ノ弱イト云フ點ニアル。若シ此ノ組合セガ逆デアツタナラバ兩國ノ對戰ハ到底避ケ得ラレナイデアラウト思ハル。

「セリグマン」氏ハ其ノ「經濟的史觀論」ニ於テ米國ハ玖馬ノ砂糖ヲ取ルガ爲ニ西班牙ト戰ツタト言フ。皮肉ニ經濟的史觀ヲ弄スルナラバ、米國ニ勢力アル婦人ガ著シク「キャンデー」ヲ嗜好スルコトガ西班牙ノ災難トナツタ。若シ日本ノ婦人ガ米國婦人ホド勢力ガアツテ且ツ何ヨリモ氷砂糖ガ好キデアツタナラバ我國ハ已ニ「ジャワ」ヲ領有スル和蘭ト戰ツテ居タカモ知レヌ。歐洲ノ一經濟學者ハ日露戰爭ノ原因ガ我國民ノ朝鮮米ヲ求ムルニアツタト余ニ語ツタ。併シ我國ハ内地ニ移入スルホド朝鮮米ノ餘裕ガ無カツタトシテモ必ズヤ露西亞ト戰フコトヲ決心シタデアラウ。之ニ先ツタ日清戰爭モ殆ド日露戰爭ト同様ノ趣旨ニシテ起リ、臺灣ノ砂糖ガ決シテ戰爭ノ重大ナル標的デハナカッタ。併シ漸クニシテ政治上ノ脅威ヨリ脱シ來ツタ今日ノ日本トシテハ對外關係



ガ政治的自衛策カラ經濟的自存策ニ移ツテ來タ。過去ノ亞細亞大陸ニ關スル爭議ト現在ノ太平洋問題トノ間ニハ我國ノ採ルベキ方針ト之ニ基ク政策ガ著シク異ツテ來ナクテハナラヌ。

我國ガ加州移民ニ關シテ米國ト戰フコトハ先ヅアリ得ナイト言ツテヨイ。此ノ問題ハ我國ノ態度如何ニ由ツテ決セラレ得ベク、我國トシテハ從來ノ如ク自制シツツ、更ニ廣ク人種平等待遇ノ世界的問題トシテ徹底的解決ニ努力スベキデアル。唯ダ支那問題ニ就テハサウ樂觀ヲ許サナイ。九月ノ雜誌「改造」ニ寄セタル「デュウイ」教授ノ「太平洋會議」ト題スル論文ヲ讀ムト其終ニ斯ウ言ツテアル。「若シ日本ノ大陸方針ガ侵略的デアルト信ズル場合ニハ米國ハ其ノ海軍力ヲ増加シ而シテ軍國主義的發展ヲ見ルデアラウ」ト、此ハ哲學者タル「デュウイ」氏ノ言デアル。米國人ノ中ニハ支那ノ爲メニ日本ノ侵略政策ヲ擊退スルハ人道擁護ヲ國是トスル米國ノ方針デアルト信ジテ居ル者モ少クナイ。斯カル無邪氣ナル認見ヲ懷ク國民ヲ利用シテ巧ニ宣傳ヲ行ヒ我國ニ敵對スルコトハ米國ノ指導者階級ニトツテハサマデ難事デナイ。侵略カ人道カ。我等ハ此ノ標語ノ眞相ヲ明カニシ之ニ基ク賢明ナル方策ヲ取ラナケレバ、日米兩國ハ再ビ大規模ナル人類の暗愚ト不正トノ實演者タルヲ免レナイカモ知レヌ。

支那ガ廣大ナル領土ニ豐カナル富源ヲ藏スルコト、此ノ富源ノ開發ト多數人民ノ需要トニヨリ多大ノ購買力ヲ生ズル市場ヲ有スルコト、ガ列國ヲ支那ニ於テ相競ハシムルニ至ツタノデアルガ、其ノ富源ト市場トニ對スル各國ノ利害ハ素ヨリ一樣デナイ。今日支那ニ對シ經濟的勢力ヲ伸バシ得ル實勢力アルモノハ日英米ノ三國デアルガ、日本ト英米トハ支那ニ求ムル事情ガ著シク異ツテ居ル。日本ガ支那ニ求ムル所ハ第一ニ其ノ富源ヲ開發シテ分配ヲ受クルニアル。其代償トシテ我工業品ヲ賣込ム市場ヲ確保セントスルノデアル。此ノ要求ハ日本ノ國民供給ノ大ナル缺陷ヲ補充スル必要ニ基キ、之ヲ充サナケレバ我ガ國民生活ノ危殆ヲ感ズルホドデアル。英米ノ中ニハ我國ノ多キ人口増加ト低キ生活程度トヲ以テ自國ノ領土ニ對スル脅威ト見テ、日本人ガ生活ノ程度ヲ高ムルトキハ自ラ人口ノ増加率ヲ減ジ外ニ向ツテノ膨脹力ヲ緩カニスルデアラウト言ツテ居ル。又歐米殊ニ米國ニ學ンダ我國ノ學者達ノ中ニハ經濟上ノ理由カラ我國ノ人口制限ヲ唱フル人モ少クナイ。而カモ其中ニハ言フ所ガ宛然米國人ノ我等ニ語ルガ如キ口吻スラアル。人口論ニ就テハ余ハ從來ノ經濟的見地ヨリスル出產制限論ト異レル見解ヲ有シ他日世ニ問ヒタイト思フガ、其一端ヲ言ヘバ出產制限ハ優生學上ノ見地ノミヨリシテ是認スベク、經濟上ノ見地ニ於テハ其ヨリモ一層急ナル且ツ大ナル問題ガアル。其ハ經濟上ノ理由カラ出產ヲ制限スルヨリモ出產上ノ理由カラ經濟上ノ制限ヲ解クコトガ先決問題デアリ、此ノ經濟上ノ制限解除ハ國內的ニモ將タ國際的ニ

モ必要デアルト見ルノデアル。併シ今此ノ見解ヲ論據トシナイデモ我國ノ人口制限ハ決シテ對外膨脹ヲ抑止セシムル原因トハナリ得ナイ。

國民需要ノ増加原因ニハ人口ノ増加以外ニ生活手段ノ向上並ニ普及ヲ舉ゲナケレバナラヌ。歐米諸國ニアリテハ政治生活ニ次デ經濟生活ノ平等思想ガ廣マルニ連レテ生活手段ノ普及ノ方面カラ著シク國民需要ヲ増加セシメテ居ル。急ニ歐米ト密接ナル交通關係ヲ結ンデ來タ我國ニアリテハ可ナリ激シク生活手段ノ向上又ハ變化ヲ來タシ、其上ニ平等思想ノ廣マルト共ニ生活手段ノ普及ヲ伴ヒ、此等ノ事情ガ人口ノ増加ヨリモ一層著シク國民需要ノ増加ヲ誘致シツ、アル。此増加スル國民需要ニ對シテ國民供給ハ富源不足ノ故ヲ以テ均衡ガトレナイ。而カモ其ノ國民的需給ノ偏差ガ特ニ生計必要品並ニ產業基礎財ニ存スルノデアル。我國民ガ外ニ向ツテ此ノ偏差ヲ調節セントスルハ我國民經濟ノ必然ノ進路デアル。歐米人及ビ之ニ倣フ我ガ國人ト雖モ、マサカ我國民ニ對シ人口制限ト同時ニ生活手段ノ向上普及ヲモ抑止セヨト勸告スルマデニハ至ルマイ。尙ホ又人口ノ點ニ就テ見ルモ我國ノ増加率ハ歐米諸國ニ比シテ過大デナイ。佛蘭西民族ヤ「アングロサクソン」系米國人ノ増加少キハ寧ロ現代人類ノ進歩程度ヨリ見テ異常ノ傾向ト言フベキデアル。我國ガ近隣大陸ヲ始メ國外ニ活路ヲ求ムルハ孰レノ點ヨリ見ルモ已ムヲ得ナイ所デアル。

我國ト對比スレバ英米ハ自國ノ富源ヲ以テ其民ヲ養フニ餘リアツテ支那ニ依頼スル必要ハ殆ド



無イ。世界經濟ノ見地ニ立ツナラバ、國民自足ノ可能ナル國ハ其ヲ以テ満足シ其ガ不可能ナル國民間ノ相互ノ需要充足ヲ尊重スベキデアル。我等ハ一國民ノ贅澤ナル需要ノ充足ハ他國民ノ必要ナル需要ノ充足ニ讓ルト云フ世界經濟上ノ原則ヲ主張スル。其モ一國內ニ他國民ガ移住シ來ル場合ニハ之ヲ拒ムニ經濟以外ノ理由ヲ付スルコトモ出來ルガ、他ノ國民同志ノ間ニ於ケル相互需給ニ對シテハ之ヲ妨グル何等ノ口實モ有シ得ナイ。我國ハ富源ニ乏シク支那ヤ西比利亞ハ產業ガ進マナイ。此ノ相互需給ノ極メテ自然的ナル經濟關係ニ對シテハ他國ノ妨害又ハ侵入ハ許サレナイ筈デアル。然ルニ事實ハ之ニ反スル。其ハ何ノ故デアルカ。

### 三

日支相結ブト云フ極メテ自然的ナル經濟關係ガヤ、モスレバ不自然ニ疎遠トナリ、却ツテ第三國ノ勢力ガ侵入シ來ル傾向アルハ一ニハ日支兩國國民ガ自覺ト努力トノ足ラザルニモ由ルガ、ヨリ強キ理由ハ之ヲ英米ノ資本主義的活動ニ歸シナケレバナラヌ。英國ノ其活動ハ我國ガ工業時代ニ入ラザル以前ヨリ引續キ存シタルガ故ニ今日マデサマデ目立たナカツタガ、米國ノ其活動ハ我が工業ノ進歩後ニ於テ其ノ前面ニ米國式ノ無遠慮ノ態度ヲ以テ現ハレ來レルガ故ニ一層ヨク其ノ真相ガ看取セラレ得ル。米國ノ對支宣傳ガ支那ニ排日の氣勢ヲ醸生セシメタト言ハレテ居ルガ其ハ



形ニ伴フ影ニ過ギナイ。米國人ハ其形コソ日本ノ侵畧主義デアルト言フデアラウガ、侵畧カ否カノ問題ハ暫ク後ニ譲リテ、トニカク我國ガ支那ト經濟的ニ深く結ブコトガ支那ニ接近セントスル一部米國人ノ喜バザル所デ、今言ヘル影ノ持主ハ其處ニアル。米國ノ資本主義ガ其デアル。勞働主義ノ産業トナラバ、ヤ、モスレバ勞ヲ吝ンデ早く満足シ生産ノ増進ヲ鈍ラス危險ガアルト憂ヘラレテ居ルガ、資本主義ノ産業及ビ商業ハ多キガ上ニ多キヲ求メテ飽クコトヲ知ラス。自ラ養ツテ餘リアル英米ガ支那ニ向ツテ活動スルハ主トシテ此ノ資本主義ノ致ス所デアル。

我國ハ支那ヨリ買ハナケレバ國ガ立タヌ。結局、買ハンガ爲ニ賣リ又ハ金ヲ貸スノデアル。英米ハ結局、賣ランガ爲メニ買ヒ又ハ金ヲ貸スノデアル。前者ハ時代ヲ問ハズ、經濟組織ノ何タルニ拘ラズ、自然界ノ奇蹟ガ生ゼザル限り、國民供給ノ缺陷ヲ補充スル爲ニ繼續スベキモノデアル。後者ハ單ニ國富ノ増進ヲ計ラントスル先キノ重商主義、今ノ資本主義ノ對外方策カラ來テ居ル。無論我國ノ對支活動ト雖モ概ネ資本家ノ手ニ由ツテ行ハレ其等ガ國民ノ利益ヨリモ自己ノ利益ヲ先キトスル資本主義的手段ヲ執リ、從ツテ其ガ内外ニ幾多ノ弊害ヲ生ジ居ルコトハ事實デアル。サレド茲デハ我國ガ各國ニ共通ナル企業形態ヲトルト云フ表面ノ事實ハ重要デナイ、我等ハ同様ノ投資企業ト雖モ其目的トスル國民經濟上ノ使命ハ我國ト英米ト其本質ヲ異ニスルト云フ裏面ノ事實ヲ看取シナケレバナラス。タトエ今後我國ノ投資企業制ガ勞働企業制トナリ、私別企業制ガ

公共企業制ニ變ツタトシテモ、日支經濟關係ノ本質ハ依然トシテ變化スベキモノデナイ。何者が企業權ヲ握ルトシテモ棉布又ハ機械ヲ賣ツテ鐵又ハ石炭ヲ買ハナケレバナラヌコトハ「まんぢねすたー」ヤ「びつつばーぐ」ノ人々ト趣ヲ異ニスル點デアル。

#### 四

我國ト英國トヲ對比スルト、英國ノ勞働者ハ殆ド舉ゲテ自國ノ對外發展ヲ資本主義的ナリトシテ反對シ、少クトモ無關心ノ態度ヲ執ツテ居ル。彼等ハ國民的感情カラ今尙ホ憎ンデ居ル獨逸ニ對シテスラ同様ノ見地カラ自國政府ノ之ニ加フル壓迫ヲ牽制シテ居ル。英國ノ勞働者ハ資本主義制ヲ倒スコトガ自國ノ對外發展ニ成功スルヨリモ一層著シク自分達ノ生活ヲ向上セシムル所以ナルコトヲ知り、又國外ニ對スル經濟的發展ハ益々資本主義制ノ安定ト繁榮トヲ齎ラスモノトシテ彼等ノ苦痛トスル所デアル。廣ク見テモ歐洲ノ金屬工業及ビ石炭採收業ノ勞働者ハ國際戰爭ヲ以テ資本主義制ノ増長デアルト見テ之ヲ各國聯合ノ同盟罷業ニ由ツテ控制スルコトヲ決議シテ居ル。資本主義制發達ノ本場トモ言フベキ英國ハ勞働主義制ノ發達ニ於テモ亦本場タルノ觀ガアル。英國經濟界ノ新傾向ハ次第二東亞大陸ニ對スル發展ノ意義ヲ重シナクナツテ來タガ、其ハ英國ノ支那ニ對スル地位ヲ説明スルモノデアル。

翻ツテ我國ノ勞働者ヲ見ルニ、一般ニハ彼等ハ未ダ自己ノ意見ヲ決定シ發表スルダケノ識見ト團結力トヲ有シナイカラ其ノ所見ヲ知ルコトハ出來ナイガ、若シ僧ヲ憎ンデ袈裟ニ及ブノ愚ヲ學バナイトシタナラバ、必ズヤ我國ノ東亞大陸ニ對スル發展ニ反對シ得ナイデアラウ。我が資本家ノ對外活動ハ資本主義ノ安定ト繁榮トヲ加フルデアラウ。併シタトエ資本主義制ヲ廢シタ所デ我國ノ勞働者ハ英國ノ如ク其故ニ生活ガ安定豊富ニナル境遇ニ居ナイ。我が對外經濟ノ方面ニ於テハ資本家ガ企業權ヲ掌握スルコトノ利害ハ第二次ノ問題デアツテ、我國民ガ列國並ノ生活ヲナスニハ必ズ大陸ノ富源ト市場トニ賴ラナケレバナラスト云フコトハ勞働者ニトツテモ第一次ノ要求デアラネバナラス。但シ序ニ一言スレバ我國ガ斯カル狀態ニアルコトガ我國ノ企業組織ニ於テ投資企業制ヲ永續セシムルヲ可トスル理由トハナラナイ。又我國ノ資本家ハ是マデ我が對外經濟ノ爲メニ少カラス貢獻ヲナシテ居ルガ、其故ニ今後モ國民生活ノ安全ヲ保障スルモノハ資本家デアルト自賛シ得ル理由トモナラナイ。否寧ロ從來屢々見ルガ如ク資本家ガ自己眼前ノ利益ニ眩惑シ、相互ニ醜陋ナル競争ヲナシテマデモ利權ノ獲得ヤ販路ノ爭奪ニ熱注スルコトガ却ツテ大陸ニ對スル眞ノ國民的要求ヲ裏切ツテ居ルト云フ批難モ許サレ居ル。唯ダ茲デハ我國ノ大陸ニ對スル要求ハ我が産業組織ノ如何ヲ超越シ、英米ノ資本主義的活動ト質ヲ異ニスル點ヲ切言スルノデアアル。英國ガ産業組織ノ改造ト對外經濟發展トノ間ニ苦悶シテ居ルニ比ブレバ米國ノ如キハ實ニ吞氣



ナモノデアル。最近ニ米國ハ失業者六百萬人に達スト報セラレテ居ルガ、其デ國民經濟的危機ト見ルベキ不穩ノ現象モ起ラナイ。以テ如何ニ經濟力ニ餘裕アルカガ察セラルル。米國ノ労働者ハ外來少數ノ一部分ヲ除ケバ概シテ資本主義制ヲ倒スヨリモ其下ニ少ナイ労働ト多イ賃金トヲ標的トシテ進ムコトヲ有利トシ、又其ガ實現セラレ得ルホドニ國ニ餘裕ガアル。労働組合聯合會ノ首領「ゴンバース」氏ガ「我々労働者ハ利潤分配スラ望マヌ。企業ノ危險ヲ負擔セヌ労働者ハ利益ノ分配ニ與ル理由ガナイカラデアル」ト言ツテ居ル。何タル餘裕アル國民デアラウ。國際社會黨ノ連中ガ闇ニ輝ヤク眼ヲ以テ米國ヲ凝視シテ居ルノモ無理ハナイ。多數ノ米國民ハ有産者デナクトモ少クトモ可能有産者デアル。

米國ノ労働者ガ概シテ資本主義制ニ反嚙シナイノハ一面ニハ享樂生活ノ組織ガ彼ノ大國ナルニモ拘ラズ小國瑞西ヲ除イテハ何國ニモ優レテ民衆的ニ出來テ居リ、多數人民ガ有産者ラシキ生活ヲナシ得ルガ故デアルガ、他面ニハ主トシテ斯卡ル國民生活ヲ可能ナラシムル富源ノ大ナルガ故デアル。其上尙ホ米國ハ内部ニ廣大ナル未開拓地ヲ藏シナガラ西部ニ東洋移民ヲ排斥シ近頃東部ニ歐洲移民ヲ制限セントスルホドニ過敏ナル自衛策ヲ執ツテ居ル。其ホド安全豊富ナル國民經濟ニ立脚スル米國ガ西班牙ト戰ヒ墨西哥ト爭ヒ、更ニ同ジ筆法ヲ以テ太平洋ノ彼岸ニ巨腕ヲ伸バシ遂ニ汎米會議カラ太平洋會議ノ主人公ニマデ乗出スニ至ツタノハ果シテ何ノ爲メデアルカ。其ハ



決シテ米國民トシテノ要求ニ推サレタノデハナク全ク資本主義ノ足ルヲ知ラザル進張ト言ハナケレバナラヌ。

余ハ米國ノ西部ニテ、一職工ノ妻ガ工場作業ノ終ル頃ニ自動車ニテ夫ヲ迎ヘニ行キ其ノマ、郊外ニ「ドライヴ」シテ共ニ間食ヲトルト言フ話ヲ聞イタ。此ハ無論特殊ノ例デアラウガ、トニカク米國デ「ガソリン」ガ易々ト消費セラレ居ルコトハ明カデアル。而シテ自國及ビ墨西哥ノ油坑ヲ以テ足レリトセズ、英國ノ「メソポタミヤ」ノ油坑占有ニ抗議ヲ持出シ遙々支那ノ油田ヲ探索スル。「スタンダード」石油「ツラスト」ヲ始メ幾多ノ米國大企業ノ發達史ハ一種ノ罪惡發達史デアルトマデ批評セラル、ホドニ米國ノ資本主義ハ山ヲ選バズシテ鹿ヲ追イツ、アル。米國トシテハ遙ニ亞細亞大陸マデ富源ヲ探索スル必要モナク、又世界第一ノ廣大ナル國內市場ヲ有スル以上、産業經營ノ規模ヲ決定シ企業ノ危險ヲ保障スル點ヨリ見テモ敢テ大ナル外國市場ヲ確保シ置クベキ必要モナイ。歐大陸ノ人々ガ羨望スル所ノ米國人ノ消費振リト言ヒ、又決シテ愚鈍デナイ米國人ガ大戰中、船舶ヲ始メ多種ノ兵器軍需品ノ製造ニ就テ驚クベキ反生産的ナコトヲナシテ、而カモ平氣デ之テ苦ニシナイ事情ト言ヒ、如何ニ米國ガ外國ノ富源ト市場トニ依頼スル必要ノ無イカラ證明シテ居ル。米國ノ對外發展ハ飽クコトヲ知ヌ製造業者及ビ金融業者ノ資本的帝國主義ノ方策カラ來レルモノト斷ズルノ外ハナイノデアル。米國ハ今依然トシテ資本主義制ノ全盛ヲ極ムル國デ

アリ、又其ガ可能ナル國土デアル。勞働者ハ此ノ強者ニ無益ナル反抗ヲ試ムルヨリモ資本家ノ下ニアツテ優ニ生活ノ向上ヲ計リ得ルホドニ厚キ天惠ニ浴シ且ツ斯クスルコトガヨリ善キ方法ト信ズル。石炭坑ノ如キ勞働紛爭ノ激シイ方面ハ、米國ノ富源ハ世界民ノ利用スベキモノデ米國人ノ獨占物デナイト揚言スル未ダ米國化シナイ歐洲移住勞働者ノ勢力アル所ニ限ラレテ居ル。斯ノ如ク米國デハ勞資ノ軋轢ニ由ツテ對外發展ヲ牽制セラレナイト言フコトガ英國ニ比シ一層有利ナル國內市場ヲ有スルニモ拘ラス進ンデ外ニ資本家ノ進出ヲ容易ナラシムル條件トナルノデアル。

## 五

我國ト英米トノ東亞大陸ニ對スル經濟關係ハ上述ノ如ク本質ニ於テ著シキ差別ガアル。日支關係ハ兩國ノ自然ノ連鎖デアルガ、英米殊ニ米國ノ支那ニ求ムル所ハ單ニ不自然ナル資本主義的侵略デアル。世界經濟上ノ公正ナル判斷ニヨラバ本質ニ於テ彼我ノ孰レガ支那ニ對シテ侵略的デアルカハ自ラ明カデアラウ、近時英米ノ識者モ次第ニ我國ノ境遇ヲ認知シ來リ、日本ノ對外發展モ正義ノ要求デアリ、又英米ガ其領土ニ異種文明ノ民族ノ侵入ヲ防止シ白國ノ歴史的文化生活ヲ擁護スルコトモ亦正義ノ要求デアル。正義ト不正義トノ爭鬭ニハ苦心ナキモ正義ト正義トノ鬭爭ホド悲惨ナルコトハナイト慨嘆シテ居ル。而シテ彼等ハ此ノ悲劇ヲ避クルニハ日本ヲシテ亞細亞大

陸ニ發展セシムルノ外ハナイト考ヘテ居ル。歐米諸國ガ東洋人ニ對シテ自國領土ヲ閉鎖シナガラ東洋諸國ニ對シテハ門戶開放ヲ強要スルコトノ正不正ハ今暫ク之ヲ措キ、又利己的自衛策ノ上カラ已ムヲ得ズ默認セントスル功利的態度モ今ハ之ヲ問ハナイ、唯ダ日本ノ經濟的境遇ヲ明認シテ我ガ活路ヲ妨ゲマイトスル傾向ガ見エテ來タノハ我國ノ爲ニモ世界ノ平和ノ爲ニモ善ブベキ現象ト言ハナケレバナラス。

然ラバ今尙ホ支那及ビ米國ガ自然ノ道ヲ踐ム我國ノ行動ニ侵略ノ名ヲ與ヘ、不自然ナル侵入ヲナス英米ガ此ノ汚名ヲ免レ、殊ニ米國ノ行動ガ恰モ我國ノ侵略ヲ防止スル正道ナルカノ如ク考ヘラル、ハ果シテ何ノ故デアラウカ。之レ一ニハ世人ガ先キニ述ベタルガ如キ經濟事情ノ真相ヲ知ラザルガ故デモアルガ他ノ一ハ自然的要求ヲ遂ゲントスル者ガ却ツテ不自然ナル術策ヲ用キ、不自然ナル要求ヲナス者ガ自然ラシキ巧妙ナ手段ヲ以テスルガ故デアルト思フ。

幾多ノ例證ヲ舉グルマデモ支那國民ガ外國ノ政治的支配ノ日ノ來ランコトヲ恐怖スル念ハ可ナリ廣ク且ツ深ク存スルヤウデアル。曾テ支那民族ハ異民族ノ政治的支配ヲ受ケテ而モサマデ苦痛トシナカツタ。之レ其ノ政治的支配ガ單ニ中央政治ノ大局ヲ統ブルニ止マリ、社會生活ニ於テハ高キ文化ヲ以テ却ツテ支配者ヲ支配シ得タカラデアル。若シ今日異民族ガ支那民族ヲ政治的ニ支配スルコトアラバ、其ハ交通機關ノ進歩ニ由リ事實上ノ全國支配トナルベク、又支那民族ノ後レ



タル文化ヲ以テシテハ到底外來ノ支配階級ヲ同化包容スル勢力ナク、廣ク社會生活ノ全般ニ亘リテ久シク誇レル歴史の大民族ノ運命ヲ左右セラル、結果トナルデアラウ。今ハ時代ガ異リ、支那ノ智識階級ハ近代政治及ビ近代文化ノ何タルカヲ知ツテ居ル。彼等ノ憂慮ハタトエ杞憂デアルトシテモ確カニ深憂デアル。我國人ニシテ自由思想ヲ懷ク者ガ支那ニ遊ビ曾識ノ支那人ト隔意ナク語ルトキ最モ驚ク一事ハ支那ガ外國ノ政治的支配ヲ受クルコトナキカラ憂慮シ恐怖スル告白デア。而ルニ我國ノ智識階級ノ中ニテ眞面目ニ我國ガ支那ヲ政治的ニ支配スレバ可イナドト考ヘ居ル者ハ寧ロ極メテ稀デ、支那人ノ恐怖ヲ語ルモ殆ド之ヲ信ジナイ者スラアル。何タル奇妙ナ對照デアラウ。何故ニ我國ガ侵略主義ヲ執リ米國ガ人道主義ニ則ルト見ラル、カノ疑問ハ此ノ奇妙ナ對照ヲ考察スルコトニ由ツテ解カル、ノデハアルマイカ。唯ダ茲ニ一言ヲ付ケ加ヘタイ。我國ノ自由思想ヲ懷ク人々ハ力強ク歷代内閣ノ對支政策ヲ攻撃スルガ其ノ前ニ更ニ一段強ク國民一般ガ國民經濟ノ活路ヲ求メントスル嚴肅ナル命題ニ就テ自覺ト努力トノ足ラザルコトヲ自ラ責メナケレバナラヌト思フ。參謀本部廢止ヲ云々スル以前ニ先ヅ此ノ嚴肅ナル國民經濟上ノ命題ガ却ツテ陸軍部内ニ於テ久シク考究サレテ居ルト云フ一事實ニ就テ深ク反省スル必要ハナイカ。吾人ハ眞ノ國民的要求ガ資本主義及ビ軍國主義ノ活動ノ如ク解セラレ、而シテ其ノ功罪ガ資本家又ハ軍政家ニ歸スルガ如ク批評セラル、現狀ヲ遺憾トスルノデアアル。



## 六

國內ニ於テ資本家ト労働者トガ國家ノ分配ヲ爭フ間ニ國際經濟ニアツテモ亦資本國ト労働國トガ世界ノ富ノ分配ヲ爭フ時代トナツタ。國內ノ勞資爭鬭ニハ階級意識ノ増長ト共ニ双方ノ側ニ聯合ヲ作ツテ相闘イデ居ルガ、國際的勞資爭鬭ニハ有産無産ノ懸隔ガ甚シクナク又人種、政治、文化其他國民間ノ關係ガ複雑ナルガ故ニ國內ニ於ケルガ如キ聯合ニ由ル對立運動ヲ起スニ至ラナイ。併シ聯合ノ傾向ハ條件ノ具レル方面ニハ已ニ現レテ居ル。英國ガ日英同盟ヲ敬遠シ國ノ威嚴ヲ損スル程度ニマデ米國ニ迎合スルハ無論他ニ幾多ノ事情ガアルトシテモ、今頗ル不安ヲ感ジ來タレル英國ノ資本家階級ガ世界ニ於テ最モ安定ノ地位ヲ有スル米國ノ資本家階級ト提携セントスル新傾向ヲ示スモノデアル。英國ノ労働者ハ露西亞ノ労働者政治ニハ同情ヲ寄スルモ其眼光ハ東方ノ労働國ニ達シナイ。彼等ハ我國民ヲ目シテ侵略ヲ事トスル資本國トナシ寧ロ嫌厭ノ態度ヲ持シテ居ル。サレド英國労働者ノ勢力増進ハ從來ノ如キ英國ノ東亞ニ對スル資本主義的進出ヲ抑制スルコトニ傾クデアラウ。但ダ米國ノ資本主義制ハ當分衰ヘル様子が見エナイカラ、今後其ノ亞細亞大陸ニ對スル米國式ノ奇拔ナル發展ハ之ヲ豫期シナケレバナラス。支那國民ノ多數ハ労働國タル日本ト結ブニ比ブレバ資本國タル米國ト結ブ方ガヨリ多クノ利潤ヲ提供シナケレバナラスト云フコトマデハ考ヘテ居ラス。之ヲ知ラシムルニハ先ヅ我國民ガ公平ナル取引ニ由ツテ實地ニ其ノ然

ル所以ヲ證明スルガ第一策デアル。我國ガ自然ノ步調ヲ以テ自然ノ道ヲ進ム限リハ、如何ニ多事ヲ好ム米國ト雖モ重ネテ太平洋會議、而カモ米國本土ニ接セザル方面ノ太平洋會議ヲ召集スル必要ヲ認メナクナルデアラウ。此度ノ華盛頓會議ハ其ノ成敗ノ如何ニ拘ラズ、我國民ノ自覺ト努力ヲ促ガス警鐘デアラネバナラス。

余ハ先キニ我ガ國民經濟組織ノ何タルニ拘ラズ我ガ對外要求ハ依然トシテ變ラヌト言ツタ。併シ勞働國トシテ世界經濟上ノ見地ヨリ富源ノ開放及ビ勞働ノ機會ヲ要求スル以上ハ自己ノ國民經濟ニ於テモ之ニ相應スル經濟組織ヲ採ラナケレバナラス。改革ニ緩急ノ序アルコトハ勿論デテルガ、英米ノ資本主義的壓迫ニ反撥スル精神ハ又我ガ對外發展ヲ資本家ノ私欲ヲ充タス手段タラシメザル精神ト相呼應シナケレバナラス。我國ガ如何ニ善ク企業及ビ分配ノ組織ヲ改造シテモ尙ホ國民供給ノ缺陷ハ依然トシテ變ラナイコトヲ事實ニ於テ明示スルナラバ、其ハ我ガ對外經濟上ノ要求ガ單ニ支那トノ關係ニ止ラズ孰レノ國トノ關係ニ於テモ最モ力強ク肯定セラルル所以トナルデアラウ。此ノ必要ト正義トニ基ク要求ハ蓋シ武力ニ伴フ要求ヨリモ一層強大ナル力トナツテ列國ノ前ニ現ハル、デアラウ。

## 調査

### 露國ト其正金ノ運命

在伯林 柏田忠一

#### 一 緒 言

過激派露國ガ何程ノ正金ヲ所有シテ居ルカト云フ問題ハ色々ナ意味ニ於テ重大ナ關係ヲ有ツテ居ル。れにん政府ノ存續モ實ニ此ノ正金ト其ノ運命ヲ共ニスルモノデ、正金ノ消滅即過激派政府ノ滅亡ナリトサヘ揣摩サレ、其歐亞到ル處ニ宣傳ノ猛威ヲ逞ウシテ居ルノモ全ク此ノ正金ノオ蔭デアルカラ、正金ノ無クナツタ頃ハ同時ニ宣傳ノ斷末デアルト云フノデアアル。或ル國家、例ヘバ英國ノ如キハ、既ニ早クカラ露國ノ正金ハ空ニナツテ居ル筈ダト云ツテ居ルシ、獨逸ノろカーる。あんつあいげる紙ノ如キハ未ダ五億留位ハ殘存シテ居ル筈ダト稱シテ居ル。らいぶちひノ露國通信(Russische Korrespondenz)ハ末ダ一十億留餘現存シテ居ルヤウニ主張シテ居ル。果シテ夫レ程存在シテ居ルノカ、乃至ハ最早盡キ果テ、居ルノカ、世界的封鎖ヲ四年間モ續ケラレテ居ル露國ニ取ツテハ確カニ、其ノ正金ノ存否ハ政府ノ活動ノ死活ニ關スル筈デアアルコトハ爭ハレナイ問題

デアル。接壤國トシテ、政治的ニモ經濟的ニモ我國ト重大ナ關係ヲ有スル現露國ノ正金準備ニ一瞥ヲ與フルノモ興味アル問題デアラウト思フ。

## 二 參考書

歐洲ニハ露國ニ關スル參考書ガ非常ニ多イ、併シ乍ラ反過激派團ノぷろぱがんだノ爲メニスルモノト、之ト全ク正反對ノ過激派ノぷろぱがんだノ爲メスルモノトノ、兩極端ノモノガ非常ニ多クテ、其ノ中正ヲ得タ眞ノ露國研究資料ハ比較的少ナイ。其所デ、比較的信用ヲ置クニ足ルモノヲ左ニ舉ゲテ見レバ斯ウデアル。

1. A Collection of Reports on Bolshevism in Russia (Abridged Edition of Parliamentary Paper, Russia No. 1. 1919).
2. Trade Unions in Soviet Russia. 1920.
3. Labour Conditions in Soviet Russia, 1920.
4. Report of British Labour Delegation to Russia. 1920.
5. Alfons Paquet im Kommunistischen Russland, 1918.
6. Die Wirtschaftsorganisation Sowjet - Russlands, 1920.
7. Zwei Jahre Auswärtige Politik Sowjet - Russlands, 1920.
8. Petersburg, 1921.
9. Die Gesetzgebung der Russischen Revolution, 1920.
10. Das Neue Arbeitsrecht Systematische Einführung von Prof. Dr. W. Kaskel, 1920.

## 雜誌類

1. Labour Research Department, Monthly Circular.



2. Workers' Derrnought,
  3. Russische Korrespondenz.
  4. The Russian Economist Journal of The Russian Economic Association.
  5. Baltische Blätter,
  6. Rigasche Rundschau.
- 其他新聞雜誌

### 三 過去ト現在

露國ハ世界デ有名ナ金產國デ戰爭以前ノ一九一三年ニハ三千七百十四布度<sup>ブイド</sup>六<sup>(一布度ハ一六・三八瓩)</sup>ヲ產シテ居タノデアルケレドモ、日露戰爭後ハ兎角財政ノ窮乏ヲ告ゲ、當時ノ大藏大臣<sup>ニコラ・コジツネーフ</sup>伯ガ苦心慘憺シテ國立銀行ニ正金集中策ヲ講ジタノデ、一九一四年、恰カモ歐洲大戰勃發ノ當時、辛ウジテ十六億一百萬留ノ正金ヲ準備シ得タノデアアル。尤モ此ノ正金ヲ得タル一大原因ハ、當時西比利亞ニ於ケル產金ノ豊富デアッタコトモ與ツテ力アルノデアアル。即チ

| 年次 | 一九〇九年                | 一九一〇年                | 一九一一年                | 一九一二年                | 一九一三年                |
|----|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 產額 | 二四六七、四 <sup>布度</sup> | 三八八五、六 <sup>布度</sup> | 三七三八、一 <sup>布度</sup> | 三五一五、四 <sup>布度</sup> | 三七一四、六 <sup>布度</sup> |

ト云フ產額デアッタ。露國ハ上記十六億一百萬留ノ正金準備ヲ以テ交戰國ノ仲間ニ入ッタ。而シテ、英、米、佛、日、瑞典等へ或ハ軍需品ノ代價トシテ、又或ハ列國銀行ヘノ保證金トシテ、乃至ハ獨逸、いすどにあ、りそにあ等トノ平和條約ノ結果交付シタリシテ、逐次之ヲ支拂ツタノデ、

現ニ過激派露國ガ握有シテ居ル正金ノ額ハ四億八千七百萬留内外デ無ケレバナラヌト思フ。

#### 四 外國ヘノ交付

十六億一百萬留ノ正金ハ獨逸ヲ相手トシテ戰フ戰費トシテハ餘リニ少ナカツタノデアル、其所  
デ露國ハ軍需品ヲ購入スル爲メ少カラザル正金ヲ英國ヤ加奈陀ニ支拂ツテ其信用ヲ繋ガナケレバ  
ナラナカツタ。最初英國ニ支拂ツタ金額ハ八百萬磅デ一九一四年十月ノ所謂英露協商ノ結果デア  
ル。之ヲ英國ニ運搬スル事ハ非常ナ秘密ノ間ニ行ハレ、英國巡洋艦どれーく及ビ運送船まんどあ  
號ハあるはんげるニ到着シテ海上十三哩ノ沖合ニ淀泊シ、暗夜ニ乗ジ小蒸氣船デ陸カラ運ンデ積  
荷ヲシタノデアルガ、夫レデモ獨探ノ探知スル所トナツテ該二船ハ獨逸潛航艇ノ襲撃ニ會ツテ損  
害ヲ蒙ツタ、併シ正金ハ安全ニリうあーぷーるニ到着シタノデアル。此ノ危險ニ懲リテ、爾後ハ  
西比利亞鐵道ニ依リ浦鹽ニ送り、更ニ日本巡洋艦ニ依ツテ加奈陀ノうあるくーゲーニ送ツタノデ  
アル。

斯クノ如クニシテ戰時中英國及ビ加奈陀ニ支拂ヘル正金五億八千萬留ニ達スルノデアル。

一九一七年ノ末、露國臨時政府ガ瑞典銀行ノしんぢけーとトノ契約ニ基キ同しんぢけーとニ對  
スル保證金トシテ金五千萬留ヲ交付シタ、該正金ハ一九一七年十月ニすとつくほるむニ輸送サレ  
今尙ホ瑞典リくす銀行ニ保管サレテ居ル。コンナ具合ニシテ一九二一年春ノ今日ニ至ルマデニ露  
國カラ國境ヲ越ヘテ外國ニ出タ正金(金貨及ビ金塊)ハ次ノ如クデアル。(單位千留)

| (一)                    | (二)                           | (三)                           | (四)                   | (五)             | (六)                        | (七)                    | (八)            | (九)                 | (十)                            | (十一)                           | (十二)                          | (十三)                          | (十四)                                               |
|------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------|-----------------|----------------------------|------------------------|----------------|---------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------|
| 五八〇、〇〇〇                | 五、〇〇〇                         | 三二、〇〇〇                        | 三二、〇〇〇                | 九三、〇〇〇          | 四、〇〇〇                      | 七〇、〇〇〇                 | 四三、〇〇〇         | 一五、〇〇〇              | 一五、〇〇〇                         | 三〇、〇〇〇                         | 四、〇〇〇                         | 三〇、〇〇〇                        | 二〇〇、〇〇〇                                            |
| 戰爭中及ビ革命前英國及ビ加奈陀へ支拂ヘルモノ | 一九一七年ノ末臨時政府ガ瑞典銀行ニ保證金トシテ交付セルモノ | 一九一八年ぶれすと、りどうすく條約ノ結果獨逸ニ交付セルモノ | こるちやつく政府ガ日本ニ對シテ交付セルモノ | 英米しんちけーとニ交付セルモノ | こるちやつく政府ガ武器購入費トシテ米國ニ交付セルモノ | こるちやつく政府ガ英佛及ビ日本ニ賣却セル金塊 | せめよのふ將軍ノ分捕セルモノ | ちわつく、するがあつく軍ノ分捕セルモノ | 一九二〇年いすどにあ國トノ條約ノ結果賠償金トシテ交付セルモノ | 一九二〇年りすあにあ國トノ條約ノ結果賠償金トシテ交付セルモノ | 一九二〇年れどにあ國トノ條約ノ結果賠償金トシテ交付セルモノ | 一九二一年三月ノ波蘭國トノ平和條約ノ結果賠償金トシテ交付ス | 一九二〇年度ニ於ケル一萬一千四百二十七布度ノ金塊若クハ貴金屬ノ輸出額ニテ約二億<br>〔留ニ相當ス〕 |

以上合計 一、五六二、〇〇〇

即チ一九二一年三月末マデニ凡ソ十五億六千二百萬留ノ正金ガ外國ニ流出シタ勘定ニナル。

## 五 露國ノ產金額

一九一四年ノ開戰前露國ハ十六億一百萬留ノ正金ヲ準備シテ居タ事ハ確カデアルガ、其後、今日ニ至ルマデニ幾何ノ増加ヲナシタカラ調ベテ見ル必要ガアル。先ヅ其ノ產額ヲ見ルニ、(單位千留)

| 年次  | 一九一四年  | 一九一五年  | 一九一六年  | 一九一七年  | 一九一八年  | 一九一九年  | 合 計     |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 產 額 | 八八、三一四 | 六五、三二〇 | 四三、五四八 | 三二、六六〇 | 二一、七七三 | 二一、七七三 | 二七三、三八八 |

即チ一九一九年末マデニ二億七千三百三十八萬八千留ノ產額ガアル筈ダガ、右ノ統計ハうらる及ビ東西兩西比利亞地方デ產シタ金塊ヲ製鍊ノ爲メ試驗所ニ收受シタモノヲ表ニ掲ゲタノデのういつすきー氏ノ表ニ依ツタモノデアル。

以上ノ表ガ示ス如ク、戰時並ニ其後ノ產金額ハ遞次減少シテ居ルノハ、西比利亞ニ於ケル交通機關ガ不良トナリ、其結果勞働者ニ對スル給與ガ不充分トナリ、且ツ生産ニ必要ナ器具機械ノ供給ガ絶へ、剩へ過激派政府ノ時代トナツテハ強盜、土匪頻々トシテ金礦ヲ襲フト云フ有様トナツテ、全ク無秩序トナツタ結果デアル。

右ノ外、過激派ガもすこふニ於テるーまにあ銀行ノ貯藏シテ置イタ正金約一億二千五百萬留ヲ沒收シタ。之レハ、るーまにあハ一九一六年ニぶかれすと及ビやつせーガまつけんせん將軍ノ侵入ヲ受ケタノデ、其所カラもすこふノ同國銀行ニ移シタノデアツタ。尙ホ過激派ガ外國政府又ハ私人ノ所有ニ係ル正金ヲ沒收シタモノガ大凡金五千萬留ト見積ツテ、過激派ノ時代ナル現今マデ



ニ總計左ノ正金ガ存在シテアツタ譯トナル。(單位千留)

(一) 一、六〇一、〇〇〇 一九一四年開戰前ノ正金準備

(二) 二七三、三八八 一九一四年ヨリ一九一九年末マデノ產金額

(三) 一二五、〇〇〇 一、まにあ銀行ヨリ沒收セルモノ

(四) 五〇、〇〇〇 過激派政府ガ外國政府又ハ私人ノ所有セル正金ヲ沒收セルモノ

合計 二、〇四九、三八八

即チ露國政府ガ二十億四千九百三十八萬八千留ノ正金ヲ所有シテ居タ筈デアツテ、之レカラ外國ニ流出シタ十五億六千三百萬留ヲ控除シタ四億八千七百三十八萬八千留ガ即チ現ニ過激派ガ所有シテ、以テ宣傳其他ニ使用シテ居ル譯デアル。而シテ過激派ガ今日マデ何程位ノ金ヲぶろばがんだニ使用シタカハ全ク不明デアルガ、要スルニ以上ノ正金以外ニハ其ノ出所ハ無イ譯デアル。

## 六 結 論

戰前ニ於ケル露國流通紙幣ノ總額ハ十六億留デアツタノガ、現今ハ二千七百億留ノ額ニ達シテ居ル。從ツテ留ノ價ハ非常ニ下落シ之ト反比例シテ物價ハ騰貴スル。紙幣ニモ色々アツテ、けれども一留ハ二十二過激派留、ろまのふノ一留ハ五十五乃至六十過激派留ニ相當スル。更に過激派留紙幣モ新舊ニ依ツテ相場ニ上下ガアル。新過激派紙幣即チ八箇國ノ國語デ『萬國ノぶろれたりあーどヨ聯盟スベシ』ト印刷シテアルノハ安クテ千百乃至千二百留デ過激派舊紙幣千留ニ相

當スルカラ約一、二割安イ譯デアル。夫レデモ矢張り物々交換ハ不可能ダト見ヘテ此ノ紙幣ヲ賣買ガ行ハレテ居ル。今過激派留ノ相場ヲ左ニ示セバ、

一九一九年末ニハ  
獨逸一馬克ハ 二五留  
瑞典一クローネ 四五留

英國一磅 一、二〇〇留

獨逸一馬克 一八〇留

一九二〇年夏  
瑞典一クローネ 三〇〇留

英國一磅 二〇、〇〇〇留

獨逸一馬克 四〇〇留

一九二一年三月  
瑞典一クローネ 二、〇〇〇留

英國一磅 五〇、〇〇〇留

ト云フ相場デアル。物價モ從ツテ高く、要スルニ貨幣ノ單位ガ二ツ三ツ移動シタ如ウナモノデア  
ル。五月三日發行ノ *Politische Blätter* ニ依レバ、過激派政府ガ取引ノ自由ヲ公許シタノデ、以來物價  
ハ大抵半減シタト報ジテ居ル。夫レデモ一布度<sup>(一六・三八延)</sup>ノ裸麥ガ六萬五千留<sup>(從前ハ十萬留)</sup>、一ぼんどノ  
ばた<sup>(從前ハ四萬留)</sup>ハ二萬留<sup>(カラ五萬留)</sup>、一盃ノ牛乳ガ千五百留<sup>(從前ハ二千五百留)</sup>ノ價、デアルサウデア  
ル。去ル五月六日、獨露ノ間ニ平和ガ成立ツテ、捕虜ノ交換ヤ貿易ノ開始ガ出來ルヤウニナツタカラ、或ハ是レ  
カラ留ノ相場ガ多少騰貴スルカモ知レヌ。(十、五、十三)

雜 錄

支那人まほめつと傳 (二)

菱 川 精 一

まほめつとガ二十五歳ノ頃、例ノ叔父ハ資産傾キ、稍々困窮狀境ニ陥リ、まほめつとニ獨立經營ヲ勸メタ、まほめつとハ之ニ同意シタ。爰ニ

ニカでぢやトテ義俠心深キ一婦人ガ有リ。常ニ公共的精神ヲ以テ資金ヲ貸與シ、敢テ高利ヲ貪ラザリシ爲メ、其恩惠ヲ蒙リ、裨益ヲ享ケタル者寡クナカツタ。此婦人ハ之理由ノ下ニ嫁ガヌ決心ヲシタト著者ハ語ツテ居ル、即チ階級ニ於テ、才能・美貌ニ於テ、富財ニ於テ婦人ユ伯仲タリ得ベキ者無カリシ爲メデアル。斯クテ有ラユル媒酌ヲ拒ミ、今ヤ四十ノ歳ヲモ重ヌルニ至ツタ。他ノ記者ニヨレバ、かでぢやハ寡婦ニテ、人ニ適クコト二回、男子二人、女子一人ヲ舉ゲタ

トアル、此點ハ劉智ガ他ノ記者等ト意見ヲ異ニスル所ニシテ注意ヲ要スル。婦人ハ「預言者」ノ名聲ヲ既ニ耳ニセシコトナレバ、彼ヲ扶ケ且ツ尙ホ一層彼ヲ窺ヒ知ル機會ノ今ヤ到達シタルヲ悦ビ、まほめつとノ申込ニ十倍スル金額ヲ貸與シ猶ホ縁者はごせいみー、從僕みーさらヲ隨行セシメタ。此ノ二人ハまほめつとノ行動ヲ偵察シ、かでぢやニ通告スベキ任ヲ密カニ帶ビサ、レテ居タ。

まほめつとガしりやニ達スルヤ、又モ某僧侶ニ遭遇シタトアル。今回ハまほめつとガ枯木ノ下ニ座スルヤ、其ノ木ハ不思議ニモ蘇生シタ。其レト知ツタ僧侶ハ語ツテ曰ク、此木ハ耶蘇ガ植エ給フタモノデ、彼ガ遺命シ給ヘル言葉ニヨレバ、最終ノ預言者ガ來ル時、木ハ再ビ蘇生スベケレバ以後如何ニ木ガ枯渴スルコトアリトモ切り倒スベカラズト。於是、僧侶ハ期待サレタル者ノ降臨セルヲ確知シ、へぢら年號ノ第八年ニまほめつと宗旨ニ歸依シタト附記シテアル。一行ガ目的ノ市ニ入込ムヤ、占者ガまほめつと



ノ掌ヲ見、コハ最終ノ「預言者」ナリト公言シ、猶太人及ビ基督教徒ハ彼ヲ殺害セント追求スベケレバ警戒ヲ加ヘ、身ヲ隠ス要アリト告ゲタ。

一行ハ商品ヲ賣リ捌キ、多大ノ利益ヲ收メタル後、歸途ニツイタ。めつかヨリ三日路ヲ隔テル時、習慣ニ從ヒ、手紙ヲ携ヘ一行ノ一人ヲ先立タセ、歸市ノ近キニアルヲ通信セント企テ、其任ガまほめつとニ當ツタ。時ニ或者曰ク、まほめつとハ駱駝ニ乘リ疾驅スベキ激烈ナル旅行ニ堪ヘズ、剩ヘ行路ニ能ク通ゼザレバ宜シカラズト。翌早朝、朝飯ノ準備ガセラル、間ニまほめつとハ駱駝ニ乘リ、奇蹟のニ運ビ去ラレ、殆ンド直チニめつかニ着シタ。かでぢやハ手紙ガ斯クモ早く而モ愛スル者ノ手ニヨリ送ラレタルヲ喜ンダ。又婦人ハ一行ニ持チ歸ルベキ返信ヲ渡シ、而シテまほめつとハ一同ガ未ダ朝飯ヲ喫シ終ラザル所ヘ歸着シタ。一同ハまほめつとガ路ヲ失ヒ、尋ヌル爲メニ歸ツタト想像シ、大ニ心ヲ痛メタガまほめつとガ返信ヲ差出シタ時ニ一同ハ驚歎シ、何モノ、魔法ガ存スルコトナラ

ント訝ツタ、コハ一同ノ食事ニ餘念ナキ少時ニ彼ハ往復六驛路ヲ終ツタカラデアル。

偵察者ノ通信宜シカリシ爲メ、かでぢやハまほめつとニ娶入セント目論ミ始メタ。まほめつとハ初メ其名譽ヲ斷ツタケレドモ終ニ諾ツタ。大結婚式ノ儀式ガ準備サレ、太鼓ヤ喇叭ガ花嫁ヲ迎フル爲メニ用ヒラレタ。其後回々教徒ノ結婚式ニハ斯ル樂器ハ用ヒラレナカツタト云フコトデアル。此結婚ニヨリ若干ノ小兒ガ生レタガ女子ノミ生存シ、内ニモ最モ名アルハふあてまニテ、まほめつとノ甥ありノ妻トナツタ。

まほめつとハ數年間靜穩ナル生涯ヲ送ツタト思ハル、ノデアル。周圍ノ者トハ睦ジク、高德ノタメ衆人ノ尊敬ヲ受ケタコトハカーバ寺院再建中ニ起ツタ事ニ徴スルモ明カデアル。此寺院ハ大水ニヨリ損害ヲ蒙リ、再建ノ必要ニ迫ラレテ居タ。當時こらいしゆ族ハ十大宗門ヨリ成立ツテ居タガ、此等ノ凡テハ工事ニ參加スルヲ約シ、各自ノ責務ハ抽籤ニヨリ決セラレ、まほめつとモ此ノ工事ニ與ツタノデアル。建築ガ進捗シ、



時至リテ、神聖ナル「黒石」ヲ規定ノ場所ニ据著クベキ必要ガ起ツタ、而シテ何レノ宗門ガ此ノ名譽アル任ニ當ルベキヤノ問題トナリ、互ニ相讓ルベクモ無カツタ爲メ、大シタ悶著ガ起ラントシタ。其時提案シテ誰ニテモ最初ニ門ニ入り來ル者ニヨツテ此ノ爭議ガ決セラル、様ニセバ宜シカラント云フ者ガ有ツタ。何レモ之ニ同意シタルガ最初ニ入り來タリタル者ハ偶然ニモ

テ居ルコトヲ茲ニ述ベル必要ガアル。既ニ上述セル所ニ依レバ其重量ハ半噸餘ニ過ギナイ。ばーくはーとハ曰ク「其ノ石ハ直徑約七吋ノ不規則ナル隋圓形デアル」ト。ばーとんハ曰ク「余ハ石ノ這入ツテ居ル孔ノ口ハ一指尺ト三指トノ廣サナコトヲ發見シタ」ト。まほめつとハかーば寺院ハ以後再建立ノ勞ヲ要セザルベシト公言シタ。

まほめつとデアツテ同人ハ信用出來ル人物トノ評ダツタカラ一同ガ喜ンダ。まほめつとハ自己ノ外套ヲトリ、土地ノ上ニ擴ゲ、其上ニ石ヲ置キ、次ニ各宗門ノ代表者ニ凡テ其外套ノ端ヲ掴ミ、石ヲ擡ゲヨト指圖ヲシタ、其レヨリまほめつとハ己ガ手ヲ以テ適當ノ場所ニ件ノ石ヲ差向ケタ。人ハ彼ノ智慧ニ感服シ、彼ノ力ニ驚イタ、コレ全ク「黒石」ハ巨大ニシテ優ニ千斤ノ重量ヲ有セシトアルニ依ルノデアル。一人ニテ之ヲ蘆ノ如クニ無造作ニ動かスコト、又之ヲ薄衣ガ裂ケズニ擡ゲ居ルコト等ハ驚クベキ事デ有ツタノダ。然シコノ「黒石」ノ大サハ甚ダ誇張サレ

三十八歳トナリ「預言者」ハ時折頭上空間ニ於テ何カ聲ヲ耳ニスルニ至ツタ、其聲ハ何者カガ互ニ問答ヲ交ハセル如ク感ゼラレ、寢ネテハ讚美ノ音が聞エタ。此音聲ハ時ニ廻轉シ、恰モ指揮者ニ從ヒ進ム如ク感ゼラレタ。又彼ハ空中ニ輝キタル一條ノ光ガ表ハル、ヲ目撃シタ、コレ正シク彼ノ身ヨリ後光ガ射出シタルニテ暗中ニ起床スルモ、洋燈、蠟燭等ヲ要セズ、晝日ノ光ヲ浴ブルガ如ク物ヲ視感シ得タノデアル。偶々物ガ暗中ニ紛失セラレル時、まほめつとガ來レバ人々ノ眼ガ見エ、紛失物ハ見出サレタトアル。著者ハ次ニまほめつとガ在來ノ宗教ニ對スル

態度ヲ左ノ如ク語ツテ居ル。或ル者ニヨレバまほめつとハもーせノ宗教ニ則リ、或ル者ニヨレバ耶蘇ニ、尙ホ或ル者ニヨレバまほめつと自身ノ宗教ニト云フテ居ル。然レドモ此等主張ノ孰レモ其真相ヲ穿テルニ非ザレバまほめつとガ天ノ使命ヲ受クル前後何レモあぶらはむノ宗教ニ則リタルニ依リ明カデアル。彼ハ小兒ノ時「たぐびや」(神ハ偉大ナリ)ト繰返シ、又何レノ時機ニ於テモ「たすみや」(憐ミ深キ神ノ御名ニ依テ)ト繰返スヲ習トシタ。八歳ニシテ彼ハ僧侶及ビ偶像ヨリ身ヲ隱シ、若カリシトハ云ヘ無形、無像ナル神ヲ拜スベキヲ知ツタ。彼ハ自ラノ結婚式ト云ヒ、有ラユル葬式ト云ヒ凡テあぶらはむノ儀式ヲ採用シタモノデアル。

其頃まほめつとハ天ノ使命ヲ蒙リ、其事實ハ之ヲ目撃シタル猶太人、基督教徒、及ビ他宗ノ僧侶達ニ依リ話サレテ居ル。余ハ例證トシテ單ニ一ツヲ左ニ掲ゲヨウ。

めつか附近ノ一寺院ニ於テ大僧正、靈感ヲ蒙リ、大聲疾呼シテ曰ク、はしむノ曾孫ハ天地ニ

於テ最モ優秀ナルモノ、人類、天使中最高位ヲ占ムルモノ、而シテ預言者中ノ頭タルベキ者デアル。彼ハ虚偽ナルモノヲ毀テ、真正ナルモノヲ建設シ、而シテ永久ノ平和ヲ齎ラサント。聞ケル者多クハ彼ガ語ルトコロ將シテ何ナリヤ知リ能ハナシ。然ルニ傍ニ座セシあぶはれーリト名ヅクル者精神ヲ籠メ其ノ聞キタル言葉ヲ熟慮シタ。三日ノ後、「預言者」ガ神ノ使命ヲ受ケタルコト、又カノ僧侶ノ言ガ違ハザリシコトヲ聞キ、直チニ「預言者」ニ從服シタ。人アリテ何故宗教替ヲナセシヤト問ヒタレバ、彼ハ答ヘテ語ル「余ハ先ヅ儀式ヲ嚴守スルモ其精神ヲ知ラザル猶太教ヲ信ジ。次ニ其精神ヲ語ルモ其精神ノ本體ニ到達ナシ能ハザル羅馬天主教ニ身ヲ寄セタ、一例ヲ掲グレバ羅馬天主教ハ云フ、天主ハ無形、無像デアルト、然ルニ又云フ天主ハ地上ヘ降臨ナシ給ヒ、其時形體ヲ有シ給ヒシト。コレ人ニ偶像ヲ拜スベカラズト教ヘ自ラ形像ヲ拜スルノデアアル。次ニ余ハ偶像ヲ拜スル宗教ニ從ヒシガ、コレ惡魔ノ宗教ナリト知リテ之ヲ棄

テタ。此ノ僧侶ノ名聲ヲ聞クヤ、余ハ彼ヨリ學  
ブトコロ有ラントシテ來リ、而シテ彼ヨリスノ  
言葉ヲ聞クヤ、凡テ他ノ教ヲ排シ「預言者」ニ  
從フタ。徹頭徹尾純正ナルハ「預言者」ノ宗教  
而已デアル、此ノ事タルヤ疑フベクモナイ。余  
ハ陷弔ヨリ免レ、天上界ノ人トナリ得タルヲ喜  
ブト。

まほめつとハ敬虔ナル態度ヲ以テ「道」ニ就  
キ默想ヲ凝ラスヲ常トシ、日々ひら山ニ登リ、  
深奥ナルコトドモヲ考ヘツ、徘徊シ、斯クテ漸  
ク「道」ノ醇化力ノ何シタルヤヲ稍々理解シ始  
メタ。四十一歳ノ始メ頃、或ル夜熟睡セル時靈  
ガ彼ニ語ルト覺エタ。其言葉ニ曰ク「まほめつ  
とヨ、汝ノ「道」ハ純正、汝ノ德ハ清淨デアル、  
過去諸時代ニ於ケル純潔、忠節、情愛ハ汝ニ於  
テ初メテ最モ能ク光彩ヲ放ツテ居ル。獨一ノ眞  
神ハ今汝ニ命ジ、天ガ下、凡テノ人類ノ爲メ預  
言者ノ職掌ニ與カラシム。眞神以外ニ神ハ無ク、  
又汝ハ「彼ニ任命サレタル使者」デアル。人類  
ガ凡テ獨一ノ眞神ヲ拜スベキヲ知ル爲メ力ヲ盡

セ。有ラユル異端及ビ僞ノ教ヲ毀テ。汝此ノ命  
ヲ奉ジ誠心誠意コレヲ怠ツテハナラヌ」ト。  
まほめつとハ此ノ經驗ヲ妻ニ告ゲタルニ妻ハ  
期待シタルコトガ實證サレタルヲ見テ喜ンダ。  
此等ノ顯現ハ續キ、まほめつとガひら山ニ在リ  
シ或特別ノ場合ニ、彼ハ空中ニ聲ヲ聞キ、見上  
グレバ優美ニシテ神々シキ容貌ノ人ガ眼ニ映ジ  
タ。彼ニハ美シキ髯ガアリ、天ヨリ降り來リシ  
輝ケル玉座ニ坐シテ居タ。遂ニ山ヘ降り、玉座  
ヨリ下リ、まほめつとヲ助ケ其上ヘ上ラシメ、  
まほめつとニ朽チザル衣ト冠トヲ着セタ。まほ  
めつとハ危懼ノ心稍々鎮リタルトキ、カノ神嚴  
ナル人ニ其ノ名ヲ尋ネタルニ、ガぶりゑるト答  
ヘタ。彼ハ天ノ衆群ノ頭ニテ「預言者」ニ使命  
ヲ齎シ、眞ノ古典即チ天經コーレンノ一部ヲ授ケン爲メ  
特ニ使ハサレタノデアル。今ヤ天經中最初ノ章  
節ガ與ヘラレタ。「預言者」ハ最初此天使ニ續キ  
テ其言葉ヲ繰返スニアタリ困難ヲ覺エタルモガ  
ぶりゑるガ布ニテ彼ノ頭ヲ覆ヒ、數回彼ノ肩ヲ  
捕ヘ、振り動カシテヨリ以來、記憶、反復、何



レニ於テモ、まほめつとハ寸毫困難ヲ感ゼナカ  
ツタ。著者ハ尙ホ此處ニ述ベテ曰ク、天經ハ六  
千六百章ヨリ成リ、「ふあては」ハ最初ノ章デア  
ル。實ノ章數ハ百十四ナレバ彼ガ章ト言ヒシハ  
節若シクハ行ナリト謂フベキデアル。又七節ノ  
多キヨリ成ル「ふあては」ノ全部ガ六千六百部  
分ノ一ナリト數フルハ又一ノ誇張デアル。

顯現ガ來タ時ニハ預言者ハ肉ニ於テモ精神ニ  
於テモ苦痛ヲ覺エタ、而シテ此等ハ稍々詳シク  
述ベテアル。かでしやハまほめつとノ受ケタル  
默示ノ純正ニシテ彼女ノ夫ハ「指定サレタル預  
言者」デアルト直ニ悟リ、彼ヲ信ジ、彼ノ最初ノ  
門徒トナツタ。まほめつとノ友人あぶべかハ最  
初ノ而モ最モ渾身の誠意ヲ捧ゲタル弟子ノ一人  
デアツタ。尙其他斯ル弟子中ニありトテあぶた  
りぶノ最モ年少ナル息子、及ビおすまん等有  
ツタ、此三人ハ何レモ遂ニ哈利發ノ位ヲ嗣イダ。  
最初、「預言者」ガ道ノ宣傳ヲ始メタル時、全ク  
公然トハ踏出スコトヲ避ケ、之ヲ近親及ビ友人  
ノ範圍ニ限ツタ、而シテ「預言者」生活ノ第三年

以後ニ於テ稍々公然ト努力ヲナシ始メタ。めつ  
かノ人ノ多クハまほめつとニ從ツタ。猶太人及  
ビ基督教徒ハ之ガ爲メ心ヲ惱マシ、あぶたりぶ  
ヲ訪ネ其甥ニ付キ眩イタ。あぶたりぶハ自ラ進  
ンデ信仰ニ入ラザリシモ「預言者」ヲ擁護シタ。

著者ハ今ハ岐路ニ入り、如何ニ教ガ傳播サレ  
遂ニ回々敎國ガ出現シタカラ告ゲテ居ル。著者  
ハ云フ Tien Fang 即チ「天方」(此言葉ハめつか  
ヲ後ノ回々敎國ノ中心ト見做シテアル)ノ諸屬  
國中、中央ニ位スルハあらびやニテ、其周圍ニ  
ハ、彼斯、ひんだすたん、埃及、あびしにや、  
しりや、いらく、及ビ羅馬領土等ガアツタ。總  
テ此等ノ國人ハ「預言者」ガ神ノ使命ヲ受ケタ  
ルヲ聞キ使節ヲ遣シ祝辭ト贈物トヲ送ツタ。總  
テ九十四國ガ天方ニ從服シテ居ツタト云ハレ  
テキル、則チ、四帝國、九十王國、一万ヲ下ラ  
ザル市、町等デアツタ。

此所ニ記シアル「天方」則チ天ノ四方形或ハ  
立方体ハカーバ寺院ニ用ヒラレタル名稱ノ一デ  
アル、又回々教徒ニヨツテあらびやト云フ言葉



ノ代リニ通常用ヒラレテキル、特ニヘじやすトテ知ラレタル部分ニ用ヒラレテキル。劉智ハ云フ、「天方」ハめつかノ王國ヲ指スト、凡テ他ノ場所ニ於テハ彼ハ云フ、亞細亞ハ「天方」ノ一般的名稱デアルト。尙ホ上述セルトコロニヨリ考フルニ其言葉ハ又回々敎帝國ノ名稱トシテ用ヒラレタルヲ示シテ居ル。

回々敎徒ガ最初支那ニ入國シタル由來トシテ次ノ如キ話ガアル。極東ノ王國ニ於テ「赤尼」ト呼バル、國ガ有ツタ、コレ即チ中國(支那)ノ一名デアアル。隨代ノ開皇ノ六年(紀元後五百八十六年)即チ亦まほめつと預言者生活ノ第一年ニ當ル時、空ニ不思議ナル一星ガ現ハレ、支那國王、文帝ハ天文學者ノ頭ニ其意味ヲ占ヘト命ジタ、其天文學者ハ答ヘテ曰ク、大偉人ガ西方ニ於テ現ハル、ト。王ハ此ガ事實ナリヤヲ調査セント使節ヲ派遣シタガ約一年後、使ハめつかニ着シタ。使節ハ「預言者」ニ東ヲ指サシテ來ル様ニ願ツタ。併シまほめつとハ拒ンダ、使節ハ形見トシテ持チ歸ル爲メ密カニ「預言者」ノ

肖像ヲ畫カシメタ。「預言者」ハ彼ノ外叔父さーど、わつかす及ビ他ノ三人ヲシテ使節ヲ送り「赤尼」ニ至ル様ニ遣シタ、文帝ハ預言者ノ肖像ヲ懸垂シ拜シタ。扨テ彼ガ起キ上ルヤ一卷物ガ發見サレタガ繪ハ無クナツテ居タ、彼ハ驚キわつかすニ之ヲ告ゲタ。わつかすハ答ヘタ、預言者ハ像ヲ拜シ又ハ人ヲシテ地ノ上ニ頭ヲ叩キ他ノ人ニ禮ヲ拂フコトヲ禁ジタ。繪ノ失セタルハ「預言者」ノ威光ノ然ラシメタルトコロデアアル。王ハソコデ言ツタ、「之レ實ニ純正ノ皇帝且ツ眞正ノ君侯デアラネバナラヌ」ト。而シテ文帝ハ廣東ニ「預言者」記念寺院ナルモノヲ建立シ、さーど、わつかすハ西ヘ歸ツテシマツタ。

ぶるーむほーる氏ハ「支那ニ於ケル回々敎」中ニ言及シテ曰ク、まほめつとハ「彼ノ肖像畫ヲ皇帝ニ贈ツタ、然ルニ何カ描畫ノ仕具合ニテ色ガ褪メル様ニナツテ居タ」ト。

コレハ劉智ノ所見トハ異ツテ居ル。ぶるーむほーるハまほめつと敎ガ早ク支那ニ宣傳サレタト謂フ傳説ノ真相如何ヲ吟味シタル後、尙ホ言

ヲ續ケ「此話ニハ信ヲ置キ難シ」ト結論ヲ下シタ。其結論ニハ余ノ一致セザルヲ得ストコロデアル。劉智ハ「預言者」ノ降誕ヲ事實ヨリ二十年前以前ニ置イタタメ、西曆紀元後五百八十七年ニ回々教ガ支那ヘ入國シタトシタ、即チまほめつどガ十七ノ青年デアツタ時デアルトシテ誤ヲ重ネテ居ル。其後紀元後六百二十二年ヲ期シテ始ツタヘちら年號ヲ引用スル時ニ著者ハ減法ニ年ヲ取り違ヘテ居ル。勿論多クノ計算法ヲ一致サスノ困難ヲ思ヘバ恕スベキデ有ル。

支那ノ回々教徒ハ新ナル信仰ガ如何ニ速ニ成功シ而シテ一時ニ遠キ國々ヘ傳播セシ如クナサント欲スルモめつかニ於テハ回々教ハ困難ト迫害ノ爲メニ單ニ徐々タル進歩ヲナシタルヲ「實錄」ハ語ルノ外ナカツタ。

時間ニ限リアレバヘちら年號或ハめでなヘノ移住ニ至ル迄ノ事ヲ急ギ述ベヤウ。めつかニ於テハ猶太人及ビ基督教徒ノミナラズこらいしゆ族中尙ホまほめつどノ家門中ニスラ彼ニ反對スル者ガ絶エズ幾分アリ、彼ハ面白カラズ感ジタ。

依テ初期ノ信徒ノ一部ハ、歡迎ヲナシ親切ヲ以テ接シタル基督教信徒タル國王ノ領地、あびしにやヘ移ツタ。然レドモ彼等ハ尙ホ續イテ經典ノ默示ガアリ且ツ反對者モ信仰ニ歸依スルニ至ツタト聞キ郷里ヘ歸ツタ。まほめつどガ正道ヲ逸シ地方的神々ヲ承認スルニ至ツタト云フコトハ掲ゲテ無イガ、衆人ガ「預言者」ヲ王トセントシテ勸誘シタルモ、まほめつどハ此ノ名譽ヲ固ク拒ンダト云フコトガ話シテアル。此ノ拒ミタルコトハ續イテ起ツタ晩合ノ原因トナリ、まほめつどニ對スル個人攻撃ヲモ突發セシメタ。或ル時猶太人及ビ基督教信徒ハ彼ニ較ヲ結ビツケ彼ノ娘ヲシテ其ヲ解カシメタトアル。反對者ハ又「駱駝使ノ宗教」デアルトシテ回々教ノ信仰ヲ嘲ツタ。於是あびしにやヘノ第二回目ノ移住トナツタガ、此處ヨリめでなヘ轉住センモノト先方ノ住民ト交渉ヲ開キ、適當ナル解決ヲ求メタ。

「預言者」生活ノ第十二年ニ於テまほめつどハ又天ニ昇ツタトアル。不老ノ馬ニ乗り、がぶり

ゐるニ護送サレ、第七ノ天ニ昇ツタ。天使ハ其處ニ止リ「預言者」ガ第九ノ天ニ昇ルマデ待ツタノデアアル。此度ノ天ヘノ旅行ハ一夜ニシテ終ヘタ、其實證トシテ「預言者」ガ天馬ニ乗ツタト謂フ場所ニ懸岩ガ尙ホ現存シテ居ルト述ベテアル。

準備遂ニナリ、めでなへ平和ノ移住ガ出來タ、めでなハ以後「預言者」定住ノ市トナリ、ソコヨリシテ彼ノ遠征ガ始ツタ。追手ニ追ハレテ「預言者」ガ遁走シタル大恐慌、及ビ之ニ關聯セル驚クベキ事變ガアル。紙上ニ限リアレバ此等或ハ預言者ガめでなへ轉住シテ以來ノ生涯ヲ詳細ニ亘リ述ベラレナイ。支那「實錄」ハさし、ういりあむ、みゆあノ「まほめつと傳」ニ見ユル歴史ニ粗ボ一致シテ居ル。有名ナル戰爭及ビ周圍ニアル諸種族ヲ克服シ或ハ屈服セシメタルコトハ随分詳細ニ書カレテ居ル。暗殺及ビ虐殺ハ否認サレテ居ナカツタ、寧ロ承認サレテ居タ。從ツテめつかニ最後ノ勝利ヲ得タルトキハ欣喜雀躍シタ。まほめつと最後ノ十年ノ生涯ヲ閱スル

ニ戰勝者トシテノ成功及ビ武力ニヨレル迅速ナル宗教的傳播ヲ見ルモ「預言者」ヲ賞讃スルニ足ル何物ヲモ見ナイ、故ニ紙面ニ限リアリ此等ヲ述ブル能ハザルヲ寧ロ幸トスルノデアアル。然レ共「預言者」ノ家庭事情ハ偶々人ノ耳目ニ觸ル、コト少シトセザレバ聊カ述べ置クベキデアアル。此問題ニ關シまほめつと教徒ノ説明ヲ査ルハ興味ガ有ル。まほめつとノ最初ノ妻かでぢやハ優レタル婦人デ「預言者」ニ尠カラズ援助ヲ與ヘタル事ハ疑ハレナイ。婦人ノ富ハ彼ヲシテ宗教的瞑想及ビ善行ヲ可能ナラシメタ、又婦人ノ智慧、同情及ビ獎勵ハ前期まほめつとノ生涯ニ於テ計ルベカラザルノ助力デアツタ。婦人ハ最初ノ信仰者デアツタト傳ハツテ居ル。婦人ニ就テハ猶モ知ル事ヲ欲セラル、ナラント思フ。二十五年間夫トシ妻トシテ二人ハ共ニ樂シク生活ヲナシタルモノト見ユ、まほめつとハ満足シ、彼ノ晩年ニ見ルガ如キ淫亂ナル情慾ノ存スルヲ見ナイ。まほめつと教ノ信仰ハかでぢやニ負フトコロ大デアアル。かでぢやナクシテハまほめつ



どハまほめつとタルノ面目ヲ有スルニ至ラザリ  
シヤモ計ラレザル所デアル。

かでぢやノ死後間モナク、まほめつとハさう  
だト結婚シ次ニいしやニ婚約シタ。信徒ハま  
ほめつとガ彼等ヲ殘シ他ヘ行キ去ラン事ヲ恐レ  
妻ヲ娶ルヤウ迫ツタト著者ハ言ツテ居ル。信徒  
ハ富豪ノ貴女ドモヲ薦メタガまほめつとハ盡ク  
拒ミ、嚮ニ富メル妻ヲ娶リタレバ今回ハ赤貧ナ  
ル婦人ヲ娶ルガ德ヲナス所以ト言ツタ、於是さ  
うだヲ選ンダ。

いしやハまほめつとノ畢生ノ友且ツ勇敢ナ  
ル弟子あぶべかノ娘デアツテ婚約セシ時ハ僅カ  
ニ六歳、あぶべか及ビ娘ハ共ニまほめつとトノ  
配偶ヲ進ンデ主張セリトアル。然レドモ一ハま  
ほめつとガ娘ノ父トノ結束ヲ強カラシメントシ  
タル手段ニ外ナラズトモ解セラレル。然ルニま  
ほめつとガいしやニ對シテ愛着ヲ感ゼシコト  
ハ論ヲ待タナイ。娘ハ九歳ニシテ結婚シタ。總  
テ他ノ妻ハ既ニまほめつとト結婚シ居タル爲メ  
彼女ハ十一人ノまほめつとノ妻中唯一ノ處女花

嫁デ有ツタ。コノ支那人著者ノ歴史ニ依レバま  
ほめつとノ花嫁ノ多クハ、特別ナル美ト德トノ  
處女ニテ他ヨリノ結婚申込ヲ凡テ拒ミ「預言者」  
ノ爲メニ取置カレアリシトアル。十一人ノ妻ノ  
名ガ掲ゲラレアルガ神ノ命ニヨリ「預言者」ニ  
ハ九人ノ妻ガ有ツタト再三述べラレテ居ル。か  
でぢやハ多妻ガ始マル前ニ死シ。次ノ者ハ結婚  
後僅カニシテ死シタルニヨリまほめつとニハ同  
時ニ九人以上ノ妻ハ事實無ツタノデアル。コノ  
著者ノ「歴史」ハまほめつとニハ又七人ノ妾ガ  
有ツタトシテ居ル。此ハ註トシテ次ノ如ク論ジ  
テアル。「モシ人アリ「預言者」ニ九人ノ妻及ビ  
七人ノ妾ガアリシハ事實ナリヤト尋ヌレバ吾人  
ハ然リト答ヘル。而シテ若シ何故ニ斯ク多クヲ  
有セシヤト尋ヌレバ吾人ハ次ノ如ク答ヘル、即  
チ彼レガ最高ノ「預言者」トシテノ完全ナル位  
置ヲ有スルヲ證シ、尙ホ如何ニ彼ヲ審査スルモ  
「預言者」ノ純潔ナル光輝ハ蔽ハルベクモアラ  
ザルヲ證スル目的デアルト。「預言者」ハ第九天  
ニマデ昇リ得タノデ、夫ヲスラ驚クベキモノト



ハ思ヒモシナカツタ、而モ九人ノ妻及ビ七人ノ妻ニ圍マル、モ彼ノ德ガ凡人ノ情慾ニヨリテ傷ケラレザルハ彼ガ「預言者」タルノ故ヲ以テ敢テ奇トセラレナカツタ、「預言者」ガ朝ニ人ヲ教ヘ、夕ニハ靈ニ説キ、實ニ夜モ日ニ繼グ忙シサニ妻及ビ家事ニ心ヲ用ユル寸時サヘナカツタト云ハレル。然ラバ斯ク多クノ妻妾ヲ畜ヘルハ無益デハナカラウ歟。之レニ對シテ斯ク答辯スル

事ガ出來ヨウ、即チ「預言者」ハ聖ナル人デアリ、妻妾ハ世ニモ優秀ナル賢婦人デアリ、斯クシテ妻妾ノ義務ハ一ニ德ヲシテ益々淳化セシムルニアリト考ヘラレテキタ。然ラバ妻妾ハ如何ニシテ夫及ビ家庭ノ事ニ多クノ氣ヲ配ル事ガ出來ル筈ガラウ。加之、此問題ニハ見逃スベカラザル重大ナル理由ガ含蓄サレテ居ル。之レ即チ九人ノ妻ハ九ツノ天ノ表象ニシテ、七人ノ妻ハ七ツノ地ノ表象デアツタノデアアル。常人ニシテ天地ノ間ニ生ラ亭ケタル者誰カ天地ノ爲メニ誘惑サレナイ者ガアルデ有ラウ歟。「預言者」ハ卓越セル人物トシテ九ツノ妻及ビ七ツノ妾ニヨツ

テ誘ハレ様トモセナカツタノハ之レ正シク九ツノ天及ビ七ツノ地ノ爲メニモ魔魅セラルベクモナカツタトノ表象デアツタ。前述スル所ニ次グ一節ニ斯クノ如キ話ガ傳ヘラレテ居ル、即チまほめつとガ猶ホ一人ノ貴婦人ノ申込ヲ拒ンダノハ實ハ九人ハ彼ノ許容サルベキ充分ノ總數デアルベシトノ天命ニヨル爲メデアル。

まほめつと晩年ノ悲哀ナル物語及ビ彼ノ臨終ノ床ヲ飾リタル妻及ビ友ノ切ナル看護、彼ノ遺言、及ビ彼ノ末期ノ祈此等ハ談ルニ興味津々タルモノガアルガ、目下ノ所省畧セザルヲ得ヌ。彼ハ紀元後六百卅二年ノ六十三歳ヲ一期トシテめでなニ於テ逝キ而モ彼ガ歿シタ其塲所ニ於テ葬ラレタ事ヲ述ベレバ之ニテ足レリデアラウ。

余ノ目的ハ主トシテ支那ノ回々教徒ニヨリ信ジラレタルまほめつとヲ示スニアル、故ニ稿ヲ終ルニ先ダチまほめつとニ關聯シタル奇蹟ニ就イテ述べナケレバナラナイ。此等ハ稱讃セラレタル「預言者」ニ就テノ描寫及ビ自ラ奉ゼル宗教ノ純正、眞正ナリト信ズル回々教徒ノ自信ニ

大ナル關係ガアル。まほめつと自身ハ決シテ奇蹟ヲナス力アリトハ人ニ公言シナカツタガ傳説ハ彼ニ此力アリトシ能クモ捏造サレテ居ル、而シテ數百年ヲ通ジテ此等傳説ハ廣ク支那ニ流布サレタ。我ガ學識アル著者ノ云フ所ニ依レバ「預言者」ニヨリ成サレタル奇蹟ハ夥シク、其中或者ハ年月マデ「實錄」ノ中ニ明記シテアルノデ其眞僞ヲ試ミル事ガ出來ルノデアル。眞ノ時日ノ見出サレナイ所ノ他ノ多クノ奇蹟ハ附録位ニ記載サルベキモノニテ其中ニ次ノ如キガアル。

或ル時戰爭ガ長時間ニ亘リ繼續シタ爲メ、夕ノ祈禱ノ時ヲモ氣付カズニ打過ギタ、所ガ一度まほめつとガ祈リ出スヤ太陽ハ再ビ登ルコト十六碼半。而シテ太陽ガ再ビ歿スル以前ニ禮拜ヲスル時ガ授ケラレタ。嘲笑者ハ月ヲ分ツ様ニ「預言者」ニ迫ツタ、まほめつとハ祈ニヨリ之ヲナシ得タ。嘲笑者ハ魔術ノ致セシ所ト云ツタガ其後旅行ヨリ歸リ來リタル人々ガ其異象ヲ目撃シタト告ゲタ時、嘲笑者ハ信ズルニ至ツタ。

まほめつとノ一弟子ガ鹿狩ヲシタ。鹿ハ「預

言者」ヘ走り行キ、養フベキ小鹿ノアルヲ告ゲ放チ吳ルレバ後ニ再ビ來リ自ラヲ差出スベシト言ツテ賴ンダ。以上斯クノ如ク鹿ハ誓ヲナシタノデアル。「預言者」ハ憐ミ放ツテヤツタ。時ガ來リ鹿ハ歸リ來タツタ。ソコデ、まほめつとハ其忠勇ナルヲ譽メ再ビ放ツテヤツタ。

復讐心深キ一婦人ガ毒ニ浸サレタ小羊ノ贈物ヲシタ、直グ食シテ宜シキヨウ料理ガシテ有ツタ。併シまほめつとガ食ニ就イタ時ニ小羊ハ「人言」ヲナシ、彼ニ警戒ヲ與ヘタ、肉ヲ食シタ一人ノ弟子ハ毒ノ爲メ死ンダ。

空ヲ飛ンデ居タ鳥ガまほめつとハ「神ノ使徒」デアルト書イテアル金製ノ札ヲ落シタ、木モ又「かりま」ト繰リ返シ證據トナツタ。或ル時某ガまほめつとニ證據ヲ求メタ、まほめつとハ彼ニ或ル木ニ至リ而シテ神ノ使徒ガ其木ニ御用アリト告ゲヨト言フタ、ソコデ木ハ根モ附キタル儘立チ上リ「預言者」ノ方ヘ歩ミ行キ後、元ノ場所ヘ歸ツタ。小山ノ上ノ石及草木ハ「預言者」ニ敬禮ヲナシ以テ證ヲナシタト云ハレテ居ル。

又駱駝及ビ羊ハ彼ノ前ニ頭ヲ地ニ下ゲタ。併シまほめつとハ人ニハ誰モ斯克ノ如クナスヲ許サナカツタ。

疾病ヲ癒シタ多クノ話ガ掲ゲテアル。或ル官ニ生レタ人ガ「預言者」ノ仲立ニヨツテ視力ヲ得タ。或者ニハ息ヲ吹キカケ、或者ニハ唾ヲモテ潤シ、癒シテヤツタ。眼ノ瞳ガ白クナツテ居タ八十才ノ人ガ癒サレテ見エ、針ニ糸ガ通セル程ニナツタ。或時「預言者」ガ人ヲ癒ス爲メ唾ヲ用ヒテ居タノヲ見テ、傍觀者ハ嘲ツタ。病メル者ハ癒サレタガ、暫クニシテ嘲ツタ者ハ同ジ病ヨリシテ死ンダ。戰爭中、刀及ビ毒矢ニテ得タル創ハまほめつとニ依テ不思議ニモ奇蹟的ニ癒サレタ。頭痛ハ癒サレ、狂人及ビ癩病人ハまほめつとガ入浴シタ水ヲ用イルコトニヨリ癒サレタ。

死人ガ蘇生サレタル數個ノ例ガ掲ゲテアル。溺レタ一婦人ガ「預言者」ニヨツテ生命ヲ引キ留メラレタ。或ル青年ガ死ンダガ彼ノ盲目、デア

スル時將ニ回々教ヲ信ゼントスルトコロデアツタト、而シテ今ヤ彼ハ誰ニトテ頼リ行ク者無キコトヲ告ゲタ。まほめつとハ祈ツタ、而シテ死人ハ蘇生シタ。ソコデ兄弟諸共、教ニ歸依シタ。二人ノ兄弟ガ遊ンデキタガ一方ガ怪我デ他ノ一方ヲ殺シタ。殺シタ方ハ悲ンデ高キ場所ヨリ身ヲ投ゲテ自殺シタ、まほめつとハ兩親ヲ憐ミ、母ニ小供ノ名ヲ呼ベト告ゲタ、斯克シテ其兄弟ハ蘇生シタ。或ル人戰爭デ殺サレ、其母ハ年老ヒ、頼ルベキ者ガ無ツタ。此ヲ耳ニスルヤまほめつとハ殺サレタ死体ヲ搜セト命ジ、次ニ死体ニ手ヲ置キ祈ツタ、スルト死人ハ眠ヨリ醒メルカノ如ク蘇生シタ。

或ル戰爭ニテ軍隊ニ食ヲ備ヘネバナラナカツタガ小麥一ぱいんど(約三合一勺半)及ビ一頭ノ羊ヲ以テ千人ノ人ヲ飽カシ、尙ホ食後、鍋ニ初メト同分量ノ食物ガ殘ツテ居タ。或時ニハ水ガ缺乏シタ、而シテ「預言者」ハ野營ノ有ラユル水器ヲ集メト命ヲ下シ、其集メラレタル器ヲ指サシタルニ水ハ凡テノ器ニ漲リ溢レタ。或時



單ニ一個ノ水壺シカ見當ラナカツタ、コレ恰モ沐浴ノ儀式ヲ行フベキ時デアツタ。まほめつと

ハ先ヅ此水壺ヲ用ヒ、次ニ其ヲ他ノ者ニ渡し、斯クシテ順次ニ千五百人ノ者ニ行キ渡リ、盡ク充分ニ使用シタノデアアル。時ニ井水ガ苦ク或ハ飲用ニ適セザルヲ見、「預言者」ハ鄭重ニ之ヲ清メ或ハ之ニ唾シ以テ水ヲ甘クシタ。せむせむノ井戸ハ上述ノ如キ方法ニテ水ガ甘クナリ且ツ香ガ生ジタル而已ナラズ有ラユル種類ノ病氣ヲ癒ス効力ヲ帶ブルニ至ツタト云ハレテ居ル。

「預言者」ノ死後人ハ彼ノ食物ヲ料理スルニ用ヒラレタル器具ニ水ヲ充タシタ。其水ヲ飲ム時ハ有ラユル種類ノ病ヨリ癒サレタ。あぶべかノ娘ハ「預言者」ノ着物ヲ秘藏シ置イタ。藥ニヨツテ治ラザル病人ガ此着物ヲ被リ、或ハ此着物が一度浸サレタル水ヲ用ヒルモ再ビ壯健ニナツタ。最後ニ我等ハ「預言者」カラ落チタ所ノ三本ノ頭髮ヲ幸ニモ發見シタ者ニ就キ話シタイ。彼ハ此毛ヲ己ガ頭飾ニ匿シ置イタ。之ガ爲メニ彼ノ敵對者及ビ似非惡魔ハ彼ヲ恐レタ。コレ即

チ彼ガ毛ヲ所有セザリシ時ヨリモ十倍モ勇マシクナツタカラデアアル。

吾人ハあらびやノ「預言者」ニ就キ今ヤ述ベ終ラントスルモ、彼ニ就キ述ベタルトコロ酷ニ過ギタルコトナキヲ望ムノデアアル。劉智ノ古キ著述ニ此梗概ヲナスコトニヨリ、幾分ノ感興ヲ引キ得タリトセバ、之ニ對シテ吾人ハ敬愛スル友、劉智ニ感謝ト感賞トヲ以テ彼ヲ勞ラヒタイ。彼ハ彼ノ勞ヲ了ヘテ瞑シテ居ル、彼ハ決シテ彼ノ「東方實錄」ガ他日斯カル協會ニテ討議サレ、或ハ外國人ノ面前ニテ公開サレ、猶モ斯クノ如クセラレ得ベキヲ夢ニモ思ハザリシハ明カデア



## 會告

滿洲產物分拆試驗成績表

大正九年夏期海外旅行調查報告

戰爭終末ニ於ケル獨逸及東隣諸國通商關係條約

朝鮮ニ於ケル新施政

第三回滿鮮商業會議所聯合會議事錄

支那鹽業調查

北 京

營口ト滿鐵運賃

營口貿易ヨリ觀タル滿鐵改正運賃

日本ノ戰後經營ト滿蒙ノ交通

上海輸入綿布ノ種類用途及賣行期節

銀價下落ノ原因

自一八三三年 倫敦銀塊相場

宜話急就篇詳譯

西海口ニ就キ

錦州事情

芝罘日本領事館管内狀況

日本ノ經濟的地位

大正貯金局統計年報

大正北支那貿易年報(下編)

北米合衆國ニ於ケル農家ノ事情並ニ農家主婦ノ起居

滿洲ノ在來肥料

大連取引所建值論

滿鐵中央試驗所

神戸高等商業學校

外務省臨時調查部

朝鮮總督府文書課

營口 商業會議所

支那駐屯軍司令部

鈴木 幸 信氏

營口 商業會議所

同 上

同 上

田 中 晴 一氏

朝鮮銀行調查部

同 上

大 橋 敦 授

石 光 眞 清氏

同 上

外務省通商局

三井合名會社調查課

貯 金 局

滿鐵總務部調查課

北海道帝國大學農學部

滿鐵地方部勸業課

田 中 福 一氏

## 寄贈出版物

●東亞經濟講演會 七月三日午後一時ヨリ山口公會堂ニ於テ、第六回講演會開催、會長横地校長ノ開會ノ辭ニツイテ田中忠夫講師ハ「滿洲移住朝鮮人問題」西山榮久講師ハ「支那ノ現狀」元新嘉坡商品陳列館長木村増太郎氏ハ「經濟上ヨリ觀タル南洋」ト題シ、各自得意ノ熱辯ヲ揮ヒ、其ノ研究ト批判トヲ長時間ニ亘リ發表セラレ、多數ノ聽衆ニ多大ノ感動ヲ與ヘ、午後六時會長閉會ノ辭ニヨリテ散會セリ。

本年四月以後ノ寄贈出版物並ニ寄贈者芳名ヲ

左ニ錄シテ感謝ノ意ヲ表ス

比律賓概觀

露國ノ組合制概說

大正八年朝鮮貿易要覽

大正九年ニ於テ滿洲企業界ノ概況

中央試驗所報告(自第一輯至第五輯)

南洋殖産株式會社

朝鮮銀行調查部

朝鮮總督府

滿鐵地方部勸業課

滿鐵中央試驗所

米國事情

商業ト經濟

印度ニ於ケル特惠關稅制度問題

波斯及「メソポタミヤ」油田ノ爭奪

在重慶日本領事館管內狀況

第一回營口商業會議所事務報告書

大連取引所建值問題陳情書

歐文圖書著者順目錄

吉林省東北部松花江沿岸地方經濟事情

察哈爾ヲ中心トセル漢蒙兩族鬭爭史

在赤峰日本領事館內狀況

米國ノ海運

地方財政ノ概況

勞動賃金ノ昇降

合衆國製鋼所ニ於ケル賃金比較

長時間勤務ノ得失

一九一九年鋼業同盟罷業顛末調査報告

鐵鋼聯邦政府管理法ニ關スル審議

鐵鋼工業ノ三交代制ニ就テ

炭坑罷業ニ因ル影響

愛蘭革命トぼるしゑきび

印度ノ國民運動

臺灣糖業政策

朝鮮銀行東京調査部

長崎高商研究館

外務省臨時調査部

同 上

外務省通商局

營口商業會議所

東亞經濟調査局

滿鐵總務部調査課

同 上

外務省通商局

日本銀行調査局

同 上

八幡製鐵所調査課

同 上

同 上

同 上

同 上

同 上

同 上

同 上

同 上

同 上

露西亞最近ノ産業狀態

英國養老年金法論

株式年鑑

支那ノ資源ト對支商工發展

哈爾濱事情

朝鮮貿易年表(大正七年)

支那東三省通貨一班

支那ニ於ケル日本ノ野心

大正九年青島埠頭年表

大正九年北支那貿易年報(上編)

日支最新會話

研究館月報

業務研究資料

經濟資料

埠頭日報

支那

營口商業會議所月報

商業研究所彙報

滿蒙實業彙報

財政經濟時報

東方時論

上海貿易統計月表

大阪市商工時報

朝鮮銀行調査部

簡易保險局

野村商店

東京商工獎勵館

中村義人氏

朝鮮總督府

朝鮮銀行東京調査部

山東經濟時報社

青島埠頭事務所

滿鐵調査課

大橋教授

長崎高等商業學校

鐵道省

滿鐵東亞經濟調査局

青島守備民政部埠頭事務所

東亞同文會

營口商業會議所

神戸高等商業學校

大連商業會議所

東京其社

東京其社

上海日本商業會議所

大阪市役所商工課

|                 |    |             |         |    |           |
|-----------------|----|-------------|---------|----|-----------|
| 亞細亞時論           | 每號 | 東京 黑龍會      | 會 計     | 每號 | 東京 其 社    |
| 農商公報            | 每號 | 北京農商部編纂所    | 日本法政新誌  | 每號 | 日本法政學會    |
| 護謨時報            | 每號 | 東京 其 社      | 天津商業週報  | 每號 | 天津商業會議所   |
| 支那學             | 每號 | 小島 祐馬氏      | 錦州時報    | 每號 | 錦州日本人會    |
| 臺灣時報            | 每號 | 臺灣總督府其所     | 朝鮮貿易月報  | 每號 | 朝鮮總督府     |
| 上海日本人雜穀肥料同業組合月報 | 每號 | 上海 同組合      | 安東經濟時報  | 每號 | 安東商業會議所   |
| 綿糸同業組合月報        | 每號 | 上海 同 會      | 內外蠶糸業通信 | 每號 | 內外蠶糸業通信社  |
| 電氣工業雜誌          | 每號 | 北京電氣工業學校    | 京 都     | 每號 | 京都商品陳列所   |
| 日華公論            | 每號 | 天 津 其 社     | 最近英國事情  | 每號 | 朝鮮銀行東京調查部 |
| 實業週報            | 每號 | 漢口日本商業會議所   | 滿蒙經濟時報  | 每號 | 奉天商業會議所   |
| 週 報             | 每號 | 上海日本商業會議所   |         |    |           |
| 山東經濟時報          | 每號 | 青 島 其 社     |         |    |           |
| 山東公論            | 每號 | 濟 南 其 社     |         |    |           |
| 支那研究彙錄          | 每號 | 北京亞細亞通信社    |         |    |           |
| 東方通信            | 每號 | 東 京 其 社     |         |    |           |
| 中華經濟            | 每號 | 上 海 其 社     |         |    |           |
| 調查彙報            | 每號 | 山下 汽船調查係    |         |    |           |
| 綿布週報            | 每號 | 山本商店綿布部     |         |    |           |
| 調查報告            | 每號 | 大阪高商銀行業務研究室 |         |    |           |
| 山林彙報            | 每號 | 農商務省山林局     |         |    |           |
| 外報摘要            | 每號 | 三井合名會社調查部   |         |    |           |
| 大阪堂島米穀取引所月報     | 每號 | 大 阪 其 所     |         |    |           |
| 史學雜誌            | 每號 | 田 中 忠 夫氏    |         |    |           |



# 前號目次

## 研究

葡萄牙人支那渡來顛末(二)

矢野博士

祖僧牙僧及ヒ牙行ニ就テ

稻葉講師

中華民國ノ標準語問題

石山福治

支那茶業史論

田中講師

## 論說

樺太接壤地方ノ鮮支兩民族ニ就テ

稻葉講師

## 調査

支那ノ蠶業及機織業(一)

中田豊衛

江蘇省ニ於ケル稻作ニ就テ

瀬川政雄

## 雜錄

支那人まほめつと傳(一)

菱川教授

最近支那財政ノ收入支出實況

井上教授

湖南省ノ硝子工業

田中講師

大正十年十月二十日印刷

大正十年十月廿二日發行

山口縣吉敷郡小鯖村大字下小鯖  
第千七百五十三番地

編輯者 兼 大田 一穂

山口縣吉敷郡山口町大字上宇野令  
第三百五十六番地ノ一

印刷者 東 七三郎

山口縣吉敷郡山口町大字上宇野令  
第三百五十六番地ノ一

印刷所 山口瞬報社

電話三百八十三番

山口高等商業學校内

發行所 東亞經濟研究會

振替口座福岡一〇一〇七

東京市神田區南神保町六番地

發賣所 有斐閣雜誌店

電話本局四三二一〇

振替口座東京五四〇六

定價一冊金五拾錢  
郵稅四錢  
一年分郵稅共  
貳圓拾六錢

# 支那研究必讀書

法學博士 高柳松一郎先生著

再版出來

## 支那關稅制度論

菊版五五〇餘頁  
總絹製上製箱入  
定價五圓五十錢  
郵稅金十八錢

本書ハ關稅制度ヲ中心トシテ政治、外交、法制、財政、經濟、商業ノ諸方面ニ亘リ未知ノ事實ヲ闡明シ、獨創ノ見解ヲ下シ、理路極バテ整然一々皆肯綮ニ中ル、斯ノ如キハ篤學達識、在支十餘年具サニ實地研究セラレタ著者ニ於テ始メテ爲シ得ベキ所、如若シ之ヲ細カバ學者ハ以テ支那研究ニ稀有ノ資料ヲ得ベク實務家ハ以テ對支事業ニ絶好ノ指針ヲ得ベシ、再版ニ際シ江湖諸彦ノ御購讀ヲ薦ム。

法學博士 吉野作造先生著

參版出來

## 第二革命後の支那

四六版三百餘頁  
定價壹圓五拾錢  
郵稅金六錢

「本書ハ一ノ史書トシテ、少クトモ後世史家ノ一資料トシテ多少ノ價值ヲ要求シ得ベシト自信スルモ、併シ特ニ予ノ本書ニ於テ讀者ノ了解ヲ得タイト思フ點ハ、史實評論ノ裡ニ自ラ表ハル、所ノ對支政策上ノ見識デアル」。之レ著者ノ言也、近代支那ヲ研究セントスルモノハ宜シク史實ニ即キテ、然モソレニ捉ハレザル博士ノ犀利ナル觀察ト明快ナル論評ヨリナレル其ノ高邁ナル見識ヲ一讀セラルベシ。

阪内座ロ替振  
五五九二三

社會式株版出外内

區京下市都京  
下條七院洞西









